Uスタイルとは何か? 田村潔司×髙阪剛

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

紙のプロレス RADICAL

58
2003

『W-1』とパンクラス夢幻のファンタジー対談実現!
武藤敬司×船木誠勝

あのUインター取締役トリオが再集結!
再びマット界に爆弾投下!?
宮戸優光×安生洋二×鈴木健

WWE日本戦略のカギを握る男たち
TAJIRI/ユークス谷口社長

『W-1』との交流もスタート!
2003年、闘龍門が討って出る!!
CIMA

遅ればせながら
2002年『紙プロ大賞』発表!

ZERO-ONE★U$Aに新たな可能性
究極のトンパチ師弟対談!
ハシフ・カーン×ミスター・ヒト

近未来型"打・投・極"レスラー
ロウ・キー

I編集長&辻アナ&春一番が語る
1・4新日ドーム

なぜだ!?
ターザン山本が突如NOAHを絶賛!!

マット界にイリュージョンを!
いまこそ針の穴にラクダを通せ!!

永久保存版!
語録で振り返るマット界2002

紙のプロレス RADICAL NO. 58
明日また生きるぞ!!

発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体838円+税

紙のプロレス
PRESENTS

帰ってきた
青空プロレス道場

2/23
vol.1

1月19日現在、講義内容、特別講師未定!

謎だらけの
『KAMIPRO-1』
開催!

久々の『紙プロ』イベントを
〝五感〟で体感せよ!

やれんのかーッ!?

紙

講座名	青空プロレス道場
講師	[本誌鬼畜編集長] 山口日昇 / [本誌スーパーバイザー] 吉田豪 [本誌編集スタッフ] 松澤チョロ、堀江ガンツ、スモーノブ他 特別講師(プロレスラー&格闘家 etc)
受講料	1回券/一般3,500円 西武CC会員3,200円 ※消費税別
日時	2003.2.23(sun)19:00~20:30 ※盛り上がれば場所を移して2次会をやるかも
申込方法	池袋コミュニティカレッジ8F総合受付にて受け付けます。申込書に必要事項をご記入の上、受講料を添えてお申し込みください。定員になり次第締め切らせていただきます。

過去3回、豪華ゲスト講師を招き快進撃を続けた、門外不出のガチンコ・トークバトル『紙プロ』プレゼンツ『青空プロレス道場』が何年振りかに帰ってきた! 2月から偶数月の最終日曜日に開催する、この『青空プロレス道場』。『紙プロ』イベント自体、久々となる今回は……1/19日現在、講義内容&特別講師陣、共に未定という、まさに『WRESTLE-1』状態。それにちなんで、今回の講義名は『KAMIPRO-1』、略して『紙-1』に決定!(とは言っても試合はナシ)。この不況下&プロレス&格闘技イベント花盛りの現在、決して安くはない受講料に見合ったファンタジー溢れる講義を必ずや、お見せいたします! 『紙プロ』でしかできない中身の濃いプロレス話が危険級スレスレで、あなたの"五感"を直撃! もちろん、話が盛り上がれば二次会、三次会の可能性もあり! プロレス&格闘技ファン必見のこの講座。時は来た! いますぐ予約だ! まだ間に合うぞ!!

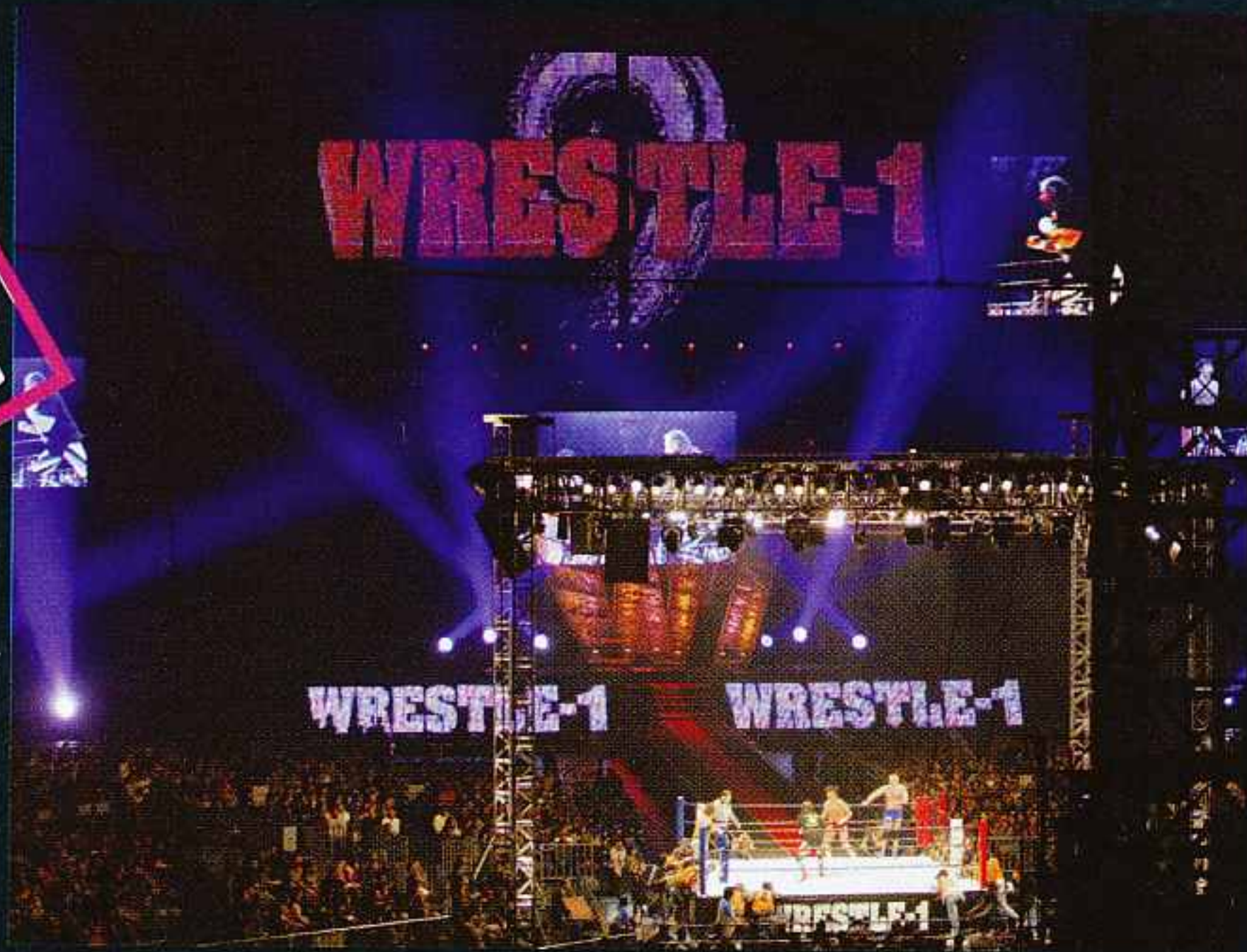
[お問い合せ] 池袋コミュニティカレッジ TEL.03-5992-0496 [受付時間] 10:00~18:20(日曜は18:00まで。祝日は休館)

いまこそマット界にイリュージョンを!
いまこそ針の穴にラクダを通せ!!
今号はそんな願いを込めて……

"明日、また生きるぞ!!"

な対談(or座談会)をみつくろいました
行きますかーッ!!

"ファンタジー"と"リアル"のハイブリッド対談実現!

1.19
W-1 in BigEgg
Bout Review付

聞き手／堀江ガンツ
助手／松澤チョロ
撮影／森"モーリー"鷹博
試合写真／遠藤政文
designed by hisa (Two Three)

WRESTLE-1

DREAM COLLABORATION TALK

×武藤敬司

ALL JAPAN PRO-WRESTLING

なぜ今、この2人の対談が実現したのか!? その謎を解け!

これぞ究極の異種配合だ!『W−1』でファンタジー・ファイトを確立せんとする武藤敬司と、パンクラスでプロレス界にリアル・ファイトの扉を開いた船木誠勝のハイブリッド対談が遂に実現! はたしてここから何が生まれるのか? その謎を解け!

5年10ヶ月ぶり!
待望の『紙プロ』再登場!

船木誠勝

PANCRASE

マット界にイリュージョンを!
明日また生きるんだ!!

——いやぁ～、今日は武藤さんと船木さんという、豪華な組み合わせが実現し、実に光栄です!
武藤 今日はちゃんとテープ録れてる?船ちゃん、この人(聞き手)前にさんざんインタビューした後、「テープ録れてませんでした!」なんて言ってイチからやり直したことあるから、取材受けるときは気をつけた方がいいよ!(笑)。
——その節は大変失礼致しました(笑)。今日はバッチリ録れてる……と思いますんで、よろしくお願いします! お二人がお会いするのはいつ以来なんですか?
船木 ちょうど1年ぶりぐらいですね。
武藤 俺が『SAMURAI!』でやってたトーク番組(『プロレスの砦』)にゲストに来てもらったことがあって、それ以来ですね。
——お二人は新日本プロレスで同期入門ですけれど、意外にも実は船木さんの方が数日早いらしいですね?
船木 10日ぐらい早いですね。でも、同期ですよ。頭剃ったのが同じ日ですから。
武藤 よくそんなの覚えてるなぁ(笑)。
——やはり頭を剃って初めて新弟子ですか。
船木 そうですね。
武藤 でも、いま新日本はそういう風習ないよ。いまも俺は剃ってるけどね。
——それは関係ないと思います(笑)。武藤さんは、入門当時の船木さんにどんな印象をもってました?
武藤 印象っていうか、やっぱり年齢的なギャップがあるじゃん。俺は学生卒業して入ってきてるけど、彼の場合中学卒業してすぐ入ってきてるから、正直言って「かわいらしい」っていう感じだよね。ただ、その若さっていうのは、当時から羨ましかったのはあるよ。

あのさぁ… 船ちゃん、ちょっと『WRESTLE-1』出ない?[武藤]

もしかして今日の対談は俺を陥れるための作戦だったんですか(笑)[船木]

船木 逆に俺は武藤さん、蝶野さん、橋本さんのことが羨ましかったですね。みんな身体ができてたじゃないですか。体力も全然違うし、ついてくのが精一杯でしたね。中でも武藤さんについては「この人が同期だと大変だな」と思いましたよ。
武藤 な～に言ってんだよ!(笑)。
——やっぱり武藤さんって、新弟子のころからひとつ抜けた存在ではあったわけですか?
船木 会社側がスターとして育てていきたいという雰囲気はありましたね。
武藤 そう?(疑うように)。でも、逆に船ちゃんの場合、若いから「いまからみっちり」っていう時間があったじゃん。俺らの場合はそのみっちりが逆になかったからね。だから会社が求めるスピーディーさっていうのは確かにあったかもしれねぇよな。特に俺なんか橋本、蝶野と比べても一番年輩だからね。
——でも、デビュー1年でいきなり海外遠征に出発したっていうのは、それだけが理由じゃないですよね?
武藤 それはそれだけの理由じゃないよ。その頃、新日本プロレスが大変なことになってたからだろ?
——そういえばちょうど(第1次)UWF、ジャパンができて、上がごっそり抜けた時期でしたよね。
船木 だから俺たち全部経験してますよ。入門したのが離脱騒動の一番大変な時期でしたから。だって入っていきなりその月に蔵前で暴動がおきたんですよ。

——ああ、第2回IWGP!
武藤 火をつけられたやつだ!
船木 それやって、そのあとにUWFですね。俺らが入った時点でUWFの最初のやつはもうできてたんですよ。髙田さんが行ったり来たりしてて、そのシリーズ終わったら、次のシリーズから髙田さん、藤原さんがいなくなって。そして、その次の月に長州さん一派が抜けたんですよ。
武藤 へ～、よく覚えてんなぁ。
船木 あの頃はホント一気に人が抜けたんで、とにかく人を減らしたくないってことで、新弟子が逃げないように、星野(勘太郎)さんが道場の玄関に寝てたぐらいですからね(笑)。
武藤 あ～、いたいた!(笑)。そうそう、あったなぁ。
船木 あれが一番印象ありますね。とにかく新日本全体が、人が抜けることに凄く神経質になってましたよね。
——それでちょうど維新軍が離脱した日に、荒川さんが橋本さん連れてソープに行ったら、離脱したんじゃないかって大騒ぎになったって話もありますよね(笑)。
武藤 あ、それ俺も行ってたよ(笑)。
——武藤さんも一緒でしたか!(笑)。
船木 その直後ぐらいに離脱をさせないための合宿もあったんですよ。
——離脱させないための合宿って、もしかして箱根の強化合宿ですか?
船木 そうですそうです。
武藤 ああ! あれ、離脱させないための合宿だったんだ! 初めて知ったよ(笑)。
船木 みんな連れて行って旅館にいれば、出ようがないじゃないですか。そのためにやった合宿なんですよ。でも、合宿から帰ってきた次の日、また笹崎(伸司)さんともう一人ぐらい抜けたんですよ。

武藤　でもね船ちゃん、また新日本も今年あたりそういう雰囲気ありそうだよ。いや、噂でしか聞いてないけど。

――今日、越中さんが離脱しましたね。

武藤　あ、ホント。やっぱりそうなんだ。

船木　そういうの遠くから見てると面白いですよね。変な意味じゃなくて、自分も経験したことあるんで。

武藤　俺、最近経験したばっかりだよ（笑）。

1984年の選手大量離脱で大ピンチに陥った新日本が箱根で敢行した強化合宿は、実はこれ以上離脱者を出さぬよう24時間見張るためのものだったことが今回初めて判明！この時、武藤21歳、船木は若干15歳だ。

船木　だから武藤さんが出たときは、俺、嬉しかったですよ。

武藤　ホントに⁉

船木　だって新弟子の頃から「全日本いいなぁ」って言ってましたから（笑）。

武藤　ウハハハハハ。

船木　新弟子の頃って、合宿所で必ず新日本と全日本のビデオを録画させられるんですよ。それで先輩が帰ったあとビデオをつけると、全日本見てるときに必ず「俺、こっちの方がいいなぁ」って言ってましたから（笑）。

――それは当時としてはかなりの問題発言ですねぇ（笑）。

船木　だから、ようやく念願叶ったと思って、それで嬉しかったんですよ。

武藤　俺は全然、覚えてないけどね（笑）。

――当時って、船木さんみたいに藤原さんとセメントの練習を志してたタイプと、武藤さんみたいにアメリカン・プロレスを指向していたタイプなんかに、若手の頃から別れてたりしたんですか？

船木　いや、武藤さん一人だけそっち指向でしたね。それで蝶野さんがその中間ぐらいで、マードックとかボブ・オートンとかあの辺が好きだとか言って、やたらエルボーばっかりやってたんですよ。

武藤　あいつ渋い好みだったんだよな。

MASAKATSU FUNAKI × KEIJI MUTO

船木　それで橋本選手はもう、すべて前田（日明）さんの真似ですね。蹴りとニールキックばっかりでしたから。そういう意味では、武藤さんは新人ながら人の真似じゃなくて、オリジナルのスタイルを築いてたんですけど、タイガーマスクの真似だけはしてましたね。ムーンサルトとか。でも、「俺の方が凄いんだ」っていつも言ってましたよ（笑）。

武藤　ウハハハハハ！

船木　「俺はヘビー級だから、ヘビー級でこんなことできる奴いないから」って言ってましたね。

――当時から、自分でそんなこと言ってたんですね（笑）。

武藤　いやぁ、でもそんなの思いつかなかったら、いまごろまだヒザ大丈夫だったんだろうなぁ……（遠い目をしながら）。

一同　アハハハハハ！

――橋本さんに言わせると、武藤さんは「俺、柔道で坂口さんに勝てるよ」って言ってたらしいですね（笑）。

武藤　言ってない言ってない！　だいたいみんな大袈裟に言ってるんだよ（笑）。

――そういったことも含めて、合宿所時代に一番〝伝説〟を残しているのはどなたなんですか？

武藤　そりゃあブッチャー（橋本のアダ名）だろ！

――やっぱり橋本さんですか（笑）。

武藤　坂口さんのお金なくして付き人クビになったり、試合干されたり、坊主にされたりさぁ、そんなのばっかりだよぉ！

船木　いろんな事件がありましたよね。一度、名古屋のホテルでクロネコさん（ブラック・キャット）とケンカして、それで坊主になったり。

――それはなんでケンカになったんですか？

船木　あのとき、橋本選手が騒いでいてうるさかったんですよ。それでクロネコさんが「アンタ、うるさいよ！」って言ったら、「なんだとぉ、このブタネコォ！」って言ったんですよ（笑）。

――ガハハハハハ！　ブタネコ！　自分のことは棚に上げて（笑）。

船木　そしたらクロネコさん怒っちゃって、アイスピック持ち出したんですよ。そうしたら橋本選手はルームサービスのフォーク持って「やるか！」って応戦して。

――ブッチャーだけにフォーク（笑）。

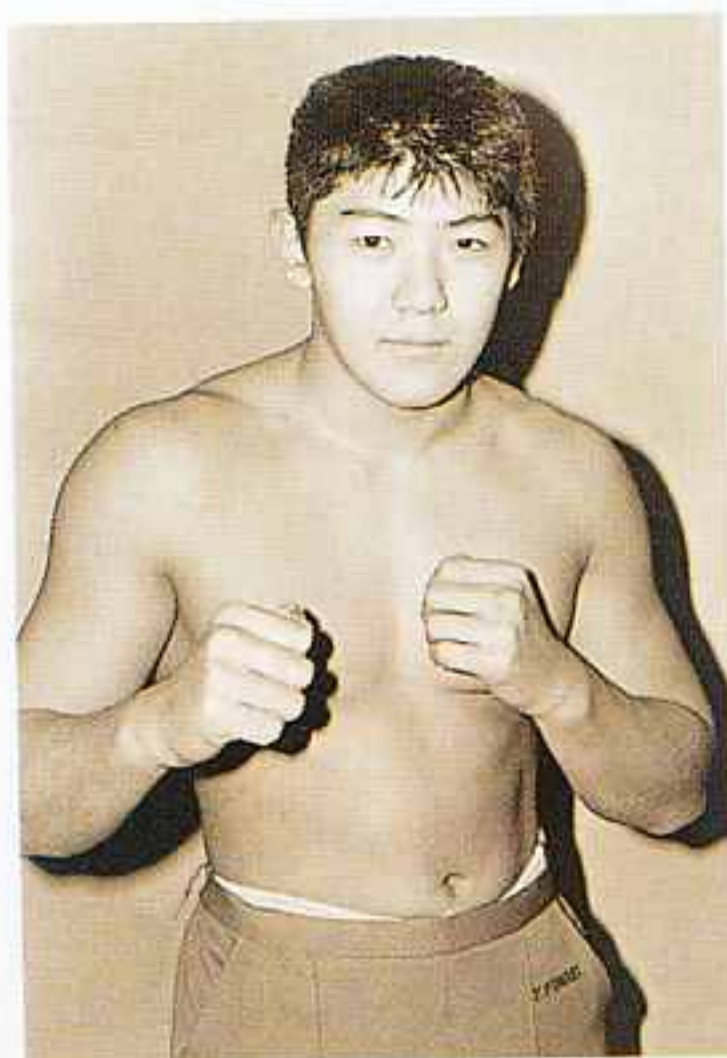
武藤　そういや一回、試合してる本物のアブドーラ・ザ・ブッチャーに蹴り入れて干されたことあったよね（笑）。

――ガハハハハ！　単なる新弟子がブッチャーに（笑）。

船木　確かそのとき、猪木さんがブッチャーにやられてたんですけど、試合中だから誰もブッチャーを止めるわけないじゃないですか。でも、なんか〝正義〟なんでしょうね。思いっきりブッチャーを蹴ったんですよ。それがTV中継で流れちゃって、それで干されましたね（笑）。

――橋本伝説はそのころからあったんですね（笑）。

武藤　巡業中なんて、そんな話ばっかだよ（笑）。

船木　あのころって同期の仲間のけっこう多くて、下も多かったんで、そういう意味

武藤が「かわいらしい」と表現した新人時代のあまりに初々しい船木。「21世紀の星」と呼ばれ、将来を嘱望されていた。

では楽しかったですね。

武藤　ただね、俺はまだ橋本とかあの辺が同期だからいいけどね、あれより後輩に生まれてたら、絶対プロレス界に残ってないよ！（キッパリ）。

――アハハハ！　それだけ"かわいがり"がきつかった、と（笑）。

武藤　そうそう。ライガーあたりもね、下には酷かったよ（笑）。

――鈴木さんとライガーさんのかわいがり……鈴木みのるさんも証言してますよね。鈴木さんは「イジメ」と言ってましたけど、あれは凄かったって（笑）。

船木　やっぱりストレス溜まってたんだと思うんですよ。そういうことやって楽しむしかなかったんですよね。

――あれはストレス解消でしたか（笑）。

武藤　だってさぁ、俺が（海外に行って）いなくなった後、船ちゃんとライガーが道場残って、その後2、3年で後輩何人ぐらい辞めた？

船木　ああ。ほとんどいないかもしれませんね（サラリと）。俺らより下っていうと、飯塚、松田、大矢、片山ですから。

武藤　飯塚だって俺と3年ぐらい離れてるぜ。だからその3年間みんな新弟子潰したんだから（笑）。

――ライガー、船木、橋本の3人が（笑）。

武藤　あの当時ってさぁ、ライガーと船ちゃんがいて、そこに橋本ってどうやって絡んでたの？

船木　その頃からもう橋本選手は道場に住んでないんですよ。表向きはいることになってたんですけど、もう女の家に入り浸ってて（笑）。

一同　ガハハハハハ！

船木　夜は女の家に泊まって、朝になると道場に帰ってきて、それで明らかに女物と思われるパンツとか履いてるんですよ。それでみんな「どうしたの、それ？」って言うと、「あ、間違えた」って。

――そんなの絶対、間違いっこないじゃないですか！（笑）。

武藤　いや、ブッチャーって、あの体型なのに普段からちっちゃいパンツ履いてたんだよ（笑）。

船木　太って肉割れができたんですよ、赤いのが。それでみんな言うじゃないですか「どうしたの？」って。そしたら「女に引っかかれた」とか言うんですよ（笑）。

――とにかく女ネタが自慢だったんですね（笑）。あとは、こういう対談になると、よく巡業で飲んで騒いでっていう話がでますけど、それも多かった世代ですか？

船木　ああ、ありましたね。

――武藤さんはメインイベンターになってからですけど、前田さんと素っ裸で殴り合ったっていう伝説がありますよね（笑）。

武藤　そんときもう船ちゃんいなかったよね？

船木　いや、俺もいましたね。武藤さんと前田さんがあんまり暴れるんで、坂口さんに二人とも風呂に突っ込まれたんですよ（笑）。

MASAKATSU FUNAKI × KEIJI MUTO

武藤　俺も突っ込まれたの？　あ～、だから俺、裸だったのかなぁ。気がついたら、な～んか裸で髙田さんと道路の真ん中で語り合ったの覚えてるよ（笑）。

船木　みんなやっぱり上に行きたいんで、不満はいっぱいあったと思います。あれだけのメンバーがみんな揃ってたわけじゃないですか。揉めて当たり前なんですよね。

――アクが強いメンバーがメチャクチャ揃ってますもんね（笑）。

武藤　だから新日本ってこれだけ分裂しちゃったのかなぁ。元を辿ればノア以外、みんな新日本だよね。でも、こんだけ細分化されちゃうと、船ちゃんなんて、いまのプロレス界がどうなってるか、もうわかんなくなってるんじゃない？

船木　いや、俺は引退してから逆にプロレス界について詳しくなりましたね。いまはもう趣味で見れるんで。

武藤　へ～、ホント。

船木　だから雑誌、テレビ、みんな見てますよ。11月の『WRESTLE―1』（以下『W―1』）もPPVで見ました。

武藤　あ、そう！　貢献してもらってありがとうございます！（笑）。

――いまの船木さんの目から見た全日本、『W―1』っていうのはどうですか？

船木　全日本は（地上波）テレビ中継がないんであんまり見れてないんですけど、『W―1』は面白いですね。

――賛否両論ありますけど、船木さん的にはOKですか？

船木　俺は面白いです。1回目の『W―1』見て、次にやるときはまた見たいなと思いましたから。

武藤　（嬉しそうに）ホントに？　でも、次に繋がる試合がねぇんだよな。一話完結ばっかりじゃん。

船木　でも、やっぱり見たいですよね。プロレスでもない、格闘技でもない、新しいものだから、とにかく楽しいですよね。

――では、『W―1』の方向性は正しいと思いますか？

船木　いや、方向性が正しいとか間違ってるじゃなくて、残ってもいいものだと思いますよ。あれによって格闘家がプロレスやっても中途半端じゃできないって証明されたと思うし。

――やっぱり船木さんから見ても、格闘家はプロレスができてませんか？

船木　下手くそですね（キッパリ）。ホントに下手くそですね。見事に下手くそですね。

――そんなに繰り返し言うほど下手くそですか（笑）。

武藤　あのさぁ……じゃあ、まだ自分の方ができると思わない？

船木　たぶん、いまでも俺がやった方がまだできますね（笑）。

武藤　（さりげなく小声で）それじゃさぁ……船ちゃん、ちょっと『W―1』出ない？

――アハハハハ！　小声で武藤敬司がオファーを出しております（笑）。でも実際、『W―1』みたいな舞台に船木さんって凄く合いそうな気がしますけどね。

船木　今日の対談って、俺を陥れる作戦だったんですか？（笑）。

――まぁ、それもなきにしもあらずというか（笑）。でも、辞めた後って、「俺が現役だったら」とか思ったりしませんか？

船木　「現役だったら」とは思わないですけ

マット界にイリュージョンを！
明日また生きるぜ!!

俺は『紙プロ』読者を
増やすっていう正義の元に
『W-1』やってるつもり
だからね！
［武藤］

ど、「物足りないな」と思う試合はいくつかありますね。でも、格闘家がやるプロレスが下手くそなのは仕方ないですよ。まったく別物なんで。あれは難しいと思いますよ。

武藤 ただ、下手くそでも何でもさぁ、人にインパクトを与えれば方法論はどうでもいいんだよな。まとまった試合が決していいわけじゃないから。映画だってそうじゃないの？

船木 それは映画と一緒だと思いますね。

武藤 俺、この間、大河ドラマ『武蔵』のやられ役で出たんだよ。それで久々にああいうドラマ作りの現場に行ったじゃん。そうしたらああいうのって、俳優だけで撮ってるわけじゃないんだよね。監督、助監督、カメラ、照明、音声、美術、みんなさぁ、怒鳴り合いみたいに意見出し合って、一本の芸術を作ってるんだよ。これからのプロレスって、俺そういう風な方向もありかなと思いますよ。確かに演出とかああいうの、レスラーがこなすの大変だよ。俺だって前回大変だったんだから。

――ああ、ムタはスモークの中から突然リングに現れましたからね（笑）。

武藤 俺はあのおかげで普段やってるウォームアップとかできなかったんだから。でも、これからはそういうものも協力してひとつのイベントっていうものを作らなきゃならねぇかなと思いますよね。だってプロレスってもんが、これだけ格闘技に押されてるっていう現状がある中で、『W―1』なんか『紙プロ』の読者を増やすため、という正義の元にやってるつもりだからね。

――あ、そうだったんですか！　ありがとうございます（笑）。

武藤 だって『紙プロ』が何万部売れてるか知らないよ。例えば10万部としても、視聴率にしたら0・1％だよ!?　少なくとも（第1回）『W―1』は8・4％取ったから840万人が見てくれてるんだよ。その人たちの心に訴えるには、いろんな方法論がなきゃ難しいからね。

――いま、プロレスが格闘技に押されてるって話がでましたけど、プロレスも格闘技もどっちも知ってる船木さん的には、その辺どう思いますか？

船木 いまはそういう状況なんでしょうけど、長期的に見て、プロレスと格闘技どっちが生き残るかって考えたら、俺はプロレスだと思いますよ。

武藤 え！　マジで!?（身を乗り出して）どうして、どうして？

船木 格闘技って消耗じゃないですか。そうするとトップを張り続ける人ってなかなか出ないんですよ。それが致命的ですよね。

武藤 ああ、スターができないよな。

船木 スターが生まれたとしても、その期間っていうのは明らかに短いですよね。

――格闘技って負けたら人気が落ちますからね。

船木 でも、『W―1』でムタがボブ・サップに負けても、ムタの価値が下がるわけじゃない。そこがプロレスの強みですよね。

MASAKATSU FUNAKI × KEIJI MUTO

――プロレスって負けたことでドラマや物語が続いていく部分がありますからね。

武藤 でも、ムタvsサップって物語になってないじゃん。だから俺はもっと『W―1』を物語にしたいんだよ。だけどいまはいろんな事情があって、こんな周期だけどね。だから、なんかよくわかんねぇけど、ハルク・ホーガンが『W―1』参戦を断った理由もそこにあるらしいんだよ。「1回きりじゃ自分を表現しきれない」って。アメリカなんかは、大きな試合って、そこでエンディングを迎える試合と、そこから生まれる試合と上手く別れてたりしますよね。それって凄ぇ必要だよなぁ。

――そうなると、いまの課題はいかに繋がるものを作るかですか？

武藤 ただ、『W―1』って何ヶ月に1回しかない中で、まして団体ではまだないじゃないですか。抱えてる選手もいないし、それは難しいよ。だからもう少し実績積むしかないよ。

――では、船木さんが見て、武藤さん関係に限らず、いま面白いと思うプロレスってなんですか？

船木 （即座に）星野さんが面白いですね。

――ガハハハ！　星野総裁ですか！

武藤 俺、あんま見たことないんだけど、星野さんがマイクでしゃべると、映画みたいに字幕がでるんだって？（笑）。

――はい。「魔界語」と呼ばれてますね（笑）。

武藤 それわかるなぁ。俺昔さぁ、星野さんによくモノ頼まれたんだよ。でも、何言ってるかサッパリわかんねぇんだよな（笑）。それで「なんですか？」って4回ぐらい聞き返してたから、いつもバチンと叩かれたからね（笑）。

船木 星野さんはキャラクターがいいですよね。

武藤 星野さんは天然記念物だよ。だってさぁ、車運転してさ、「武藤、俺のあとくっついて来い」なんて言われて、星野さんの車の後ろにくっついていったことあるんだけど、左にウインカー出しといて右に曲がるんだぜ！（笑）。

――ガハハハ！　そんな総裁伝説があるんですか（笑）。

船木 あと星野さん以外だったら、ジョニー・ローラーもいいですね。

――ローラーまでOKですか！（笑）。

船木 なんか真剣に取り組んでる姿がいいですよ。

武藤 いやぁ、船ちゃんいい目してるよ。やっぱりなんだかんだどう批判されたって、ジョーニー・ローラーが一番プロモーターも喜ぶし、客の人気もあるんだもん。

船木 しかも周りは全員男ですよ。よくやったなと思いますよ。あといまはテレビになって、やり取りがわかりやすいからいいですよね。

――ああ、字幕が出ますもんね。だから『W―1』だけじゃなく、新日本も含めて、いまプロレス中継というのは、バラエティ色とか試合以外の要素が大事になってますよね。

船木 それじゃなかったら視聴者が見ないですからね。

武藤 俺はテレビ＝社会だと思ってるから。レスラーとしては悔しいけど、もう番組タイトルが「ボブ・サップのバトルエンターテイメント」って付くってことは、いまの評価はそれなんだよ。その中で俺らが

格闘家のヘタくそな
プロレスに比べたら
まだ俺の方ができますね（笑）
［船木］

マット界にイリュージョンを!
明日
まだ生きるぜ!!

チャンスを掴めばいいだけであって。俺、ゴールデンで流れた映像見てねぇからわかんねぇけど、クイズ形式にされてたりとか、どうとかこうとかあるけど。その時間帯にテレビを見る層って奥様連中が多いらしいんだよね。やっぱりそうなったら、社会はそっちだよな。それでまた深夜にもやってるじゃん。そっちはそっちで内容変えてね、だからいまは嗜好に合わせるしかねぇんだよ。こっちで押し通せないよ。

——お二人なんかにしても、ＴＶ関係の方とお話する機会も多いと思いますけど、いまプロレスラーの知名度ってやっぱりＴＶに出ないとキツイものありますよね？

船木 全然知らないですね。知ってる人は凄く知ってますけど、大抵の人はまったくと言っていいほど知りませんね。

武藤 それが露骨にわかるのが地方なんだよね。例えば全日本で誰が知られてるかと言ったら、ネームバリューなら武藤敬司と天龍さんぐらいになっちゃうんだよな。小島だったら、いま現在まだ弱いよね。それで外人で一番知られてるのブッチャーだからね。

——いまだに（笑）。

武藤 そう、いまだにブッチャー。

——地方に行ったら、テレビに出てる人＝有名人ですからね。

武藤 ただね、知名度とチケットの売り上げがそのまま繋がるかっていうと、また違うからね。やっぱり現場でちゃんといい試合しないといけないのは当然だよね。それとテレビの怖さっていうのは、ちょっとバカっぽく映ったら「バカ」って捉えられたりするからさ。レスラーは基本的にリング離れたら、あんまり頭良さそうに見えねぇじゃん！

——バラエティでは、暴れたりとかそういうのが求められがちですよね。

武藤 そういうイメージでこの番組は出る出ないって、船ちゃんの方がやってるよな？ 俺たち以上にイメージが大事な商売だからさ。

船木 そうですね。

——船木さんが『しゃべり場』とか出たら、プロレスファンはみんな注目しますもんね。

船木 そうみたいですね。

プロレスと格闘技どっちが生き残るか考えたら、俺はプロレスだと思いますよ［船木］

MASAKATSU FUNAKI × KEIJI MUTO

武藤 なに、その『しゃべり場』って？

——（※『しゃべり場』の説明を一通りする）

武藤 へ～、そんな番組にも出てるんだ。

船木 あと『さんま御殿』に出たときは、"エロじい"になってましたけどね（笑）。

——ガハハハハ！ でも、あのときの船木さんって、メチャクチャカット割り多かったですよね？

船木 ええ。来ないでほしいのに、どんどん振ってくるじゃないですか？ それで知らないうちに使われてたという。でも、まぁそれもいいかな、と。ホントのエロじゃないですから。たまたま、そのとき言った言葉がそういう内容だっただけで、24時間あぁいう感じじゃないですから。

——24時間エロじじいではない、と（笑）。それは声を大にして言っておきましょう！ 知名度っていうと、逆に武藤さんなんかパンクラスで知ってる選手ってあんまりいないんじゃないですか？ いまでも船木・鈴木ぐらいで。

武藤 あ～、申し訳ないですけど、俺はそうだなぁ。

——格闘技って、そういうところがプロレス以上に大きな課題ですよね？

船木 凄い難しいですよ。さっき言った話じゃないですけど、スターが作れない世界ですから。出てきようがないです！

——出てきようがない！ 格闘技で常勝でいるのはほとんど不可能ですからね。船木さんも現役最後の頃って、それに苦しんだ部分が大きかったんじゃないですか？

船木 そうですね。ずっと俺がチャンピオンでいられたら、ファンもみんな納得してくれるし、実際チケットとかも伸びが違うらしいんですよ。そうじゃない外人選手がチャンピオンになると、チケットが伸びないという現実がありましたから。なかなかそれがうまくいかないですよね。

武藤 じゃあ当時の船ちゃんって、いまのアレと一緒だね。貴乃花と。

——そうですね。船木さんがチャンピオンでメインイベントやってた頃って、やっぱりお客さんの歓声が違いましたもんね？

船木 あと、やっぱりリング上でファンサービスもやっちゃうんですよね。やらなければいいものを、つい防衛するとやっちゃうんですよ。

武藤 いまの若い人たちって、ファンサービスしないの？

船木 あんまりしないですよね。四方のコーナーに上がってトンボ切ったり。

——この間のパンクラス中継でも、船木さんの首かっきりポーズが繰り返し流れてましたよね？

船木 いまだにあれが使われてるってことは、いかにいまそういうシーンがないかっていうことですよ。ホントはプロにとって必要なことなんですけどね。

武藤 プロレスラーって、結局はサービス業だからね。

船木 そうですね。だから俺もサービスしてたんですよ。でもサービスし続けて疲れちゃったんですよ。

——サービス疲れで引退ですか（笑）。

船木 なんかそんな気しますね（笑）。

——鈴木さんもサービス精神はかなり旺盛ですよね？

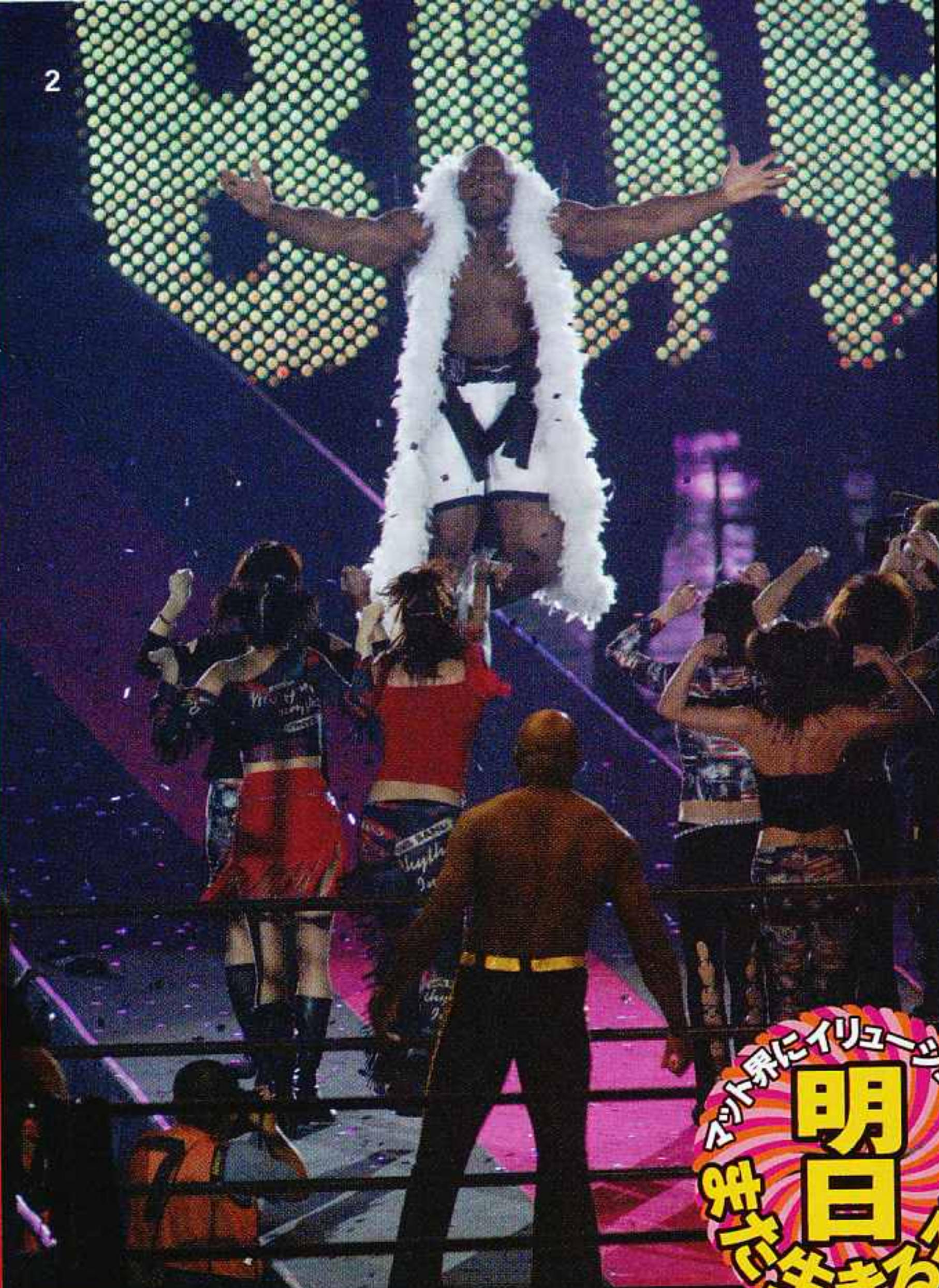
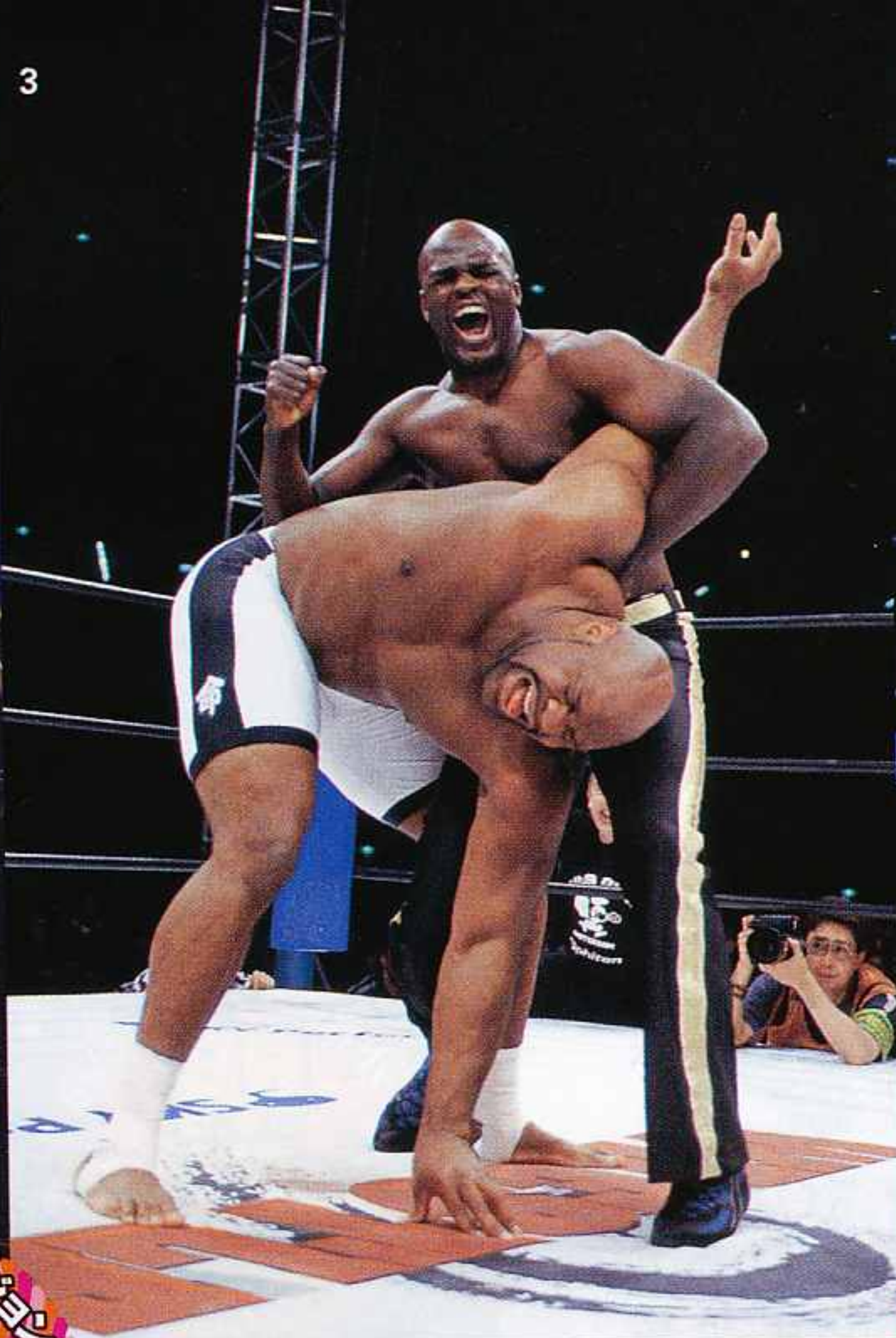
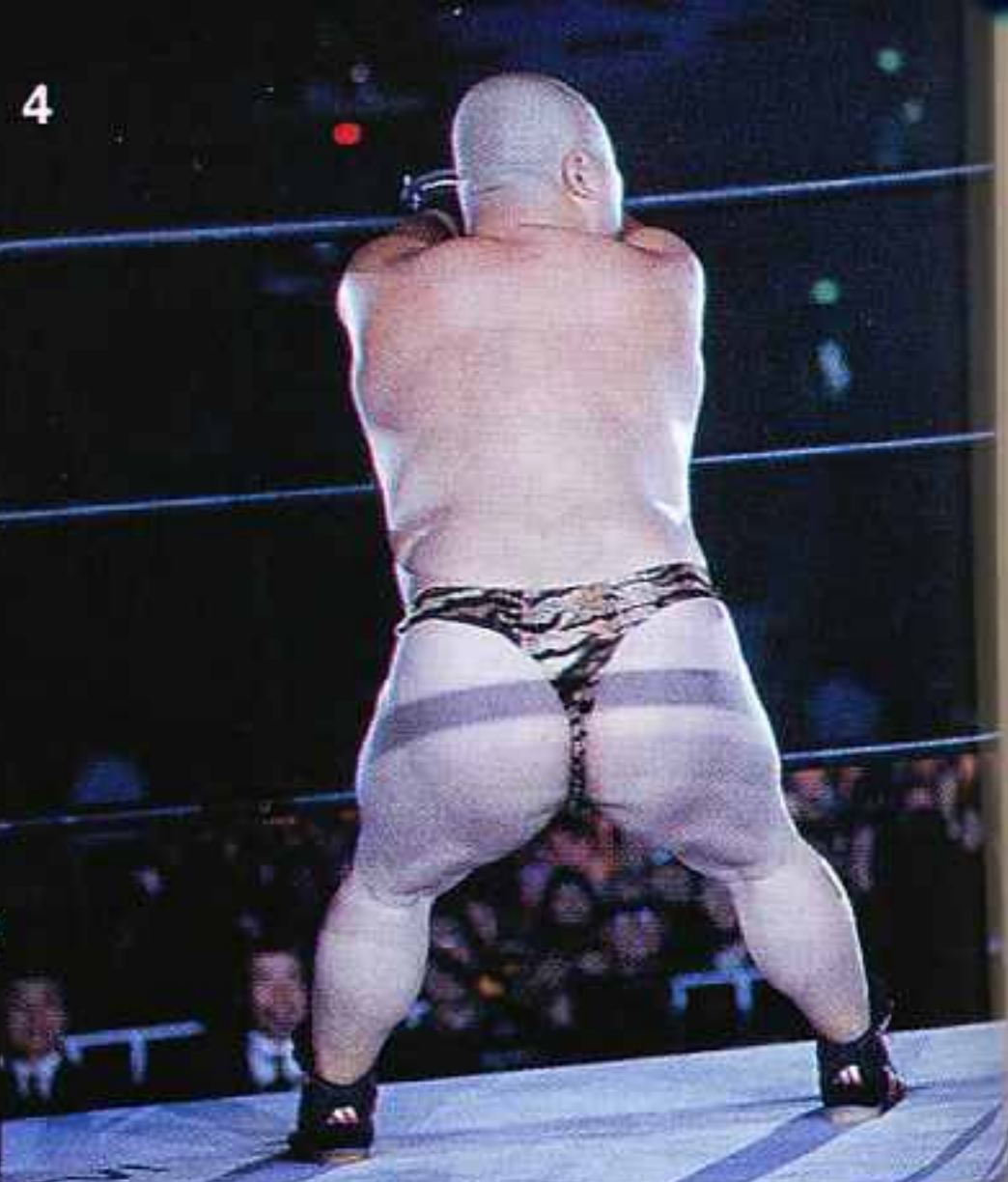
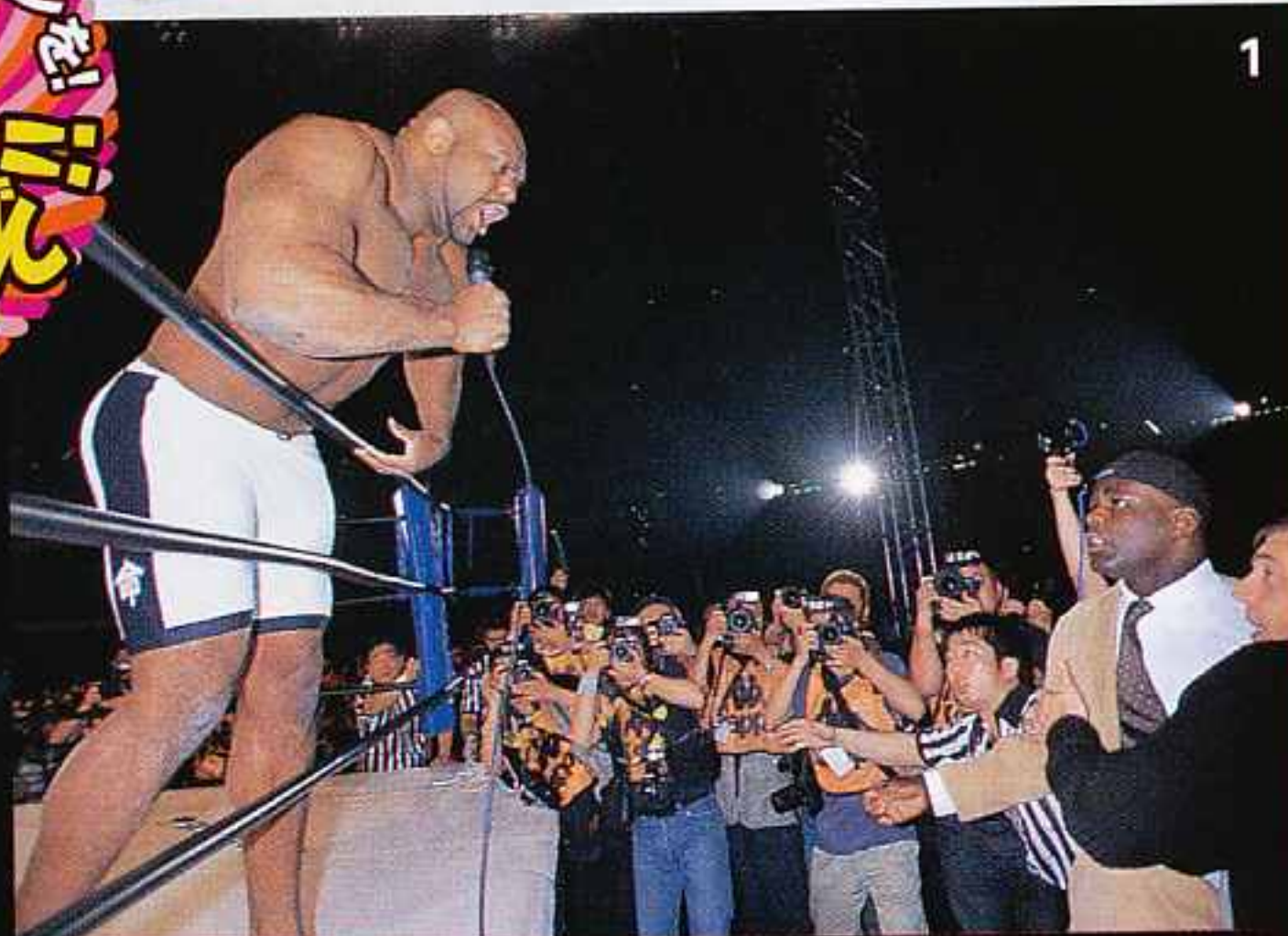
船木 鈴木の場合は、サービスもしながら、人から「わースゲー」とか言われることが快楽でやってますから。吸い取られる

2

3

4

5

マット界にイリュージョンを!
明日また生きるぞ!!

1

1

①第２回『Ｗ－１』のオープニングはサップとホースト＆ヨハン・ボスの大舌戦でスタート。ヨハン・ボスのノリノリぶりが最高だった！②なんとドームの空を飛んで登場した“エンジェル”サップ。宙づりにされても、表情が豊かなのが凄い！　③なんとホースト（ビースト）が卍固めを披露！　この他にもカニばさみからのＳＴＦ、そしてイス攻撃まで披露！　純Ｋ－１ファン卒倒シーン続出の末、スクールボーイでサップがまさかの３カウント負け！　これはやりすぎか!?④やりすぎと言えばこの男、“超変態”ことジョー・サンは、お馴染みＴバック姿でＤＪよろしくノリノリで入場。ある意味、今大会最大級のインパクトを与えた。⑤こういう色物が相手だと俄然魅力を爆発させる破壊王。最後は足が短すぎて４の字が決まらないと見るや、完璧な逆エビで圧勝！

1.19 WRESTLE-1 in BigEgg

9

6

7

馳 先生!!、当選
おめでとう！

WRESTLE-1　WRESTLE-1

8

10

11

⑥闘龍門の秘密兵器、石森太二が『Ｗ－１』で日本デビュー。キャリア半年とはとても信じられない天才的な動きで、ファンの度肝を抜いた。⑦前回賛否両論を呼んだスクリーンに文字が出る演出が今回はさらにパワーアップ。馳のジャイアントスイングの回数とともに「１万票、２万票」と数字が上がり、17万票で「当確」ランプが点り、遂に当選！　くだらなすぎて大いに盛り上がった。⑧前回に続きプロレス初心者の格闘家相手でもしっかり試合を作ったコジ。『Ｗ－１』陰のＭＶＰだ。⑨ランデルマンはますますプロレスが上達していた。⑩試合前はデクの坊と思われた巨大囚人コンビだが、予想以上の動きでうれしい誤算。⑪第１回大会に続き、またしても宿命のライバル・さたやんとの対戦がオープニングで組まれたブッチャー（67）。さたやんの守護神・金ダライを奪い自らの頭に打ち付けるパフォーマンスを見せた。

マット界にイリュージョンを!!
明日また生きるぞ!!

MASAKATSU FUNAKI × KEIJI MUTO

だけじゃないんですよ。

武藤　自分も客からエネルギーもらうんだ。

船木　だからちょうどいいんじゃないですか。でも、俺はリング上でサービスすればするほど、パワーを吸い取られるだけだったんですよ。取られて取られて、気がついたらいなくなってましたね。俺じゃない俺ができちゃった気がしたんですよ。ああ、これ俺じゃないなって。

——「パンクラシスト船木誠勝」が一人歩きして、演じるのが辛くなってきたわけですか？

船木　ある部分、それも自分の中のひとつの個性だと思うんですよ。でも、ずっとそれじゃないんですよね。

——やっぱりプロレスの時に観客の声援もらうのと、パンクラスで客席が盛り上がるのは気持ち的に全然違いますか？

船木　まったく違いますね。プロレスのとき声援もらうと嬉しいんですよ。だけど、パンクラスをやってるときは、盛り上がれば盛り上がるほど、舞い上がってしまうんで、危ないですね。

武藤　なに、舞い上がるって？

船木　お客さんに乗せられて、倒れてればいいのに、まだまだやってしまって、あとで怪我をしてしまったり。声援は麻薬ですね！　だからライガーがこの間パンクラスで試合して、「この空気はクセになる」って言ったじゃないですか。アレだと思うんですよ。あのときたまたまライガー初登場で、「ウワー」っと沸きましたよね？　その中で鈴木とやってることがウワーと来たんじゃないですかね。

武藤　その空気っていつも同じ空気なの？

船木　いつも同じじゃないですね。

武藤　プロレスも観客の声援って何通りかあるよね。意味もなく声援してるのもあれば、やっぱ何通りかあるじゃない。ところがいまの若いレスラーって、シーンとした状態が凄い怖いみたいな感じなんだよな。だからボンボン無駄に技出したりしてんじゃん。俺はシーンとした状態凄ぇ好きなのにさ、そっからグァーっと盛り上げていくのが面白いじゃん。猪木さんじゃないけど、客に媚び売りすぎだよ。

——船木さんはシーンとしたの好きですよね？

船木　俺、ずっとシーンとされてましたね。お客さんが野次飛ばすと、「ウルセー！」って言っちゃいましたから。それで野次言っちゃいけないという雰囲気ができちゃったんですよね（笑）。

——いまになってプロレスの歓声って、懐かしくなったりしませんか？　よくリングが忘れられないっていうレスラーのOBっているじゃないですか。

船木　俺はそういう懐かしさっていうのはないですね。凄く集中してやってましたから。それは目立ちたがり屋の人がそうなんじゃないですか？

武藤　じゃあ、船ちゃんさぁ、いま映画撮ってて、どういうエクスタシーがあるかわかんねぇけど、パンクラス及びプロレスやってたときのエクスタシーを上回ったことってある？

船木　それは自分が実際に自分が撮った映像を映画館で客として見たときに感じますね。

武藤　でも、演じたその場でエクスタシーを感じないと、ちょっと疲れない？

船木　もともと多分俺は客からの声援とかそんなに必要としてなかったんで、そういう意味ではあまり気にならないですね。

武藤　というか、客の声援抜きにして、面白さ？　プロレスやってた頃、パンクラスやってた頃を上回る面白さ、映画にある？

船木　それはリングに上がっていたときの方がありますけど、俺はきっとそれに疲れたんじゃないですかね？　ハイになることに疲れたんですよ。

——じゃあ、まずは船木さんに『W—1』の解説でもやっていただくのがいいかもしれませんね（笑）。

武藤　いいね〜、今度改めてお願いしないといけねぇな。

——船木さんの解説って面白いですよね。船木さんだったらプロレスも格闘技もわかるわけだし。『W—1』解説者としては、少なくともターザン山本さんより数倍いい

今回は「グレート・ムタ」ではなく、素顔で出場した武藤は、ゴールドバーグと日米スーパースターコンビを結成。合体技やジャックハマーと閃光魔術の競演など、夢のシーンが期待されたが、さしたる見せ場は作れず。試合後、武藤は「またプロレスがわからなくなった」と語っていた。

今度映画で俺に相応しい役があったら声かけてよ。例えば屈強なお坊さん役とか［武藤］

と思います（笑）。

船木　でもオレ、「動き悪いですね」とか正直に言っちゃいますよ（笑）。

──激辛解説で（笑）。

船木　この前の『W─1』でも、サム・グレコがドロップキックやったとき、変な落ち方しましたよね？

武藤　あれもうダメだもん。再起不能じゃねぇかなぁ。手術したんよ。1年は無理だろう。

──それだけプロレスは難しいんですよね。宇野薫選手なんかも船木さんに憧れてこの世界に入った人ですけど、プロレスの試合はどうでした？

船木　けっこう上手い方だと思いますよ。もうちょっと何回か稽古つめばよくなるんじゃないですか。やっぱり本人が「やりたい」っていう気持ちがあるからできるんじゃないですか？　その気持ちがなければ、光らないと思いますよ。どこかでプロレスをやることに迷いがある選手はそういう風にしか映らないですから。

──でも、これからプロレスやりたい格闘家はどんどん増えてくるでしょうね。

武藤　基本的には『PRIDE』に出てる選手みんな出たがってるでしょ。それは自分たちの選手寿命とか考えるだろうし、引退後のこととか、特に外人ってその辺シビアじゃん。

──となるとやっぱり船木さんには、プロレス→格闘技→プロレスというコースの先駆けになってほしいですけどね。試合にしても彼らのお手本になってほしいですよ。

むとう・けいじ■1962年12月23日、山梨県富士吉田市出身。デビュー当時から天才の名をほしいままにし、世界を股に掛けて活躍。昨年1月新日本を電撃離脱し、10月には全日本プロレス社長に就任。全日再建と『W─1』確立に全力を挙げている。

ふなき・まさかつ■1969年3月13日、青森県弘前市出身。史上最年少15歳で新日本プロレスからデビュー。その後、UWF、藤原組を経て、93年にパンクラスを設立。2000年5月26日、ヒクソン・グレイシーに敗れ引退。現在は俳優として活躍中。

武藤　船ちゃん、じゃあ例えばさ、面が割れるの嫌だったらマスクマンっていう手もあるよ。

船木　……この場で言われても（苦笑）。

──ガハハハ！　そりゃそうですよね（笑）。

武藤　じゃあ、もし今度『W─1』に謎のマスクマンが現れたら……もしかしたら……（笑）。

船木　でも、そういうのもアリだと思いますね。『W─1』は、〝夢〟だと思うんで。誰だかわからないで、終わるみたいな。俺がファンだったら、そういうのが見たいですから。

──船木さんは、次回もPPVは買っていただけるんですか？

船木　そうですね、個人的にはホーガンとゴールドバーグ、武藤さんとボブ・サップ、この4人が絡むところがみたいですね。それをやったらその一試合で十分ですよね。

武藤　いいこと言うね〜。ただ、金がかかるなぁ〜（苦笑）。

──アハハハ！　じゃあ、それは次回に期待しましょう！

船木　いつかそれが見れたらいいですね。夢として。

武藤　オレも船ちゃんが『W─1』に出る夢持ち続けるからさ、ちょっと本気で考えといてよ！

船木　（微笑）

──すぐにリング上ではなくても、なんらかの形でこれからも関わってほしいですね。

武藤　そうそう。逆に映画でオレに相応しい役があったら声かけてよ。なんかあるでしょう、屈強なお坊さんの役とか。

──屈強なお坊さんって、どんな映画ですか（笑）。そういえば、実は橋本さんも主演映画が決まったんですよ。

武藤　マジで⁉

船木　どういう映画ですか？

──『マネーの虎』に出てる高橋がなり社長がスポンサーに付いてつくる映画なんですけど。

武藤　それじゃポルノじゃん！

──いや、ポルノじゃないんですけど（笑）、総制作費3億かけるらしいんですよ。

武藤　3億⁉　絶対元取れねぇよぉ！

一同　ガハハハハ！

──では、リングかスクリーンかわからないですけど、武藤さん、橋本さんらと、船木さんが同じ舞台に立つ夢を見つつ、今日はお開きにさせていただきます。ありがとうございました！

【03年1月15日／後楽園飯店にて収録】

1・19『W-1』を紙プロが勝手に勤務査定！

採点させてよ！'03

8点

スターになっても仕事を選ばぬ姿勢に脱帽！

ボブ・サップ

BOB SAPP

なんでもやってくれる非常にありがたいタレントとして、テレビ業界でも重宝されるボブ・サップが、遂に東京ドーム宙づりまで披露！　これだけスターになってもまったく仕事を選ばないこの姿勢は実に素晴らしい。しかも、あの高さで釣られながら、笑顔を絶やさないのだから完璧。試合はズバリ言ってイマイチだったが、そんなことはどうでもいいのだ。

7点　9点

ヨハン・ボス！ あんた一番ノリノリじゃないか！

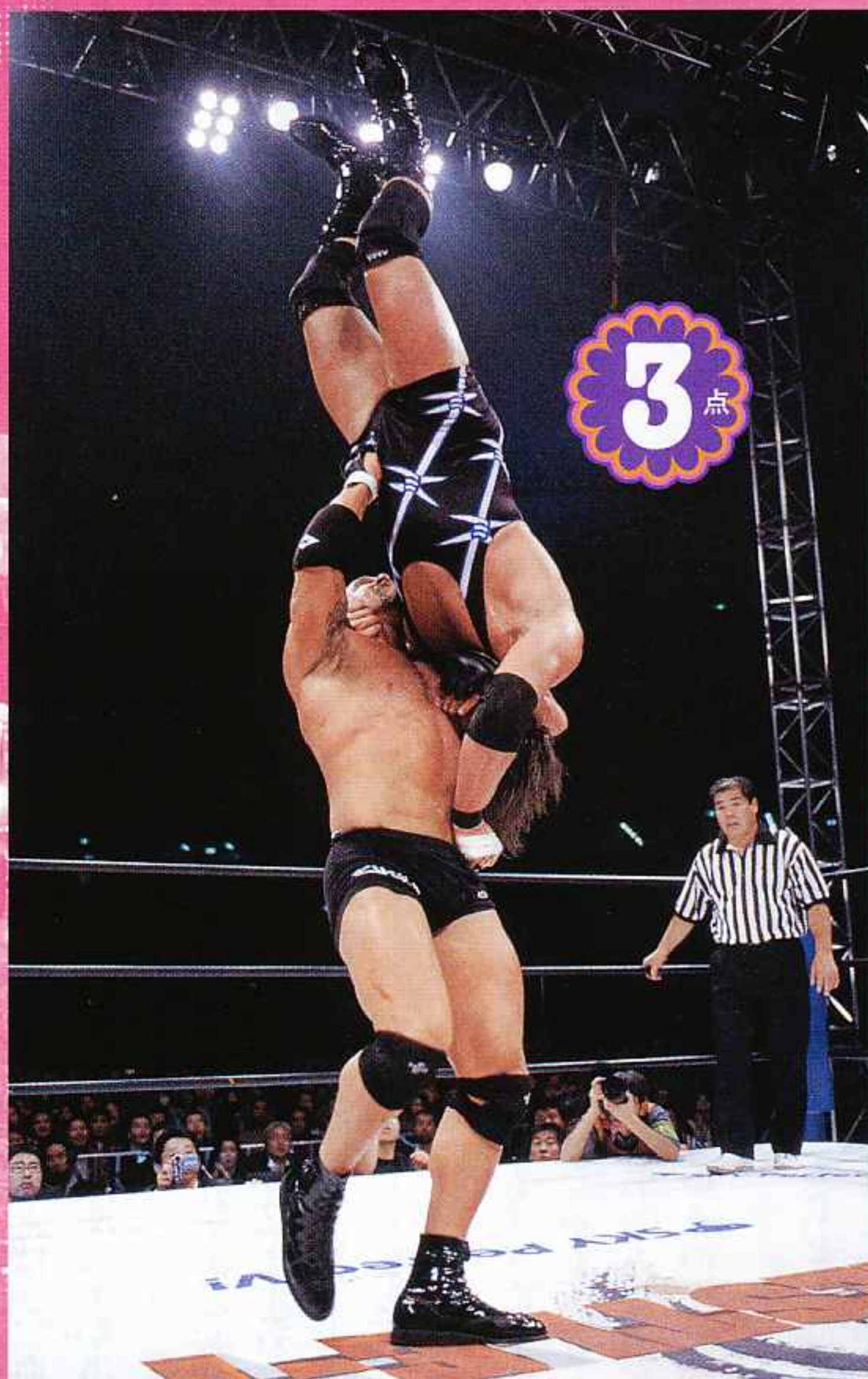
アーネスト・ホースト

ERNEST BEAST

ヨハン・ボス

JOHHAN VOS

多くのファン関係者が断固反対の声をあげたホーストの『W－1』出場。抵抗勢力の圧力もあり当日まで出場が決まらず……なんてことをやっていたが、いざ当日になると、一番ノリノリだったのが反対していたハズのヨハン・ボス。カラオケスナックでマイクを離さない親父を彷彿させるような、あのしつこいマイクアピールを見せられたら、もう何も言えないのである。

3点

だからウルトラマンは3分だって！

ビル・ゴールドバーグ

BILL GOLDBERG

前回、自家用機、ヘリなどを乗り継いで会場入りしたのに続き、今回は総武線に乗って登場と、なんだか遅刻のギミックが安田忠夫レベルになりながらも、再び『武蔵』のごとく遅れて登場してきたゴーバー。これで秒殺勝利をあげ嵐のように去っていけばカッコイイのだが、試合はまたしても冗長な内容に。これでギャラは最高なのだから間違ってる。

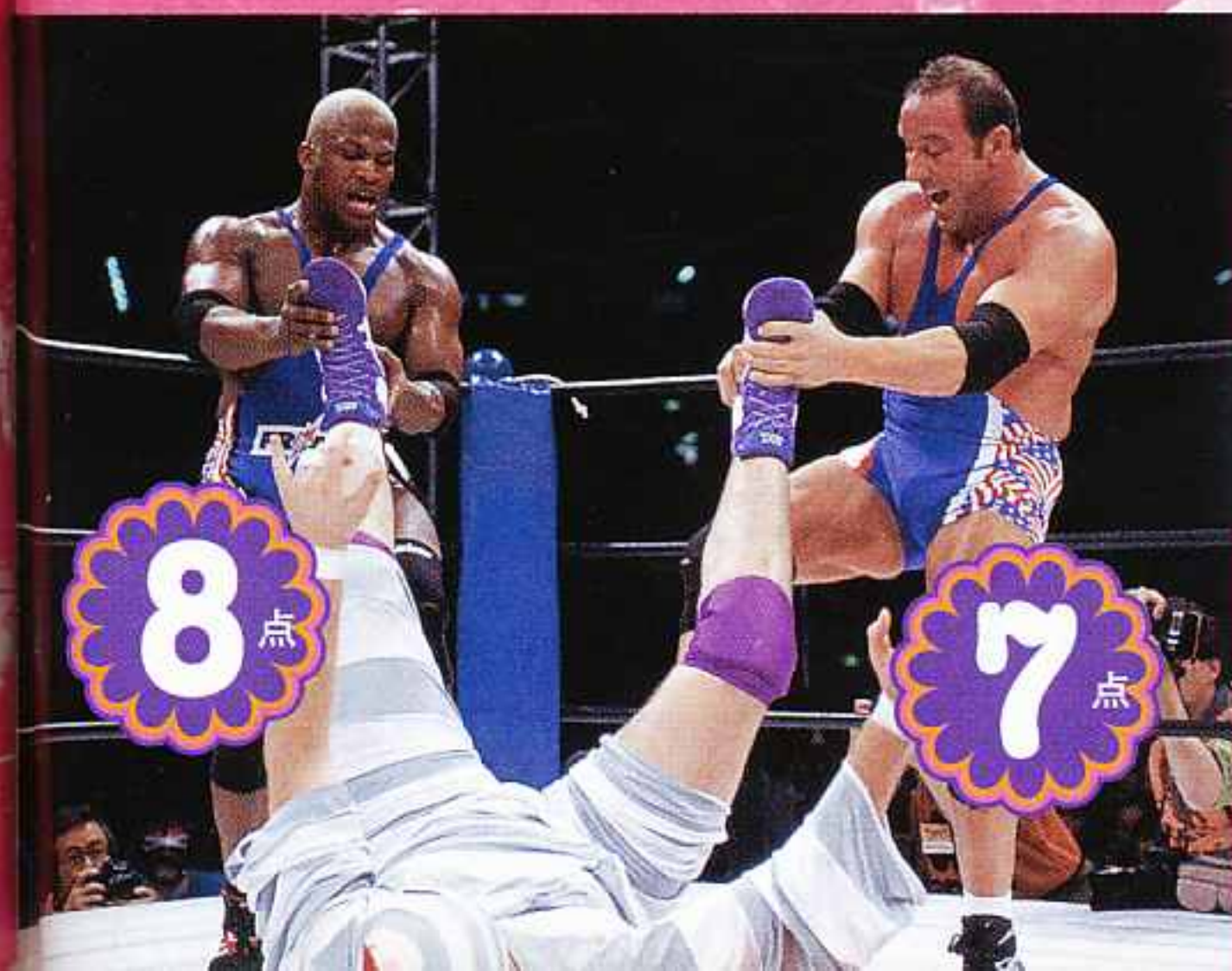
失格

ホーガン＆高山の代役がこれとは……

クロニック

CHRONIC

なかなか決まらなかった武藤＆ゴールドバーグの相手として、急遽参戦が決定したクロニック。ズバリ言って、当初噂されたホーガン＆高山組と比べると、役不足甚だしいものの、武藤＆ゴーバーの日米スーパースターコンビの引き立て役としては適役かと思いきや、リズム感ゼロで試合を壊す最悪の仕事ぶり。こいつらなんのために来たんだ？

8点　7点

もはや立派なタッグチーム炎武連夢とやってくれ！

ケビン・ランデルマン

KEVIN RANDLEMAN

マーク・コールマン

MARK COLEMAN

まだコンビを結成してから２戦目にも関わらず、もう何年もチームを組んでいる"タッグ屋"のムードすら漂ってきたこの２人。今回もランデルマンはコーナー最上段からもの凄い飛距離のダイビング・エルボーを落とし、コールマンはシンの巨体をウラカンラナで丸め込むなど成長が見られたので花丸あげます！

7点　7点

デクの坊コンビまさかの大活躍！

ヤン・ザ・ジャイアント・コンビクト
シン・ザ・ジャイアント・コンビクト

THE GIANT COMBICTS

新日でまったく使い物にならなかったシンと、Ｋ－１の大巨人ノルキヤということで、正直まったく期待していなかったこのコンビ。しかし、蓋を開けてみれば、ノルキヤはプロレス初体験とは思えぬ豪快な人間風車を見せ、シンも新日での塩巨人ぶりが嘘のような闘いぶり。ハッキリ言って、魔界の大魔人より遙かに評価は上だ。

これは時を超えた“シニア&テリー”だ!

テリー・ファンク
TERRY FUNK

ヒース・ヒーリング
HEATH HERRING

7点 6点

『PRIDE』で発売された「テリーマン＆ヒーリング」コラボレーションＴシャツが元ネタと思われる「ニュー・テキサス・ブロンコス」がホントに実現！　ヒゲを剃り、変な髪型をやめて初々しい風貌となったヒースは、初来日時のテリー・ファンクのよう。そしてジジイとなったテリーはいつのまにか、シニアそっくりになっていたのだった。

ビジュアル・インパクトNO.1

ジョー・サン
JHOE SON

8点

今大会ナンバー１のインパクトと言えば、間違いなくこのジョー・サンであろう。サップが空を飛ぼうが、ホーストがイス攻撃をしようが、ゴーバーが総武線に乗って現れようが、魅惑のＴバック姿だけで、観客に嫌なトラウマを与えるようなその強烈な個性はさすがジョー・サン。次回はゼヒ、さたやんとの一戦が見たい！

破壊王侍、超変態を成敗!

橋本真也
HAKAIOH

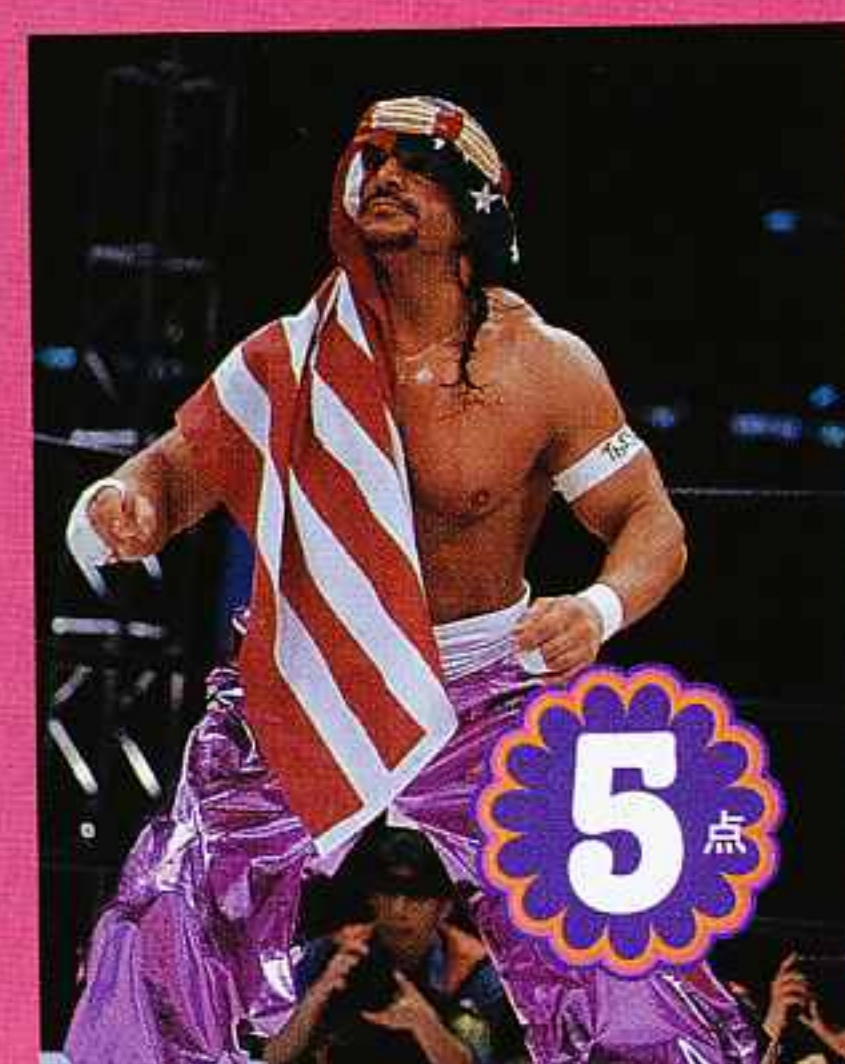
9点

前回、『W－１』を『真撃』と勘違いしてしまったような闘いぶりで、散々な評価を下された破壊王だが、今回は一転して抜群！なんと言っても、ジョーサンの入場後、あの大袈裟な破壊王のテーマが流れただけで、ドームの３分の１を埋め尽くした大観衆が一斉爆発！　破壊王侍が超変態を“成敗”した！

世界のアサイ、WWEへの大いなる助走

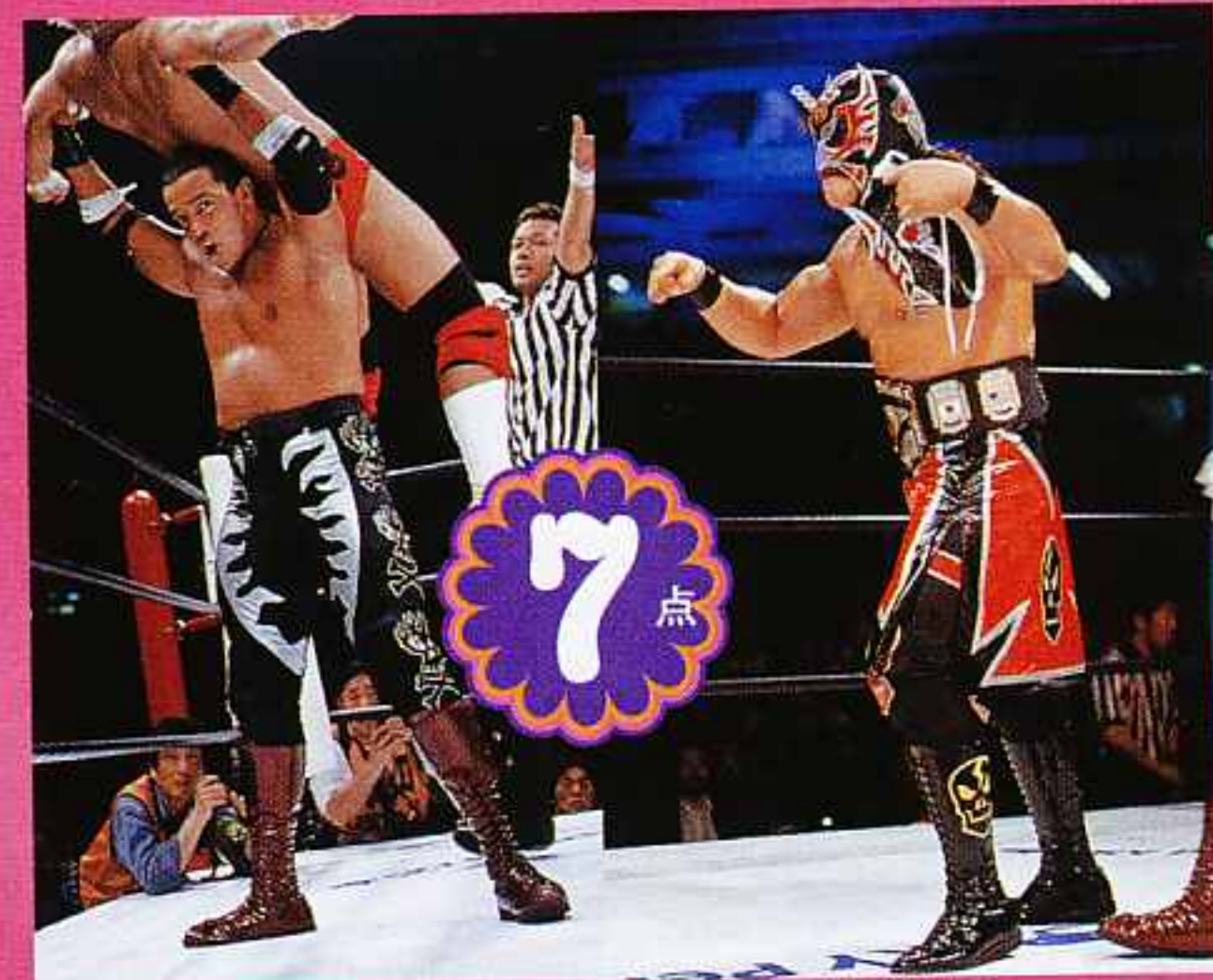
ウルティモ・ドラゴン
ULTIMO DRAGON

7点

メキシコ、アメリカ、日本と転戦した『カムバック・ワールドツアー』を終えたばかりのウルティモ・ドラゴンが『W－１』に登場。事情を知らないファンなら、左ヒジの手術ミスで５年ものブランクがあり、いまだ左手の指２本が動かない状態だなんて信じられないほど躍動感溢れる闘いぶり。カズ・ハヤシとのタッグもゼヒまた見てみたい。

次は格闘家との
異次元対決を希望!

サブゥ
SABU

5点

最愛の叔父、偉大なるザ・シークの訃報が入ってくるなかリングに上がることとなったサブゥは、よくも悪くもいつものサブゥと代わらぬ闘いぶり。しかも相手はカシンとあって、どこか新日ドームを見ているかのような空気に。サブゥには思い切って、『W－１』らしい格闘家を当てるという未知の闘いも見てみたかった。

メヒコの超実力派、『W－1』でも本領発揮

ウルティモ・ゲレーロ
ULTIMO GUERRERO

レイ・ブカネロ
REY BUCANERO

7点

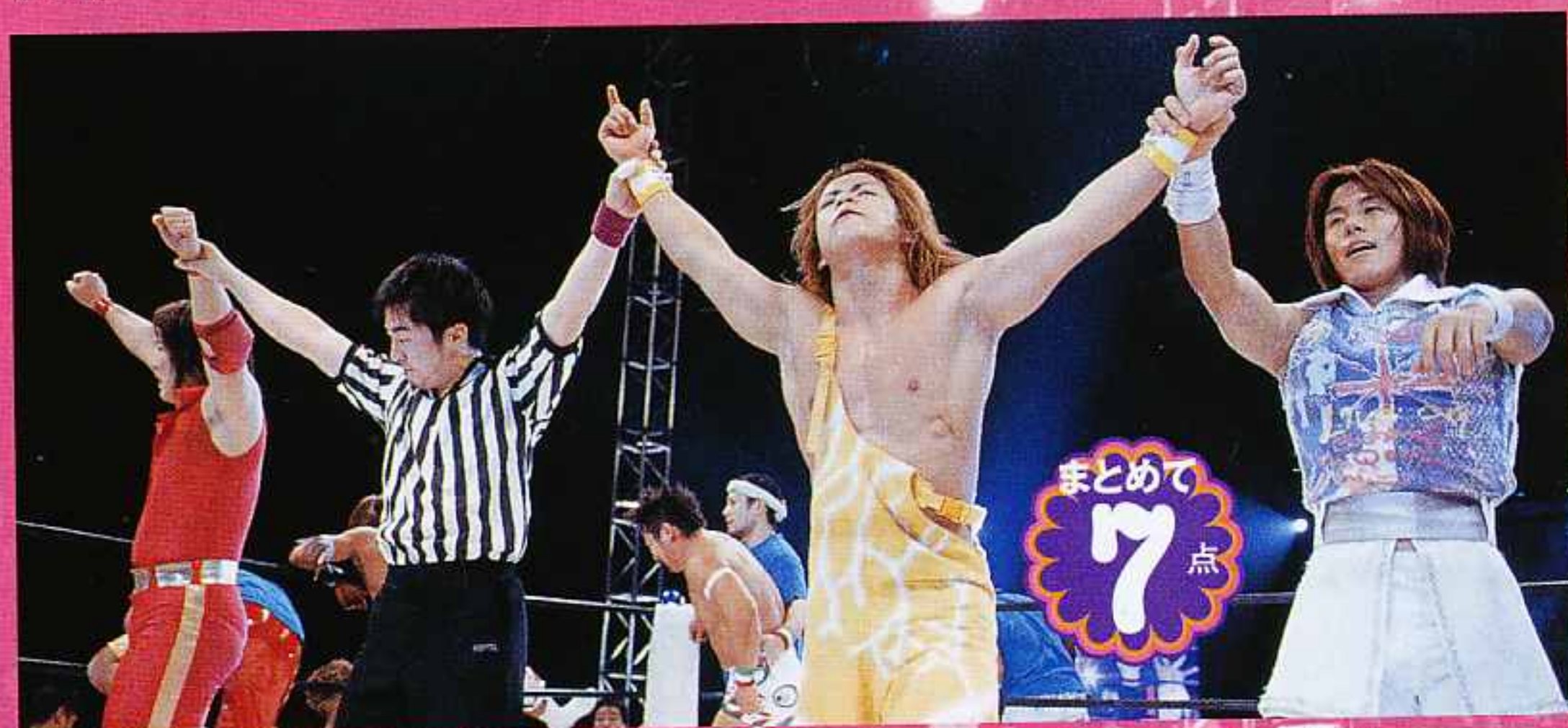
昨年末、闘龍門のリングでその強さを見せつけたメヒコの超実力派コンビ、ゲレーロ＆ブカネロ。ウルティモ・ドラゴンがわざわざこの舞台での相手に指名してきたということは、いかにこのコンビを高く買っているかということ。試合もルードとしての役割をキッチリこなし、不確定要素が多い『W－１』において、その完成度はずば抜けていた。

君は「うんこブリブリドロップ」を見たか!

SATA…yarn
SATA…YARN

懲りない男、さたやんがまたしても『W－１』第１試合に登場！　あの衝撃の初登場から２ヶ月、一切の進歩が見られない、そのどこを切っても苦笑と失笑が出てくるような完璧な闘いは今回も健在なのだ。そして今回最大の見せ場は、終盤に見せた秘密兵器・うんこブリブリ・ヒップドロップ！　これには５億点与えずにはいられないのだった。

5億点

まとめて7点

T2P、1年2ヶ月の集大成

ミラノコレクションAT
YOSSINO
コンドッティ修司
ITALLIANN CONECTION

ありきたりだが、石森太二恐るべし!

アンソニー・W・森
ヘンリー・Ⅲ世・菅原
石森太二
ROYAL BROTHERS

闘龍門ＪＡＰＡＮが四日市で興行がある中、ウルティモ・ドラゴン校長が自信も持って『W－１』に提供したカードは、Ｔ２Ｐのほぼベストメンバーに、『闘龍門Ｘ』の秘密兵器・石森太二を組み込むという絶妙のマッチメイク。戦前は比較的地味な“ルチャクラシカ”だけに、ドーム映えするか不安視もされたが、普段以上にダイナミックな攻防を繰り広げ、初めてＴ２Ｐを見る観客にため息をつかせた。そしてなんといっても、ドームで日本デビューというプレッシャーをまったく感じさせず、その技術で何度も感嘆の声をあげさせた石森太二。この男は前評判以上だ！

“赤コーナー”赤いパンツの頑固者

田村潔司

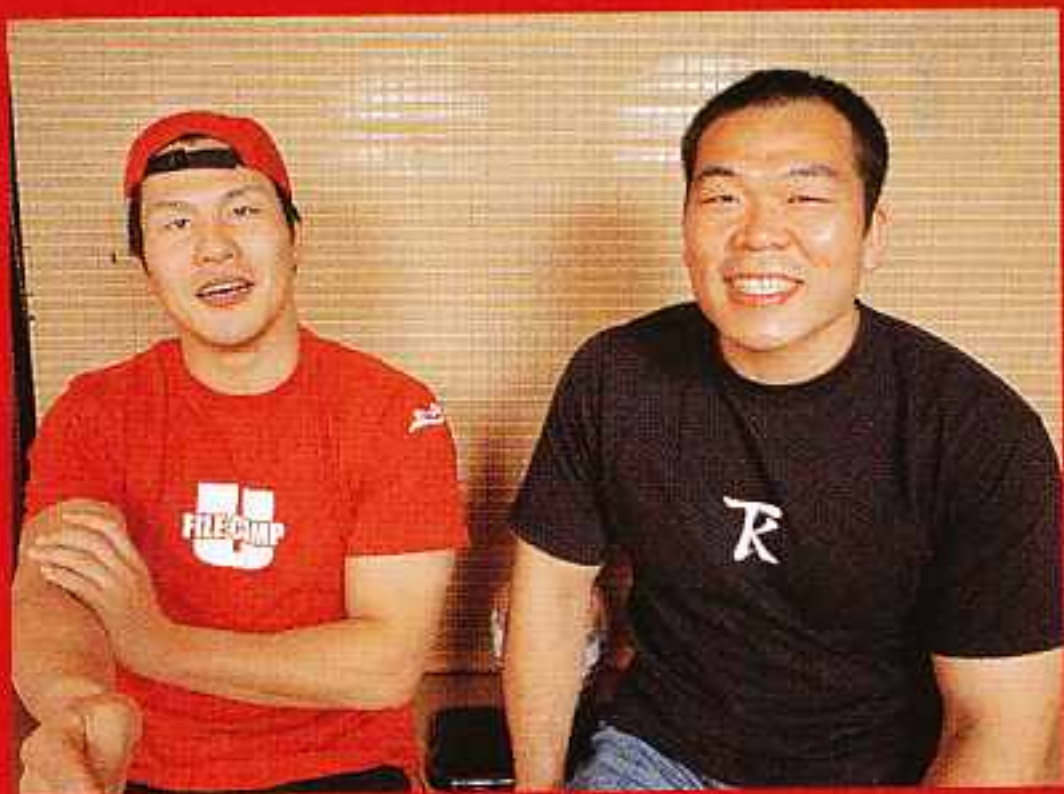
×

“黒コーナー”世界のTK

髙阪 剛

マット界にイリュージョンを!
明日また生きねえ!!

“Uスタイル”とは何か? でもって、“プロレスリング”とは何か?

ダブルTK・スペシャル対談

ん～、ビッグ!!　2・15に『U-STYLE』を旗揚げする田村潔司こと“TK”。
新日本・1・4ドームのリングで高山善廣とNWF王座を争った髙阪剛こと“元祖TK”。
図らずも同時期に“プロレス回帰”をブチ上げた“両TK”に『“Uスタイル”とは何か?』『“プロレスリング”とは何か?』という
壮大かつ、マット界にとっては肝心要のテーマで対談をしていただいた。しかし、対談の前日（当日）、朝5時まで飲んだくれ、
開始直前まで自宅方向の終点とまったく正反対の終点まで電車で何往復もしていたTK（“二日酔い”というのは断固、拒否!）。
そして集合時間を間違え、1時間ひとりで時間を潰していたという田村潔司という“赤いパンツのTK”。
初っぱなからなんだか噛み合わないというか、ドタバタな空気を含んだ“Uスタイル”頂上対談。
はたして両者がかつて演じた名勝負のように試合は動いていくのか?　ん～、ティーケーッ!!

聞き手／山口日昇　構成／中村カタブツ君　撮影／森“モーリー”鷹博　designed by matsu (Two three)

田村　こ、髙阪、ちょっと酒臭くない?
——朝の5時まで飲んだくれてたらしいですよ（笑）。
田村　マ、マジで!
TK　で、そこから電車に乗って、橋本行きに乗ったはずだと思うんだけど、起きたら千葉の本八幡の駅なんですよ（笑）。
——全然、反対方向（笑）。
TK　いや、乗り過ごして6時間乗ってたんですよ。
田村　じゃあ折り返して反対側に着いて、そこで気づいたの?
TK　はい。気づいたんですよ。
田村　それはキツいなぁ。駅員とか、なんで起こしてくんなかったんだろうね?
TK　そうなんですよ!　それがもっとも腹立つんですよね。
——田村さんが駅員なら毛布かけると思いますね、もっと安らかに寝れるように（笑）。
田村　それも自分だけ降りてね（笑）。
TK　あ、そういう優しさ（笑）。で、家に着いて玄関開けたらいきなり足が飛んできて。カミさんの足ってあんなにデカかったとは思わなかった（笑）。
——高山善廣ばりのビッグフット（笑）。
TK　鼻先にきましたね（笑）。
——ところが、そういう田村さんも今日は時間を間違えてるんですよ。3時集合を2時だと勘違いして、もう1時間もここで待ってるんですよね?
田村　いや、昨日、マネジャー1に時間を確認したんですけど、絶対に2時って言ったと思うんですよね。
——それはないと思います（笑）。昨日、僕もマネジャー1さんと話をして3時って確認してますから。
田村　おっかしいよなぁ、絶対2時って言ったと思うんだよなぁ。

──自分は間違ってない、と？

田村 間違ってない！（キッパリ）。

──ということで、時間を間違えた人と、二日酔いの人の対談を始めたいと思います。

TK いや、二日酔いじゃない！（キッパリ）。

田村 絶対3時じゃない！（キッパリ）。

──わかんない、その意地の張り方（笑）。

TK いや、自分の辞書に"二日酔い"というのはないですから（さらにキッパリ）。

──ダハハ。そういうプライドですか。

田村 髙阪ぁ………危ないんじゃない？

──ガハハ！ 人の話を聞いてない感じがプンプンしますよね（笑）。

TK な、なにがですか？

田村 だからぁ、全然人の話聞いてない。キャッチボールができてないの。

TK それは昔っからです（笑）。

田村 いやいや、昔はね、凄かったんだけど。

──昔は人の話をよく聞いたんですか？

田村 昔は聞いた！

TK じゃあ頑張ります！

──で、こんなお2人のリングス時代の関係性ってどうだったんですか？（笑）。

田村 飲みに行ったりはないですね。

TK 自分は練習に行かせてもらったり。

田村 すぐに髙阪は海外に行っちゃいましたからね。

TK 田村さんがリングスに入って1年後ぐらいに自分はもうシアトル行きましたから。田村さんが入ってきたちょっと前ぐらいから、自分の頭の中では「シアトル、シアトル」っていうのがチラチラしてて。

──じゃあシアトル行きがチラついて、田村潔司どころじゃなかったと（笑）。

TK い、いや、なに言ってんですか！

田村 そうか、そんなもんだったのか（笑）。でも、僕も確信犯って言われますけど、彼も確信犯ですよ。僕は直球ストレートなんですけど、彼は凄い変化球を投げる。

TA > Tsuyoshi KOSAKA

あの、ひとつ聞きますけど、これはイジメ？取材という名のイジメ？〈TK〉

TK たまにチェンジアップも（笑）。

──そうか、お互い確信犯っていうのはなんか非常にわかりやすいなぁ。

田村 僕はハードルがあったら、ぶつかって倒して行こうとするけど、彼の場合はくぐったり、ジャンプしたりがうまい。縦横無尽に。だから僕の方が印象悪いんです！

TK いや、それだけ聞くと、自分がもの凄い悪い人ですよね（笑）。

田村 でも策士でしょ？（笑）。

TK いや、でも、ハードルが出てくるから悪いんですよね。出てこなかったら、倒したりとか、くぐったりする必要ないんですけど、出てきちゃうから。

──この業界、ハードルだらけですよね。ハードル積んだり置いたりする人がたくさんいますからね。

TK なんでそんなことするのかなぁ？ 昔っからね、それは凄い不思議だったんですよ。

田村 たとえばどういう人？（ニヤリ）

TK 「言わずにわかれよ」って感じの人ですよ。だから、凄いわかりにくかった。

田村 いや、そこはもうちょっと具体的に言ってもらわないと（笑）。

TK ん～ん？

田村 ほら、毒吐かないでしょ？ いま僕が投げかけたことに対してもくぐってる！

TK だから、それをなぜ投げかけるのかなぁ、と（笑）。

──ガハハ！ 田村さんは"自分はハードルを倒していくから悪く思われる"って言いましたけど、一般的に言ったら、くぐったり迂回していった方がイメージは悪いですよね（笑）。

TK でしょ？

田村 いや、それをわからないようにやるんですよ、彼は。完全犯罪！

TK こ、これはイジメですか？ 取材という名のイジメ？

田村 たまには毒を吐いてもらいたいですよね、TKには（笑）。

──TKの毒は聞きたいですよね、確かに。いま誰が嫌いかとか（笑）。

TK ん？（キョトンと）

田村 クックック（笑）。

TK いや、嫌いな人はいないですよ。ホントに。

──この業界には嫌いな人がいないっていう嫌味ですか？（笑）。

TK ちょ、ちょっと！ 嫌味じゃないっちゅーの。だから「言わずにわかれよ」っていうのが嫌いなんですよ。それだったら最初から言わない方がいい。考えない方がいいと思って。

──こんな2人は練習以外でどんなことを話してたんだろうということですね（笑）。

田村 あ、でも、プライベートで1回、ウルフルズのコンサートに誘われたんですよ。

TK ありましたね。

──へ⁉ なぜまたウルフルズ？

TK ドラムの人とちょっとした知り合いだったんですよ。サンコンさん。それで、武道館でライブがあって「来ますか？」ってことになって、せっかくだから田村さんと一緒に行ったらいいんじゃないかと思って。

──そこでなぜ田村潔司！（笑）。

TK おかしいですか？ だって、他の人とウルフルズってピンと来なかったんですよ。

──まぁ、たしかにコピィロフとウルフルズじゃピンときませんけど（笑）。でも田

マット界にイリュージョンを!
明日また生きるねぇ!!

村さんにしたってピンとこないでしょ。
TK あれはリングスに来た月ぐらいですよね。
――へぇ～っ、意外な過去が。で、TKは二日酔いじゃないんですか？（笑）。
田村 またそこに戻るんだ（笑）。
――いや、こういう話の方が楽しいなって思って（笑）。難しいんだもん、「Uスタイルとは何か？」とか。
田村 じゃあ失敗談はなんかないの？
TK 酒の席ですか？
――リングスの忘年会でTKが六本木の路上で寝転がってたのは記憶にあるなぁ。
TK いや、寝転がるぐらいだったら、まだマシだと思うんですけど。当時から自分は新日本に上がるのを見越してかもしれないですよ。ヤクザキックやってましたからね。ケンカキックっていうんでしたっけ？
――放送上は〝ヤクザキック〟は禁句みたいですね。
TK ああ、で、飲み会が終わった後、前田さんを乗せなきゃと思ってタクシー止めたら、他のヤツが乗ろうとしたんですよ。で、「俺が止めたんやろ！」ってドーンッて背中を押したら、その人がスポッとタクシーに入っちゃって。
田村 乗せちゃったんだ？（笑）。
TK 乗せちゃったんです（笑）。引きずり出さなきゃいけないのに入れちゃって。
田村 （熟考して）……いまの話作ってるな。
――ガハハハ！ なんで自分で失敗談を聞いといて冷や水を浴びせるんですか！
TK さ、坂田先輩に聞いてくれてもいいですよ！ 2人で止めたんですから。
田村 いやいや、あり得ない！
TK 坂田先輩に「やめとけよ」って言われたのも覚えてますよ。
田村 いやいや、あり得ないでしょ。
TK ホントですって！
――なにせ田村さんは、映画の『少林サッカー』を見て、「あり得ない」って言った人ですからね（笑）。
田村 あの映画見てたら、小言で喉が枯れたね（笑）。
TK 画面に向かって？
田村 そう。「それはない！」「それは違う！」とか言ってて。
TK へぇ～、田村さん、1人で見てたんですか？
田村 ……いや、それは……。そういうことはいいから！ それ、さっきの仕返し？
TK 仕返ししないとなぁと思って（笑）。で、面白くなかったですか？
田村 いや、面白かったけど、あまりにも……。
――荒唐無稽すぎる？
田村 っていうか、あり得ない!!
――『少林サッカー』を見て「あり得ない」って言った人は田村さんだけですね（笑）。
田村 いやいや、これは『紙プロ』でアンケート取ったらね、35パーセントぐらいはいますよ。
TK 少数派だなぁ（笑）。
――ガハハハ！ TKはあり得ないとは思わなかった？
TK いや、そりゃあり得ないですよ（笑）。でも、あれはあり得ないということ前提の映画じゃないですか。
田村 いや、あり得ない（小声で）。
――で、いまなぜ『少林サッカー』の話を出したかというと、明日『W―1』というプロレスの大会があるんですよね。
TK あ、明日か。ボブ（・サップ）はアーネスト・ホーストとやりますよね。
――でもホーストは昨日来日したとき、「『W―1』には俺は出ない」って言ってましたね。
TK じゃあ何で来てるんだって！（笑）。
――あり得ないでしょ？
TK あり得ない！
――だから『W―1』とはあり得ない世界なんですよ。つまり、いまプロレスが『少林サッカー』化してるわけです。
田村&TK な、なるほどねぇ（笑）。
――なに2人でニヤニヤしてるんですか？
TK いや、そういう話の持っていき方だったのかと思って。長いから、前フリが（笑）。
――前フリというか雑談が（笑）。で、いまは『少林サッカー』化したプロレスはエンターテインメントとしてこれから大いに可能性を持ってる時代だと思うんですよ。そこでなぜいま『U－STYLE』なのか？ ということですね。
田村 はいはい。
――『少林サッカー』を見て「あり得ない」って言った田村さんが、〝Uスタイル〟を復活させようとするのは、なにかツジツマが合ってる気がしないでもないですけど。
田村 む、難しいぞ（笑）。
TK いや、これは全然難しくないですよ。どこで言おうかなって思ってたんですけど、これは『紙プロ』独占で言いましょう！
――アリガトーッ!!（絶叫）
TK 一個気づいたって言ったらおかしいけど、自分なりに考えたことがあってね。

ハードルがあったとしたら、髙阪はくぐったり、ジャンプしたりがうまい〈田村〉

いまの総合のルールの大会ありますよね。

田村　いま真面目に聞いていいの？

ＴＫ　あ、真面目な話です。

——ガハハハ！　どうして冷や水を浴びせるんですか！

田村　いやいや（笑）。

ＴＫ　ＵＦＣに出だした頃から２〜３年経ったときに、フランク・シャムロックとＵＦＣの会場で話したんですよ。「このまままこういう総合の大会って続くと思うか？」って。「なんで？」って聞かれて、「たぶん、この調子でいったら、この技にはこれ、この技にはこれって、どっかで限界がくる。できることって全部決まってくるから限界がくる。そうなったら試合が成り立たないよ」っていう話をしてたんですよ。で、フランクは「そんなことは絶対ない」って言ってたんですね。それで「お前はどうなると思うんだ？」って聞かれて、「リングスでやってる、ああいうルールの試合が、もう１回見直されるんじゃないかな？」って話をしてたんですよ。

——それ、僕も３年前くらいに、シアトルで直接ＴＫから聞いたことありますよ。「いまはバーリ・トゥードがもてはやされてるけども、必ずリングス・スタイルが見直されるときがくる」って。

ＴＫ　それでこの前、新日に出て、やっぱりプロレスは初めてだから、どうやっていいのかとか、自分なりに勉強したり考えたりしてたんですよ。で、試合やってみて思ったのは、プロレスっていうもの自体が、いまやってる総合と同じようなことをやってるんだなって思ったんですよ。

——というと？

ＴＫ　要は、いまやってるＮＨＢ（アメリカにおけるバーリ・トゥードの呼称＝ＭＭＡ）っていうのは、できるだけルールの縛りをなくして、その人の持ってるポテンシャル、お互いの持ってるポテンシャルを引き出すようにするためにルールの縛りをなくしていったんですよね、恐らく。で、プロレスも、言ってみればなにやってもいいわけじゃないですか？　逆になにやってもいいから、その人の持ってる素質とかセンスがもの凄く大事になってくるんですよね。それは試合やってそう思ったんですよ。だから普通に練習してるだけとか、なにも考えないで試合したって絶対うまくいくわけないって思ったんですよね。

馬場さんの言ってた意味が、ようやくわかりました〈ＴＫ〉
意外でしたね。髙阪がいきなりプロレスっていうのはね〈田村〉

98・6・27NKホール。試合終了のゴングが鳴った瞬間、観客はスタンディング・オベーションをし、リングサイドの本部席で見ていた前田日明総帥も試合後、両者に『前田賞』を贈ったタムタムvsＴＫ（30分時間切れ）。"究極のＵスタイル"を展開した両者の激突は再びあるのか？

——それは試合して感じたわけですね。

ＴＫ　試合して思ったんです。厳しい世界だなって。で、フッと思ったら、プロレスを競技として成り立たせるためにルールを整備したものがＵＷＦだったんじゃないかなぁと思って。だから、いまやってるＮＨＢが整備されて、もう１回ＵＷＦのような、ああいう整備した形の試合っていうのが成り立つんじゃないかなっていう気はしたんですよね。

——つまり、ＭＭＡは枠が広がりすぎちゃって、逆に表現できるものが少なくなってしまったと。

ＴＫ　はい。

——それは二日酔いにしてはいい意見ですね（笑）。

ＴＫ　だ・か・ら！　二日酔いじゃないっつーの！（笑）。

田村　……でも、いまの考えって読者に伝わるもんなんですかね？　伝わりにくいですよね。

——なんでいきなり田村さんが編集者にな

ってるんですか！（笑）。でも、昔から田村さんは「いずれＵＷＦが見直されるときが来る」って言い続けてきたわけだから一緒じゃないですか、言ってることは。

田村　でも意外でしたね。ＴＫがいきなりプロレスっていうのはね。

ＴＫ　自分もビックリしました（笑）。

——ガハハハ！　ＴＫはプロレスのこと何も知らないですもんね。

ＴＫ　知らない（真顔で）。

田村　真顔で言わないでよ（笑）。

ＴＫ　ＮＷＦをＮＷＡって言っちゃいましたからね、記者会見で。でも、やる以上はやっぱりちゃんとしなきゃいけないと思って、昔のビデオとか見て勉強して。あれだけね……猪木さんを始めとした外国人レスラーが情熱を持ってベルトを賭けて闘ってたわけですから……ちゃんとやらなきゃいけないと思って。

田村　いまの聞きました？　こうやって逃げるというか、フォローするんですよ（笑）。

ＴＫ　今日はイジメだな、こりゃ（小声で）。

——ガハハハ！　リングス・スタイルの試合っていうのは、ＴＫにとっては〝プロレス〟じゃなかったんですか？

ＴＫ　自分は競技として見てましたね。見てましたっていうか、そのつもりで入ったし。だから、どうしたら強くなるのかって、それしか考えてなかったですから。

田村　プロレスっていっても広いからね。大仁田さんがやってることもプロレスっていってるし。

ＴＫ　だから、馬場さんが言ってたと思うんですけど、要は総合格闘技もプロレスなんだって。

——「シューティングを超えたものがプロレスである」っていう、当時の名言ですね。

ＴＫ　その意味がやっと最近わかりました。

——馬場さんは「Ｋ—１もプロレスだ」って言ってましたからね（笑）。でも、興行っていう観点から言うと確かに合ってるんですよね。

ＴＫ　自分は前までそういう考え方ってちょっとできなかったんですよ。でも、そういう考え方ができるようになりましたね。それだけ幅が広がっちゃってるから、まとめるところがないんですよね。説明するにしても、自分の中で納得するにしても。

——田村さんは、なんで今度は敢えて〝ＰＲＯ—ＷＲＳＴＬＩＮＧ〟というのを冠したわけですか？

田村　……なんでなんですかね？

——二日酔いですか？

田村　いやいや、なんでだろう？「なんでだろう？　なんでだろう？」（ブツブツ）。ここでテツａｎｄトモが出てくる……。

——ガハハハ！　わかりにくい（笑）。

田村　まあね、僕が思う〝プロレス〟っていうのは、なんでもいいんです。格闘技でもプロレスでもＫ—１でも。要は原点に帰ると。子供の頃に新日本や全日本を見て、すごい元気をもらうじゃないですか。そういう余韻を残したいんですよね。影響を与えたいっていうかね。だから……なんでもいいんですけどね。闘龍門さんでも大仁田さんでも。影響を与えてるんなら。

——影響を与えてナンボ？

田村　余韻の残るような、夢と感動を与える試合ができれば。それが目標……というのかな？

——なんか言い回しがビミョーだなぁ（笑）。

田村　だって、難しい話はわかんないもん！（かわいらしく）。

——確かに、いまは見る方もやる方も選択肢が広がりましたからね。

田村　だから、全部ひっくるめて〝プロレス〟でいいんじゃないですか？

——時代は変化していきますねぇ。昔、リングス・スタイルが確立してる頃に、長井（満也）選手が「僕がやってるのはプロレス。僕はプロレスラーとしてプライドを持ってやってます」みたいなことを言ったら、前田日明総帥が怒って、山に送られて座禅組まされてたことありましたよね。それがつい７～８年前のことですよ。

田村　いやぁ、怖い世界ですよ。怖い怖い。そんなの、僕がいまＵ—ＦＩＬＥの選手にちょっと怖がられたりするんですけど、優しいもんですよ！　ホンットに優しい！（力を込めて）。

——田村さんやＴＫは、また別の怖さがあるもんなぁ。

田村　でも髙阪は評判いいですよね。

——それはハードルをくぐったり、迂回したりしてるから（笑）。

田村　いま、俺は何も言ってないよ（笑）。

ＴＫ　これはもう、取材という名のイジメやな（小声で）。でもね、いまはお客さんも「欲しい、欲しい」ですからね。自分で参加はできないわけだから、「もっと刺激を、もっと何かやってくれ」って言うのもしょうがないですけどね。たとえばＵＦＣとかアメリカの大会を見てて思うんですけど、お客さんが参加してきますからね。

——ああ、そうですね。

ＴＫ　だから余計、日本ではいろんなことやっていかないとダメになってきてるんでしょうね。

——昔、ＵＦＣやグレイシーが台頭してき

マット界にイリュージョンを!
明日
また生きる

Tsuyoshi KOSAKA

1・4新日本・ドーム、復活したプロレス界伝統のNWF王座決定戦。昨年大みそかのボブ・サップ戦で痛めた目を真っ赤に腫らしてまで出てきた高山の気迫に敗れたTKだが、プロレスでもそのポテンシャルを存分に発揮する日は近そうだ

昨年の11・24『PRIDE.23』。髙田延彦の引退試合。"介錯人"という嫌な役割を見事な形で昇華させ、過去の因縁を精算した田村。この試合は『紙プロ』読者が選ぶ「ベストバウト」にブッチギリで選ばれた。『U-STYLE』では、どんな田村潔司を見せてくれるのか

Kiyoshi TAMUTA

たときには、いわゆる格闘技と、いわゆるプロレスの対立があった。いまはもう2人ともそういう目では見てないですよね？

田村 そんなこともないんですけど……その……なんですかね？ 僕も多少ね、アントニオ猪木さん、髙田延彦さん、宮戸（優光）さんの影響を受けてるんで、プロレスは「キング・オブ・スポーツ」だと思ってるんですよ。だからプロレスラーは強くなきゃいけないし、見せなきゃいけない。でも、その枠なんですよね。WWEみたいなプロレスじゃなくて、格闘スタイルのプロレス、あるいは格闘技までの枠。その幅の中で僕は僕のプロレスをしたいっていうのかな。

──なるほど。そこのゾーンで表現をしたいっていうことですね、田村さんは。

田村 そうですね。だから、それ以外のプロレスを習ってないし、できないから。練習は完全に格闘技ですね。

──TKは、もっとはっちゃけたプロレスをやってみたいとかは？

TK 『W─1』はちょっとねぇ（笑）。さっきも言いましたけど、自分が格闘技をやってるのは、根本的には強くなりたいというのがあるんですよ。激しい練習をやって、やったから初めて見えたものとかあるんですよね。そういうものに凄い感謝してるんですよ。だから、あのとき一生懸命やろうっていう気持ちになったことに、もの凄い感謝してますね。

──前田さんに感謝してるんですか？

TK いや、そんな気持ちになった自分に感謝してるんです！（キッパリ）。

──ガハハハ！ 自慢かよ！

田村 他人に感謝しますよねぇ、普通（笑）。

TK ま、待ってくださいよ！ それまでは、何をやるにも中途半端なことやってたんですよ。練習もサボるし、一生懸命やらなかったし。

──え、TKが？

TK 柔道やってたときは、サボることとしか考えてなかったですよ。すごい無駄な時間の使い方をしてたんですよね。いま考えると。当時は気づかなかったですけど。

田村 練習キツかったからじゃないの？

TK やらされてるっていうイメージしかなかったんですね。自分からやろうっていう気には一切ならなかったですから。で、自分もの凄い中途半端な人間になってた。それが膝を怪我してできなくなって初めて、もったいないことしてたなっていうのに気づいて、そこで「もう1回一生懸命やろうよ、剛！」……。

──って自分に言ったんだ（笑）。

田村 自分が自分に言ったの？（笑）。

TK そう言った〝剛〟に感謝してるんですよ（笑）。

──この人、周りに気を使うように見えても、自分中心ですからね（笑）。

TK いや、自分中心じゃなくて、「前へ、前へ」（笑）。だから、その気持ちをずっと失わないでいたかったんですよ。いまも運よく失わずにいられるし。で、その延長にあるのが自分にとっては試合っていうことですね。

──一所懸命やらなかった自分を脱皮させたきっかけってなんだったんですか？

TK きっかけはね……最後のひと押しになったのは、リトアニアの剣道やってる人かなんかの記事を見たんですよ。その人は戦争で足をなくしてたんですよ。片足で剣道をやってた。で、それを見て、僕は膝の怪我だったんですけど、靭帯ぐらい切れたって、俺は足がついてるじゃないか！って思ったんですよ。俺はなんてカッコ悪いことやってるんだ、こんなことぐらいでなに挫けてるんだっていう部分で。それで「やるか！」って。

だいたい3年サイクルで、自分がドキドキすることをやってるんですよね〈TK〉

田村 あ～。僕はね、この間、ハヤブサ選手の本を読んで頑張ろうかな、と思いましたね。

──ホントですか？

田村 ホント！ 僕、買ったんですから。1500円ぐらいで。

──値段はどうでもいいんですけど（笑）。TK、ハヤブサ選手ってわかります？

TK いや、わかんないです。プロレスラーの人ですよね？

田村 ハヤブサ選手、いま全身……。

──首をやっちゃったんですよ。半身不随からいま懸命にリハビリして立ち直ろうとしてるんですよね。

TK ああ、そうなんですか。

田村 僕がそれを読んで感じたのは、僕なんかなんでもできるじゃないですか。なんでもできるし、すごい勇気をもらいましたよね。変なことで悩んでる人がバカみたいな感じがする。

──ガハハハ！ バカみたい（笑）。

田村 いや、細かいことで悩んだりする人いるじゃないですか？ たとえばイジメでもそうですけど、そんなもん、体が動けばなんでもできるんだからっていう意味でね。でね、体が動くっていうのは、たぶん、こんな幸せなことはないですよね、真面目な話。

──ホント、元気があればなんでもできますからね。

TK （ボソっと）「電気があればなんでも

できる」……のが電子ちゃんですけど。
―ガハハハ！　なんでそこで小ネタを挟まないと気が済まないんですかね（笑）。
TK　ムフフフ。
―TKは、イメージとしてプロレスをまとってないTKがプロレスをやるということが興味深いんですけど、田村さんはTKの試合は見ました？
田村　見ましたよ、もちろん。今後はどういう路線で行くの？
TK　いまんとこ白紙ですね。
―ガハハハ！　やり始めたばっかりで、なんでいきなり白紙なんだ！
田村　奥さんいるんだから白紙っていうのもねぇ……。
―それもよくわからない（笑）。
田村　いや、しっかりしなさいよって……『ツヨシ、しっかりしなさい』（ブツブツ）。
TK　ムフフフ。
田村　いや、ホント、奥さんいたら大変ですよ。2人食っていくんですから。だって、奥さんはもう五十肩らしいじゃない。重い肉ばっか買わされて。腕が上がらなくなったんでしょ？（笑）。
TK　ウチは首が回らないんですよ（笑）。
田村　奥さんが可哀想だなぁと思って。
―田村さん、それは誰に対して、何に対してのメッセージなんですか？
田村　いやいや。
TK　ウチは女の人が苦労するんですよ、家系が。ウチのお袋も、飯食わすために米を研ぐじゃないですか。その研ぐ量が毎日毎日、半端じゃなかったから、右手だけデカくなったんですよ！

マット界にイリュージョンを！
明日また生きるん!!

僕はUスタイル以外のプロレスを習ってないし、練習は格闘技だから〈田村〉

田村　……作り話として弱いなぁ。
TK　いや、これホントなんですよ！　水かきができる勢いだったらしいですよ。
田村　クックック。
TK　ホントですって！「剛、見てみぃ、これ！　ライスハンドやで!!」って言ってましたから。ライトとライスかけてやがるんですよ！
田村　言いそうだね、お母さん（笑）。
TK　素で言うてましたからね。
―TKオカンなら、実際、水かきができてると思うなぁ（笑）。で、なんでしたっけ？　あ、白紙だ、白紙（笑）。
TK　う～ん、だから、全般的に幅を広げていくような感じですね、いまは。自分は新日本に上がるっていうこと自体には意味はなかったんですよ。こういうことをやることが大事なんだって思ってたんですよね。これまでは3年サイクルぐらいで、自分もドキドキするようなことを自分でやってるんですよ。自分が緊張するようなことを。要するに、「やらなくてもいいのにな」って思うようなことをわざとやってる。UFCに出たこともそうだし。そういうことをやるようにしてるんですよ。そうしないと、新陳代謝がうまくいかない。
田村　そういう意味で、最近は新日本？
TK　そうです。で、アメリカから日本に帰ってくるっていうのも、そのうちのひとつだったんですよね。
田村　じゃあ、常に刺激を求めたいんだ？
TK　それは自分が探してるわけじゃなくて、自分がそう感じたらやるようにしてますね。「なんか必要だな」と思ったら。それがたまたま3年に1回ぐらいのサイクルなんですよ。で、日本に帰ってきて1年経とうかっていうときに、日本ってもの凄く早いなって思ったんですね、サイクルが。だから、いままでと比べたら3倍のスピードでやっていかなきゃいけないのかなぁって。
田村　僕は逆にね、高阪が『W―1』は ちょっと……」って言ってたけど、僕は逆なんですよ。「新日本プロレスはちょっと……」って感じなんですよ、いまは。『W―1』はOK！（笑）。
TK　僕、『W―1』はちょっと……」なんて言いましたっけ？『W―1』ってどんな試合？
―ガハハハ！　二日酔い？　だから『少林サッカー』みたいなプロレスですよ！
TK　おぉ～っ！　わかった！　自分、WWE大好きなんですけどね。たぶん、自分はできないと思うんですよ。
―あ、やりたいかどうかよりも、できないっていうことなんだ。
TK　はい。だから、できることを一生懸命やった方がいいんじゃないかと思って。
―なるほどね。田村さんはできると思ってるんですか？
田村　できるかどうかはわかんないですけど。逆にプロレスやってる人に失礼になる言い方かもしれないですけど、あそこまでやると、ホーストとか出てるじゃないですか？　プロレスごっこみたいな感じで。だから、そういう軽い気持ちではやってみたいなって。
―田村さんはプロレスごっこをやってみたいってことですか？（笑）。
田村　え………。

Kiyoshi TAMUTA Ts

——自分で言ったんじゃないですか！（笑）。もう少し遊び心を持ってプロレスにトライしてみたいってことですかね。

田村　遊び心……はい。そうですね。新日本さんとかは、プロフェッショナルなプロレスじゃないですか。僕は新日本さんみたいなプロレスは難しいと思うんですよ、奥が深いと思うから。だから、ちょっと失礼に思われるかもしれないけど、軽い気持ちでやってみたいな、と。

——でも、『W—1』やWWEは大変だと思いますよ。どっぷり浸からないと把握できないことも多いと思いますね。新日本は格闘技で培ったものを活かせる土壌はまだあるじゃないですか。

TK　だからそこなんですよね。「欲しい、欲しい」がこういうとこまで来てるんですよね。

——プロレスをやるなら『W—1』と言う田村さんですけど、変な聞き方すると、田村さんにとって〝Uスタイル〟というのは絶対必要なわけですよね。

田村　必要……？　なんなんだろうなぁ？　必要必要…………必要ないっていえば必要ないんですよね（キッパリ）。

——ガハハハ！　なぜ旗揚げ前にそういうこと言うかなぁ。

TK　僕と同じで、やることが大事だと思ったから、やろうと思ったんだと思うんですよ、たぶん。

田村　それで、どんな反応をするのか見てみたいですね、いま。

——つまり実験だと。

田村　そう。だっていま、逆にそのUWFのスタイルをやろうっていう人はいないじゃないですか。だから僕らがやってみて、ファンの人がどういう食いつき方をするのかっていうのを見てみたいですね。

選手が納得し始めた。〝プロレス〟っていう概念に〈TK〉

NHBから『U-STYLE』が生まれたって感覚ですね〈田村〉

Kiyoshi TAMUTA × Tsuyoshi KOSAKA

——現段階ではファンも100％求めてはいないと思うんですよね。潜在的に見たいという欲求はあるだろうけど、実感としては求めてないじゃないですか。

田村　求めないでしょうね。10年前のUWFのファンの人っていうのは求めてると思うんですよ。熱狂した人はね。ただ、『PRIDE』が出て、『PRIDE』を通じてUWFを知ったっていう人は、興味はあるけど、1回口に入れてみて吐き出すかもしれないしね。逆に「ウマイ」と思って喜ぶかもしれないし。その反応を見てみたいなと思って。だから、『U—STYLE』っていうのは、僕は一発目でコケる……。

——は？　一体何を言いだすんだ、この人は（笑）。

田村　いや、逆に一発目が成功すれば二発目も成功するだろうし、繋がる可能性はあるんですよ、大きくなる可能性は。

TK　…………。

田村　聞いてる？

TK　聞いてます、聞いてます。

田村　眠いの？

TK　ちゃんと聞いてますって！（笑）。

——ガハハハ！　面白いなぁ、この2人は。ホンット、微妙に噛み合わないですよね（笑）。

田村　いや、噛み合うときは噛み合うんですよ。

——いや、噛み合ってもらってもいいんですけど、この微妙に噛み合わないところが面白いですよ。

田村　高阪がうまいんですよ。
――全部話がネタになってますからね、TKの場合は（笑）。
TK　ワシは芸人か！
田村　テレビとか、そういうのは出ないの？
TK　いや、別に……そんなことはないんですけど。
田村　高阪はテレビ向きだよね。トーク番組とか。
TK　あ、そういうのは好きなんですけどね。
田村　高阪がスポーツ系のトーク番組出てね、下に繋げてってもらいたいの。チヤホヤされたいから。
――でも、それをなぜTKにやらせようとするんですか（笑）。
田村　僕は向いてないですもん。
TK　いや、そんなことないですよ。じゃあ一緒に出ましょうよ。
田村　ちょっとまだ恥ずかしい。まだ自分を捨て切れてないところもあるんで。
TK　なにを目指してるんですか？
田村　俺はね、硬派なイメージを守りたいの。そこだけは譲れない（笑）。
――ガハハハ！　TKはそういうのはないんですか？
TK　自分のイメージ、わかんないですからね。
――ただ2人とも、前向きに微妙に変化していってますよね。
TK　そうならなきゃ、やってる意味ないと思うんですよね。
田村　僕、変化してます？
――田村さんは、〝赤いパンツの頑固者〟っていうイメージはあるけど、変化することを怖がってるわけじゃないですよね。
田村　ああ、はいはい。
――で、強引にテーマに戻りますけど、いま格闘家でプロレスをやりたがってる人ってたくさんいますよね。それこそ、アーネスト・ホーストだって、能動的にやりたいって言ってる。そういう波が来てるのはなんでだと思います？
TK　わかんないですね！（キッパリ）。
――ガハハハ！　いい締めです。
TK　選手が納得し始めたんじゃないですかね。これもプロレス、K―1もプロレス、なんでも〝プロレス〟っていう概念というか、大きな枠の中にあるっていうことに。
田村　お互い憧れてるんじゃないですかね？　お互いないものを求めて。
――その「ないもの」っていうのはなんですか？
田村　刺激にしても……やっぱり格闘技とプロレスは違うじゃないですか。だから、それぞれにないものを求めてる……高阪、なんであくびするの？　俺の話、つまらない？
TK　あ、あくびなんかしてないですよ！
――あくびを噛み殺して、気持ちの中で大あくびしてましたね、いま（笑）。
TK　そんなこともしてない！
――プロレスから見ると格闘技の「強さ」や「緊張感」が憧れであって、総合格闘技から見ると、プロレスの「パフォーマンス」や「華やかさ」が憧れであったりするっていうことですか？
田村　そうそう。
TK　それは中に入ってやっても、わかんない部分っていっぱいありますよね。たとえば、ヒクソンがK―1の選手に「お前ら、デカいヤツら同士で本気で殴りあったら、絶対頭おかしくなるし、体壊れるよ」って言ってたと。で、言われた方は「お前こそ、あんな薄いグローブで寝てる相手ボコボコに殴ったり、関節取ったりして、あっちの方が危ねぇじゃねぇか」って言うと。そう言われてみると、お互いそうだろうなって思うっていうのはあるから。自分も新日本プロレスの中に入ってやったりとか、他の選手と交わったりとかして、それで初めてわかった部分もいっぱいあるし。
――だから、いまアチコチに新たなうねりみたいなのが生まれそうな予兆はあるんですよね。田村さんの『U―STYLE』も昔のままのUWFではないわけだから、新たな潮流を生んでくれれば面白いですけどね。
田村　そうです。それ！　だから、新日本からUWFが生まれたように、NHBから『U―STYLE』っていうものが生まれたっていう感覚もあるんですよね。昔に戻るっていう感覚だけじゃない。
TK　まったく、そうですよね。
田村　ま～た、いい加減にうなずいてない？
TK　そ、そんなことないですよ！……結局、イジメかい（笑）。
――というわけで、結局、どこまで行っても微妙に噛み合わない2人でした（笑）。

【03年1月18日／『U―FILE CAMP』近くの『華屋与兵衛』にて収録】

マット界にイリュージョンを！
明日また生きねん!!

2・15『U-STYLE』旗揚げ間近!!

1月7日、『U-STYLE』の理念を現すにはこのカードしかないとばかりに、2・15のメインとして発表された田村vs坂田。ZERO-ONEのリングとは違う坂田が見れそうだ。大久保ちゃんを相手にする村浜にも注目だ

2・15ディファ有明で開催される『RPO WRESTLING U-STYLE』旗揚げ戦の全対戦カードが決定！　注目のメインイベントは“エース”田村潔司に坂田亘が挑むこととなった！　坂田と言えば、もともとはUWF直系の流れを汲むリングス育ち、現在は格闘技、プロレス両面で活躍しているまさに『U-STYLE』に打ってつけな選手。田村とはリングス時代に2度闘っているが、リングス退団後、ZERO-ONEとVTで闘いの幅を広げてきた坂田だけに、さらに進化した“U”の闘いが見れそうだ。

またアンダーカードも、村浜武洋、上山龍紀、滑川康仁、藤井克久といった『U-STYLE』向きと思われる実力派選手がズラリ並び、「格闘家の技術を存分に見せるプロレスリング」というU-STYLEのコンセプトどおりのカードとなった。格闘技とプロレスの“合いの子”『U-STYLE』とははたしてどんな闘いなのか？　その目で確かめろ!!

1月17日に行われた会見では、全カードが発表された。マスコミの視線は第1試合に登場する“UFO第2の男”・藤井克久に集まったが、上山、滑川などがどんな試合＆意地を見せるかが鍵となりそうだ

2/15（土）
『PRO-WRESTLING U-STYLE～旗揚げ戦～』
東京・ディファ有明
試合開始◎19:00

1.藤井克久（UFO）
vs越後隆（U-FILE-CAMP）
2.原 学（バトラーツ）
vs木村直生（EVOLUTION）
3.滑川康仁（フリー）
vs佐々木恭介（U-FILE-CAMP）
4.上山龍紀（U-FILE-CAMP）
vs伊藤博之（フリー）
5.村浜武洋（大阪プロレス）
vs大久保一樹（U-FILE-CAMP）
6.田村潔司（U-FILE-CAMP）
vs坂田 亘（EVOLUTION）
●
問：DEEP事務局 052-339-0303

ラッパ先生
安生洋二

大好評!
蘇れ! Uインター伝説
シリーズ第5弾

マット界にイリュージョンを!
明日また生きるんだ!

もう一丁!

Uインターの頭脳 7年振りの再会を独占スクープ!

聞き手/松澤チョロ
撮影/丸山剛史
designed by さおとめの事務所

スネークピット・ジャパン代表

宮戸優光

串焼き『市屋苑』マスター

鈴木健

せ〜の

Uインター

この再会から生まれる新しい何かを期待し、みなさん、ご唱和ください！

ここ数号レギュラー化している元Uインター取締役、現在は串焼き屋『市屋苑』マスターの鈴木健氏。昨年末、忘年会シーズンで賑わう『市屋苑』にふらりと立ち寄ると、そこにはUインター解散後、疎遠になっていた宮戸、安生、健の取締役トリオの姿が！しかも、3人は顔を寄せ合い何やら楽しげに語り合っている。すわっ、再びマット界に爆弾投下か!?7年半ぶりに集結した3人がUインターを語った！

Uインター、もう一丁!

——今日は、たまたま『市屋苑』に飲みに来たら、Uインター解散後、関係が疎遠になっていたという、お三方に遭遇して非常に驚いてるんですが。

鈴木　あらっ、見つかっちゃいましたねぇ（ニコニコ）。

宮戸　別に意味はないからね。意味はないっていうことだけは、ちゃんとボクは言いたいの。

——そんな大袈裟なことではないと？

宮戸　そう！　深い意味はない。

——でも実際、3人が揃うのはどれぐらいぶりになるんですか？

宮戸　う～ん……7年半ぶり？

鈴木　そうだね。安ちゃん（安生）とは4ヶ月ぶりぐらいかな。

——ただ、意味はないと言いながらも、3人が久々に再会したっていうのは、高田さんの引退試合だとか、鈴木さんがUインター本を出したっていうのも多少は関係があるわけですよね？

宮戸　いや、全然関係ないよ。

——偶然が重なっただけですか？

宮戸　そうそう。ただね、ひとつ言えるのは、Uインターっていう長い何年かで、たとえばボクと鈴木健っていう男、ボクと安生洋二っていう男、この2人とは道場とか事務所でだとかそういうのを含めると、一緒にいた時間が一番長かったのは間違いないんだよ。

鈴木　そうだよね。でも安ちゃんの方が自分よりかなり長いでしょ？

宮戸　まあ安生さんっていうのは、また別なんだよ。Uインター以前の長さも入れるとキリがないしね。ヘタすりゃ女房より長くいるから（笑）。

鈴木　アッハッハッハッ！

宮戸　だから、それは抜いといて(笑)、そういう意味では鈴木さんといる時間っていうのもさぁ……。

鈴木　長かったよねぇ（しみじみと）。

宮戸　ホント、長かったよねぇ。

鈴木　でも自分は、ずっとフロントでいるでしょ？　宮っちゃん（宮戸）や安ちゃんは道場で練習とか選手の育成とかもやるでしょ？　その後に事務所に来て、そっから事務所の仕事もしなきゃいけないの。だから、給料は一回分だけど仕事は2回分だったから(笑)。

——そうだったんですか（笑）。

鈴木　ホントそういう感じで。でもね、この3人のトリオで頑張ってきて思ったのは、この3人じゃなかったら、自分で自分のこと言うのもあれだけどUインターもなかったんじゃないかなって。もちろん、高田延彦っていう象徴っていうかトップがいなかったらありえないかもしれないけどね。

宮戸　まあ、この間の……さっき関係ないって言ったけど、やっぱり高田さんが引退されて、それによって自分の中で振り返ってみるとね、高田さんがいて、安生さん、鈴木さん、それぞれ役割があって、初めてあの時代ってあったんだなぁって改めて思ったっていうのはあるよねぇ（しみじみと）。

——今日は、その辺のお話を聞かせてもらえればと思ってるんですけども。

宮戸　いや、もうちょっとお金になるときにまた話しますよ（笑）。たまたま出くわしたクセにこんなしゃべらせて！

——も、申し訳ありません(笑)。それで、鈴木さんからチラッとうかがったんですが、宮戸さんも鈴木さんに続いてUインター本を執筆中なんですよね？

鈴木　前から書いてたんだよね。

安生　エッ、書いてんの？　みんないいよなぁ、文才があって（笑）。

宮戸　いやいや、執筆中っていうかね、本格的には書いちゃいなかったんだけどさ（笑）。でも実際、同じこと書いても、鈴木さんとオレとじゃ全く違う側面も出てくると思うしね。

鈴木　そうだよね。

宮戸　あるいは、さらにより深くっていうかね。そういう部分はだいぶ出てくると思うし。だから別に、いまさら何をっていうんじゃないんだけど、知り合いからもそういうものは残しておいた方がいいよって言われたんでね。まあそれなら、自分の立場から改めて振り返ってみようかなぁって。

——実際、鈴木さんの本はかなり売れてるみたいですからね。

宮戸　オレは売れる売れないは関係ない。ただ、自分の中でね、ひとつのあの時代、やっぱり自分たちの一番熱く生きた時代を、もう一回振り返って自分自身のためにも残しておきたいなって、それだけのことですよ。

鈴木　でも、これまで多くのファンの人たちに誤解されてた部分とかたくさんあるでしょ？　それがやっぱり売れることによって、今回自分の本を読んだ人からも、「自分たちは勘違いしてました」と。「あの本を見てUインターっていうものが初めてわかった」っていう意見がいっぱいあるわけね。

宮戸　いや、いまも誤解してるヤツは一生しとけゃあいいんだよ。

鈴木　いや、やっぱり自分たちがやってきたことが本当にプロレス界のためになってたっていうのはわかってもらいたいよ。自分は素人で入って、（宮戸＆安生を指して）こういう素晴らしい頭脳と選手と、そして高田延彦っていうトップと一緒にやれて、最高にいい夢も見れたし、ファンに夢を与えることもできた。ボクはそういう表面的な素人からの本だったけど、宮っちゃんっていうのはUインターの頭脳だった。その頭脳から見たUインターのもっと突っ込んだ話とか、現場でどういうことが行われてたことをファンにより深く知ってもらいたいっていうことだよね。やっぱり宮っちゃんは自分の何百倍も知能が詰まってるから。

宮戸　そんなことないよ！

鈴木　いやいや、Uインターの頃もいっつも念仏のようにいろんな言葉を聞かされて覚えちゃったもん（笑）。素人でも半プロぐらいにはなれそうな気になってたからね。

宮戸　まあ、でもあれだよ。オレが書くとしたら前もって言っておくけど、鈴木さんには耳の痛い話も書かなきゃいけない自分がツライんだけど（笑）。

鈴木　アッハッハッハッ！

宮戸　あえて、そういうことを含めて書こうと思ってますよ。ただね、ホントに奇跡の時代だったね、あの頃は。

鈴木　そうだよねぇ。でね、自分としては宮っちゃんに書いてもらいたい、そしてファンに読んでもらいたいのは、プロレス界のホントの在り方……。

宮戸　（感心しながら）でも鈴木さんもよくしゃべるようになったねぇ。ずいぶん変わったよ。ホントは焼鳥屋の親父じゃないんじゃない？（笑）。

安生　アッハッハッハッ！

宮戸　焼鳥屋の親父だっていうから来てみたら、もう全然違ってたからビックリしたよ（笑）。

鈴木　いまは焼鳥屋の親父だよ（笑）。でも、さっきも言ったけど、7年間念仏のように耳の側で言われて頭に入れられてたから。それを覚えて復習して何度も考えて、「なるほど！」とやっと気がついたんだよね。だから、宮っちゃんがいまやってる道場にしたってね、なんでそういうものをやってるかとか、それがちゃんと文字として何度でも見れるような……プロレス界の辞書のような本を期待してるんだよね。

——プロレス界の辞書ですか!?

鈴木　そう！　ボクは宮っちゃんが本を出す前にたくさん売って印税で借金を返済しなくちゃならない（笑）。

宮戸　バカ言ってるよ！（笑）。

鈴木　まあ、印税のためじゃないけど、自分も書き記したいっていう気持ちがいっぱいあったからね。それを全て書いたつもりだったけど、まだまだ書き

「この再会に深い意味はない」と強調する宮戸だったが、高田引退試合が行われた『PRIDE.23』の田村戦、そして、その試合を高田応援シートで観戦していた鈴木健のUインター本の発売が、この3人を7年半ぶりに引き合わせたのは間違いないだろう。

マット界にイリュージョンを！ 明日また生きるぞ!!

たいこともあるんだけどね。自分はやっぱり最後まで素人だったから、素人の目から見たUインターを書いたわけ。

宮戸　素人じゃないよぉ！

鈴木　いや、素人だったよ。だからこそ、やっぱり宮戸優光という UWFの頭脳が何をしゃべるかっていうね、そこに真実があるんですよ！　だって、新日本プロレスと全面対抗戦やったときに、何度も念を押されたんだから！

安生　エッ、なんて？

鈴木　「宮戸はいないだろうね？」って。こっちが「いや、いないですよ」って言うと「あとで急に宮戸が出てくることはないだろうね？」って念を押されたから（笑）。

宮戸　へぇ〜、そんなことあったの？

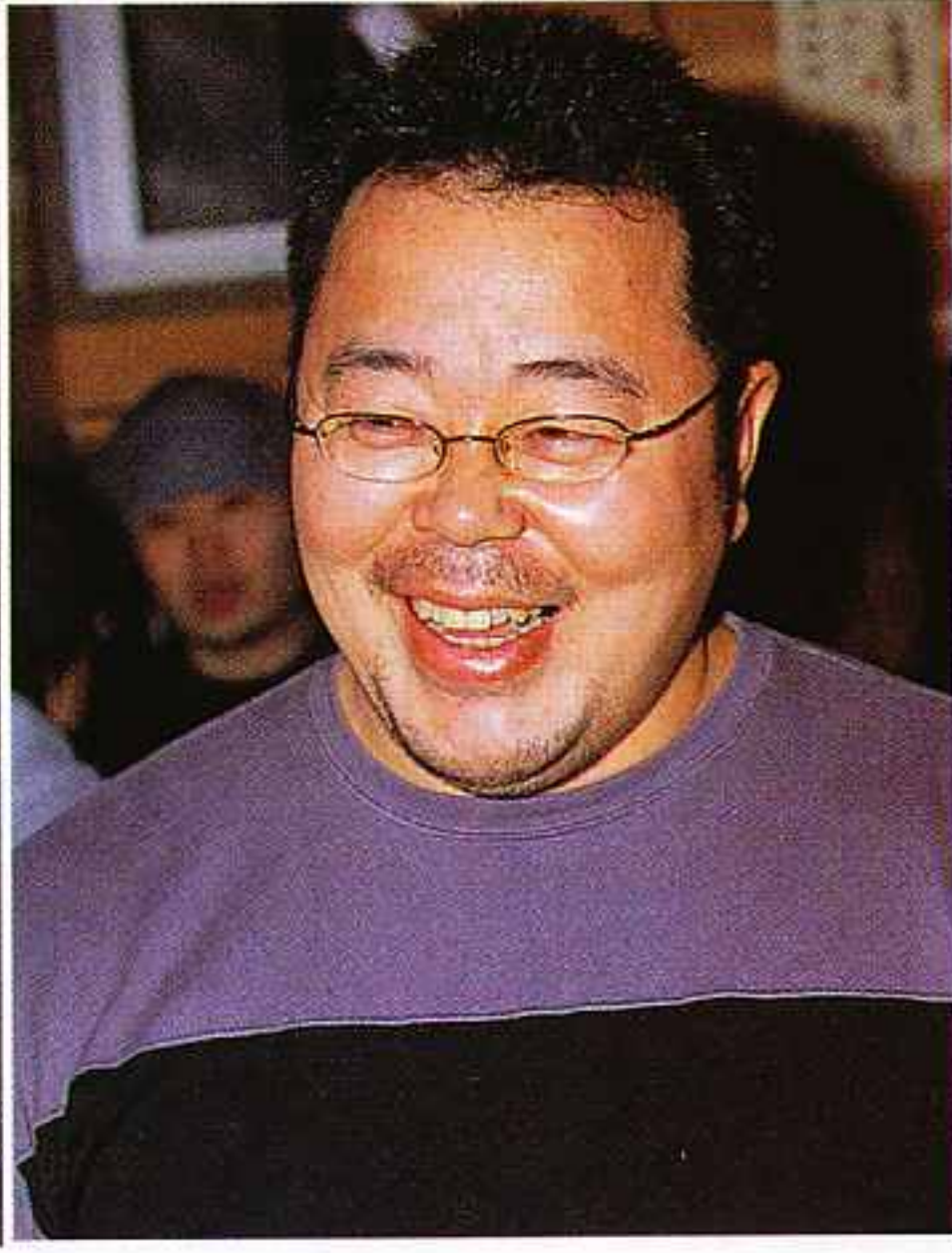
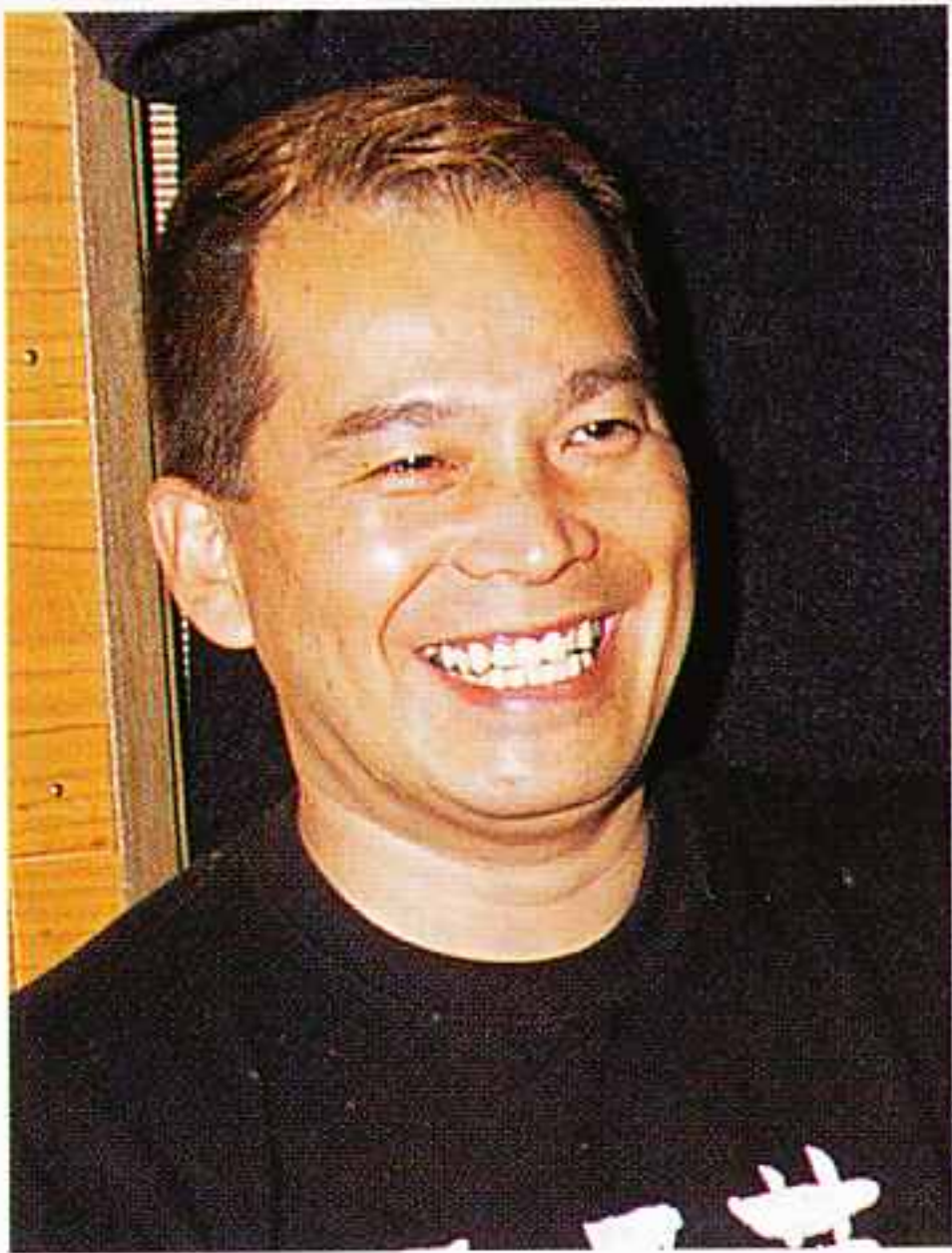
鈴木　ホントだよ。その底には宮戸優光が来たら、右に行くものも左にさせられる、それがわかってるんだよ。

——宮戸さんは鈴木さんの本を読んで、自分の話題もかなり出てたわけですけど、実際どう思われました？

宮戸　いや、実は、まだちゃんと読んでないんですけどね（笑）。

鈴木　ちゃんと読んでよぉ！

宮戸　ただね、やっぱり本を読む読まないに関わらず、あの時間一緒に過ごしてた長さっていうか濃さっていうのかな？　そういうのは、プラスマイナス含めて他のUインターの中で、安生洋二、鈴木健、高田延彦……って、あえて全員呼び捨てにしちゃったけど（笑）。

安生　よくできたねぇ（笑）。

宮戸　この3人っていうのはね、その濃さと密度が違うんですよ。だからプラスマイナスあってもねぇ、どんなこと書いてようと、なんかそこで最終的には信頼あるから読まなくてもオッケーなの！　だから、たとえばオレが今度、鈴木さんの耳が痛い話も書くだろうし、ドキッと怖い話も書くかもしれない。けど多分わかってると思うよ。

鈴木　でもゲラチェック、オレにもさせてよ！（笑）。

宮戸　させないよ、そんなもん！（笑）。そういうオレはもう書くとしたらね、そういう気は使わずに書かしてもらいたいと。ただ、それは全部わかってると思うよ。

鈴木　オレはわかってる。ただみんなね、バラバラになってもUインター勢は、いまみんな、あちこちで結果を出してるじゃない？　それでいろんなファンの人たちが店に来てくれて「良かったですね」って。「いまは結果出してる人たちは、みんなUインターの卒業生だ」と。それを言われるのが一番嬉しいのとね、自分がその空間に一緒に入れたことを凄い誇りに思ってるから。今日もこうやってね、2人のプロ中のプロの方たちに囲まれて、オレはいままた再び幸せだよね（ニコッ）。

——でも、せっかくこの3人が揃ったら過去の思い出話だけじゃなくて、未来につながるものを期待しちゃうんですけど、ズバリその可能性はあるんでしょうか？

鈴木　ボクはいつも未来につながるものが欲しいなって思ってるから。やっぱり人生は一度だけだからね。それにたぶん、自分よりもそういうことは、この2人の方が思ってるんではないかと、ボクは確信しております（笑）。

——確信してますか（笑）。

鈴木　まあ結果っていうのは、あとで現れるんじゃないですか？（ニヤリ）。

宮戸　けどまあ、未来っていうのは見えなくていいんですよ。見える必要はない。やっぱり見えないから面白いんであってさ。それを煽られてね、「こうです、ああです」って言うのは簡単だけど、そんなものはあんまり言いたくはないし、別に具体的にいま思ってることは何もないから。ただ、こうしてボクたちは7年半ぶりに会った。ホントそれだけですよ。

鈴木　（宮戸の身体を見ながら）で、7年半ぶりに会ったら、いい身体になってた（笑）。

宮戸　いい身体じゃないよ！

鈴木　すっごいよ、この身体！　安ちゃんもデカくなってるしさぁ。

安生　でもさ、2人はホント、7年半ぶりなの？

鈴木　そう。だって『市屋苑』始めて、オレもう5年目だもん。

安生　えぇ〜、ウッソ〜!?

鈴木　ホントホント！　来年の8月で5年だもん。店始める前に2年ちょっとあるから、7年。こんなにいい身体になってるとは思わなかった。雑誌とかで写真見て、痩せちゃったのかと思ってたんだけどね。

宮戸　あっ、ホント？

鈴木　触ったら違うもんねぇ。

安生　いま、なんか健康的ですね？　ちょっと前までは、なんか痩せすぎて気持ち悪ィって思ってたんだけど（笑）、いまはなんか割と健康的ですよ。

鈴木　凄いよ、腹なんかパキパキだよ！　強くなってるだろうなぁ。酒も強くなったし（笑）。

宮戸　いや、酒は弱くなったよ！

鈴木　いや、強いよ。全然変わんないじゃん。

宮戸　だって、今日は、そんな飲んでないよ。まだ3杯目だもん。

鈴木　13杯目の間違いじゃない？（笑）。

宮戸　たしかに、ここ来る前にも飲んでたけどね（笑）。

鈴木　でしょ？（笑）。

宮戸　（突然）でもさぁ、『紙プロ』って言えば思い出したけど、安生さん、あの座談会（※『紙プロNO56』で宮戸伝説満載で、ブッチ切りで読者投票ナンバー1に輝いた安生&金原&高山によるUインター座談会）、どういうことよ！

安生　（慌てて）あ、あれは、多分あれよ！

——安生さん、なに言ってるのか、さっぱりわかりません！（笑）。

安生　いやいや、あれは高山がゲラチェックしてたから。オレはいつもゲラチェックしないの。自分が苦手な人は高山は伏せちゃってるけど、宮戸さん

安生さん、あの座談会どういうことよ！（宮戸）

（慌てて）あ、あれは、多分あれよ！（安生）

Uインター、もう一丁!

マット界にイリュージョンを!

明日

なら平気だろうと思って伏せ字にしなかったんじゃない？(笑)。

鈴木 ハッハッハッハッハッ！

宮戸 でもアイツ、会っても知らん顔してんだよ！ 毎日練習に来てんのにさぁ。オレも直接は言わなかったしね。ただ、お前ら品がねえなって思ったけど(苦笑)。

——とは言え、あの座談会はダントツで読者人気ナンバー1でした！(笑)。

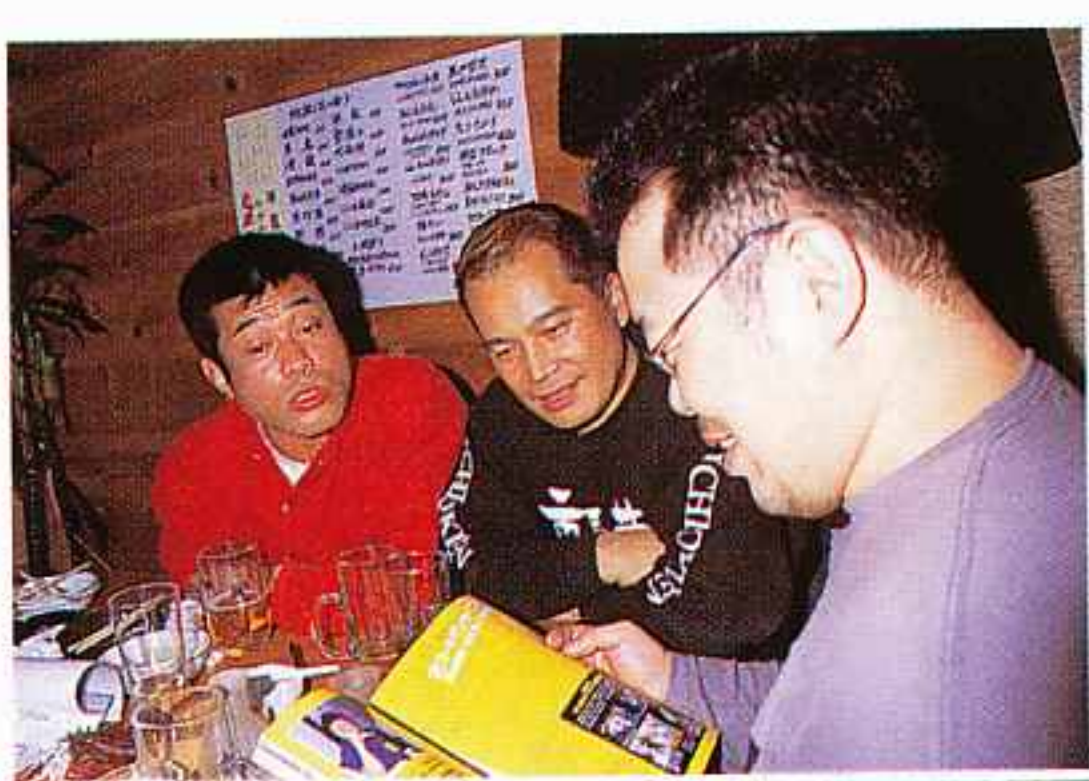
安生 ハッハッハッハッ！(その座談会をあらためて読み込みながら)いま読んでも面白いもんなぁ(笑)。

——我ながら面白いと？(笑)。

宮戸 (不服そうに)でも、あれさぁ、ちょっと色付けすぎだよ！

安生 ブッハッ！(とビールを吹き出し)んなこたぁないよ！(笑)。

宮戸 いや、3割は色付いてるよ！

安生 んなことないって！ ハッハッハッハッハッ！(笑いが止まらなくなる)。それに色付けんのはUインター流でしょ？ 何言ってんの！(笑)。

——例の「邪気下し風呂」とか宮戸さん関係の話は全部リアルな話なんですよね？(笑)。

安生 リアルですよ！(笑)。

宮戸 ち、ちょっと待ってよ！ 信じるよ、知らない人は！

安生 アッハッハッハッ！ 別に今さら言われないでしょ、当時のことは。

宮戸 言えねえよ、オレに。だって、「あの話は本当なんですか？」って本人に言えると思う？(笑)。

安生 クックックックックッ！(再び笑いが止まらなくなる)。

宮戸 もうこの話は終わりね！

——わかりました(笑)。でも、あの対談でも出てきてましたけど、宮戸さんと言えば料理の腕前もかなりのものということでしたが、鈴木さんも市屋苑を始めて、そっち方面ではかなり自信をつけてきてるんじゃないですか？

鈴木 まあそうだよね。

宮戸 (突然)あ、そうだ！ 『紙プロ』で、いつも「宮富徳」ってなってるけど、あれは字が違うんだよ！

鈴木 アッハッハッハッ！ 違うんだ？

宮戸 あれ、字が違うの！ あれじゃ、周(富徳)さんに怒られちゃうよ。

——てっきり「宮富徳」だとばかり思ってましたけど、違うんですか？

宮戸 「みやとみとく」の「みやと」は「宮戸」を使うわけよ。「みとく」はどっちがいいかなって思って(と言ってメモ帳に書き込む)。「美徳」って書いて「みとく」にしようか、「味徳」で「みとく」にしようか、どっちか迷ってんだよ。

鈴木 こっちだよ。「あじとく」で「味徳」の方がいいよ。

宮戸 そう？ じゃあ「宮戸味徳」、こっち！ いっつもさ、『紙プロ』見てると「宮富徳」って、周さんの名前そのまま使ってるの！ あ〜れ、ホント怒られちゃうって！ 訂正文もんだよ、アレは！

——は、はい。以後、気をつけます！(笑)。

宮戸 わかった？ 「宮戸味徳」と書いて「みやとみとく」。ね？

——わ、わかりました(笑)。

宮戸 それにオレね、料理本出すよ！

鈴木 あっ、本当？ 買う買う(笑)。

——Uインター本じゃなくて料理本ですか!?

鈴木 その話も進めたいね(笑)。

宮戸 だから進んでますよ！ 『宮戸味徳のUWFの、みんなこれで強くなった』っていうね。

——あ、タイトルまで決まってるんですか(笑)。

宮戸 そうだよ！

——安生さんは、何か本は出さないんですか？ かなりネタは豊富だと思うんですけど(笑)。

鈴木 安ちゃんは、ネタあるよぉ！ それに、やっぱり安ちゃんが書くんだったら暴露本だよね(笑)。

安生 そうなのかなぁ(苦笑)。オレはね、前の座談会みたいに金原とか高山がサポートして昔の引き出しから引っ張り出してもらえれば、いくらでもしゃべるんだけどなぁ(笑)。

鈴木 ここにいるじゃん！ オレらじゃダメなの？(笑)。

安生 いやぁ〜、このメンバーはしゃべりにくいなぁ。すぐ睨まれるし(笑)。

——金原さんや高山さん相手の方がノビノビと話せるわけですね(笑)。

安生 そうそうそう(笑)。

宮戸 でもアイツらは自分らが入ってからの話しか知らねえんだから！

安生 アッハッハッハッ！ だからね、シリアス部分は宮戸さんに任して、愉快な話はアイツらとね(笑)。

宮戸 ちっとも愉快じゃねえよ！(笑)。品がないっつーの！ 人の話ばっかりしやがって！ ホントにもぉ!!

安生 でもコイツら(金原&高山)もなんかさぁ、一応先輩だから普通に扱ってくれてるけどさぁ、オレが一番下だったらエライことだよぉ！

宮戸 ハッハッハッハッハッ！

安生 想像したらさぁ(笑)、あれエライ座談会なっちゃってるよ！

宮戸 オレは金原と高山の下にだけはなりたくないねぇ(しみじみと)。

安生 そうでしょ？(笑)。

宮戸 絶対やだ！ この下はやだよ！ だったらホント、オレはタムちゃん(田村潔司)を選ぶね。

安生 あっそう？ でも田村はキツイよぉ！ 精神的にキツイと思うよ(笑)。

宮戸 やっぱり高田さんと前田さんの下で良かったのかな。

安生 高田さんは、いま怒ってるのかなぁ？ それともどうなのかなぁ？って常になんか気にかけてなきゃいけないような雰囲気あるじゃん？ どう思ってんのかなぁって不安になるじゃない、なんか。

宮戸 あぁ、それはあるねぇ。

安生 不安にさせるタイプじゃん。でもコイツらはわかりやすいけどキツイじゃん！(笑)。

宮戸 ストレートでね(笑)。常に気張ってなきゃいけないみたいな……ツライねぇ(しみじみと)。いや、でも高山は結構考えさせてくると思うよ。

安生 そうかなぁ？

——安生さんは、この間の『PRIDE』でヤマケン(山本喧一)のセコンドに付いてましたけど、ヤマケンの下とかはどうですか？

安生 いや、山本の下も嫌だし、やっぱ高山の下も嫌だよなぁ。

宮戸 いやキッツイよねぇ。だからさ、オレと安生さんの下って実はそんなキツくねえんだよ。思ってねえから人のこと、ああやって言えんだよ！ だって、安生さんとタメになって言ってんじゃん？

安生 そうそう。アイツらはキツイなんて思ってないんだよ、きっと(笑)。

宮戸 でもホント、あの2人の下はやだねぇ(笑)。金原と高山の下なんて絶ッ対なりたくない！ 三歩譲って桜庭の下だったら許しますよ。

安生 桜庭の下ならいいんだ？(笑)。

宮戸 桜庭の下ならいい！ そう考えるとオレらの下なんて楽なもんだよ

もっぱら会話の中心は『紙プロNO.56』での安生＆金原＆高山のUインター座談会。当事者にも関わらず熱心に読み込み大爆笑する"ラッパ先生"こと安生と、それをツッコみまくる"宮戸味徳"こと宮戸優光。最高です!

ね？

安生 いや、でもそう考えたらみんなキツいんだって！

宮戸 キツイって違うよ！ アイツらはキツくなかったよ！ アイツらの下がキツいんであってさぁ（笑）。

安生 だって、アイツらのすぐ上は田村だよ。

鈴木 そうだよね。

安生 そこそこキツイわけよ、いろんな意味で（笑）。

宮戸 そりゃ、みんなキツいよ。けどさ、オレらキツイなんか言ったことねえじゃん！

安生 いや、言ってたよぉ！（苦笑）。

宮戸 そりゃ安生さんには言ったかもしれないけど、他に言ったことはないよ！

安生 それはもう発散する場がなかっただけで（笑）。

宮戸 でもね、オレらっていうか田村までの代はキツイよ。

安生 いや、オレらは結構、精神的には楽だったと思うよ。

宮戸 けどさ、オレと安生さんの下は3～4年いなかったからね。入っちゃ辞め入っちゃ辞めで。だからってオレらがキツイってこと言いたいんじゃないよ。わかる？

——わ、わかってます（笑）。

宮戸 ただ、あの時代はキツイっていうか息苦しかったね。

安生 あぁ、それはあったね。いや、だから（高山&金原も）同じような息苦しさ感じてたって（笑）。

宮戸 いやぁ～、そうかなあ？

安生 十分感じてたって！（笑）。

鈴木 いや、みんな一緒でしょ？

宮戸 でもコイツらの下はやだよ、オレ！（笑）。

安生 オレだってやだよぉ！（笑）。

宮戸 金原と高山の下には一生なりたくない！（キッパリ）

——それは十分わかりました（笑）。そういった先輩後輩以外にもUインター出身の選手は人間関係もいろいろと複雑みたいですけど、安生さんは、しがらみも少なそうですよね。

鈴木 安ちゃんは癒し系だからね（笑）。

安生 言われてみりゃあねぇ。全方位型はオレしかいないかもしんない。みんなを受け入れられるのはね（笑）。

鈴木 誰にも恨まれてないもんね、前田さん以外は（笑）。

安生 そ、そうだね（苦笑）。前田さんはUインターじゃないけど、それ以外はないねぇ。しがらみが多いUインターの中でも。

鈴木 何もないもんねぇ。

宮戸 オレもないよ、しがらみ！

鈴木 あっ、宮っちゃんもないよねぇ。

安生 宮戸さんもないよねぇ。

宮戸 ないでしょ？

安生 今日、鈴木さんと会ってやっとなくなったんじゃないの？

宮戸 ホントないよ。……まあ今日は、こんなもんでよろしいですか？

——も、もうちょっとお願いします！

宮戸 だって今日は、しゃべりはないって聞いてたもん。

鈴木 宮っちゃんの本は、いつ頃発売なるの？ 宣伝しとこうよ。

宮戸 本？ みなさん、ボクの料理本を読んで……。

鈴木 （さえぎって）料理本じゃないって！ 違う違う！（笑）。

宮戸 プロレス界のちゃんこがおいしくなくなってると聞いたんで、いろんなちゃんこ……。

鈴木 （再びさえぎって）それは出さないで、オレにレシピ売ってよ！

宮戸 まあ、宮戸味徳のプロレスファン、そしてプロレス界のちゃんこ番必読の書を近々発売いたします！

鈴木 いや、それは勘弁して（笑）。

宮戸 アッハッハッハッハッ！ でもホントに『あなたも明日からちゃんこ番長』って本出すから！

——宮戸さん、さっき言ってたのとタイトル変わってまよ！（笑）。

宮戸 （無視して）でも食べたいと思わない？ ボクのちゃんこ。

鈴木 食べたいよ。

宮戸 あっ、そうだ！ 安生洋二の英会話本なんていいんじゃない？

安生 バカなこと言ってんじゃないよ！（笑）。

宮戸 『明日からアナタもブッカーだ！』って本はどうよ？（笑）。

鈴木 ハッハッハッハッ！ でもホント、いつ出すの？

宮戸 来春だね。鈴木さんの本、あんまり邪魔しちゃまずいからさ（笑）。来春ぐらい目指して頑張りますよ！

鈴木 じゃあ、ゆっくり作って（笑）。オレの本も早く売ってしまわないと、一気に抜かれちゃうからね。

宮戸 はい、もうオッケーですか？

——オッケーです。どうもありがとうございました！

宮戸 ありがとうございましたーーッ！

★

対談が終わったあとも、7年半ぶりの再会を祝し遅くまで飲み続けた3人。しばらくして宮戸氏は『市屋苑』の厨房へ入っていき、なかなか出てこなかったため、何してるんだろうと思い覗いてみると、なんと宮戸氏（というか宮戸味徳）はカニチャーハンを調理中。あとで確認したところ、鈴木氏とチャーハン対決をし、宮戸味徳自らジャッジした結果、軍配は鈴木氏に挙がったという。Uインター最強ッ!!

【02年12月20日／用賀『市屋苑』にて収録】

んなことないって！ハッハッハッハッ！

あの座談会、3割は色付いてるよ！

UWFインターナショナル

「格闘技世界一決定戦」の真実

プロレスvsボクシング

この男がバービックを招聘した青い目の仕掛け人だ！

今回「市屋苑」にて実現した宮戸×安生×鈴木健氏の対談の際、鈴木健氏より「あのバービックを招聘した男だよ～」と、テディ・ペルク氏の紹介を受けた。

ペルク氏は、父親がマーベル・コミックの仕事をしていて、スパイダーマンを日本に広めるために来日した。5歳から日本にいたので日本語はペラペラ。Uインターとの関わり合いは、なんとタイガーマスクから。70～80年代のプロレスをずっと見ていて、佐山聡に憧れスーパータイガージムに入門。インストラクターの宮戸優光、山崎一夫と知り合う。ハワイ大学卒業後、山崎から連絡があり、スタンディングバウトや異種格闘技戦の選手を呼ぶ仕事を要請される。現在はヴォン・ジョビなど来日する外タレのビジネスや、WWEファンクラブの仕事にも関わっている。

ペルク氏の話で面白かったのは、プライドの高いボクシング王者などを担ぎ出す際の殺し文句だ。「この試合に出なかったら、格闘家とは言わせないよ」って自尊心をくすぐる。あるいは煽っていたそうな。もちろん厄介なのはマネージャー、弁護士、エージェントなどの取り巻き連中を納得させること。マイク・タイソン戦も実現しかけたが、マネージャーのビル・ケートンーが「ボクサーとプロレスラーを一緒にするな」と騒いで話が進まない。そこでペルク氏は「タイソンのような偉大なチャンピオンがそんなことを言うんですか？　本人の意志はどうなんですか？」と言い返したそうだ。ところが電話を代わった肝心の本人は「オラは・・・どうでもいいんだけどなぁ」としどろもどろ。訳すとまさしく「オラは」という感じだったペルク氏は言う。

しかし、先鋭集団UインターがWWFよりもはるかに前に、タイソンとも直接交渉していた事実はここで確認されている。

●

ニューヨークに16年住んでいた筆者が東京に持ち帰った膨大なビデオ・コレクションの中で、大切にしている一本がある。

PPV放送のタイトルは「シュートレスリング3」。のちにUFC王者となるジョシュ・バーネットなどが擦り切れるまで見たという、時代に狂い咲いた謎のプロレス団体〝UWFI〟（Uインターのこと）紹介放送の3回目だ。番組の冒頭は武道館を望む皇居の美しい映像から。天皇陛下に対する敬意とともに、日本人が格闘技をスポーツとして真剣に捉えてきたことが説明されている。語り部はオリンピック・レスリング金メダルのジェフ・ブラトニック。「本物とは何か？」がテーマであった。これが北米で放送されたのは94年11月11日のこと。メインは同年6月に武道館で行われた高田延彦vs故・ゲーリー・オブライトの名勝負パート3であったが、北米版の開始冒頭には田村潔司と、ボクシング元ライト級王者マシュー・サード・モハメドの「異種格闘技戦」の模様が挿入されていた。

しかしこのカードは、アントニオ猪木が新日本プロレスのリングで行ってきた「異種格闘技戦」シリーズとは違う種類のものであった。だから衝撃を受けたのだ。この試合が行われたのは92年5月8日のこと。シュート革命元年としてパンクラスやUFCが見切り発車を始める93年より前のことである。ブラトニックは、「長年の論争である〝ボクサー対レスラー〟の闘いの回答がここにある」と、誇らしげに断言した。そして田村はボクサーのパンチを貰うことなくグラウンドに持ち込んで、チョークを極めて完勝している。ちなみに、「秒殺」という言葉すらなかった時代であることは覚えておいて欲しい。

田村がプライドのリングに上がるようになって、K－1のリングで行われたパトリック・スミス戦の映像が紹介され、バーリ・トゥード戦の実績が過去にもあったことが語られているが、それよりもはるかに前に、こうような試合がUインターのリングでは敢行されていた。

過去の検証なくしては未来はない。このテープには若き日の金原弘光（対戦相手からアニマルと呼ばれていた）、桜庭和志、ダン・スバーン、安生洋二、高山善廣らが収録されているし、この放送でレスリング仲間オブライトの活躍を見たマーク・コールマンは、プロになる決心をしている。

この放送時点でUFCは開始されていたが、Uインター中継での名解説ぶりが評価されて、その後ジェフ・ブラトニックは長らくUFCの解説席とコミッショナー職に居座ることとなった。このPPVの予告編では、プロレスラーのハクソー・ジム・ドゥガンと、当時マイク・タイソンのセコンドとして誰もが顔を覚えていたコーナーマンが出演。「ボクシングだ。いやレスリングだ！」と論争しているところに、オブライトがやってきて「シュートレスリングなんだ」と二人をヘッドロックしてしまうCMが盛んに流されていた。また（三大ネットワーク放送の）NBCでの五輪中継の解説者としても幅広く尊敬されているブラトニックは、その素晴らしさを力説していた。

それから時が流れて、総合格闘技のメインイベントで活躍する桜庭や田村の姿を発見することになる。あるいは中継放送に大興奮したコールマンやバーネットの勇姿まで含めても構わないだろう。そして私たちは、何が真実であったかの最後の扉を開いたことになる。

●

高田延彦vsトレバー・バービックは、91年12月12日の両国大会で行われた。この試合もまた、昭和のプロレスファンが記憶する「異種格闘技戦」とは明らかに違うものであった。

バービックはローキック連発を嫌がり場外逃走して試合放棄。ペルク氏によれば「ホテルからバービックと一緒にタクシーで会場に行くときに『ローキックは反則だ！　蹴ってきたらブッ殺してやる!!』とか暴れて大変だった」と語るが、「ローキックは契約で認められていた。そうでなければボクサーがヒザにプロテクターなど付けない」と証言する。また「ホントにクレージーなヤツでした！　彼は当時、いろいろと裁判を抱えて追いつめられていたこともあって、ホントに何をするかわからない危険な状態だった。契約に関してはマネージャーがOKしただけかもしれない。何しろ字が読めるかどうかもわからない」と、当時の真相を振り返っている。ちなみにバービックはこの試合後、帰国したアメリカで「スリで捕まった」とのこと。しかも、アリを引退に追い込んだこの男は、今月の20日、またもや母国ジャマイカにおいて窃盗の罪により逮捕された。なんと、自宅の近所の民家に押し入り電気ドリルを盗んだらしいが、「自分はワナにはめられた。事件当日はビーチにいた」とバービックは主張。とことん往生際が悪いのである。

とにかくリング上では、団体のエース＝高田が恥をかいてしまうリスクは確かに存在した。あの日の緊張感、緊迫した空気は、たしかにそれを伝えていたのだ。

Uインターは博打をやってしまう恐るべき団体であった。そこには肉体への信頼があったからこそ、厳しいトレーニングの裏づけが存在したからこそ、壮絶な賭けに勝ってこれたのだ。

そして92年10月23日の武道館での「格闘技世界一決定戦」は、もはや神話になってしまった。元・横綱の北尾光司の巨体が、高田が放った右ハイキックに崩れ落ちた真実の情景こそ、「すべての格闘技を越えたものこそがプロ・レスリングである」とするUインター栄光の頂点であった。

異種格闘技戦伝説は、Uインターによってファンタジーとリアリティーの一致という、奇跡の瞬間を魅せつけた。だから、『PRIDE』などに代表される現在の総合格闘技がプロレスとは別のジャンルとして一人歩きを始めたのである。

●

世界数十カ国で放映されていた「武士道」Uインター中継。イスラエルでは現地で一番人気が高いニュース番組の裏で、視聴率が上回ったこともある。ペルク氏は「武士道シリーズ」のテレビ関係の仕事でも活躍している。欧州で放送された「武士道」シリーズの解説も、5年連続空手の世界チャンピオンだった選手と組んで担当していた。たまにゲーリー・オブライトなど選手も実況席に来てくれたときもりペルク氏とは友人であった。そのゲーリーが米国インディー団体の試合途中に突然死しているが、その試合直前の控室からペルク氏はEメールを受け取っている。だから訃報の実感が沸かなかったそうだ。

栄光のUインターの記憶は、中継を見てプロ格闘家を目指した選手、ファン、そしてペルク氏の胸の中でそれぞれ生き続けている。本業で桁違いのファイトマネーを叩き出すボクサーに、「この試合に出なかったら、格闘家とは言わせないよ」と詰め寄る迷惑この上ない挑発を繰り返した、蒼き魂も鮮明に灯っているのだ。

（タダシ☆タナカ）

ペルク氏は、直接タイソンに参戦の意志を問いただしたが…

もうひとつの1・4――。
当たり前のように試合を喰った主役たち!!

説法の鬼
新間寿

怒りの鬼
アントン総帥

猪木の鬼
春一番

1月4日、新日本プロレスのリングには、

3人の鬼がおりました

構成／ジャン斉藤
designed by matsu(Two three)

「K-1、『PRIDE』、ふざけちゃいけない!　完膚無きまでに叩きのめせ!」

過激なるアジテーション!　新間寿が帰ってきた!

平成の新日本プロレスのリングで新間節が炸裂!! "過激な仕掛人" 新間寿が帰ってきた!!

かつてアントン総帥の右腕として、モハメド・アリを引っ張りあげるなど、その手腕をいかんなく発揮していた新間氏。アントンハイセルが発端となった、新日本クーデター騒動の責任を取らされその座を追われたが、スポーツ平和党において再びアントン総帥とガッチリと握手!

しかし、蜜月も束の間。

一連の猪木スキャンダルで新間氏は、反・猪木の急先鋒に立ち疑惑を追求! ワイドショーでも生中継されたバッシング記者会見は、放送コードを踏み越えた伝説の内容となっている。そのためアントン総帥と手を組むことどころか、顔を会わせることも不可能な状況であったのだが、昨年末に、まさかの電撃和解!

アントン総帥と四度、手を組んだ新間氏はさっそくアントン総帥vsセガールをブチ上げたり、ゲストとして来場したターザン&吉田豪トークイベントでは、吉田豪の「鈴木みのるvs藤波なんかいいですね」の言葉にすぐさま反応! その場で新日本・上井取締役に直接電話し「やれ!」と命令するなど治外法権的立場で行動し、迷走をし続ける新日本プロレスに喝を入れるべく立ち上がったのだ!

そして1月4日、新間氏は20年振りに新日本のリングに足を踏み入れ、いきなりリング上で受け身を取り観客のどよめきを誘ったあと、マイクを握った!

●

新間　**20年、恩讐のかなたより、**ただいま帰ってまいりました。ついこの間まで**新日本プロレスの会社には3人の鬼がおりました。リングにはアントニオ猪木という鬼**が、**道場には山本小鉄という鬼**が、**事務所には新間寿という鬼**。3匹の鬼がおりました。その鬼を支えてきたのが、藤波辰巳であり、坂口征二でございました。**新日本プロレスには闘いがありました。**過激であり衝撃でありました。いまこのリングには、アントニオ猪木が築き上げてきた闘いはあるのでしょうか? アントニオ猪木は、ストロング小林戦を始め、大木金太郎、モハメッド・アリ、ウィリアム・ルスカ、その人々の涙、汗と、**タイガー・ジェット・シンの血**がこのリングの中には流れ続けております。こないだ新日本プロレスのテレビを何十回も何十回も私は見ました。しかし、そのテレビの中、今日見たリングの中から、アントニオ猪木時代の感動と緊迫感は、私には伝わって参りませんでした。アントニオ猪木がいるならば、**K—1、『PRIDE』、ふざけちゃいけない!** 新日本プロレスのリングに私が呼んできて、**新日本プロレスのリングで完膚無きまでに叩きのめす!** そういうことを私たちの時代にはやりました。それがなぜできないのか? 選手たちが、事務所の人間たちが緊迫感ということを忘れているからです。アントニオ猪木は「燃える闘魂」でした。いま私はどういう言葉を新日本プロレスに伝えたいかと言えば、**「燃えよ闘魂!」**であります。選手の数が増えました。技も我々の時代より増えました。しかし、**リングの中には悲しいかなアントニオ猪木時代の闘いはありません!** 選手諸君、そして事務所の人々、いま一度新日本プロレスを立ち上げ、業界のリーダーとして、K—1、『PRIDE』、**総合格闘技の頂点に立つのは新日本プロレス**であってもらいたい。この思いは私だけのものではありません。大勢のファンに支えられ、新日本プロレスは、31年間育ち、そして成長し続けて参りました。私は20年振りにこのリングに立ち、10年振りにアントニオ猪木を再開いたしました。新日本プロレスというのは、業界の雄でなければなりません! そのためにも声援と、そして皆様のお力を、この新日本プロレスのリングに注ぎ、そして選手、

「闘い」はあったか!? 新日本プロレス1.4東京ドーム

棚橋問題、飯塚vs長井(破悧魔王Z)は、P97〜辻アナインタビューにて紹介

第1試合に行われた、ドラゴンとの無我対決を制した西村は「(勝ったことで)禁断の洞窟で、地図を手にしてしまったような複雑な気持ちです」とコメントした。禁断の洞窟=ドラゴンから手にした地図だけに、迷走することは間違いなさそう。気をつけて、西村!

この大会を最後に新日本を退団した鈴木健想は、WJ入りが濃厚とされている。最後の試合は柳澤龍志とのヤンジェネ杯一回戦。IWGP挑戦権が賭けられたこのトーナメントは、健想、決勝で吉江を破った柳澤が優勝した

犬・小原が新日本に復帰! 『猪木祭り』でダニエル・グレイシーに敗れた中邑真輔とタッグを結成。村上&安田を相手に、中邑がネックロックで安田を仕留めた。小原は後藤、ヒロと「クレイジー・ドッグス」を結成。総合のビックネームの登場を予告した!

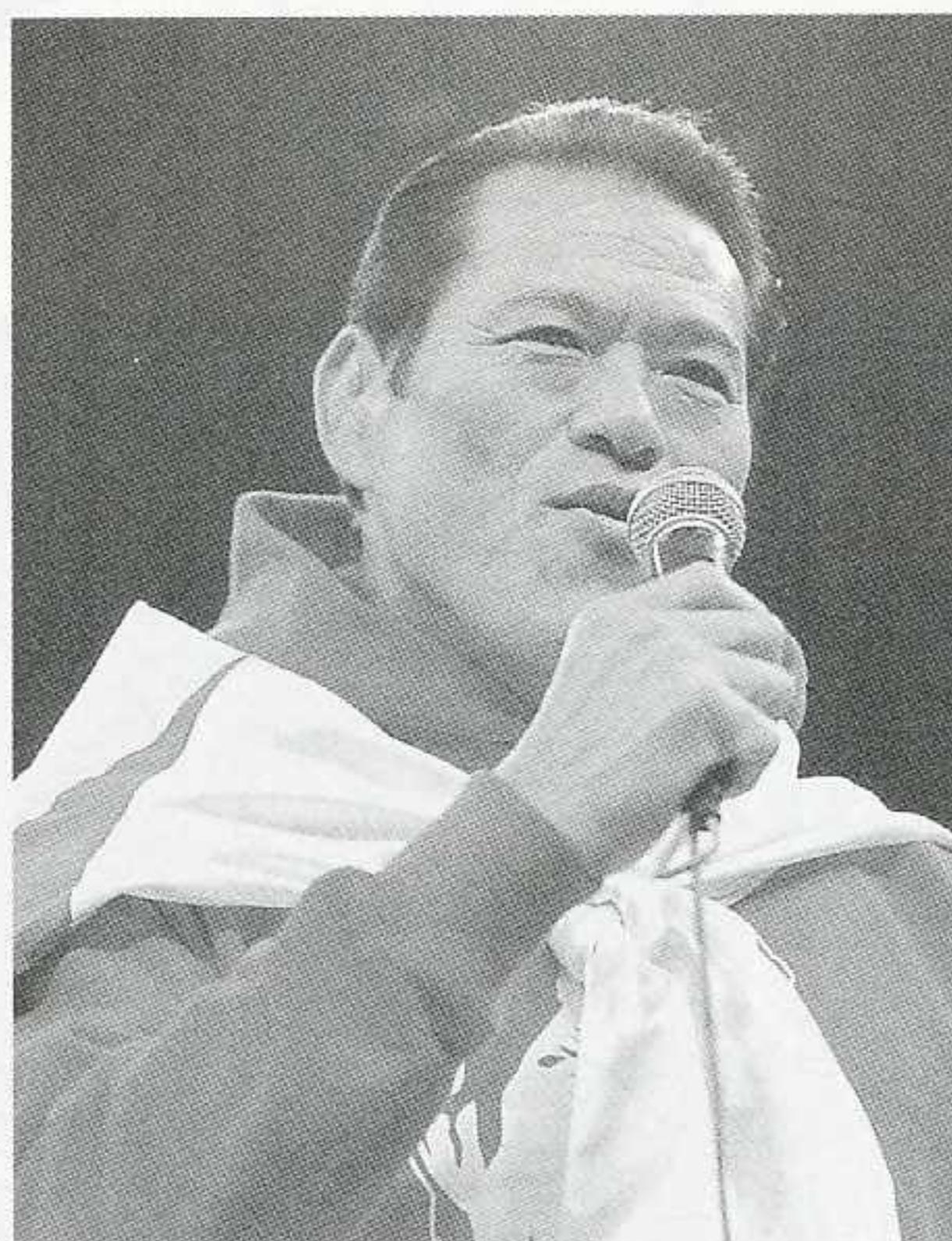
社員一同、アントニオ猪木がいる、坂口征二もいる。**藤波辰爾もいる。**もう一度、皆が積み上げてきた新日本プロレスを守り、そして築き、総合格闘技の雄として、すべての格闘技の上に立つ新日本プロレスにしなければなりません!!

●

新間氏の20年間分の想いが、過激なメッセージとして叩き付けられた直後、オーロラビジョンにアントン総帥が写し出された。ビジョンからアントン総帥の新年の挨拶が流されたため、今回は来場せずと誰もが思ったが、おなじみのテーマが鳴り響き、花道からアントン総帥登場！

●

猪木（いきなり）バカヤローッ！　これで年を締めました。バカヤローッ！　これで新しい年が明けました。実は荷物をまとめて成田（空港）に向かう途中でしたが、捕まってしまいました。今年も思うがままに生きていく。**猪木は来るのか？　猪木はコンドーム（来んドーム）って。ンムフフフフ！**　でも来てしまいました。あらためて、元気ですかーッ！　元気に今年も猪木は格闘ロマンを行きます。えーッ、ここに上がるまでにいろんなことを考えていました。**いったいプロレスとは何なのか？**　勝った奴の人気が上がらず、負けた奴の人気が上がる。いろんなことがおきます。それがプロレス。今年のテーマは怒り！　**怒って怒って怒ってみろよ。怒りのタネが落ちてきて、昔のそれが芽が吹いた**ということで。オレが一番望んでいるのは、リングに怒りを呼び戻してもらいたい。**媚びるプロレスは終わりにする。**強烈なオーラを発する。光を発する、ファンの目を引きつける、そんなプロレスを呼び戻してもらいたい。それが俺がみなさんに送る、そして新日本プロレスに送るメッセージです。よろしくお願いします。

●

今年のテーマは「怒り」というアントン総帥は、13日の成田会見でさっそく「怒り」を爆発させた！（まぁ、成田会見ではいつも爆発させているけども）。

アントン総帥は、藤田が提唱した「最強トーナメント構想」に対して「誰が金を払うの⁉　いろんなこと言っていいんだよ。何を言ったって構わないんだからさ。でも、誰が金払うんだって。俺なんかは昔の話はしてもしょうがねえけど、テメエでアリ戦のリスクを背負いましたから。いろんなアイデアでるのは結構だけど、誰が金を払うのって？　テレビ局は金を払わないよ！」と藤田案を一蹴！　たしかにアントン総帥が言うように、ミルコやサップの参戦まで視野に入れたトーナメント開催を目論めば、高騰する外国人選手のギャラを考えれば莫大な資金が必要である。

だからこそアントン総帥は「ギャラの高騰を防ぐ調整機関として、いまこそ格闘技連盟の設立が必要」と強く訴え「それは誰が会長になっても構いませんけど、とりあえずは俺なんかがまとめ役にならないとダメかな」と、マット界の地盤沈下を食い止めるべく、とりあえず名乗り上げたのだ！

とはいっても「俺も格闘技界ばっかに関わっていられねえですからね」とアントン総帥。なんと「世界中が俺を追い掛け回すことなる」ビックプロジェクト、燃料いらずの誘導発電装置『イノキ・ナチュラルパワー・4』が完成に近づいていると言うのだ！　今度は動きますかーッ⁉

「12月31日に電機のパフォーマンスも考えていたんですけど、まだ不安定な部分もあったんで、そういう場面に出すのは時期尚早かなと。実際断念しましたけど、年を空けて計画通り順調に進んでいますんで、2月がピークになりそうですね」。

仰天!!　なんと『猪木祭り』のリングでスネ相撲ではなく、電機の始動を試みようしていたと言うではないか！

もはや発想自体が永久エネルギー機関といっても過言ではないアントン総帥！

魔性のアクセル全開で、噂の5・2新日本『猪木祭り』まで突っ走りますかーッ！

「馬場さんにはなれなかったが、じいさんにはなることができた」
アントン総帥に初孫誕生!!　それでも今年は怒りますかーッ！

星野総裁を肩に担いで大魔人が出現!!　増殖を続ける魔界倶楽部の野望は一体……⁉　誰か、新日本の危機を救ってくれ!!（ファンタジー活字調）。なお、この試合よりクロネコことブラック・キャットがレフェリーデビューしました

小島聡が天山と一夜限りの天コジ結成!!　蝶野&中西を見事に破った。試合後、天山は「コジ、ありがとう。よく来てくれたよ」と小島の友情に感謝。最後は小島が「天山&小島、略して天コジだバカヤロウ！」とキメ!!

復活NWF王者決定戦は、高山がTKにヒザ蹴りを豪快に決めて快勝！　NWFを知らない選手の戴冠をなんとか阻止した。復活NWFトーナメントの発起人・藤田も来場したが、再びトーナメント開催を熱望！　おい、大丈夫かッ⁉

永田vsジョシュのIWGP戦がメイン。エンセン井上がジョシュのセコンドとして登場！　試合は永田がジョシュを下しを防衛に成功。NWF王座を獲得した高山とリング上で睨み合い。決戦は5・2東京ドーム？

春一番 シングルCD
『元気ですか体操』
元気に
絶賛発売中!

1·4東京ドームにビックサプライズ!!
"もうひとりの猪木"が
遂に新日本に辿りついた!!

猪木のマネにすべてを捧げる人生をかけたエンターテインメント!!

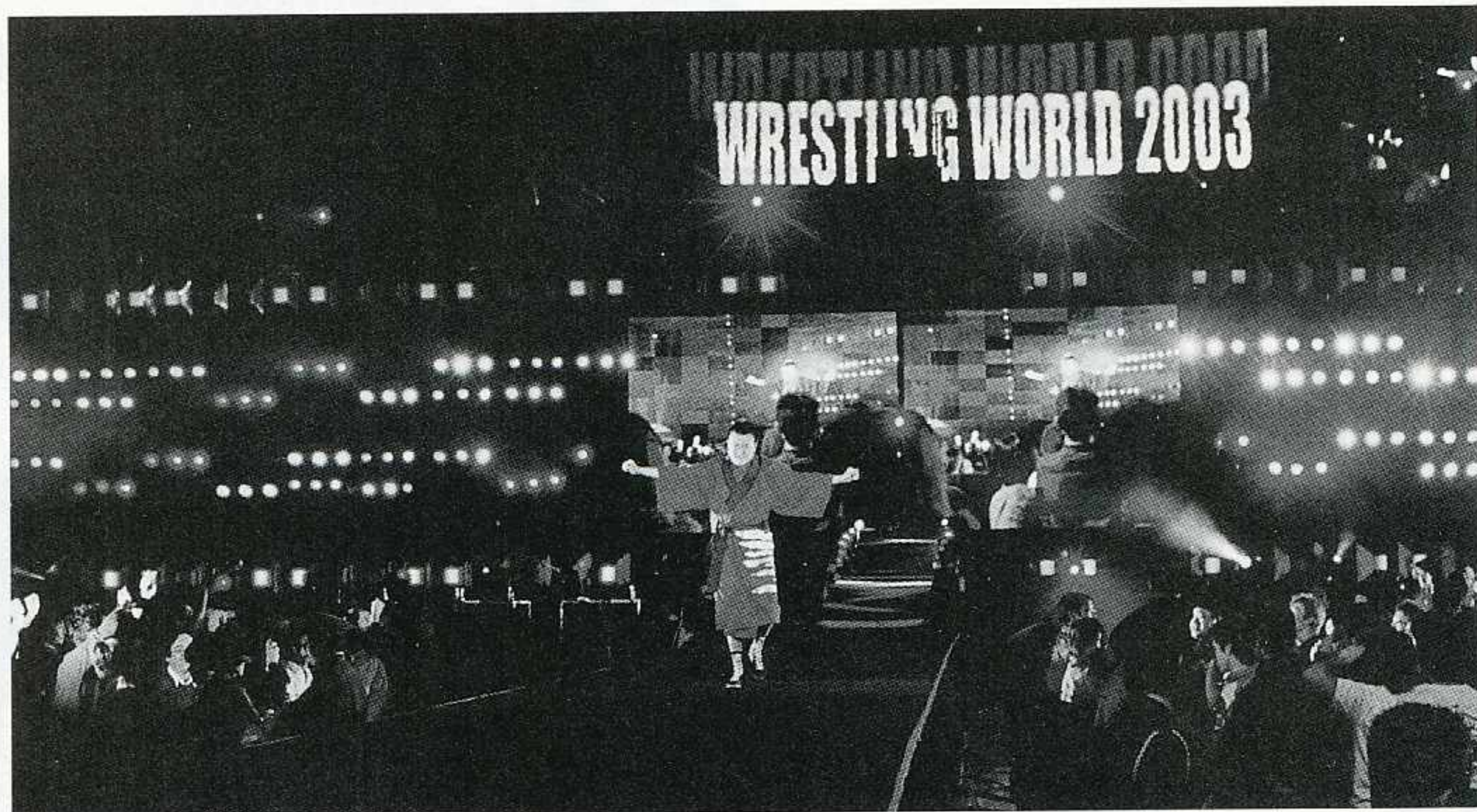
春一番

聞き手/松澤チョロ　構成/ジャン斉藤

designed by matsu(Two three)

春一番、新日本プロレスのリングに初登場!! 遂にセリリアンブルーのリングに辿り着いた!
春さんといえば、あらためて言うことでもないが、押しも押されぬアントン総帥モノマネの第一人者。アントン総帥がボロを纏えば、同じくボロを着飾り、闘魂棒を振り回せば、同じく振り回す!
アントン総帥への憧れの想いも加わって、己の人生のすべてをかけたその模倣は、一代芸といっても過言ではない、まさしく猪木の鬼である。
1月4日、新日本プロレスのリングには、3人の鬼がおりました――。
怒りの鬼、アントン総帥!
説法の鬼、新間寿!
そして、猪木の鬼、春一番!
鬼の言葉を聞きますかーッ!

●

――新日ドームはお疲れさまでした!
春 (いきなりアントンモードで) アリガトーーッ!
――休憩で、お客さんもすっかりトイレタイムだと思ったら、突然『炎のファイター』が流れたんで、猪木さんの登場かとみんな急いで戻ったら、春さんだったという(笑)。
春 (まったく無視してアントン口調で) 俺は怒ってる!! ゲーム大会のバカヤローーッ!
――それって春さんのパフォーマンスのあとに、春さんが司会を務めた「闘魂猪木道」のゲーム大会のことですよね。やたらダラダラと間延びしちゃって、ブーイングも飛んじゃいましたけど。
春 まぁズバリ言って、オレは全然触ってねぇですからね! (アントン『LEGEND』風)。
――アハハハ! しっかり触ってましたよ(笑)。

初めてドームの花道を歩いたんですけど、本当に快感でしたよ!

春 (素に戻って) いやぁ、ゲーム大会の司会をやるって当日知らされたこともあったし、猪木さんのマネで進行するのは無理がありましたよ。
――あのまま「本物が登場!」ということで、猪木さんに引き継いだら最高だったんですけどね。
春 それがベストでしたよね。もしくは(田中) ケロさんがゲーム大会の司会をやって、ボクが「これ以上ゲームをやったら死ぬだろ!」とかチャチャを入れるスタイルが良かったですねぇ。
――その形式だったら春さんも活きますよね(笑)。
春 でもねぇ、「元気ですかーッ!?」って叫んだのはいいけど、実は風邪を引いちゃってて全然元気じゃなかったんですよ。
――そうだったんですか(笑)。でも、「1、2、3、ダーッ!」とばかりに1月23日に発売されるシングルCD「元気ですか体操」を元気に踊ってましたよね。
春 あの歌と振り付けを覚えるので、いっぱいいっぱいだったしねぇ(苦笑)。
――本当にお疲れ様でした(笑)。それで今日は、押しも押されぬ猪木さんのモノマネ第一人者である春さんに、猪木さんへの想いを語ってもらいたいんですけど……。いきなりまったく関係ない話ですけど、今日、剛竜馬さんが捕まったらしいですよ!!
春 エッ!! ホントですか! 何で捕まったんですか!?
――新宿駅構内で、69歳のおばあさんの財布をひったくって逃げたところを一般人に取り押さえられたみたいです。本人は「拾っただけ」と言ってるみたいですけど(笑)。
春 はぁ~(目を丸くして)。剛選手とは一緒に飲んだことがあるんですけどねぇ。
――春さんは、剛竜馬さんと交流があったんですか?
春 いや、いまから十数年前に(アニマル)浜口さんの店で二度ほど飲んだことがあったんですけどね。剛選手って酔うと宙を掴む癖があるんですよ。最初は「生ビールをおかわりしたいのかな」と思ったんですけど(笑)。
――なんか手招きしてるみたいで恐いですね(笑)。春さんはプロレス好きということもあって、レスラーとの交遊はかなり幅広いんですよね。
春 そうですねぇ。ついさっきも(山本)小鉄さんと電話で話したんですよ。(小鉄のモノマネで)「春ちゃん、大晦日見たよぉ」って、ボクが出たのは1月4日の東京ドームなのに『猪木祭り』と勘違いしてましたけど(笑)。
――『猪木祭り』には、当然ホンモノは出てましたけどね(笑)。
春 あ!『猪木祭り』といえば、サッチー(野村沙知代)は猪木さんのビンタを何だと思ってるんですかね!? 罰当たりですよ、ホント!!
――最後は往復で喰らってましたけど、一回目は見事にスカしてましたね(笑)。
春 まったくねぇ、ビンタの喰らい方をわかってねえというか。
――でも、あれが当日一番面白かったんですけどね(笑)。で、猪木さんの今年のテーマは「怒り」らしいですけど、春さんも怒ってますかーッ!?
春 (急に萎れて) いやぁ、風邪だから元気ないですよぉ。でも、新日本の花道は歩いたら、調子が悪いのも忘れるくらい凄く気持ち良くてね。ドームは初めてでしたけど、あれは本当に快感でしたよ!
――春さんは、これまで新日本のリングに

は上がったことはあったんですか？

春　いや、今回が初めてです。『お笑いウルトラクイズ』のテレビ収録で、新日本プロレスのリングに上がったことはあるんですけどね。そのときは、藤波選手、橋本選手、ライガー選手と闘ったんですよ（笑）。

——それも素晴らしい体験です（笑）。

春　あと、みちのくやJd'、CMLL、FMWには上がったことはあるんですよ。サスケさんと仲がいいこともあって、みちのくさんが一番多いかな。両国でやった「竹脇」のときなんて、まだ改造した長靴を履いてやってたんですよねぇ（しみじみと）。

——それが、いまでは立派なガウンやシューズで新日本に登場してるんですから凄いですよ！

春　光栄なことですよねぇ（感慨深く）。最初はブーイングを浴びるんじゃないかって心配してたんですけどね。

——不安に反してお客さんは大歓声でしたし、春さんの登場を皮切りに、新間さん、猪木さんと試合以外の3人が一番面白かったという声もあるくらいで（笑）。

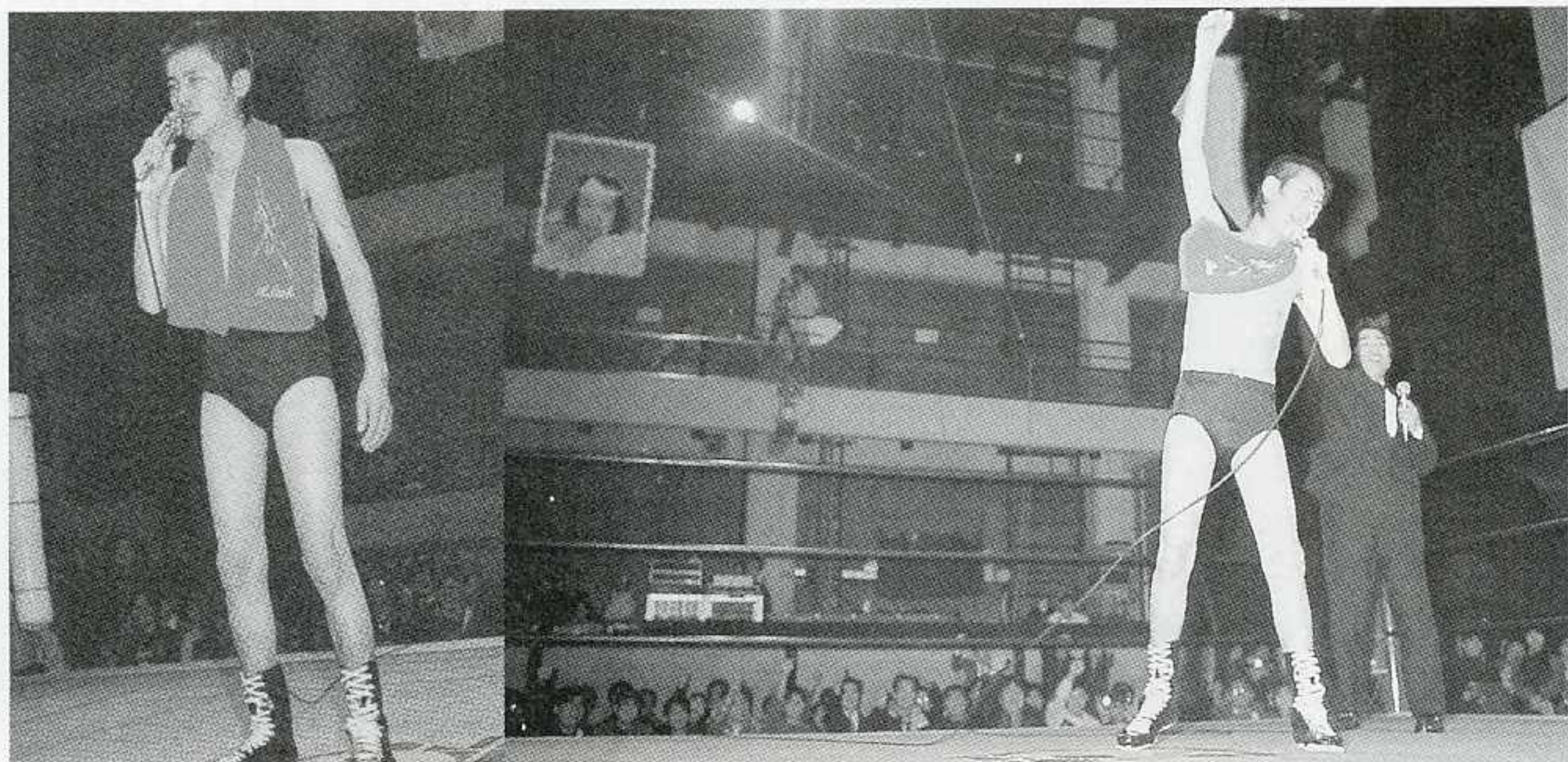
春　あぁ、ボクは猪木さんの登場にビックリしましたねぇ。

——春さんも猪木さんの登場は知らされてなかったんですか（笑）。

春　そうなんですよ。運営スタッフとの打ち合わせでも「今日は猪木さんは来ない」って聞いていたからなおさらでしたね。そういえば猪木さん、登場するなりダジャレ言ってましたね。「コンドーム」（来んドーム）って（笑）。

——イマイチお客さんには伝わってなかったですけどね（笑）。

春　あのネタって、実は15、6年位前にも言ってたんですよ。ブルーハーツ（当時）のヒロトさんと一緒に猪木さんのトークライブに行ったんですけど、「東京ドーム？　あぁ、東京コンドームね。ンムフフフ」って言ってて。ボクとヒロトさんだけがバカ受けして、他の客は誰も笑わなかったんですけど（笑）。

昔は、長靴を改造したリングシューズを履いていたんですよ

6年前の96年12月26日、『紙プロ』主催により川崎クラブチッタで行われた「ターザン山本追悼興行」。右写真を見てもらえばわかるが、左上に心霊写真のようにターザンの遺影が写っている！　春さんは、なぜか馬場さんのテーマに乗ってリングイン！　「私は先日ガスパーを倒して絶好調です」と一説ぶったあと、恒例の「ダーッ！」。それにしても若い！

——猪木さん的には、寝かせていたネタだったんですか（笑）。猪木さんネタに関しては、春さんは毎回かなりの早さで対応してますけど、最近は猪木さんが挨拶する回数が増えたこともあって覚えきれないんじゃないんですか？

春　やる前から「覚えきれない」なんて言うバカいるかよ！　出てけッ！

——ヒャッ、すいません！

春　……って怒鳴りたいとこだけど、ホント覚えきれないですねぇ（笑）。

——あ、さすがの春さんでもそうでしたか（笑）。

春　でも、見てる人も覚えきれてないんで、こっちも猪木さんになりきってやれば沸いてくれるんですよね。

——いまさら褒めるのもなんですけど、なりきれるのはさすがです！

春　「ダーッ！」を流行らせた自負もありますからね。猪木さんが引退した直後なんて、テレビに出たら必ずやってましたよ。ボクは芸人として今年で19年目で、最初の8年ぐらいは漫談とか司会をやってたんですけど、あとはずっと猪木さんのマネですからね。

——いまでは誰からも認知されていて、猪木事務所からも公認ですもんね。

春　猪木さんも、今回の『猪木祭り』の宣伝で全国廻ってるときに『1、2、3、ダーッ！』ということでね。春一番ではありません。ホンモノのアントニオ猪木です。猪木のモノマネバカヤローッ！」って叫んでくださったんですよ（笑）。

——猪木さんが拡声器を片手に女の子にキスをしたり、新宿公園でホームレスにラーメンを配ったりして街宣活動してましたけど、春さんの名前も叫んでましたか（笑）。

春　猪木さんの「バカヤローッ！」には愛がありますからね（笑）。嬉しい限りですよ。

——猪木さんは、髙阪さんが毎回「初めまして髙阪です」と気を遣って挨拶するぐらい名前を覚えないことで有名ですけど、さすがに春さんの名前は覚えてるんですね。

春　それが「春さん」っておっしゃってくるから余計に緊張するんですよねぇ（照れながら）。

——いまでも緊張するんですか？

春　しますねぇ。蝶野さんじゃないですけど、猪木さんはオレにとって「神」だから。

——緊張しちゃって会話もできないとか。

春　「時計は何をはめてるんですか」とか、下らない質問ばっかしちゃってね（笑）。でも、猪木さんって人懐っこい方ですから、1時間でも2時間でもずっと喋ってくださるんですよね。

——猪木さんのロマン溢れる「世界戦略」話とかもしてくれるんですか？

春　しれくるですけど、オレ、バカだからわかんなくて（笑）。

——そういう機会はけっこうあるんですか？

春　去年、一昨年と、猪木さんのディナーショーに出たんですけど、去年8月に金沢でやったときに、帰りの飛行機の席が偶然、猪木さんの隣だったんですよ。そのときにお話させて頂いたんですけど、話を聞いている限りでは猪木さんもいろいろあって大変なんだなぁって思っちゃいましたね。

——2月には噂の「電気」が発信するらしいですし、猪木さんも忙しい方ですからね。ちなみにそのディナーショーではどういう役回りなんですか？

春　「アントニオ猪木の登場です！」とコールされて、ベタにボクが登場するんですけど、それであとから出てくる猪木さんにビンタされるんですよ（笑）。一昨年なん

て一日2公演で3ケ所廻ったから、6回張られてますからね（笑）。

――もしかしたら、一番ビンタを受けているのは春さんかもしれないですね。もっとも、猪木さん自身は無数の相手に数えきれないぐらい張ってるんですけど（笑）。

春　最近はホントいろんなところでやってますよね。しかも、前説みたいなこともやってるじゃないですか？「俺が一度『ダーッ！』とやれば、一千万入ってくるんだよ。ダッーッハッハッ！」って言ってましたけど、そんなことボクが代わりにやるのにって思っちゃいますよ。まあボクの場合は猪木さんとはケタが違うんですけど（笑）。

――でも、春さんも猪木さん同様に「ダーッ！」ひとつで全国を廻ってるわけですし、さっきも言ってましたけどそれだけ猪木さんになりきれる自信があるんですね。

春　モノマネとはいえ、猪木さんを演じられるのは幸せですよねぇ。こないだも、ボクがボクシング元世界王者の畑山隆明を1分間で何回殴れるかって企画があったんです。

結果は一回も殴れなかったですけど、仰向けに寝転がれただけOKでしたから（笑）。

――ワハハハ！　猪木vsアリの再現ですか（笑）。

春　それをやれただけで十分（笑）。一応、殴り方を金原選手に電話でアドバイスしてもらったんですけどね。

――そういえば、金原さんと親交があるんですよね。

春　金原さんの結婚式にもゲストで出たし、今年の元旦にも金原さんの自宅に招待されたんですよ。

――金原さんの結婚式は、前田さん、高田さんらU系選手が飲んで飲みまくってかなり荒れたらしいですね。伝説になってますよ（笑）。

春　ボクも後半の記憶は一切ないですね（笑）。猪木調で前田さんや高田さんに「おい、オマエら！　飲んでるかーッ!?」って乾杯してたのは覚えてるんですけど。

――素面じゃできない乾杯ですね（笑）。

春　長州さんともそんなことあったんですよねぇ。藤波さんの社長就任パーティー会場で、パーティーが終わって帰ろうとしたら関係者に「長州さんが春さんのこと、『猪木さん』『猪木さん』って呼んでるよ」って呼び止められて。それで会場に戻って長州さんに「どうした長州ぅ!?　元気か、このヤローッ!?」ってペシッて張ったんですよ（笑）

――ワハハハ！　それはシャレにならないですよ！

春　そしたら長州さんに「春さん、酔ってんなぁ」って言われて、「これはマズイ」と思って抱きついてキスしたんですよ。別に何事もなかったんですけど、周りの若手レスラーが引いちゃって引いちゃって（笑）。

【はるいちばん】本名：春花直樹。岡山県出身。昭和41年8月13日生まれ。お笑い芸人を志し、片岡鶴太郎に弟子入り。伝説の番組『お笑いウルトラクイズ』での、キラー・カーンとの激闘は、いまでもファンの脳裏に深く焼き付いている。趣味はプロレス観戦、飲酒。ライバルはタイガー・ジェット・シン！　いずれはIWAのリングなどで、遭遇する機会があるのか？

――いやぁ、長州さんに猪木さんのマネで絡むシーンは見たかったですねぇ（笑）。

春　長州さんはWJでしたっけ？　どうなるんですかねぇ。

――健想さんが予想どおり新日本を退団して、WJに入るみたいですけどね。春さんと接点のある真壁さんも離脱するんじゃないかって噂が出てますけど。

春　そうなんですよ。真壁選手とはフリーペーパーの雑誌で対談もしたり、海外遠征の激励会にゲストで出たんですよ。彼には頑張ってもらいたいですね。

――他に交遊がある選手は誰かいますか？

春　吉江選手はかなり面白いですねぇ。

――それは意外ですね。

春　吉江選手って、芸人のみつまジャパンに似てるじゃないですか？　ボクが「みつまジャパン！」って呼び掛けると、手振り付きで「そんなこと、どうでもいいんですけどね」ってやってくれるんですよ（笑）。

――それはぜひリング上でも見てみたいですね（笑）。マジメな話、いまの新日本のリングには「闘いがない」って、新間さんや猪木さんが言ってますけど、春さんから見てどう思います？

春　ボクなんかが言っていいのかなぁ？　う〜ん、新日本さんって一番メンツが揃ってると思うんですよ。だから選手の使い方によっては絶対面白いと思うんですよね。

――なんだかんだいっても、底力はありますからね。

春　やっぱり、ボクは新日本プロレスを見て、猪木さんを見てプロレスファンなったんで頑張ってほしいですよ。

――昔からの想い入れは変わってないわけですね。

春　去年の5月2日の東京ドームに、倍賞美津子さんが登場したときなんか泣きましたもん。猪木さんも真っ赤な顔して、いいシーンでしたよね（しみじみと）。

――今年は新日本に勢いを取り戻してもらいたいですね。最後に春さんの今年のテーマをお願いします！

春　（しみじみとした表情を一転させて）それは、このCDが売れることですよ！

――売りますかーッ！

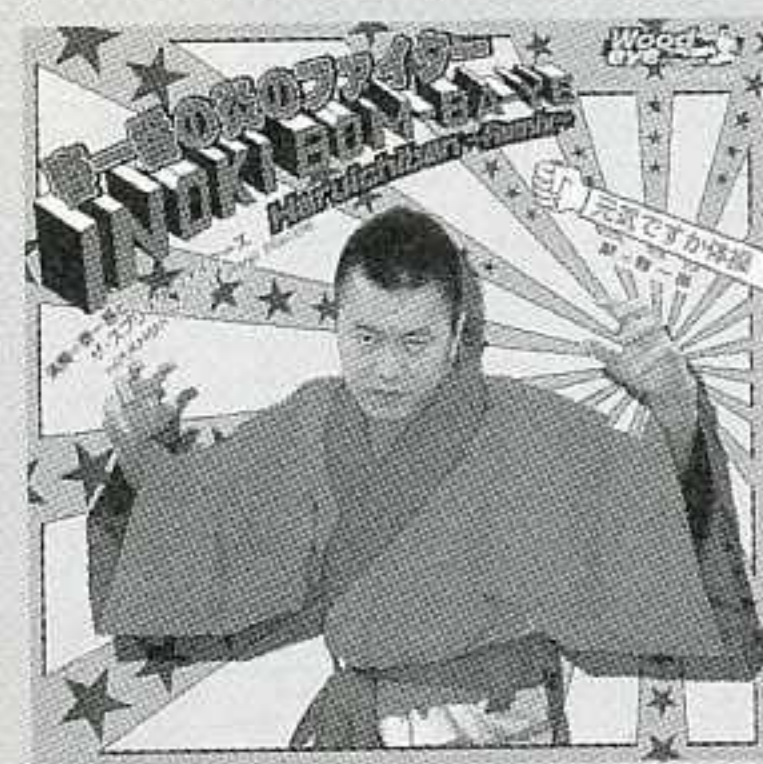
春　目標は「ミュージックステーション」出演。ロンブーのあつしの「もずくの歌」に勝ちたいんですね！

――また具体的な目標ですね（笑）。

春　こないだのロケで「オマエより売ってやる！」って宣言したんですよ（笑）。

――それでは年末は、紅白歌合戦と『猪木祭り』のダブル出演に期待してます！

春　やるぞーーッ！　1、2、3、ヨイショッ、ダーッ！（ヨダレ）。

【03年1月16日／都内某所にて収録】

福田社長、語る!!

福田社長の言葉はとにかく熱い！　その自信溢れる言葉には一点の曇りも感じられない。「目ン玉の飛び出るようなストロング・スタイル」とは、けだし名言である。

健介、帰国！

成田空港で会見を開いた健介。「(鈴木戦実現は)WJ入りの絶対条件」「(電流爆破での大仁田戦は)やる気ない」とのこと。ちなみに大仁田は「健介・越中・大仁田での電流爆破3WAY戦」を要求中。

健介＆マサ、やっぱりWJ入団!!

長州の笑顔が眩しい！「俺達は一蓮托生」とばかりにガッチリ握手。「40年のキャリアを生かして外人選手を全部ゲットしたい」とマサさんもマグマのような意気込みを語った。

3.1 横浜アリーナ、いよいよWJが「業界のド真ん中」を突っ走る!?

驚愕!!「目ン玉が飛び出るようなストロングスタイル」とは何か?

正直、入団！

1月20日、新日本プロレスを退団して、その去就が注目されていた佐々木健介のWJ入団記者会見が行われた。

「悩める若者」(by倍賞取締役)は、完全に悩みを吹っ切ったようで、屈託のない笑顔で会見に臨んだ健介は「**ホントに死ぬつもりで頑張ります**」といきなりの衝撃発言！　死んじゃダメだって！

また会見に同席した長州は「**健介にしても、マサさんにしても〝置いていけない〟という気持ちがありますよ。俺たちには絆があるのかなっていうね、お互いに。それを利用したように解釈されると困るんですけど**」と、うがった見方に釘を刺すように語った。

さらに、1月3日にアメリカ放浪中の健介とハワイで会談してWJ入団を決意させたという福田社長が口を開いた。

「**男としてこれまでのプロレス人生をどうやって歩んできたのか？　その最後の集大成でウチのリングに上がればケジメがつくんだ**」と男の生き方、さらには人として生きる道までも話し合ったのだという。さらにWJのアピールとして「**闘う軍団だから間違いなく素晴らしいプロレス団体になる**」「**アッと思うような選手と闘わせたい。それもキチンとした、目ん玉が飛び出るようなストロング・スタイルで**」といった話をしたのだという。

目ン玉の飛び出るようなストロング・スタイル！　ビガロの目ン玉をえぐってしまったのは元祖ストロング・スタイルの猪木さんだが、WJ旗揚げ戦ではホントに目ン玉が飛び出すのか？　興味は尽きない。マグマのように熱い福田社長の男っぷり、最高だ！

ちなみに、この会見に先立ち、17日にニコニコ顔で帰国した健介は成田で会見。傷心のアメリカ旅行でいかに悩んだのかを告白した。

「**自分の心にない時から『WJに行く』『長州力に付いていく』という噂が出て、自分の中に納得いかない部分があったんですよ。たしかに俺と長州さんは切っても切れない関係だとは思いますよ。ここでWJに入ったら『やっぱり長州のところに行くんだな』ってね。前から噂されていたことが、ホントのようになってしまう。それが、ずっと怖かった！**」

単なる噂が現実に!?　人一倍、純粋な心を持つ男。噂にはホントに傷ついたのだ。「**メシも食えないぐらい、ロクに練習も出来ないぐらい**」だったというから相当だ。自分の精神状態のバロメーターが「**メシ**」と「**練習**」というのが、いかにも健介らしくて微笑ましい。

何はともあれ、「**ヴァーッとクァーッと暴れてみたい**」「**(体を動かしながら)なんか、こう、ウズウズするんですよね。ずっと試合に出られなかったんで、早くリングに上がりたい**」とのことなので、WJ旗揚げ戦が今から楽しみだ！

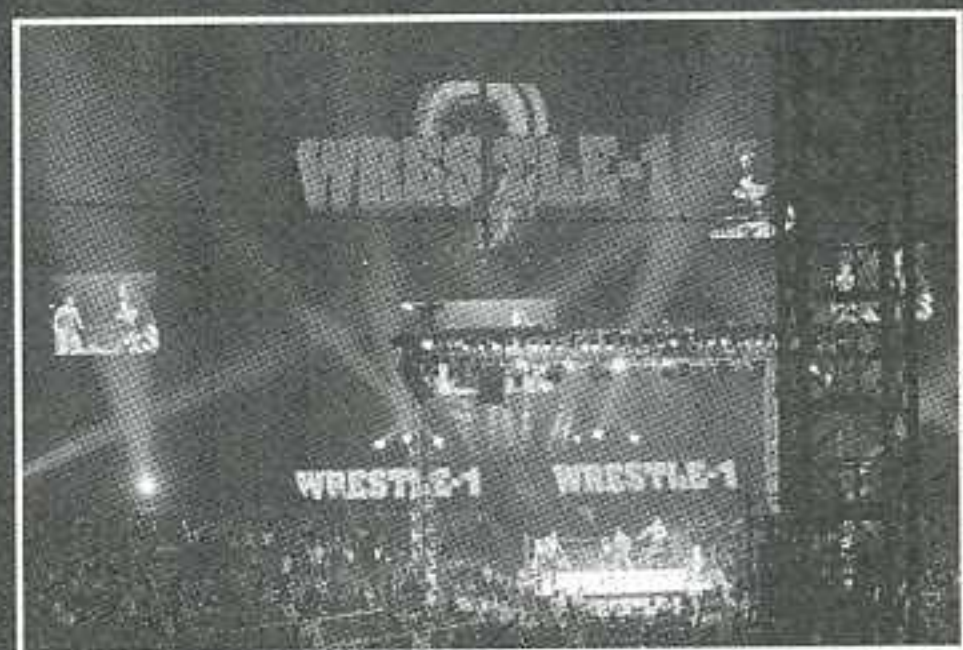
紙のプロレス RADICAL

058 CONTENTS

Cover Model : Keiji Mutoh & Masakatsu Funaki

『W-1』から
見えたものって
何だろう?

Y編集長曲言

『W-1』は巨大なる"プロレスごっこ"なのか!?でも、プロレス村は、それを笑えるんですか!?

山口日昇

ぼく、
エンジェル・ボブ・・・

WRESTLE-1

6万票

BOB SAPP

元気ですかーーーッ!! 元気があれば●●もできる!!……
まぁ、そんな不謹慎な話はともかく、んく、レッスルワンッ!!
ということで、1・19『WRESTLE—1』である。
終わってみれば、まさに侃々諤々! 賛否両論! この新たな舞台&試みは、ファン、関係者、そしてレスラーからも、よくも悪くも反響を呼びまくった。

ボク自身の感想は、今回の『W—1』は、ズバリ言って〝失速〟! 客席に熱がなさすぎた。客席に熱を生み出せないプロデューサーorプロモーターor団体は、ショー・ビジネスの世界においては絶対的な悪である。昨年11・17、横浜での第1回ライブで大きな波紋を広げた後だけに、なおさら残念感はつのる。でも、『W—1』の可能性は? と聞かれれば、ボクは「すこぶる大きい」と答えますね。

それに、大会終了後に吹き荒れたというネット上でのバッシングを聞くにつけ、もっと過熱気味に「ダメだ、こりゃ!」という声が殺到するのかと思いきや、意外にもそうではないから面白い。

1月から『紙プロ』はiモードでサイト配信を始めたのだが、そこで『W—1』に関するアンケートを取ってみた。雑誌の締め切りの関係上、大会終了後から3日間分だけしか集計できていないが、興味深いので紹介してみよう。

【1・19『W—1』の感想をひと言であらわすと?】という設問には、
①「バツグンに面白い。またゼヒ見たい」②「まぁまぁ面白い。可能性は見出せる」③「ふつう。可もなく不可もなく」④「面白くない。もう見たいとは思わない」⑤「プロレスをバカにしてる!」⑥「腹が立つくらいつまらない」
という6つ選択肢の中から選んでもらった。

1位はダントツで、②の「まぁまぁ面白い。可能性は見出せる」で、2位は、①の「バツグンに面白い。またゼヒ見たい」と、⑥の「腹が立つくらいつまらない」が同率で並んだ。

【1・19『W—1』のベストバウトは?】の集計データを見ると、メインのボブ・サップvsアーネスト・ビースト(ホースト)が一番票を集め、次点が僅差で破壊王vsジョー・サン。3位に少し離れて、闘龍門のミラノ組vsアンソニー組の6人タッグが付けた。

【1・19『W—1』のワーストバウトは?】の答えは、1位がなんと、今大会の新聞広告での顔だった武藤敬司&ゴールドバーグ組の試合で、2位は僅差でさたやんvsブッチャー。そして3位には、サップvsホーストだった!

【昨年11・17と今回では、どちらが面白かったですか?】という問いには、倍以上の差を付けて、第1回大会のほうが面白かったという答えが返ってきた。

たった3日間の集計なので(アンケートはその後も継続)、今後順位が入れ替わる可能性もあるが、この一連の答えを見ていると、見事なくらいに賛否両論別れているのがわかる。

「バツグンに面白い。またゼヒ見たい」と「腹が立つくらいつまらない」という意見が同率だったり、サップvsホーストがベストバウトとワーストバウトの両方に顔を出していたりと、本当に意見はパックリと割れていた。

例え『W—1』といえども、その試合内容は当然問われる。たしかに試合のクオリティという点では、プロレス・ビギナーの格闘家たちの試合は、まだまだ及第点に達してはいない。

だから、「楽しかった。面白かった」という意見と同時に、「あれじゃあ豪華な〝プロレスごっこ〟だ」「ゼイタクな学芸会」というものに代表される批判も、それこそ山のように出まくったわけだ。

プロレスファンから「プロレスをナメるな」という意見はもちろん、「K—1をバカにするな」という意見まで飛び出したくらいだから、相当物議を醸したと言っていいだろう。

この物議は、次回、4・20さいたまスーパーアリーナで開催予定の第3回『W—1』にどうハネ返ってくるんだろうか。

そういう賛否両論と、ちょっと違う周波数に合わせてみると、『W—1』の出現によってボクが感じたのは、プロレスにおける〝サービス〟ってなんだろう? ということだ。

〝サービス〟というのは、実際いろんな意味を持ってるし、広い範囲で使われる言葉だけど、ぼんやりと「人の役に立つ」とか「人に喜ばれる」というイメージを含んでいる。

そういえば、この間、なにかのテレビで佐川急便の中国進出に関する特集をやっていた。

佐川急便は、運転手に、単なるトラックの運転手ではなく〝セールス・ドライバー〟という肩書きを持たせて、営業、お金の管理、運転、そして肝心の荷物を安全に確実に届ける、さらに「物流」に関する幅広いサービスを提供させるというシステムを取って巨大化した会社だ。

中国には、「物流」という概念さえないから、当然、荷物を

この日の「W—1」は、客席に期待感はあるものの、第1回大会ほどの熱は生まれなかった。東京ドームという器がそれを遮断してしまったのか。イマイチ盛り上がりに欠けたA級戦犯は、ドームという空間か?アリーナ席とスタンド席では熱気も違ったようだ。そよ風や熱風を"体感"できるアリーナ席と、一歩引いて客観的に冷静に見れてしまうスタンド席では温度差が激しかった

時間通りに運ぶ、荷物を丁寧に運ぶという学習はなされていない。3ヶ月後に荷物が届いたり、グチャグチャに潰れていたりするのが当たり前の世界なのだ。

その番組に出ていたコメンテーターは、「中国で一流といわれるデパートに行って『ラッピングしてください』と言ったら、『やり方がわからないからできません』と言われた」と苦笑いしていた。

つまり、中国には物流どころか、〝サービス〟という価値観がないのだ。

だから佐川急便の社員研修では、荷物を運ぶという以前に、現地の人間に、声の出し方や挨拶の仕方、おじぎの仕方から教えなければならない。

佐川急便が中国で売るものは、物流というファクターを通した〝サービス〟なのだ。

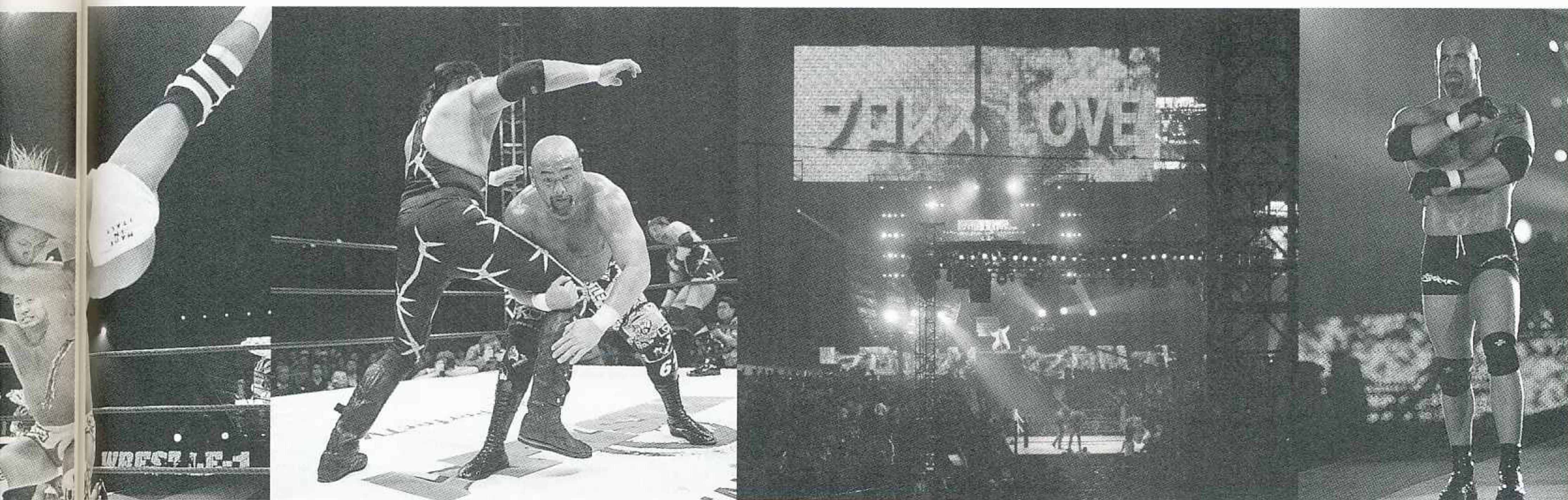
そのコメンテーターは、社員研修の映像を見た後、「日本はこれまで世界を相手に〝技術〟を売り物にしていたのに、いつの間にか〝サービス〟を売り物にしている。それがちょっと寂しいですね」と言った。

それはなんとなくわかる。でも、プロレスの世界も〝技術〟を売り物にするということは限界にきている。

かつて日本はプロレス先進国と言われていたが、いまはその技術は世界中に広まり、アメリカのインディー団体にも卓越した技術を持った選手はたくさんいる。日本のプロレスも〝技術〟を絶対的な売り物にはできなくなっているのが現状だ。

世の中の仕事という仕事は、突き詰めればすべてがなんらかの〝サービス〟を売り物にしているといえる。

じゃあ、プロレスにおける〝サービス〟ってなんなの？　プロレスというライブ空間に来た人に、どんな〝サービス〟を提

プロレスにおける一番の〝サービス〟ってなんだろう？

大会2日後に『ボブ・サップのバトル・エンターテンメント』としてゴールデンタイムで放送された『W—1』（CX系）。視聴率は前回を2％上回る10・4％！　最高瞬間視聴率はサップvsホースト戦の19時40分台に記録。12・7％だった。サップ人気はヒート＆アップしまくりだが、このサップ人気と『W—1』はどうリンクしていくのだろうか？

供すればいいの？ということを、もう一度考えるきっかけを与えてくれたのが『W—1』なのだ。

その〝サービス〟というのは、もちろん〝レスラーがファンに媚びる〟ということではない。

「『W—1』は演出はいいけど、試合内容は全然ダメ」「演出に頼りすぎて中身が伴ってない」——大方の関係者は、今回の『W—1』をそう評した。

でも逆に言えば、これまで「試合で見せるのが一番のサービス」という尻馬に乗っかり過ぎて、〝サービス〟の本質についてプロレス界は考えてこなさすぎだったんじゃないだろうか。

リングの上の闘いをわかりやすく見せる。試合内容で見せる。興奮させる。感動させる。華やいだ演出で楽しませる。特有の熱気。プロレスが与えられるサービスの要素はいろいろあるだろう。

でも、「あ〜、面白かった。また来よっと」と思わせることが一番の〝サービス〟であるという原点に帰るべきなのだ。

そういうことを考えさせてくれただけでも『W—1』が出現した意義は十分にある。

ライブという観点から見ても、プロレス以外にも腐るほど楽しめる娯楽はある。そういったものに打ち勝つにはなにをしなければならないんだろうか。

たしかに試合内容は大事だ。でも試合のクオリティだけに〝逃げ込む〟と、ますますプロレスは過疎化を辿っていく気がする。試合内容がよければ広がりが出るのかといったら、そういう話でもないだろう。

ボクは限られた人にしかわからない名勝負より、むしろサップ、ホースト、ヒーリング、ノルキヤなどの拙さやヘタさ加減のほうに可能性を感じる。

先ほどのiモードのアンケートでは、なんだかんだ言いながらもサップvsホーストはベストバウトの1位になっているのだ。

そのサップvsホーストを巨大な〝プロレスごっこ〟というなら、引き合いに出して申し訳ないが、和術慧舟會（WKネットワーク）が忘年会でやっていた〝プロレスごっこ〟とどこがどう違うのか、ということになる

それは簡単な話で、知り合いの暖かいまなざしの中でやるのと、お金を取って大観衆の前でやるという点が決定的に圧倒的に違う。

プロフェッショナルというのは、必然的に〝まな板の上の鯉〟

になるということだ。

つまり、メジャーというのは、見知らぬ大多数の人の好奇の目や批判の目に晒され、斜に構えた視線を浴びるということでもある。

そういう点で、サップはもちろん、ホーストやヒーリング、ノルキヤには〝まな板の上の鯉〟になる覚悟があるように見えた。むしろその〝まな板の上の鯉〟状態を積極的に楽しんでいるようにも見えた。

日本のプロレスラーに足りないのは、この覚悟の部分ではないだろうか。

さっき、限られた人にしかわからない名勝負に可能性はあまり感じないと言ったのはそういう意味である。わかる人だけを相手にしていては過疎化はどんどん進行していくばかりだ。

いま、プロレス界は、〝冷蔵庫〟を開けてばかりいるような気がする。

唐突に〝冷蔵庫〟と言われてもなんのことやらわからないと思うが、これはネット上で『ほぼ日刊イトイ新聞』を主宰している糸井重里さんが書いた【冷蔵庫を探すな】という話を知ってもらった方が早い。勝手な意訳、超訳も含めながら要約してみる（原文を読みたい人は、『ほぼ日』で）。

人は何もすることが思いつかないとき、あるいは、やるべきことがあって、やらなくてはいけないこともわかっているときに「なんかないかなぁ？」と、いちおうは何かを探しているつもりで冷蔵庫を開けてしまうものだ。

でも、冷蔵庫をなんとなく開けたときに、そのなかに、なにか素晴らしい発見があったためしはない。

冷蔵庫に入っているのは、古いタマゴ、賞味期限の切れた牛乳、酸化したしょうゆ、少し乾きはじめた味噌、水気のなくなったリンゴ、缶入りのトマトジュース、しなしなしたレタス。それを上手に工夫すれば、なにかできると思っていたからそれらは冷蔵庫のなかにあったのだろうか？　あることさえ忘れられていたから、捨てるタイミングを失っていたから、ただ単に捨てるにはしのびないから置きざりにされていた、のではなかったろうか？

冷蔵庫の内容をメモに書き出して新しい料理を考えるのも工夫のひとつなんだろうけれど、それは、たいていは、ほんとうに求めているものじゃないのだ。廃物利用の手芸みたいなものが、自分以外の他人を決してよろこばせないことに、それは表れている。

優秀な、と言われる人たちは、とてつもなく大型の冷蔵庫を、どんどん買い足していく。

なんでも入っているから、どんな料理も作れるだろうと思うのだ。

それはそれでたいしたものだけれど、「冷蔵」ってのは、新鮮さが失われていく速度を遅れさせることしかできないんだよなぁ、残念ながら。

すばらしい板前さんや料理人は、日々の仕入れに命を賭けているのであって、食料品問屋のような冷蔵庫を持っているわけじゃない。

「冷蔵庫を探すな」というのは、いままで問題解決できなかった馬鹿な頭をたいしたものだと思うな、ということかもしれない。

というものである。

〝冷蔵庫〟を開けずに日々の〝仕入れ〟に命を懸けてるなぁと思わせてくれた最近の大会は、純プロレス系では、第1回『W―1』と、1月の5、6日に行われた『ZERO―ONE・U$A』だった。

試合のクオリティという免罪符に〝逃げ込まず〟に、いやもっと簡単に言うと、実験することを恐れずに、堂々と、仕入れた新鮮な材料を〝ナマ〟のまま提示してくれたのが気持ちよかった。

もう日本のプロレス界の持っている〝冷蔵庫〟には、そんなに使えそうな材料は残っていない。

だったら、新鮮な材料を日々仕入れていくほうが、ファンにとっては〝サービス〟になるんではないだろうか。

その新鮮な材料をどう料理するかは、プロデューサーの腕次第だ。

今後、『W―1』が投げかけたさまざまな問題提起を、既存のプロレス団体や関係者が、どう細胞レベルで捉えていくかが、ボクは一番興味がある。

今回の『W―1』の〝失速〟ぶりを「シメシメ」とホクソ笑みながら見ている団体or人には、永遠に明るい未来は見えないと非常に偉そうに断言しておく。

ま、つまり、そういうことです。

馳先生がジャイアント・スイングを繰り出すと、１回転するごとに巨大ビジョンには「１万票」「２万票」という文字が。「17万票」を超えると「当確」という文字が踊り、最後は「馳先生、当選おめでとう！」。試合以外では、こういった既存のプロレスの文脈にはない演出や、水道橋駅から現れたゴーバー、そしてジョー・サンのＴバック姿がファンの脳裏に焼き付いたようだ

I 編集長直言

特別寄稿 井上義啓

2002・12・31『INOKI BOM-BA-YE』

「吉田に"武士の情け"と余裕はなかったのか?」との共通の思い

「『猪木祭り』は、あらゆるジャンルの格闘技の選手が集い合って繰り広げる祭典であって、生きるか死ぬかの真剣勝負のみに力点を置いてはならない」――。

"プロ格"を主体とした『猪木祭り』の本質について聞かれたとき、私はいつも判で押したように、同じトーク、同じ活字で答えてきた。バーリ・トゥード（以下バード）の世界は他にいくらでも存在しているのだから、『猪木祭り』が出しゃばって殺バツな"殺し合い"を演じてみせる必要はない。個々の選手が持つ特性と利点を最大限に発揮させる闘いが肝心であって、そのためのルール設定が問題となる。『K-1』系統の選手同士による試合だから『K-1』ルールで、『PRIDE』系の選手だから『PRIDE』ルールで……といった単純な押しつけは好ましくないとのへそ曲がりも、読者諸君なら、とっくの昔にご承知のはずだ。

例えば、吉田秀彦と佐竹雅昭の試合。あの二人がまともにやり合えば10回が10回、あのような形で吉田が勝つ。このことは小学生にだってわかる単純な数式で、佐竹には申し訳ないが、「佐竹に優しい引導を渡してやろう」との"トモダチ"としての暗黙の了解から、吉田が来年（2003年）3月までの完全休養をホゴにして『猪木祭り』に出ることを決めた以上、31日には、それらしい優しい春風が、あの二人には吹くはずですよ」と、これまた判で押した決まり文句を口にしてきた。

となると、どのような特別ルールにすべきなのか。『1ラウンドは寝技による攻防を禁じる』――私なら、ブーイングの嵐を浴びようと、平然とした顔で、こう発表しただろう。

吉田は立ち技での一本勝ちを得意とする選手――と思われている。しかし、高校時代からの足跡を丹念に調べてみると、希代の寝技師だとわかる。大体、あのような運動神経、反射神経の鋭い選手（井上康生など）は必ず裏技に熟達しており、バーリ・トゥーダーとしても立派に通用する恐ろしい存在なのだ。現に佐竹を絞め落とした前方首固めは柔道では使ってはならない首固めで、柔道での禁止技が、あのような大一番のリング上でスーッと出てくるところに「吉田はバードでもやっていけ

プチ「採点させてよ!」◎『猪木祭』編

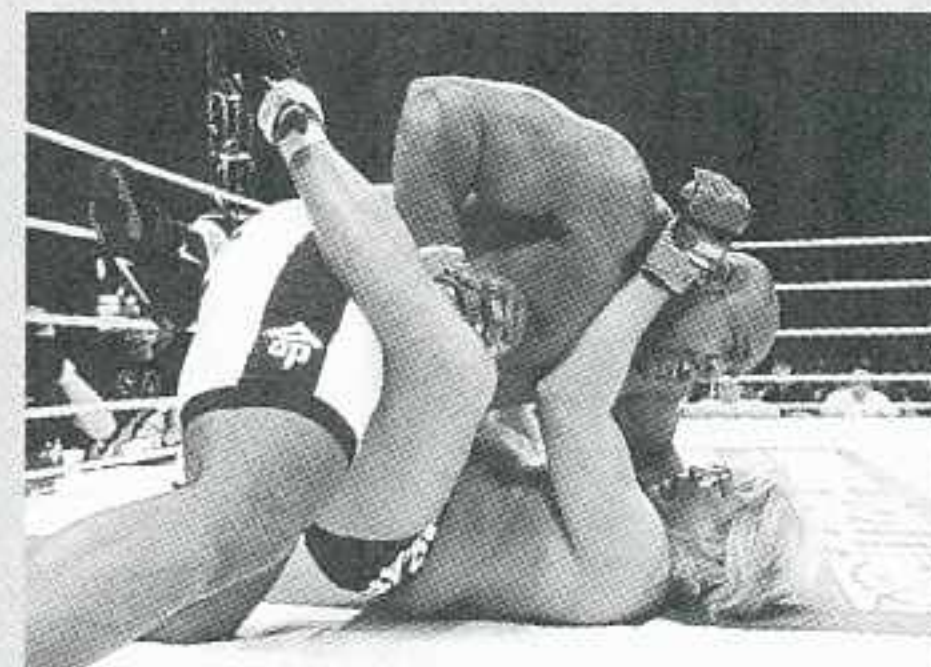
2 マイク・ベルナルド VS 5 ゲーリー・グッドリッジ

Ｋ－１で勝てなくなったベルナルドが、小手先のボクシングテクニックを使ってリベンジ達成。剛腕が売りだった男が、『ＰＲＩＤＥ』ファイター相手にこの勝ち方じゃ話にならない。

3 吉田秀彦 VS 2 佐竹雅昭

裏番組の紅白が、あの手この手で視聴率を獲得しようとしている裏で、こんな味気ない勝ち方をする吉田を評価することはできない。佐竹は100万点獲得した「さたやん」時と比べ、999,998点ダウン。

10 ミルコ・クロコップ VS 0 藤田和之

藤田がミルコを捕獲するか、それとも賞金首ミルコが逃げ切るかの勝負だったこの一戦。そういう意味で評価は満点か０点のどちらかであり、時間切れの時点でこの点数となったわけだ。

6 ボブ・サップ VS 6 高山善廣

誰もがドツキ合いを期待している中、ＮＦＬタックルのポジションをとったところまでは完璧だったサップだが、いきなりのテイクダウンで大幅減点。高山は負けたが、出てきただけでプラス評価。

る」と私が踏んだ最大根拠があった。

だから、せめて1Rは佐竹に、それらしい活躍の場を与えてやるべきだったのだ。吉田はパンチとキックもマスターしかけており、一緒にトレーニングをした高阪剛などが「天才だとしか言いようがない」と口を揃えて絶賛していたのだから、佐竹と対等に打ち合えたはずなのである。もっともダメージを被る確率も増すからなんとも言えないが、吉田がどの程度のハードパンチャーかを知りたいとの思いはファンにも強かったはずで、「1Rは3分。2R、3Rは5分とする」でもよかったと思う。

「吉田に（佐竹に）花を持たせる武士の情けと余裕がなぜなかったのでしょうか」との質問は当然だ。前記したように、あの二人は〝トモダチ〟。まして佐竹は、あの試合を最後にバード路線から引退し、プロレスの世界に転じるという。それなら、なおのこと、花を持たせる友情が必要とされるはずだ。あのような負け方を押しつけたのでは、プロレスのリングに上がったとたん、「あんな負け方をしたのに、よくプロレスでやろうなんて気になったな、オマエ」との聞くに耐えないヤジとブーイングに唇を噛むことになる。

吉田にも、このことはわかっていたと思う。ではなぜ、そうしなかったのか。勝つことしか頭にない男の業なのである。頭ではそれとわかっていながら、いざ、闘いが始まってしまうと、頭の中が真っ白けになってしまい、夢中で勝ちに行く。試合が終わって、「しまった!」と思ったのだろうが、もう遅い。場数を踏むということが何であるかを、大晦日の吉田が教えてくれたわけだ。「もう少し盛り上げたいとも思ったけど、勝てるときに勝負に行きたいと思って……」、試合後、吉田はこう言った。真っ赤なウソだ。気がついてみたら、あのような〝50秒寸劇〟で試合が終わってしまっていた——これが、あの試合の実体なのである。

◇

『猪木祭り』は観客論が主役でなければならない。「UFCは美しくない。アートでもないのだから、そのうち廃れるだろう」とは猪木の持論で、私も同意見。『猪木祭り』のご本尊がそう言っているのだから、主催者（TBS）も出場選手も、ある線まで猪木の言うことに近寄らねばならない。前記の「1Rは寝技による攻防を禁じる」にしても、ズバリ、猪木の考えに沿ったもので、誰と誰の試合とは言わないが、過去、1Rは打撃技で〝おつきあい〟しておいて、2Rに入ったとたん、十八番の絞め技で簡単にケリをつけてしまった試合がれっきとした形で存在している。おそらく「1Rでケリをつけずに、2Rに回せ」との猪木の指示に従ったのに違いないのだが、とんだ思い違いか。

まして夢を持ちたい大晦日の夜だ。希望という名の新年を直前に控えて、殺すの殺さないのは、もういいじゃないか! それが私の強い思いで、それが『猪木祭り』の主格を形成してきた。

何も〝筋書きのある格闘ショー〟を絶賛しているのではない。「バード（真剣勝負）」なのだがルールをいろいろと変化させて適用し、闘う選手の持ち味と見せ場を十二分に発揮させてやってはどうか」と猪木流に言っているだけであって、プロレスではない〝プロ格〟マッチこそ『猪木祭り』の核心のはずだ——につきるのである。吉田が昨年の夏に開発に着手した左ハイキック。佐竹に難なくかわされたが、あのような場面がいくつも出てくることによって、格闘家・佐竹の地力と本領が発揮されただろうし、観客も吉田の未知の部分にドッと沸いたと思うのだ。それが総合格闘技から引退していく男の、せめてもの餞ではなかったのだろうか。

佐竹の見せ場らしい見せ場は、このバックキックのみ。これならせめて金だらい片手に入場してくれれば……との声も飛び出す始末。

⑥ クイントン"ランペイジ"ジャクソン vs ① シリル・アビディ

"マルセイユの悪童" というカッコイイ異名を持つK－1ファイターが、廃バスに住んでる男という情けないギミックの『PRIDE』戦士にK－1ルールで完敗。もはやこれはギャグだ。

⑩ ヴァリッジ・イズマイウ vs ⑤ 滑川康仁

普段の過剰な自己主張ぶりとは打って変わって地味な押さえ込みで判定勝利を奪い、試合後「グレイシーキラー節」を爆発という、イズマイウらしさに溢れたこの一戦は、もちろんTVではカットされた。

⑥ 中邑真輔 vs ⑦ ダニエル・グレイシー

イズマイウ道場と化しているという噂もあるロス道場で修業した、中邑真輔のVTデビュー戦。その度胸は合格。完敗だったが、新日勢のVTの中では、もっとも可能性を感じさせてくれた。

⑤ 安田忠夫 vs ⑦ ヤン・ザ・ジャイアント・ノルキヤ

"ヤマノリに負けた男" というありがたくない異名を持つノルキヤが、昨年のヒーロー安田に完勝するアップセット。安田のこの急落ぶりは、まさに博打人生そのものだ。でも、面白いから合格!

連載2回目にして、
早くも山口日昇が失踪!?

~~山口日昇~~&吉田 豪

月刊Y²談 VOL.02

司会／堀江ガンツ
構成／スモーノブ
designed by matsu（Two three）

『SRS-DX』編集長代行&居候
ターザン山本が登場!!

こんな殺伐とした時代の中で……

プロレス界に小さな幸せ見いつけた♥

月刊連載にしたのが間違いだったのか？　Y2の片割れであり、本誌編集長でもある山口日昇がまたも失踪した。だが、毎度のことなのでこれは予想の範疇！　編集部は急きょ「もうひとりのY」「Yの中のY」「ミスターXだったらしいけどY」ことターザン山本氏を招聘して、何とか『Y2対談』を実現にこぎつけた。

●

――え～、前回から始まった好評企画『Y2談』ですが、山口がサイパン特訓に行っちゃったらしいので、ターザン山本さんをお迎えして、ここ1ヶ月のマット界をブッタ斬りにしていただきたいんですけど。

山本　（唐突に）豪ちゃん、今を語るならこれしかないね！「プロレス万歳」ですよオオオ！

豪　へ？　この1ヶ月の出来事を語るのに、「プロレス万歳」なんですか？

山本　そりゃそうですよ！

豪　この前、1・4新日ドーム大会を見ながら、「もう世の中にプロレスはない」って断言したばかりじゃないですか！

山本　確かにそう言った。それに1・2全日本プロレスの後楽園大会で、俺は寒気がするくらいゾッとしたんだよ。そこには、もう何もなかったわけ。

豪　最近「プロレスは死んだ」と言い続けてきたけど、それ以前の問題でしたか。

山本　そう。全日本プロレスの正月興行といえば、ジャイアント馬場さんが挨拶をして、晴れ着姿の女の人がいて……そういう正月らしい雰囲気の中で行われていたものなんだよな！　それが何もなくなってる！　昔だったら、大会後は後楽園飯店にマスコミを招いて新年会をやっていたんだよね。みんなで円卓を囲んでいるところで馬場さんが挨拶をして、ジャンボ鶴田とか天龍（源一郎）さんや渕（正信）が「今年もよろしくお願いします」とお酒を注ぎに来るわけですよォォォ！

豪　そこで天龍さんがガンガン酒を注いで記者を潰したりするんですか？

山本　いや、それはない。馬場さんの前だから。ただ、その新年会では大入り袋とは別に、馬場さんからお年玉も出るんですよ！

豪　へえ。いくら位入ってるんですか？

山本　2～3000円位だけどね（かわいらしく）。それが気分いいじゃない！　だいたい昼の3時に大会が終わって、3時半から新年会が始まるんだけど、夜の大会があるから記者は途中で帰るんです。そしたら、今度はそのまま（馬場）元子さんの誕生日パーティーが始まるわけですよ！　1月2日が誕生日だから。そういう和やかな空気があったわけ。それが、今年は何もないよぉ。

豪　要するに、お年玉とパーティーがないからダメだってことですね（笑）。

山本　いやいや、そういうわけじゃなくて、試合に連動した形で正月のお祝いみたいな雰囲気がなくなったからだよ。

豪　ボクにはどうしても「いまの全日はごっつあん出来ないからダメだ」と言ってるようにしか聞こえませんけど（笑）。

山本　違う違う！　俺は、そういうムードが好きだったわけよぉ。そこには年間シートで契約して来てる人がいっぱいいて、バルコニー席もいっぱいだったの。

豪　ある種の共同幻想みたいなものがあったわけですね？

1月2日の昼間、武藤率いる全日本プロレスが2003年最初のプロレス興行を行った。生前の馬場さんは毎年年頭の挨拶をしていたが、それも今年は武藤の役目。超満員で大入り袋も出たが、ターザンには違和感があったようだ。

山本　それがゼロですよ！　腹が立つほど何もないんだよぉ！　それで寒々しい気持ちのまま後楽園ホールを出て、外でハンバーガー食べてから見たのが夜の大日本プロレスの大会なんだよな。

豪　CZW勢や葛西純なんかが消えて以来、どんどん寂しい状態になってきた大日本プロレスですね（笑）。

山本　これもまた正月どころか、この世の終わりみたいなプロレスだったねぇ……（しんみりと）。金村キンタローが若手をブレイクさせようとして坊主頭の若者を痛ぶるでしょ？　あれ、何ていう人？

豪　沼澤邪鬼ですかね。

ここ1ヶ月を語るなら「プロレス万歳」しかないですよオオオ！（ターザン）

山本　その若手を徹底的に痛めつけてるんだよね。まあ、その試合自体はいいんだけど……本当にこの世の終わりみたいな正月だったよ！　その時点で俺は「翌日の全日本と全女の大会は見る必要ない。4日の新日本ドーム大会だけ見ればいいや」と見切りをつけたわけ。

豪　そして、4日のドーム大会でも「ここにもプロレスはない」とボヤくことになるわけですね。

山本　うん。でも4日の大会にはプロレスはないんだけれども、いい形なんだよね。新日本流のイキがった部分がないというか、淡々とやってる感じがいい！　肩の力が抜けてるというか。

豪　本来、ドーム大会で肩の力を抜いちゃいけないはずなんですけどね（笑）。

山本　そうだねぇ。でも、それが等身大というか、縮小してしまって等身大なものしかない心地よさがあったから、そんなに腹立たなかったよ（笑）。新間（寿）さんが1・4ドームのリングで挨拶したけど、浮いてたもんなあ。

豪　それまでの試合を全否定してたから浮くのはしょうがないと考えたら、予想以上に沸いてはいたんじゃないですか？　周囲の関係者とかファンは新間さんの言ってることに頷いて、レスラーだけが納得してないって状況になってるみたいですけど。

山本　今の時代、正論を言うことは虚しいだけなんだよ。

豪　「何、熱くなってんだよ!?」って言われるのがオチですからね（笑）。

山本　でしょ？　新間さんが言ってるのは正論中の正論だからね。そういうことも、「これはこれでいいや」って納得したら少し気分が回復したんだけど。結局、1月9日に森下（直人・DSE社長）さんが亡くなったでしょ？

豪　ええ。どう考えても、それがここ1ヶ月では最大のニュースでしたからね。

山本　昨年末のK―1・GPが終わった直後には、石井（和義）館長も在宅起訴されたでしょ？　K―1と『PRIDE』

月刊Y2談

という、プロレスに取って代わるべき「新しいプロレス」の社長2人がいなくなっちゃったわけですよォォォ！

豪　つまり、山本さんがいま深く関わってる『SRS・DX』の2本柱ですよ！　これから大変じゃないですか？

山本　そこで思ったわけです。（急に小声で）プロレスってさ、儲かってないじゃない？　だから、脱税が出来ないんだよ。

豪　そもそも、脱税するだけの金がないわけですよね。山本さんみたいに、物理的に税金が払えないってことはあるだろうけど（笑）。

山本　（無視して）俺は石井館長を褒めてたわけなんだよ。なぜって、脱税するぐらい儲かってるんだから、これは歓迎すべきことだって。儲からないところから始めて、脱税するぐらいのところまで上昇したわけでしょ？

豪　国税局から目を付けられるぐらいにまでなれたわけですからね（笑）。

山本　プロレスというのは昔から「モンキー・ビジネス」と呼ばれてて、ビッグ・ビジネスにはならないとされていたものなんだよね。石井館長は、それを「ミドルビジネス」ぐらいにまで押し上げたわけ。そして、大きなお金を脱税するまでになった。これは、俺にしてみりゃ褒め言葉ですよォォ！

豪　猪木さんや山本さんを見てもわかりますけど、男は脱税してナンボですからね（笑）。

山本　でも、節税と脱税は違うから。俺がしてるのは節税ですよォォォォ！

プロレスは凄く自由ですよね 山本さんがその調子で許されてるわけですから（豪）

豪　節税というか税金滞納してるだけというか（笑）。まあ、どっちにしても貧乏臭い話ですよねぇ。

山本　とにかく石井館長は在宅起訴され、（さらに小声になって）そして森下社長は首吊り自殺した。女性問題が原因だと言われてるわけだけど……（この先はターザンの妄想が過ぎて活字化不可能）。つまり、馬場さん、猪木さんの時代にはこういうことはなかったはずだよォォ！　社長が自殺するとか、世間を騒がすような脱税をするようなことは、あり得なかったから。

豪　プロレス界でも、荒井（昌一・FMW社長）さんの自殺はありましたよね。

山本　あれはインディーだったからね。それに、もう馬場さんはいなかったでしょ？　それを思うと、いかにプロレスが平和な世界かということですよ。これは、もうプロレスに帰るしかない！　そう思ったよォォ！　プロレスは貧乏くさいし、プアーだし、しょっぱいけれども、やっぱりプロレスはかわいくていいなぁ（こっちもかわいらしく）。

1・4ドーム大会に登場した新間寿氏は、いきなり受け身を披露！　「このリングにはアントニオ猪木の築き上げた闘いがあるのでしょうか？」「いま新日本プロレスに伝えたいのは、燃えよ闘魂であります」と直言連発！

豪　ダハハハハ！「ダメな子ほどかわいい」ってよく言いますけど、そういうことですか？

山本　（質問も耳に入らず）やっぱり馬場さん、猪木さんは偉いよ。こういうことが起こらないようにしてたわけだから。

豪　猪木さんは起こらないようにしてたんですか？（笑）。

山本　まあ、その点に関して全く役に立ってないけどね。猪木さんは人の心を律するようなことをしない、抑止力が一切ない人だから。つまり、馬場さんがいかに偉大だったかということですよ！

豪　馬場さんにしても、猪木さんにしても、いろいろ詳しい話を聞いてると内部で金の揉めごとは結構あるんですけど、世間を騒がす程じゃないんですよね。

山本　そうそう。ジャイアント馬場という人はクリーンな世界を創造するためにマット界全体に目を光らせて抑止力になってたわけ。「俺がいる限りはそういうことはさせない」と、目に見えない力で抑圧をしてたでしょ。それが、馬場さんが亡くなってからというもの、ガタガタになってきた。馬場さんがいれば、こんなことにはなってませんよ！

豪　じゃあ馬場さんがいたら館長は在宅起訴されてなかったということですか？

山本　というか、早く言えばね、馬場さんがいたら（急に小声になって）●●●は業界に入ってきませんよ。

豪　ダハハハハ！　早く言い過ぎですよ、それ（笑）。載せられないし！

山本　プロレス界には怖い人がいないしねぇ……。馬場さんも猪木さんも、そういう力が入ってこないように頑張っていたわけですよ。プロレスはそういう世界だったわけでしょ？　それが格闘技は非常にビジネスライクでしょ？

豪　規模も大きくなりますからね。

山本　そのへんでつけ込まれるスキが出来るでしょ、どうしても。怖いねぇ。

豪　山本さんも怖い世界で活躍してるじゃないですか（笑）。

山本　だからこそプロレスはいいなぁと、つくづく感じたよ。プロレスの場合も何か揉めごとがあると「この野郎！」「ふざけんな！」「ブッ殺してやる！」とか言うじゃない？　格闘技の世界の場合は、ある人が言ってたんだけど「埋めてやる！」って言われるらしいからねぇ。

豪　ダハハハハ！　あまりにも生々しすぎるわけですか（笑）。

山本　長州力が「墓にクソぶっかけてやる」とか言ってるじゃない？　あるいは前田日明が怒って誰かの襟首掴んだとか。かわいいもんだなぁと思ったよ。寸止めの世界が美しいというか懐かしいよねぇ。

豪　山本さんは、そういうプロレス的な接

し方に長年慣れ親しんできたわけですから、格闘技の世界で距離感を間違ってしまうことが多々あると思うんですよ。

山本　格闘技界は間合いが取れないな！

豪　正直だなぁ（笑）。

山本　プロレス界は寸止めだけど、格闘技界はフルコンタクトですよ。しかも顔面あり！　だから、俺はたとえプアーでも、しょっぱくてもいいから、俺はプロレスがいいんだよォォォ！

豪　以前、門馬（忠男）先生と話したときにも、「キックボクシングの世界なんか下手なことを書くと大変なことになる。それに比べたらプロレスはホントに自由な世界だ」って言ってたんですよね。風俗雑誌も下手なこと書くと監禁されたりするらしいし、芸能界もかなり怖いし。その点、プロレスってもの凄く自由なんですよね。山本さんが、その調子でやってて許されてるわけですからね（笑）。

山本　プロレスには書けないことが90％以上あるわけだけど、それでも少しは踏み込んで書く。それを許す姿勢が団体側にもある。ここでも、お互いがプロレスをしてるわけですよ！

豪　考えてみたら、プロレスってすごいですよね。ミスター高橋みたいな人が相撲界から出てきてたら、どうなるか。考えるだけで恐ろしいですから（笑）。たとえば、森下社長の件では山本さんも『夕刊フジ』（1／10付）で失言してましたけど（笑）。

山本　（妙に焦って）い、いや……。あれは……。

豪　（無視して）そこで山本さんは、「思い当たる節はまったくないが、『PRIDE』が、K―1や『Dynamite!』に押されて一時の勢いを失い、人気が下降気味だったのは事実。昨年末の福岡の興

月刊Y²談

行も空席が目立っていた」って、思いっ切り思い当たる節ばかり不用意に並べ立ててましたよね（笑）。

山本　（痛恨の表情を浮かべて）あれはぁ、事件が起きて、まだ情報が何もない段階で取材されたものだったからさぁ……。それも、あんなに名前が出ちゃうとは思わなかったわけ！　コメント出してる他の人は、みんな「事情通」って扱いになってるのに、俺だけ名前を出されちゃってるんだから！　失礼な話だよォォォ！（怒）。

豪　知名度あるのも考え物ですねぇ（笑）。

山本　友達から電話をもらってビックリしたよ。俺だけ名前が小見出しに抜かれてるんだもん！

豪　あの発言で各方面から怒られたらしいですけど、最近DSEが経営難だったと言われてるのは事実なんですか？

山本　いや、経営難とかじゃなしに、方向性が定まっていないというかさ。今年は、そういう意味で『PRIDE』にとって試練の年だったはずなんだよね。

豪　森下社長も自殺前日の会見で、「『Dynamite!』や『猪木祭り』が上位概念になってしまっているので、『PRIDE』というものをしっかり作っていきたい」と言ってたらしいんですよ。

山本　突然変異的に『Dynamite!』みたいなものが出てきてしまったことで、『PRIDE』の価値観が相対化されてしまったわけですよ。

豪　『PRIDE』自体が『PRE・Dynamite!』みたいになってきちゃったわけですよね。

山本　どんどん膨張していく世界なんだよね、格闘技界というのは。だから、最近はよく『週刊ファイト』の井上（譲二）編集長とも「プロレスは平和で豊かだよなぁ」ってしみじみ話してるよぉ。

豪　決して豊かじゃないんですけど、小さな幸せはいっぱいある気がしますね。

山本　それですよォォ！　経済的に豊かじゃないんだけど、精神的にホンワリしたところがあるから、豊かな気分を与えてしまうんだよね。お金があることだけが豊かさじゃないから。目に見えないものが豊かさなんだから！　馬場さんはそういうものを構築していったわけですよォォ！　これで俺の今年のテーマがわかった！　これからは「しょっぱい」「貧乏臭い」「プアー」なものを肯定することですよ！

豪　ということは、山本さんが1・2後楽園ホールで観戦してダメ出しした全日本や大日本も肯定するんですか？

山本　その2団体はね、ハッキリ言って暗い！　暗いのはダメ。しょっぱくてもプアーでも、明るかったらいいんだよぉ。

豪　つまりZERO―ONEみたいなのはOKだということですか。

山本　そうそう。陰のパワーじゃなくて、陽のパワーを発揮すれば救われるわけです。陰にいくとドしょっぱい、ド貧乏な世界に行っちゃうからね。

豪　ド貧乏って（笑）。

山本　格闘技界は資本主義の論理と一緒で、欲望を肯定するわけ。欲望の拡大を認めるということは競争の概念が入ってくる。そうすると勝者と敗者が出てきて、「勝ち組」「負け組」がハッキリしてくる。「負け組」は切り捨てられ、「勝ち組」だけが残っていく。プロレス界は競争概念がすべてじゃなくて「勝ち組」「負け組」も一緒の枠に入って残っていくでしょ。

豪　負けた人がいつまでも業界に残っていられる世界ですからね（笑）。

山本　そうそう（笑）。そのまま一つの生態系として残っていくからね。『PRIDE』やK―1はどんどん欲望を増幅させていくけど、それはやがて破綻へと導かれていくという典型ですよ。プロレスは成長してないし、膨張してないけど、破綻もしないから。

豪　都会で地上げしてるような危うさのある格闘技界と比べて、プロレスは細々と畑を耕してるというか。

山本　石井館長の脱税と森下社長の自殺によって、改めてプロレスの良さに気づかされるよね。

豪　都会で傷ついた人が、刺激のない田舎に帰ってくるような感じで（笑）。

山本　そう！　グローバル・スタンダードとか資本主義の波に呑みこまれない、小さな王国みたいなもんですよ！

豪　田舎の農村で、ひとり猪木さんだけが都会に出ようとしていただけで（笑）。

山本　（あっけらかんと）石井館長の脱税と森下社長の自殺によって、改めてそういうことが分かったから良かったんじゃないの？

豪　あ、それが森下さんの死の結論ですか（笑）。良くはないと思いますけどねぇ。

山本　みんなそう思ったと思うよ。特にプロレスマスコミの関係者はね。

豪　みんなかどうかは知りませんけど、去年からは想像もつかない展開ですよね。

山本　12月のK―1・GPの決勝戦を見てたら、もの凄い豪華客船みたいなイメージだったもんね。「これに乗っていれば安心だ」みたいな感じでさ。

豪　そしたら、それがタイタニックだったわけですか（笑）。

山本　クックックッ、そうそう！　氷山の固まりに激突して沈んじゃう。一夜に

してそんなことが起こるのか!? というくらいのことが起きたわけですよ。『ＰＲＩＤＥ』はまだ大丈夫だと思ってたら、今回の事件だし。見事な破綻だよ、これはァァァァ!

豪　どっちの団体も、この先どうなるかまったく読めないですよね。

山本　俺はもう嫌気がさしたな!

豪　そこまでハッキリ言わなくてもいいじゃないですか（笑）。

山本　みんな嫌気がさしますよォォ!

豪　どうしても、両団体に暗い影がついてしまうのは仕方ないでしょうけど。

山本　素直な自然な気持ちで見られないじゃない? 資本主義の社会ではクリーンに保つことがいかに難しいか、ということだよね。そんな中、1月10日のノア日本武道館大会に俺は大感動したよォォォ! 今までノアは1回しか見たことがなかったんだけどさ（かわいらしく）。

豪　あ、そうだったんですか?

山本　オレは「いいことも、悪いことも、記事には一切書かないでください」って団体側から言われてるから。

豪　そういえば山本さん、どこかで念書を取られたこともありましたよね?

山本　それはノアじゃなくて船木（誠勝）さん。引退試合のヒクソン（・グレイシー）戦に限っては書かないでくれということでね。それは1回だけだから。でも、ノアはなぜか知らないけど、ずっと「取材しないでくれ」と言われてたんだよな。だから、7000円のチケットを買って入りましたよ。そしたら……俺もいい勘してるなと思ったね（自信たっぷりに）。

豪　かなり盛り上がったみたいですね。

山本　もともとノアは俺の視界に入ってなかったから、どうでもいいやと思ってたんだけどさ。今回ばかりは「見ておかないとダメだ!」とピンと来てね。まあ、カードも何も知らなかったんだけど。

豪　ダハハハハ! つまり、炎武連夢とか蝶野（正洋）が出るのも知らなかったんですか!?

山本　うん（かわいらしく）。やっぱり、映画と一緒で、予備知識なしで行くのが一番いいんだということですよ。失望しなくていいからね。あの日は九段下から武道館まで坂を上がって行ったら……昔のムードそのままなんだよ!

豪　四天王時代の全日本プロレス武道館大会のような活気があったわけですね?

山本　そうそう。全日本プロレスが12月に『最強タッグ』の決勝戦を武道館でやったけど、8面ある客席の3面を黒幕で覆ってたんだよね。残りの5面もそれほど入りは芳しくない。全日本がそんな状態なのに、なぜノアが超満員になったか? それは昔からの全日本ファンが、馬場さんや元子さんがいなくなったことによって、そっぽを向いちゃったんだよね。つまり、その人たちの駆け込み寺がノアになったんだよ!

豪　ノアは全日本云々とは無関係に、前から都内の興行では地味なカードでも満員にしてきたから、蝶野と小橋の絡みや秋山と炎武連夢の絡みを用意した今回の武道館大会は埋まって当然だと思うんですけど……。

山本　（無視して）プロレスを難しく考えたり口論したりするような感じじゃない、新しいファンの人たちが武道館を埋めていたんだよね。そしたら豪ちゃん、そこにはかつての全日本プロレスが生き返ってたんだよォォ! 『紙プロ』とか『ＳＲＳ・ＤＸ』が、いろんなことに理屈をつけてガチャガチャ言ってるじゃない?「髙田がどう」とか「最強がどう」とか。そういうのは一切ないんだよォォ! あれだけ客が入るとレスラーもつられて、いいファイトをするんだよな。

月刊Y²談

豪　確かに客の熱って重要なんですよね。

山本　全日本の頃のようなドドドドって床を踏みならすような、蒸気を発するような地熱じゃないの。抑え加減な、暖かい床暖房のような地熱なんですよォ!

豪　それは居心地良さそうだなぁ（笑）。実際、試合も良かったんですか?

山本　特に蝶野が良かったねぇ。ノアに馴染んでたよ。蝶野もああいうファンの熱があると、いい試合をするんだね。

豪　自分のとこのドーム大会だと、毎回ハズしてばっかりなのに（笑）。

山本　新日本だと熱がないし、それに自分たちが客を引っ張っていかないといけないから。そういう面倒くさいことをしないといけないから、プロレスラー蝶野になりきれない部分があるんだろうね。ノアみたいな状況だったら肩の荷が下りてノリノリでしたよ! でも、ベストマッチとか名勝負とかいうんじゃなくて、心地いい試合だったね。客とレスラーがお互いの気持ちをキャッチボールできた心地いい空間だったわけです。名勝負という概念がもはや面倒くさいわけですよ。

豪　で、山本さんはノアの関係者に歓迎されたんですか?

山本　そこなんだよ! だってさ、豪ちゃん! 永源（遙）さんが向こうから嬉しそうに近づいてくるんだよ?「今日はよく入ったねぇ」って言ったら、「キミもたまには来なきゃダメだよ」って。やっぱりお客さんが入ると嬉しいわけですよ。じつはその日の朝に日本テレビに出たんだけど……。

豪　ああ、見ましたよ! そこで「森下社長はあまり女にモテるタイプじゃなかった」ってニヤニヤしながら言って、それもかなり問題になったんですよね（笑）。

山本　そうそう（消沈気味に）。永源さんがそれを「見たよーっ!」って。そうやっていい関係になれるっていうことは、つまりお客が入ってるからだよ!

豪　これで、山本さんもノアと完全和解に向けて動き出したんですね?

山本　だといいけどね。（リングアナの仲田）龍ちゃんも「2月8、9日のジュニア・タッグトーナメントを見に来て下さいよ」って言ってたもん。

豪　ほう、凄いじゃないですか!

山本　あの日、武道館にいたファンの人たちも賢いよね。年末年始に起こった様々なスキャンダルとは「私たちは関係ないよ」ということを知恵として持ってる人たちが、あのプロレスを楽しんだわけでしょ?「ホントに賢いのは君たちだぁぁぁ!」って叫びたかったよぉ（笑）。

豪　ダハハハ! ノアのファンは、山本さんにそう言われてもまったく嬉しくないでしょうけどね（笑）。

山本　それが森下さんの自殺と前後してるわけでしょ? なおさらプロレス回帰したくなるよ! まさかノアとの関係をリカバリー出来るとは思わなかったもん。

豪　この勢いでいけば長州（力）さんとも和解できるんじゃないですか?

山本　でもなぁ……。最近の長州さんは嫌だなぁと思ってさ。昔は『ファイト』はどこにいる!」って怒鳴ってた人が、今じゃ『ファイト』に「チケット情報載せてくれた?」って言うんだよ。豪ちゃん、長州さんがそんなことやっていいんですか?（かわいらしく）。それは長州力にあるまじき

行為ですよ！

豪　ダハハハハ！　まあ、ＷＪ旗揚げしていい人になったんじゃないですか？

山本　１枚でもチケットを売らんがために軟化したというのはねぇ……。

豪　最近は『紙プロ』にもＷＪからリリースが届くようになったから、きっと山本さんとの雪解けも近いですよ。

山本　背に腹は代えられないから、そういうことするわけでしょ？　そういう長州力にはなってほしくないんだよな！

豪　そんなこと言いながらも、いざ仲良くなったら山本さんは絶讃するんじゃないんですか？「山本、昔はいろいろあったな」みたいに言われちゃったりしたら（笑）。

山本　クックックックッ。でも、仮想敵は欲しいねぇ。だから、今度の３・１はノア（武道館大会）に行こうか、ＷＪ（横浜アリーナ大会）に行こうか悩むよぉ。まあ、ＷＪに行こうとは思ってるけどね。ちゃんとチケットを買って。

豪　こんな殺伐とした時代ですから、もうプロレス界に残されたテーマは「雪解け」しかないと思うんですよ。

山本　なんだか格闘技界の挫折によって、プロレス界は恩赦みたいな状態になってるよな（笑）。

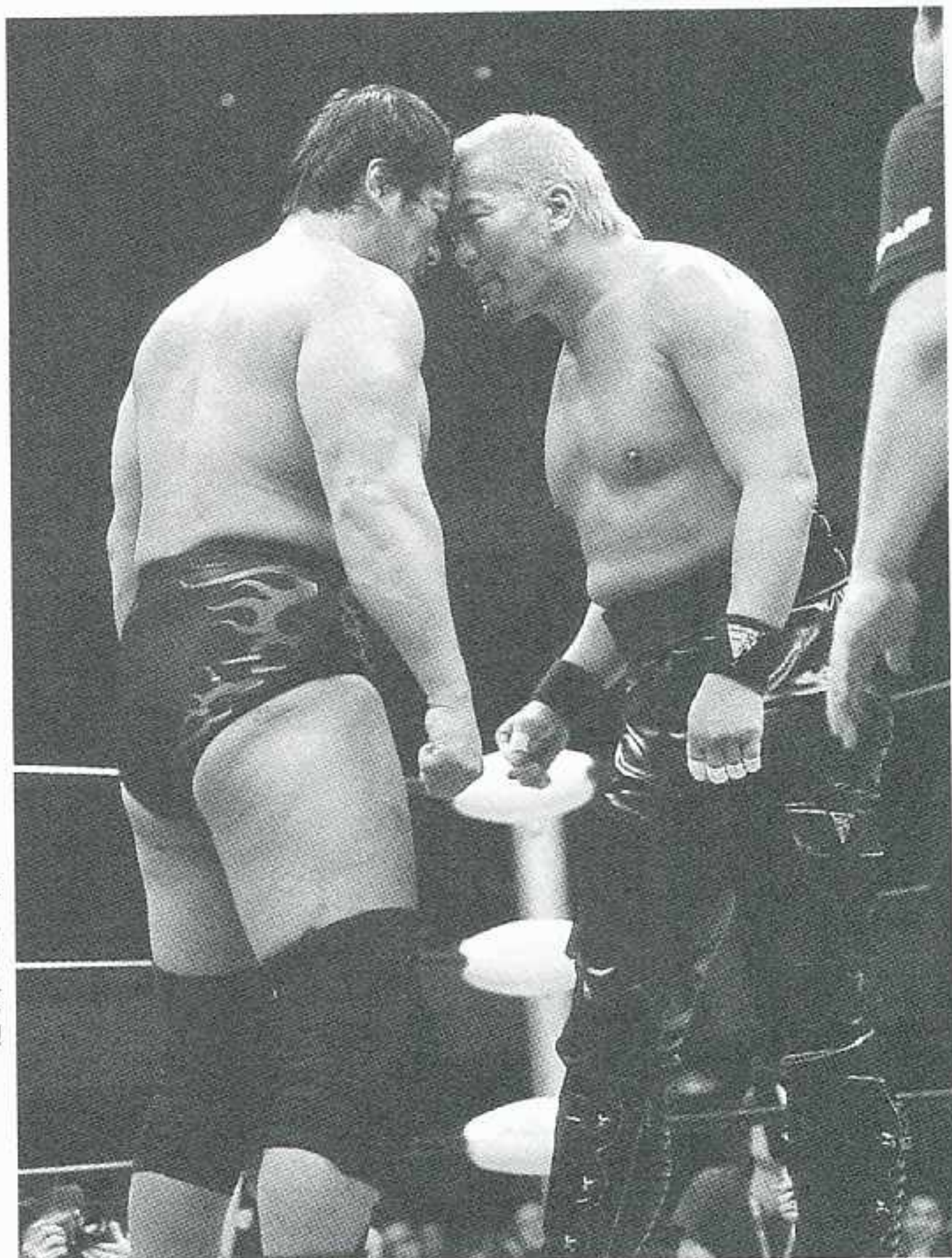
豪　ダハハハハ！　たしかにいろんな罪が許されてる感じはしますよね。新間さんと猪木さんの和解もあったし。あとひとつ大きな事件があれば、きっとミスター高橋ですら許されますよ（笑）。

山本　格闘技に危機が起これば、プロレス界に恩赦が出るわけだ！

豪　これはプロレス側の危機感の現れという気もしますけどね。もう、いがみ合ってる場合じゃないという。格闘技界ってなかなか和解できないじゃないですか？　揉めたら最後って感じで。

山本　そうだねぇ……。だから、馬場さんは偉いんだよ！　俺が記者生活の最後に馬場さんの懐に飛び込んだ理由がわかるでしょ？　救いの場を求めたというか、いろいろ揉めたこともあったけど最後に選んだのは馬場さんの懐だったんだよね。宇宙の懐というか、馬場さんの子宮の中に入りたいというか……。

豪　ダハハハハ！　あれは馬場さんの子宮に入ろうとしてたんですか！　ものすごくスケールのデカい胎内回帰願望ですね（笑）。

山本　新日本派で猪木派でＵＷＦ派で、さらにグレイシーもＫ―１も推したこの俺がだよ？　なぜ最後に馬場さんのところに行くの？　それは、行き着く場所がそこしかなかったわけよ！

三沢＆蝶野vs小橋＆田上は観客も、選手も熱く燃え上がった好試合！　この日、一番の歓声を集めたのは小橋と蝶野のヒリヒリするような絡みだった。視聴率は深夜にもかかわらず6.3％とハイスコアを獲得!!

豪　馬場さんが亡くなったことによって、山本さんは安住の地を失ってしまったわけですね。

山本　そう、さまよってるわけですよォォ！　格闘技に「プロレスを臓器移植して、プロレスを再生させようと思ったのに、このザマか？」と言いたい！

豪　面白くなると思ったんですけどねぇ。格闘技って、会社組織としてやっていくのには難しい世界なんですかね？

山本　いや、そこに関わっている人がピュアでもないし、イノセントでもないし、ノーブル（高貴）でもなかったんだよォォォ！　これ、書いていいから！

豪　ダハハハハ！　いいんですか、そんなこと書いちゃって（笑）。今度は、山本さんが『ＳＲＳ・ＤＸ』から弾き出されますよ（笑）。

山本　プロレス界の中には、ビジネスとして大発展させてやるという野望を持った人間はいないんだよ。

豪　猪木さんはそうじゃないんですか？

山本　あの人は、人と違ったことをやって世の中をビックリさせてやろうってことしか頭にないんだよね。別に競争概念があるわけじゃないから。そう考えるとスケールの小さい人たちの集まりなんだよね、俺たちは。勉強してるわけじゃないから、マーケティングの理論もビジネス用語もわかんないしね。あるのはプロレス言語だけですよ！　違う？

豪　それがいかに居心地いいかってことですよね。山本さんは『週プロ』編集長の座を追われたのが96年でしたっけ？　もう7年近く格闘技界をさまよい続けて、ようやくいまプロレスという帰るべき場所を見つけたんですね（笑）。

山本　長かったねぇ（しみじみ）。これを踏まえた上で、俺は今後どうしたらいいと思う？（かわいらしく）。

豪　実際、プロレスが今後これ以上に発展するかというと、正直難しいですよね。

山本　株で言えば、もう底値でしょう。そこに投資は出来ないんだけど「いいなぁ」とは思うよね。

豪　ダハハハハ！　いいんだったら、投資ぐらいしてあげればいいじゃないですか（笑）。今日の山本さんの話からいくと、今後のプロレスが進

ノアの武道館大会で「ホントに賢いのは君たちだ！」って叫びたかったよぉ（ターザン）

む道は『W―1』的な方向性より、古き良き時代を目指す方向性の方がいいということですか？

山本 『W―1』は、K―1や『PRIDE』とある意味、同じ線上にある新しいプロレスだから、厳しいだろうね。だから『W―1』とノアの武道館大会とは別物なんだよ。

豪 プロレス以上に格闘技界はしばらく厳しそうですけど、こちらはどうしたらいいんですか？

山本 今後、格闘技界では資本主義的に大きくなっていくところじゃなくて、『DEEP』とか『U―style』とか、ああいうところを応援しないといかんね。

豪 ああ、佐伯社長も激痩せしそうなくらい経営が大変らしいですからね。

山本 本来プロレスって想像力を媒体とした過剰性を意味する世界なんだけど、K―1や『PRIDE』は間違った過剰性をやるんだよ。

豪 ハリウッド大作みたいに大金をつぎ込んで大金を儲けよう、みたいな。

山本 その逆をいって小さく小さくなろうとしてる『DEEP』、『U―style』、あとは『ZST』？ そういうところを応援しなきゃいかんよ。佐伯社長に資本主義は感じないもんなぁ。……そう考えると、ここ最近ずっと沈黙し続けている前田日明は偉いですよォォ！ いまの前田には時代に背を向けた反逆者というか凄いパワーを感じるね。

俺は田村の子宮に入りたい！「小さなプロレス」を見つけますよオオオ！（ターザン）

一連のスキャンダラスな話題が暗い影を落とす2003年の格闘技界。果たして、今後も膨張を続けていくのか？ K-1の1月大会は中止、『PRIDE.25』以降の予定は白紙になってしまった。

豪 もうちょっとこのままの沈黙が続いたら、再評価が始まるかもしれないですよね。しばらくは何をやっても裏目に出る状態だったから、引っ込んでて正解だったと思いますよ。何もしないことで評価が上がるって凄いよなぁ（笑）。

――そういえば、年末の『ワールド・プロレスリング』の特番でも前田の試合が大々的に扱われてましたね。

山本 UWFとして新日本に上がってた頃の前田は面白いよなぁ！

豪 （ドン・中矢・）ニールセン戦なんて、いま見ても凄いですからね。シュート活字の田中正志とかが「あの試合は確実にプロレスだ」とか言ってるけど、単なるプロレス扱いするには不可解な動きが多くて、異常なリアリティがあるんですよ。

山本 結論的に「プロレスだ」と言ってもいいけど、あの試合でやってることはシュートだよ。

豪 ニールセンの暴れ方、尋常じゃないもんなぁ。

山本 今見てもホントに緊迫感があるもん。あの頃の新日本は「シュートだ、プロレスだ」と騒いでる連中に対して勝負を挑んでたんだよね。時代とか、我々に勝負を挑んでたんですよォォ！

豪 そう考えると、いまの新日本にはそういう闘いはどこにもないですよね？ むしろ「プロレスと格闘技は別物だと思ってほしい」っていう思いで試合してるわけじゃないですか？

山本 クックックックッ。情けないなぁ。

豪 そういうふうになっちゃったプロレスですけど、まだまだ優しい目で見ていこうということですか（笑）。

山本 豪ちゃんはどうなの？ ここ1ヶ月。石井館長の脱税と森下社長の自殺、それ以外のニュースが小さすぎるよぉ！

豪 健介がやっぱりWJに入団したっていうビッグニュースがあるじゃないですか！ 森下社長が亡くなったのと同じ日に報道されたから、プロレス界ってホントに幸せな世界だと思いましたよ（笑）。

山本 健介と永島（勝司専務取締役）さんのやり取りがあったよね？ わざわざアメリカまで行って会談してさぁ。

豪 笑っちゃうことに、その席にはなぜかテレコが置いてあるんですよね（笑）。

山本 あれは無防備だよな！

豪 でも、これから絶対に健介の再評価が始まりますよ。健介を見てると誰もが幸せな気持ちになれますから（笑）。あんなに無邪気で害がない人はいないですよ。

山本 でも、WJがやってるのは30年くらい前の手法だよぉ。

豪 それを迷わずやってるわけじゃないですか、業界のド真ん中を行こうとして（笑）。これから古き良きプロレスが復権するんだったら、そのド真ん中をWJが行く可能性もあるじゃないですか？

山本 いやぁ、付き合いきれませんよぉ（笑）。持っていき方が古いんだよなぁ。

豪 でも、山本さんと一緒にやった大晦日のイベントでも、いちばんバカ受けしたのは健介の話題でしたよね？ きっとファンのニーズはそこにあるんですよ！ ……そういえば、今日は大晦日のことを何もしゃべってないですよね？

山本 大晦日に何かあったっけ？

豪 ダハハハハ！『猪木祭り』ですよ（笑）。あの後、新宿で一緒にイベントやって「猪木さんはボケてる」だの、散々ボロクソ言ってたじゃないですか!?

山本 （しばらく考え込み）……あぁっ!! あんなに猪木さんが失態を繰り返したイベントはなかったねぇ。スネ相撲なんかやったりしてさぁ。

豪 「俺はスネている！ スネているからスネ相撲」ってことでしたけど（笑）。

山本 スネる、ひがむっていうのが猪木さんの二大特徴だからね。

豪　野村沙知代にビンタしたのが、あの日のベストバウトだったという声もありますね（笑）。ボクはTV観戦だったから、残念ながらビンタは見られなかったんですけど。

山本　ビンタされる瞬間に逃げるんだもん。猪木さんにやり返したりして。あれがサッチーのくだらんところだよ。そこですかさず左手でビンタを入れた、あの時の猪木さんはカッコ良かったね。瞬間的に感情が出るから。それ以外はゲートボールやってるような感じだったよ。

豪　ひどいこと言いますねぇ（笑）。（ボブ・）サップも、どうしてあんな試合をしちゃったのかなぁって感じでしたよね。関節技で勝つのなんて誰も望んでないのに。藤田（和之）もミルコ（・クロコップ）に負けた直後に「最強トーナメントをやる」とか言いだしてるし（笑）。

山本　もう「最強」とかいう概念自体がとっくに崩壊してますよ!

豪　ミルコの技術は進歩してましたけど、藤田に進歩は見えなかったですからね。

山本　今年の格闘技界は大変だろうねぇ。

豪　山本さんの予言を聞かせて下さいよ。ちなみに去年、「2002年はSｈｏｗがブレイクする」ってとんでもない予言を口にしてましたけど（笑）。

山本　「ブレイクする」と言った途端に沈んだからなぁ（笑）。あれは意地悪で言ったんだよ、ジェラシーを感じて。

豪　あれはジェラシーだったんですか?（笑）。2001年大晦日の『猪木祭』で、なぜかプチ・ブレイクしてましたからね。

山本　そのジェラシーをそのまま出すとカッコ悪いから、「ブレイクする」って言ったんだよな。そしたら、あいつは見事にコケてくれたもんな（笑）。

月刊Y²談

豪　ダハハハハ!　ブレイク・アウトしちゃいましたね、弾け散っちゃって（笑）。

山本　2003年はK―1や『PRIDE』や『Dynamite!』みたいな大イベントはやりにくくなるでしょ?　出来ないわけじゃないんだけど、暗い影が落ちて、心情的にやりにくくなってしまった。そうするとホンワリした感じの世界の中に回帰していくしかないんだよォォ!　これは時代が逆行していくというわけじゃなく、とりあえずそこに逃げたいという気持ちがあるね（笑）。

豪　新たな子宮に逃げ込みたいですか?

山本　そう!　ヤバいところには行きたくない!!　馬場さんみたいなデカい子宮じゃなくていいから、窮屈でもいいから入りたいんだよォォ!!

豪　ダハハハハ!　「ボクも入れてぇ」って（笑）。次は誰の子宮がいいですか?

山本　（即座に）田村（潔司）ですよ!

豪　た、田村の子宮に入りたいんですか?　なかなか入れてくれなさそうだなぁ（笑）。

山本　いや、あの人はすべてがパラドックス（逆説的）な人だから。去年12月のZERO―ONE両国大会で、偶然田村に会ったの。なぜここにいるのかなぁと思ったら、『DEEP』の佐伯さんが連れてきてたんだよね。そこで俺が「青春の終着駅!」って声を掛けたら、田村が動揺してるんだよねぇ。

豪　嫌な声の掛け方しますねぇ（笑）。

山本　「そんな大きな声で言わないでください」って（笑）。その姿のかわいいこと!　あの人、ピュアですよ!

豪　いやぁ、ピュアじゃないと思いますよ（笑）。

山本　野性的にピュアな感じなんですよ。言ってることはトゲがあるし、人を困らせるし、手こずらせたりすることで自分のアイデンティティを保ってるような部分もあって面倒くさい人だけど、じつはそれってピュアの裏返しじゃないかと思うよ。やっと田村の気持ちがわかった気がするな。

豪　わかった!　山本さんは「赤いパンツの子宮好き」なんですね（笑）。

山本　そうかもしれんねぇ（笑）。プロレスラーって、ちょっとスネたようなポーズを取るじゃない?　人の話を聞いてないようなふりをしながら、じつは裏では「あ・うん」の呼吸で会話できてるという。そうか、馬場さんと田村は似てますよ!

豪　赤いパンツを履いて、嫌味なことを言いまくって（笑）。

山本　「こっちは何もないんだよ」って言いながらも、馬場さんは人が寄ってくるのが嬉しい人だったんだよね。田村は馬場さんみたいに懐は広くないけど（笑）、人が来たら嬉しいみたい。なぜかというと饒舌でしょう?　あの饒舌さは、誰かに来てほしいわけですよ。語りたいわけですよ!　一生懸命しゃべってるヤツは愛があるということです!

豪　その話をまとめると、饒舌に語る山本さんにも愛があるってことですね（笑）。

山本　そう、愛に満ちてるわけよ!　でも、その愛がさまよってる。

豪　さまよっている人たちはみんな田村の子宮を目指せ、と（笑）。今年は小さな幸せを探す旅にでるわけですね?

山本　NHKで『小さな旅』という番組をやってるでしょ?　さびれた港町とか八ヶ岳の麓の村に行くわけですよ、日曜日の朝の呑気な時間に（笑）。あれと同じで今年は「小さなプロレス」を見つけるのがテーマですよォォ!

【1月14日、東京・「おとうふ来」にて収録】

※胎内回帰願望に支配されて小さく小さくなろうとしていたこの日のターザンと、『W―1』中継でファンタジー・ブースに座って「ヒース・ヒーリングのお尻はかわいいねぇ」と言い放ったターザンと、一体どちらがホントのターザン山本なのだろうか?　この対談の原稿を読んでもらい、400字の原稿を書いてもらうことにした。妄想が過ぎ、その根拠のない妄想をしゃべりまくり、それを誰かに怒られ（シュン）、さらに対談2日後に妄想とは正反対の拍子抜けするような真実を知り、ターザンのテンションも普通に戻ったようだ。

ターザン山本の　ど　気分次第でせめないで

この対談が終わった2日後、私の中で状況は一変した。もし、もう1回、吉田豪ちゃんと対談したら別の展開になっていただろう。しかし、それはそれ、これはこれで面白い。人はいつもその時々の気分で生きているもの。その気分こそが真実だからだ。まあ、それだけ私は『PRIDE』の森下社長の自殺には、ショックを受け動揺したということである。今はもうその動揺はない。自分の中で解決済みである。というわけで頭がすっきりしたところで、我々は今、何をすべきなのか?　それが問題だ。矛盾したものを内なるエネルギーとして、堂々と生きよ。それによって他者を刺激する人間になれだ。プロレスと格闘技、メジャーなものとマイナーなもの、ド真ん中と辺境、マクロなものと小さきもの、サド的なものとマゾ的なもの、ダイアローグとモノローグ。この相反するものすべてを矛盾パワーとして自らの活力とする。もちろん愛と裏切りという力学を忘れるなよ。押忍!

『PRIDE』森下社長、自殺 3・16『PRIDE.25』後の予定は白紙に……

すでに専門誌、あるいは一般誌で森下直人・DSE社長の衝撃的な自殺を知った方も多いだろうと思う。既報の通り、森下社長は個人的な交際関係のトラブルから突発的な死を選んだようだ。

そもそも自殺前日の1月8日、『PRIDE』を主催するDSEは新年のマスコミ懇親会を行い、その席で森下社長が「『PRIDE.GP』を3年ぶりに開催する」と発表して意欲的な姿勢を打ち出したばかりだった。しかし、日付が変わった9日の午前0時45分頃、森下社長は帰らぬ人となった。

9日の夕方、DSE常務取締役・榊原信行氏が事務所で会見を行うと一般紙を含めて100人以上の報道陣が集まったのは、この事件がもたらした衝撃の大きさを物語っている。DSE側の発表で「なんら事件性はなかった」こと、「女性との別れ話から口論になった末、バスルームに入った森下氏がなかなか出てこないので、不審に思った女性がドアを開けたところ、森下社長が浴衣の帯で首を吊っていた」ことなどが明らかになる。遺体は地元・名古屋に運ばれ、密葬が行われた。

この知らせを聞いた『PRIDE』エグゼクティブ・プロデューサーのアントニオ猪木は13日、成田空港で会見を開き「正直言って言葉がないというか。俺がいつも言う『一寸先はハプニング』じゃないけど、とんでもないハプニングが起きてしまった」とコメント。『PRIDE』の組織自体については「いままで動かしてきた人たちがいますんでね。森下さん自身が社長であっても、それほど体制に変わりはないだろうと思います」と現行の体制は揺るがないことを強調して、アメリカへ飛び立っていった。

16日、東京・青山葬儀場にて森下社長の葬儀が行われた。11時30分頃、入場式でかかるおなじみのテーマ曲『PRIDE』が鳴り響く中、森下社長の遺骨が会場に到着。午後1時から始まった葬儀には国内外から約2000名弱の参列者が集まった。高田延彦、桜庭和志、藤田和之、吉田秀彦、高山善廣ら『PRIDE』で活躍してきた日本人選手、島田裕二レフェリーや和田良覚レフェリーといったスタッフ、海外からはドン・フライ、ヴァンダレイ・シウバ、ゲーリー・グッドリッジ、マーク・コールマン、ケビン・ランデルマンといった選手たちも駆けつけた。さらに新日本プロレスからは坂口CEOと藤波社長、全日本プロレス武藤社長、UFO川村社長、極真会館・松井章圭館長、WJ永島専務、みちのくプロレスのサスケ社長、バトラーツ石川社長、『DEEP』佐伯代表といった各団体のトップも参列し、さらにはファンも献花を行った。

1月8日、都内ホテルでマスコミ懇親会を行った森下社長は「『PRIDE』こそが世界一の総合格闘技だと言われるようにしていくつもり」と語り、『Dynamite!』や『猪木祭り』がファンの中で上位概念になっている現状を打破するための抱負を語ったばかりだった。突然の訃報にマット界は大きな衝撃を受けた。

明るい爽やかな笑顔がトレードマークだった森下社長。バトラーツのパンフレットには、自らが『PRIDE』の広告塔として度々登場して好評を博していた。上の図版は『バトラーツ ヤングジェネレーション・バトル2001』のパンフレットに、小泉総理のパロディで登場したときのもの。

「森下さん、残念です」時折、言葉を詰まらせながら「あなたの遺志を絶やすことなく、選手たちや列席の方々の力を借りて次の時代の『PRIDE』を切り開いていきたい」と高田延彦が弔辞を読み上げる。

葬儀後、各選手たちが出すコメントは、どれも森下社長の人望の厚さを物語っていた。グッドリッジは「友人のようなつき合いをさせてもらっていた。個人的にウェディングを開いてもらったり、家族ぐるみのつき合いをしてたのだが」と落胆の色を隠せない。「偉大なリーダーを失ったよ」とフライは自らの悲しみをそう表した。ランデルマンは「彼のためにも闘い続けていきたい」と決意を表明。「『PRIDE』を世界一の格闘技の舞台に！」という森下社長から託された希望を胸に、選手たちは『PRIDE』を支える決意を新たにしたようだ。

しかし、DSE常務取締役・榊原氏は3月16日の『PRIDE.25』は、森下社長の追悼興行として予定通り開催することを発表したものの、4月以降のスケジュールは、ひとまず白紙となると発表した。「なぜ森下が、このタイミングで旅立たなければいけなかったのか、というのは、我々全員疑問に思っています」と、戸惑いを表明した榊原氏。それは誰もが同じ気持ちだろう。

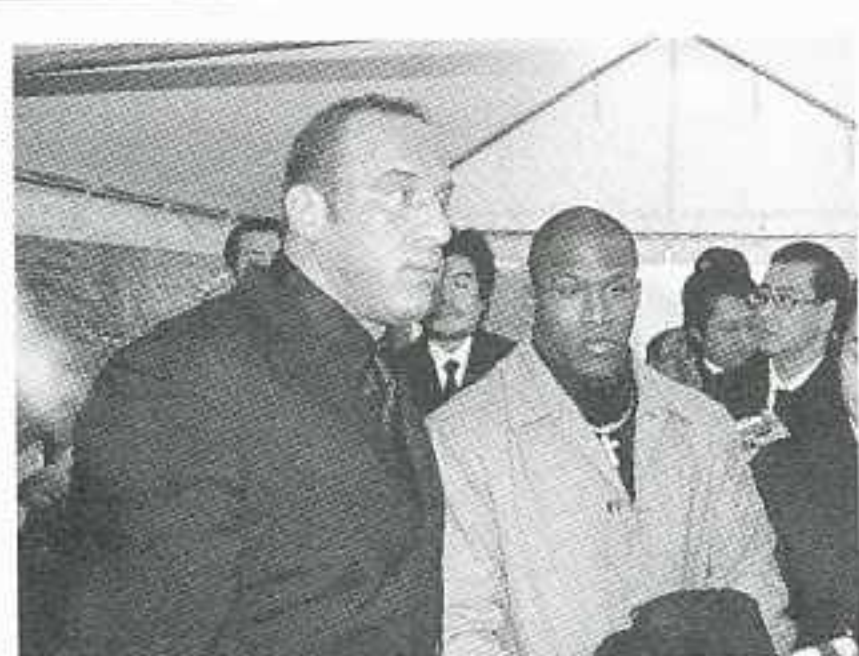
残された者たちは、これからはDSEが再建に向けて頑張っていくのを見守ることしか出来ない。

森下直人氏の御冥福を心よりお祈りします。

（編集部）

1・16 青山葬儀場 森下社長 社葬

祭壇いっぱいに花が飾られ、中央に森下社長の遺影。選手・関係者はこの遺影の前で、森下社長の遺志を受け継いで『PRIDE』を世界一の総合格闘技の舞台にする決意を新たにした。この日の葬儀はドリームステージエンターテインメント社葬として行われた。

参列者以外の選手・関係者・著名人からも花や弔電が届いていた。『PRIDE』という夢の舞台に、そして森下社長に関わった人々の多さに改めて驚かされる。森下社長という業界の中核をなす会社のトップを失うことによる損失は大きい。

海外からも選手が駆けつけて、森下社長の葬儀に参列した。『PRIDE』ミドル級王者シウバは弔辞も読み上げた。ヘビー級王者アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラからは弔電が届き、読み上げられた。

DSE常務取締役・榊原氏は葬儀後に「代表取締役が世を去ったという状態は、企業としては死に体かもしれません」とコメント。しかし「企業としての再生」「『PRIDE』の存続」に全力を尽くすと表明した。

「紙の新聞」SPECIAL

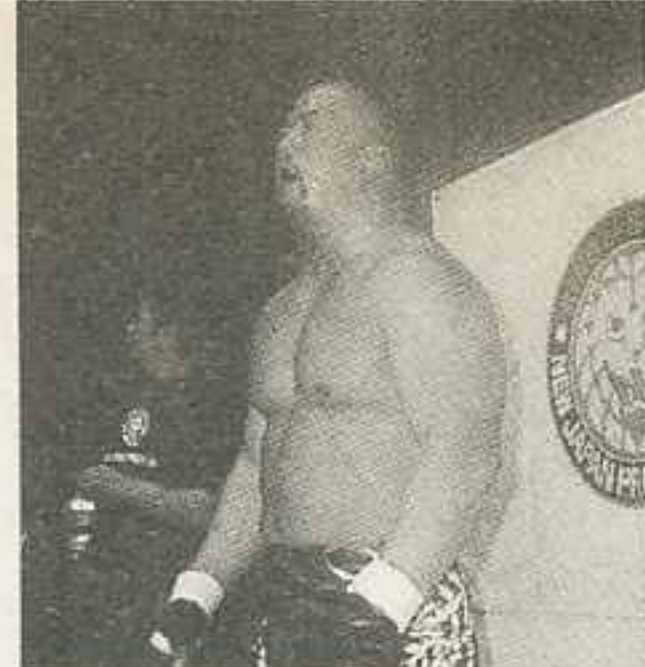
語録で振り返る マット界2002

あれは口が滑っただけ！

構成／堀江ガンツ designed by matsu(Two three)

今年もやってきました『語録で振り返るマット界2002』。「事件の数だけ名言あり」をモットーに、昨年、本誌人気コーナー『紙の新聞』を賑わせたドラゴン、健介、川村社長らの素晴らしき名言・迷言の数々を一同に集結！ ここにベストオブ語録集が完成した！

ヴァー!!（佐々木健介）

■1月4日　東京ドーム　小川直也vs佐々木健介、不透明決着！

ある意味、健介イヤーとなった2002年は、やはり迷言も健介発言からスタートした。1・4ドームの目玉として組まれた健介vs小川直也は、破壊王vs小川のような殺伐とした試合を期待されながら、結果はほとんど展開らしい展開がないままあっけないノーコンテストに終わり、2001年の「ドラゴンストップ」に続き2年連続ドームは暴動寸前の騒ぎに。この単なる不祥事を「熱い新日本が帰ってきた！」と打つ『週刊ゴング』も素晴らしいが、ドラゴンですら「我々は殺し合いをしているんじゃないんだ！」と犬語で釈明できたにも関わらず、「ヴァー！」という意味不明な雄叫びしか発っせない健介はやはり抜群。ネット上では、この「ヴァー」が「正直、スマン！」に続く流行語となったのは言うまでもない。

今年からは実数に近い数字を発表します。（新日関係者）

■新日本プロレス東京ドーム大会、史上最低動員記録達成！

毎年毎年「観衆・6万人」などという大本営発表を続けてきた新日ドーム大会が、この日はなんと例年から大幅減となる5万1500人と発表。これに新日本が敢然と異を唱えた！　翌日のスポーツ紙は「ドーム史上最低動員」とこぞってかき立てたが、なんでも「今年から実数に近い数字を発表」したために、この数字になったという。おそらく前年10・8ドーム大会で6万1500人と発表したところ、アントンに「酷い水増し」とバラされた笑撃事件があったことがこの要因であろうが、となると「ドームに6万人が集まった、これは事実なんです！」とパーマ頭を逆立てながらアントンに反論していたドラゴンは、いつものようにピエロにされたのであった。

この時期になると出てくる話！（藤波辰爾）

■1月15日　ケンドー・カシン、新日本との契約更改を保留！

思えば、新日本分裂騒動の先駆けとなったカシンの契約保留。交渉に当たった「悩める若者」発言でお馴染み倍賞取締役は「無理に引き留めることはしない」と、なぜかアッサリ退団を容認するような発言をし、その後、事務所に到着しこの件を聞かされたドラゴン社長も「この時期になると出てくる話！」と、「いつものこと」とばかりに逆ギレ。退団騒動が「いつものこと」じゃ、明らかにヤバい気がするが、お家騒動が日常化しているのが迷走・新日本なのだろう。そして、この危機管理能力皆無の呑気なドラゴン対応が数日のウチに大量離脱へと発展するのだった。

いま初めて知った。信じられない。裏で話ができているんだろう。（佐々木健介）

■1月18日　武藤ら新日本離脱正式決定！

遂に表面化した武藤らの新日大量離脱。その翌日、たまたま契約更改のため事務所に訪れ、この大ニュースを報道陣に知らされた健介は「いま初めて知った。信じられない」と絶句（破壊王は「武藤ちゃんが健介なんかに言うわけないだろう」ともっともなツッコミ）。健介は、その場で渡されたスポーツ紙を食い入るように立ち読みするという、ドラゴンばりの情報収集を行った。それにしても選手大量離脱をファンより遅く知ったことがわかり、改めて新日内で相手にされていないことが判明した健介。「裏で話ができているんだろう」と、10ヶ月後にそっくりそのまま自分が言われることになる不用意発言を真っ先に口にしたりと、やはりさすがとしか言いようがない男なのであった。

（新日離脱の）俺の気持ちを止められるのは、中西のマッケンローぐらい。中西の〝超プロレス〟が見られないと思うと……。

【「週刊ゴング」902号】

俺は親友の中西が、新日本を退団して全日本に移るって噂を聞いたから追随した。ところがその噂はガセだった。中西には最後の最後まで騙された……。一体、どうしてくれるんだ!?（ケンドー・カシン）

【1月21日付「東京スポーツ」】

■ケンドー・カシン、新日離脱を語る！

マット界を揺るがした大騒動も、カシンにかかれば単なるネタのひとつにすぎないのか……。新日が上へ下への大騒ぎの中、カシンは例によってエスプリきかせすぎの中西ネタを披露。特に〝超プロレス〟表現は秀逸。

迂闊なことはいいません。ただ、納得いかないのは選手に知恵をつけている者がいること。国会議員の馳浩！（藤波辰爾）

■1月25日　ドラゴン、武藤らの離脱に激怒！

「分裂問題」が発覚して以降、問題が問題だけにお得意の不用意な失言をさける為か、一切のコメントを控えていたドラゴン。しかし、この日緊急帰国したアントンと会談し、今回の件は「引き抜き」との認識で一致すると、突然強気になり「正直、ハラワタが煮えくり返っている。全面戦争です！」と叫び、突如ダーク・ドラゴンへ変貌！　さらに「うかつなことは言えないけど」と前置きした上で、「ある国会議員……まあ馳浩が裏から知恵をつけてるのは明白」などと実名を挙げてうかつな発言を連発！　健介という最大のライバル出現も、まだまだ「失言王」の座は譲らないドラゴンであった。

アホの話はキリがない。「チ●カス！」って書いとけ！（橋本真也）

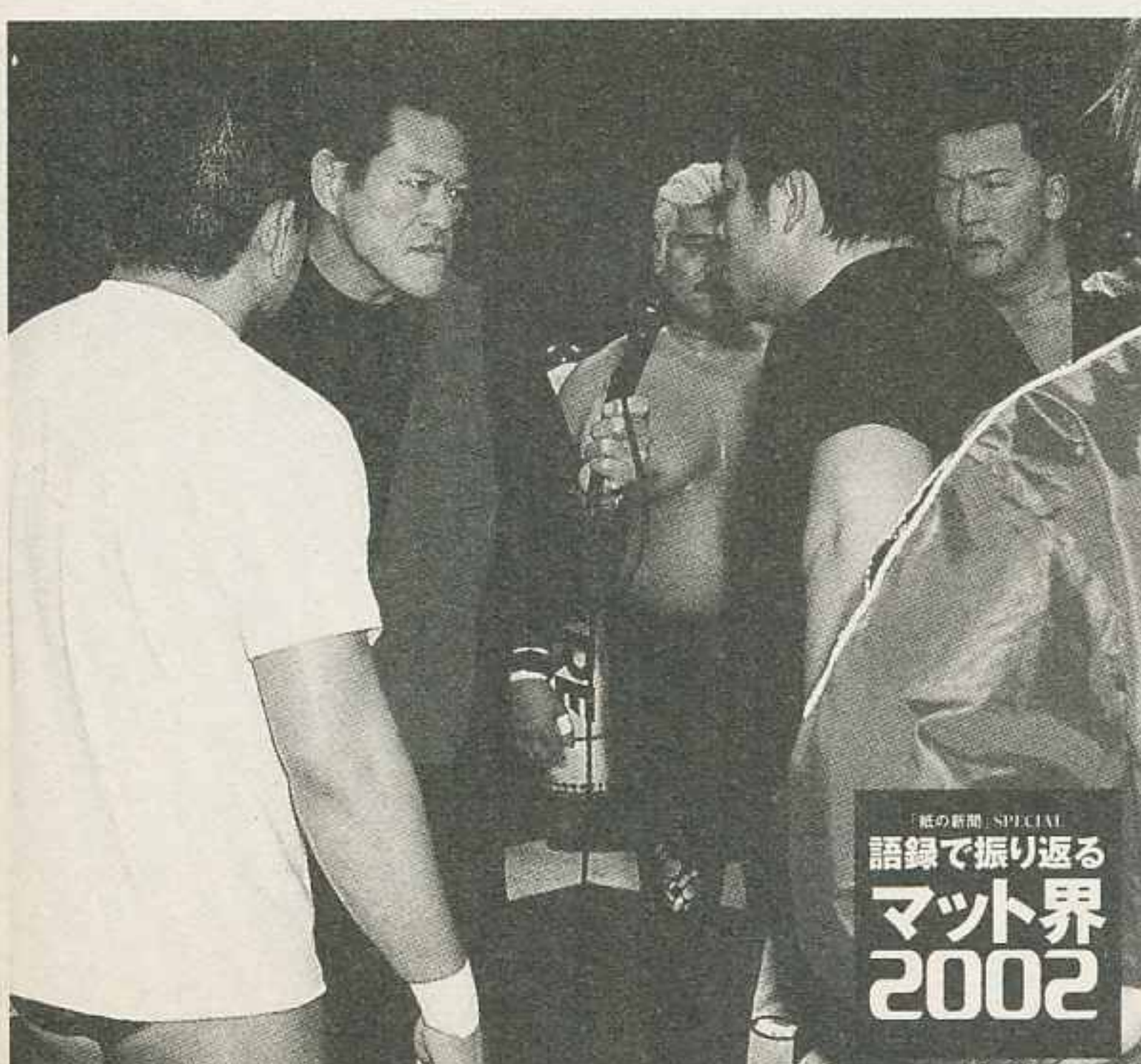
■破壊王、蝶野と武藤にエール。そして健介には……

同期であり、闘魂三銃士の同志である武藤の新日本離脱に、この1年前新日本をクビになった破壊王が、「（武藤には）破壊王の称号をあげたい」と珍エール。さらに新日に残る蝶野には、「蝶野が新日本を掌握して、対外的な面でもリーダーシップを発揮したらすげぇ面白いと思う」と蝶野政権樹立を進言。しかし、健介に対しては「まぁ、アホの健介じゃダメだけどな」「『チ●カス！』って書いとけ！」と酷い発言。ここまで言われる健介に逆に幻想が生まれるほどであった。

……………（なんだか凄い顔で）怒ってますすよ！（「誰にだい?」と聞かれ）全日に行った武藤です!!（中西学）

（一瞬絶句）。まあ、オメエはそれでいいや。（アントニオ猪木）

■2月1日　北海道立総合センター（きたえ～る）　名言・迷言続々誕生！　2・1札幌事変

武藤一派離脱後、〝新日本の神〟アントニオ猪木が、リング上で蝶野へ「これからお前はただの選手じゃねぇぞ」と、異例の〝現場監督〟就任を言い渡した政変劇、通称2・1札幌事変。主力全選手をリングに上げてのアントンの「マイクによるプロレス」は、早くも伝説となっている。中でも「俺は怒っている！」というアントンが、各選手に「怒ってるか!?」と聞いてまわる〝闘魂問答〟の面白さはビデオテープに保存版ラベルをすぐさま貼りたいほど。そして、ここでもやはり最高なのは中西学。アントンの問いかけに、怒ってるのかバカなのか境界線があいまいな凄い表情で「怒ってますすよ！」と叫んだ中西は、「誰にだい？」と聞かれると、さっき猪木が「武藤、馳がどうしようと、そんなことはどうでもいい」と言ったばかりにも関わらず、堂々「全日に行った武藤です！」と力強く断言。これにはアントンも一瞬絶句したが、すぐに「まぁ、オメェはそれでいいや」とバカ負け。アントニオ猪木でも許容不能な中西の超人類ぶりに改めて脱帽だ。

「紙の新聞」SPECIAL　語録で振り返るマット界2002

あっぱれ破壊王劇場

ぼ、ボクはぁ、自分の明るい未来がみえませーん!（鈴木健想）（冷たく）見つけろ、テメエで!（アントニオ猪木）

そしてもう一人、永遠に未完で終わりそうな大器・鈴木健想もやはり2002年マット界流行語大賞入選確実な珍言で期待にこたえてくれたのだ。アントンに突然マイクを向けられると「明るい未来が見えませーん」と、なぜか「怒ってる・怒ってない」にまるで関係ない泣き言を言いだす健想。その後、伝説のユニット「スイング・ロウズ」を結成→あっという間に解散を経て今年新日離脱濃厚だが、WJに「明るい未来」を感じる、その感性はさすが健想と言わざるを得ない。

すべて予想通りの展開!（藤波辰爾）

■2月9日　後楽園ホール　武藤、小島、カシン全日本に登場

新日離脱後、その動向が注目されていた武藤、小島、カシンが遂に全日本の会場に登場!　このニュースを（たぶん東スポで）知ったドラゴンは、「すべて予想通りの展開!」と、誰もが予想できたことを巨大な鼻の穴をふくらませながら堂々断言!　ダーク・ドラゴンに変貌しながら自らの予知能力を誇らしげに語るドラゴンであった。

もうカウントダウンはしません!引退したら2度と復帰もしません!!（藤波辰爾）

■2月16日　両国国技館　ドラゴンがまたしても引退宣言!

ドラゴンがまたしても引退宣言!　この日、越中と組んで棚健と対戦するも敗れたドラゴンは、試合後、ボー然とした表情で「決断の時が来たのかな。こんな調整不足でリングに上がるのはファンにも失礼だから」「会社が大きくなるためにもどちらかに絞る必要がある」と、いまさらながら社長とレスラーの二足の草鞋に限界が来たことを明かした。まぁ、今回もまた引退撤回してコンニャクぶりを発揮するだろうと誰もが思う中、「もうカウントダウンはしません!　引退したら2度と復帰もしません!」と固い決意を表明するドラゴン。しかし、「最後の試合はジュニア全盛期のような身体を作ってから」と、永久にできっこない課題を自らに与え、物理的に引退不可能にするという姑息な手段を忘れないドラゴンであった。

あのブリッジでゴッチさん納得するのかな?（ケンドー・カシン）

■2月26日　中西学、ゴッチ入門。

新日ファンが長年大事にしてきた部分を踏みにじった大罪、2002年度ワースト・アングル大賞をさしあげたい〝超人〟中西学のゴッチ入門。前田日明ならずとも「ゴッチさんに謝れ!」と言いたくなるが、天才・中西は、ゴッチの自宅を訪ねて2時間ばかりゴッチの話しを聞いただけでゴッチ式ジャーマンの極意の修得したという。この新日による新日イズムのセルフ・パロディーとしか言いようがない一件に、やはり中西の親友・カシンがツッコミを入れてくれた。中西のゴッチ入門を聞いたカシンは「あのブリッジでゴッチさん納得するのかな?」と、まずはもっともな指摘。それでも「これからはバカをバカって書かないでください。確かに頭は悪くても、彼はオリンピックに出たっていう誇りもあるし。わかんないこととかあったら全部中西君に聞いてほしい。漢字とかはダメですよ。義務教育レベルも、ついていけるかどうか……」と、旅立つ親友にエールを送った。

あれは口が滑っただけ!（藤波辰爾）

■3月4日　ドラゴン、やっぱり引退撤回

2・16両国で、遂に引退を表明したドラゴン。これまでも屁理屈をつけては引退を撤回&先延ばしをしてきた男だけにもはや誰も信用していなかったが、この日、大方の予想通り「あれはつい口が滑っただけ」と恒例のコンニャク撤回を披露した。さらにドラゴンは、6月で任期満了となる社長の座についても「僕は自分からギブアップしない男です」とずうずうしくも衝撃のアイ・ネバーギブアップ宣言!　そして最後は5・2ドームを見据えて坂口会長との還暦対戦までブチ上げる始末。ゴーゴードラゴン暴走列車はブレーキが完全に壊れたようだ。

万が一の大事に備えて、選手でいたい気持ちもある。（藤波辰爾）

■3月13日　ドラゴン、今度は引退行脚宣言

3月4日に「口がすべっただけ」という、凄まじい屁理屈でまたしても引退を撤回した〝ミスター迷走〟ドラゴンが、舌の根も乾かぬ内に今度は「やっぱり引退」宣言!　全国各地のファン、関係者に引退を報告するという、引退全国行脚をブチ上げた!　2・16両国で「カウントダウンはやりません!」と力強く言っていたにも関わらず、さらにタチの悪い引退全国ツアーを開催しようというのだから、さすがはドラゴン。その図々しさは本物だ。さらに「武藤たちの大量離脱のように、万が一の大事に備えて、選手でいたいという気持ちもある」といまだ未練たっぷりで、一向に踏ん切りがつきそうにないコンニャクぶり。そして引退問題は、この発言を最後にやっぱりうやむやになったのであった。は〜、カックン。

（長州の新団体設立は）ない!長州と一昨日話したら、何もそういうことはないと言ってたよ。（藤波辰爾）

■3月29日　ドラゴン、長州新団体設立の噂を断固否定!

あの2・1札幌事変を最後にシリーズを欠場、事務所にも出社していないことから、この時期から「新日本退団→新団体設立」の噂がまことしやかに流れていた長州力。そんな中、我らがドラゴンがこのきな臭い噂を一蹴した。「（長州の退団は）ない!　長州と一昨日電話で話したら『何もそういうことはない』と言っていたよ」そう自信満々に言い放つドラゴン。しかし、結果は離脱→WJ設立となったのはみなさんご存じのとおり。そもそも普通に考えれば、長州が電話でアッサリ「辞めるよ」なんて言うわけないのであって、長州発言を真に受けたドラゴ

ンがまたしてもバカを見る形になったのだ。ドラゴンが否定することはすべて実現する、そんな新日本プロレスのジンクスはここでも生きていた。

お面被って出てくんな!（鈴木みのる）あのファンの声が今日の答えだ!（エル・ソラール）パンクラスの連中は技術もない、人気もない。なんにもないな。（ドス・カラス）

■3月30日　愛知県体育館　パンクラスvsルチャ、仁義なき抗争勃発!

メキシコ・ルチャ・バレトド軍団vs日本選抜の5対5バーリ・トゥード戦という、佐伯イズム爆発カードが組まれた、この日のDEEP。結果はバーリ・トゥード初心者であるルチャ軍団が予想通り5戦全敗を喫したわけだが、内容的にはルチャドールたちのハートの強さばかりが目立つ「ビバ、メヒコー!」という言葉以外出てこない試合が続出した。中でも強烈な印象を残したのは、パンクラスの〝キャッチレスラー〟鈴木みのると、47歳のベテラン・ルチャドール、エル・ソラールの一戦。キャリアで勝る余裕からか距離を取りながらカウンターの打撃を入れようとする鈴木に対し、ひたすらパンチで前へ前へ出る積極的な闘いぶりを見せるソラール。ところが鈴木に組まれると故意か偶然か、ソラールのヒザが鈴木の股間を2度直撃しソラールの反則負けとなってしまった。しかし、なぜか館内は「ソラール・コール」一色!　それに気をよくしたソラールとセコンドのドスカラスは、まるで勝者のようにコーナーに駆け上がり、観客にアピールし始め、それに怒ったパンクラス陣営がリングに雪崩れ込み、リング上は大混乱に陥った。試合後、怒り心頭のみのるは、「お面被って出てくんな!真剣勝負を舐めるな!」と、常日頃から〝プロレスラー〟を自称している男とは思わない発言を連発。そしてその8ヶ月後に〝お面〟を被ったライガーとパンクラスのメインで闘うことになるのだから皮肉なもんである。とりあえず、ビバ、メヒコ!

所属選手をランク付けし、あいまいだったタイトル戦の挑戦資格を明確化する（蝶野正洋）

■4月5日　新日本プロレス、ランキング制導入

そういえば新日本プロレスのランキング制度導入、あれって一体なんだったんだろう。「スポーツ界におけるプロレスの認知度アップ」を目論む、〝現場監督〟蝶野が「所属選手をランク付けして、あいまいだったタイトル戦の挑戦資格を明確化」するために導入したこの制度は、この日から「IWGPランキング査定試合」をスタートさせたわけだが、そんな理想とは裏腹に、この日のメイン安田vs永田のIWGP戦終了後、高山善廣が新王者・永田を急襲。5・2ドームでランキングとは無関係である高山の王座挑戦がアッサリ電撃決定してしまい、ランキング制度はなんとスタート初日で有名無実化してしまうという、迷走新日本を象徴する制度となってしまったのであった。は〜、カックン。

「紙の新聞」SPECIAL
語録で振り返る マット界2002

ノア旗揚げ2年間の闘いの激しさは、新日本30年の歴史以上！
（三沢光晴）

■4月8日　蝶野vs三沢決定

さすがにそれは言い過ぎだと思う。

今の新日本の会場こそ、若者たちの最高にオシャレなデートスポットとして最適なのに……。
（永田裕志）

■4月12日　高山、永田戦を前にデートを理由に新日本後楽園来場拒否

高山、永田の誘い断る！　IWGP王者・永田裕志が、5・2ドームでの対戦を前に高山善廣に4・16新日本後楽園大会への来場を呼びかけたが、高山はテレビ番組内で「デート」を理由にこれを拒否。「勇気があるなら来て下さい」と、チケットを送った新日本に対して「勇気はあるけど、その日はデートなので行けません。裕志君ごめんね」と、アッサリ断ってしまった！　これを聞いた永田は「今の新日本の会場こそ、若者たちの最高におしゃれなデート・スポットとして最適なのに……」と、ガックリ。それにしても、新日の会場は「若者たちの最高におしゃれなデート・スポット」だそうですよ、大槻ケンヂさん！

ボクのところには（辞表は）届いてない！退団の話も聞いてないし、長州は残るはず。
（藤波辰爾）

■4月24日　ドラゴン、それでも長州退団を否定

この日、新日本プロレスの親方・長州力が、取締役の辞任届を提出したと一部で報じられたが、ドラゴンは「僕のところには届いてない！」と、キッパリ否定。結局はドラゴンのところに届いていないだけで、とっくの昔に提出されていたわけだが、それでもドラゴンは「本人は昨日も会社に来てたし、いつも通りだよ。退団とかの話は聞いてない」と呑気なまでに事実無根を強調。新日の社長でありながら、一般のファンと変わらないタイミングで長州退団を知るドラゴンはつくづく完璧である。

居場所を変えてまで現役を続けたいという彼の気持ちは痛いほどわかる。ボクもこれでまた辞めたくなくなったね。
（藤波辰爾）

■4月26日　長州新日退団正式決定

「僕の所には届いてない」と、ドラゴンが長州の辞表提出をキッパリ否定した翌日、長州は4月8日付で辞表が提出され、5月いっぱいで退団することが明らかになった。またしても社内の重要機密を教えてもらえなかったドラゴンであるが、「居場所を替えてまで、現役を続けたいという彼の気持ちは痛いほどわかるよね。僕らの年代は、そういう気持ちをエネルギーにしてリングに上がるんだよ。僕もこれでまた辞めたくなくなったねぇ」と呑気に恒例の生涯現役宣言。長州の退団までも、自らの現役続行についての屁理屈にしてしまうドラゴンに脱帽だ。

負けた者は去れぇ～～！
（菊田早苗）

■4月28日　アレクvs菊田の因縁対決は後味最悪マッチに！

プロレスとは、そして格闘技とは人間力の勝負だとよく言われるが、このアレクvs菊田戦こそ、人間の汚さ、醜さをお互いさらけだしまくった、ある意味、格闘技の原点のような名勝負だったような気がしないでもない（あくまでも、気がしないでもない程度）。結果は菊田の判定勝ちに終わったものの、この試合によってアレクは、ますます嫌われ者になりながら、憎き菊田の『PRIDE』再デビューを最悪なものにすることに成功。さらに尾崎社長vs島田レフェリーという新たな醜い遺恨も生まれる始末。第何案だったのか知らないが、アレク戦を選んでしまった菊田＆尾崎社長は実にお気の毒なのであった。

K-1、『PRIDE』、プロ野球、Jリーグ、いいかよ～～く見てろよ。これがプロレスの力だ！
（田中秀和リングアナ）

■5月2日　蝶野vs三沢、予想通り30分時間切れドロー

新日本プロレス、プロレスリング・ノアというマット界が誇るメジャーの頂上対決ながら、高山善廣には「あれは試合じゃなくて首脳会談」と言われ、Ｉ編集長には「蝶野と三沢が喫茶店で話しているようなもの」と喫茶店トーク呼ばわりをされ、『紙プロ』読者には2002年ワーストマッチとして多数のハガキが届いてしまうほど、不評だったこの試合。その理由はひとことで言えば「闘い」がなかったからであり、もう少し言えば時間切れ見え見えだったからだと思われるが、我らがケロちゃんはいつものように奇妙なコスチューム姿でマイクを握り「いいかよ～くみてろよ。これがプロレスの力だ！」と、なぜかK-1、『PRIDE』だけでなく、プロ野球やJリーグにも見当違いな宣戦布告！　「ワールドカップ」ではなく「Jリーグ」なところが、なんだかいまの新日らしかったのであった。

家ではちーちゃん、ゆうタンと呼び合ってます！
（永田裕志）

とにかく尻に敷かれろ！
（佐々木健介）

■5月14日　永田裕志、入籍を発表！

IWGP王者・永田裕志（ゆうタン）がこの日、元OLの佐藤智枝子（ちーちゃん）さん（32）との結婚を正式発表。晩酌人であり、常に「かおりLOVE」を公言する愛妻家ドラゴンが夫婦円満の秘訣を伝授してくれたが、それは「お互いうまくコミュニケーションを取る」という、まったく具体性のないもの。これでは永田も不安かと思いきや、6・7武道館の対戦相手健介が、「とにかく尻にしかれろ」とズバリなアドバイスを送ってくれた。はたしてそれでいいのかどうかはわからないが、明らかに北斗趣味のメルヘンチックな豪邸を見るにつけ、健介が尻に敷かれていることだけは間違いないのであった。

あっぱれ破壊王劇場

G1と10月のドームは強引にでも出るつもりです！

（藤波辰爾）

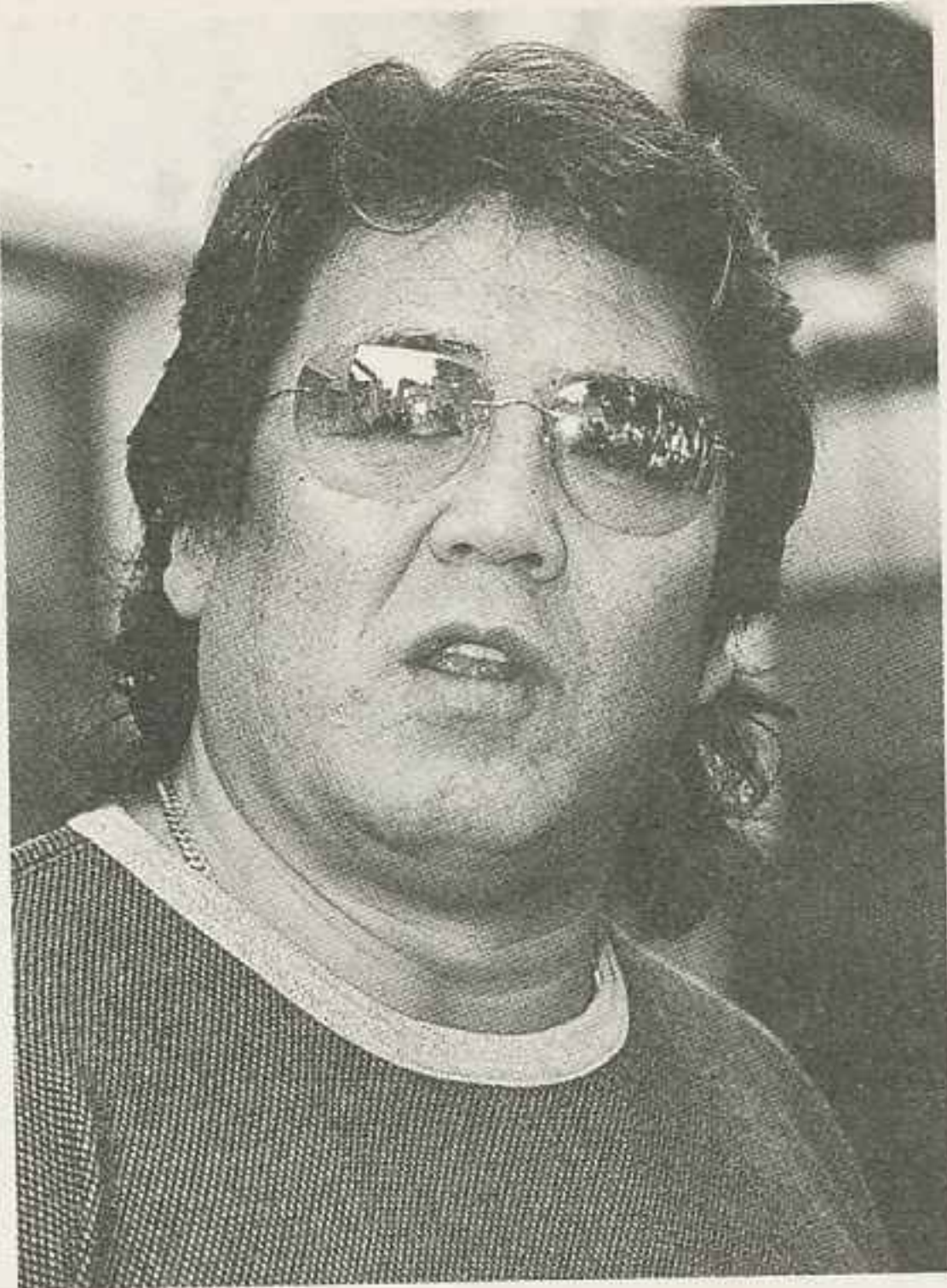
■**5月27日　ドラゴン、今年もG1出場宣言！**

G1が近づいて来ると毎年飛び出すドラゴンの「G1出場宣言」が今年もやっぱり飛び出した！「僕はフロント、社員や選手を信頼しているし、全力を尽くす」と、社長がやる気を出しているのになぜか不安になってくる言葉の後「ただ、体の動く今年は頑張りたい。G1と10月のドームは、強引にでも出るつもりです」と、昨年さんざん「これが最後のG1」と言っていたにも関わらず、そんなことはお構いなしにG1出場宣言！　G1をなんとか盛り上げようと、現場責任者・蝶野が必死に考えている中で、己の事しか考えていない社長からの出場要求。〝黒のカリスマ〟蝶野より、よっぽどエゴイストなドラゴンであった。

俺はあの人に感謝すらない。

（長州力）

■**5月31日　長州、新日退団会見で猪木を痛烈批判！**

「あの人には感謝すらない！」長州が猪木に強烈すぎる〝決別宣言〟！　5月31日付けで新日本を退社した長州が、道場で最後の会見を開き「（退団の）問題となるのは会長であるアントニオ猪木っていうものになりますよね」と、猪木との確執を延々40分に渡って語り尽くした。「世界発信っていったって、この15年間位な～にやってたのか。なんのメリットが新日本にあったのか？　なにひとつ身にはなってない。オレにはあの人に感謝すらない」と、厳しく糾弾した上で「何かコンプレックスありますよね。欠落してますよ」とまで発言。新日本最後の日に、大きすぎる波紋を投げかけた長州。まさに〝マグマ級〟のインパクトがある退団劇であった。

ボクの方が彼よりよっぽど経営のことをわかってますよ！

（藤波辰爾）

■**6月3日　ダーク・ドラゴン、長州を断罪！**

ドラゴンが長州発言にキバをむいた！「ボクのほうが、彼より経営のことはよっぽど分かってますよ！」と、社長がヒラの取締役に向かって当たり前の激白。「彼はうわっつらだけ。自己満足で無責任な発言で済む問題じゃない。長州は、役員というのは何であるか、もっと知るべき。自分の立場を知ってしゃべらないと、あとからいろんなものが覆いかぶさってくる」とまで語った。ドラゴンなりにずいぶん頑張ったが、翌日、長州からは100倍返しの辛辣なコメントを浴びてしまう結果に。まさしく「自分の立場を知ってしゃべらないと、あとからいろんなものが覆いかぶさって」きてしまう事になった。毎度毎度の不用意発言、自業自得であった。

あれだけ何も知らない代表取締役はいない！

（長州力）

■**6月8日　長州、ドラゴンをメッタ斬り!!**

新日退団会見でアントンを痛烈批判した長州に対し「ギャラ出す必要なし！」などと、断罪したダーク・ドラゴン。しかし、その例によっての不用意な発言に長州が大激怒。裸の殿様・ドラゴンの実体を遂に暴露してしまった！　その内容は「あれだけ何も知らない代表取締役はいない」「社員に全く信用されていない」と、これまで紙の新聞で再三報じてきた、お飾り社長ぶりと完璧に一致。さらに「猪木さんと根深い確執がある」と、公然の秘密をバラし、とどめとして、「83年のクーデター事件のときも、彼を信じた者はみんな裏切られた」と、多くの社員の運命を変えたコンニャクぶりを、19年の歳月を経て糾弾。革命戦士恐るべし！

チーム名を『佐々木健介とコス&ブルー』にしろ！

（永田裕志）

■**6月22日　永田裕志が「健介軍」を勝手に命名！**

早くも〝平成の決起軍〟として伝説となった、不可思議ユニット健介軍（当時仮称）。無理矢理組まされた見切り発車ユニットらしく、なかなか正式なチーム名が決まらなかったが、見るに見かねたIWGP王者・永田が、ご親切にも名付け親に名乗りを挙げてくれた。その名前とは往年のムード歌謡グループ「敏いとうとハッピー&ブルー」をもじり『佐々木健介とKOTH（コス）&ブルー』。「敏いとうとハッピー&ブルーのヒット曲『よせばいいのに』の歌詞のように『♪いつまでたっても、ダメなわた～しね～♪』なのかどうか、見極めてやる」と、健介軍をとことんコケにした永田。健介に対してだけキラーになる永田発言への注目度が一気に増したのがこのころだ。

小川選手の希望で「すべてガチンコでいきたい」このように申しております。

（川村龍夫UFO社長）

■**6月27日　新イベント『LEGEND』遂に発進！**

川村社長による「すべてガチンコでいきたい」という、前代未聞の宣誓からスタートした『LEGEND』。まさに伝説の一言である。

やっと出場権を掴んだのに俺に矛先を向けるな！越中が出なけりゃいいんだ！

（藤波辰爾）

■**6月26日　安田がドラゴンにG1出場入れ替え戦を要求**

毎年恒例「最後のG1」に燃えていたドラゴンを突如襲った、安田の「俺の代わりに棄権しろ」要求。「なんで藤波さんが出れて俺が出れないの？」という、安田の疑問は明らかに正論だが、自らのライフワークを脅かされたドラゴンは、もちろんダーク・ドラゴンへと豹変した！「やっと出場権をつかんだのに、矛先をおれに向けるな。代わりに越中が出なければいいんだ！」なんと、パーマ頭を振り乱しながら、降りかかる火の粉を〝長州派〟越中に追いやる極悪ぶり。中年のエゴまるだしにし、存在しない社長権限を振り乱すダーク・ドラゴンであった。

あわよくばG1後、IWGPに挑戦したい。

（藤波辰爾）

■**6月27日　ドラゴン、今度はIWGP挑戦宣言**

自分のG1出場権を守るためには、他人を犠牲にすることもいとわない、という恐るべき人間性を遂に露わにした冷血ドラゴンは、「越中がでなけりゃいい」発言から一夜明けると、そのクレイジー・エゴイストぶりにさらに拍車がかかっていた！　なんとG1出場資格すら疑問視される中「あわよくば、G1後にIWGPに挑戦したい」と、ずうずうしくも王座挑戦宣言。そして「王者・永田とは同じAブロック。ここで勝てば、自然と挑戦が見えてくる」と、毎度お馴染みドラゴンの皮算用を得意げに披露。あまりに身勝手な暗黒社長ぶりを嫌というほど見せつけるドラゴンであった。

藤波はペケ!
(高山善廣)

■7月12日　高山、安田のG1参戦を歓迎

この時期、G1本戦より遙かに話題の的となっていた、安田とドラゴンのG1入れ替え戦問題。両者共にまったく譲る気がないまま平行線を辿っていたが、そんなとき安田に心強い援軍が現れた。G1台風の目・高山が安田の参戦を熱烈歓迎したのだ。「G1はグレードワンの略だろ? なら引退を宣言した人間に来られても、こっちはモチベーションが下がるだけ。藤波はペケ!」と、ドラゴンばりに手でバッテンマークを作る高山。そして「家庭のグレードは藤波さんの方が上だけど、レスラーとしてのグレードは安田が断然上だ」と、マイホーム・ドラゴンに落選勧告。誰もが同意してしまう高山発言。2002年の高山大ブレイクは、こんなところにも要因があったのだろう。

日本テレビの総力を挙げて、小川選手の相手が決まりました。
(川村龍夫UFO社長)

■7月17日　小川直也vsマット・ガファリ大決定!

難航していた8・8『LEGEND』小川の対戦相手がこの日、遂に決定! 天下の日本テレビに総力を挙げさせるとは、さすが〝芸能界のビッグボス〟こと川村社長なのだ。それにしても総力を挙げて発見した来た相手が、あのマット・ガファリとは……、日本テレビ恐るべし!

一番大きな壁を超えたんだから、もう怖いものはないでしょう。
(藤波辰爾)

■7月19日　きたえ〜る
ドラゴン、安田に敗れG1出場権奪われる!

「藤波と越中がG1に出れて、俺が出れないのはおかしい!」という、安田の正論により実現した藤波vs安田のG1入れ替え戦。安田は試合前オープンフィンガーグローブ着用を要求しながら、ドラゴンが片手だけ装着したところで突如奇襲! 左手一本で応戦するドラゴンの顔面に容赦なくパンチをブチ込こんで、ビックリするぐらいの大流血に追い込み、文字通り血の海にしずめ、アッサリとG1出場権をものにした。G1出場権を奪われた上、鼻骨まで折られるという災難に見舞われたドラゴンは、さぞかし得意の(?)の呪術で憎き安田を呪っていることと思いきや、意外なことに呪い殺すどころか逆に「安田の戦う姿勢は、新日本の選手も見習うべき部分がある。こうなったからには優勝してもらいたい」とエールを送り、「新日本にとっても引き締めになっただろう」と、自らの大流血負けを正当化。さらに「一番大きな壁を越えたんだからもう怖いものはないでしょう」と、自分を「一番大きな壁」と称するずうずうしさを見せつつ、安田の優勝に太鼓判を押した。ドラゴン、万歳!

マッチョ・ドラゴンになる!
(棚橋弘至)

■7月31日　仰天! 棚橋がドラゴンに弟子入り!

悲報! 新日本プロレスの数少ない「明るい未来」として将来を嘱望された棚橋が、階段を踏み外しだしたのはこのころからではないだろうか? この時期、G1初出場を前にして、よりによって「自称・G1の一番大きな壁」こと、ドラゴン藤波社長に弟子入りしてしまった! ドラゴンから直々に往年のドラゴン殺法を伝授された棚橋は、真夏の猛暑の中練習し頭が少しボーっとしていたのか「マッチョ・ドラゴンになる。テーマ曲も復活させたい」と仰天発言! このままでは、雪崩式リングイン、藤波式呼吸法、「三つ入った!?」のポーズ、城めぐり、エプロンサイドでお尻ぺろん、「こんな会社辞めてやる」発言まで伝承しかねない非常事態に見舞われてしまった。そしてこの年末にナイフで刺殺未遂事件発生……ドラゴンのマイホームぶりだけは見習っておいた方がよかった2002年の棚橋であった。

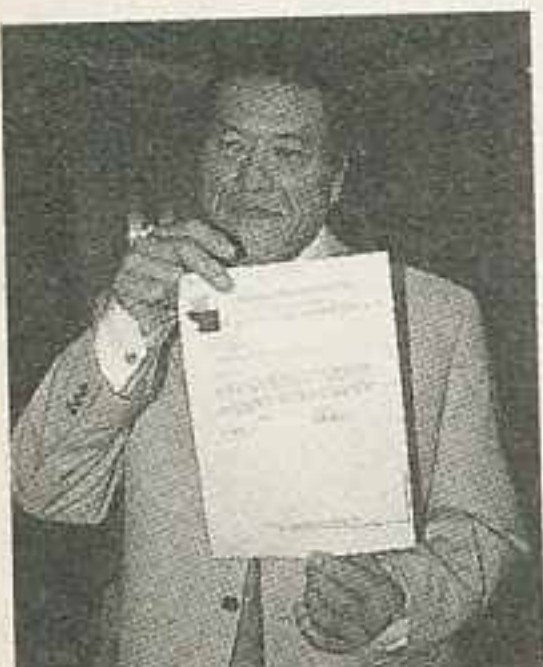
ナメてて、正直スマンかった!
(高山善廣)

■8月3日　G1開幕。高山が健介にまさかのフォール負け

2002年のG1は、初っぱなから波乱三昧の幕開け!! 安田・蝶野の敗戦、そして高山が健介にまさかの黒星!! メインに登場した〝超大型の台風の目〟高山善廣は、佐々木健介と白熱の肉弾戦。意外にも試合を制したのは、健介のノーザンライト・ボムだった! 高山は試合後、「井の中の蛙もケツを叩けば野獣に変わる。ハッキリ言って佐々木健介、ナメてたからね。ナメナメのナメナメすぎるくらいナメてた」と、負けてても言いたい放題の上「健介流に言うと、ナメてて、正直スマンかった」と、心からの謝罪の言葉を送り、その素晴らしいコメントにみんなが心で高山に拍手を送った。何度も言うが、2002年の高山大ブレイクはこの絶妙すぎる発言によるところも大きい。まさにインテリジェンス・モンスター。21世紀の〝活字レスラー〟だ。

タイソンが日本に来るというFAXが、ここに来る5分前に届きました!
(アントニオ猪木)

■8月6日　8・8『LEGEND』タイソン来日騒動

この日、アントン総帥が、マイク・タイソンの『LEGEND』招へいを大発表ッ!! 誰も信じていなかったタイソンの来場が、急展開で正式発表された!! 「日本に来るというファクスが、ここにくる5分前に届きました」。「ザマァ見ろ!!」とばかりに、ファクスを掲げてご満悦のアントン総帥。しかし、翌日にはやっぱり来日中止。さすがに今回はアントン総帥もへこんだかと思われたが、8日当日にはゴシップ紙のニュースを手に「事件のせいで来れなかった。オレもたまには本当のことを言うんですよ」と涼しい顔でブチかましてくれたのだからさすがである。アントン&タイソン劇場には、これからも期待大である。

記者会見でも喋りましたけどすべてガチンコですから。藤田と安田なんかすっごいですもんね。もう、汗びっしょりですよ。よく冷静にみられたなあと。
(川村龍夫UFO社長)

■8月8日　そして『LEGEND』は伝説となった……

マット・ガファリという伝説級のモンスターを登場させ、観客動員数も伝説級の数字を残し、なにもかもがまさに伝説だった『LEGEND』。しかし、川村社長の素晴らしいコメントの数々こそ真の伝説だったと言えるだろう。『LEGEND2』開催熱望!

落ちた、落ちた!
(吉田秀彦)

■8月28日　吉田秀彦、鮮烈デビュー!

2002年度、最も物議を醸したこの発言。

中西のような奴を津軽弁で「もつけ」と言うんだ!
(ケンドー・カシン)

■8月30日　カシン、東スポの報道に猛クレーム

団体が変わっても、やはり友情は永遠だった。ゴールドバーグ参戦に沸くこの日、ケンドー・カシンが〝親友〟中西君(知的)に対する『東スポ』の報道に激怒した!「ジャーマンを忘れた中西は立たないAV男優」なんて書きやがって。AV男優に失礼だろう!」と怒りをぶちまけたカシンは「中西は、日本一力の強い知的なバカなんだ。中西のことを書くときには、必ず〝知的〟って入れておけ! 中西のようなヤツを津軽弁で〝もつけ〟って言うんだ」と、中西を高く評価。プロレス界の誇る〝もつけ〟中西は、素晴らしい親友を持った幸せ者である。ちなみに〝もつけ〟とは、津軽弁で「どうしようもないバカ」という意味らしい……。

あっぱれ破壊王劇場

語録で振り返る
マット界2002

6:5で俺が勝つ！（山本憲尚）

■9月14日　メッツアー戦を前にヤマノリ節爆発！

「イッキシンテン」発言を始めとして、〝知的〟こと中西学に優るとも劣らぬ「もつけ」ぶりで格闘技界を席巻するヤマノリが、ガイ・メッツアー戦を前に必勝宣言！　この時も自らの試合予想を「6：5で俺が勝つ！」と自信満々に予想するそのもつけぶりで我々をクラクラさせてくれた。総合格闘技だけに閉じこめておくにはもったいない逸材である。

いい意味で非常識に闘ってやる！（中西学）

■10月5日　さいたまスーパーアリーナ　サップ戦を前に中西がK-1視察

10・14新日ドーム出場が決まっていた〝野獣〟ボブ・サップの視察に、新日本プロレスから蝶野正洋と〝知的な（カシン談）野人〟中西学がK-1に来場！　目の前でK-1王者ホーストを破るサップの野獣ぶりを見せられた中西は、いつものように必要以上に目を血走らせながら、「見事な勝ちっぷりや。K-1王者をあそこまで潰すとはな……。新日本プロレスは絶対に負けない。あいつの圧力に押し切られるという常識を破って、いい意味で非常識に闘ってやる」と、普段の行動が非常識な男が改めて非常識を宣言した！　ちなみに、その横でコメントを聞いていた蝶野が、ずっと笑いをこらえていたのは言うまでもない。

新日本にクソかけて出ていった。戦力的には屁でもない。戦力外通告だよ。（永田裕志）

■10月5日　永田、蝶野らが健介退団に激怒！

突然で一方的な佐々木の退団宣言に、選手、フロントの怒りが爆発！「ここまで言っていいの？」というくらい辛辣な言葉が各人から次々と飛び出した！　中でも一番強烈だったのが、〝健介がトラウマになっている男〟永田裕志。吐き捨てるように「やってくれたよな」と舌打ちし、「新日本にクソかけて行った。宣伝でダメージは受けたけど、戦力的には屁でもない。ドームの対抗戦は出なくて結構。戦力外通告だよ。爆弾投下したつもりかもしれないけど、しょせんはネズミ花火程度。鈴木戦が原因なんて、そんなの後づけに決まってる」とぶちまけた。さらに「もともと、鈴木戦の中止は、佐々木さんがケガしたことが原因じゃないの？　この間の連合軍の合同練習でも、あんなに重いバーベル持ち上げてたのにね。足をケガした人間の持ち上げられる重さじゃないよ。最初から計画的だったんじゃないの？」と、健介の右足首のケガにも疑いの目を向け「裏で操ってるヤツがいる。背広着て、たばこ吸って、頭からごま塩をかけたヤツ」と、素晴らしい表現で〝黒幕〟を糾弾した。いいぞ、永田！

〝黒幕〟とドームで公開トークバトルをやってもいい。（蝶野正洋）

現場責任者・蝶野正洋は「健介の考えとは別のところで動いている人間がいる」と、〝黒幕〟の存在を暴露！「健介もそいつらに利用されているだけにすぎない。10・14東京ドームでそいつと公開トークバトルをやってもいい」「ここ数年、プロレス界のトラブルは大体がそいつが原因。オレ以外の三銃士、橋本や武藤もそいつとトラブって新日本を出ていったようなものだ。同じ業界に生きる人間として、これ以上ゴタゴタを誘発することは許せない」と、〝黒幕〟との徹底抗戦を宣言した。

どうであれ健介をみんなで応援しましょう！（藤波辰爾）

最後に我らがコンニャク社長・ドラゴン藤波は、もちろんダーク・ドラゴンに豹変し「認めん！」とでも叫ぶかと思いきや、「本質は何なのか。どうであれ健介をみんなで応援しましょう。これからもマットに上がる年数が長いんですから」と、ひとり状況が掴めてない様子で、健介にトンチンカンなエールを送る始末。さすがドラゴン。期待を裏切らないのであった。

彼も悩める若者だった。（倍賞鉄夫副社長）

■10月7日　倍賞副社長が健介を留意

ヴァーッ!!　退団会見から一夜明けた7日、健介が渋谷区の新日本事務所に現れ、辞表を提出。その後、ドラゴン、蝶野ら幹部と会談し、この時点で辞表は倍賞副社長預かりとなった。そして会談後、倍賞副社長が緊急会見を開き、「結論から申し上げると、彼も悩める若者だった」と、とんでもない結論に達しているのだからさすが新日本。36歳、妻子・家持ち、ひげ面、抗議の電話2件の男が辞表を提出するに至った原因が「悩める若者」だったからとは……。これは健介の精神レベルが、盗んだバイクで走り出したり、校舎のガラス壊してまわるぐらいの年齢だと言いたいのだろう、きっと。

新日本が健介に石ぶつけて放り出すなら、俺が拾う！（長州力）

■10月8日　長州、健介退団黒幕説に激怒

カチ喰らわすぞ、コラァ!!　新日側より、健介離脱の黒幕として揶揄された長州力が、この日怒りの緊急会見！　愛弟子・健介退団への関与を全面否定した！　猪都内のホテルで会見を行った長州は「オレも永島も健介とは全然会ってない。猪木さんは、オレのことを黒幕と言っていたが、あなたこそが黒幕ですよと言いたいね」と、裏での繋がりについて、45分間、延々と否定しまくった。しかし、「新日本が、健介に石をぶつけて放り出すなら、おれが拾う」と、健介との合流自体は否定せず！「（そんな団体であれば）オレのところに来たい選手は来てください」と〝誘いの手〟をのべることも忘れなかった。それが引き抜きなんだって！　そしてこれが、この年末年始に太平洋を股に掛けて行われた「健介・ナマハゲ劇場」へとつながるのであった。

業界のど真ん中を突っ走る！（長州力）

■11月12日　長州、新団体WJプロレス旗揚げ

頑張ってど真ん中を突っ走ってください！（無表情で）

「小川イズムを追求し、ガチンコで行きたい」このように申しております。（川村龍夫UFO社長）

■11月19日　藤井克久UFO入団

UFOに新たなる選手が加入!!　パンクラスヘビー級ランキング1位藤井克久のUFO入団が、小川直也・川村社長立ち会いのもとで正式に発表された。川村社長は「小川イズムを受け継いで、ガチンコでいきたいと申しております」とおなじみ〝川村節〟で藤井を紹介。その言葉通り、藤井の当面の主戦場は、小川の活躍するZERO-ONEのリングになるという……なんでだよ！　なお、もうひとりのUFO所属選手・村上和成は、〝川村社長預かり〟として、小川・藤井とは別に行動していくことが判明。小川は「UFOには練習する奴しかいらない。彼は魔界倶楽部らしいんで、魔界で頑張って欲しい。オレには想像もつかない世界だけど」と語っていた。

大好きッ!!（佐々木健介）

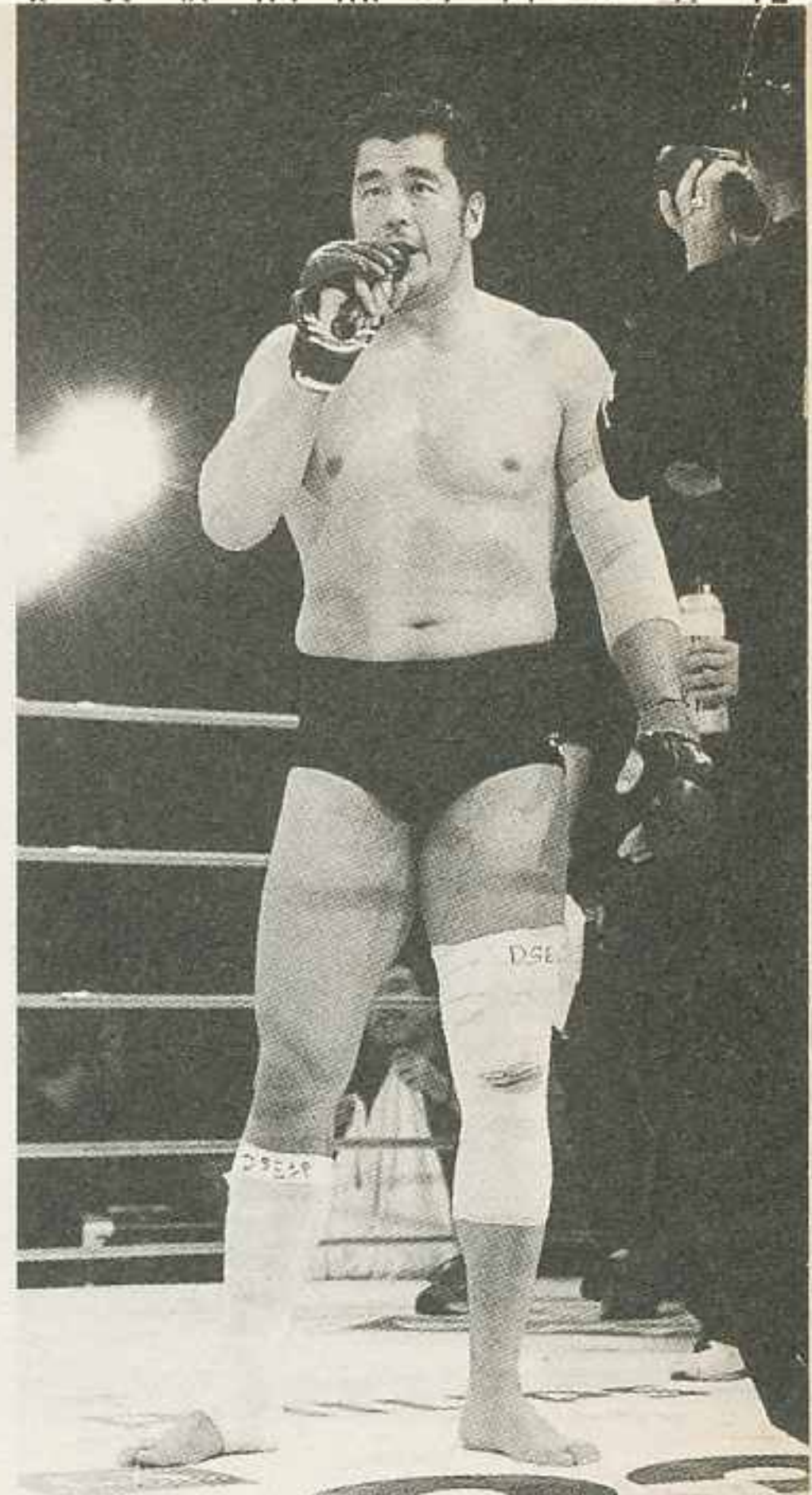
■10月6日　健介、新日に辞表を提出！

ヴァーッ!!「鈴木戦、この一戦のためだけに会社に辞表を出します。あいつとの約束を実現するには、こういう形しかない」――〝男の約束〟のために、健介が突然新日本プロレスを退団することを発表した！　会見場に現れた健介は、ライガー戦消滅、そして退団にいたるまでの経緯を涙ながらに説明。退団の理由は「一番は鈴木との試合をするため。そして、もう一つは新日本への不信感」と言いつつも、「いまでも俺は新日本プロレスが好きなんですよ。大好き!!（涙）」と厳つい顔をくしゃくしゃにしながら絶叫。しかし、新日が総力をあげた10・8ドーム直前の発表ということで、周囲は長州派による新日潰しと断定。しかも相手がもともと孤立していた健介だけに、容赦ない怒りの声が爆発したのだった。それにしても辞表を出す健介のこのビジュアル……2002年マット界フォトジェニック賞は、まことに勝手ながら佐々木健介さんに差し上げたいと思います。

す
で森
衝撃的な白
ろうと思う
長は個人的
から突発的
そもそも
『PRID
新年のマス
の席で森下
GP』を3
発表して意
たばかりだ
わった9日
下社長は帰
9日の夕
役・榊原信
行うと一般
上の報道陣
件がもたら
っている。
んら事件性
性との別れ
バスルーム
か出てこな
性がドアを
が浴衣の帯
などが明ら
名古屋に運
この知ら
E』エグゼ
ーのアント
空港で会見
葉がないと
『一寸先は
ど、とんで
てしまった
DE』の組

田村、お前は男だ！（髙田延彦）

■11月24日　髙田延彦、引退試合で田村にKO負け

『紙プロ』読者が選ぶ、2002年名言大賞に受賞した、この一言。田村を真っ直ぐに見つめながら、この言葉を発した髙田の表情。正直、泣けたよ。

あの時の青春、俺とお前でもう一度取り戻そう！（佐々木健介）

■11月30日　みのる、パンクラスのリングでライガーに完勝。そして健介が登場！

髙田vs田村戦と一見似ているようでいながら、なぜこれだけ期待感がちがうのかと思わずにはいられない、みのるvs健介の一戦。ズバリ言って、郷野が言うことももっともだし。

新日本は崩壊する！（長州力）

■11月25日　猪木・新間まさかの電撃和解！

猪木・新間合体報道を受けて、長州力が大激怒した！　80年代前半、アントン・ハイセルを元とした一連のゴタゴタをリアルタイムで嫌と言うほど経験してきた長州は、「猪木・新間和解」の東スポを見て、「何をトボケたことを…」とまずは絶句。その後、「新日本が自社ビルを建てられなかった原因はあの2人」「俺たちの時代だったら選手は全員いなくなるだろう」「新日は崩壊する」と長州節をこれでもかと連発！　そして「選手は新天地を求めるべき」と離脱を奨励した。さすがは、「俺が拾ってやる」の長州力。はたして長州が言うように、新日本の次なる大激震は起こるのか!?

NHKさんは俺の連絡先がわからなかったのかな。（木村健悟）

■11月29日　歌手・木村健悟、今年も紅白出場ならず！

マット界1の美声の持ち主として、廃盤になってもなぜか数年に一度新譜を出し続け、毎年毎年、懲りもせず大晦日のスケジュールを空けて、NHKの使者を待ち続ける男・木村健悟。「引退するとプロレスファンがCDを買ってくれなくなるから」という仰天理由で引退を先延ばししているほど歌に対する情熱は無駄に燃え続けているが、今年もやっぱり吉報は訪れず。「NHKさんは俺の連絡先がわからなかったのかな」とクビを傾げるキムケンであった。

アメリカで軍団を束ねて、長州軍を叩きつぶしてやる！（ホーク・ウォリアー）

■12月3日　ホーク・ウォリアー、WJプロ殴り込み予告

殺伐した格闘技全盛時代において、80年代の夢と幻想をたっぷりお届けしてくれる素晴らしき団体・WJプロに、またしても事件発生！　なんとあの80年代の遺物……失礼。80年代のスーパースター、ロード・ウォリアーズのホークが、なぜかWJ事務所に直電をかけてきて、「軍団を束ねて、長州軍を叩きつぶしてやる！」と、突然の戦線布告！　「ケンスキーが新日本を辞めたらしいな…」と、あのヘル・レイザース復活を示唆する不気味な発言まで残して一方的に電話を切ったという。……いやぁ、プロレスってホントにいいもんですね。WJこそが、ファンタジーファイトである。

う〜ん、失業中というか、アルバイトかな？いまで言うとフリーター（ミスター高橋）

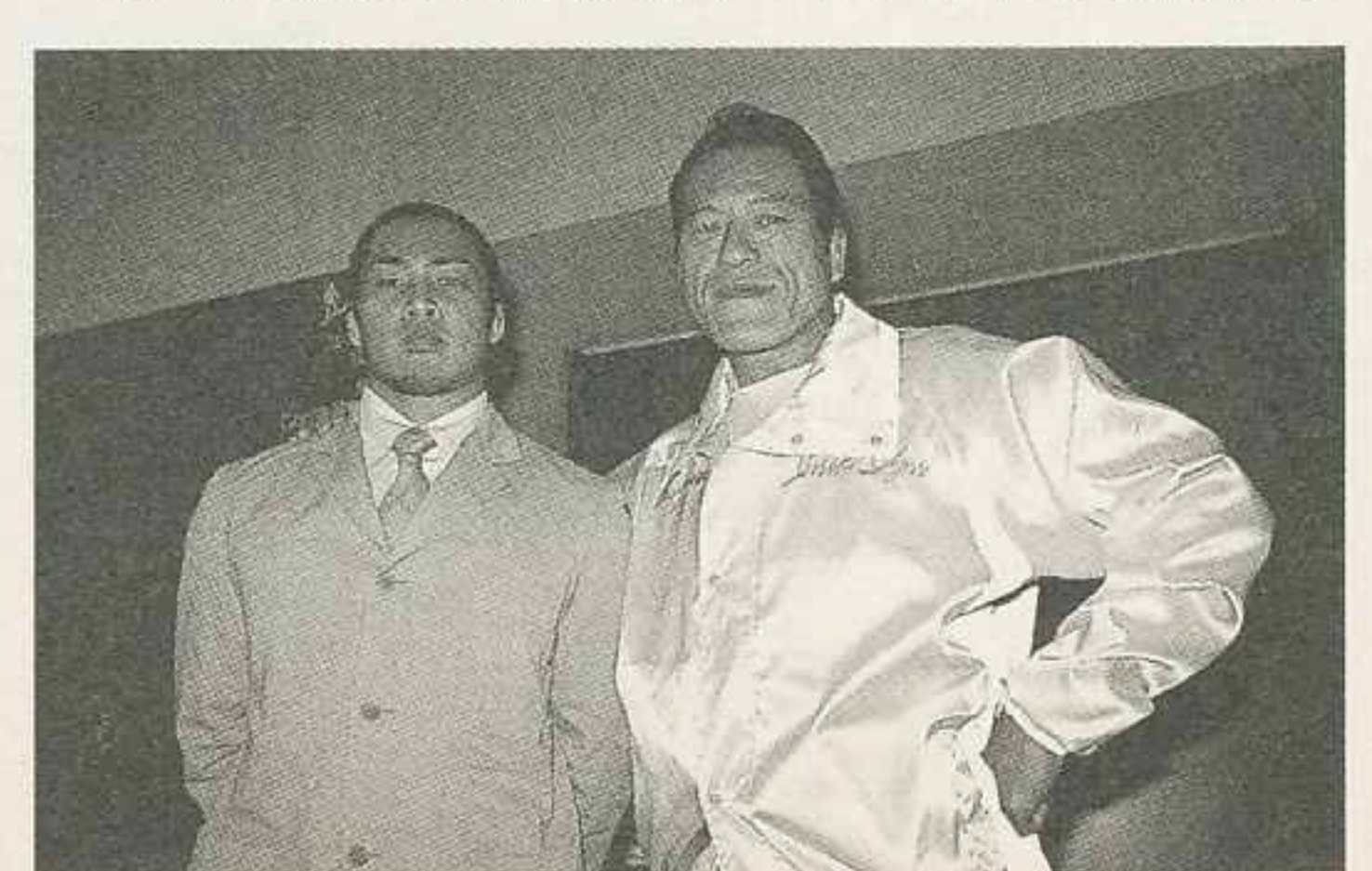
■12月5日　ミスター高橋、遂にカミングアウト！

これまた本誌前号で掲載し、賛否両論が巻き起こった「ミスター高橋×大槻ケンヂ対談」で遂に判明したミスター高橋の現在の職業。新日本プロレスに警備会社の協力が得られず、失業してしまい、60近くになってフリーターになってしまったから、その腹いせで〝衝撃本〟を執筆したわけでは決してないことが、これでおわかりいただけだであろう!?

「紙の新聞」SPECIAL
語録で振り返る
マット界2002

プロレス専門誌以外で、面白おかしく書かれていることはすべてデタラメです！（田中秀和リングアナ）

■12月6日　棚橋弘至、交際女性に刺される！

森下社長自殺という超衝撃ニュースがあったため、早くも風化し始めているが、起きたときはそれは大騒ぎになった〝棚橋ナイフ事件〟。東京都目黒区のCSテレビ番組アシスタントの女性宅で、新日本プロレスの棚橋弘至が、女にナイフで背中を刺されるという事件が起きたのがこの日だ。「棚橋さんを殺して、自分も死のうと思った」という容疑者が棚橋の背中をナイフで刺し、その傷口は肺まで達したが、棚橋は自力でバイクを運転して病院で治療。担当した医師によると「普通の人なら死んでいた」ほどの深い傷だったという。本当に無事でなによりだが、広報・ケロちゃんは『ワールドプロレスリング』内で、この事件について「一般週刊誌に出ていることは全てウソ、プロレス雑誌に書いてあることだけが本当です!!」と、世間の常識を覆す驚愕の事実を発表したのは、ズバリ言ってどうかと思う。

31日にやりたい相手がいたから、このカードに疑問があった。（山本憲尚）

■12月23日　ヤマノリ、アレクとの崖っぷち対決制す！

戦前、一部では〝ルーザーリーブPRIDEマッチ〟（敗者PRIDE追放戦）とまで言われたヤマノリvsアレク戦は、さぞかし生き残りをかけた壮絶な一戦になるかと思いきや、両者覇気に欠ける大凡戦となってしまった。しかも、最後はアレクのアクシデントによるドクターストップという、なんとも煮え切らない結末に終わってしまったのだから、目も当てられない。正直言って、ヤマノリ、アレク共に今後の『PRIDE』での居場所がますますなくなった感があったが、当のヤマノリは「スッキリ勝って、31日にやりたい相手がいた」と、『猪木祭り』にまで出る気でいたのだから、その呑気ぶりには脱帽。しかも、その相手というのは、どうやら安田忠夫で、「俺はノルキアに勝ってるんだから、安田vsノルキアではなく、安田vs山本だろう」という理由らしいのだから、さすがはヤマノリ。そのトンパチイズムは永遠なのであった。

ぶっ飛ばしたいヤツがいる！野村沙知代、出てこーーいッ！（アントニオ猪木）

■12月31日　アントン、野村沙知代に往復ビンタ！

「大晦日にはとんでもないことをやる！」と宣言していたアントンが、やったのはなんと野村沙知代への往復ビンタとスネ相撲！　これを3万5千人の前でやってしまうのだから、ある意味とんでもないことだけは確か。やっぱり2002年も猪木だけがやたらと元気だったのである。

あっぱれ破壊王劇場

ハシフ・カーン&SHOGUN、100万点です!!

1・5&6 ZERO-ONE★U$A大爆発記念

究極のトンパチ師弟対談

ハシフ・カーン×ミスター・ヒト

"史上最強の三流レスラー" ハシフ・カーンが遂に日本初上陸! 1・5後楽園で行われたZERO-ONE★U$Aでは前号のインタビューでの宣言どおりマネージャーにミスター・ヒトを付け大暴れしたハシフ・カーン。この究極のトンパチ師弟が、なぜか破壊王が出場する1・13全日本大阪大会の会場で再会。カルガリー時代の思い出から今後のプロレス界まで語った。謝謝(シェイシェイ)

ハシフ・カーン×ミスター・ヒト

ありがとうございます！（笑）［ハシフ］

橋本、蝶野、武藤。この3人はとっくに馬場、猪木を越えてますよ！［ヒト］

――時間もあまりないみたいなので、早速始めます。ハシフ・カーンはミスター・ヒトさんの言うことしか聞かないということでしたけど、実際はどうなんですか？（笑）。

ハシフ　ハッハッハッハッ！

ヒト　言うこと聞く聞かないじゃなくてね。この人達は、まあ新日本の連中をホメるわけじゃないけど、みんなある程度素晴らしいレスラーとして来てるから。ただアメリカンスタイルを知らないだけで、それをちょっと教えたらそんなもん、みんないい選手になるよ。で、この人はムチャクチャ蹴飛ばしてムチャクチャいくから、みんな恐がってたわけですよ。

――想像つきますね（笑）。カルガリーでもムチャクチャやってたわけですか。

ヒト　カルガリーでもそう。どういうことかって言ったら、マッチメイクしてんのがプロモーターの息子なのよ。スチュ・ハートの息子がやってるから自分たちと橋本選手とは絶対組まないの！

――橋本さんとの対戦は避けていたと？

ヒト　そう！　で、他の連中もこぼすわけよ。そんなもんまだプロレスやって間もない連中ばっかりなんで、みんなこぼすわけ。んで、こぼすとみんなに噂が広まるから、仕事もないわけや。それだけの話よ。

――噂どおり、海外マットでは干されることが多かったわけですね（笑）。

ヒト　だけど、いまがあるじゃない？　だって、いま一番旬な男だぜ。

――橋本さんは一番旬の男ですか⁉

ヒト　旬の男ですよ！　そんなもん、猪木さん、馬場さんをとっくに越えてますよ！

――越えてますか⁉　たしかに、その2人は旬ではないですからね（笑）。

ヒト　橋本、蝶野、そして武藤。プロレスに関して言えば、この3人は、そんなもん、もうとっくに越えてますよ！

――どうですか、橋本さん？（笑）。

ハシフ　ありがとうございます！

ヒト　それでね、猪木さんっていうのはプロレスなんか知らないの。自分を売ることばっかりしてるから。ところが馬場さんっていうのはプロレスを1番グーッと下がって見てたから。プロレスを一番知ってたの。でも馬場さんが死んじゃったから、いまは俺が一番知ってると思うよ。

――そうでしたか。ということは、いまのプロレス界で一番旬な男と一番プロレスを知ってる男が並んでるわけですね（笑）。

ヒト　おう！　まあ、プロレスを知ってる知ってないじゃなしに、俺はプロレス界の大久保彦左衛門、それをやってやろうと思ってんだよ。

――プロレス界の大久保彦左衛門！（笑）。

ヒト　死ぬまでな。そんで、こないだ橋本選手に呼ばれて後楽園に出たんだけど、俺自身がワクワクして楽しかったの。やっぱり人間ってワクワク、楽しくいかなきゃダメなんだよ！

――ファンもそうですよね。

ヒト　そりゃそうだよ！　俺は普段は終わってから、ずっと歩いていくのよ。「今日は良かったな」とかファンの声を聞きたいから。こないだは橋本選手と一緒にメシ食いに行ったから聞けなかったけども、あの後楽園のブリッジ渡って行く人たちは、たぶん「今日は楽しかったなぁ」って話しながら帰ったと思う。で、プロレスってそうでなかったらダメなんだよ。綺麗事なんか言ったってな。楽しくなかったらダメなの。

――ああでもない、こうでもないって飲みながら話が出来るのが一番ですからね。

ヒト　そうそうそう。でも、ああいうプロレスも時たまやらなきゃダメ。殴って蹴飛ばしてっていうプロレスやんのもいいけども、やっぱり楽しく面白くないとな。また正月だしな。ただ俺も何十年ぶりに……30年ぶりぐらいに後楽園のリングに上がったから、足が震えてなあ（笑）。

――さすがのヒトさんでも、そんなに緊張するもんなんですか？

ヒト　足震えたというか、やっぱりねぇ、後楽園ってのはプロレスのメッカだから。（付き人&セコンドとして橋本に付いていた佐藤耕平&崔リョウジを見て）でも、いいね、この2人は。いいカップルだなぁ。

――いいカップルですか（笑）。

ハシフ　ホントですか？

ヒト　近いうちに教えに行くよ。

ヒト　大丈夫、そんなおっきい金払わんでいいから（笑）。

ハシフ　ダハハハ！　助かります（笑）。

――橋本さんも以前からヒトさんにコーチをして欲しいって言ってましたよね。

ハシフ　いや、あのね、プロレスラーを目指す人、ホントに本物になりたい人は、自分のポリシーっていうのは持ってていいから、それはそれとして、安達さんの教えっていうのは一度必ず受けるべきだと。これはねえ、関門みたいなもんで。だから、プロレス観っていうか、すべてのモノにおいて考え方が参考になるから。

（ここで突然、全日本の渕が通りかかる）

渕　ども。お疲れさまです！

ヒト　俺はアンタのこと嫌いなんだよ（笑）。プロレス界で4本の指に入るから。

渕　そんなこと言わないでくださいよ（笑）。でも誰なんですか、その4人って？

ヒト　馬場、猪木、川田……そしてアン

エスキモーのような帽子を被ってきたヒトさんに対し破壊王は「やっぱりカウボーイハットの方が似合いますよ。写真撮るんだったら取り替えてきた方がいいですよ」と余計なアドバイス？

破壊王、へ～ンシン！トーッ!!
ハシフ・カーン＆SHOGUNダイジェスト

SHOGUN

ハシフ・カーン

天下泰平のハチマキに立派な口ヒゲを蓄えて『暴れん坊将軍』のテーマで入場してきた“ひかえろ王”ことＳＨＯＧＵＮ。リングに上がるや、若手に持たせた大根やら人参を日本刀で切り落とすというパフォーマンスを披露。坂田とのタッグでハワード組と対戦したＳＨＯＧＵＮは、なんとシャイニング・ウィザードまで繰り出しハワード組を追い詰め、最後は「坂田、成敗！」と絶叫し、ロウ・キーを垂直落下式ＤＤＴでマットに沈めた。試合後はＳＨＯＧＵＮの口ヒゲはなくなっていた。

前号のインタビューでも宣言していたとおり、マネージャーにミスター・ヒトを付け、堂々と入場してきた日本初上陸の謎のモンゴル人レスラー、ハシフ・カーン。モンゴル帽子に目にはペイントを施したハシフ・カーンはジェイソン・アルカトラス相手に、「キェ～～」と奇声を発しながらモンゴリアンチョップを繰り出し場内を沸かせ、最後は破壊王ばりのニールキックで仕留めた。試合後「これからも見ることができますか？」との質問に対し「フィニッシュ！」と答えたハシフ。また来てくれ！

タや（笑）。

渕　それはある意味、光栄だなぁ（笑）。では、また！（と爽やかに去っていく渕）

——突然のビッグゲストの乱入でしたね（笑）。話は戻りますけど、WWEのトップ選手も、ヒトさんのコーチを受けたカルガリー系の選手って多いですからね。

ハシフ　そういう意味では馳浩の例を出すと、やっぱり馳浩は安達さんからプロレス観というのを学んでるし、自分を大きく変えて羽ばたいたのは安達さんと出会ってからなんですよ。

ヒト　やっぱり橋本選手たちは来た時からある程度できるんだけど、馳はできてなかった。できてなかったけど、彼はやっぱり向上心があったんで、教えるとしっかり吸収してたからな。それで、こないだTAJIRIと会ってきたけども。

——え？　どちらでですか？

ヒト　こないだ大阪に来たんですよ。あれもオレが教えたからね。

——大日本時代ですね。

ヒト　そう。あれのいいところはジュニアヘビーだけども、ギューッて抑えるところあるんですよ。締めるところってていうかな。だから、馳選手もそうだけど、大きくないけども、試合の途中で、ギューッて相手を抑えるとこあんだよ。で、橋本選手なんかはハジけるレスリングだから、それとは違うんだけど。ところが馳選手とかTAJIRIっていうのは、ギュッと抑えるとこがある。それが、またプロレスを知ってる人、ニューヨークとかの上の人間、まあパット・パターソンなんかは知ってるから。「あ、これはいいな」って使われるんだよ。

——重宝されるわけですね。

ヒト　いまは、そういうレスラーが少なくなってきてるの。ピッピッピュって飛んだり跳ねたりはするけど。グッと抑えるところが出来るヤツが。TAJIRIは大日本の時、俺が教えたんだけど、その頃から素晴らしいレスリングやってたから。これは絶対に上取れるって思ってたたら、実際、ジュニアヘビーで上取ったからね。まあまあ大したもんだよ。だから俺なんかは（橋本の付き人&セコンドとして一緒に控室にいた佐藤耕平と崔リョウジを指差して）こういう素質のあるのは顔見てわかるわけ。

——後楽園での試合後も言ってましたけど、ヒトさんは佐藤耕平選手が一皮むければ、もの凄いレスラーになるって。

ヒト　そう。なんていうかな？　もう素質あるのは、顔見たらわかるわけよ。

——顔見るだけでわかるんですか!?

ヒト　うん。そういう選手は輝いてるからな！　だから、あとは、それをどうやって教えるかってことでね。おそらく、多分。

——おそらく、たぶん（笑）。

ヒト　そう！

——では、耕平さんと崔さんの2人は顔見て素質があると？

ヒト　もう、絶ッ対、素晴らしいレスラーになれるよ。それで、いい人に付いてるよ、豪傑な。いまのプロレスラーで、こんな豪傑いないから。

——ということですけど、どうですか、豪傑な橋本さん？（笑）。

ハシフ　ハッハッハッハッ！　まあでも、頭で考えるのと別に、身体動かしてやることってのは絶対矛盾は出てこない。若い時に頭で計算しちゃったら何でも落ち着いちゃうでしょ？　でも、行動してみたら実際は「あっ、違ったんだ」ってわかるし。架空の道を歩くのと、実際に自分で歩いてみるのとでは、やっぱり大きな違いがあると思うよ。そういう部分では安達さんにいろんなことを教えてもらったんだよね。

——で、ヒトさんは自分のことを、よくトンパチって言ってますけども、まあ橋本さんもよく言われるんですが（笑）。

ヒト　この人、トンパチ？

——と思います（笑）。

ハシフ　なんでだよ！（笑）。

ヒト　まあ、凄いトンパチだわな（笑）。ある日さ、カジノに2人で行ったんだけど、この人はムチャクチャ賭けるのよ。そんで、千ドルぐらい勝って、ストリップ見に行こうって言って。そこのストリップで、みんなにチップ配ってさ（笑）。

——アハハハ！　豪傑ですね（笑）。

ヒト　いないって、こんな豪傑な人は！　それがまた素晴らしいプロレスラーの証明

いまの俺が、こうなったのは安達さんのせいですから（笑）
［ハシフ］

1・13全日本大阪大会で小笠原先生と組んで小島聡＆ケンドー・カシン組と対戦した破壊王。小島組相手に勝利を収めた破壊王は、メインで三冠王座を防衛したムタに近づき、「武藤、やるのかやらないのか、どっちだ!」と挑発。無言で近づいたムタは破壊王の顔面に毒霧を噴射。破壊王は「もう徹底的にやるぞ！　覚えとけ！」と絶叫！　これを合図に全日本vsZERO-ONEの全面対抗戦開戦！

ハシフ・カーン×ミスター・ヒト

なの。それに、オレんとこに来た時に「安達さん、俺は必ず上取りますよ！」って言って、それでホンマに取ったもの！

―ヒトさんは、橋本さんはトップを取れる人間だと思ってたんですか。

ヒト　ある程度は上がるとは思ったけども。この人は新日本でもいろいろなことがあったけどトップ取ったからな。トップ取るっていったって若いもん食わしていかなきゃダメなんだよ。オレなんかが講釈言ったって若いもん食わせていけないもん。

―そうですか（笑）。

ヒト　だけど、この人はやったじゃん！　橋本選手のことホメるわけじゃないけども、いまのプロレスラーに多分いないタイプだと思う。昔はこういう人が結構いたの。

ハシフ　いや、俺なんか……。俺がこうなったの安達さんのせいですから（笑）。

ヒト　いやいや。

ハシフ　だって試合の予定が入ってるのにカジノに行って「時間いいんですか」って聞いたら「いいからいいから」って。そんでやり始めちゃったら「いいや、今日はやめよう」なんて話になって。そんな師匠、なかなかいないで（笑）。

―そういうのも試合を干される原因だったわけですね（笑）。

ハシフ　そうそう（笑）。でもやっぱり、俺が安達さんから学んだことっていうのはプロレスラー的な生き方だから。ものの考え方もそうだけど、下らねえことをグジグジ頭で計算して生きるなっていうことだよね。でも細心な所は細心にね。安達さんは仕事になったら緻密に動くから。余裕持ってるようで全部型にハメてくからな。その辺は凄いなと思うよね。

ヒト　だから、こないだ橋本選手から1ヶ月前に「安達さん、ちょっと来て下さいよ」って話があったのよ。俺は遊んでて仕事一年半してないから「お、いいや！」って行ったわけや。そしたら、雰囲気素晴らしいやん、超満員で！

―あの日は観客も最初から出来上がってましたからね。

ヒト　もう楽しくって、その後、終わってからも一緒にメシ食いに行って「わあっ、この男、やっぱり素晴らしいな」って感激したよ。俺はプロレス辞めてから感激したことないけども……。

―ないんですか（笑）。

ヒト　ないない！（キッパリ）。人に騙されてばっかりだったけど。まあ、馳なんかは頑張ってるからいいんだけどな。

ハシフ　でも凄いよ。安達さんの弟子たちは、いろんな方面で活躍してるから。だって政治家までいるんだよ（笑）。

―ホント幅広いですよね（笑）。

いまのプロレスラーで、橋本選手みたいに豪傑いないから［ヒト］

ハシフ　馳なんかは、大阪に行けば、料亭だなんだって、いろんな政治家と付き合いがあるやろ？　その誘いを全部断ってどこ行くのって聞いたら、安達さんのお好み焼き屋に行ってんだもん。

ヒト　汚いとこにな（笑）。大阪に用事で来ると、しょっちゅう来てくれるわけ。

―馳さんとか橋本さんは礼を欠かさないわけですね。

ヒト　ただ、川田はダメだ。あれはアホだ。

ハシフ　（小声で）ここで、そんなこと言わないでください（笑）。

―今日は会場に来てますからね（笑）。

ヒト　ライガーとか、みんな忙しいから、しょっちゅうは来てくれないけども、来てくれたら楽しくていい時間過ごしますよ。

―橋本さんはちょっと照れ臭いと思うんですけど、日本に帰国する時、空港でヒトさんに手紙を渡したっていう、いい話を聞いたことがあるんですけど？

ヒト　ああ、これは素晴らしい話なんだけど、彼がね「安達さんにお世話になったんですけど、何にもないんですけど、コレ」って手紙をくれたのよ。

ハシフ　いやぁ、俺は忘れちゃった（苦笑）。

―アハハハハ！

ヒト　俺は、あれ読んで涙ボロボロ出たよ。

―言葉で伝えると泣いちゃうかもしれないってことで、橋本さんは手紙を書いたんですよね。

ハシフ　ちょっと忘れちゃったけどな（笑）。まあ、突然のお別れだったからね。

ヒト　便せんに10枚くらいあったの。

―便せん10枚もですか？（笑）。

ハシフ　書いたような気もするけどな（笑）。でも、やっぱりそんな日本に居たら書けへんやんか。年賀状ぐらいで。

ヒト　レスラーで、涙こぼさせてくれたのは彼と馳だけ。馳も帰る時に「お世話になりました」って。アイツは日本にヤイヤイ言って日本から少しは金送ってもらってたから。最後にハワイに10日間連れてってくれたの。その時も涙ボロボロ出たよ。こんな子たち他にはいないもん！（キッパリ）。

―ヒトさんに涙を流させたのは馳さんと橋本さんしかいないと（笑）。

ハシフ　ちょっと忘れちゃってたけど（笑）、まあ思いの丈を綴っただけだからね。まあ日記みたいなもんだから。

ヒト　だから俺はプロレスやって良かったなあって思ったよ。俺の母ちゃんも泣い

ハシフ・カーン×ミスター・ヒト

金村キンタローはニューヨークに行ったってトップを取れる！［ヒト］

てたもん。

ハシフ　でも安達さんちの犬を閉じこめた時は悪いことしちゃったけど（笑）。

ヒト　そうそう（笑）。俺の母ちゃんが怒って上に上がって来て「あの人はもう、ホテルに帰ってもらう！」って。で、橋本選手は「安達さん、助けて下さい！」って言うから「助けて下さいって、何を助けんの？」って聞いたら、ウチの母ちゃんの犬を、面白いから毛布被してクローゼットに入れたら、入れたのを忘れちゃったと（笑）。

――アッハッハッハッ！　ひっどいことしますねぇ（笑）。

ヒト　俺の母ちゃん帰ってきたら、いつも犬が飛んで来るんだけど、それが来ないからっていって、探しに行ったら「あ、忘れてた。クローゼットに入れてた」って（笑）。

――本気で忘れてたんですか？（笑）。

ハシフ　そうそう（笑）。あの時はホントに大騒ぎになっちゃってな。

――命に別状はなかったんですよね。

ヒト　大丈夫だったんだけど。でも、そういうのも含めて、もの凄い豪傑なんだよ。

――たしかに豪傑ですよね（笑）。

ヒト　それは素晴らしいことなんだよね。そんで、俺が思うに、橋本、蝶野、武藤、この三銃士っていうのが、みんなで手を組んでやればプロレスは安泰すると思うよ。そうじゃなきゃ何にもないって。いまは変な連中とか、ちっちゃい連中がプロレスやってるけど、それはそれでいいの。だから俺はもういま、今年から来年にかけて馳か上の人がコミッショナーになって、3つの会社がライセンス出せばいいんだよ。

――ZERO―ONEと新日、全日の3つですか。

ヒト　そう。んで、ライセンスがないのはプロレスごっこってことで、それはそれでおいときゃいいのよ。しっかりコミッショナー作ってライセンスを出してやってプロレスラーっていうのをやったらプロレスっていうのは、もっと上がるよ。

――地位も名誉も上がると？

ヒト　そうよ。この人たちがやってることは素晴らしいから。アイデアも凄いしな。

ハシフ　でも、俺も似たようなこと前から言ってるから。

――そうですよね。ただ、コミッショナーっていうのは、よく話題になりますけど、結局、誰が音頭を取るかっていうのが問題になりますよね。

ハシフ　安達さんたちの時代の人はプロレスラーっていう誇りが高いから、変なプロレスしてけがされたくないんだよ。何やってもいいのがプロレスだっていう部分もあるけど、これは違うだろっていう部分は必ずあるから。

ヒト　だからわかるでしょ？（耕平＆崔を指して）こういう子たちに、やっぱりライセンスを出さなきゃダメ！　だってアンタ、●●プロレスの連中、女の子よりちっちゃいんだよ！

――そうかもしれませんね（笑）。

ヒト　そりゃ、毎日やってるからうまいよ。それはそれでいいけど、だけどやっぱり、橋本選手たちが一生懸命やってることに対して、ライセンスを誰かが出してやらなきゃ。そうすると誇りを持つわけ。わかる？

――その辺は、やっぱり馳先生がいまとなっては適任になるんですかね？

ハシフ　そうだね。

ヒト　なってもらいたいよな。

ハシフ　やっぱり名前でいったら猪木さんだろうけど、いまは猪木さん自体が、そういう感じじゃないから。総合的に平等にみんなを見て、的確に判断できる人間っていえば、馳が適任だろうな。

ヒト　だから、この人たちがエライのは馳っていうのは、この人たちより後輩なんだよ。だけど、立てるじゃない？　それだけのものを持ってるから。プロレスラーっていうのは、いいモノ持ってるヤツっていうのは立てなきゃダメ。腹の中で、なに思ってもな。だから、それが美しいわけよ。この三銃士っていうのはキチッとやったら素晴らしいもんできるよ。他がかかってこれないようなもんを作らなきゃ。俺はいまはその時にきてると思う。

――他のジャンルの、たとえばK―1だと

昨年暮れの『ゼロ中祭』のメインで金村と闘った破壊王。序盤からWEW勢の乱入もあって防戦一方の破壊王だったが、金村の有刺鉄線バットや机攻撃を受けブチギレると殴る蹴るの猛攻で金村を半失神KO。リングに飛び込んできた冬木はマイクを握ると衝撃のガン転移を告白。さらに5・5川崎球場で破壊王に電流爆破マッチを要求！

ミスター・ヒト（みすたー・ひと）本名・安達勝治。1942年生まれ。大相撲を経て、67年に日本プロレスへ入門。カール・ゴッチからの指導を受けたストロング・スタイルとともに、エンターテインメント性を意識したトリッキーなプロレスで人気を集め、カルガリーマットを主戦場に世界で活躍し87年に引退。現在は大阪の玉造でお好み焼き屋「ゆき」を経営。

ハシフ・カーン（はしふ・かーん）モンゴル出身。2003年1月5日に行われたＺＥＲＯ―ＯＮＥ★USAで日本初上陸を果たし、ジェイソン・アルカトラスを破壊王スタイルで撃破！好きな言葉（？）は「アサショーリュー、ブデ、キラー・カン、ジンギスカン」。本人いわく「オレは史上最強の三流レスラーなんや！」。なぜか決めゼリフは「謝謝（シェシェ）」

か『PRIDE』っていうものにもプロレスは負けないと？

ヒト　その連中は好きにやればいいじゃん。ちっちゃなレスラーも、それはそれでやればいいんだよ。だけどやっぱりライセンスを出して、（再び耕平&崔を指して）せっかくこんな大きい子たちが夢を持ってきてるんだから、夢を持ってきたらどうするかって言ったら、橋本選手とかみんなで話し合って、ライセンスを出して、ライセンスがないヤツはプロレスラーじゃないっていうことを示さなきゃ！

ハシフ　いまは自分で名乗ってしまえばレスラーって言われちゃって。同じ雑誌の中にも認められないヤツと一緒の本に入れられて綴じられたりね。俺がずっとインディーを嫌ってきた部分もそういうとこがあるんですよ。俺は恨まれても何しようがダメなものはダメで、いいもんはいいんですよ。

ヒト　そういうことや。

ハシフ　ウチにもインディーから来てる選手もいるけど、いいものは認められるんですよ、ホントに。

――インディーと言えば、年末の金村キンタロー戦が去年の橋本さんのベストバウトだっていう声が多いんですよ。

ハシフ　ハッハハッハッ。そうなの？（笑）。

――いや、ボクもそうなんですけど（笑）。

ヒト　アイツは素晴らしい！　日本の選手で受けのあれだけ出来るヤツはいないね。

――金村さんがですか？

ヒト　そう。アイツが一番！　性格は悪いかどうか知らないけど、素晴らしい受けをするよ。あれはね、ニューヨーク行ったってトップ取れる！

――ニューヨークでもトップですか⁉

ヒト　っていうのは、アイツは身体もあんまり小さくないし、受けが、あんなうまいレスラーは日本にはいない。日本で受けの一番うまいのは彼だよ。

ハシフ　たしかに、アメリカンスタイルとして逆にウチのレスラーよりもアメリカウケはいいかもしれない。まあでも、自分も新日にいたら安達さんどうこう出来る立場じゃなかったし。どっかで機会が訪れたっていうか、これから安達さんにはドンドン全面に出てもらうかもしれないですよ。

ヒト　嬉しいねぇ。これからの俺の夢は、この2人（耕平&崔）をキッチリ育てることだから。

――大型カップルですよね（笑）。

ハシフ　オ、オマエらホモだったのか⁉

耕平&崔　ち、違いますよ（笑）。

――ハッハハッハッ！　お忙しい中、ありがとうございました！

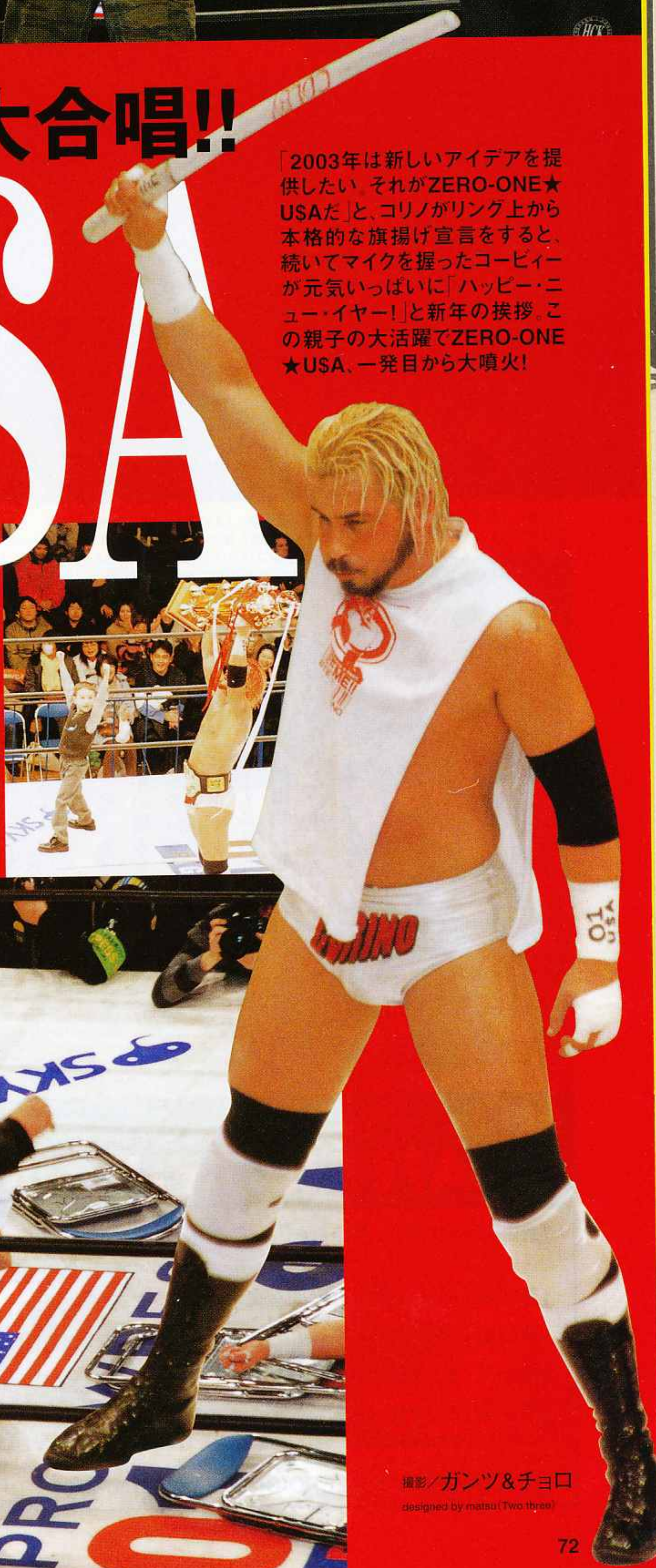
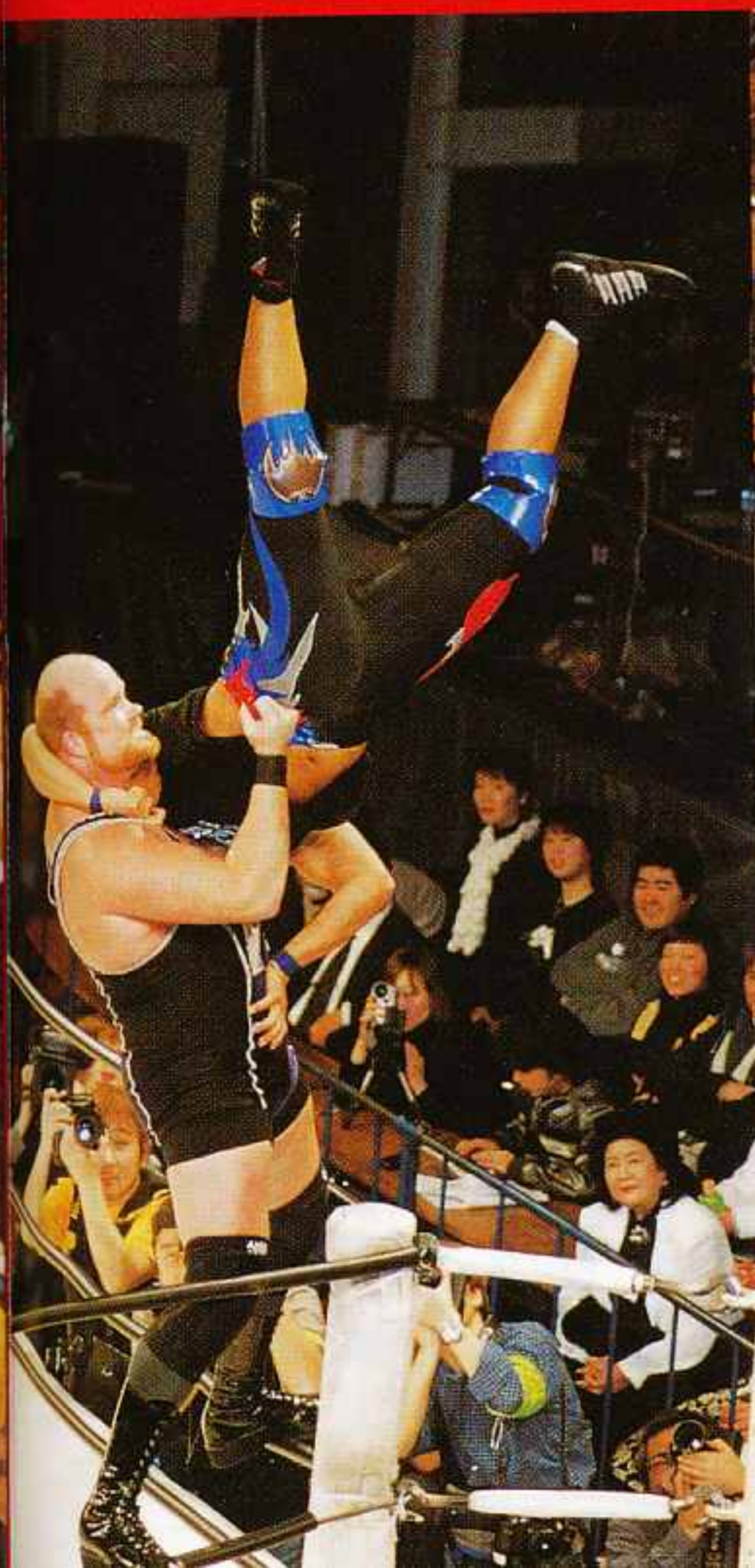
【03年1月13日／大阪府立体育館にて収録】

今回欠席

園 は"U・S・A"コールの大合唱!!

NE★U$A

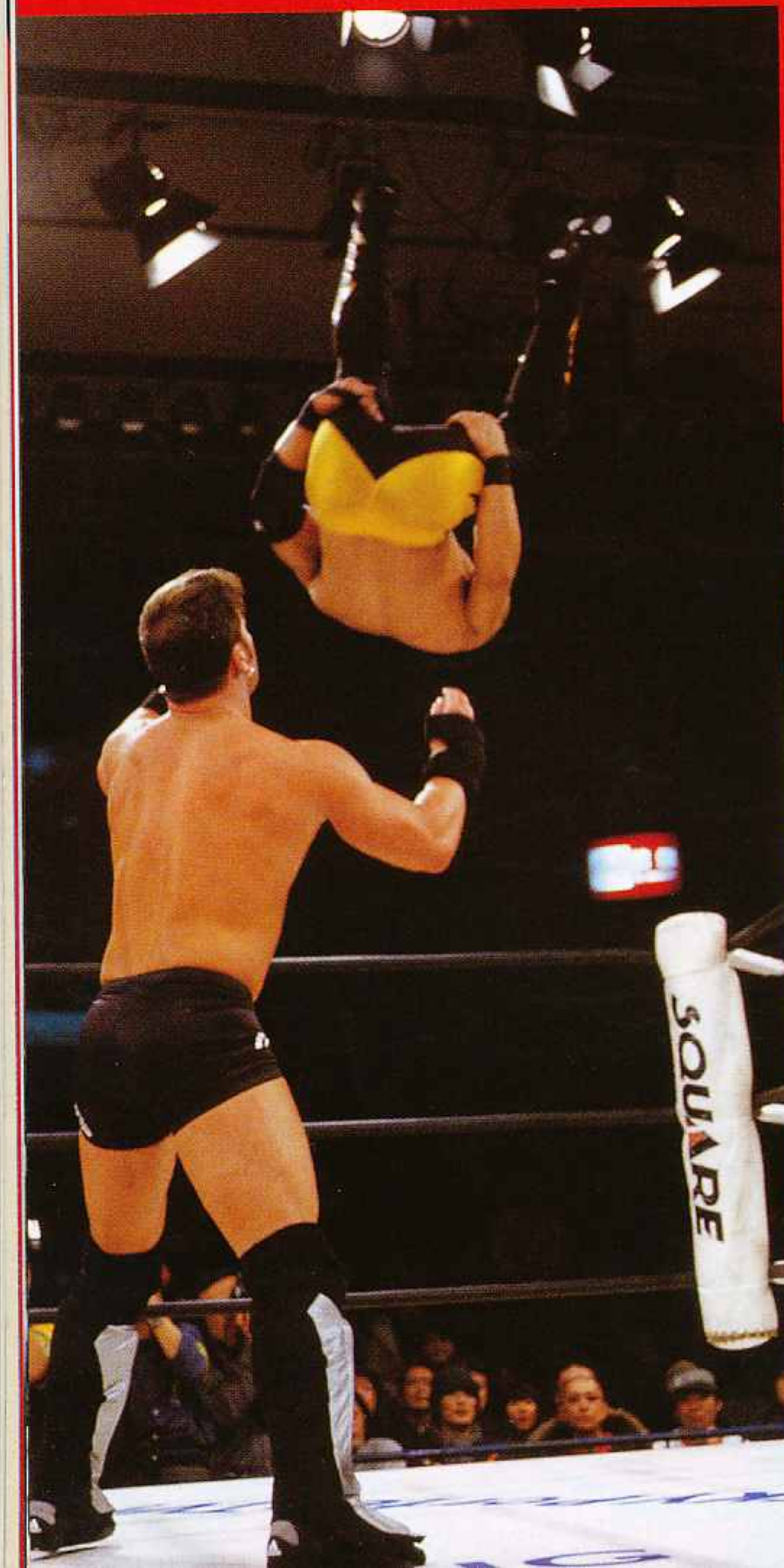
ーン!!

「2003年は新しいアイデアを提供したい。それがZERO-ONE★USAだ」と、コリノがリング上から本格的な旗揚げ宣言をすると、続いてマイクを握ったコービィーが元気いっぱいに「ハッピー・ニュー・イヤー!」と新年の挨拶。この親子の大活躍でZERO-ONE★USA、一発目から大噴火!

撮影/ガンツ&チョロ

designed by matsu (Two three)

新年早々、ガイジンパワー炸裂! 後楽園は

ZERO-ON

イッチバ

ZERO-ONE★U.
でも観客を
沸かせまくり!!

“打・投・極”すべて完璧!

蜘蛛男の原形はグレート・ムタにあり!!

完全無欠のトータルレスラー

ロウ・キー

【NWA&UPW&ZERO-ONE認定インターナショナルJr.ヘビー級チャンピオン】

2002年9月、ZERO－ONEに初参戦したロウ・キー。マニアの間では来日前から評価の高かったロウ・キーだが、実際、我々の目の前に現れた、その男は噂どおりの完全無欠のトータルレスラーだった。シウバ似のその風貌に違わぬシャープな打撃、オリジナルのキー・クラッシャー99をはじめとする投げ技、そして理解不能な極め技、すべてが完璧の近未来型レスラーの素顔に迫った!

聞き手／松澤チョロ　撮影(扉)／平工幸雄　designed by matsu (Two three)

Low Ki

―ロウ・キーさん、試合前に呼び出しちゃって、すみません！　何か食べます？

ロウ・キー　いや、試合前なんで水でいいよ。あ、やっぱりストロベリーパフェにしよう（ニコッ）。

―ストロベリーパフェ！（笑）。そういえば、ロウ・キーさんはZERO―ONE★U$A初日の試合後、ビシッとスーツでキメてましたけど、何かあったんですか？

ロウ・キー　いや、ZERO―ONE★U$Aってぐらいだから、自分もその中の一員としての誇りもあるし、今回の大会はスーツで会場入りしたんだ。

―へぇ～、それは素晴らしい心がけですね。

ロウ・キー　普段はあまりスーツは着ないんだけどね（笑）。

―でしょうね（笑）。それで、ウチの雑誌ではロウ・キーさんは、必ずブレイクするだろうと思ってTシャツを作ったんですよ。

ロウ・キー　（日本語で）ドモ、アリガト！（ニコッ）。

―出来映えはどうでしょうか？

ロウ・キー　凄く気に入ってるよ。特に自分の好きな言葉4文字（RESPECT，HONER，DISCIPLINE，DEDICATION）が入ってるのがいいね。望みどおりのTシャツだよ。

―ありがとうございます！　ロウ・キーさんのことを、まだ知らない人も多いと思うんですが、この間の両国大会では試合内容が抜群に良かったんで、試合後かなりTシャツが売れましたからね。

ロウ・キー　もっともっと、自分のTシャツが売れるように、これからも凄い試合を見せていくよ！

―頑張ってください！（笑）。それで、ロウ・キーさんのホームページとか見ると、昔から日本マットに憧れてたって書いてあったんですけど、それは本当なんですか？

ロウ・キー　もちろん本当さ。自分にとって日本で闘うっていうのは理想というか夢だったし、ひとつのゴールだと思ってたくらいだから。いまは凄く幸せだよ。

―日本マットの、どういうところに憧れていたんですか？

ロウ・キー　いまのアメリカのマット事情に対して自分が感じることを言えば、日本のリングで感じられる尊敬の念であったり、相手を尊重する心……押忍の精神がないような気がするんだ。

―お、押忍の精神!?　そんなことまで知ってるんですか（笑）。

ロウ・キー　合気道をやってたからね（笑）。そういうのもあって、ずっと日本で闘いたいと思ってたんだ。

―ZERO―ONEで活躍するガイジン選手の中にはWWEに行ってしまう選手も多いんですが、ロウ・キーさんもWWEに興味はあるんですか？

ロウ・キー　先のことに関してはわからない。なので、現時点での答えになるけど、いまは、この状況が気に入ってるし、たとえWWEから声が掛かっても、それは自分の中で一番いい選択だとは思わないよ。

―ちょっとだけホッとしました（笑）。実際、憧れだった日本マットで闘ってみて、どんな感想を持ちましたか？

ロウ・キー　想像どおりだったよ。というか、ある意味、想像以上の部分も多かったね。

―それはどういった部分で？

ロウ・キー　ビデオとかで見て研究してたつもりだったんだけど、やっぱり、アメリカマットに比べると攻撃がシビアだよ（苦笑）。

―ロウ・キーさんも十分シビアですけどね（笑）。

ロウ・キー　そうかい？（笑）。ただ、その分、闘っていても凄くやりがいを感じるし、日本に来てホントに良かったと思うよ。

―最近は会場でも「ロウ・キー」コールが起こるようになって人気もうなぎ登りですけど、ロウ・キーさんぐらいになると、日本でも受け入れられるだろうって自信もあったんじゃないですか？（笑）。

ロウ・キー　いや、基本的に自分は有名になりたいとか、そういうことには関心がないんだ。自分はファイターとしてリング上で、どれだけいいファイトが出来るかってことを考えて前向きにやってるだけで、そういった客観的な目で自分を見るようなことはしていない。

―そうなんですか。それでですね、ロウ・キーさんのファイトスタイルや、その風貌から総合格闘技にも対応できるんじゃないかって言う人も多いんですけど、総合の世界も興味はあるんですか？

ロウ・キー　もちろん。『PRIDE』とかUFCといった総合格闘技もやりたいものの1つだよ。

―興味はあるんですね。

ロウ・キー　興味はあるんだけど、現時点では、そういった闘いにチャレンジする段階ではないと思ってるんだ。もっと身体を作り上げて、テクニック的にも自分が納得できて、いまが一番いい時期だと思える時にオファーがあれば考えるけど、まだその時期にはきてないからね。

―ZERO―ONEには坂田さんや横井さんのように総合でも活躍している選手がいるんですけど、ロウ・キーさんも、それ用の練習もしてるわけですか？

ロウ・キー　当然さ。そういった闘いも想定した練習をしてるよ。それにプロレスだけじゃなく、『PRIDE』とか総合のビデオもかなりたくさん見てるしね。選手でいえば、ヴァンダレイ・シウバの試合とかを見て、吸収できるものはドンドン取り入れてるんだ。

―ちょうど、いま名前が挙がりましたが、ロウ・キーさんはシウバに似てるって評判なんで、そっくりさん対決としてロウ・キーvsシウバ戦とか見たいですよ（笑）。

新年早々、早くも今年度ベストバウト決定!?コイツらマジで凄いぞ!!

ZERO-ONE★U$A初日に行われた王者ロウ・キーとAJスタイルズのジュニアヘビー級選手権。初来日となるAJはロウ・キーと同じくマニアの間で噂となっていた選手。いざ試合が始まると互いに奇想天外な技の攻防を繰り広げ、客席はどよめきっぱなし。最後はロウ・キーのオリジナル技2連発！　キークラッシャーからドラゴンクラッチで王座防衛に成功！

ロウ・キー　たまに似てるって言われるんだよ（笑）。でも、PRIDEルールでなら、彼は、あらゆる面で、かなり進んじゃってる存在だからね。同じ次元で闘おうとしても彼にとってはオレなんて問題ないって思うだろうけど（笑）。
――その辺は実に冷静な分析をしてるんですね。
ロウ・キー　ただ、逆にプロレスルールだったら、今度はオレのテリトリーになるんで、シウバが相手でも全く問題ないけどね（笑）。
――それも見たいですね（笑）。で、ロウ・キーさんはビデオでかなり研究してるということなんですが、日本のプロレス団体では、どの辺を見てるんですか？
ロウ・キー　新日本のスーパー・ジュニアのビデオは一通り見てるよ。ライガーやサスケも知ってるし、もちろんオオタニの試合もよく見てたよ（笑）。
――まだ大谷さんが刀を振り回していない頃ですね（笑）。
ロウ・キー　そうだね（笑）。新日本のジュニアは自分とウェートも近いし、スタイル的にも目指すものと近いところがあるんで、ずいぶんビデオを見て研究したんだ。それにガイジンファイターとして、日本の選手たちと同レベル、いや、それ以上のものを見せなければ日本のファンには通用しないってこともよくわかってるしね。
――はぁ～、イチイチ感心させられますねぇ。でも、ロウ・キーさんは、先ほど名前を上げた選手にも全く引けを取らないような試合を見せてるんで、日本のファンにも受けてるんだと思いますよ。
ロウ・キー　そう言ってもらえると嬉しいね。それと、さっきはジュニアの選手の名前を挙げたけど、自分が一番尊敬している日本人ファイターはグレート・ムタなんだ。
――ムタさんはアメリカマットでも活躍してますからね。

異色の顔合わせ、小笠原先生とロウ・キーの打撃練習。空中殺法や投げ技だけでなく、ロウ・キーの打撃は小笠原も認める本格派なのだ。いつかシウバとのにらみ合いが見たい！

プロレスルールだったら シウバが相手でも 問題ないよ（笑）

ロウ・キー　そうだね。自分とは逆の立場になるけど、ムタは日本からやってきてアメリカマットにも順応して成功を収めているだろう。ファイトスタイルも、もちろん学ぶべきところは多いけど、そういった順応性もリスペクトしてるんだよ。
――そうでしたか。
ロウ・キー　それに、自分はエンターテインメント性の強いアメリカの試合スタイルっていうのは、あまり好きじゃないんだ。
――そんな気はしますね。
ロウ・キー　出来ないってわけじゃないけど好みじゃないんだ。自分が目指していたのはムタのような日本スタイルだったから。ムタのような身のこなしと順応性を持てるレスラーになりたいね。
――ロウ・キーのモデルはムタさんだったんですね。
ロウ・キー　そうなんだよ。お客さんの中には自分の動きがムタに似てるって思ってる人もいるんじゃないかな（微笑）。
――そう言われてみると、近いものがありますよね。ムタさんを意識してるところはあるんですか？
ロウ・キー　ちょっとね（微笑）。
――近い将来、ムタvsロウ・キー戦は実現して欲しいですね。それこそ『W-1』で実現したら素晴らしいファンタジーファイトが見られるでしょうね。
ロウ・キー　それは夢の1つとして考えているよ。直接的に先生と弟子という関係ではないんだけど、自分が尊敬して、ずっと見上げていた存在のムタと一度は闘ってみたいね。
――ムタさんと同世代の橋本さんには、どんな印象がありますか？
ロウ・キー　ジュニアに限らず、新日本のビデオはよく見てたんで、新日本の選手はほとんど知ってるし、その中の1人のハシモトの試合もよく見ていたからね。
――ムタさんとは試合スタイルは全然違いますけどね（笑）。
ロウ・キー　そうだね（笑）。でも、やっぱりファイターとして、その存在感とパワーっていうのを凄く感じるファイターだし、リスペクトしているよ。ZERO-ONEに参加しないかって話があった時、ハシモトはもちろん、オオタニやタカイワもいるってことで、自分の中では、このリングがベストだと思って決めたんだ。
――なんか、話を聞いていて感じるんですけど、ロウ・キーさんはかなりマジメな人ですよね？
ロウ・キー　そんなことないと思うけどね（笑）。
――ちなみに、日本で試合以外の楽しみというと何かありますか？
ロウ・キー　いまのところスケジュールが結構キツくて、あまりいろんなところは見て回れてないんだ。結果的にホテルの周りの近場で遊ぶぐらいしかないね。
――他のガイジン選手みたいに、女の子がいる店で飲んだりとかっていうのはないんですか？（笑）。
ロウ・キー　お酒は飲めないからね。ボクには強過ぎるみたいで。
――ロウ・キーさんから見て、日本の女の子はどうですか？
ロウ・キー　日本の女の子は凄くカワイイね（ニッコリ）。
――それは良かったです（笑）。いまのままのファイトを続けていけば評価はさらに上がっていくと思いますが、これまで以上に凄い試合と技を見せてください！
ロウ・キー　自分自身は、これからも、これまで以上に、いいファイトをしていこうと思ってるよ。プロレスを始めて4年になるんだけど、この4年の中で吸収してきたものっていうのは、通常、他のレスラーが吸収する以上の早さで身に付けてると思ってるんだ。
――それは間違いないですね。
ロウ・キー　何年かすれば相当なところまで自分は行けるんじゃないかっていう自負もあるしね。
――ホント、そう思いますよ。具体

的に現在のロウ・キーさんは、レスラーとしての完成度は何％ぐらいだと思ってるんですか？

ロウ・キー　まだ20％ぐらいかな？

——ま、まだ20％なんですか!?

ロウ・キー　レスラーとして、これから覚えなきゃいけないことはたくさんあるし。謙遜するわけじゃないけど、まだまだ自分は未完成なレスラーだと思ってるしね。

——このまま成長して、100％になったら、とんでもないレスラーになると思いますけどね（笑）。

ロウ・キー　ハッハハッハッ！　でも、もし100％にたどり着いたとしても、そうなった時点でさらにその上が出てくると思うし、永遠にその状態は続いていくのがプロレスなんだと思うよ。一個一個、自分で設定したゴールをクリアしても、次のゴールがまた出てくるのがプロレスだと思うから。

——ロウ・キーさんの尊敬するムタさんもプロレスのことを「ゴールの見えないマラソンのようなもの」って言ってましたけど、それに近い感覚なんでしょうね。

ロウ・キー　そうかもしれないね。ただ、自分はそのゴールの見えないマラソンを全力疾走で駆け抜けようと思ってるんだ。

——その勢いで、これからも突っ走ってください！

【03年1月6日／SHOGUNに成敗されてしまった試合前、後楽園ホール近くの『ピッキーズ』にて収録】

Low Ki

リング上の険しい顔とはうって変わって普段のロウ・キーは、どこにでもいそうな23歳の好青年。プロレスキャリアは、まだ４年ながら現在、NWA＆UPW＆ZERO-ONE認定インターナショナルJrヘビー級チャンピオン。天下一Jrを制した坂田との統一戦の実現が待たれる

プロレスラーとして、まだまだ自分は未完成だと思っているよ

文句ナシの100万点!　ハシフ・カーン＆SHOGUN以外にも
掘り出しレスラーがビッシビシ!!

大爆発 ZERO-ONE★U$A名鑑

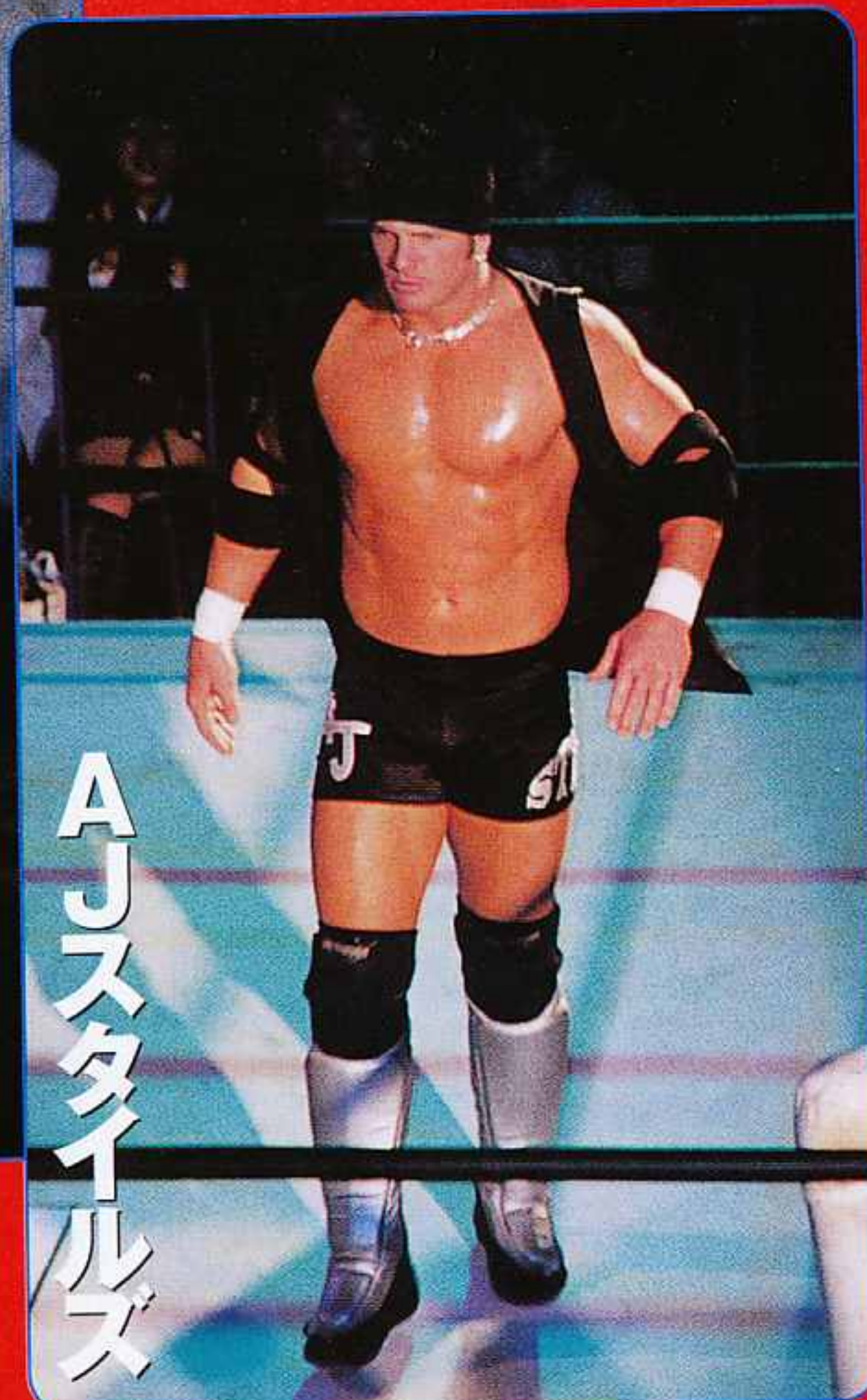
1月5日&6日に後楽園で開催されたZERO-ONE★U$Aには世界各国から、王様の息子やら兄弟、双子、猿に牛に亀にetc………とにかく、強烈なキャラクターの持ち主が大集結!　さすがにインパクトではハシフ・カーン&SHOGUNには敵わないが、一度見たら忘れられないレスラーから、二度と見られないレスラーまで一挙紹介!

構成／松澤チョロ
撮影／堀江ガンツ
designed by matsu (Two three)

マネージャー・Mr.マック

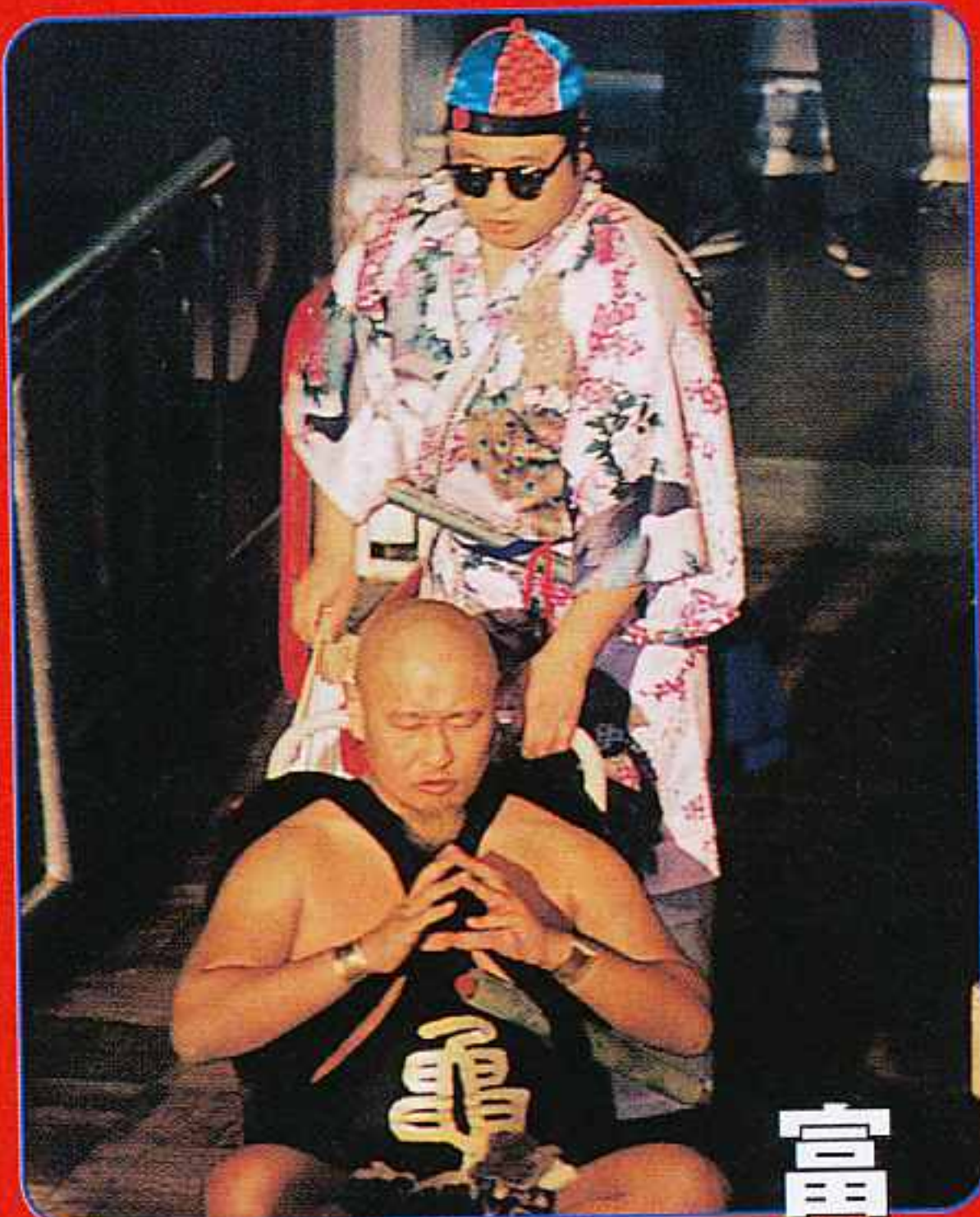
パッと見ただけでウサン臭さ満点のマネージャー・Mr.マック。プリンス・ナナとの入場では金貨をまきながら登場、Mr.OTANI & MASA TANAKA組のセコンドにもちゃっかり付き、悪さをするが、最後はコービィーに吹っ飛ばされた。

プリンス・ナナ

サウジアラビアの王様（石油王?）の息子だというプリンス・ナナ。その触れ込みどおり、ゴージャス過ぎるガウンを着て、金ならいくらでもあるとばかりに金貨をばらまきながら入場。リングに上がると黒人特有のバネの利いた攻撃と、試合が進むにつれ段々と食い込みTバック気味になるコスチュームで多大なインパクトを残した。アメージング・コングとタッグを組んだらいい感じか?

AJスタイルズ

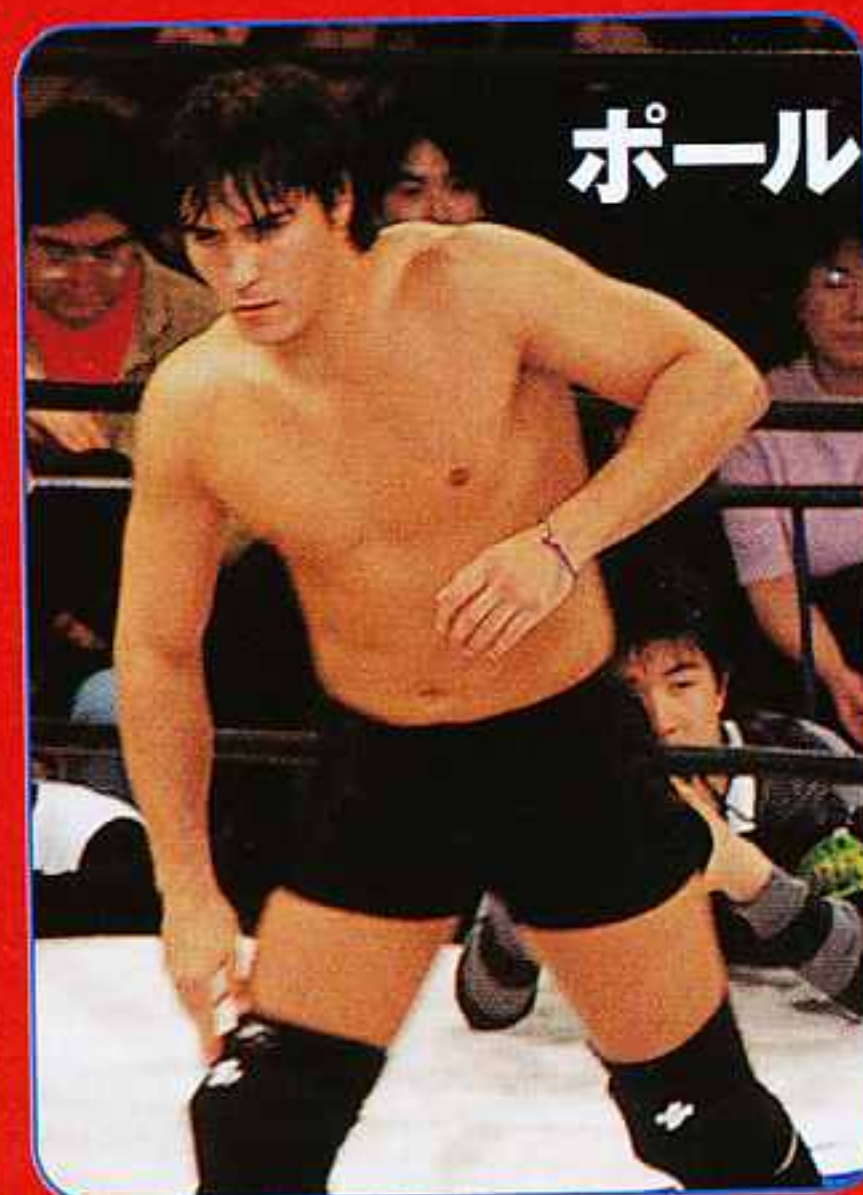
アメリカマットではロウ・キーと何度も名勝負を繰り広げてきたAJスタイルズ。面構えも体つきも良く、さらにはスタイルズ・クラッシュなどオリジナルホールドも豊富で、この先が非常に楽しみなプロレスキャリア4年の25歳。AJ本人は「帰国後、WWEに行くことが決まっている」と言っていたが詳細は不明。再来日を期待!

マネージャー・山本山

ZERO-ONE★USA 2日目に亀路のマネージャーとして登場したのが山本山。上から読んでも下から読んでも怪しすぎる、その風貌は、よく見ると、「危ないですから下がってください！」との絶叫でお馴染みの某リングアナの変身か!?

富豪2亀路

プロレスキャリア270年という大ベテランの亀路。甲羅を背負っているので背中がマットには付かず、この男から3カウントを取るのは至難の技。亀だけに「カメハメ波!」も出すのだが、どうやら全く効き目はない様子。ナナとの試合中にボディを殴られると苦しみのあまり倒れ込み、リング上で産卵を始めてしまった、恐らく世界で唯一のレスラーである。

サル・ザ・マン

ヒラデルヒアから初来日のサル・ザ・マン。試合中、「お前、葛西純だろ!」とのプロレスファンらしいツッコミが何度も入ったが、この日たまたま会場に来ていた葛西本人に確認すると、どうやら全くの別人とのこと。逆に「アイツは昔のオレをパクッてるだけ!」と、かなりの怒りっぷり。一方のサル・ザ・マンも「あんなニセモンと一緒にするなよ」と、ご立腹。葛西純vsサル・ザ・マンという因縁の対決は実現するのか!?

ポール・ロンドン

今回、初来日組の中でも、とりわけ注目度が高かったのが、このポール・ロンドン。その空中殺法は必見との触れ込みどおり、鮮やかなシューティングスタープレスを披露。線は細いが女の子ウケしそうな、そのルックスも含め、スパンキー、WWE転出後のガイジンスター候補生と言えるか

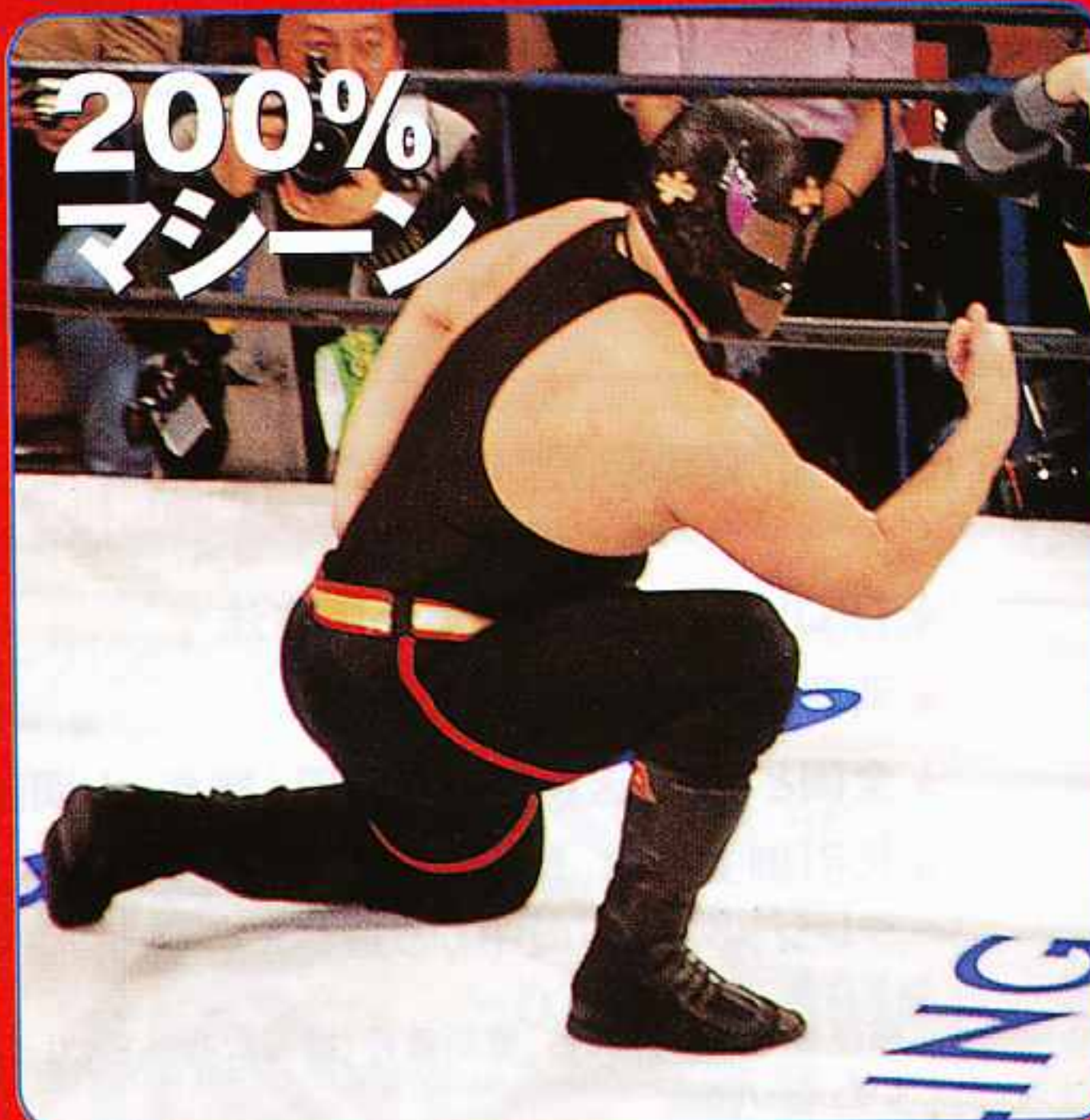
日本初上陸となるハシフ・カーンの対戦相手はマンハッタン島からやってきたジェイソン・アルカトラス。ジェイソンだけあって入場時にはホッケーマスク姿で現れたアルカトラスだったが、2日目にはMr.OTANIに「そのマスク、ファンにプレゼントしろ!」と散々絡まれ困り果てていた。その風貌には似合わず得意技はロープ拝み渡り。

ジェイソン・アルカトラス

コリノ・コービィー

Mr. OTANI

前回の来日時に比べ、かなり大人っぽくなったコービィー。開場前の後楽園では未成年のクセに破壊王スロットにハマってました。今回、血まみれになったパパを助けるべくリングに乱入、片っ端からパンチでフッ飛ばし、やんやの喝采を浴びるなど大活躍。会場での歓声の大きさから言ってZERO-ONE★USAのMVPはコービィーに決定!

イギリスマットからZERO-ONE★USAに唯一参戦したのがMr.OTANI。初来日ながら空港の土産物売場に飾ってあった刀を見て必要以上に大興奮したというOTANIはヤングライオン時代の大谷晋二郎Tシャツに黒タイツ姿で爽やかに入場。やっぱり得意技は顔面ウォッシュだったりする。2日目には高岩と同期（のような）タッグを結成。

200% マシーン

Uインター再評価の時流に乗ってか、新年早々、全日本そしてZERO-ONE★USAに登場した200%マシーン。リングに上がると「安生ッ!」とヤジを飛ばす大人げないファンがいるかと思えば「ラッパ先生、ラッパ吹かせて!」との温かい声援を送る「紙プロ」読者も出没。

ブギーマン

当初はエルム街からフレディが来日予定だったが、なぜか直前になってブギーマンに変更となった。どっちにしろ、その正体は過去に所属した団体で両方のキャラクターを経験済みの●●選手だと思うのだが……。ある意味、謎は深まるばかりだ。

バラード・ブラザーズ

ZERO-ONE★USAと言ってるのに、思いっきりカナダ色全開の双子タッグチーム、バラード・ブラザーズ。入場時は陽気で明るいバラード兄弟だが、いったんリングに上がると途端に弱々しく見えてしまう。この双子、ZERO-ONE★CANADAが出来るまで、2人の勇姿を見ることはないのかもしれない。

MASA TANAKA

元ECW所属でヘビー級チャンピオンにまでなったMASA TANAKA。ECWの文字入りコスチュームで、試合も、まさにECWスタイルで、ジャンジャン、リング上にイスを放り込み、その上での攻防が果てしなく続いた。初対面だったというMr.OTANIとのタッグは不思議なくらい息が合っていた。

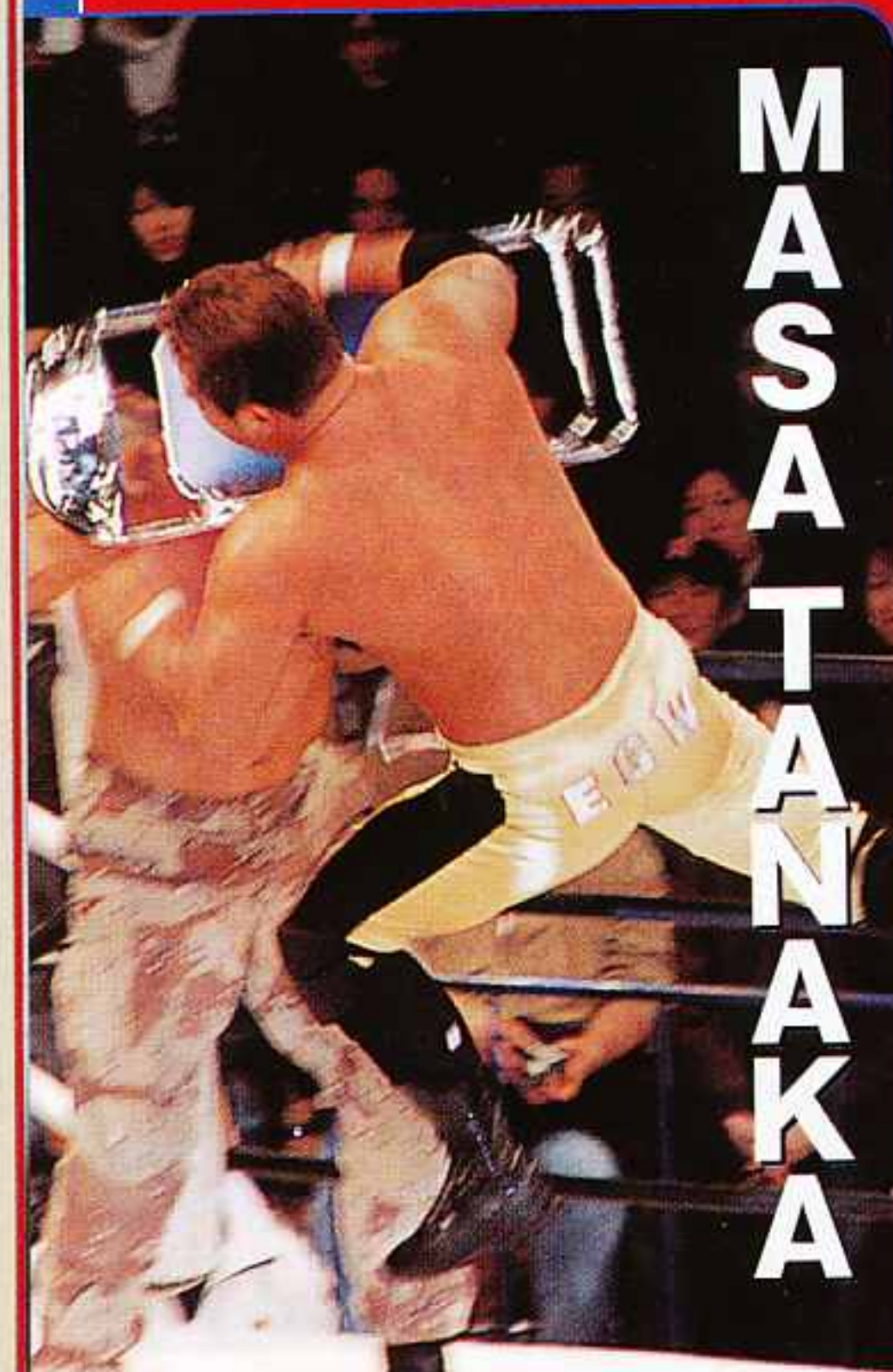
オージー・ビーフ

オーストラリアから直輸入のオージー・ビーフ。聞き覚えのあるテーマに乗って入場してきたのは、黒毛和牛太がバッファローマンのようなツノを付けて来ただけというもの。せめて、金髪とかにすれば良かったのに。

S.A.T

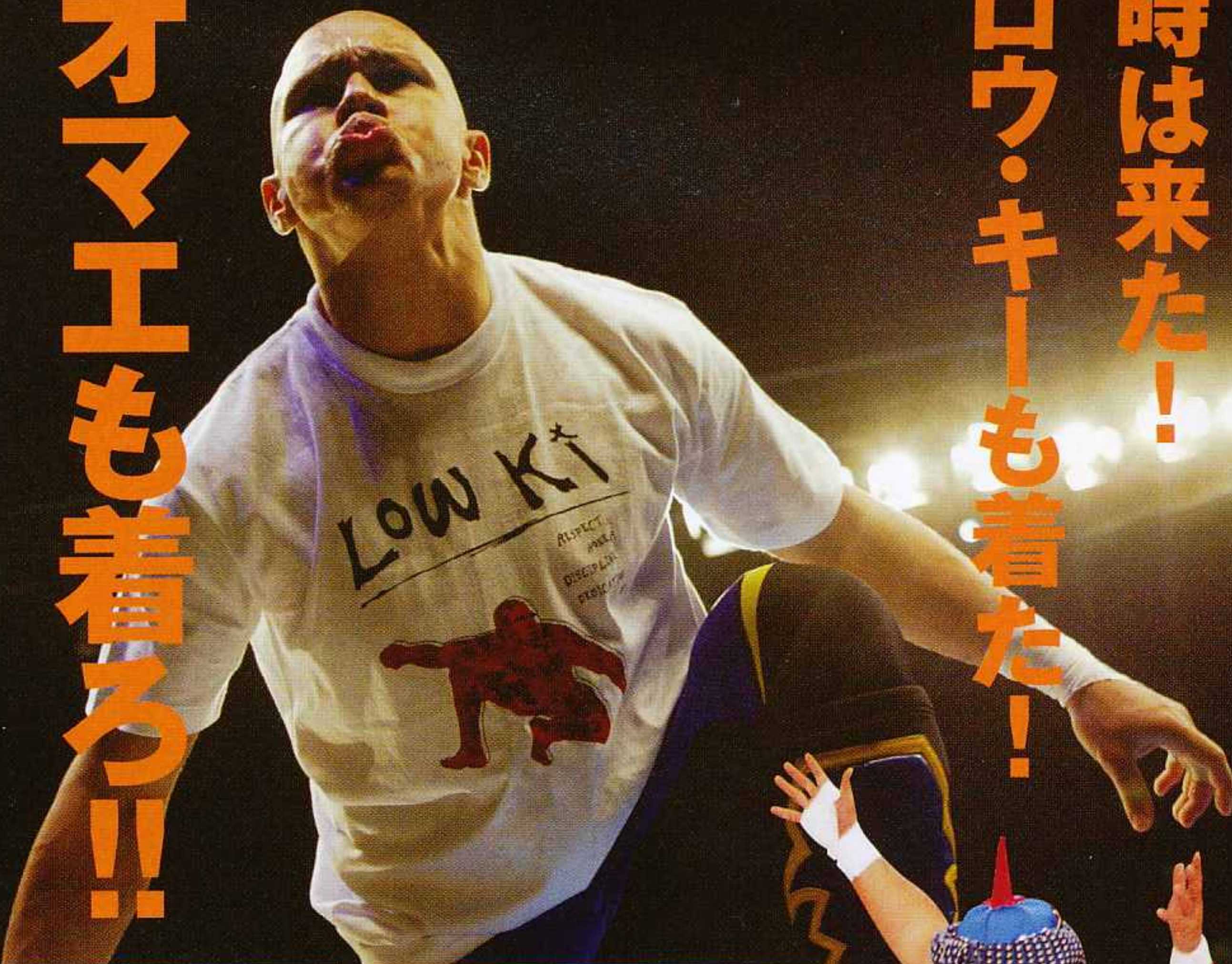
兄弟タッグならではの息のあったコンビプレーや難解なツープラトンを次々と披露したS.A.T。遠くから見ると、どっちがアニキで、どっちが弟なのか、さっぱりわからなかったが、PPVを見た本誌鬼畜編集長の山口によると、「アニキの方が断然いいレスラーだよ」とのこと。再来日はあるのか?

『紙プロ』発ZERO-ONEオフィシャルグッズ

オマエも着ろ!!

時は来た!
ロウ・キーも着た!

ロウ・キーTシャツ
¥3,000　S or M or L

大好評のロウ・キーTシャツ。いまなら希望者（各サイズ先着10名）に上のサイン入りロウ・キーTシャツをお送りいたします。サイン入りを希望する方は、その旨をメモに記入してご応募ください。

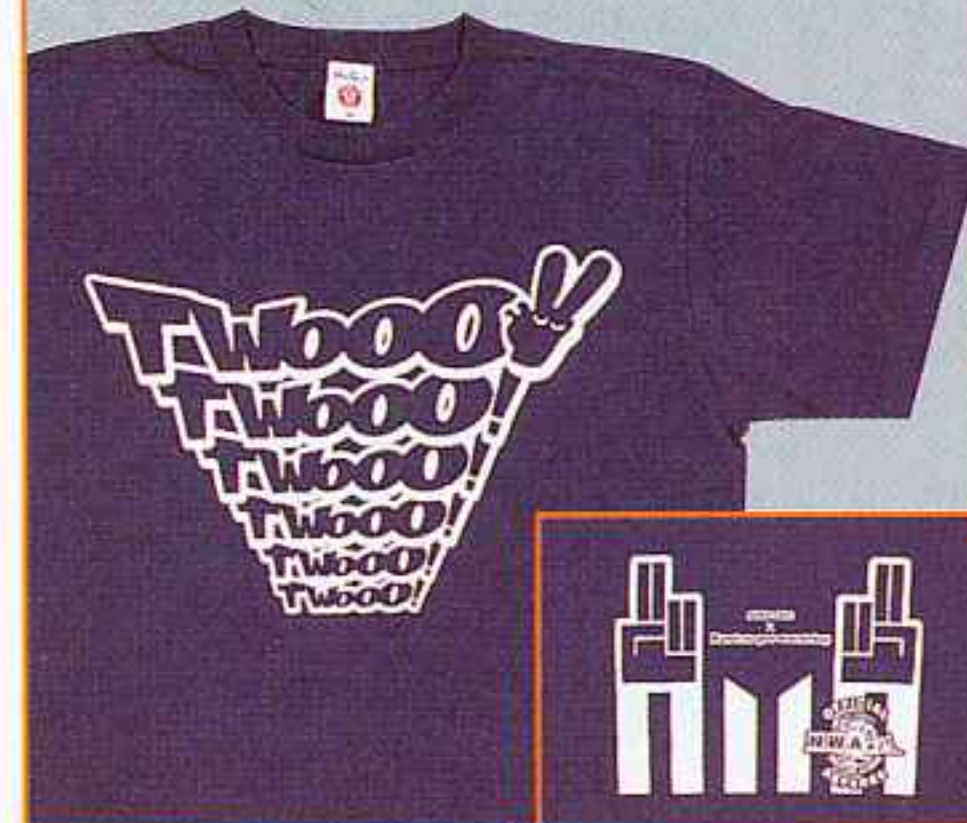
ハシフ・カーン日本初上陸記念!
買うなら、いまや!

ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈イエロー〉
¥3,800　S or M or L or XL

ハシフ・カーンTシャツ『破不可』〈ホワイト〉
¥3,800　S or M or L or XL

ハシフ・カーンパーカー『破不可』
¥6,000　M or L or XL

Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈カーキ〉
¥3,800　S or M or L or XL

Mr.フレッド『TWOOO』パーカー
¥6,000　M or L or XL

Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800　S or M or L or XL

Mr.フレッド『TWOOO』Tシャツ〈ベージュ〉
¥3,800　S or M or L or XL

「代引き」を開始!!『紙プロ』通販方法

★TPOにあわせて選べる通販方法
★消費税サービス
★全国どこでも送料一律500円（離島、山間部は除く）
★代引御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

代引き
郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com まで送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。
商品代金のほかに送料一律¥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）代引手数料約¥315がかかります。（代引金額によって異なります）。）御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

現金書留
希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を現金書留で
〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
まで送り下さい。郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

郵便振替
希望商品の代金＋送料一律¥500（何枚でも可・ネックピースだけなら¥300。離島、山間部は除く）を郵便振替で送り下さい。
郵便振替の宛先は00130-3-769154（株）ダブルクロス
郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

『WRESTLE－1』は恐ろしいくらいに画期的な事 これを闘龍門だけでやれるようになりたい！

CIMA

TORYUMON JAPAN CRAZY MAX

『W－1』との交流、石森太二率いる『闘龍門X』スタート、T2Pの発展的解散と、2003年も話題に事欠かない闘龍門。さらに校長ウルティモ・ドラゴンのWWE入りも囁かれる中、リング内外でますますこの男の注目度は高まるだろう。1・19『W－1』の前日、CIMAを直撃した！

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松本崇
試合撮影／平工幸雄
designed by さおとめの事務所

——さて、CIMAさんのインタビューは実に1年ぶりですけど、この1年で一番衝撃的な出来事と言えば、やはり車大破事件（昨年11月にCIMAが運転していた車のタイヤがバースト。そのまま道沿いのうどん屋に激突した事件）ですか？（笑）。

CIMA　あ～、あれは厳しかったですねぇ。あんときの出費が、いまごろボディブローのように効いてきてますからね（笑）。

——やっぱり相当な出費だったんですか？

CIMA　事故自体の出費は、弁償額は保険が下りるし、ぶつけた車も一括で買ってたんで問題なかったんですけど、ちょうど時期的に引っ越しと重なってたんですよ。それでただでさえお金かかるときに、新しい車も買わないといけなくなって。まだまだ25歳のガキにはダメージ大きかったですね（笑）。

——でもホント無事でなによりです。ま、そういったリング外はともかく、2002年はT2Pとの抗争に終始した年でしたけど、その決着戦となったミラノコレクションAT選手との試合（12・26T2P後楽園大会）は、やっぱり気合い入りましたか？

CIMA　気合は入ってましたね。闘龍門JAPAN、T2Pっていうものをお互い背負った決着戦だったというのももちろんですけど、正直、自分が左ヒジと腰を怪我をしていたんで、凄い不安を抱えていたんですよ。それで相手のミラノもミラノでかなりヒザが悪くて本当は歩くのもやっとだったみたいなんで、お互いもの凄い気合いが入っていたんじゃないですかね。

——ただ、こんなことを言うのはなんですけど、9月の有明コロシアム以来、日本でも散々やりあったCIMA vsミラノって、12月の後楽園見るまで実は個人的にはあまり好きな試合じゃなかったんですよ。

CIMA　あ、そうなんですか。

——試合の激しさはあるけれど、雑だったというか。「CIMAとミラノの良さが出てない」という想いが強かったんです。それが12・26後楽園では、二人のまったく違うスタイルが違うなりに"会話"が成立して、遂に化学反応起こした。そんな気がしたんですけど、実際闘っていたCIMAさん的にはどうでしたか？

CIMA　あ～、やっぱりね、プロレスっていう競技は一発で会話が成立するのは不可能なんですよ。だからあのミラノ戦っていうのも、5月にメキシコで初めてあいつらと試合してから、散々やりあったからこそできあがったものですよね。それからやっぱりT2Pの試合スタイルというのが、起承転結で言えば「転」で決めてると思うんですよ。関節技だからもちろん極まったらそこで終りなんでしょうけど、「結」で決めるのがプロレスだと思うんで。だからこの間のミラノとの試合っていうのは、4回しかロープに逃げられないっていう不安の中で、「転」で終わらせずに、「結」まで持っていけたのが大きかったと思いますね。

——これまで日本で負けなしだったミラノ・コレクションATが、シュバイン（CIMAのフィニッシュホールド）で完璧な3カウントを奪われるという結果も、実際目の当たりにすると衝撃的でしたよ。

CIMA　あのシュバインは終わってから自分の足腰が痛かったぐらいですからね。T2Pの六角形リングってメキシコのリング並に硬いんですよ。だから試合終わった夜、なんか尾てい骨が痛むなと思ったら、自分のシュバインやったという（笑）。

CIMA

初めてT2Pと乱闘したとき
興奮して眠れなかった。
今はあいつらに感謝してます

——で、T2Pとはいちおうの決着をみたわけですけど、実際半年の間T2Pと抗争をしてみて、彼らは別団体でスタイルも違いますけど、後輩じゃないですか。そういった意味で同じプロレスラーとして「まだまだな」と思ったところはありました？

CIMA　T2P内部で選手のレベルに凄い差があると思いましたね。ホントに練習やってる選手とやってない選手の差が激しいなと。ミラノ、吉野（＝YOSSINO）、大鷲（透）、アンソニー（W・森）と、岩佐（卓典）、川畑あたりでは身体見ただけで違うんで。その辺の意思の統一ができてないと思いましたね。差が激しすぎましたよ、T2Pは。

——最近では、試合に出れない選手もけっこう出てきてますもんね。

CIMA　冗談抜きにそういう人間が上がると危ないですからね。身体が細いなら細いなりに鍛え方があると思うんですよ。ただ単に細いんなら、そこら辺のただのアンちゃんと変わりないですからね。パッと見、アンちゃんと変わらなくても、鍛えてる身体は違うんで。

——そういった苛立ちもあって、T2Pに対するマイクアピールは「言い過ぎだろ」っていうぐらいキツイ発言が多かった部分もあったんですか？

CIMA　というか、こっちが言い過ぎないと向こうから仕掛けられないと思うんですよね。そうしないとケンカにならないんで。それに嫌なもんは嫌、ムカックもんはムカックってハッキリ言葉で言った方が、若いお客さんに届くと思うんですよ。

——CIMAさんのマイクって、ホントに相手の痛いところ、一番言われたくないところを突きますからね（笑）。

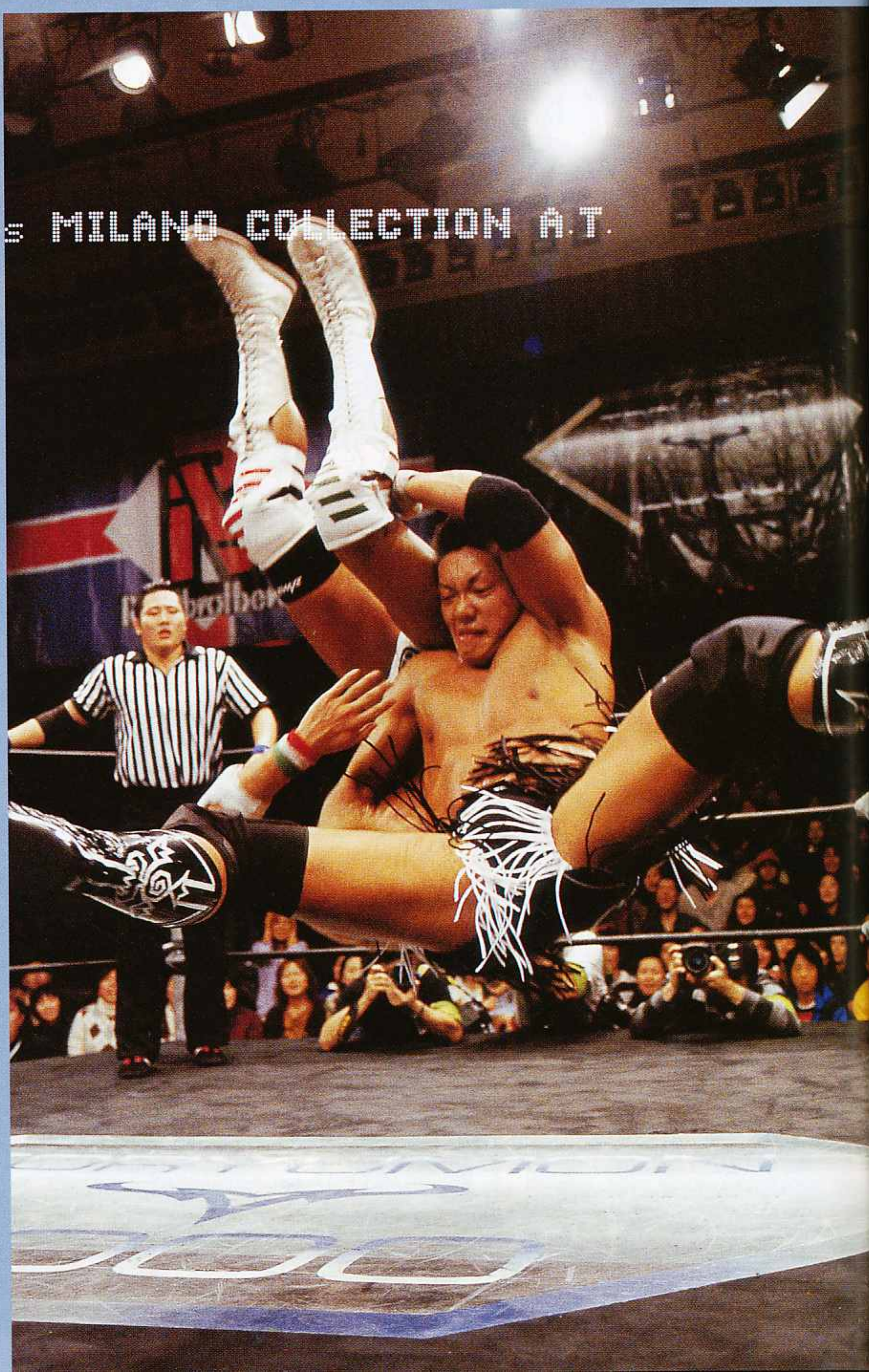
CIMA　だっていつまでも試合のたびに「テメエ、ブッ殺す」とか、そんなのありえないじゃないですか（笑）。

——どこかの団体は毎試合「ぶっ潰す」って言ってますけどね（笑）。

CIMA　自分は年中「ぶっ殺す」と思ってる人間なんてありえないと思いますから。だから、喋れなかったら、ウチでは上にいけませんね（笑）。

——言われた方はバックステージでも、ホントに悔しがってますからね。「ああ、これはアングルなんてもんを超えてるな、このホントに悔しい気持ちからあの試合のテンションは生まれるんだな」って思いましたよ。

CIMA　だからこっちもその分テンション上げてましたからね。6月にミラノと（ド

2002.12.26 CIMA vs MILANO COLLECTION A.T.

ン・）フジイさんの試合の時、あいつらと初めて乱闘やったときなんか、興奮して夜眠れなかったですからね。

――あの乱闘はホントに凄かったですよね。

CIMA 試合じゃなくて、セコンドとして乱闘しただけなのに疲れて箸を持てなかったぐらいですから（笑）。でも、あれがあってある意味、「こいつらとはできる」と思いましたけどね。あれだけ熱くなるのって今までなかったんで、こいつらとなら新しい闘いができるなって感じましたね。そういう点ではT2Pに感謝してますよ。

――闘龍門に殺気と緊張感とハプニングっていう、新たな興奮をもたらしてくれたわけですからね。

CIMA でも、いい刺激でしたね。ああいうのがないとプロレスは面白くないですよ。でも、あれを半年続けたのはもしかしたら長すぎたかもしれないですね。年末に近づくにつれ、「もうそろそろまともなプロレスを」という声を聞いていたんで。でも、やってる当人としては決着付けないとどうしようもないっていう。

――そしてキッチリと決着がついたCIMA vsミラノ戦だったんですけど。ボクが印象深かったのは、試合後バックステージでCIMAさんが涙を流していたことなんですよ。

CIMA （照笑）。

――ファンが知らない部分をあえて出しちゃいますけど（笑）、あれはどういう涙だったんですか？

CIMA あれは9月の有明コロシアムのときに、（ドラゴン・）キッドとクネス（＝ダークネス・ドラゴン）が試合後に流した涙に近いかもしれないですね。闘龍門にとって、とてつもなく大事な大会のメインというプレッシャーから開放された安堵の気持ちと、達成感で涙が出たんだと思います。

――CIMAさん的にも、涙が出たということは、ミラノ選手や、T2Pとの抗争の終着は大きかったということですか。

CIMA 大きかったですね。1年前に望月（成晃）とM2KvsクレイジーMAXの決着戦をやって、今回が形的にはJAPANとT2Pの決着戦でしたけど、今回のほうがプレッシャーは強かったですから。去年、後楽園はホントにチケットが手に入らないくらい毎回お客さんが入ってくれて、有明コロシアムも一杯になって、地方も凄く動員数があがって1年間駆け抜けてきたんで、年末の大事な大会でこの役目を任せられたっていうプレッシャーはやっぱり大きかったですね。

――それで今回T2Pの解散が決定し、今後どうなるのかっていう興味が当然でてくるわけですけど。二つあったものが一つになるわけですから、ますます生き残りの競争が激しくなるのは確実ですよね？

CIMA それは間違いなく激しくなるでしょう。そうなった時に初めて気づく選手もいるんじゃないですか。お金を貰うには、試合をしないといけないわけですけど、お客さんを満足させないと試合を組まれないわけですから。それによって競争意識が出て切磋琢磨していけばいいと思いますよ。闘龍門ってまだまだ小さな団体ですから、現状維持じゃ話にならないですからね。だから、この状態で満足するんじゃなくて、やるべきことは腐るほどあるんですよ。自分自身、25歳で、オレの代でやれんのかわからないほどありますけど、もしオレの代でできなくても、土台だけは作ろうという意識はありますよ。

――その土台という意味では、ウルティモ・ドラゴン校長がこれまでしっかりと築き上げてきたわけですけど、先日、校長自身がウチのインタビューで「これからは若い奴らに裏方もまかせる」と言っていたとおり、マッチメイクもCIMAさんたちにバトンタッチされたわけですよね。これによって、いままでよりも遥かに責任重大になると思いますけど、そういうプレッシャーはありますか？

CIMA それはないですね。T2Pの（12・26）後楽園が終わったときに、オレは泣いたんですけど、泣いたついでに校長のとこ行って、「あとは任せてください」と。「校長は校長で好きなことやってもらって結構なんで。オレは闘龍門を守り、発展させていきます」ということは、言ってますから。それはマグナムも望月も他の選手も同じ気持ちなんで。間違いなく発展させますよ。やっぱ校長にしかできないプランもありますけど、オレらにしかできないプランもあるんで。それはドンドンやっていきたいです。

『W―1』は演出が凄いと思いましたね。でもそれ以前に「さたやん、何だよ！（怒）」って（笑）

――では、暖めてるプランとかもたくさんあるわけですか？

CIMA ナンボでもありますね。だから不安感なんかなくて、もうワクワク感ぐらいしかないですよ（笑）。

――では、ちょうど明日、1・19『WRESTLE―1』（以下『W―1』）東京ドームに闘龍門（T2P）の選手が出るんですけど。『W―1』との交流することについてCIMA選手はどう思いますか？

CIMA う〜ん、討って出ていくことはいいことだと思いますけど、オレ個人としては、みんながみんな出て行くんじゃしょうがないんで。状況を見守りながら、みんなが出ていくんなら、オレはみんなと反対のことをしたいですね。そんな甘い考えが通用するのかわからないですけど、やっぱり一番の理想は闘龍門だけで、『W―1』みたいなことができるようになることですから。

――闘龍門だけで『W―1』開催ですか！

CIMA そうですよ。将来的にはあれぐらいの規模にしたいですからね。だから良い意味での"社会見学"で行くぶんにはいいかもしれないですね。『W―1』っていうプロジエクト自体は、恐ろしいほど画期的なことだと思いますんで。

――CIMAさんは『W―1』のTV放送はご覧になられました？

CIMA 自分はPPVで見たんですけど、まず演出が凄いなと。でも、それ以前にまず「さたやん、なんだよ！（怒）」って思ったんですけどね（笑）。

――ガハハハ！ やっぱりさたやん（笑）。

CIMA だって「SATA…yarn」ですよ（笑）。でも、これが何回か見たら、メチャクチャおかしく見えたんですよ。これアリだなって。オレもなんだかんだ言いながら、頭堅かったなと。K―1であんだけバリバリにやっていた人が、ここまで方向転換してやってるのは、もう笑うしかないんで（笑）。

――さたやんは怒るだけ労力が無駄な気がしますからね（笑）。

CIMA まぁ、プロレスとして見たらもうちょっと頑張らないとどうしようもないと思うんですけど。あれはもう、腹抱えて笑いましたね（笑）。あの面白さを全員がわかれっていうのは無理かもわからんけど、あれが支持されるようなったら、日本の不景気も変わるんちゃうかと思いますよ（笑）。

――ガハハハ！ 確かにあれを笑えるぐらいの余裕はほしいですね（笑）。

CIMA あともうひとつ思ったのは、格闘家の人たちは餅は餅屋じゃないけど、やっぱり（プロレスは）できないですよ。それは正当に評価を下さんとイカンですよ。「初めての割によくやった」じゃなくて、そういうどころのレベルじゃなく、できてないんですから。あれを認めちゃうのは、プロレス界のためにも、その人のためにもならないですよ。

――確かにどうしても「格闘家のプロレスごっこ」に見えてしまう部分はありますからね。

CIMA ボブ・サップも凄いけど、プロレスはできてないですよ。それは俺らが格闘技のリングに上がれないのと一緒ですから。

――では、格闘家にプロレスをやらせる以外に、ビジョンに「いっちゃうぞバカヤローッ」とか出たり、そういう演出面でも賛否両論起こりましたけど、そういうのも気になったりしましたか？

CIMA いや、そっちは全然気にならないです。やってみて間違っていたら軌道修正したらいいんですよ。だからドンドン新しいこ

とはやるべきだと思いますよ。また、ああいうのが出てくることで、闘龍門としては、見習う点と真似しちゃいけない点がわかるので助かりますよね。ウチは隙間産業なんで。隙間が空いたらスススって入って行くんで（笑）。

──『W─1』は大金をかけて実験してくれてるわけですから、これを利用しない手はないですよ（笑）。

CIMA　要は認められたもん勝ちですから。だから、『W─1』は、前回はまだ試合が演出に負けてましたけど、逆にそれが追い付いたらかなり脅威ですよね。でも、正直言って、あんだけの舞台つくられたら、羨ましいというか、ジェラシーはありますよ。それで試合があれですからね、「プロレスっていうのはこうや」「オレに一回やらせてくれ！」っていうのは当然ありますよね。

──おぉ！　CIMA、『W─1』に殴り込みですか！

CIMA　ま、ここまで言っといてなんですけど、他団体に出るなら自分よりマグナム（TOKYO）、（ドラゴン・）キッドの方がいいと思いますけどね（笑）。自分はまた違う音楽とかバラエティ番組に出て客を引っ張ってきたいんで。『W─1』に出て客を呼ぶんだったらマグナムとかキッドが効果的だと思いますね。ドラゴン・キッドもマンガになったぐらいですから。いまは低迷このうえないですけど（笑）。

──確かに他団体に出たときと、闘龍門内では歓声の落差が大きいですよね（笑）。

CIMA　あれじゃ、闘龍門で人気が出ないのも当然ですよ。ドラゴン・キッドとスペル・シーサーには、T2Pが合流しようが、キッドとシーサーに厳しいクレイジーMAXで貫きますから。

──それはともかく、マグナムやキッドが『W─1』で受けるのは僕も確実だと思いますけど、やっぱりCIMAさんが『W─1』で勝負するところも見たいですけどね。あの大舞台、TVのゴールデンタイムで自分を表現したいとは思いませんか？

CIMA　正直、ないといったらただのアホですけど。あの、違うんですよね。オレは闘龍門で輝きたいんですよ。と同時にそれだけ輝ける闘龍門を作っていきたいんですよ。ただ、もちろんテレビの力ってわかってるつもりですけどね。

──CIMAさんも、明石家さんまさんの番組（『踊るさんま御殿』）とかによく出てますよね？

CIMA　あれも周りが凄い人ばっかだったんですよね。スティーブン・セガールさんとか黒沢年男さんとか、他にも、「あれちょっとこの人誰かな」って思っても、杉浦太陽なら（ウルトラマン）。藤谷文子なら（スティーブン・セガールの娘）ってわかるんですよ。でも、CIMAは「闘龍門」って言われても、「え？　闘龍門って何？」って状態なんですよね。だからああいう番組で「闘龍門」という文字が出て、一般の人が「あ、闘龍門ね」ってわかる状態にするのがオレらの仕事なんですよね。

──いかに知名度を上げるかですよね。

CIMA　そうですね。やっぱ「大仁田厚」ってなると、「ああプロレスの」ってなりますもんね。だから自分は「動ける大仁田厚」なりたいですね（笑）。

──ガハハハ！　動ける大仁田厚（笑）。

CIMA　オレの武器というのは年齢的な若さだと思ってますから、30までに絶対に「CIMA（闘龍門）」ってテレビに出たときに、一般視聴者が「ああ闘龍門ね」ってなるようにしますよ！

──ああいうテレビという舞台も、出演者同士、どれだけカット割りされるかっていう、闘いの場でもありますからね。

CIMA　そうです。よほどのことをしないと全然映れないこともありますからね。だからそれはプロレスも同じで、まだデビューして7試合しかしてないのに、校長にWCWの

ボブ・サップも凄いけど、プロレスはできてないですよ。あれを認めちゃいけない

CIMA

12.20 25.26 TORYUMON TOPICS

YOSSINOの愛猿・"空飛ぶミニゴリラ"ベネツィアが、突如現れた謎のデカゴリラ、エル・キングコングに連れ去られてしまった！　その正体はまたあの人か……。

U・ドラゴンの首を狙って来日したEMLLのトップルード、ゲレーロ＆ブカネロは、その桁違いの強さで、闘龍門ファンの心を掴むことに見事成功。後楽園の連戦では、試合毎に人気がみるみる上がっていった。

しゃちほこマシーン壱＆弐号と参＆四号が覆面剥ぎ共食いマッチで激突。敗れた参＆四号がマスクを脱ぐと、同じ顔が！参＆四号は双子の佐藤恵（けい）＆秀（しゅう）だった。

12月20日、後楽園3連戦の初日に、左ヒジの手術ミスにより現役から遠ざかっていたウルティモ・ドラゴン校長が約5年ぶりの日本マット復帰。ブランクを感じさせない動きを見せ、ゲレーロをドラゴン・スリーパーで破った。

『マンデー・ナイトロ』に連れていってもらって、試合にも出してもらっていたんで。そういう度胸は他の選手よりは付いてるはずなんで。今度の石森（太二）にしても、日本のデビュー戦が『W―1』じゃないですか？ 単なる練習生上がりがドームでデビューするなんて、他ではそんなの考えられないと思うんですよ。ウチの団体の強みってのはそういうとこもありますよね。

――普段は小さい会場で試合していても、いざこういう舞台を与えられたら爆発できるっていうのは、素晴らしいですよ。

CIMA それは他と違うことをやってるからだと思いますね。あんまり詳しくは言えないですけど、だからこそ違う輝きを出せるんじゃないですか。とか言いつつ、明日『W―1』であいつらがどんな試合するのか、不安で不安でしゃあないんですけどね（苦笑）。

――ある程度、闘龍門の対外的な評価というものが下されるわけですからね。そういう意味で、ホントは、闘龍門JAPANのトップどころを送り込みたいくらいですか？

CIMA いや、明日は四日市でJAPANの興行がありますからね。T2Pは別物だからいいですけど、JAPANの人間が四日市すっぽかして『W―1』に出たら大問題ですよ。もう、オレは明日、四日市のお客さんをドーム以上に沸かせるって決めてますから！（笑）。

――逆に気合いが入ってるわけですね（笑）。

CIMA 明日のJAPANはみんな気合い入りまくりですよ。オレも飛びまくって喋りまくってやろうかなって（笑）。

――そういう情念の燃やし方はいいですね。

CIMA ドームと四日市オーストラリア記念館じゃ規模は違うけどね、絶対に負けたくないですから。絶対に逆転してやんねんって。今までもずっとそういう気持ちでやってきましたから。小っさい会場とかお客さん入ってない会場って燃えるんですよ。だから去年一番嬉しかったのは、ZEPP仙台が札止になったときですね。小さい会場ですけど、これは有明コロシアムが一杯になったことに匹敵するぐらい嬉しかったですね。

――なんでZEPP仙台なんですか？

CIMA 前に初めてZEPP仙台でやったとき、2階を解放できないくらいお客も少なくて、ノリも異常に悪くて、それで頭に来て仙台のお客さんに向かって「このウンコ野郎！」って言ってしまったんですよ（笑）。

――客に向かって「ウンコ野郎」（笑）。

CIMA だから満員になったときは嬉しくて、「前に『ウンコ野郎』って言ってすまなかった！ お前ら最高や！」って言いましたよ（笑）。

――素晴らしい前言撤回です（笑）。では、今年の目標って何がありますか？

CIMA 去年も言ったんですけど、2003年は闘龍門は勝負の年なんで、今年は勝負かけますから。ウチの団体というのは、生き残るか死ぬかなんですよ。だから勝負した上で倒産したらしたで、みんな悔いはないと思うんですよ。やっぱこの闘龍門っていう期間がみんな青春だと思うんで。

――いまを燃やしてる部分はありますもんね。

CIMA だから今メチャメチャ充実いてるというか、逆に家のコタツに「よっこいしょ」って入ってるときのほうが不安になりますからね。マグナムは何をしてんのか、社長や広報の人が働いているのに、家にいていいのかなって思いますから。ホント、今年は頭と身体をフルに使って勝負かけますんで。ファンに対しても、いまだにわかってくれないマスコミの人に対しても勝負かけますんで、期待しとってください！

【03年1月18日／『W―1』前日、八王子市民会館にて収録】

PROFILE

S52年11月15日、大阪府出身。マイクアピールとリング上でのトークの上手さはマット界随一の、闘龍門を象徴する存在。多くの人が「天才」と称する才能の持ち主。昨年12・26T2P後楽園では、ミラノコレクションATを破り、第2代インターナショナル・ライトヘビー級王者となった。

日本占領

WWE™

熱烈歓迎

は再びヨーロッパ、そして最後は2月

いまやボブ・サップが『東スポ』プ

層を開拓してしまうに違いない。現実

いよいよ、ＷＷＥが日本に本格上陸を開始した！
この原稿を書いている1月23日の段階では、日本大会の結果を知ることは出来ない。しかし、チケットも一瞬でソールド・アウトしたわけだし、普通に考えればコケることはまずないだろう。ファンの熱気も相変わらず衰えることを知らないようだ。
昨年12月29日に後楽園ホール展示場（5階）で行われたＴＡＪＩＲＩのサイン会も大盛況だった。行列の最後尾は建物の外に飛び出して、東京ドームに届くあたりまで伸びていたほど。都内でやってるサイン会でこんな行列が出来るのも、じつに珍しいことだ。「海の向こうからスーパースターがやってくる！」「いつ会えるか分からない」そんな心理がファンを突き動かしているのは間違いない。今回の日本大会にはＷＷＥの『ＲＡＷ』チームがやってくるのだから、果たして何万人が突き動かされるのだろうか？　そして、昨年3・1の興奮は蘇るのか？

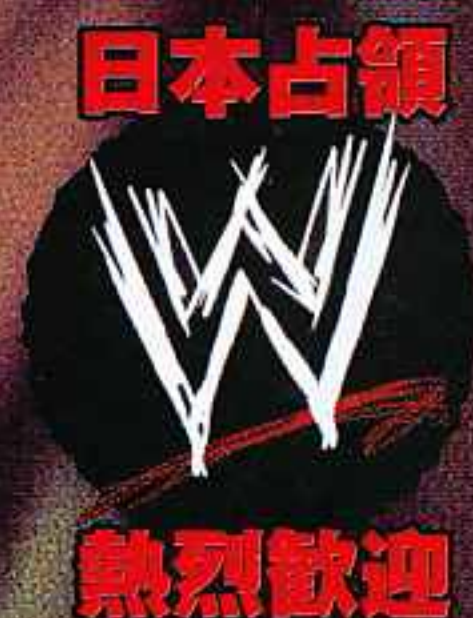
ＷＷＥが目論む日本プロレス植民地化計画とは何か？

2003年のＷＷＥは昨年以上に海外での大会を予定しているそうだ。今号で取材したＴＡＪＩＲＩに聞いたところ、「海外ではどこでも一瞬でチケットが完売」するのだという。逆にアメリカでは国全体の景気が落ちてきているため、ＷＷＥのビジネスも落ち込んでいるそうだ。
そうなるとＷＷＥも必然的に海外で興行を行う機会が増える。今年は全世界14の国と地域で興行を実施することがすでに発表された。これは、つまりＷＷＥが世界各地でプロレス植民地の開拓に乗り出したのだ！
まず1月は23日に韓国で試合を行い、24日＆25日で日本ツアーを行う。2月には南アフリカで初興行、5月には南米のチリ・ブラジル・メキシコ、6月にヨーロッパ、7月にはタイと日本、8月にはオーストラリア、10月には再びヨーロッパ、そして最後は12月に再び日本とシンガポールにやってくる。
どうやらＷＷＥが「最重点国」に位置付けているらしい日本には1月、7月、12月と3回のツアーが計画されている。3回も来るのは世界中探しても日本以外にはない。そんな背景もあり、トータル・スポーツ・アジアというマレーシアの会社が、ＷＷＥアジア地域のマーケティング総代理店として東京に事務所を構える。いよいよ日本格進出が始まりそうな雰囲気だ。
これが歓迎すべき事態であることは、聡明なる『紙プロ』読者の皆様はとっくにお気づきのことと思う。ご存じのようにＷＷＥの成功が日本マット界にもたらした影響はとてつもなく大きい。ＷＷＥがなければ、『ＷＲＥＳＴＬＥ－１』も生まれてこなかっただろう。硬直しきったプロレス界に風穴を空けるのは外圧だ。

年末の休みに入っていたこともあり、昨年12月29日のＴＡＪＩＲＩサイン会は驚異的な大盛況となった。ちなみにＷＷＥファンクラブも会員特典として、24日大会開場前に選手との撮影会が行われた。毎年『レッスルマニア』前に行われるファン感謝イベントが大人気な理由も分かるというもの

いまやボブ・サップが『東スポ』プロレス大賞を獲得する時代である。いまこの時代で問われるべきは試合やパフォーマンスのクオリティであり、インパクトだ。ＷＷＥにとっては追い風である。
日本の世の中、ありとあらゆるところに外資系の企業が進出してきている。それが、ようやくプロレス界にもやってきたのだと思えば分かりやすいだろうか。日本は世界一じゃないにしても、屈指のプロレス大国である。ここにＷＷＥがターゲットを絞ってきても何ら不思議はない。アッという間に日本の市場が制圧されてしまう可能性も否定は出来ないだろう。
あるいは、もしもＷＷＥ中継が、今回の日本大会の主催にも名を連ねているフジテレビで始まったら、Ｋ－１や『ＰＲＩＤＥ』と同じく新たなファン層を開拓してしまうに違いない。現実的にＷＷＥのファンには、スカパーやＣＡＴＶの番組を見て虜になった人たちがもの凄く多いのだ。従来のプロレスを見る感覚ではなく、普通にドラマを見るような感覚で番組を楽しめるからだ。
そう考えると、ＷＷＥの日本侵攻はすでに始まっており、占領されてしまうのも時間の問題なのかもしれない。そのとき日本のプロレスは、どうすればいいのだろう？　逆にアメリカで人気が下火になってるＷＷＥのスキをついて、アメリカ・マット界を制圧！というのはいかがだろうか？　ダメ？　アメリカのどこかのドーム球場に、ケロちゃんがあの衣装でリングに立ってる姿……見てみたいなぁ。（文・スモーノブ）

神秘的な試合スタイルの根源は極真空手とアステカにあり!?

日本占領 W 熱烈歓迎

WWE SMACK DOWN

TAJIRI

日本大会でも大活躍だった（はずの）我らがTAJIRI（これを書いているのは1月23日なので）。アメリカでも高い評価を得ている日本が生んだスーパースターだ。本誌は年末に帰国していたTAJIRI選手をキャッチ。多忙な中でのインタビュー取材に成功した。独特の試合スタイルのルーツは何なのか？を聞いてみた。ちなみにインタビュアーには昨年『レッスルマニア』前日に知人の紹介でTAJIRIと酒席を共にしたというライター・阿部タケシ氏を起用して、お送りします!

聞き手／阿部タケシ
構成／スモーノブ
撮影／松本崇

昨年の『レッスルマニア18』の前日。私は小洒落たバーでTAJIRIと晩酌を交わした。「影響を受けた格闘家は誰か？」というテーマで、熱いトークを展開。しかしお互いベロンベロンになり、ろれつが回らなったところでお開きに。酔いがまわるまでの記憶では、TAJIRIが意外な話も披露してくれていた。そのあたりの話を再びうかがってみるべく、年末に私用で帰国した限られた時間の中、ファンイベントにも積極的に参加していたTAJIRIと久々の再会を果たした。

――御無沙汰してます。いきなりですけど、今日は飲んだときに約束していた「ブツ」を持ってきました（と持参した大きな紙袋を手渡す）。

ちなみにその中身はTAJIRIのリクエストによる梶原一騎関連の書籍や極真空手関係のビデオだ。『梶原一騎を読む』（ファラオ出版刊）、『大山倍達との日々』（真樹日佐夫著　ペップ企画刊）、ビデオ『極限への挑戦』（松井章圭100人組手）、ビデオ『シュートボクシング第一回S―CUP』、ビデオ『第1回&第2回トーワ杯カラテジャパンオープントーナメント』（各2本組）などである。

TAJIRI　おおっ！　こんなに？　ありがとうございます！（ビデオや本を手に取りながら）。うわぁぁぁ、なんだかゾクゾクしてきましたよ（笑）。

梶原一騎の代表的な作品に『空手バカ一代』がある。この作品と出会ったTAJIRIは極真やその他の立ち技格闘技の世界にのめりこんでいった。学生時代に極真やキックに精進し、そしてレスラーになるべくメキシコに単身留学。IWAジャパンや大日本プロレスを経て、プエルトリコを経由し、アメリカの大海原へたどり着き、現在に至っている。

TAJIRI　（第2回トーワ杯のビデオを見つけ）あっ、この大会は田中稔選手が出てたヤツですよね？。

――詳しいなぁ（笑）。でも、田中稔選手が出場したのは第三回なんですよ。でも第二回あたりから当時の藤原組、その後のバトラーツも参戦してますけど。で、カナダでも酔っ払いながら話したんですけどTAJIRI選手のバックボーンとなってる部分を今日は改めてうかがいたいんですよ。あの時（カナダ）では「極真に影響を受けた」という話をしてましたね？

TAJIRI　ええ、そうですね。高校の頃は極真空手をやってましたよ。いまも好きで、『サムライ！』さんで放送してる空手やキックボクシングの試合の映像を送ってもらってるんです。

――ちなみに当時の極真では、どんな選手が好きだったんですか？

TAJIRI　ジェームス・北村ですね（キッパリ）。

ルチャスタイルをベースに、そして"ジャパニーズ・バズソー"の異名で相手の顔面を蹴り上げるTAJIRIの根底にあるのは、なんと意外な男だったのだ！

1985年11月に行われた第17回極真全日本空手道選手権大会で優勝したのが現・極真会館館長　松井章圭（松井派・当時22歳）、準優勝が黒澤浩樹（元KRS代表幹事、現・黒沢道場主宰当時23歳）、3位が増田章（当時23歳）であったが、4位にそのジェームス・北村（当時23歳）が入賞している。この実績が評価され、ジェームス・北村選手は4年に一度の空手五輪、極真世界大会にも出場を果たしている隠れた実力者なのだ。

――ジェームス・北村！　ずいぶんマニアックな選手の名前が出てきましたねぇ（笑）。

TAJIRI　渋いでしょ？　ジェームス・北村選手は日系2世として帰ってきたんですけど、それがカッコよくてシビレましたねぇ。あの時代はもうコンビネーション組み手の時代だったんですけど、ジェームス・北村選手の組み手はコンビネーションがないんですよね！（実演しながら）こんな感じのわけわかんない固そうなフォームだったし（笑）。でも第17回の全日本大会では4位になってるんですよ！　あ、第四回世界大会でピーター・スミット対ジェームス・北村っていう組み合わせも実現したんですよ。

――ピーター・スミット！　極真や正道空手に参戦したあのオランダの暴れん坊ですね！

TAJIRI　そうです。あの気が荒い喧嘩屋のスミットですら、気味悪がって近寄れないんですよ（笑）。そんなジェームス・北村選手にもうシビレちゃって、試合が終わった後にサインをもらいに行ったんですよね。「たぶん日本語を忘れてるんだろうな」と思って、「サイン！　サイン！」ってカタコト英語で言ってたら通じてサインしてくれたんですけどね。でも、後で聞いたら実はジェームス・北村選手は日本語ベラベラだったってことが発覚して（笑）。「変なガキだなぁ」と思われてますよね、きっと。

――ガハハハハ！　いい話ですねぇ（笑）。でも、ジェームス・北村選手はどちらかといえば陰というか、そういう根底の部分を支えていたような人が好きだったんですね？

TAJIRI　そうですね。ジェームス・北村選手は明らかに"異質"でしたから。僕、ああいうキャラが好きなんですよね。

どんな競技にも日の当たる部分があれば、日の当たらない部分がある。TAJIRIが極真の中で最も影響を受けたのは、陽ではなく陰の部分を支える男だった。そんなTAJIRIが、現在ではWWEの中の陰な部分を支える大事な役割を担っている。

オリエンタル・キャラでECWアリーナのファンを熱狂させた後にWWE

いまプロレス界で最も"極真魂"を感じさせる男・小笠原和彦！　火の輪くぐりの荒行まで完遂してみせた正真正銘の空手バカである。それでいてWWEの試合もしっかり見て、感心していたりする一面も。TAJIRIとのタッグが実現したらもの凄く面白そう！

華☆激を主宰するルチャドール・アステカ。『紙プロ』読者には、和田良覚レフェリーのデビュー戦の相手としても記憶に残っているだろう。TAJIRIとの意外な接点が明らかになった。

ジェームス・北村選手は明らかに"異質"ですよね ああいう人が好きです

入り。入団直後は日本語しか話せないお茶汲み役でウィリアム・リーガルとの名コンビを結成、『スマックダウン』ではクルーザー級王座戦線の第一人者として活躍しながらも、それでいてブロック・レズナーをはじめとしたヘビー級の強豪にも果敢に挑戦した。これは間違いなくWWEの中の"異質"な部分、そう極真の中でジェームス・北村が担っていたような部分であろう。

さらにTAJIRIは極真にのめり込んでいた時に、もうひとりの個性溢れる極真戦士にも魅せられていた。

TAJIRI　極真のその時代は緑健児さん、松井章圭さんらが活躍していたけど、僕は小笠原先生が凄く好きだったんですよ。

小笠原和彦。そう、あのZERO—ONEマットで頑なに空手スタイルを貫く空手家である。極真時代の小笠原先生は"足技の魔術師"の異名を欲しいままにし、数々の名勝負と華麗な蹴り技で極真ファンを魅了していた。その小笠原和彦にTAJIRIはインスパイアされていたのだ！

TAJIRI　僕は足技の華麗な人が好きでしたね。あの頃の小笠原先生の足技は人間技じゃなかったんですよ!!

——第15回全日本大会決勝戦では大西（靖人）選手と決着がつかないので、大山総裁が前代未聞の「時間無制限一本勝負」を命じましたよね。

TAJIRI　そうそう！ 結局は負けてしまったんですけどねぇ……（感慨深そうに）。あの試合、今のZERO—ONEファンが見たら相当な衝撃を受けるはずですよ。

——あの偉大な小笠原先生が、今ではケンドー・カシンに「タクシー呼んで来い！」って言われてますよ！（笑）。

TAJIRI　小笠原さんの登場はものすごく衝撃を受けましたね。自分は日高（郁人）と仲が良いんで、ZERO—ONEに出てる日高に「小笠原さんにファンだったと伝えておいてくれ」って言っておいたんです。そしたら、小笠原さん、WWEの大ファンなんですって！（笑）。「いつかお会いしましょう」ということだったんで、今日、自分から会いに行こうかなと思ってます（この日、後楽園ホールで『ゼロ中祭2』が開催）。

ジャパニーズ・バズソーと足技の魔術師の遭遇。TAJIRIはこのインタビュー後、ZERO—ONEのバックステージを表敬訪問し、"心の師"である小笠原先生と初対面を果たす。

ここで決して世界に報じられることのないWWEのバックステージにおける表敬訪問、交流録も聞いててみた。

——ちなみにWWEのバックステージでも表敬訪問はあるんですか？ 意外な選手の来場とか。マスコミもシャットアウトされてて、WWEのバックステージってベールに包まれているイメージがあるんですけど。

TAJIRI　WWEのバックステージにはいろんなレスラーが出入りしてるんですよ。あのドン・フライも来たことがありますから。団体の垣根も関係ないんですよ。マスコミもいないからそういうのは取り上げられないですけどね。そういえば、これからWWE関係の取材、日本のマスコミが扱ったり、許可を取ったりするのって結構厳しくなるでしょう？ 来年（この取材は02年に行われた）から日本にもWWEの窓口が出来るみたいですから。

——ということはジミー（鈴木）さんにも影響があるかも（笑）。僕ジミーさん監修の本も手伝ったんですけど、あの人たまに連絡取れなくなりませんか？ 最近は連絡取ってます？

TAJIRI　連絡取れないときは●●の●●街に行ってるんじゃないですか？ ヘッヘッヘッヘッ！

——ガハハハハ！ すいません。活字に出来ません（笑）。

極真空手やキックボクシングなどの立ち技競技に興味を持ち、自身のスタイル確立のために取り入れていく中で、TAJIRIはユニバーサル・プロレス時代の浅井嘉浩（現ウルティモ・ドラゴン）に衝撃を受け、本格的にルチャスタイルの模索を始める。そして"あの"ルチャ戦士と出会い、ますますルチャへの道が確立された。

——以前、『華☆激』のアステカさんともかかわった話をチラッとうかがったんですが。

TAJIRI　ああ、その話はどこにもしたことないですね（笑）。確かに九州に居るときはかなりお世話になりましたよ。お元気ですか？

——ええ。最近は獣神サンダーライガーが『華☆激』に参戦したり、アステカさんが新日に参戦したりしてます。

TAJIRI　一時、お付き合いさせて頂いた時期があって。確かアステカさんは、磁雷矢さんの弟子なんですよね。どちらも福岡出身で。確かアステカさんが磁雷矢さんに手紙を書いて弟子入りしたんですよ。それで磁雷矢さんの紹介したジムで少し練習して、デビューしたらしいという。いい話ですよ、ホント（しみじみ）。このお二人、単身海外に渡ってデビューした日本人ルチャドールの起源みたいな人なんで。影響はかなり受けましたね。

様々なエピソードを披露してくれたTAJIRI。ZERO—ONEのバックステージに向かうということで、タイム・アップとなった。

●

「果てしない闘いあるのみ。栄光のあとにも、敗北のあとにも。人の生きる限り、なんら差別もなく、闘いあるのみ！」これは『巨人の星』の星一徹の言葉であり、TAJIRIの信条でもあるそうだ。その根底には梶原一騎の生き様とその名作、そして様々なジャンルの礎となった人物が存在していた。TAJIRIは今もその言葉を具現化し"果てしない闘い"を展開している。

【02年12月29日、東京・後楽園ホールにて収録】

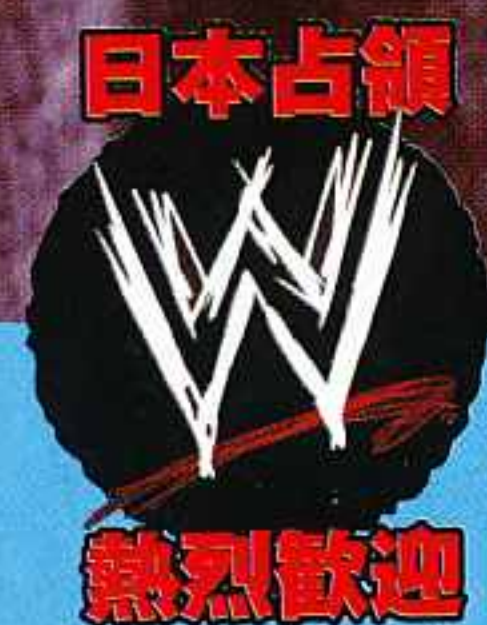
プロフィール■本名・田尻義博。昭和45年9月29日、熊本県玉名市出身。IWAジャパンのリングで平成6年9月19日、愛知・蒲郡市民体育館　vs岡野隆史戦でデビュー。平成8年からは大日本プロレスで活躍、新日本プロレスの東京ドーム大会にも出場している。平成10年からはCMLL、翌11年からはECWで活躍！　平成13年からはWWE（当時WWF）のリングで暴れまくっている。175センチ、93キロ。ホームページアドレスはhttp://www.japanesebuzzsaw.com

プロレスSHOP「SOLLUNA」のご厚意により5名様にプレゼント！ TAJIRIサイン入りポートレート!!!!

12・29のTAJIRIサイン&撮影会で使われたポートレートに、実際にサインを入れてもらった状態でドド〜ンと5名様にプレゼント！ 超貴重な家宝級のサインでしょ？ SOLLUNAさんに感謝！ さあ、この機会を逃すな！ さっそくハガキを送ろう！ 応募方法はP159参照のこと！

Q.ゲームを1本つくるのと、WWE日本大会を1回呼ぶのと、一体どちらが高くつきますか？

「ゲームです（キッパリ）。一年に三回来るとして、三年間呼べますよ（笑）」

日本占領 W 熱烈歓迎

WWE日本上陸の仕掛人に直撃!!
「WWEのこと」「ゲームのこと」「お金のこと」

株式会社ユークス　代表取締役社長　CEO

谷口行規

聞き手／阿部タケシ
構成／スモーノブ
撮影／松本崇

大好評のうちに終わってるはずのWWE日本大会（これを書いてるのは1月22日）。皆さん、本場のエンターテインメント・プロレスを満喫しましたか？　でも、ひとつ覚えておいてくださいね。日本でWWEを見ることが出来るのは、この人がいるからだということを！　WWE日本大会の仕掛け人が遂に『紙プロ』登場！　この超大物に某有名ゲーム会社（現在は倒産）出身のアメプロライター・阿部タケシが挑む！

——今日はプロレス雑誌の取材なんですが、是非ともよろしくお願いします！　ユークスさんは昨年の3・1に続いて今回も冠スポンサーとしてWWE日本大会に関わっていらっしゃいますよね。

谷口　最初の話が「ユークスさんが冠（スポンサー）やってくれるなら、日本に行っちゃおうかなぁ」っていう話でしたから。いつ来るの？って聞いたら「あと3～4ヶ月後」って（笑）。

——かなり話が早いですね（笑）。それは2001年の暮れぐらいですか？

谷口　そうですね。こっちは「ええ～っ!!」みたいな（笑）。ウチがやらなかったら、どうなるの？」って聞いたら「行かない」って。

——分かりやすいなぁ（笑）。そもそもユークスさんがWWEと関わるキッカケは、何だったんですか？

谷口　もともとは新日本プロレスの『闘魂列伝』というゲームを作ってたんですけど、これが結構売れたんですよね。それで、次に自社ブランドのゲームを出したんですけど全然売れなくてですね（笑）。

——それはプロレスゲームですか？

谷口　違います。でも、そのソフトが欧米では結構売れたんですよ。その頃から海外の市場を意識しはじめてですね。「どうせだったら、実績のあるプ

ゲームの宣伝も「日本にWWEを広めるところからやりましょう」ということです

ロレスのゲームで勝負してみようか」ということで、いろいろ調べたらアメリカで売れてるソフト上位10本のうち3本はプロレスゲームだったんです。

——へぇ〜、ズバ抜けてるんですね。

谷口　ええ。それで向こうのソフトを取り寄せてやってみたら、全然面白くないんですよね。「なんだ、楽勝じゃん」って（笑）。

——海外のゲームと日本のゲームって作り込み方が違いますよね？　向こうのゲームはキャラとかビジュアル重視で作ってますけど、日本のゲームは駆け引きの部分も再現できたりして実際のプロレスに近い。で、当時まだアメリカにはWCWとWWF（現・WWE）という2つのプロレス団体がありましたよね。しかも、当時はWCWの方が隆盛だったんじゃないですか？

谷口　そうですね。最初は『闘魂列伝』のレスラーだけをWCWの選手に置き換えてくれ」という話があったんですね。でも、ウチは「日本とアメリカのプロレスは全然違うんだから、全然違うゲームを作らないとダメです」ってことで話がまとまらなかった。そこで、その話が中断してるうちにWCWをゲーム化する権利が別のところに移っちゃったんですね。それで慌ててWWFの権利を取りに行ったんです。「どうせ初めからゲームを作るならユークスに頼もうか？」ということで、ウチで作ることになったんですけど。

——なるほど。今思えばWCWの権利が別のところに行っちゃって良かったですねぇ（笑）。

谷口　ラッキーでしたね。WCWとWWFって5年サイクルぐらいで人気が移り変わってましたよね？　ちょうどWWEが盛り上がり始める直前で話がまとまったんで。

——そういうプロレス業界の動向も、社長はチェックしてたんですか？

谷口　いや、チェックしてないです。会社にいるプロレス・マニアにヒアリングしてました（笑）。

——プロレス・マニアにヒアリングですか（笑）。社長ご自身はあんまりプロレスはご覧になってなかったんですか？

谷口　自分がのめり込んで見ちゃうと冷静に判断が下せなくなってしまいますから。「損してもいいから、この団体をゲーム化するんだ!!」とか言い出しちゃったらヤバいんで（笑）。

——アハハハハ！　じつはですね、当時、ボクはプロレスのゲームを作ってた会社にいたんですけど……。

谷口　あっ、そうなんですか？　●●●さんですか（笑）。

——ああ、そこです（笑）。当時、その会社でも「アメリカのプロレスをゲーム化しよう」って企画があったんですけど、ボクはミーハーなんで迷わず「当然WCWでやりましょう！」なんて言ってたクチなんですよね（笑）。そしたら、コストが高すぎて実現できなかったですね（笑）。社長の先見の明はさすがだなぁと思いました。

谷口　まあ、人気が落ちてるところより、上がってるところの方がいいだろうという話も社内で出てたんで。

——それで、最初の『エキサイティングプロレス』（以下『エキプロ』）が発売になったのは2000年ですよね？

谷口　そうですね。アメリカでは99年に発売されたんですけど。

——これが資料によると、3.5万本売れたということですね。

谷口　そうです。その1年後の『エキプロ2』が4.5万本、去年出た『エキプロ3』が8万本でした。

——まだ売り上げ伸びてるんじゃないですか？

谷口　いや、もうこれ以上はないです。「WW"F"」の問題で。

——ああ、そうか。「WWF」のロゴが入ったものは売れなくなってしまったんですよね。売り上げは3.5、4.5、8万本とトントン拍子で増えてますけど、次回の『エキプロ4』は何万本売る目標なんですか？

谷口　10万本ですね（キッパリ）。

——このご時世に10万本って、ハンパじゃない数字ですよ？

谷口　その分、プロモーションで使ってるお金も凄いですから（笑）。10万本売れても広告代はペイしないんですよね。

——そんなにお金かけてるんですか？

谷口　テレビだけでも年間2億円ぐらいかけてますからね。ゲームなんて10万本売れても、粗利で2億円ぐらいですから。

——ええっ!?　そうなんですか？

谷口　ええ。だから、「このままやってても、売り上げは全然伸びないな」っていう思いがあって。もともとアメリカで100万本売れてるのに、日本ではせいぜい5万本でしたからね。そのうちの4万人はユークスが作るプロレスゲームのファンで、WWEなんか関係ないところにいる人たちですから。日本でもアメリカ並にWWEがメジャーになってくれれば、50万本も狙えると思うんですよね。

——50万本ですか！

谷口　今年は宣伝広告費に売り上げ以上のお金をかけたとしても、その分が来年も再来年もその次の年も買ってくれる層を開拓できるんじゃないかと。将来も見越した広告費の使い方をしてるんです。

——はぁ〜、素晴らしい！

谷口　いずれは宣伝に力を入れなくても発売すればひとり歩きしてくれるソフトになるだろう、という感じですね。だいぶ、そんな感じに近づいてきてはいますけどね。『エキプロ』売り始め

「冠スポンサー」とは何か？　たとえば、先日の極東ツアーのロゴの上には、このようにユークスのロゴがついている。ユークスがWWEの極東ツアーをスポンサードしていることが一目でわかるようになっているわけだ。

WWEのDVDを各1本プレゼント

提供はもちろんユークス!!
応募方法はP159参照!!

『WWEサマースラム2002』1月発売の新作が登場だ！　ザ・ロックとブロック・レズナーが激突したサマースラムの興奮が蘇る！　ロック様に飛んだ驚愕のブーイングを聞け！　トリプルH vs HBKの名勝負も必見！（定価￥3800　絶讃発売中！）

『WWEグローバル・ワーニング・ツアー』こちらも1月の新作！　昨年8月のオーストラリア・メルボルン大会の模様を収めた作品なのだが、何といっても注目はWWE王座戦のザ・ロック vs ブロック・レズナー vs トリプルHだ！（定価￥3800　絶讃発売中！）

『WWEディーバ アンドレスト』日本大会でもHOTな肢体を披露したトーリー、トリッシュ、ステーシーらがディーバNO.1の座をかけて下着姿で大奮闘する歴史的な名作。さらにはディーバたちの素顔にも迫るインタビューも収録！必見！（定価￥3800　絶讃発売中！）

『WWEヴェンジェンス』王座をかけて激突するザ・ロック、アンダーテイカー、カート・アングルの試合がとにかく素晴らしい！　最後まで先が読めない死闘の果てに王座を掴むのは一体誰なのか？（定価￥3800　絶讃発売中！）

日本占領

熱烈歓迎

た2000年頃は「アメリカのプロレス団体なんだけど知らない？」って聞いても誰も知らなかったですから。最近ようやく「ああ、夜中にやってるアメリカのプロレスね？」って答えが返ってくるようになりましたけど（笑）。

—やっぱり地上波は強いんだなぁ。ちなみに新日本の『闘魂列伝』はどれぐらい売れてたんですか？

谷口 シリーズ2作目で40万本売れたのが最高したね。

—ゲッ、40万本！ さすがに新日本は強いんですねぇ。

谷口 1～4作目まで累計で100万本売れましたよ。

—ちなみに『エキプロ1～3』は累計で、どれぐらい売れましたか？

谷口 海外で売れたのも合わせると800万本です。

—ハ、ハッピャクマンボン！ 凄いなぁ……。やはりWWEが日本で浸透するには言葉の壁が大きいですかね？

谷口 いや、一番の違いは文化の違いでしょうね。日本のプロレスと違うんです。ボクもよく聞かれますよ、「WWEって八百長でしょ？」って。

—アハハハハ！ そんなところにも八百長論議があったんですか（笑）。

谷口 それって、映画俳優に向かって「それって芝居なの？」って聞くのと同じですよね（笑）。

—じつは日本のプロレス界でもちょうどミスター高橋という元・レフェリーが書いたプロレスの内幕暴露本が10万部以上のベストセラーになったんですよね。高橋さんの主張としては「日本のプロレス界もWWEを見習ってカミングアウトしろ！」ということらしいんですが、日本のプロレス界では大問題になっりましたから。

谷口 ボク自身は格闘技というジャンルの中で、WWEはある意味でK−1のようなスポーツとは対極と見ているんです。かたや完全な芝居として、かたや完全な競技としてやっている。逆に、その中間にあるものは「そんな中途半端でいいの？」って思いますね。

—まさにその中間が、いまのマット界で一番ダメな部分なんですよねぇ。ちなみに最近、日本でも『WRESTLE−1』という完全にエンターテイメントに針を振り切ったプロレスが始まっているんですけど、ご覧になりましたか？

谷口 少し見ましたよ。だいぶWWEの影響は受けてるなぁという感じはしましたね。でも、スポーツ選手と役者ぐらいの違いはベースとしてあるかなと思います。

—たしかに、そうですよね。まだ日本では始まったばかりですからね。

谷口 いろんな団体から選手を集めてやってましたけど、WWEがあんな完全にシナリオを作って芝居を出来るのは全員が社員で言うこと聞かせられるからですよね？ 選手を寄せ集めてやるのは難しいんだろうなぁと思いますよ。各選手が「俺の方が強ぇよ！」とか言い出したら、収拾がつかないじゃないですか？（笑）。

—アハハハハ！ でも、ホントそれで揉めてきたのが、プロレス界の歴史だったりするんですよねぇ。これは『W−1』の話じゃないですけどね（笑）。話題がそれちゃったんでWWEの話に戻しましょう！ 同じ社長という立場から見たビンス・マクマホンはいかがですか？

谷口 う〜ん、ビンスには会ったことないんですよね。シェインには会えたんですけど。

—コネチカット州にあるWWEの本社には行かれたんですか？

谷口 行きましたよ。屋上に20畳くらいの星条旗とWWEの旗がなびいてましたね（笑）。何キロも先から見えるんですよ。

—へぇ〜、本社ともなるとスケールがハンパなくでかいんですねぇ。いまや日本のファンがツアーで観戦に行くと、あの建物の前を通るだけで歓喜するという観光名所らしいですよ（笑）。で、ビンスは社長でありながら、リングに上がったりしてるわけですけど。

谷口 どこまでが芝居で、どこからがホントなのか分からないですよね？

—ある意味、それを売りにしてる部分もありますから。

谷口 でも、打ち合わせとか、映像の編集とか、ちゃんとスタッフと一緒にやってるみたいですね。

—「ビンスがリングに上がっていないときは、裏でちゃんとビジネスをやっている」という話もありますし（笑）。たとえば、ああいう感じで一家を巻き込んでゲーム会社をやろうとか考えたことないですか？

谷口 ハハハハ！ ゲーム自体はエンターテインメントなんですけど、ゲームを作る作業はエンターテインメントではないですから。

—そりゃそうですね。バカな質問ですいません（笑）。では、実際にゲーム1本を作るにあたってかかる費用と、WWEの日本大会を1回開催するのにかかる費用とでは、どちらが高く付くんでしょうか？

谷口 ゲームですね（キッパリ）。ゲーム1本作るのにかかるお金を全部WWEに使ったら……3年間ぐらい年3回は呼べますよ（笑）。

—そ、そんなに……やはりユークスさんとしては、海外でソフトが爆発的に売れたことで財政的な余裕が出来たからWWEを日本に呼べる資金が出来

今回の日本大会も、昨年3・1の日本大会もユークスが冠スポンサーだった。谷口社長もあの大歓声には興奮したそうだ。谷口社長がスポンサードすることに合意していなければ、あの興奮と感動は生まれていなかったというわけだ。

WWEをゲームで満喫せよ!! 『エキサイティングプロレス4』2月6月発売!!

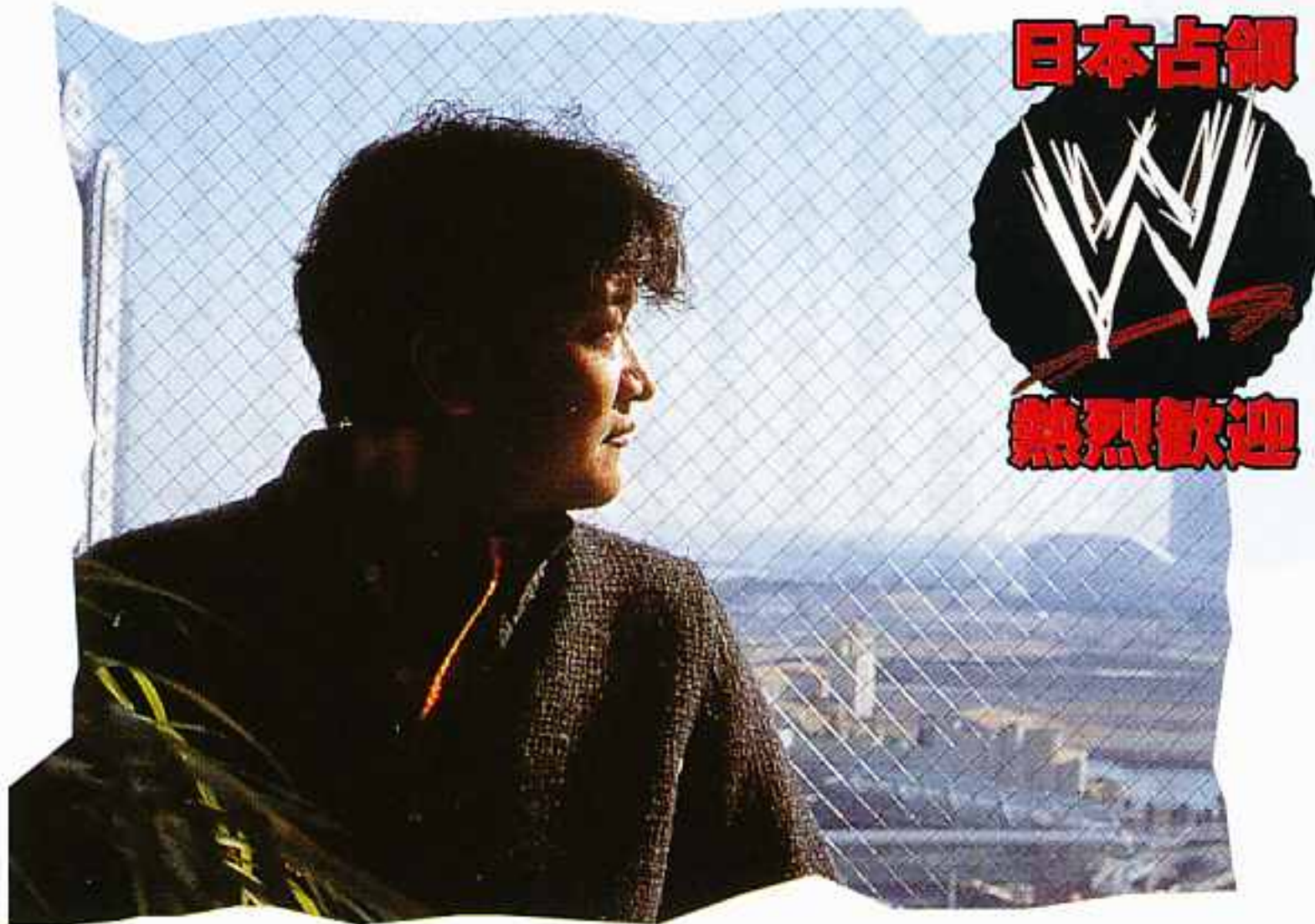
進化し続けるプロレスゲームの最先端、それがこのたび発売される『エキプロ4』だ。谷口社長曰く「前作『エキプロ3』はPSからPS2に変わったばかりだったので、あまりやりたいことは出来ていなかった」とのこと。今回は「やりたいことが、ある程度は出来た」と手応えを感じている力作だ！ さらにエディット・モードもさらに進化して「モンタージュのシステムとして警察に売り込もうかと思ったぐらい」とのこと。自分だけのオリジナル・レスラーを極限まで作り込め！
定価￥6800円（税別）。

プレイステーション2用ゲームソフト「エキサイティングプロレス4」発売元／販売元 株式会社ユークス シビレるパッケージが目印だ！

入れ替わりの激しいWWEだが『エキプロ4』では最新のスーパースターズ約50名が登場！ 選手特有のパフォーマンスや入場シーンなども忠実に再現されているぞ！ 必殺技や新機能「掟破り技」など、多彩な機能が簡単に操作できる！

遂に実現したドラフト対応シーズンモード！ 実際のWWEと同じく2リーグ制に対応しているぞ。毎月のPPV大会や時間・季節の変化に対応した各種イベントが盛り沢山！ WWEの世界観にドップリ浸ろう！

たわけですか？
谷口　そうですね。海外ではバンバン売れて、そっちからお金が入ってくる、と。日本ではゲームの販売をウチがやらせてもらってるんで、プロモーション自体も「WWEを日本に広めていくところからやりましょう」ということなんですよ。
――つまり土台から作りましょうっていうことですか？
谷口　発想としては、あまりないですよね（笑）。
――素晴らしい！　ユークスさんはWWEを広めるための企業努力をしてるんだなぁという印象はすごく受けますよ、実際。
谷口　でも、ホントいろいろ考えましたよ。「誰か半分ぐらい（資金を）出してくれないかなぁ」とか（笑）。
――アハハハハ！
谷口　で、WWEが世界で何のビジネスをしているかというと、Tシャツ、フィギュア、ゲーム、それから映像なんですよね。買う人の立場で考えるとフィギュアの場合は、そのレスラーが有名だったり、好きだったりするから買うわけですよ。フィギュアの出来がいいからって、そのレスラーが好きになるわけじゃないですから。でもゲームの場合は、それが出来るんですよ。ゲームが面白いから買って、そこからWWEのファンになるという可能性があるんですよね。逆に言えば、ゲーム以外では、逆の入り口にはなれないんです。
――たしかにそうですね。Tシャツにしても、その選手が好きだから買うんであって。
谷口　ヘビメタみたいなデザインのTシャツだし、「デザインがいいから買おう！」とはならないですよね？（笑）。
――ヘビメタみたいなTシャツ！（笑）。まあ、色が黒しかないですからね。じゃあ、そういうことを踏まえて、DVDの販売にも乗り出したわけですね？
谷口　そうです。
――じゃあ、この先の展開として、WWE人気が盛り上がってくれれば、グッズ販売も手掛けたりするわけですか？
谷口　なにもウチでWWEの全部を扱おうという考えはないんですよ。「誰もやってくれないなら、しょうがないからウチでやるか」っていうことなんですよ。
――あ、しょうがなく（笑）。冠スポンサーやるにしても、「しょうがなく」って感じだったんですか？
谷口　「ええっ？　もう来るの？」って感じでしたけどね（笑）。
――冠スポンサーとして、ユークスさんは日本大会の中でどんな役割を果たしてるわけでしょうか？
谷口　今回はお金を出してるだけって感じですけど。
――前回は、また違った役割があったんですか？
谷口　TVでプロモーションやりましたからね。特番を作って、その中に興行自体のCMを流したりしましたけど。TVを絡めるのが、ウチの仕事という感じでしたね。今回はTV局も変わりましたからね。
――主催にフジテレビの名前が入ってましたね。
谷口　そうですねぇ。今までテレビ東京がやっていたものを、急にフジテレビが表に出て派手にやるわけにもいかないみたいなんで。
――今回、フジテレビが放送であまり積極的に取り上げてないのは、そういう背景があるからなんですか？
谷口　急にフジでWWEの大特集しだしたら、奪い取っちゃったようなイメージになっちゃいますから、そのへんで慎重になってるのかもしれないですけど。
――ああ、なるほど。日本のファンでも、月曜深夜の『アフターバーン』（WWE『スマックダウン』のダイジェスト番組）を楽しみにしてた人も多かったんですけど、テレビ東京の放送が12月で終わってしまったことについて「なんで急に？」と思ってる方もいますよね。これは、また近々再開する予定はあるんですか？
谷口　まだ具体的なことは言えないですけど、楽しみにしてて下さい。
――楽しみにしてます!!
【次号に続く】

日本占領
熱烈歓迎

プロフィール■株式会社ユークス代表取締役社長、C.E.O.。1968年9月27日生まれ、広島県出身。平成5年2月、大阪府堺市に資本金300万円で有限会社ユークスを設立。その破天荒な生い立ちや会社経営などは次号にて紹介します。178センチ、80キロ位。なぜ「80キロ位」なのかというと「34日で12キロ落としました。三食コンニャクだけ、サプリメント飲みまくって、ジムに行って」という超過酷なダイエットを敢行したりしているから。その理由も次号にて明らかになる！

12・29　東京・後楽園ホール5F展示場 TAJIRIが来たりてサイン書く!!
WWEグッズ祭りが開催された!!

当初、ハリケーンの来日がアナウンスされていたが、急遽中止となり、ハリケーンのコスチュームで登場したTAJIRIのサイン会が行われた。後楽園ホール横の展示場からドームあたりまでの大行列が出来るほどの大人気！

大阪のプロレスSHOP、SOLLUNAが売店を出してWWEグッズをドドーンと販売！　web上でも通販が可能！　欲しいグッズが見つかるかも知れないのでチェックしてみよう！
http://www.sollunawwe.com/

『エキサイティングプロレス4』のイベントが行われた後に、K－DOJOのブースからDJニラ、アップルみゆき、X'sらが登場！　じゃんけん大会が行われ、SOLLUNA提供の賞品がプレゼントされた。

『wWtL2』右で紹介したCDの第二弾！　黒と白のあの軍団や5回王者や狂乱の貴公子やライオン道等の会場使用音源を収録！　あの全米で人気のあの団体のテーマ曲が満載！　こちらも4名様にプレゼント！

12月29日、東京・後楽園ホールの展示場にてTAJIRIサイン・撮影会&『エキプロ4』ゲーム大会&グッズ祭りが行われた。海の向こうのスーパースターと接する数少ないチャンスとあって、会場は怒濤のような大盛況！　SOLLUNAが店を出し、K－DOJOやWWEファンクラブ事務局もブースを出し、『エキプロ4』が体験できるという魅惑のWWE空間となった！　本誌はSOLLUNAさんのご厚意により、様々な読者プレゼントを頂いて参りました！　応募方法はP159参照のこと！　すべての商品はhttp://www.sollunawwe.com/で取扱中！

WWEグッズプレゼント!!
提供は元祖アメプロショップSOLLUNA

『スマックダウン』所属レイ・ミステリオ（現在欠場中）のベストシーンを収録したビデオ作品。WWAウェルター級王座戦、マスカラ・コントラ・マスカラ等収録。1名様にプレゼント！

94年にWARに来日した時以来、ミステリオのマスクを作り続けているHAYASHIブランド。SOLLUNAではそのマスクも買えるぞ！　ミステリオのお面も1名様にプレゼント！

WWE『SHOPZONE』でしか買えないフィギュアが登場！　今回待望の初来日を果たしたトリプルHだ。あのかっこよさにやられちゃった人、応募してください！　1名様にプレゼント！

『WORLD WRESTLING THEME LIBRARY』全米で人気のあのプロレス団体の未発表&会場使用音源を収録したタマラんCD!!　わけあって実名は出せないが、あの日本人選手などのテーマ曲収録！　4名様にプレゼント！

深夜の1.4新日ドーム中継
驚異の視聴率8.8%!!

いま、テレビ朝日『ワールドプロレスリング』中継が面白い!!

テレビは新日本プロレスを救うか!?

聞き手／吉田豪　構成／ジャン斉藤
designed by matsu（Two three）

フリーアナウンサー 辻よしなり

新日1・4東京ドーム中継、視聴率8.8％獲得!!　しかも、23:45からの放映時間でこの数字は驚異的！　正直、内容に乏しい大会だっただけに、視聴者を飽きさせなかったテレ朝の番組構成はもっと評価されるべきであり、その評価は深夜レギュラー枠に関しても同様で、とにかく最近の新日中継は面白い!!　迷走する新日本を救うのはテレビの力か!?　放送現場に携わる辻アナに直撃した！　ヒャッホーッ！

——辻さんの姿を最近の『ワールドプロレスリング中継』であまり見かけないと一部で噂になってましたが、1・4新日ドームのスペシャル番組では全面に出ていたので安心しました！

辻　ああ、見てくれたんだ（笑）。

——もちろんです！　最近の新日中継はかなり面白いですからね。

辻　ホント!?

——スペシャルもやっぱり面白かったですよ！　ゲストの中山（雅史）さんも、あんなに対応できるとは思わなかったですしね。

辻　彼はホントにプロレスが好きなんだよねぇ。

——乙葉さんとは違って（笑）。それで今日は最近好調の新日中継の話を含めて、辻さんにテレビ局とプロレスについて語ってもらいたいんですよ。まず、昨日はＺＥＲＯ—ＯＮＥ（1・6後楽園大会）でも実況をやられてたらしいですけど……。

辻　はぁ？　やってないよ……。

——エ!?　そうなんですか？（後日、編集部チョロの勘違いと判明）。

辻　だって、ボクは夕方にラジオの生放送を毎日、帯でやってるからね。今度の16日に武藤ちゃんが出るんだよ。毎週木曜日に格闘技コーナーがあるんだけど、19日に『ＷＲＥＳＴＬＥ—1』（以下『Ｗ—1』）があるから裏話も含めて聞こうかなと思って。

——辻さんは前回の『Ｗ—1』には行かれたんですか？

辻　行ったも何も、武藤ちゃんと裏実況みたいなものをやったんですよ。たしかビデオ収録用の仕事だったけかな。

——ご覧になった感想としてはどう思いました？

辻　う〜ん、どうなんだろう？「面白い」「つまらない」で言え

ば、面白かったね。
——会場で観戦する分には面白かったですよね。進行もいいし、演出も凝ってるし、新しいことをやろうとしてるのはわかったし。ただ、その新しいことに対しての逆風は吹いてるみたいですけど。
辻　どういう逆風？
——まぁ、試合の部分がおざなりになってることだと思うんですけどね。
辻　またハッキリ言うね（笑）。
——ただ、ボクなんかは会場で観てて橋本さんの試合が一番ダメだと思ったんですよ。でも、『W—1』に反発するような人からすると橋本さんの試合が一番良かったみたいなんですよね。
辻　あの試合はダメとかダメじゃないとかじゃなくて、『W—1』の雰囲気とは違うなとは思ったなぁ。
——つまり、テレビに迎合しない試合というか。
辻　テレビに迎合しない試合？
——試合内容までテレビ局が口出しをした大会みたいな言われ方をされてるじゃないですか。実際その通りだと思うんですけど、プロレスファンって保守的ですからそこは反発しますよね。
辻　でも、『W—1』ってある意味かなり保守的じゃん。だって、アメリカンプロレスをやりたいんでしょ？　全然、新しいもんじゃないと思うけどな。インディで、ああいう手法のプロレスはやってるんじゃないの？
——ただ、フジテレビがバックについた時点でスケール感がまったく違うじゃないですか。『W—1』に限らず他のリングでもテレビの力は強まっていく時代の中で、プロレスはどう進むべきか考えていきたいなぁ、と。
辻　難しい問題だよねぇ。
——たとえば、猪木さんなんかは口を開けばテレ朝の悪口を言っていた時期もありましたけど、あれって現場としてはどういう思いだったんですか？
辻　う〜ん、どうしようもなかったよね。
——まず、何に怒ってるのかわからなかったですからね（笑）。
辻　結局、猪木さんもフジが放映している『PRIDE』のプロデューサーに就いたり、『Dynamite!』や『猪木祭』でTBSと繋がったりし始めたじゃない。
——『LEGEND』で日本テレビとも繋がったし。いざ繋がると、今度はTBSの悪口を言うようになってますからね（笑）。
辻　だからどこの局だって同じなんだって（笑）。その怒りに耐えながら、新しいことをやっていくしかないんだよね。
——猪木さんの今年のテーマは

同日に中継されたのは、高山vs高阪、永田vsジョシュの2試合のみ。新日本所属は永田1人だけであった

今回のドームはカードがカードだけに、テレビは30周年を振り返る構成になっちゃうよね

「怒り」だし（笑）。
辻　「怒り」はマット界のキーワードでもあるよ！　プロレスって、特に女子プロを見ればわかるけど「コノヤローッ！」って叫ぶじゃない。あれがプロレスの原点だと思うんだけど、プロレスは怒りがないと闘えない。そこがK—1や『PRIDE』と違うとこなんだよね。やっぱり何らかの怒りというか、憎悪を自分の中で取り込んで膨らませていくのが大事であってさ。
——猪木さんや長州さんにみられる姿勢ですね。
辻　そうそう！　それで、よく言われるストロングスタイルというのは、イコール怒りだと思うんですよ。いまの新日本プロレスに魔界倶楽部が上がってるけど、たとえば魔界にしてもその一人一人が怒りをどう表現していくのかが大事だし、ストロングスタイルの匂い出せる香水になれるかどうかだと思うしね。
——新日本で怒りを出せてるのは村上和成ぐらいじゃないですか。蝶野さんも出せる人だと思うんですけど、リングを降りないと怒りが見えてこないし。
辻　まぁ、それはいまに始まったことじゃないからね（笑）。人それぞれかもしれないけど、怒りを出すことがストロングスタイルを見据えたり、感じさせることの絶対必要条件。「試合組まれました」「闘いました」「良い試合しました」とか、そんなんじゃないと思うんだよね。
——そうすると、辻さんは猪木さんや新間さんがリング上から不満を述べた「いまのプロレスには闘いがない」「媚びるプロレスはいらない」ってことには同感ですか？
辻　う〜ん、あれは、「いまの若いモンは！」ってボヤキと一緒じゃない？
——ダハハハ！　確かに近いんでしょうけど、こないだの特番で特集した「30周年ベスト30」で当時の試合を見せられたりすると……。
辻　（遮って）ホント、面白いんだよなぁ！
——いまと決定的に違うんですよね（笑）。
辻　でもね、それは時代だよ、時代！　それと役者かな。昔はアントニオ猪木という千両役者がいたからね。
——ただ、猪木さんが一線を引いた90年代中期ぐらいまでは、やっぱりいまとは全然違う激しいプロレスをやってたと思うんですよ。
辻　せわしく動いてるしね（笑）。いまはせわしく動かされてる感じがする。
——何に原因があると思いますか？
辻　俺も内部にいるわけじゃないから一概には言えないけどね。ただ、新日本プロレスが揺らいでる原因は、選手の脱退であったり……脱退であったり、脱退かなぁ（笑）。
——まあ、選手の離脱は大きいでしょうね（笑）。
辻　今度はマサさんや服部さんもいなくなるし、波に揉まれてるよね。いままではどちらかというと、新日本がかき回していたじゃない。UWFに対しても「絶対に潰す！」みたいな大命題があってかき回していたんだけど…

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏

……。やっぱり人数がいなくなっちゃたのが痛いのかな。
――今回のドームにしても、脱けそうな選手が混ざってるしで誰を主軸を置いていいのかわからない状態でしたしね。
辻 まぁ、今回のドームはカードがカードだったこともあるし……。
――客は呼べないカードというか……。
辻 うん。（慌てて）いやッ、悪いって言ってるんじゃないよ！ ジョシュ・バーネットにしても良い選手だけど、吉田秀彦であったり、かつての小川直也であったりと、一般の人たちの興味を引く選手がいないじゃない。そこでどうやって興味を引くのかっていったらさ、やっぱりテレビ的には新日本の30周年を振り返るベスト30みたいな構成になっちゃうよね。
――だからこそ、面白かったわけですけどね。
辻 う～ん。ただ、好評なのは嬉しいけど、新日本プロレスが苦しい時期だけに「どうなの？」っていう気持ちもあるんだよね。
――あれで視聴率を取れちゃうのもまた複雑な部分はあるでしょうけど、深夜のレギュラー枠を見てても番組の造り方とかも含めて以前よりかなり面白くなってますよ。夏のＧ―１あたりから、新しい作り方をしてるなって。
辻 わかる？ 視聴率もかなりいいんだよ。いま、4、5%ぐらい取ってるからね。で、豪ちゃんから見てどこが新しく感じるの？
――以前は試合をただタレ流すような感じだったのが、テレビ番組としていかに一見さんを引き込むかっていうのが見える作りになってきてると思うんですよ。ローラー劇場とかで最初に掴んでおいて、サクサク編集した試合を見せるから飽きないっていうか。こないだの特番でも放映したのが永田vsバーネットと高山vs髙阪のたった2試合だったっていう、その思い切りの良さに驚きましたよ。
辻 試合を切るっていうのは、現場としても抵抗あるんだけどねぇ。
――面白ければ全然ＯＫです！ ボクなんか前は「仕事だから」みたいな感じで惰性で見てたんですけど、いまはしっかり見てますからね（笑）。
辻 そう言われる嬉しいね（笑）。
――一番の衝撃だったのは、サップが中西戦を前に「ナカッニ～シ!!」と吠えながら動物園を徘徊するサップ・スペシャルだったんですけど（笑）。
辻 ああ、あれね（笑）。茶番と思った人もいたかもしれなけど、あれで他の局も同じようなことをやるようになったから、サップ自身のキャラを売り込むには正解だったと思うよ。
――あれは完璧でした！ 番組の完成度が異常に高かったですよ。
辻 でも、番組が好調なのはサップ効果じゃなくて、スタッフが話し合ってしっかり煮詰めていった結果だと思いますよ。最近はスタッフとの打ち合わせが多くなったしね。
――番組スタッフが入れ替わったりとかしたんですか？
辻 替わってないですよ。ここ2年ぐらい、プロデューサーは松本君。彼はプロレスファンで、自分の中にプロレス論みたいなものを持っているんですよ。でもプロレス関係の仕事が出来なくて、「ナイナイ」とかバラエティ番組をやっていたんだけどね。
――そのセンスが、ようやく『ワールドプロレスリング』にも活かされるようになったわけですか。
辻 昔の『ギブアップまで待てない』とは、違うバリエーションで作ってることあるしね。
――決してプロレスを落とさない、いい感じのスポーツバラエティになってると思いますよ。それで蝶野さんとの抗争を続けてきた辻さんからすると、いまのローラーと中丸アナの抗争はいかがですか？（笑）。
辻 いいと思いますよ（笑）。良いとか悪いとかじゃなくて、やっぱり話題がないとダメだから。
――ボクは、ローラーの金的攻撃に「チ～ン！」って効果音を入れたのを見て「やられた！」と思いましたよ。こっちに振り切ったかって（笑）。
辻 ハハハ。でも、ローラーに関しては、そうやって見せるしかないんじゃないの？ 僕はローラーが出てくることに関しては、猪木さんがなんであれだけ押すのかって疑問に思ってましたし、ずっと反対してましたからね。
――あ、そうなんですか？ 確かに猪木さんは「いまの新日本には闘いがない！」とか怒りながらも、「ローラーを使え」って完全に矛盾したことを言ってましたからね（笑）。
辻 ローラーは何の意味もなくリングに上がってる気がしたんだけど、逆に中丸との絡みがリング上に繋がった部分があるからね。むしろ、もっと実況席と絡みがあっても良かったんじゃないかな。
――まあ、大仁田や蝶野さんに比べると現場で何かやってもお客さんに届きづらいですからね。
辻 ただ、ローラーとシックスパックが結婚したことで、シックスパック自体が様々な団体とイザコザがあるのか上手くいってないこともあって、ローラーもそれに引き込まれて中丸との絡みがなくなる可能性もあるんだよね。
――あ、そうなんですか！ 以前の蝶野さんと辻さんの抗争や大仁田劇場があった時期のテレビ中継の面白さと、その流れが終わった後の落差ってかなり大きかったじゃないですか。そうなると、サップ、ローラーと続いて面白くなってきたのがどうなるのか、ちょっと不安ですね。
辻 いや、やっぱりテレビというのは何か面白いことをやっていても、常に新しいことを求めていくもんなんだよ。新日本と連係していかないと難しい部分は

テレビは新日本プロレスを救うか!?

テレ朝だけじゃない!! 年末年始に怒濤の特番ラッシュ！

【日本テレビ】
ノア 1/10日本武道館
（1/12・24:55～25:55放映）

蝶野正洋や、大谷＆田中の炎武連夢参戦を目玉に、通常より30分長い1時間枠となったノア中継は、視聴率6.3％の好数字をマークした。試合が白熱したことが大きな要因だが、なにより視聴者を飽きさせない、ゲスト解説を務めた高山のノーフィアー節の存在も光ったといえる。プロレスの底力を感じさせた放送である

【テレビ東京】
パンクラス 12/21ディファ有明
（1/12・16:00～15:15放映）

深夜枠で評判が高く、バラエティ色が強い『格闘Xパンクラス』とは打って変わり、試合中心のシリアスな番組構成。一番のインパクトがあった郷野の「バカ」マイクをカットしたのは非常に残念だし、国奥vsマーコート、竹内vsライトルの地味な攻防を延々と流したのは、何かの実験？ と思わずにいられない特番となった

【TBS】
『猪木祭り』 12/31さいたまスーパーアリーナ
（12/31・21:00～23:15放映）

リベンジ完遂を前提とした煽りに反して藤田が敗れたり、視聴率獲得の目玉として投入された吉田vs佐竹、サップvs高山が淡白な試合になったものの、紅白歌合戦の裏番組としては歴代2位となる視聴率16.8％を獲得！ 地上波ではカットされたが、アントン総帥vsサッチーが放映されたら、さらなる記録を塗り変えていた!?

【フジテレビ】
『PRIDE.24』 12/23マリンメッセ福岡
（12/29・00:30～02:00放映）

『PRIDE.24』の放送というよりは、2002年『PRIDE』の総集編的な内容。1・4新日本中継に近い番組構成といえるが、30年の歴史を振り返ったテレ朝に対して、ノゲイラ、サップ、吉田ら現在進行形の選手が主軸で、次回大会への期待を煽る即効性は十分。ノゲイラvsヒョードルの最強対決がアナウンスされるオマケ付き

出てくるけど、たとえばバーネットがこのまま終わっちゃうのもつまらないじゃない？

——バーネットはかなりの逸材だし、棚橋さんの事件にしても、もっと上手く転がしていけるはずなんですよね。

辻 そうそう！ 棚橋の事件に関して言えば、やっぱりレスラーというのは普通の一般人じゃないんだよ。普通だったら、つまらない！ 刃傷沙汰という陰湿な事件ではあるけど、ナイフにも屈しなかったことでフィーチャーの仕方はあると思うよ。良いとか悪いとかじゃなくて、プラスにしないとね。

——ああいうことが起きちゃって、なおかつバレちゃった以上、もうプラスにするしかないですからね。実際、会見で背中の傷跡みせる覚悟だけでも合格だと思うんですよ。

辻 あの会見に「やりすぎ」の声も飛んだかもしれないけど、プロレスラーにやりすぎとかないんだよ！

——同感です!! だからこそ、棚橋さんがドームで何の説明もなく蝶野さんのセコンドに付いていたのがもったくてしょうがなかったんですよ。1月3日に蝶野さんが新日道場で棚橋さんの体調をチェックするって煽りもあったのに、何でその映像や事件のことをビジョンで流さないのかと思って。

辻 そこら辺は新日本との連係だとは思うんだよね。

——『PRIDE』なんかはテレビ主導だから、そういうこともキッチリやってくれるじゃないですか。テレビでは「こんな事件があった！」ってセンセーショナルにしっかり煽ってたのに、現場が追いついてないんですよ。

辻 う〜ん……。新日本自体が企業然としちゃてるからかな？ 坂口さんが再び陣頭指揮を執ることになって、経営面でメスを入れていくというのは35周年に向けての大英断だと思うし、猪木さんと坂口さんの関係にしても良い方向に向かってるとは思うんですよね。

——新間さんとも復縁したし、理想的な陣営にはなってきてますよね。

辻 坂口さんはキッチリした人だし、社長としてやってきた10年間の自負がありますからね。普通の企業なら当たり前なんだけど、予定の給料日を超えないで渡せることができる人だから。興行会社の場合はまだ金が入ってきてないとか、まだ回収できてないとかで、得てして給料が遅れることがあるんですよね。それを10年間一度も遅れることもなく、ボーナスも払って従業員も増やしていったことは素晴らしいじゃない。

——猪木さんには、まずできないことですよ（笑）。

辻 餅屋は餅屋だからね（笑）。

だから、会社の内部は整備されてると思うんだけど……。それがレスラーたちにも浸透しちゃってると思うんだよね。実際は知らないけど、そう感じる。

——ちょっとシステマチックになりすぎてるとは思いますね。

辻 棚橋の事件も、「自粛しよう」とか「触れるのはやめとこう」とか考えるのは内側の話だったらいいんですけど、外部的にはドンドン打ち出していくべきですよ！ レスラーというのは、どこにいようがリングの上にいるのと同じなんだから。じゃあタイガー・ジェット・シンの新宿伊勢丹前襲撃事件はどうなのって話でしょ。

——「今回は洒落にならない」って言ったら、シンの襲撃は洒落なのかってことになるし（笑）。馳さんだって、タイガー・ジェット・シンに車を壊されたわけじゃないですか。

辻 レジェンドをブッ壊されてね（笑）。そんなの枚挙にいとまがないじゃない。売り出す仕掛けもあったかもしれないけど、予想だにしないトラブルを取り込めないようじゃダメだよね。臨機応変の強者やケースバイケースの達人が、プロレスラーなんだからね。そして、こんなにもモテるのがプロレスラーなんだと（ニヤニヤしながら）。

——棚橋さんは、一般誌でも「イケメンレスラー」と呼ばれるようになりましたからね（笑）。

辻 「美味しい肉体を見ずにしていいんですか？ 女性としてどうですか？」なんてね（笑）。「同じ男性として嫉妬しませんか？」でもいいけど、そういうキャッチコピーでやるべきなんじゃないの？

——ネタにしたほうが、加害者の彼女も救われると思うんですよ。変に自粛されると、罪の意識がどんどん重くなるだろうし。

辻 忘れてくださいじゃダメなんだよねぇ……。

——当分忘れないだろうし（笑）。

辻 いや、彼女には忘れてほしいと思うけど、棚橋は思いきり引きずって、それをグルグル回していったほうが絶対にいい！ 難しいところではあるけど、プロレスラーなんだから一般の人たちと一線を画すやり方じゃないといけないでしょ!!

——しかし、辻さんは女性問題になると熱く語りますね（笑）。

辻 いやいや、みんなだってそうじゃない？ 棚橋問題でプロレスファンがどれだけ燃えたことか（笑）。棚橋のおかげで、美味しいお酒になってるはずじゃない。

——新日本の内部でもそうだったんですか？

辻 そりゃあ頭を抱えた人たちもいたと思うよ。まぁ、無責任な言い方だけど死ななかったんだからいいじゃないのって。俺も刺されてみたいよぉ！

——ダハハハ！ ボクも無責任に語っていたら、最近ある実話誌に「原仁美、売れっ子ライターY・Gと二股」って出ちゃったんですよ。Y・Gって俺しかいないじゃんって（笑）。

辻 ああ、そうだったんだ（笑）。

——いやいや、面識もないですよ！ 調査の結果、本当は山●ゴ●●さんのことだったってわかりましたけど（笑）。

辻 本当ぉ？ まぁ、それはい

現在の『ワールドプロレスリング』中継で、掴みとして絶対に欠かせないローラー。辻アナの話によれば、このままフェードアウトしてしまう可能性が浮上してるとのこと！ 今後はイズマイウが台頭するか!?

今年
新日
今月

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏

――さて
末年始に
4東京ド
ッグマッ
けど、そ
のを今日
井上 そ
う『猪木
う！ ハ

テレビは新日本プロレスを救うか!?

いとして、いまの棚橋に必要なことは、フロント、レスラー、テレビが連係して作り上げていくプロデュースに尽きるんじゃないかな。

――小原さんの復帰にしてもドラマはいくらでも作れるはずなのに、ホント唐突すぎましたからね。

辻 普通のテレビ番組だったら許されないよ！ 小原が帰ってくるのは構わないんですよ。ただ、いまのままじゃ小原の存在も薄れていきますよ。

――村上と小原のカードなんて、〝1・4事変〟以来の因縁もあるんだからもったいないし、飯塚と魔界に扮した長井の絡みにしてもそうじゃないですか。飯塚が長期欠場に追い込まれた原因は長井の蹴りなんだから、そこにしっかりスポットを当ててビジョンで煽れば面白くなるはずなのに。

辻 飯塚と長井にしても、みんなが思ってるようなことが何のリアクションがないまま終わっちゃったからね。

――微妙に「長井コール」が起こったぐらいで（笑）。

辻 魔界倶楽部のマスクなんて御挨拶、菓子折みたいなもんなんだから、脱げばいいんだって！ 俺が実況してたら「どう考えても長井にしか思えません!!」って絶叫するよ!! もう、それしか言わない！

――飯塚にも「お前、長井だろ！」ぐらい言って欲しかったですよね（笑）。

辻 そうだよねぇ。「長井、お前がマスクを脱がないせいで、盛り上がるものも盛り上がらないだろう！」ぐらい言えばいいのに（笑）。

棚橋は事件をおもいきり引きずって、それをグルグル回していったほうが絶対にいい！

――ダハハハ！ 組織だけでなく、レスラー自身にも問題はあるんですかね？

辻 「どうなったら光ることができるか？」って、猪木さんなんかはいつも考えていたと思うよ。長州さんなんかもそうだしね。

――猪木さんは、明らかにそればっかり考えていましたよ（笑）。結局、いまのレスラーにはそういう野心や邪心が感じられないんですよね。

辻 猪木さんや長州さんは、目標まで突っ走るためのエネルギーがハンパじゃなかったからね。そういえば昔、長州さんに「毎日、よくそんなに怒れますね」って聞いたことがあったんだよ。

――長州さんは、いつも不思議なぐらい怒ってましたからね（笑）。

辻 そしたら長州さんは「だって仕事だろ！」って言うんだよ。怒らないで人を殴れるか、蹴れるかってことなんだよね。

――猪木さんにしても対戦相手がダメなときは、訳の分からない怒りでカバーしてましたからね（笑）。

辻 その怒ってる姿がベタ過ぎるように見えて「寒ッ!!」って思う人は、レスラーになっちゃいけないと思うよ。

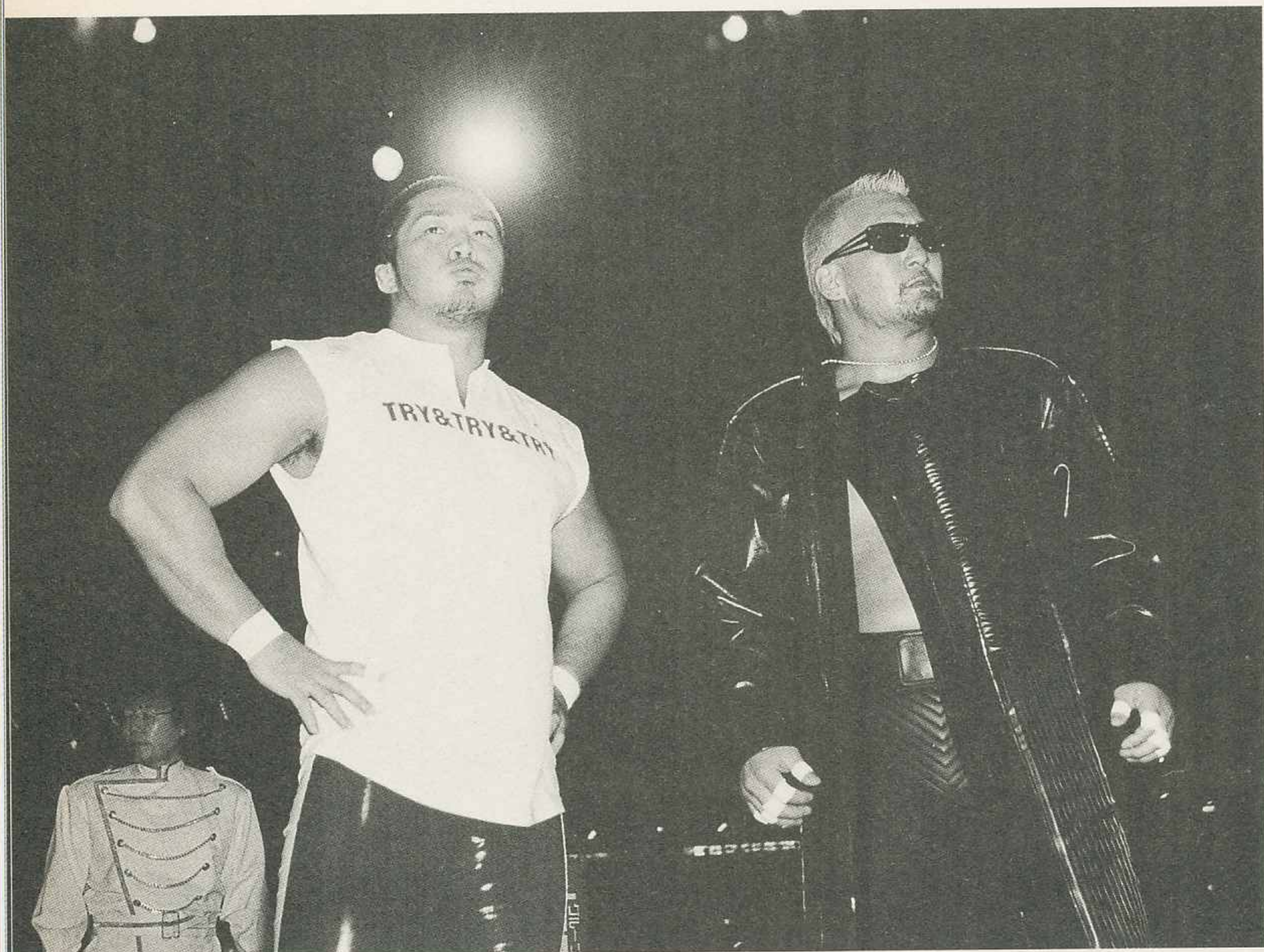
――ボクなんかの世代だと、やっぱり照れがあるとは思うんですよ。

辻 でも、趣味でやってるんじゃないんだからね。プロレスラーなんだからさ。もっと言うならば、レスラーの怒りに「それはちょっとなあ……」って見ているファンもプロレスファンじゃないと思うんだよ。プロレスに何を求めているのって聞きたいね。「純粋」とか「ピュア」とか言う人がいるけど、何なのそれって！

――サッパリわかんないですよね（笑）。

辻 いま「純プロレス」とか言うじゃない？ ハッキリ言って「純プロレス」自体が不純だよ！ だって「純プロ」と呼ばれるものには様々な利害関係が絡んでくるわけなんだから、純粋なわけがないじゃん。

――そもそもプロレス自体がいかがわしいものですからね。

辻 プロレスはプンプンと人間臭くって、見栄とか嫉妬とか意地とかてらいとか、人間の感情が凝縮されてるわけだからね。純粋な闘いだけを見せるんだったら、『PRIDE』やK－1と同じ土俵に立ったら負けますよ！

（キッパリ）。

――それがいまの現状なわけだろうし。

辻 ……正直言って去年は、プロレスが負けた年でしたよ。

――ミスター高橋さんの本で始まって……。

辻 悪夢のような年だよ、プロレス関係者にとっては。しかも『PRIDE』やK―1がこれだけ認知度を得てしまってね。

――渋谷の飲み屋の看板に「K―1放送中！　ボブ・サップ！」とかビラが張ってあったりとかして、もはやワールドカップ並の状況なんですよ！

辻 本当に凄い！　だって、いまのプロレスって手を汗握る試合というのがないじゃない？　感情を波立たない試合が多すぎるんだよね。見てる人の感情を波立たせるというのは並大抵のことじゃないけど、いまのK―1や『PRIDE』にはあるんだよなぁ。

――去年のプロレスで言うと、サップvs中西ぐらいですか？

辻 う～ん、敢えて言うけど、あの試合は総合系なんですよ。だってサップが中西に対して怒りを覚えてなかったじゃないですか。中西の側にはあったかもしれないけど。

――肉体的な凄みはあったけど、辻さんがいうところの正しい意味のプロレスじゃなかった、と。

辻 正しいというか、プロレスの範疇じゃない。やっぱり、ボブ・サップの体脂肪は頭にしかないって言ってるんだから、中西がそこに噛み付いて血塗れにするぐらいのものがプロレスなんじゃないの？

――ブッチャー的と言われるサップを、ブッチャーばりに流血させますか（笑）。

辻 だって、サップの脳天を食いちぎれば中西も上がるじゃない。サップを喰った男としてさ。

――文字通りサップを喰った、ビーストの上をいくビーストとして（笑）。

辻 あの2人には因縁がなかったんだから、その瞬間に生まれるわかりやすい怒りでいいんですよ。稚拙だろうがなんだろうが、怒りの構造が見えたときに人は興奮するんだからね。

――ドームで中邑さんの試合を見ていても思いましたけど、理性を吹っ切るスイッチとして流血というのは最適ですからね。で、「橋本真也、負けたら即引退スペシャル」で泣きながら実況していた辻さんとしては、最近実況していて興奮した試合ってあります？

辻 ないっスよ（あっさりと）。

――ダハハハ！　まぁ、そうなんでしょうけど。

辻 みんな無理無理にやってるのが見えて、役者がいないんですよね。

――猪木さんと比べるのは酷なんですけど、やっぱり現役を引退したいまでも比較にならないですからね。

辻 だって、『猪木祭り』で野村沙知代さんに手を挙げたときなんかも凄かったじゃない。

――ああ、地上波では流れなかったシーンですね（笑）。

辻 野村沙知代が猪木さんのビンタをスカして、挙げ句に抵抗してビンタをペチペチやり返してきたから、猪木さんが凄い顔でまた「バーンッ！」って張ってね（笑）。

――ダハハハ！　あの日のベストバウトだって声も挙がってますよ（笑）。

辻 普通だったら一回目にスカされた時点でもうやらないじゃない？　そのままじゃ野村沙知代を上げた意味がなくなって、観てる方はモヤモヤが溜まるんだけど……。

テレビ主導になっても、最終的には人間的な感情や資質が問われてくるよ

――そこでダメ押しできるのが猪木さんですよね（笑）。そういうときにキチンとリカバリーできるんですよ、ホント。

辻 ねえ！　「やっぱり猪木はわかってる」ってなるよ！　そこまで考えてるかどうかは知らないけどさ（笑）。

――まあ、実際のところは単純な怒りなんでしょうけど、2002年で一番怒りが見えた瞬間はあのシーンですよ（笑）。

辻 でもね、もうそろそろ猪木さんの美味しいとこ取りを超える人間が出てもいいと思うんですよ。

――それが2回目の『猪木祭』だと安田さんでしたよね。

辻 猪木さんも安田のことを抱きすくめていたけど、面白くない顔をしてたからね（笑）。「お前にはやられた！」っていうさ。

――誰にでも意地の張り合いを仕掛けますからね（笑）。

辻 猪木さんというのは、いくつになってもガキのケンカができるんですよ。

――そして誰を前にしても目立とうとするという（笑）。ボクが最近プロレスを見てイヤに思うのは、譲り合いの匂いなんですよね。

辻 「俺が」「俺が」じゃないんだよね。

――蝶野と三沢という業界のトップ同士が闘っても、やっぱり譲り合いにしか見えないのは問題ですよ。

辻 そうなんだよねぇ……。俺もプロレスに不安があるのは確かなんだけど、こないだ、あるトップレスラーと話したら「もう限界かな、プロレス……」と言うわけよ。

――うわ！　当事者が言ってましたか！

辻 でも今日、豪ちゃんと話をしてさ、ストロングスタイルは怒りだと。怒りを見せれば限界というのはまだまだ先なんだってことを認識した！

――とにかくスイッチ入れろ、と（笑）。

辻 最終的には人間的な感情というか、資質が問われてくるけどね。いくらテレビ主導になって、特効（特殊効果）やってもアメリカには負けるんだから！　WCWなんかだって何千万、億の単位の金を掛けてやってたんだから、絶対負けますよ。

――それは『W―1』で感じたことでありますよね。

辻 準備をした。お客さんが入った。会場の雰囲気も良い。そして最後のアンカーマンである、レスラーがリング上でどう料理するのかが問題だよ。

――どれくらいアドリブができるかということですよね。

辻 アンカーマンのアドリブ性だけでも持っていける！　演出、進行、大会の流れなんかをアンカーマンとして全部全身に染み込ませて、そこで中西がサップ

今年 新日

今月

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏

――さて
末年始に
4東京ド
ッグマッ
けど、そ
のを今日
井上 そ
う『猪木
う！ ハ

テレビは新日本プロレスを救うか!?

の頭をパクッと喰ったら一躍スターじゃない！

――大爆発しますよね！ 辻さんは「橋本真也、負けたら即引退スペシャル」を仕掛けた男でもありますけど、あのときもテレビ主導のプロレスってだけじゃなくて、橋本さんの感情がストレートに出ていたからこそ成功したわけでしょうからね。

辻 感情もそうだけど、言葉も大事！ こないだ何でここであ言わないのかなと思ったのは、パンクラスでライガーと鈴木みのるがやったときに、健介がリングに上がったじゃない。

――そこで「オレたちの青春、もう一回つくろうや」ってピント外れなこと言っちゃったんですよね（笑）。

辻 変なこと言ったよねぇ。どうして「正直スマン！」と言わないのかな!?

――そうなんですよ！ ボクらもそれを待っていたんですから。

辻 そこで言ったら健介、大ブレークでしょ？

――ギャグは2、3度繰り返したときに活きてきますからね（笑）。

辻 プロレスのギャグってさ、プロレスがわかってることにつながるんだよ。「正直スマン！」で「健介はわかってる！」となるんだよ。だってあのときのシチュエーションは、「正直スマン！」を使うのにハマりすぎてるわけじゃん？

――「いましかないぞ！」って状況ですよね（笑）。ちなみにウチの人間が高山さんにそのことを言ったら「そこで言えるような人間なら、会社を辞めてないでしょうね」と的確すぎる回答をしてくれたそうです（笑）。

辻 もしくは、もっと早く会社を辞めてるだろうねぇ。北斗（晶）なんかは「女猪木」と呼ばれていただけあって、そんなことばっか考えてきたと思うんだけど……。

――その辺が健介さんの限界なんでしょうけど、そういうセンスは絶対に必要ですよ！

飯塚と飯塚にしても、
何のリアクションがないまま
終わっちゃったからね。
普通のテレビ番組だったら
許されないよ！

後日の『ワールドプロレスリング』中継では、控室通路で飯塚が「おまえは長井だろ！」とドラゴン張りに咆哮！ リング上で叫んでいれば……。

辻 永田だって、もっとバーネットを生かせる構図が必要だったんだよ。バーネットの「お前はもう死んでいる！」発言にしたって、永田の返し方によってはもっと生きるしね。アリvs猪木のときに、アリが松葉杖を送ったら猪木さんがギプスを送ったという、あの感覚が必要なんですよ！

――お互いにネタを仕込んだ上でのああいうシュートなアドリブ合戦は、いま見てもスリリングですからね。

辻 「そんなことしなくても」言ってるようだと、プロレスはもう終わりだと思う（キッパリ）。俺、全部のプロレスの試合を見てるわけじゃないからわからないけど……。どうなの？ いま、自分プロデュースを考えてやってるような選手はいるの？

――難しいですよねぇ……。

辻 インディになると、単なる

しね。

——団体として上手くプロデュースできているところはあっても、そこまで自己プロデュースできるほどのエースは存在してないだろうし。

辻 やっぱり高山だけかな。相手を勉強してるし、よく研究してるでしょ。

——あの人は、誰よりもプロレス雑誌を読んでますからね。NWFトーナメントの記者会見でも、半年前の『紙プロ』で高阪さんが言った「NWFって何？」ってプロレス知識皆無な発言に、ちゃんと噛み付いてましたからね（笑）。高山さんは頭の中は常識的だけど、いかに非常識な振る舞いができるかをとことん考えてるというか。

辻 ボブ・サップもそうだし、バーネットが使えるなって思わせたのは、その部分ですよ。

——バーネットも、無駄にプロレスの学習は凄いですからね（笑）。

辻 そういう人たちには期待できるよね。それがチケットの売れ行きにつながるんじゃないの？

テレビは新日本プロレスを救うか!?

——新日本でそこまで頭を使う人がいないからこそ、ドームのメインとセミを外様の3人が占める状態になっちゃったと思うんですよ。素材は揃っているはずだし、良いカードを組もうとはしているんだろうけど、肝心のドラマが見せられない。そこに関しては、テレビが埋めるしかないのかって思うんですけど。

辻 でもね、豪ちゃんが言う程、良いマッチメイクじゃないと思うよ。

——ダハハハ！ まあ、そうなんですけどね（笑）。

辻 だってさ、苦しいところが滲み出てるじゃない。そして、苦しいときの腹の括り方が感じられるときと、そうじゃないときがある。ハッキリ言って括ってないときが多いんだけど、それは決して甘い姿勢で臨んでるんじゃなくて、苦しいのが普通になっちゃってるだけだと思うんだよね。

——ある意味、麻痺しちゃってるわけですか。

辻 でも、『ワールドプロレスリング』の新春スペシャルが、それを目を覚ませてくれた。怪我の功名といったら新日本にもテレビ朝日にも申し訳ないけど、もう一回新日本がゴールデンタイムでやるためには数字を取らないといけない。そのためには試合を切ってでも、新日本30年史で振り返るしかないってテレ朝は腹を括ったわけじゃない。

——伝説の前田vsアンドレまで遂に公開しましたからね。いっそのこと、"1・4事変"橋本vs小川の乱闘完全バージョンも見たいですよ（笑）。

辻 時代性の影響もあるんだろうけど、それでもテレ朝の腹の括り方は極めて気持ちいいよね！

——とにかく視聴率を取ろうというハッキリした決意が見えますよ。

辻 視聴率がいくつだったかはまだ聞いてないけど（8・8％）、今後に期待を活かした放送だったと思う。今回のことが起爆剤になってほしいよね。

——テレビ的にはいい流れも見えるんですけどね。GK金沢さんの解説もいいし。

辻 テレビ朝日だってやってるんだから、もっといい流れができるんじゃないかなって。プロレスに限界はないんだから！

——2002年は思いっ切り負けちゃったけど。

辻 去年はたしかに限界っぽく天井が見えた。でも今日の話で、中西vsサップ、ライガーvs鈴木の健介にしても、やりようによってはスポーツ紙の一面は飾れなくてもプロレスファンの心の一面は飾れたのがわかったじゃない。つまり、失敗はしたけど成功できるってこともわかったんだよ！

【つじ・よしなり】14年の長きに渡り『ワールドプロレスリング』の実況アナを務める名物アナウンサー。"ヒャッホー"辻としておなじみであるが、本人いわく「2回しか言ってない」らしい。蝶野とのシュートな抗争や、吉江の恥ずかしい過去を実況して中西から怒りのアイアンクローを喰らうなど、レスラー＆ファンの憎悪を一身に浴びるヒールアナとして、不動の地位を築いている。一昨年にテレ朝を退社しフリーとして活躍中である

——いま一番チャンスがあるのは棚橋さんですかね。

辻 刃傷沙汰か……。刃傷沙汰の棚橋……（呟くように）。

——ちなみに、辻さんはそっち方面は大丈夫なんですか？

辻 全然、大丈夫！ ちょっとあってもいいぐらいですよ！

——棚橋さんの件で健想さんの名前も一般誌にドンドン出たんだから、その噂も生かしてもらいたいですね（笑）。ただ、健想さんも長州さんのWJに移籍するって話もありますけど。

辻 他にも移籍する人はいるだろうね……。選手の離脱は橋本から遡れば、2年ぐらい続いてるんだろうけど。去年は新日本にとっては激動というか、屈辱の1年だったでしょ。

——まさに、踏んだり蹴ったりというか。

辻 その踏んだり蹴ったりの1年があったからこそ、いまがあると言えるようにしないとね。尻すぼみになって終わるんじゃなくて、プロレスは負けたところから這い上がっていくもんじゃない。俺も内部にはタッチできないけど、放送のアンカーマンとして頑張りますよ！

——期待してますよ、2003年は！

辻 長い下積みからの怒りと、瞬間的な怒り。これだよ、2003年は！

——ちなみに辻さんは、何かに対して怒ってますか？

辻 ボクですか？ う〜ん、みのもんたに怒ってるかなぁ……（呑気に）。

——いきなりみのもんたですか（笑）。

辻 いい加減にしろと！ 一本ぐらい番組を回せと（笑）。

——いいギャラ貰って、たっぷり遊んでるらしいですからね（笑）。

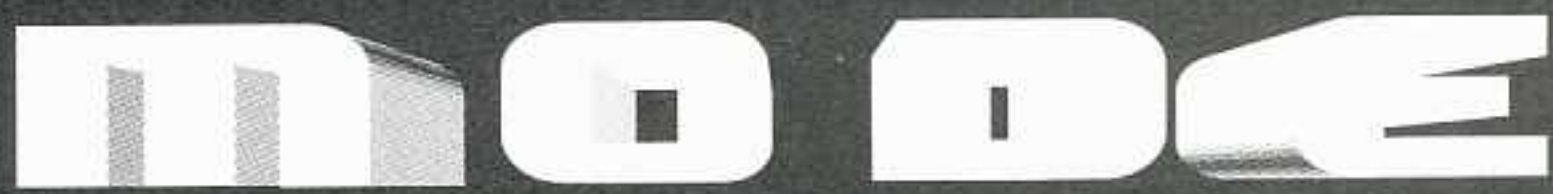
辻 みのもんた、いまに待ってろ！ それだけ言い残して、ボクはラジオに行かせていただきます（笑）。

——ダハハハ！ 辻さん、やっぱり面白いです!!

［03年1月7日／ツジ・プランニング・オフィスにて収録］

プロレスマスコミの哲人
元・週刊ファイト編集長
井上義啓氏
（通称＝I編集長）
狂乱のマット界時評連載

喫茶店トーク

今月のお題

今年もあえて聞きます。03年、新日本はどうすべきなのか？

この連載のタイトル通り、iモード版『紙プロhand』での週刊連載も始まり、2003年もますます元気なI編集長がお送りする喫茶店トーク。今回はもちろん1・4をメッタメタに斬ります！

聞き手／堀江ガンツ

――さて、井上さん、この年末年始に『猪木祭り』と1・4東京ドームという2つのビッグマッチがあったわけですけど、そこから見えてきたものを今日は伺いに来ました！

井上 そんなもんアンタ、もう『猪木祭り』の時代でしょう！　ハッキリ言って1・4なんていうのはね、『猪木祭り』と比べること自体どうかしてるんだよ！

――1・4と比べただけで『猪木祭り』に失礼ですか！（笑）。

井上 もう1・4については建設性というものは何もないだろう、アレ！　ボクなんかはホントは坂口、藤波の両氏とは、二人がプロレス界に入ってきたときから知っとったわけだからね。だから他は悪く言っても新日本プロレスについてはホント悪く言いたくないわけよ。悪くは言いたくないけど、それでも今日だけは言うわ！

――毎回言ってる気もしますけど、よろしくお願いします（笑）。

井上 もうね、ハッキリ言って、あれだけ時代錯誤的なことをやっとったらダメですよ！

――時代錯誤！　具体的にどの辺がですか？

井上 とにかくいまだに大会場プロレスにこだわってることがダメね。まぁ、これを言うと、また僕と大の仲良しの坂口大先生の悪口を言うことになるんだけども。

――大の仲良しの坂口大先生ですか（笑）。

井上 坂口が「新日本プロレスが年に3回ドームでやらなかったら、プロレスの灯が消える」とか言うとるだろう。そういう感覚がね、言うちゃ悪いけど間違ってる！（キッパリ）。東京ドームでやることがステータスでもなんでもないんですよ。

――いまやそうですよね。

井上 いまは凄い試合をやって、とにかくそれをPPVで配信すると！　そういう時代に来てるんだから、会場なんてのは後楽園ホールでいいのよ！

――いきなり1・4後楽園ホール大会に変更しますか（笑）。

井上 まぁ、そこまでちっぽけじゃなくても日本武道館とかね、あそこら辺で十分ですよ。第一この前の1・4なんか、ぜ～んぜん客入っとらんかったらしいだろ、アレ！

――確かに1・4は寂しい入りでしたね。

井上 それでもギリギリ5万人入ったことになっとるようだけどね、会場に行った人に聞いたら「過去最低の入りだった」って、みんな言うとりますよ。

――ハッキリ言っちゃうとそうですよね（笑）。

井上 「社員が全部売って歩いた」って、そういうことも少しはあるんだろうけど、そんなことしたところで5万人なんて追いつきませんよ！　追いつくハズがない！　こんなもん当たり前の話でね。だから大会場プロレスにこだわってること自体が、ハッキリ言って、見る気がしないのね、コレ！

――ホントにハッキリ言いますね（笑）。

井上 先にドームありきで無理矢理カードを組んでるから、大阪や名古屋なんかで組まれるカードの方がまだ面白いだろう。そんなんだから去年の年末なんかでも、プロレス者が1・4の話なんか全～然しないもんね！　したとしても「編集長、1・4はあれどうなりまんねん？」「あれなんでっか？」そんな話ばかりですよ。タイトルマッチがどうとか、高山の試合がどうとか全

然出てこない！　俺も12月から今日までいろんなプロレス者と20回ぐらい話しをしてるけど1度も出てきませんよ。

――ち、ちょっと待ってください！　井上さん、1ヶ月で20回も喫茶店トークしてるんですか!?（笑）。

井上　おう！　大阪梅田の新阪急ホテルが新しい拠点ですからね！

――あ、ホームリングが変わりましたか（笑）。

井上　前は中央郵便局の向こうにあるホテル阪神だったんですよ。あそこの喫茶店はコーヒーが800円から1000円して高かったけどね、静かで年中開いてて夜中の12時頃までやってるからいいんですよ。ただ、周りになんにもないんだよな。それで今度は新阪急に変えたんだけどもね、あそこは周りにちっこいホテルが点在してるんで、一軒閉まっても向こう行きこっち行き、店を変えて続けられるんですよ。

――喫茶店トークのはしごをしてるんですか！（笑）。

井上　そうですよ！　ホテル阪神じゃハシゴが利かなかったから、それで新阪急にしたんですよ。まぁ、そういうことで僕も一生懸命やってますけどね、そこで1・4の話は全然出てこない！

――寂しいもんですね。

井上　それでも1・4の試合は見せてもらいましたけどね、やっぱりすべてにおいて中途半端。高山なんかは、ああいう怪我をしながらよく出てきたなぁと、そういう点では凄い男ですけど、それが目に見えているだけにね、1・4の高阪戦っていうのは、これはやる前から「春風の試合」になるな、と。

――「春風の試合」。素晴らしい表現です（笑）。

井上　言うちゃ悪いけど、こうなると読めとったしね。もう結果についても最初からファンが「怪我しようがなんだろうが、高山だろう」と思ってるんですよ。これじゃダメね！　ファンが「高山だろう」と思ったら、その逆を行かんと。

――いい意味で予想を裏切れ、と。

井上　とにかく小学生がマッチメイクを見て全部結果を当てちゃうようなプロレスはダメなんですよ。そんなもん初めからわかっとるんだから、原稿書くのもラクですよ。まぁ、でも今だから言うけれどもね、僕らの若い頃でもそういったことはあったんですよ。昔はひどいもんで、みんな試合が始まる前に記事を書き終えとったからねぇ。

――ガハハハ！　なぜか試合前に記事が出来上がってましたか（笑）。

井上　僕なんかは最初、ちゃんと試合が終わった後ひとり会場に残って記事を書いとったんだけど、他の記者はみんな試合が終わったとたんに帰ってるんだな。それで「なんで先輩たちはあんなに書くのが早いんだろう」と思って聞いてみたら、「お前、バカか」と。「こうでこうでこうなる」と、よっちゃん（芳の里＝日本プロレス社長）が試合前に言うとったやろ」と。「そんなもん今日は馬場がやられるなんかわかっとるじゃないか」と言うんだな。

――それって芳の里さんが試合前に結果を言いにくるんですか!?（笑）。

井上　いや、結果を言うわけやないのよ。でも、試合前に記者のところに来て、「今日は馬場ちゃん危ないな。相手がボボ・ブラジルで、あのアイアン・ヘッドバッドというのは凄いだろ？　馬場ちゃんは脳天が弱いから、あれをやられると危ない！　今日は危ないな」とか言ってニヤリと笑うんだな。そうすると記者が「ブラジルのアイアン・ヘッドバッドが炸裂して馬場が王座転落」って、書いてるわけ。でも、芳の里さんは「危ない」としか言うてないんだよな（笑）。

――確かに言ってませんね（笑）。

井上　逆に言うたら、そこがプロレスの面白さであってね、それを「八百長だ」とか言う奴は、お前バカかと。そんなもんは、いまNHKでやってる『武蔵』に文句言ってるようなもんですよ。『武蔵』だって沢庵和尚なんかそんなもんいませんよ！　それと同じ事。だから俺が言うのは、それをやるんなら新日本プロレス流の筋書きの持っていき方をやってくださいよ、と。

――筋書きの持っていき方ですか……。

井上　やっぱり、かつての新日本プロレスはいくら筋書きがあると言っても「新日本プロレスは凄いな」と言わせるものをやってましたよ。猪木vsモンスターマン戦を見てもわかるとおり、いつホンマもんのガチンコが出てくるかわからんところに猪木プロレスの凄みがあったわけでしょ？　そういったところを1・4も出してほしいと思ったし、ジョシュ・バーネットが出てくると聞いたとき、ようやくやってくれるのかなぁ、と思ったら、またああいった形だったからね。

――ある意味、予想通りでしたけどね（笑）。

井上　やっぱり中途半端はダメですよ。エンタメ・プロレスをやるならとことんエンタメ・プロレスをやる。プロ格をやるならキチッとしたプロ格をやらないとダメなんですよ。だから永田vsジョシュ・バーネットなんてのは、もう八角形のリングにしてUFCスタイルでやれ、と！

――永田vsジョシュのUFC戦ですか！　しかもオクタゴンまで使って！

井上　そ～うですよ！　それを「メインイベントはプロレスじゃなきゃ嫌だ」っていうならね、真ん中ぐらいに持ってきて「特別試合」と！　それでいいと思うのね。そういったカードを組んでたらね、少しはあの1・4もマシだったろうし、それ以外に藤田vsミルコクラスのバード（バーリ・トゥードの井上用語）を1、2試合組んどったらドームは一杯になっとったんじゃないかと思うよ。いまのままのあんなカードじゃ絶っ対入らない！　入らないというよりもね、新日本プロレスらしいところがまるでないんだよな。猪木がリング上で言ったように、殺気だった試合というのがまったくないじゃないか、アレ！

――殺気どころか春風が吹いていたわけですからね（笑）。

井上　でもまぁ、これはもうしょうがないのかもしれないんだよな。時代が違うからね。猪木が生きてとった時代と、永田が生きてる時代では違うんですよ！

――「猪木時代」と「永田時代」じゃ、字面だけでも違いがありすぎますね（笑）。

井上　僕らと君らでも考え方が全然違うからね。俺らはやっぱりドスの怖さとかね、そういったものを知ってる世代ですよ。

――ドスの怖さを知ってる世代！

井上　おう！　そら終戦直後に神戸市なんて言ったら小さな子供にもナイフを突きつけて「金を出せ！」というね、そういう時代だったんですよ。神戸の新開地なんていうのは、もうヒロポン中毒の女なんかがのたうちまわっとったからね！

――ヒロポン中毒！

井上　「女が素っ裸になっとるで、見に行こう！」ってなもんだ！　それでちょっと路地に入ったら「ヤクくれー！」とか、わめいてるんですよ。それで苦しいから着てるものを引きちぎって投げるのね！　そうなると今言ったストリップになるわけ。それでみんな「おう、タダで見られたな」なんて言っとったんだから！　そういった時代といまは違うんだから、それはしょうがないんだけども。そこをよく認識してね、その殺気というか凄さというものを出していかんと新日本プロレスじゃないじゃないか！　そういう話を上から下まで、もう毎日毎日話しろと！

――洗脳させるように（笑）。

井上　そのくらいでいかんとね、猪木がいくら殺気を取り戻すことが今年のなんたらと言ったところでね、笛吹けど踊らずですよ。もう道場のやり方ひとつでも昔と違って生ぬるいんだから！　あの当時の力道山道場なんていうのは、練習すること自体がハッキリ言って「死

の行軍」でね。あれに耐えられたということは凄いですよ！　あれに耐えられた人間は凄い試合をするし、ケンカをやらせたら強いしね。ミルコ・クロコップの二段モーションのハイキックなんかまず受けない！

――力道山門下生にはミルコの蹴りが通じませんか！

井上　そりゃ受けませんよ！　というも、あの当時の連中というのは、競技としてやってないのね。ホントのケンカをやってるわけだから。そしたら目の前に飛んできたキックを受けるようなことはしませんよ。だから猪木の異種格闘技戦というのを今のプロレスと同じようで、ハッキリ言って筋書きがあってどうのこうの言うけどね、じーっと見とったら違うんだよな！　やっぱり避けるところはパッと避けてるしね、わざとボーっとやられてるところなんか一つもないですよ。ホントの意味での勝負っていうもんがあったんだよな。そういったものをやっぱり1・4あたりにも欲しかったよね。だから高山と高阪の話に戻るけれどもね……

――あ、やっとそこに戻りましたか（笑）。

井上　これはいまさら言うたってしょうがないけれども、NWFというものを引っ張りだしてきたのは間違いですよ！　あれを引っ張り出してくるならね、新しい格闘技のタイトルを作れというんだよ！　それをやろうというのが猪木の「闘魂タイトル」だろ？

――「闘魂タイトル」？　ああ、『東スポ』に載っていた、団体の枠を超えた最強のベルトですね！

井上　あれは公式な発言ではないけれども、猪木がそういった考えを持っているというのは当然だと思いますよ。だから「昭和プロレスの復興」だとか新間さん辺りが騒いでいるけれども、その方向にだけ猪木の目が行っているかと言えば、絶対行ってないのね。むしろ猪木の目は反対の方向向いてますよ。

――格闘技の方ですね。

井上　ただ、現在ある新日本プロレスをしっかりさせるためには、とにかく殺気だった昔のプロレスだよ、と。そういったことは言っとるのだけど、それだけじゃなくて、やっぱり猪木が言うように「『猪木祭り』のランキングを作ってみよう」とかね。「闘魂タイトル」というものが設定されるだろう、とか。そっちが重要なんであってね、だからプロレス者の話はそこに集中してしまってるのよ。

――プロレス者の間では「闘魂タイトル」の話で持ちきりですか！（笑）。

井上　だからNWFなんていうのは、僕に言わせるとハッキリ言って「闘魂タイトル」の中に吸収して消してしまえ、と。統一するならIWGPとNWFなんかじゃなくて、「闘魂タイトル」と統一戦をやって、ホントの格闘技の統一ベルトにせんとね、NWFのあんなもん作ったところでね、光りようがないのね。

――ホント、これからNWFをどうするつもりなんだろうと思いますよね。

井上　だいたい新日本プロレスのリングでプロ格をやるなんていうのも限られてるんだもん。せいぜい3、4人でしょう。その連中同士の試合は「これはプロレスとは違う」と言うたところで、それを言うならなんでIWGPと統一戦なんかするんだって！（ドンッ）。

――作った意味がわかりませんよね（笑）。

井上　第一NWFとうのは格闘技系のタイトルと違うからね。それだったら「闘魂タイトル」というものを作って、NWFは封印しなさい、と。王座統一したところでハッキリ言ってIWGP構想の二番煎じになるけれども、それなら「これは新日本プロレスだけのものと違う」と。ノアから何から全団体認定の王座にするんですよ！

――全団体認定！

井上　そうしたら新日本プロレスの私事のタイトルじゃないんだから、取って取り返してどうのこうのということがなくなるわけでしょ？　どこに行ったっていいわけでしょ。それをボクは猪木が狙ってるんじゃないかと思うのね。『猪木祭り』というのはオールラウンドのものだからね。そういった意味で猪木が音頭をとって、とにかく『PRIDE』、K-1、そして『闘魂』という3つのジャンルを作るべきですよ。

――え!?『闘魂』というのはジャンルだったんですか？

井上　そんなもんアンタ、K-1というのはキックボクシングであって、『PRIDE』というのはサブミッションであってね。そのどちらも良さを発揮できるように、「闘魂タイトル」というのは、ルールにプロレスの要素をふんだんに盛り込んだプロ格ですよ！

――「闘魂タイトル」はプロ格のベルトでしたか！

井上　そうですよ。だから新日本プロレスもNWFだ、IWGPだじゃなくて、「闘魂タイトル」というものを作って、キチッとしたプロ格でガンガンガンガン行くべきなんですよ！　俺が言いたいのはそういうことだな！

――井上さん的には、今年もやっぱり「プロ格の年」ということですね（笑）。わかりました！　本年もよろしくお願いします！

井上　はーい。

いのうえ・よしひろ■1934年岡山県出身。『週刊ファイト』の編集長を長く務めた、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。ターザン、GK、ケンファー佐藤等、プロレスマスコミで一編集長に影響を受けた人間は数知れない。

言うちゃ悪いけど今日の結論

全プロレス団体認定の『闘魂タイトル』を作り、NWFは封印しなさい！

紙の新聞

●マット界の1ヶ月がなんとなくわかる●

編集長／堀江ガンツ

12/10 ↓ 1/15

全国1千万人の『紙プロ』読者のみなさま、大変遅ればせながら、とっくに明けましておめでとうございます。今年もどうかよろしくお願い申し上げます。ちなみのタイトル写真は、今月インタビューするはずだったイズマイウをせっかくだから載せてみました。そんだけです。では、レッツゴー！

1/2

【全日本プロレス】

カシン、全日本取締役就任宣言！

経営危機説、分裂説など全日本に正月からきな臭い噂が立ちこめる中、イライラを募らせるカシンは、翌3日開催のJr.ヘビー級バトルロイヤルの優勝者に「世界ジュニア王座挑戦権を与えろ」と迫るカズ・ハヤシに対し「全日本が危ない、危ないと言われてるんだから。そんなこと言ってる場合じゃないだろう!」とまずは一喝。そして「だから俺が前々から言ってるんだよ。取締役10人もいらないだろう。経費ももっと抑えろって。それをさっき渕の兄貴に言ったら『じゃあお前が取締役やってみろ』って言われたから、やってやるよ!」と、衝撃の取締役就任宣言を行った。カシン取締役の全日……見たい!

1/3

【全日本プロレス】

カシン、賞金50万を全日本に寄付!?

世界ジュニア王座挑戦権が賭けられていたバトルロイヤルに、なぜか王者カシンも参戦。抜群の知能犯ぶりでまんまと優勝し賞金50万円を獲得した。またしても挑戦権獲得のチャンスを逃したカズが「カシン! お前空気読め。ここでお前が勝ったら面白くないだろう!」とマイクでダメだししたが、カシンはまったく意に介せず、「この賞金は全日本プロレスに寄付する。ただでさえ潰れそうなんだから、少しでも会社のためになるように」と、獲得したばかりの50万円（あくまで目録）をすぐさま会社に寄付することを宣言。前日の取締役就任宣言に続き、どこまでも愛社精神に溢れるカシンであった。

12/27

【掣圏道】

初代タイガーに200万円の賠償命令!

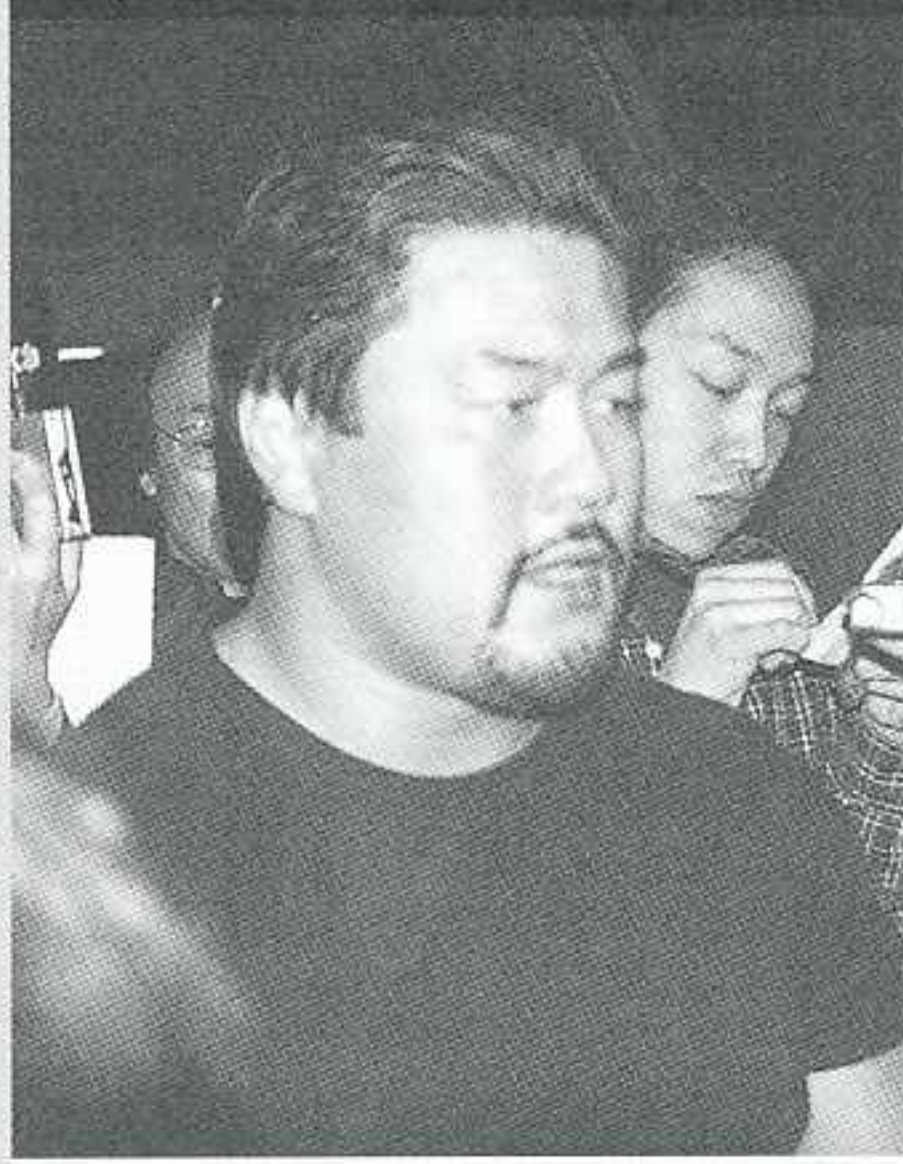
押忍!（敬礼）"プロレスマスク制作業者が「公式の場では自分が作ったマスクを使うという契約に違反した」として、"思想する虎"佐山タイガーに損害賠償を求めた裁判で、東京地裁はこの日200万円の支払いを命じた。これは99年に一度、佐山がこの業者のマスクを着用しなかったことが認定されたもので、その一度というのは、なんと上の写真にある抜群のコスチュームの時だというのだから凄い。この判決に佐山は掣圏道のHPで原告を「町人拝金主義者」呼ばわりし断罪! そして「こんな世の中でいいのだろうか」と、ますます運動を活発化させる決意を新たにしたようなのであった。

12/24

【WJプロレス】

健介、WJ入団再度拒否！

異例の公開入団交渉の翌日、早くも行われた第2回会談はまたしても決裂した!永島取締役は「今あいつの心には強い葛藤がある」と"悩める若者"こと健介が文字通り悩んでいると分析。そして「悩んでいるならオレが何かヒントを与えたい」と、その日のウチに第3回会談を電撃開催!ここで「WJは再来年、MSG興行を計画している。オレはお前がここで試合をする姿が見たい!」という殺し文句を披露し、健介が会談中初めて笑ったという。これには永島取締役も「高感触!」とニンマリ。こうして3日間に渡る、"背広レスラー"お得意のアングル作りは終了した。

12/23

【WJプロレス】

健介、WJ入団拒否！

交渉決裂! 大好きッ!な新日本を退団した健介が、WJプロの誘いをキッパリと断った! この日、健介の修業先であるNYまでわざわざ足を運び、NY市内のホテルで報道陣が見守る中、異例の公開入団交渉に挑んだ"ナマハゲ"ことWJ永島取締役だが、約2時間の説得も健介は首を立てに振らなかった。永島取締役は、「健介自身も長州と一線を画したい気持ちがあったのだと思う。今回の米国修行は、脱長州の旅と受け止めた」と、健介が長州離れしようとしているとの、とぼけた解釈で入団固辞の理由を分析。こうしてスポーツ紙、プロレス誌への宣伝のために行われた第1回入団交渉は終わっ

1/15

【ＷＪプロレス】

越中やっぱり新日退団、WJへ

この日、越中詩郎が新日本退団を表明。昨年末に退団届けを提出したマサ・サイトー、タイガー服部に続いて、"長州派"3人目の離脱となった。越中は「契約満了をもって辞めるということです。自分自身、行きたい団体があるんですけども、1月いっぱいまでは新日本の選手。新日本には感謝しています」と、はっきりとは語らなかったが、長州との結びつきの強い越中の"行きたい団体"が、かつての親分率いるＷＪであることはほぼ明白。この翌日には、「多分引退」を表明した大仁田厚が早くも電流爆破での対戦をアピールするなど、3・1へ着々と計画は進んでいるようだ。

1/13

【新日本プロレス】
成田空港

アントン電気を語る

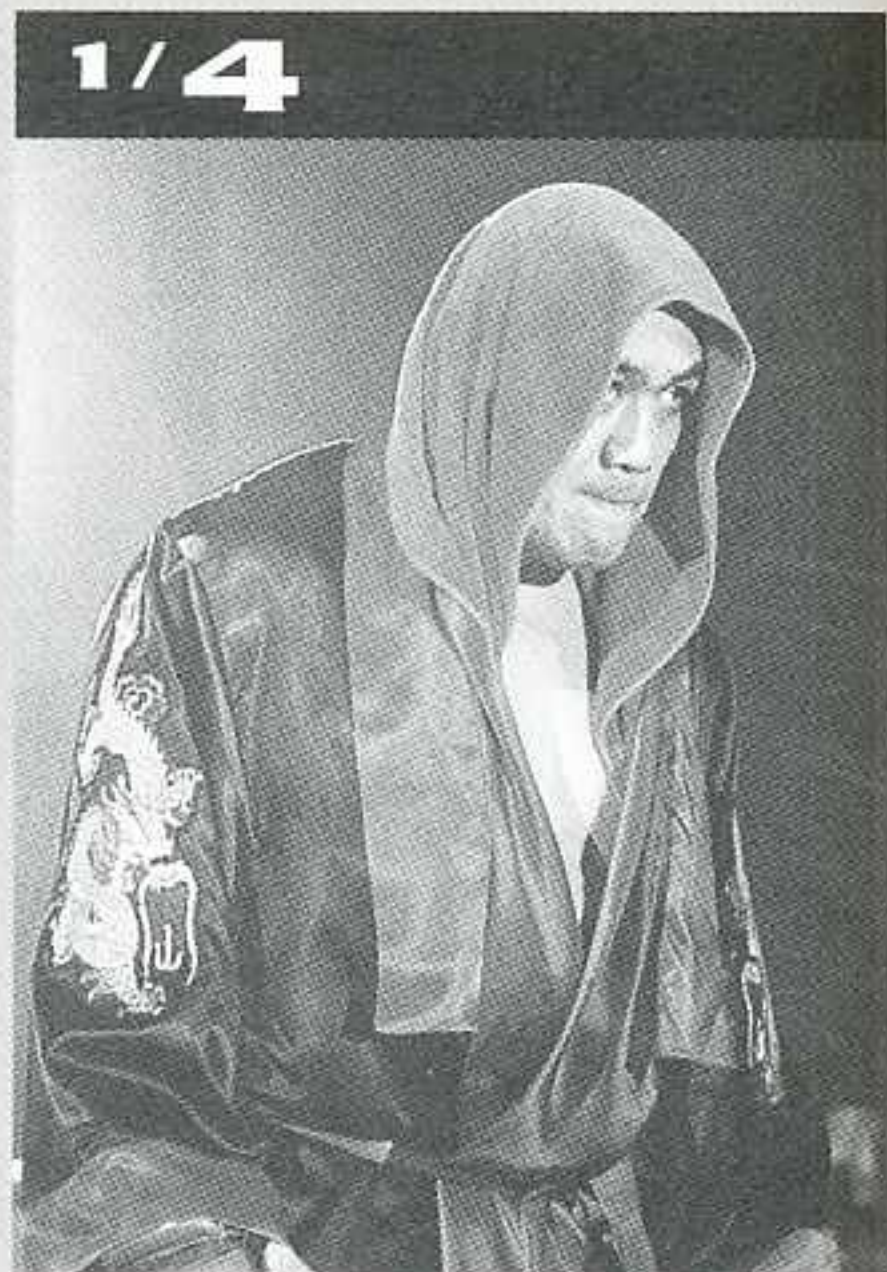
この日、アントンが成田空港で恒例の成田会見を開き、時期が時期だけに何か不用意な発言が飛び出すのではないかと、周りがビクビクする中、案の定、報道されない大放談を披露！　ここではスペースの都合を言い訳に、全面カットさせていただくが、その代わりに、あの永久発電機の続報が明かされたので紹介しよう。アントンによると、なんと大晦日の『猪木祭り』で"電気"のパフォーマンスを考えていたが、時期尚早ということで断念したという永久発電機。しかし計画は順調に進んでいるらしく「2月ぐらいには世界がひっくり返ることになりるかもしれない」ということなので、期待しよう！

1/7

【ダイ・プロデュース】

大仁田、3度目の引退宣言

議員レスラーの大仁田厚が、衝撃の引退宣言（3度目）を行った！　この日、都内で会見した大仁田は、「これが本当の、本当の、本当の引退になるかもしれない！」と、懐かしの『ワールド・プロレスリング』大仁田劇場風、フレーズ繰り返しで引退を表明すると、「多分、多分、多分だろうけどもう戻ってこない！」と、「多分」という逃げ道をたっぷりと残したまま、再々々現役復帰をキッパリと否定した。ちなみに引退の舞台は、今年5～7月に開催を計画しているアフガニスタン10万人興行。今回の「引退宣言」は、このアフガンプロレスの宣伝のような気がするが、そんなことはないだろう。きっと。

1/4

【新日本プロレス】

藤田、またしても最強トーナメントブチあげる！

大晦日の『猪木祭り』でミルコ・クロコップへのリベンジに失敗し、ノーコメントで会場を後にした藤田和之が、この日の大会前ドームで会見を開き、「ダメージはない。あとには引きずらない」と、2連敗のまま、以外にもサバサバした表情でミルコへのリベンジ路線をアッサリ終了させると、なんと突如、K―1、PRIDE、プロレスの強豪を一同集めた「最強トーナメント」構想をぶち上げた！　藤田提唱のトーナメントというと、どこかで聞いたような気がするが、よく考えたらこの日決勝戦が行われていたNWFトーナメントも藤田提唱だったような……。敏腕格闘プロデューサー、藤田の手腕に期待！

【ＷＪプロレス】

谷津、大仁田に激怒！WJで電流爆破!?

「凄いヤツ」こと谷津嘉章が大仁田に激怒！　「3・1横浜アリーナには出場する。その条件は史上最大の爆破マッチ。相手はWJから名乗り出ろ。それともWJ入団が決まった佐々木健介選手でもいい」という大仁田に対し、健介の兄貴分にあたる谷津が猛反発！　「大仁田の大口は相変わらずだな。ＷＪは誰だって名乗り出てやるよ。健介にはまだ伝えていないが何と言うかね。どっちにしても『ノーロープ金網有刺鉄線電流爆破』を用意してやるよ」と一刀両断！　ま、長州vs天龍に次ぐ目玉として、大仁田の電流爆破が内定したということでしょう。個人的にはニタvs津谷章嘉がちょっと見たい。

1/15

【プロレスバカ】

プロレスバカ逮捕

16日、元プロレスラー・剛竜馬（本名・八木宏）、かつては「プロレスバカ」と呼ばれ局地的な人気を博し、また「極太親父」としても、別の意味で局地的な人気を博した男が窃盗で逮捕された。八木容疑者は新宿駅西口の券売機前で、財布をバッグにしまおうとした女性（69歳）のかばんから財布をひったくり逃走。新宿駅構内に入ったところで男性会社員ら3名に取り押さえられ、警視庁新宿署に現行犯逮捕された。八木容疑者は、さまざまな業界関係者に借金を申込み、自身の引退興行にも借金取りが押し掛けて姿を現すことすら出来なかったとの情報もある。本人は「財布を拾っただけ」と言っているようだが、捜査の行方に注目したい。

1/13

【全日本プロレス】

川田がトークショーで4月に復帰宣言

現在は左ヒザ負傷で、長期欠場中のため影が薄いが、復帰すれば"ライバル"佐々木健介に勝るとも劣らないマグマ級の破壊力で『紙の新聞』を賑わしてくれそうな川田利明が、スーツ姿ながらリング復帰。ファンの前でトークショーを行い、4・12武道館での復帰を目指していることを明かした。そしてその時の相手には、小島を指名。さらにはボブ・サップについても「ファンが望めば全日本でやりたい！」と、実現薄な夢を語った。そしてなんと言ってもこの日のビッグニュースは、川田が本を執筆中ということ。いまから『書評の星座』が楽しみなのであった。

1/7

【ＷＪプロレス】

健介、やっぱりＷＪへ（笑）

「悩める若者」（by倍賞取締役）健介が、やっぱりWJに入団！　NYで永島取締役の説得に悩んでみたり、グラウンド・ゼロで涙を流したり、人間味溢れる行動を繰り広げていた健介はハワイでWJの福田社長と会談。「プロレスラーとしてだけではなく、男として生きる道を教わった」とのことでWJ入りを遂に決意した。倍賞取締役や藤波社長、さらにはWJ永島取締役でさえ説得できなかった「悩める若者」を説き伏せる福田社長の男っぷりとは、一体いかばかりなのだろうか？　長州も「良かったなぁ」と健介入団の報を喜んだという。いや、それにしてもホントに良かったなぁ。

マット界クロスレビュー

本誌編集部の独断と偏見!!

年末年始11大会ぶった斬り!!

唐突に始まった、『紙プロ』編集部の独断と偏見による『マット界クロスレビュー』！　大会もいっぱいあるけど、編集部＆電気部で人数もいっぱいいるけど、誌面もないけど、取材はしたけど、写真も撮ったけど、というわけで、編集部の人間が総力を結集して書き上げる150W×44本のレビュー原稿！　2～3時間の興行を凝縮するのは不可能な文字数だが、伝えたいことを厳選すれば入れ込めるはず！　というわけで、見てください！　感じて下さい！　マット界の現場の熱を！

今回のレビュアー

♠松澤チョロ

いま現在、1月22日の午後9時。ハッキリ言って締切はとっくに過ぎてます。しかしながら、まだまだ書いてない原稿は盛り沢山。この本が1月28日に書店に並んでいたら、それはミラクル。もし並んでいなかったら……。明日また生きるぞ！

◆堀江ガンツ

ご覧のとおり、気づいてみれば、ほぼ連日のように会場に足を運んでいたこの年末年始。ここに載っている以外に1／2＆3全日本の後楽園にも行っているのだ。仕事とはいえ、こんな生活をしていていいのだろうか？　今年もう30なのに……。

◎ジャン斉藤＆スモーノブ

斉藤／正月は、ヒクソン戦直前に船木がヨガ特訓を敢行した高知・桂ヶ浜で過ごしました。明日また、生きるぞ！　スモー／1月から電気部勤務だったので12月は殆ど何も見てません。今年は痩せよう。

♥ささきぃ

紙プロ電気部。携帯サイト担当のため、試合会場に行くことが多分編集部一多いが、今月はiモード準備のため、行けない興行が多かったのが残念。新聞記者の人たちは記事を書くのが早いなぁと感心する、キャリアの短い27歳。

12.20 闘龍門

『EL DRAGON REGERESADO』
東京・後楽園ホール　観衆1800人（超満員札止め）
○ウルティモ・ドラゴン＆ドラゴン・キッド
［12:22 ドラゴンスリーパー］レイ・ブカネロ＆ウルティモ・ゲレーロ●

大会MVP
ウルティモ・ドラゴン
個人的満足度
♠♠♠

ウルティモの復帰戦が行われたこの日、ボクは会場の片隅に……いませんでした。自分の認識の中では、もう復帰出来ないんだろうなと思ってたので、この大会後も世界を股に掛け闘い続けているウルティモを誌面等で見かけ、勝手に驚いていたのですが、この間の『W-1』の試合を見て、またビックリ！　ウルティモは前より進化してました。

大会MVP
ウルティモ・ゲレーロ＆レイ・ブカネロ
個人的満足度
◆◆◆

左腕の手術ミスから5年。ウルティモ・ドラゴン校長奇跡の復活は手放しで讃えたいが、その感動を上回るほど素晴らしかったのが相手を務めたゲレーロ＆ブカネロ。その闘いぶりは「闘龍門のルチャ」しか知らないファンを、「闘龍門ではないルチャ」の虜にしてしまったほど。ハッキリ言って、この二人は新日本に来ていたドクトル・ワグナー＆シルバー・キング以上でしょう。自分の復帰戦の相手にこの二人を用意してくるとは、改めてドラゴン校長がプロレスラーとしてだけでなく、プロモーターとしても一流の目を持っていると認識した次第だ。今年はレスラー浅井嘉浩最後の挑戦に期待します！

大会MVP
ヴェネツィア
個人的満足度
♥♥♥♥

斉藤了の“Do Fixer”入りが決定した後楽園大会。見事マグナムTOKYOから「サイリョー、合格！」のコメントを引き出した。努力の跡が見える見事なダンスだったけど、アンソニーに向けたブラックボックスの一撃が、個人的に許せなかったので（女性ファンらしい意見）MVPはゴリラのヴェネツィア。あのゴリラはマジで凄い。

12.29 スマックガール

『JAPAN CUP 2002 GRAND FINAL』
東京・TFMホール　観衆 480人（超満員札止め）
○辻結花［3R 判定 3-0］金子真理●

大会MVP
坂口一美
個人的満足度
♠♠♠♠♠
いつものディファからTFMに移して開催された今大会。客席には見覚えのある大男の姿が。気になって近くまで行くと、やっぱりジョシュ・バーネット。サップと一緒に観戦したのに続き2度目のスマック来場となるジョシュは、誰よりも熱く、そして誰よりも真剣に女の子の闘いを見つめていた。手には北斗の拳新作DVDを握りしめながら。

大会MVP
渡邊久江
個人的満足度
♦♦
僕らが総合格闘技に求めるのは、「負けたら次勝てばいい」試合ではなく、己の存在を賭けて闘う「決闘」である、という当たり前のことを思い出させてくれた渡邊久江という選手にまずは大拍手！　しかし、演出・進行の酷さはその感動を半減されるに十分だったため大幅減点。試合前に冗長すぎるインタビュー映像を誰が見たい？

大会MVP
判定できず
個人的満足度
判定できず
この日は、ちょうどTAJIRIのサイン会が後楽園ホールの展示場であったので、そちらの取材に行っていたため観戦できず。いや、この日のTAJIRIのトークはかなりのキラー・モードで怖ろしかったですね。「場の空気」を踏み外した質問には容赦ない対応で素早く話題を切り替えるあたり、聞いてるこっちは最高にヒヤヒヤします。（ノブ）

大会MVP
金子真理
個人的満足度
♥♥♥♥
辻ちゃんの勝ちは動かないだろうとは思っていたんですが、手を取って、足を取って、なんとか活路を見出そうともがきまくって、けして最後まであきらめようとはしなかった金子選手の姿を見ていたら、応援せずにはいられなくなりました。最後に2人が笑い合った姿を見て、涙が出そうでした。私の中では文句ナシのMVPです。

12.25 .26 闘龍門

12/25 & 26 『闘龍門JAPANvsT2P全面対抗戦第2章』第1 & 2戦
東京・後楽園ホール　観衆 25日:1800人 26日:1905人（両日超満員札止め）○CIMA［11:48逆シュバイン→体固め］ミラノコレクションAT●

大会MVP
ミラノコレクションAT
個人的満足度
♠♠♠
闘龍門の後楽園大会は毎回超満員で、会場には若い女の子のファンがたくさんいるらしい。ボクにとっての闘龍門は、そんなイメージです（バカ丸出し）。これまで純粋な闘龍門興行は一度も見たことがなかったのですが、今回“黒い藤原”ことノーマン・スマイリーが参初戦。気になるので『GAORA』の中継をチェックしようと思ってます！

大会MVP
ミラノコレクションAT
個人的満足度
♦♦♦♦♦
9・8有明コロシアムに続く闘龍門JAPANvsT2P全面対抗戦第2弾。今回は大会場ではなく後楽園2連戦だったが、これが大正解。大会場では伝わりにくかった気迫と緊張感がビンビンに伝わってきて凄まじい盛り上がりとなった。初日のメイン、モッチーvs大鷲のフィニッシュは近年プロレスではなかなか感じられぬほどのカタルシスを与えてくれ、2日目のメイン、CIMAvsミラノはなかなか上手く化学反応を起こせないでいた闘龍門JAPANのプロレスとルチャクラシカが遂に融合。個人的にはモッチーvs大鷲に高田vs北尾を、CIMAvsミラノには藤波vs前田を感じてしまったほど素晴らしかったと言っておこう。まだ後楽園で闘龍門を見た事のない人はぜひ一度見てほしい。

大会MVP
ミラノコレクションAT
個人的満足度
判定できず
見に行けませんでした。ああ行きたかった行きたかった。ミラノvsCIMAが見たかった。大鷲vsモッチーが見たかった。ストーカー市川vs大柳錦也が見たかった。見てないけど、この1年無名のT2Pのトップに立ち、看板としてチームを引っ張ってきたミラノにMVPと、拍手という花束を。これからも期待してます。

12.23 PRIDE

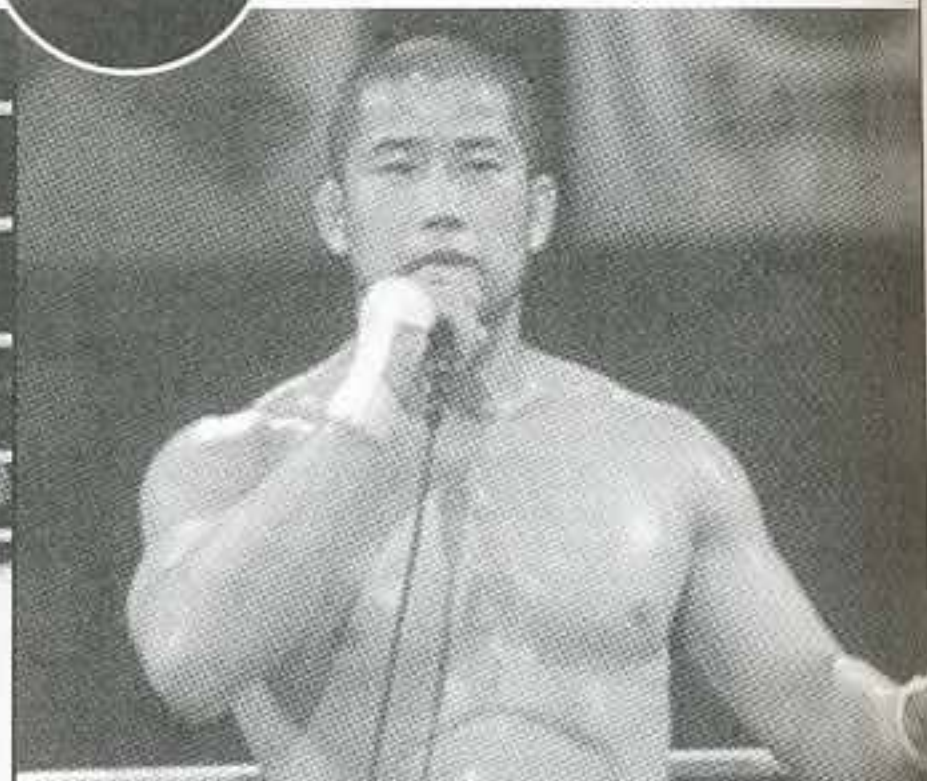
DSE『PRIDE.24』
福岡・福岡マリンメッセ　観衆8543人
○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
［3R 1:49 腕ひしぎ逆十字固め］ダン・ヘンダーソン●

大会MVP
ダン・ヘンダーソン
個人的満足度
♠♠♠
『PRIDE.24』は福岡で開催。経費を考えると『紙プロ』編集部から何人も行けないので、ボクは新大久保にあるマンガ喫茶に行きPPV観戦。韓国人が経営しているその店には『PRIDE』好きの人たちが集まりPPV視聴料金÷集まった人数で料金を設定。つまんなかったという声が多い今回の『PRIDE』だけど十分元は取れました（200円!）。

大会MVP
アリスター・オーフレイム
個人的満足度
♦
ハッキリ言って『PRIDE』史上最低の興行でしょう。ノゲイラ、ランデルマン、アリスターの後半3試合に救われた感もあるが、それぐらいでは取り返せないぐらい前半がキツすぎた。特に松井、ヤマノリ、アレクという崖っぷちトリオから危機感がまったく伝わってこなかったことは言葉にもならない。

大会MVP
アリスター・オーフレイム
個人的満足度
◎◎◎
PPV観戦。『猪木祭り』決起集会や、右足筋肉断裂の怪我を負ったアレクに「立ち上がれなかったのは、彼の心が折れたから!」と無茶苦茶なことを言い放つヤマノリのコメントが、PPVでは楽しめないから残念。格闘技を知らない友達の家で見たので、まったく盛り上がらない大会に、話も弾まず気まずい空気だけが流れたイブ前日です。（斉藤）

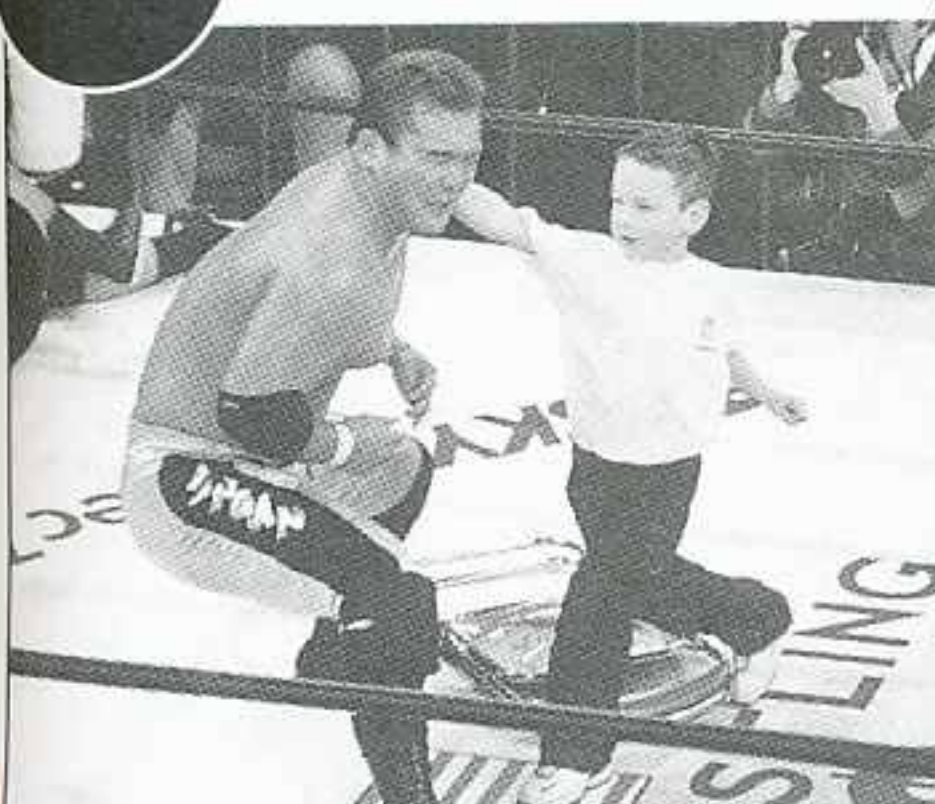
大会MVP
ダン・ヘンダーソン
個人的満足度
♥♥♥
自分の経験値を溜めることだけに集中しているような選手の闘いは、とっておきの大舞台である『PRIDE』では見たくないなぁ、と思いました。勝ちてぇよ、生き残りてぇよー、と、ガムシャラになって欲しかったです。そんな中、負けたくねぇよー、って感じが見えたヘンダーソン。勝ちにすがりつこうとする姿に胸打たれました。

12.21 パンクラス

東京・ディファ有明　観衆 1800人（超満員札止め）
○郷野聡寛［3R3分49秒レフェリーストップ］KEI山宮●

大会MVP
郷野聡寛
個人的満足度
♠♠♠♠
地上波から衛星放送までプロレス＆格闘技番組はたくさんあるけど、個人的に一番面白いのはＴＶ東京の『格闘Xパンクラス』。それはさておき、今大会でクビ覚悟で“みのるvsライガー戦批判”をぶちかました郷野。その発言の感想を聞かれ、ちょっぴり涙目のみのる。「あ～言っちゃったよ」てな感じの菊田。それもこれもパンクラス！

大会MVP
郷野聡寛
個人的満足度
♦♦♦
正直に言うと大変面白かったこの日のパンクラス。でも、その面白さというのは、高橋、謙吾といったところがセミプロに負けるという意外性によるところが大きいわけで、団体にとっては逆に由々しき問題ではないかと。高橋、國奥、山宮、謙吾の敗戦は、高橋義生スタイルがとっくの昔に限界に来ていることを改めて証明してくれた。

大会MVP
郷野聡寛
個人的満足度
◎◎◎
興行の規模の割には話題性十分の大会内容となったパンクラス。郷野「バカ」マイクに対して試合後、「来年に向けての玉手箱ができそうだ」と、ニタリニタリと含み笑いを浮かべながらコメントした“尾崎の野郎”こと尾崎社長の表情と、涙目で帰ったみのるとのコントラストはたまりませんでした。（斉藤）

大会MVP
判定できず
個人的満足度
判定できず
行けなかったので編集部で仕事をしていたら、多分読者から結果を訪ねる電話が。「まだ行った人が帰ってきてない？　連絡くらい取れないんですか？」と偉そうに言われ、カチンと来たので「パンクラスに電話して下さい」と言って切ってしまいました。あれは私ですが、うちはテレホンサービスじゃないんで、謝りません。

1.5 ZERO-ONE

『ZERO-ONE★U. $ .A』
東京・後楽園ホール　観衆 2000人（超満員）
○ハシフ・カーン［10:06 片エビ固め］
ジェイソン・アルカトラス●

大会MVP
200％マシーン
個人的満足度
♠♠♠♠♠

年が明ける前から、猪木祭りよりも、1・4よりも楽しみにしていたZERO-ONE★U$A。怪しさ満点のプリンス・ナナや、葛西純に瓜二つのサル・ザ・マン、もちろんハシフ・カーンも抜群だったが、『紙プロ』効果で「ラッパ先生、ラッパ吹かせて！」との声援が乱れ飛んだ、正体はどこの馬の骨かわからない200％マシーンも最高でした！

大会MVP
ハシフ・カーン
個人的満足度
◆◆◆◆

前日のドームを引きずり、まったく期待せずに足を運んだZERO-ONE★U$Aだが、早くも今年のベスト興行候補と言いたくなるほど素晴らしいものだった。とにかく前日のドームとは客席の熱が明らかに違う。客の声援にレスラーが乗せられ、さらに大歓声を生むというリングと客席の理想的な関係。プロレス会場はこうでなくちゃならない。

大会MVP
ハシフ・カーン
個人的満足度
◎◎◎◎◎

富豪2亀路vsサル・ザ・マン、ロウ・キーvsAJスタイルズ、Mr.オオタニ＆MASA TANAKAvsコービィー君、全試合最高のマッチメイク。そのビジュアルだけで銭が取れるハシフ・カーンで迎えた最高潮。こんなレスラーが実在していたなら、当時のカルガリーに住んでみたかったよ。（ノブ）

大会MVP
ハシフ・カーン
個人的満足度
♥♥♥♥

当日は『紙プロHand』iモードの準備で会場には行けず。後日スカパー版ビデオで観戦しました。ハシフ・カーン、最高!!　コメントも含め、破壊王、いやハシフの行動すべてに拍手。そして、あくまでもハシフ・カーンはハシフである、という立場を守り通した解説のニッカンスポーツ・丸井乙生さんにも拍手を送りたいです。

1.4 新日本プロレス

『WRESTLING WORLD 2003』
東京・東京ドーム　観衆 50000人（満員）
○永田裕二［10:40 片エビ固め］
ジョシュ・バーネット●

大会MVP
春一番
個人的満足度
♠♠

ジョシュ・バーネットのプロレスデビュー戦が行われた1・4新日ドーム。一体、ジョシュは、どんなスタイルで闘うのか興味津々だったが、結局は良くも悪くも想像どおり。一生懸命頑張ってるのは伝わってきたし、デビュー戦（しかもメイン）と思えば十分合格点なんだけど、やっぱりジョシュには『W-1』に出て欲しかったなぁ。

大会MVP
相変わらずのケロ衣装
個人的満足度
◆

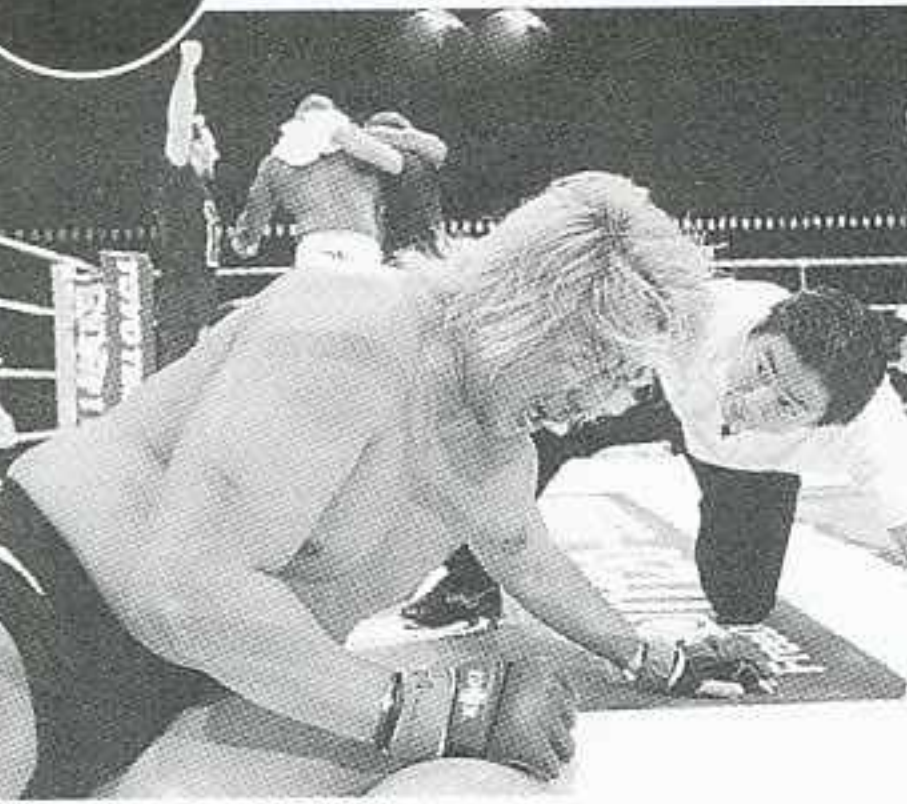
これだけ期待感も高揚感もないドーム大会がかつてあっただろうか？　「普段着のドーム」と言えば聞こえはいいが、正月ぐらい着飾ってくれよと思わずにいられない。とにかく、これだけ刺激の少ないモノを延々5時間も見せられた日には、わざわざドームに来てまで寝正月を過ごすハメになるのも仕方がない話なのだ。

大会MVP
高山善考
個人的満足度
◎◎◎◎

「新日本30周年を振り返るベスト30」なる番組構成が面白かったTV放送。「昔は良かったね」と誰もが頷く（乙葉ちゃんは「知らない」と笑顔で回答）回顧番組の印象しかないのだが、それでも、サップ戦の傷が癒えぬままTKと対戦し、汗も拭かずに実況席を陣取り自分の仕事をまっとうする高山様には頭が下がりました。（斉藤）

大会MVP
該当者なし
個人的満足度
♥♥

いつもの新日本ドームです。プロレスファンになりたての頃、面白くないけど、自分の目がおかしいのだろうか、ドーム大会なのに、と迷いながら試合を見ていたころが懐かしいですが、それが何回も続くところを見ると、変える気はないんだろうから、こういうものなのだと思います。MVPは新間さんか春さん。選べないので該当者なしで。

12.31 猪木祭

『INOKI BOM-BA-YE 2002』
埼玉・さいたまアリーナ　観衆 35674人（満員御礼）
○ボブ・サップ［1R 2:16 腕ひしぎ逆十字固め］
高山善廣●

大会MVP
滑川康仁
個人的満足度
♠♠

貧乏人としては、猪木祭りもいいけど、大会前のアントンパフォーマンスの方が気になってしょうがなかった。なんでも『イノ記』という日記帳に一万円とコンドームをはさんでばらまいているという。「現金ですかーッ！」とばかりにアントンに近づき見事日記帳をゲット！　中にはなんと10万円!!　大会終了後の夜、そんな夢を見ました……。

大会MVP
ミルコ・クロコップ
個人的満足度
◆◆

「視聴率16・8％！　紅白の裏として史上2位！」ということ以外、何にも残らなかったと言っても過言ではない今回の『猪木祭り』。頼みのサップが腕十字にいってしまうのだからこれもやむなしか。個人的にはビデオに録っておいた裏番組の「超常現象スペシャル」の方が遙かに印象に残っているので◆はふたつが限度でしょう。

大会MVP
ミルコ・クロコップ
個人的満足度
◎◎◎

藤田＆ジョンストン、高山と、虚しくなる敗北が空気を重くする中、柔道家に対して元・K-1ファイターの肩書きを忘れたか、「吉田選手のハイキックを見たら、打撃でやったら自分が勝てると思いましたわ!」などと脳天気にコメント。引退試合の悲愴感が感じられない、というか、感じさせなかったいつでも明るい佐竹選手に乾杯です。（斉藤）

大会MVP
ミルコ・クロコップ
個人的満足度
♥♥♥

あれだけのドラマを背負っている藤田相手に一歩も引かなかったミルコ。試合内容も圧倒。あんなヤツに向かっていったサクは本当にスゴイなぁと今更桜庭に感心。成功を積み重ねることで、人はあんなにも自信を付け、変わっていくものなのでしょうか。文句ナシにMVP。かっこよかった。

12.29 ZERO-ONE

『ゼロ中祭り2』
東京・後楽園ホール　観衆2000人（超満員札止め）
○橋本真也［7:50DDT→片エビ固め］
金村キンタロー●

大会MVP
橋本真也
個人的満足度
♠♠♠♠♠

同日行われたスマックのメイン終了後、簡単に取材を済ませ急いで後楽園へ。到着すると、ちょうど秋山準と一宮章……じゃなかった斉藤彰俊のGHCタッグチャンピオンが登場！　イキイキとマイクパフォーマンスを展開する秋山を見るにつれ、なんでゼロワンのフィルターを通すと、こうも面白くなるのかなあと改めて感じてしまいました。

大会MVP
秋山準
個人的満足度
◆◆

スマック終了後、後楽園に駆けつけたため、後半3試合のみ観戦。個人的な注目は大谷vs横井。決して悪い試合ではなかったが、横井が予想の範囲を一歩も出ずに終わってしまったことにちょっとガックリ。空砲ばかりを撃つのではなく、懐にドスを携えながらあえて素手で闘うような横井がみたい。それでこそ存在価値があるというものだ。

大会MVP
大谷晋二郎
個人的満足度
◎◎◎◎

橋本vs金村のシングルマッチが最高の見所だったとは思うが、横井とシングルで闘った大谷の素晴らしさ！　キャリアが浅い選手を相手にしたときの大谷は、じつに心地よい先輩風を吹かす。厳しい攻め＆口撃をしのいだ横井の反撃を受けるときの大谷の顔！　認める時、認めない時、バージョン多し。顔で表現できる人は強い!!（ノブ）

大会MVP
破壊王
個人的満足度
♥♥♥♥

スマックガールからのハシゴで会場到着のため、試合を最初から見れたのはセミとメインだけでしたが、来て良かったと思わせてくれました。金村の有刺鉄線バット、そして冬木のがん転移告白。全部受け止めて闘いに昇華させた上で「スリー、トゥー、ワン、ゼロワン！」でシメる破壊王の度量の大きさ＆力業に心から感心。凄すぎ。

総評

♠松澤チョロ

チョロ的!! 月間MVP

コービィ・コリノ

年末年始の興行ラッシュの中で一番おいしいとこを持っていったのは、やっぱりコリノJr.のコービィー君。前回の来日時より、ちょっぴり大人になったが可愛らしさは相変わらず。可愛い子なら何をやっても許されると言うが、コービィー君は、それだけじゃなく、リング上でのパフォーマンスもご覧の通り一級品。将来が楽しみな少年である。

◆堀江ガンツ

ガンツ的!! 月間MVP

ミラノコレクションAT

今月のMVPはズバリ、ミラノコレクションAT。CIMAに敗れたもののこの1年間、“イタリアの伊達男”を演じるのに苦闘し続けた男が、遂に「ミラノコレクションAT」という人格を身につけたかのような闘いぶりは見事。しかも、敗れたとはいえ、“脱出不可能”の必殺技ATロックは未だ破られていないところがミソだ。

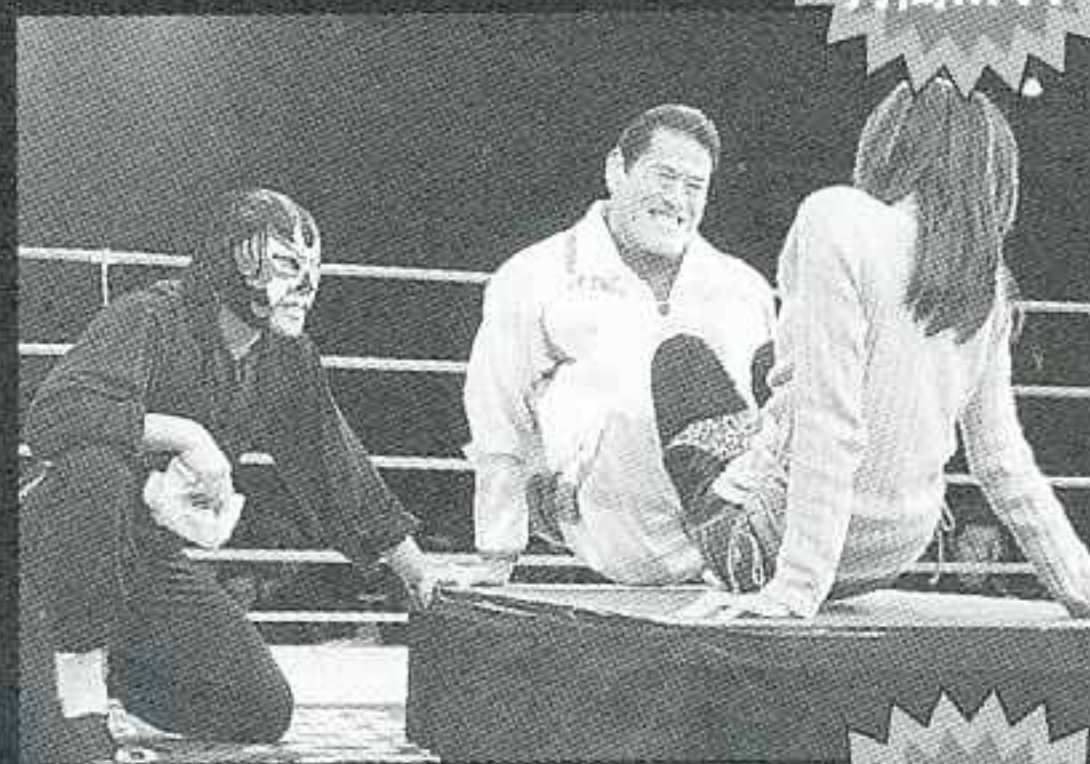
◎ジャン斉藤&スモーノブ

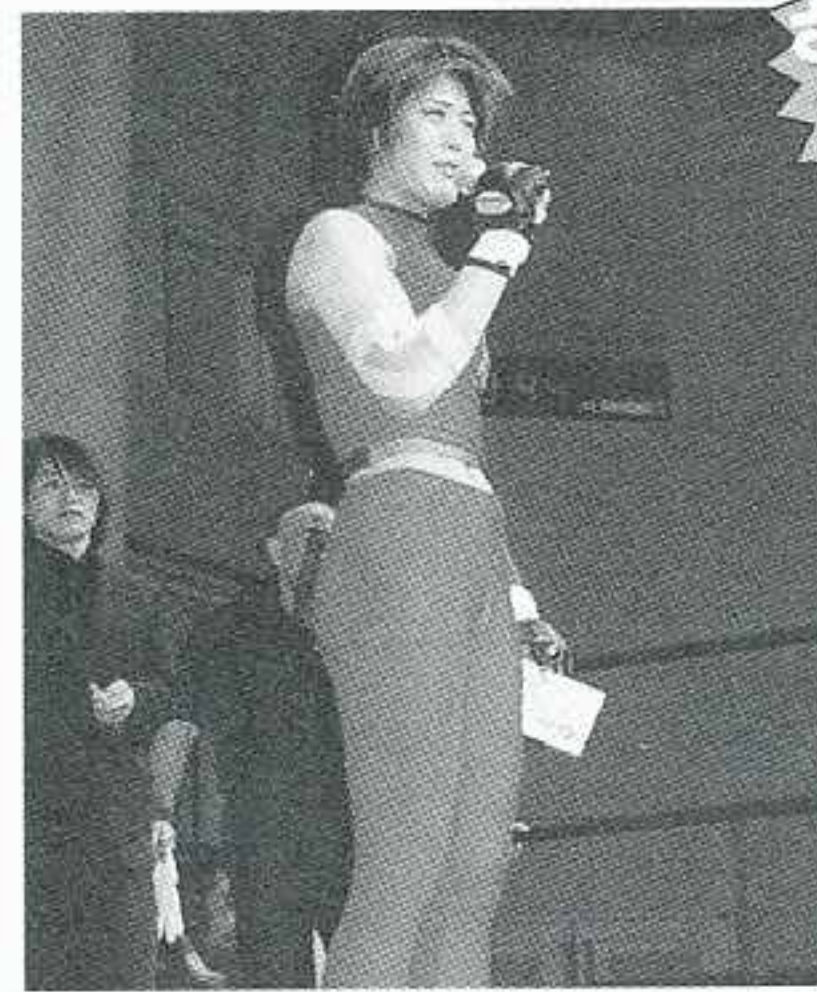
ジャン斉藤!! 月間MVP

ザ・グレートサスケ

2年連続『猪木祭り』参戦となったが、今年は「サスケじゃなくても良かったんじゃ……」と誰もが思う役回りであり、地上波では一瞬しか姿を確認できなかったサスケ社長。ダンディズムを大いに感じさせてくれるのだ。しかも大会終了後、ターザン・トークライブに駆け付ける振り幅のいい加減さも評価したい。

♥さささきぃ

さささきぃ的!! 月間MVP

久保田有希

本人はもらって嬉しくないだろうと思われるMVP。なんだか「生き様」みたいなのが見える試合でした。自分自身のいたらなさと葛藤しながら闘っている様、マイクで涙ぐむ姿を見て、いい試合、ってのはキッパリサッパリ一本！ って試合だけを言うんじゃないんだと気付かされました。でも、次はスッキリ勝って下さい。期待してます！

1.10 NOAH

『GREAT VOYAGE' 03』
東京・日本武道館　観衆16300人（超満員）
○斎藤彰俊&秋山準［22:03 片エビ固め］
大谷晋二郎&田中将斗●

大会MVP
高山善廣
個人的満足度
♠♠♠

自慢じゃないが、これまでノアの会場には一度も行ったことがない。今回も大人しくTV観戦。今年一発目のビッグマッチ日本武道館大会ということでマッチメイクも気合い入りまくり。三沢&蝶野組vs小橋&田上組が一番の目玉とのことだが、やっぱりノア中継で一番面白いのは高山の解説。まさに1人しゃべり場状態でノーフィアー！

大会MVP
蝶野正洋
個人的満足度
◆◆◆◆

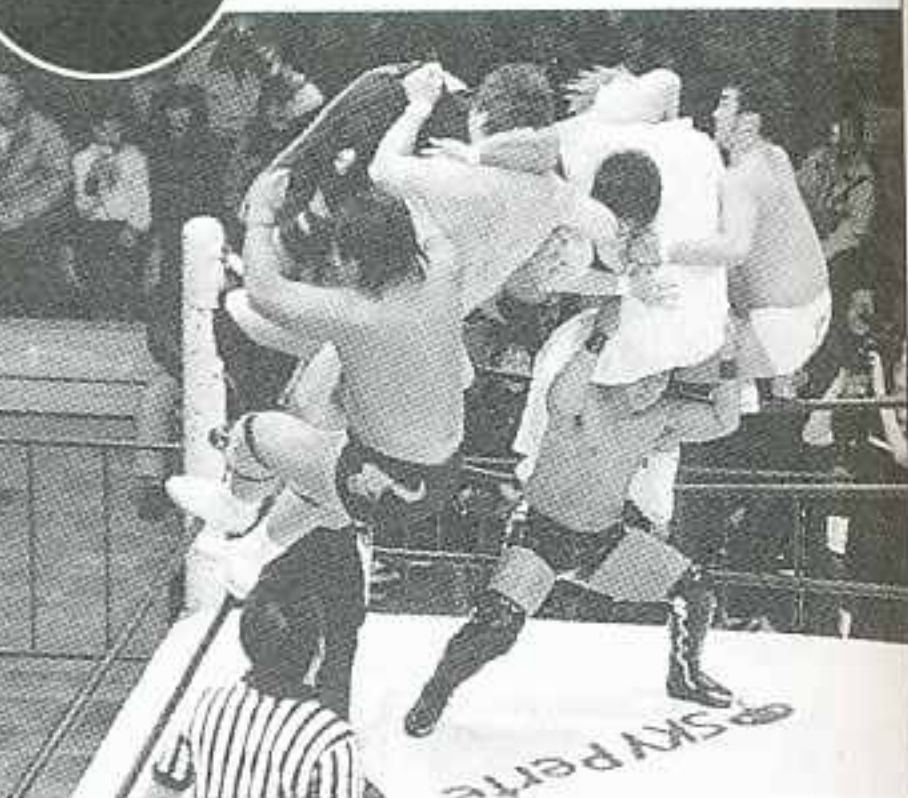
ターザンまでもが突然絶賛し始めたりと、非常に評判のいい三沢&蝶野vs小橋&田上は、『G+』の生中継で観戦。その凄まじい熱気はテレビからも十分伝わってきた。この試合がここまで盛り上がったのは、見せ場の譲り合いに終始し、大凡戦となった蝶野vs三沢とは逆に4人が「目立とう合戦」を繰り広げた結果だと思う。

大会MVP
メインに出た4人
個人的満足度
◎◎◎◎◎

新日で見るより蝶野がカッコいいのに驚く。練習に誘う小橋の電話を着信拒否する田上、というエピソードもナイス。しかし、冷たい熱さの秋山&斉藤組vs熱い熱さの炎武連夢がいい！ 両チームがが光った好試合。会場で見たが、熱がハンパじゃない！ ガラガラのドームよりも超満員の武道館！ 会場に行こう！（ノブ）

大会MVP
会場のお客さん
個人的満足度
♥♥♥

G+で放送された中継を見ました。ビデオで見ていても会場の熱気がスゴく、その熱気はセミの三沢&蝶野vs小橋&田上に向けられていたので、大谷&田中の“炎武連夢”が、この日ばかりは熱さ負けしてしまったのだろうか、と思いました。あんなに堂々とリングに声援を送れるってすばらしい。ホントにそう思いました。

1.6 ZERO-ONE

『ZERO-ONE★U. $ .A』
東京・後楽園ホール　観衆1700人
○SHOGUN&坂田亘［18:56 片エビ固め］
トム・ハワード&Lowki●

大会MVP
コリノ・コービィー
個人的満足度
♠♠♠♠♠

平日開催ということで前日に比べると客入りも少し寂しげなZERO-ONE★U$A2日目。選手は、ほぼ一緒ながらも爆発的な盛り上がりを見せた一日目には及ばず。しかし暴れん坊将軍のテーマでSHOGUNが登場すると、やっぱり場内は大歓声！ 破壊王は取られた付けヒゲをロウ・キーの頭に装着しニンマリ。哀れロウ・キーは大五郎状態に。

大会MVP
SGOGUN
個人的満足度
◆◆

当たりはずれが激しいゼロワンらしく、前日あれだけ盛り上がった会場がこの日は一向に盛り上がらず。しかし、そんな空気をSHOGUN様が救ってくれた！『暴れん坊将軍のテーマ』に乗って、付け髭をしたSHOGUNが印籠を掲げる馬鹿馬鹿しさ。同じ馬鹿馬鹿しさでも、さたやんとはベクトルが正反対であることは強調しておきたい。

大会MVP
ロウ・キー
個人的満足度
◎◎

会社勤めの人は仕事始めの日だったわけで、そんな日にZERO-ONE★U$Aを見たら確実に3日は正月ボケが残るはず。寂しい客入りは仕方がない。でも、同じメンツで興行やって、こうも変わるものなんでしょうか？ もちろんSHOGUN最高！ 坂田を封じたロウ・キーも最高！（ノブ）

大会MVP
トム・ハワード
個人的満足度
♥♥♥♥

この日も準備のため会場には行けず。後日、メインだけ見させていただきました。SHOGUN、最高!!（これぱっかし）対戦相手のハワードが、どう見ても半笑い。つーか、SHOGUNと面と向かい合ったら私たちの数倍はおかしいに違いない中、笑顔も“余裕”の表情に変えて闘い抜いたハワードにMVPを送りたいです。

半額 紙のプロレス 本誌 Back Number

第8号　1994年1月号
特集 さらば新日本プロレス
仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！　20ページにも及ぶ大特集！
¥700 ⇒ ¥350

第16号　1995年6月号
特集 新日本凸凹大学校
『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！　マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！　糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！
¥780 ⇒ ¥390

2000年4月
情念～夢一途なり～石川雄規
『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！　情念とは何かがわかる一冊である。
¥2100（税金・送料込み）

第13号　1995年3月号
特集 道場破りとは何か？
安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！　山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／「平成ファミコン・プロレス」馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦
¥780 ⇒ ¥390

第17号　1995年7月号
特集 実況パワフル北朝鮮
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄視・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」
¥780 ⇒ ¥390

インタビューという名の鉄拳史
紙の前田日明
『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！　引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！
¥2000（税金・送料込み）

第14号　1995年4月号
特集 神秘とは何か？
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー
¥780 ⇒ ¥390

第19号　1995年9月号
特集 さようなら紙のプロレス
『紙プロ』を偲んで…　ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会
¥780 ⇒ ¥390

パンクラス公式読本[矛]
97年夏、横浜道場所属のパンクラシストを直撃！　鈴木みのる／近藤有己／山田学／故・長谷川悟史／そして佐山聡、カール・ゴッチも登場だ！
¥1260 ⇒ ¥630

第15号　1995年5月号
特集 インディペンデントの逆襲
あんた誰？　山口日昇試錬のインディ・レスラー10番勝負！／K－とは何か？　石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－1三兄弟（当時）インタビュー
¥780 ⇒ ¥390

極真魂溢れる16人を直撃！
極真とは何か？
松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廣山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏
¥1530 ⇒ ¥800

パンクラス公式読本[盾]
97年夏、東京道場所属のパンクラシストが語る！　船木誠勝／パンクラス非公式座談会／ナゼか、故・ジャイアント馬場vsターザン山本が実現！
¥1260 ⇒ ¥630

No.49　02年4月 ¥880
この夏に究極の格闘技大戦争勃発!?　マット界灼熱の噂！
●和田さん快勝記念対談！　高山&金原&和田
●アレクに怒りの火を付けた菊田早苗とは何者か!?
●凄！　小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行！　破壊王も火のヤリ特訓だ！
レッスルマニア座談会／CIMAvsドス・カラスJr.／ウォーリー山口／小畑千代

No.50　02年5月 ¥880
早く試合がしたい!!　サクが笑えば、世界が笑う!!
●「地方初世界」開始！　小川直也&橋本真也
●充電完了！　桜庭和志が久々の登場！
●パンクラス取材解禁！　"尾崎の野郎"も初登場！
●I編集長が新日本に三くだり半！
菊田早苗／大仁田厚／小島聡&NIGO／アレクサンダー大塚／リングスロシア軍団の軌跡

No.51　02年6月 ¥880
ZERO-ONEに願いを！　7・7決戦迫る！
●両国国技館だよ、全員集合！　橋本真也
●『PRIDE』の魅力をマン開！　小池栄子
●天才が悩みに答える！　武藤敬司人生相談
●"男の中の男"が本誌初登場！　謙吾
小川直也／プレデター／田村潔司／鈴木健／小笠原和彦／ZERO-ONE中村部長／I編集長

No.52　02年7月 ¥880
見えない鎖を引きちぎれ！　行けーッ、小川アァァッ！
●全身プロレスラー・高山善廣
●「トゥーッ！」の素顔を暴露！　Mr.フレッド
●USAの渡世人　ドン・フライ
●田村潔司「美濃輪戦を決めた3つの理由」
小川直也／橋本真也／武藤敬司／ロシアン・トップチーム／ブラジリアン・トップチーム

No.53　02年8月 ¥880
灼熱の格闘技ダイナマイト！　世紀のビッグイベント『Dynamite!』を直前大解剖!!
●夢の対談が実現！　高山善廣×美濃輪育久
●独占肉弾スクープ！　マット・ガファリ
●爆裂!! 川村龍夫UFO社長語録
桜庭和志／小川直也／武藤敬司／高阪剛／クレージーMAX／サムソン・クツワダ／一宮章一／トム・ハワード／スティーブ・コリノ

No.54　02年9月 ¥880
ノゲイラ表紙初奪取！　不平等の時代を克服した者こそ英雄になれる!!
●"ミスジャッジ"に猛抗議！　ホイス&エリオグレイシー
●"青い目のケンシロウ"　ジョシュ・バーネット
●純プロ頂上対談！　武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
●OHビーム発射！　橋本真也×小笠原和彦
ゴールドバーグ／ボブ・サップ／マリオ・スペーヒー／田村潔司／坂田亘／小原道由／猪木快守

No.55　02年10月 ¥880
高田が"最後"に選んだのは田村!!　夢幻大の真剣勝負が実現!!
●「真剣勝負」発言から7年……運命の男が独白!! 田村潔司
●最後の実力者が遂に『PRIDE』参戦！　金原
●メガトン級の強さと面白さ!!　ボブ・サップ
●初冬のドームにサクラは咲くか!?　桜庭和志
橋本真也／大谷晋二郎／ノゲイラ&スペーヒー／A・コピィロフ／サスケ&TAKA／佐山聡

No.56　02年11月 ¥840
愛すべき若気の至り!!　受け継げ、Uインターの蒼き魂!!
●田村戦直前!!　高田の覚悟を読み解け！　高田延彦
●蘇れ!Uインター伝説!!　安生洋二&金原&高山善廣
●高田×田村、観る側の覚悟!!　浅草キッド
●『紙プロ』に風がふくぜぇ～！　鈴木みのる
ニック・ボックウインクル／大谷晋二郎／N・ジョーンズ／TAKAみちのく×カズ・ハヤシ／鈴木健

No.57　02年12月 ¥840
一瞬の11・24!!　高田延彦引退試合を大総括!!
●サップと地峡規模のタイマン勝負!!　高山善廣
●新たなる"U"が始動!!　田村潔司
●悪魔の書、再び！　ミスター高橋×大槻ケンヂ
●"北尾戦・セメントマッチの真実"　ジョン・テンタ
ハシフ・カーン／武藤敬司&関係者X／ターザン山本×鈴木健／マチダリョウト／佐伯『DEEP』代表

通販申し込み方法

●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております。（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）。

【郵便振替】
00130-3-769154
（株）ダブルクロス
【現金書留】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス

●郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。

※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

●送　料
1冊＝310円、2冊＝380円
3冊～4冊＝450円
5冊＝520円、6冊以上＝700円

※代引きを開始しました。詳しくはP80、P160を参照してください。

紙のプロレス 常備店

■アイドール新宿店
■新宿ファイター
■大山アメリカン
■プロレスマニア館
■チャンピオン
■リングスパレス
■バディスラム
■タコシェ
■レッスル渋谷
■レッスル池袋
■書泉ブックマート
■書泉ブックタワー
■書泉グランデ
■ワールドスポーツプラザKINGS
・池袋　・渋谷WEST　・新宿　・名古屋　・大阪　・札幌　・福岡
■グレートアントニオ
■東京イサミ

★『紙のプロレス』　NO.1～NO.7／NO.9～NO.12／NO.18／NO.21～NO.22　『猪木とは何か？』『猪木とは何か？　キラー編』『大山倍達とは何か？』は完売!!

紙のプロレスRADICAL Back Number

さくぼん

総238ページ

01年4月 ¥1000

みんなで遊べるフロク付き!! サクの全てが良くわかる 『さくぼん』も買えますよーッ!!

Sakubon-contents

1000円ポッキリで、こんな豪華な内容です!!

◎97年9月から01年3月までのインタビューを収録し、桜庭和志初のインタビュー集です。
◎花くまゆうさく先生執筆「サクラバの汁」も載ってます。
◎これでもか！というぐらい、付録もいっぱい付いてます。

★表紙イラスト特大ポスター ★特製サクシール
★サクマシン立体紙お面
★紙リング（炎のコマ&炎の人力車を再現!!）

No.5 97年8月 ¥680

高田延彦、樹海へ……初めてのヒクソン戦直前大特集!
●ドン荒川vs藤原喜明"昭和新日対談"
●前田日明の大好評人生相談『人生は語らず』
●世界格闘技連盟とは何か!? 佐山聡
長与千種&ライオネス飛鳥／ビクター・クルーガー

No.7 97年12月 ¥680 完売間近

反骨の剣―田村潔司 赤いパンツの頑固者、『紙プロ』初のロングインタビュー記念号
●プロレススーパースター列伝・木村健悟
●全女分裂！それでもローリングドリーマー松永会長
●オクタゴンの喧嘩屋・タンク・アボット
前田日明／T・ファンク／アジャコング／ジャガー横田／冬木弘道

No.10 98年6月 ¥680 完売間近

大和魂は連鎖する―前田日明vsエンセン井上 各方面に波紋を投げかけたスクープ対談!
●松永高司vsザ・グレート・サスケ夢の経営者対談
●冬木弘道「プロレスを進化させるとWWFだ」
●元リングスレフェリー北沢幹之引退記念
谷津嘉章／桜庭和志／前田日明／ダイアナ／宮内美穂

No.15 99年2月 ¥780

目を覚ましてください!! 小川vs橋本"1・4事変"勃発!
●A級戦犯か、それとも真の革命児か!? 佐山聡
●前田日明inUSA カレリン戦前のシアトル特訓！浅草キッドの熱烈応援文
●S多重アリバイ・佐野なおき／Mr.K
●A・カレリン／高阪剛／馬場さん追悼／語ろうマサ・サイトー／A・浜口親娘／北原光騎

No.16 99年3月 ¥780

格闘ノストラダムス'99 エンセン井上のプロレス雑誌表紙奪取記念号
●環境問題を『紙プロ』で語る!?―アントニオ猪木
●語ろうジャンボ鶴田
●相撲多重アリバイ・石川孝志
前田日明／高阪剛／坂田亘／M・コールマン／石川雄規／村上一成

No.24 00年2月 ¥840

頭打ちすぎたかアレク!! 『PRIDE.GP』特集
●田村潔司がグレイシー討伐を公約！
●船木vsヒクソン座談会
●WWF大検証！
猪木・鶴田・前田・高田らが黒船を語る！
●サスケ×矢追純一UFO超私極宇宙対談！
桜庭和志／堀辺正史／守山竜介／太刀光／嵐／中西百恵

No.29 00年7月 ¥840

「格闘環境」は刻一刻と変化する! ノア解禁! 方舟の舵を取るのは誰だ!? 秋山準初登場!
●今度はホイス戦！ 桜庭和志
●プロレススーパースター列伝・仲野信市
●本誌独占ジャンボ鶴田夫人真実を語る!!
三沢光晴／ノア勢フルメンバー／村上一成／ボビー・ホフマン／TKおかん／里村明衣子

No.31 00年9月 ¥840

真のストロングスタイルは『PRIDE』にあり!! 歴史に残るベスト興行『PRIDE.10』大特集号
●桜庭和志×高阪剛のトークバトル中継！レフェリーは浅草キッドだ!!
●川田利明語録
●プロレスという物語について・ダン・スバーン
小川直也／高山善廣／谷津嘉章／堀辺正史／永源遥／ユセフ・トルコ／島田裕二／田村潔司

No.32 00年10月 ¥840

本誌は"新プロレス"を独占します!! 10・9新プロレスvs純プロレス開戦!
●田村潔司に快勝!―A・ホドリゴ・ノゲイラ
●打倒プロレス同盟結成!? 青柳政司×小路晃
●藤波辰爾語録
●プロレススーパースター列伝
前田日明／桜庭和志／山本喧一／金原弘光×滑川康仁／本田多聞

No.34 01年1月 ¥840

プロレスは「闘い」を忘れた時に老いてゆく!! 「猪木祭り」「長州vs橋本戦」を斬りまくり!
●UFCミドル級王者ティト・オーティズ
●プロレススーパースター列伝・ミスターヒト
●修斗から「猪木祭り」へ！宇野薫
小川直也／高田延彦／桜庭和志／藪下めぐみ／ボブチャンチン&オバチャンチン／田中正志／紙プロ大賞2000

No.35 01年2月 ¥840

ジャングルを守るだけじゃなくジャングルをつくれ!! 「純プロレス」を考え倒せ! 500人アンケートも実施! 徹底検証号
●ZERO-ONE始動！橋本真也×アレクサンダー大塚
●プロレス界統一コミッショナー（就任予定）馳浩が爆弾発言!!
●プロレススーパースター列伝・ジョー樋口
坂田亘／成瀬昌由／滑川康仁／大仁田厚／小路晃／杉浦貴／堀辺正史／田中正志

No.36 01年3月 ¥840 完売間近

新生「闘いのワンダーランド」に闘魂の火種!! 面白くなきを面白く! 純プロレス復興記念号
●ノアから独立『PRIDE』参戦!高山善廣を確認せよ!!
●桜庭和志初のシウバ戦ド直前!!
●KOKをしゃぶりつくせ! 5大企画で大総括!!
金原弘光／ノゲイラ／ヴォルク・ハン／レナート・ババル／TK／田村潔司
三沢光晴／橋本真也／前田日明／大山峻護／W☆ING／ザンディグ／ジニアス×ハリー・レイス／鍋野ゆき江

No.37 01年4月 ¥840 完売間近

長州!! 本性出せんのかオラッ!! 小川と三沢が遂に絡んだ!! 純プロレス戦国絵巻
●安田忠夫が借金から自殺未遂まですべてを語る!
●アブダビコンバット2001―大探検記！ 菊田早苗／田村潔司×ヘンゾ・グレイシー／シェイク・タルヌーン王子
小川直也／橋本真也／桜庭和志／成瀬昌由×山本憲尚／村上一成×小路晃／堀辺正史／石川雄規

No.38 01年5月 ¥840

高田の"忘れ物"は小川!!ラスト・オブ・「もう一丁ッ!!」 5・5小川と長州はどちらが孤独だったのか!?
●ヴォルク・ハンの最強の遺伝子エメリヤーエンコ・ヒョードル
●プロレススーパースター列伝・阿修羅原
●死神降臨・ジェラルド・ゴルドー
高田延彦／グンダレンコ・スベトラーナ／力皇猛／杉浦貴／丸藤正道／谷津嘉章／ジミー鈴木／高山善廣

No.39 01年6月 ¥840

どうなるんだ、リングス! 前田isデッド!? すべての"騒動"に前田日明総帥が答えた!
●選手離脱後の前田道場新エース・金原弘光／滑川康仁
●怪物か!? それとも……藤田和之座談会
●壮絶なる格闘人生・藤原敏男
秋山準／山本憲尚／小川直也／成瀬昌由／田上明／石川×臼田×島田／DEEPとは何か

No.40 01年7月 ¥880

開戦間近! 猪木軍vsK―1に見たいものは"地上最強のプロレス"
●蘇れ! Uインター&キングダム伝説!高山善廣×金原弘光［前編］
●本当か? 本当なのか!? この叫びを聞け! 大谷晋二郎
●プロレススーパースター列伝・グラン浜田
小川直也／三沢光晴／橋本真也／サスケ／鄒野聡寛／坂田亘／上山龍紀

No.41 01年8月 ¥880

Can you カミングアウト? "最後の黒船"WWF襲来! どうする「日本のプロレス」!!
●リングス10周年大会！ハンがリングスを振り返る
●真樹日佐夫×三池崇史巨頭対談が実現！
●W☆INGの真実・茨城清志
小川直也／高山善廣×金原弘光／／WWF座談会／辻よしなり／秋山準語録

No.42 01年9月 ¥880

猪木なら何をやっても許されるのか!? アントン総帥の言葉はマット界にとって"福音書"か?"テロ行為"か!?
●失われた"新日本"がここにある!ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
●大反響!"ヒャッホー"辻よしなり
●蘇れ! UWFインター伝説!! 高山善廣×宮戸優光×金原弘光
高田延彦／谷津章嘉／カト・クンリー／マァ☆ティン／WWF上陸直前特集

No.43 01年10月 ¥880

サクと『PRIDE』のケツに火がついた!! 10・8猪木と小川が「純プロレス」と「純K−1」にリンクを張った!!
●ブラジリアン・トップチーム3大柱インタビュー
●大谷晋二郎の「俺をしんじろう!」人生相談
●金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会
小川直也／桜庭和志／谷津×グッドリッジ／中野巽耀／須藤元気

No.44 01年11月 ¥880

ノーモアBADアングル!! サクの連敗が『PRIDE』に語りかけるものは何か?
●プロレススーパースター列伝・グレート小鹿
●その修羅場の数々! シーザー武志
●怪物伝承! 高山善廣&杉浦貴
ハンス・ナイマン&ディック・フライ／田村潔司／闘龍門大特集／E・ヴァラビーチェス

No.45 01年12月 ¥880

K−1vs猪木軍」は命懸けのエンターテインメントだ!! 『紙プロ』旗揚げ10周年&RADICAL創刊5周年記念号
●『ケーフェイ』以来の爆弾本投下!ミスター高橋本特集! ミスター高橋独占インタビュー／前田日明、ミスター・ヒト、佐山聡が「悪魔の書」を語る!
●ジェラルド・ゴルドー人生相談
●葛西純／ウルティモ・ドラゴン／望月成晃／A大塚／金原弘光／矢野×須藤／グレート小鹿／語録で振り返るマット界2001

No.46 02年1月 ¥880 完売間近

PRIDE.LOVEをぶち壊す男!! 時は来た! 田村潔司、『PRIDE』へいざ討ち入り!!
●さらばリングス! 金原弘光／浅草キッドの「おつかれさんでした!」
●"ならず者"がDEEPで快勝!―エル・カネック
●プロレススーパースター列伝・キラー・カン
●金メダルを落とした男・小林孝至

No.47 02年2月 ¥880

WWF日本侵攻5秒前! 激動の新日本、怒りの急展開を読む!!
●"天才"武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!
●噂の馳浩が新日分裂からミスター高橋本までを語る!
●第一次リングス閉幕特集
●プロレススーパースター列伝・ストロング金剛
大谷晋二郎／小笠原和彦／葛西純／K−1中量級／サスケ／ミスフィッツ

No.48 02年3月 ¥880

見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!
●奇跡のメガトン対談実現! 小川直也vsノゲイラ
●和田最強伝説が遂に現実に! 語り部・金原弘光
●伝説の男が笑撃の登場! ジョー・サン
小川直也／武藤敬司／ミスターポーゴ／ウォーリー山口／ジョシー・デンプシー

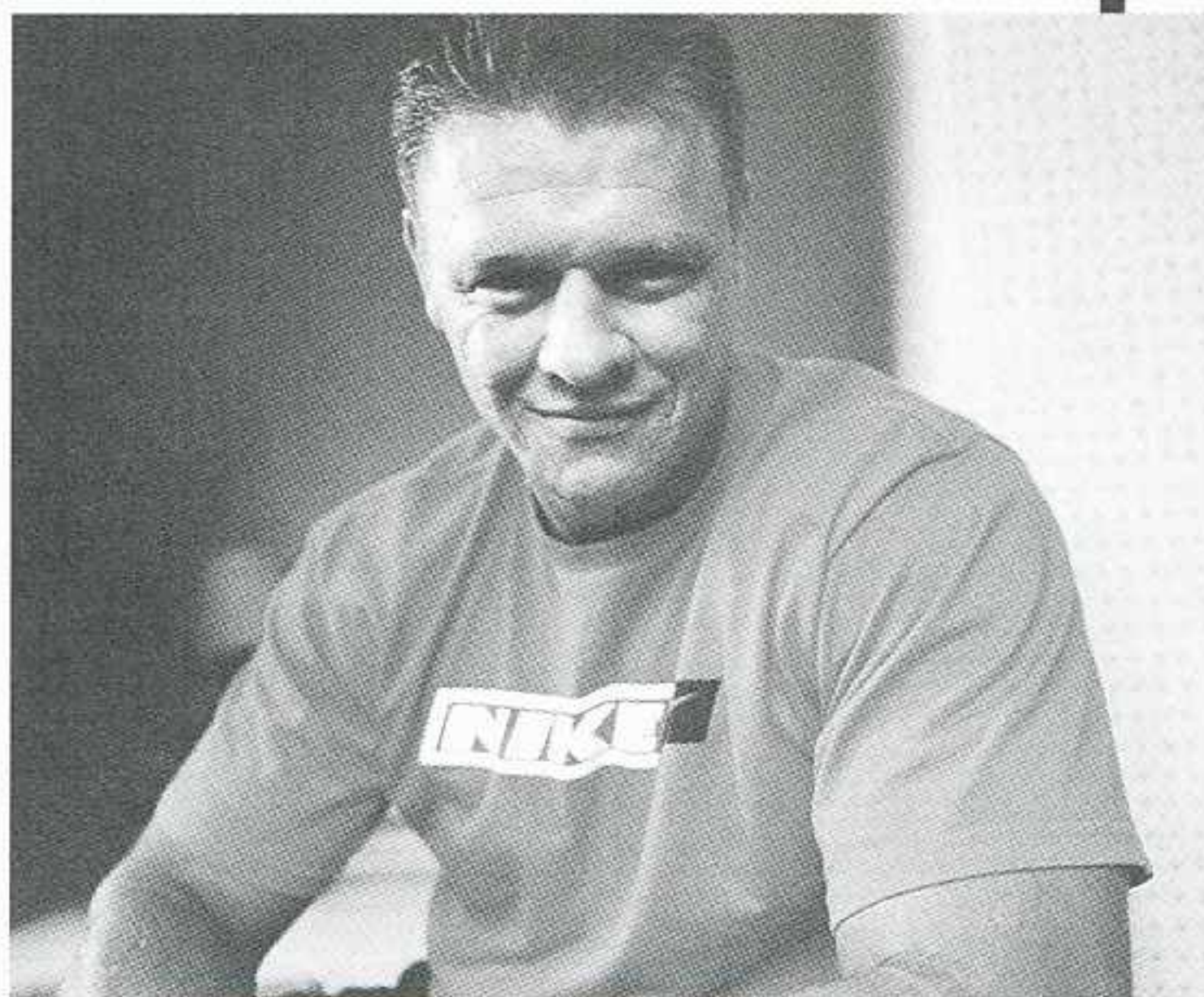
★『紙のプロレスRADICAL』NO.1〜NO.4／NO.6／NO.8 NO.9／NO.11〜NO.14／NO.17〜NO.23／NO.25〜28／NO.30／NO.33は完売!!

リング内・リング外の情報を読者にお届けする RADICAL情報局

年が変わって2ページに戻った情報ページです。あけましておめでとうございます。年の初め、まずはたくさん試合を見ようよ、という気持ちをこめて大会情報多めでお送りします。じっくり読んで出かけましょう。担当はささきぃです。ではでは、よろしく。

格闘技大会★GUIDE

>>>クリストファー・ヘイズマンが『ZST』2に登場!!

リングス・オーストラリア代表のヘイズマンが次回の『ZST』に出場決定！　ヘイズマンは95年からリングスを主戦場に活躍した強豪で、リングスが活動休止直前の大会のメインイベントでは『無差別級トーナメント』決勝戦でエメリヤーエンコ・ヒョードルと対戦。負けはしたが、リングスファンの脳裏にその勇姿は焼き付いている。さらに02年5月『プレミアム・チャレンジ』には前田日明のブッキングで出場。7月には『UFC38』でエヴァン・タナーと対戦して判定負けを喫したがリングス活動休止後も精力的に大会に出場しているだけに、今回のも活躍が期待できそうだ。

THE BATTLE FIELD『ZST』2

3月9日（日）試合開始17:00
★会場：東京・Zeep Tokyo
★入場料金：VIP（最前列&ドリンク付）¥15000、SRS（2列目）¥8000、S席¥6000、A席¥4000、自由席¥3000
チケットは1/25（土）10時からチケットぴあ、後楽園ホール、書泉ブックマート、ビデオショップ・チャンピオン、『ZST』オンラインショップにて発売中。お問い合わせは『ZST』事務局（TEL.03-5321-9595）まで。

【決定対戦カード】ライト級シングルマッチ
★小谷直之（ロデオスタイル） VS リッチ・クレメンティ（チーム・エクストリーム）
★レミギウス・モリカビュチス（リングス・リトアニア） VS 坪井淳浩（フリー）

【出場予定選手】
クリストファー・ヘイズマン（リングス・オーストラリア）
矢野卓見（烏合会）　今成正和（TEAM ROKEN）　所英男（チームPOD）

>>>美濃輪×アルメイダ決定!! パンクラス2・16大阪大会

2002年11月の横浜大会で、渋谷修身を圧倒的な実力で破り、試合後、美濃輪育久との対戦を希望したヒカルド・アルメイダ。同大会でGRABAKAの佐々木有生に勝利した美濃輪。大注目の初対戦がグランキューブ大阪で実現!!

Sammy Presens PANCRASE 2003 HYBRID TOUR

2月16日（日）　試合開始 16:00
★会場：大阪・グランキューブ大阪（大阪国際会議場）
（JR大阪駅よりバスで15分、「堂島大橋」バス停下車すぐ）
★問：パンクラス　03-5792-0815

【メインイベント ライトヘビー級戦】
★美濃輪育久 VS ヒカルド・アルメイダ

【その他主要カード】
★謙吾 VS X
★郷野聡寛 VS X
★前田吉朗 VS 梅木繁之　※前田デビュー戦
★芹沢健市 VS ローラン・ファーブル
★窪田幸生 VS 長谷川秀彦（※長谷川、本戦初出場）
★星野勇二 VS 冨宅飛駈

>>>髙田道場がサブミッションレスリング大会開催！

回を重ねるごとに問い合わせ・参加者も増えている、髙田道場主催のサブミッションレスリング大会。申込〆切は2月3日(月)、勝って次の時代を造れ!!

『第7回髙田道場サブミッションレスリング大会』
★日時：2月9日（日）　受付・計量：13:00～　　試合開始：14:00～
★会場：株式会社　髙田道場（東急目黒線「武蔵小山駅」下車　徒歩3分）
★参加資格：1.高校生以上の頭部に障害、及び感染症のない健康な男女　2.格闘技歴1年以上の方　3.週2回以上、練習をしている方　4.格闘技歴をきちんと明記している方
★参加費：登録料（初回のみ。髙田道場生は除く）1000円　一般・外部道場生1500円　髙田道場生1000円
★申込・問：株式会社　髙田道場　〒142-0062　東京都品川区小山3-6-6　03-5749-5030

ブッコミ ノリノリ★NEWS

■堀辺先生の講演会「祖国を忘れし者に告ぐ」!!

格闘技界の哲人こと堀辺正史創始師範。「祖国を忘れし者に告ぐ」と銘打たれた講演会は、歴史の真実を武士道という観点から分析し、戦前と戦後で分断されてしまった歴史を繋ぎ合わせ、真の日本人像を探るという目的で開催されている。参加費は無料で、一般の人も多数参加している。
「日本人とは何者なのか」ということに興味のある人は、ゼヒ参加してみよう。
★開催日　毎月最終日曜日（次回は2月23日）
★時間　13:00〜15:00
★参加費は無料。参加希望の方は日本武道傳骨法會まで問い合わせること。（予約制）
★問：日本武道傳骨法會事務局 03-3362-0010

■ターザン&吉田豪の恒例トークライブ!

前回のゲストは新間寿！　“格闘技トーク最強タッグ”（格闘ごまもっとう）こと、ターザン山本&吉田豪のトークライブ、2003年第一回目のゲストは誰だ!?
「ターザン山本と吉田豪の格闘二人祭vol.7!!」
★日時：2月4日（水）
18:30開場　19:30開始
★チャージ：¥1500（飲食別）
★問：ロフトプラスワン
03-3205-6864

■蝶野正洋、バレンタインイベント開催!

リーガロイヤルホテル東京では、2月14日のバレンタインデーに、黒の総帥・蝶野正洋を招いてトークライブを行う。ビュッフェ形式の食事が付いた今回のイベントでは、ドイツ人の奥様・マルティナ夫人にちなんだ特製ドイツパンをホテルのシェフが作るほか、バレンタインと蝶野の好物がチョコレートということから（知らなかった……）蝶野オリジナルチョコレートや、蝶野にちなんだバレンタイン特製の黒いカクテルなども用意。遠方のファン向けにプール・サウナの利用、翌日の朝食がセットになった特別宿泊プランもあるぞ。
★日時：2月14日（金）
★受付18:30〜、ビュッフェ19:30〜、トークライブ開始は20:15〜
★場所：リーガロイヤルホテル東京 3Fロイヤルホール
★料金：13000円（トークライブ・立食ビュッフェ料理・飲み物・蝶野からのお土産・税金・サービス料込）
※特別宿泊プランはプール・サウナ無料利用の特典がついて1名：24000円。
★問：リーガロイヤルホテル東京 営業企画　中川・里吉
★TEL：03-5285-1121（代表）
★HP：http://www.rihga-tokyo.co.jp

■破壊王・橋本真也トークショー&サイン会実施!

有明・東京トイフェスのモグラハウスブースで、破壊王&大谷晋二郎の2体セットフィギュア（限定99個、5000円）を購入した人対象に破壊王のトークショー&サイン会が行われる。トークの後に、破壊王本人が、フィギュアにサインを入れて手渡してくれる他、ZERO-ONEグッズ・DVDの販売や、ジャンケン大会なども行われる。詳しくはモグラハウス（055-262-7799）まで問い合わせを。
★日時：2月23日（日）
フィギュア販売開始：10:30〜
トークショー開始：13:00〜

■金原弘光公式HP、絶好調!

『紙プロHand』iモードでコラムもオープンした金原弘光選手（※改名！）の個人HPをチェック。金ちゃんが定期的にカキコミを行っているBBSの他、Tシャツ販売も。レア化確実の“弘”Tシャツ（写真）を早めにゲットしよう!
★HPアドレス　http://www.hiromitsu-kanehara.com

■WJ公式HPを見て、ど真ん中を突っ走れ!

長州力率いるWJプロレスの公式HPに注目!　毎日のように起きるニュースや、長州力・今月の言葉、画像ダウンロードサービス、「どうして、普通に身につけられるグッズが少ないのか」という長州の素朴な疑問からスタートしたオリジナルブランド「LOCK UP」の紹介と内容盛り沢山。見ないと損するぞ!
★WJ公式HPアドレス
http://www.wj-pro.com/

■『U-FILE」』開催!

3回目となった、U-FILE CAMP主催の格闘技大会『U-FILE』。今回予定されていた「U-FILE CAMP認定 初代Style-G重量級チャンピオン決定戦・上山龍紀vs長南亮」は、長南選手の右足首負傷のため以下のように変更となった。この他に

・Style-Sルール
・Style-Uルール
・Style-Gトーナメント
・初級ワンマッチ
・U-FILEヤングライオン杯（!）

などが予定されている。
★日時：2月2日（日）
★試合開始　15:00
★場所：ゴールドジムサウス東京ANNEX（JR京浜東北線大森駅山王西口前）
★入場料金：2000円
【予定対戦カード】
・上山龍紀 vs 大久保一樹（Style-Gルール）
・越後隆 vs 佐々木恭介（Style-Eルール）
★問：U-FILE CAMP 044-932-0282

■今月のBCG情報

自称カリスマレフェリー・島田裕二氏の多目的格闘技ジムでは、友達を紹介すると、特典として月会費を1カ月分50%OFFに。紹介されて入会した友達も同じように月会費1カ月分を50%OFF!　みんなでBCGの輪を広げよう!
★問：BCG 03-3560-7911

■“大阪新★名物”大阪プロレス宿泊割引プラン!

価格も気分も大満足のホテル・ファミリーイン・フィフティーズでは、大阪プロレスとの提携による宿泊プランを開始した。これは、デルフィンアリーナで興行が行われる日、もしくはその前日に宿泊の人は料金割引&デルアリの割引券が渡されるという非常にお得なもの。通常はデルアリ興行のみの宿泊割引だが、今回は特別に「『紙のプロレス』を見た」と言えば右に案内している大阪城ホール大会も宿泊が割り引きに!! ゼヒ利用してみよう。
※プラン利用の場合……食べ放題朝食付き（サービス料込み・税別）1名利用、1室5000円→4800円!
詳しくはファミリーイン・フィフティーズ
HPアドレス http://www.fiftys.com
★問：株式会社フィフティーズ
TEL：03-5488-5096
予約：0120-343-897

プロレス大会★GUIDE

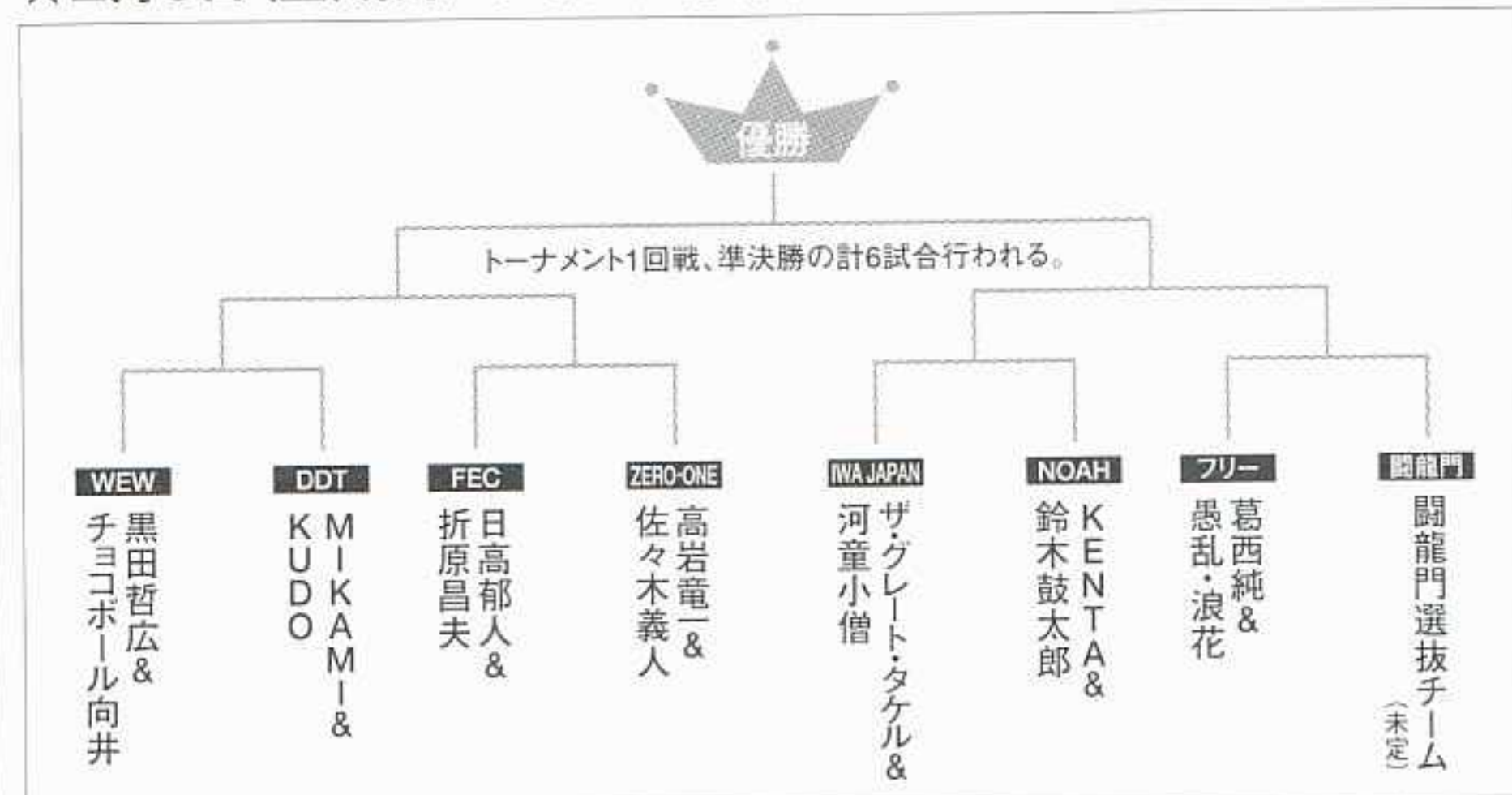
>>>5団体共催! ディファ杯争奪ジュニアトーナメント開催!!

NOAH、ZERO-ONE、闘龍門、IWA JAPAN、WEWが共催するジュニア祭典「第1回ディファ杯争奪ジュニアタッグトーナメント」のカードが決定！　注目はデビュー前から東スポ1面を飾った河童小僧。MIKAMI、KENTA、鈴木鼓太郎、佐々木義人らイキのいい若手が大集結。ブレイクするのは誰だ!?

★2月8日（土）東京・ディファ有明（18:00）

優勝

トーナメント1回戦、準決勝の計6試合行われる。

- WEW：黒田哲広&チョコボール向井
- DDT：MIKAMI&KUDO
- FEC：日高郁人&折原昌夫
- ZERO-ONE：高岩竜一&佐々木義人
- IWA JAPAN：ザ・グレート・タケル&河童小僧
- NOAH：KENTA&鈴木鼓太郎
- フリー：葛西純&愚乱・浪花
- 闘龍門：闘龍門選抜チーム（未定）

★2月9日（日）東京・ディファ有明（18:00）

●決勝戦　●3位決定戦
●特別シングルマッチ4試合を予定中
問：各団体　03-3352-3366（IWA　JAPAN）　03-5958-5651（WEW）
078-333-9797（闘龍門JAPAN）　03-5730-3401（ZERO-ONE）
03-3527-5311（プロレスリング・ノア）

この模様はG+にて生中継が行われる。放送日時は2月9日（日）18〜22時。問い合わせはプラネットワンカスタマーセンター（TEL.0570-001-012）。日本テレビで15日（土）深夜2:20〜3:50でも放送される予定。問い合わせは日本テレビ放送網（TEL.03-5275-1111）まで。

>>>K-DOJOに獣神サンダーライガー参戦!!

仰天!! TAKAみちのく率いるKAIENTAI-DOJOに、つねに怒れる獣神・ライガーが参戦!! 対戦相手は、1月18日、CLUB-K3000で行われた挑戦者決定サラウンドフォースの勝者、真霜拳號。他団体のリング、デビュー2年目の真霜相手に、ライガーがどんな闘いを見せるのか!?

『CLUB-K TOUR in 川越』2月8日（土）試合開始 18:00
★場所：本川越ペペホール　アトラス
（西武新宿線「本川越」駅からすぐ。東武東上線「川越市」から徒歩5分、JR「川越」駅からは徒歩15分）
★入場料金：スーパーシート7000円　特別指定6000円　指定4000円　当日立ち見3000円　※当日は500円増し
★問：K-DOJO 043-214-6960

>>>大阪プロレス、大阪城ホールに出撃!!

くいしんぼうVSえべっさんの敗者キャラクター争奪マッチ、そしてライガー&村濱武洋組の参戦。大阪プロレスが全力投球で送るビッグマッチを見届けろ！別枠（※ブッコミNEWS参照）の宿泊割引プランで密航もOK！

2月1日（土）　試合開始17:00　大阪城ホール

【大阪プロレス選手権試合】
<王者>スペル・デルフィン VS “ビッグボス”MA−G−MA<挑戦者>
【大阪プロレスタッグ選手権試合】
<王者組>ツバサ&ブラックバファロー VS 村浜武洋&獣神サンダー・ライガー（新日本）<挑戦者組>

Gamma VS TAKAみちのく
くいしんぼう仮面 VS えべっさん　※敗者キャラクター剥奪マッチ
ミラクルマン&ビリーケン・キッド&タイガースマスク VS スペル・デメキン&高井憲悟&福田ユタカ
大王QUALLT VS 金村キンタロー（WEW）
トルトゥガー&ナイトマスター・ヒュウガ VS 怪獣キングマンドラ&ポリスウ〜メン
アステカ（華☆激） VS ブラック・タイガース
★問：大阪プロレス　TEL 06-6636-6672

あけましておめでたい読者ページ

紙プロ元気大学

賀正！　読者ページ担当、本業は電気部のささきぃです。読まれるのは確実に1月末以降なんですけども、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。先月あんまし載せられなかったイラストハガキ、今月は大量に載せてますよ～。あなたのハガキも載ってるかも!?　今年は、文章がうかばなくなった時、ベタネタで逃げるのが読者にバレないようにしたいと思います。では、はじまりはじまり。

（青森県・青木雄大）
「『ウルルン』と言えば徳光さんであるが、某番組において徳さん『セメント』なるプロレス用語を使用。ジャリタレごときが『ガチンコ』を軽々しく口にする昨今、昭和のプロレスアナらしい重厚な言葉使いでありました」➡このスペースに載せるイラストは今月すご～く迷ったんですが、お正月ということ、そしてドラゴンに敬意を表してこのハガキに決定させていただきました。え？　表してない？

校内巡回

【『紙プロ』57号・面白かった記事】

◎ジョン・テンタインタビュー◎

★こういう過去の事件の真相を読むことが出来て良かった。

（東京都・利根川敬三・32歳・会社員）

❶北尾vsテンタをリアルで見ていた層の他、「テンタから〝プロレスLOVE〟が感じられた。テンタのドロップキック、ありゃ芸術だよ（青森県・小山内紘介・16歳・学生）」など、広い支持を得たジョン・テンタインタビューが前号の一位でした。以下順不同でお送りします。

◎ターザン×鈴木健&山口日昇対談◎

★鈴木さんの高田選手へのホレっぷり。

（福井県・山本卓・28歳・医師）

❶医師？　お医者さんですか。お医者さんも感激する高田さんLOVEぶり。またそれを隠さないところがスゴイですね。愛されるより愛したい。

◎月刊Y2談◎

★山口、吉田両氏のWJに対する期待がビッシビシ伝わるから（嘘）。

（大阪府・三宅徳仁・27歳・風俗店員）

❶んでも、今では『紙プロ』編集部一同、WJのトリコですよ。（本当）

◎ゼロ族集会◎

★最近ぼくも少しずつゼロワン狂いになっています。今度はぜひ関西で集会して下さい。そして俺にも言わせろ～!!

（大阪府・山内義久・34歳・おもちゃ問屋）

❶ゼロワンのガイジンを見た〝ゼロ族〟からは「面白かったが、俺にも語らせろ」というハガキが続々届いたゼロ族集会。ロウ・キーが素晴らしいのはいくら言っても足りない。もうこのページでも毎号言っているんですが、ロウ・キー見てない人は、一刻も早く見なきゃイカンですよ。

◎佐伯×山口対談◎

★佐伯オタだから。がんばれ！　『紙プロ』読んでから中野さんの大ファンになりました。高田の引退試合の時にいなかったので、不思議に思い、いろいろ調べたところ「来るわけねぇか」と一人納得してしまいました。もっとUインターについて知りたいです。

（東京都・就職浪人・20歳・学生）

❶ペンネームからは解らないと思いますが、女性です。なんか、男の趣味が一貫しているようで好感が持てますが、『紙プロ』のおかげなのだとしたら、少し申し訳ない気持ちになりました。ちなみに、11・14バトラーツに参戦した中野巽耀さんは「高田さんから直接オファーをもらったけど、慎重に考えてお断りした。（11・23は）行かねぇほうがオレらしいだろ」とコメントしてらっしゃいました。

◎WWE専門学校◎

★特に3時間目の性教育、ステフのラジオ出演の話は最高。アニータを遥かにしのぐアバズレっぷりは青森県民を震撼させること間違いなしでしょ。まさかステフが下の毛（以下自主規制）。

（東京都・八武崎貴広・19歳・学生）

❶この号が出る頃には上陸ずみのWWE。復習の意味も込めて、読者の皆さんはステファニーのところだけじゃなく、全ページをちゃんと読むように。

◎ミスター高橋vs大槻ケンヂ対談◎

★オーケンは、なぎら健壱を超えた！

（新潟県・諸橋英治・34歳・公務員）

❶「面白い記事」として書いてくれているということはホメ言葉？　「面白かった記事」3位ではありましたが、それを上回る反発の声。以下紹介。

【『紙プロ』57号・つまらなかった記事】

★自分の今まで夢中になれたジャンルを卑下し続ける大槻に怒りを感じました。大日本の会場の最前列で1人観戦し、休憩時間には持参した紙袋から『週プロ』を取り出して読んでいた過去を忘れたのか？　……と。

（東京都・及川喜彦・31歳・自営業）

❶本当だとしたら、ちょっといい話。本人は忘れたいだろうけども。

（青森県・青木雄大）「この4人が実際どうかは知りませんが、ボク自身は、全くモテません。後楽園ホールには行ってないけど（笑）」➡本文中でも触れましたが、賛否両論だったピーター×オーケン対談。まぁ、ここまで言われたら怒って当たり前だから、私は正常な反応だと思います。この4人はモテ組だと思いますよ。

★こういった暴露本を出す輩は、自分が馬鹿ですと声高らかに宣言している様なものである。プロレス心の確立したものにとって何ら動ずるものではない。オーケンよ、君はプロレス村から去れ!!

（東京都・船越徹也・29歳・会社員）

❶すごい、なんか『紙プロ』への読者ハガキじゃないみたいだ。「こういった輩」の対談を載せちゃう『紙プロ』は「プロレス村」には入っているんでしょうか？　村八分？

★記事ではないが、11・24の神話をもっと300ページくらい使ってほしいし、I編集長の談話も420ページくらい書いて欲しかった。

（埼玉県・内藤陽・19歳・学生）

❶合計720ページ。……期待に答えることが出来なくてスイマセン。発売日を発表することさえできなさそうです。でも、井上さんは書いてくれるかもしれません。

◎『紙プロHand、iモード参入決定!!』◎

★Jフォンだから。

（愛知県・渡辺弘幸・33歳・会社員）

❶こらえ性のない33歳会社員め。しかも同様多数。みんな「つまらない記事」に上げてきやがる。Jフォンユーザーは「Jフォンでも見れるようにして！」と言える素直さを持って欲しいなぁ、と先生は思います。待っていなさい。

★高田さんは引退しましたが、引退しても特集とかして下さいね～。大・大・大ファンなんです。彼氏になりた～い!!　くらい!!　『紙プロ』のみなさんもファンが一人でも多くなりますよう頑張って下さい!!　応援してます。

（大阪府・田中吉宗・28歳・会社員）

❶はい、ありがとうございます。鈴木健さんだけじゃなくてここにも高田さんLOVEの人が。彼氏か……えーと、『紙プロ』は頑張ります。

★私の話で申し訳ないのですが、学校の授業中にかくれてプロレス雑誌を読んでいたら先生にみつかって、「お前、ボディビル雑誌なんか読んどんのか？」と言われ腹が立ったので、「ボディビルじゃねーよ、プロレスだよ！」という思いをこめて、田中将斗ばりのエルボーを背後からきめてやりました。

（愛知県・五十君悠平・17歳・学生）

❶大人びた書き出しと中身の対比、そして疾走する17歳の若さとバカさが心地よくはあるのですが、考えてみると授業中に読んでいるのを「見つかった」時点で五十君くんの「負け」です。読むなら見つからないようにしましょう。

★明けましておめでとうございます。『紙プロ』iモード参入もおめでとうございます。ささきぃさんはでかした。結婚とかしてください。ダメならUインターDVDコレクションを下さい。

（新潟県・小形勇二・大工）

❶ありがとう。プロポーズされるのはうれしいけど、結婚とかの「とか」っていうのがよくわからないので、結婚はできないや。ゴメン。ていうか本当に欲しいのは私じゃなくてDVDか？　そうか。

紙プロ57号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 ジョン・テンタインタビュー
2位 ターザン山本×鈴木健対談
3位 ミスター高橋×大槻ケンヂ対談
4位 月刊Y2談（山口日昇×吉田豪）
5位 田村潔司インタビュー

今回は僅差でジョン・テンタインタビューがトップに。続いて、ターザン山本・鈴木健対談が2位。ターザン山本さんの入った企画がこんなに上位に来ているのははじめてではないでしょうか。そして大きな波紋を呼んだミスター高橋×大槻ケンヂ対談、3位に入っているのに今月は違うYさんになってしまった月刊Y2談、田村潔司インタビューと続きました。

※恒例で行っている好きなレスラーランキングは、今回2002年ベストレスラーということで別ページに収録。2002年を振り返りましょう。

衣料部・Tシャツ 自慢コーナー

（静岡県・目ガ覚メタロウ）「中川画伯特製『アントニオ猪木Tシャツ』猪木会長に見ていただきました。猪木会長は、しばらくTシャツに見入り『スゲェなぁ！　ほぉー、ンムフフフ』とスマイルを交え御満悦。ズバリ言って、有難う御座いました」➡オーちゃんとのツーショットに続き、なんとアントン総帥とのツーショット。これを見た編集部・ジャン斉藤さんは「この目ガ覚メタロウさんって何者なんですか？」と一言。たしかに私もちょっとわからなくなってきました。でも、もしかしたら中川画伯Tシャツに宿る不思議な「御利益」かもしれませんよ。ンムフフフ（新しい物語を作ろうと必死）。まぁ、単なるTシャツハンターの出待ちじゃねぇかなとは思いますけども。

（静岡県・目ガ覚メタロウ）こちらも同じく目ガ覚メタロウ氏からの一枚。「撮影地・パラオ」だそうです。ふーん（ツッコミなし）。ビートたけし＆ビック・バン・ベイダーTシャツという無理難題をこなしただけでなく、トレーナーにして返すという中川画伯の度量に拍手！　パチパチ。

青木雄大

「『猪木祭り』放送開始目前に疾風の如く現れ、そして去って行った武藤。あの演出における紅白スタッフの裏心を想像するのも楽しい」➡キムケン宣伝部長はどっちのチャンネルを見ていたんだろう。しかし、取締役勢を描かせたら青木雄大画伯の右に出るものはいませんね。ドラゴンのビデオとてもありがとうございました。爆笑しました。

「あれだけ『ハンデ』があっても他の連中が歯が立たぬ以上、サップにはもっと芸能活動をして貰わないと。とりあえず帯番組のメインから始めようか。続いて主演映画、ミュージカル、そして歌……、あっ、『猪木祭り』に出られなくなっちゃうかも（笑）」➡この笑い顔サップとノゲイラ、マリオの横顔ががすごくいい。和田さん、『週プロ』の選手名鑑にも登場してましたね。

中川画伯

※中川画伯の携帯電話待ちうけ画像は『紙プロHand iモード』でゲットできます。チェキラ。

➡「言い訳をしないで、いい絵が描けるように努力したいと思います」と、新年の抱負とともに先月号のリクエスト「ガス欠後のコピィロフ」にお答えいただきました。スタンドを要求されてイヤイヤ立ち上がるコピおじさんだそうです。表情がステキ。また早く試合が見たいなぁ。この間は試合時間短すぎたし。

➡先月の〆切直後に届き、載せられないことで、さささぃを悔しがらせた一枚。「自分は三銃士の中では蝶野派だったのでG1優勝した時はスゴク嬉しかったのに、科学の竹田先生に否定されて悲しかったのを思い出しました。公務員には中学生の気持ちを気遣う、やさしさが必要だと思います」同じくらいの年になった今思うと、27歳とかで中学生どもをまとめていた先生たちは、スゴイなぁと思いますが、竹田先生はいただけませんね。

（岩手県・こみきらほがな）⬇「猪木祭り最高！」という、あまり聞けないメッセージが書かれているハガキなので採用してしまいました。先月も今月もハガキをたくさんありがとう。ていうか、もしかして〝みどりがめ〟さんですか？（「あぶ木」ギャグ）

（愛媛県・鈴木ユージ）⬇毎回見てて、こっちの顔が痛くなりそうです。目は心配だなぁ。でも、コメントにはちゃんと出てきてくれるプロ根性。NOAH1・10武道館のノーフィアー解説、面白かったですね。

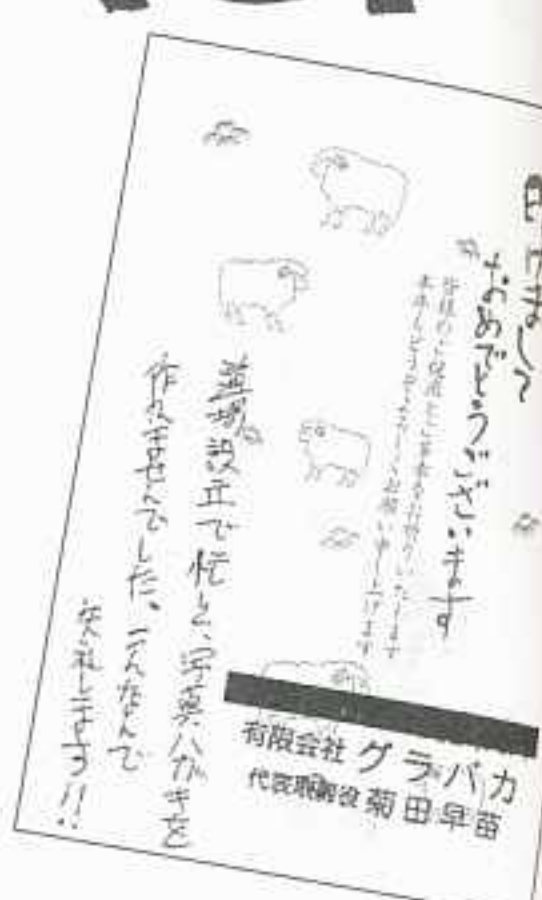
（大阪府・松浦伸宏）
「11・24『PRIDE.23』はボクの誕生日でもありました。マジで。だから記念にのっけて♥」➡先月、ページを完成させた直後に届いたおハガキでした。ネタも、イラストのTK（NWAトーナメント準優勝者）も最高で、載っけたかったから悔しかったよ。いまさら誕生日おめでとう。

今月の山口日昇賞

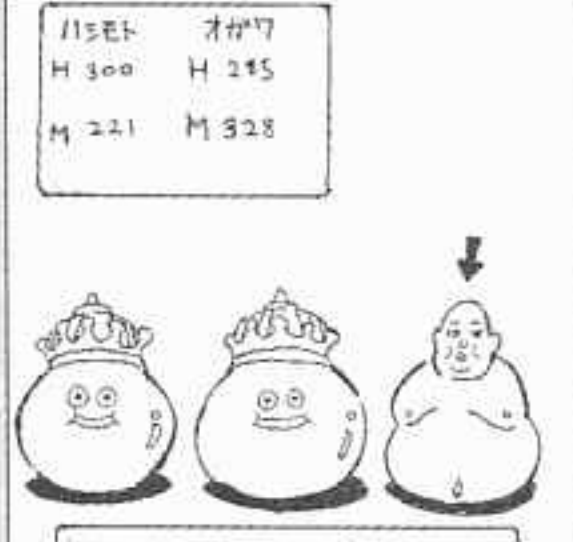
（愛知県・たっつぁん）⬇「これ載せてよ」と本誌編集長・山口日昇からじきじきにピックアップされた一枚。何も出ませんがおめでとうございます。新間寿、新日本リング復活記念。まぁ、いつもの通り「ほんとにジョーク」宛のハガキなんですけどね。

レスラーからの年賀状コーナー!!（一部）

1・5、ZERO-ONE・USAに登場したヒラデルヒアのサル・ザ・マンさんから年賀状をいただきました！　日本の風習に詳しいんですね。……え？　“投稿キング”ってことは、本誌BNに登場しているサル・ザ・マンさんなんですか（しらじらしく）？　てことは葛西純さん……いや、なんでもないっす。

TAKAみちのく選手率いるKAIENTAI-DOJOさんから、3枚も年賀状をいただいてしまいました。恐縮です。この場合はウチもやっぱり3枚返すべきなんでしょうか？　昨年『紙プロ』が行った、勝手ピンナップ等でご迷惑おかけしました。今年もよろしくお願いします。

ジムもオープンしたパンクラス・グラバカさんからの年賀状です！　代表取締役なんですね、菊田さん。お忙しい中ありがとうございます。今年も菊田さんにしか出来ない試合・名言を期待しています！

今月のネタかぶってます

上／（大阪府・松浦伸宏）右／（山梨県・貝戸哲也）
➡お腹→スライムという発想が、偶然一致したおふたり。両方ともそれぞれ微妙に可愛いのでこんな形で掲載。ガファリといえばお腹ですが、私はスパッツの中途半端な長さも気になります。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

（愛知県・たっつぁん）
「ここんとこ毎号載せてもらっていますが元気大学に送るのは初めてじゃないかなー。今年は『ほんとにジョーク』に送ったのに元気大学に載ってしまうというのを、芸の域にまで昇華させたいと思います」⬇おお、どうもはじめまして。コンビ芸ですね。よろしくお願いします（今月ももうやっているのだけど）。ていうかここ数ヶ月『ほんとにジョーク』あてのハガキがホント多くて、私はちょっとジェラシーを感じています。

「私、日本で『紙プロ』の大学に行くの！（ちょっと前によく流れていたアメリカの大学CM風）」。担当である私自身が「大学」というコンセプトをどう扱えばいいか、迷い始めている『紙プロ元気大学』ですが、迷ったままおハガキやお便りは募集します。はっきりさせなくてもいいさ、って感じのおハガキから「入学希望します！　押忍!!」って感じのお便りまで、イラスト、観戦記、ちょっといい話、タレコミ部あてのお写真など、おい、みんな上がって来いや！（高田風）

宛先は、メールは、radical@kamipro.com
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702（株）ダブルクロス
紙のプロレスRADICAL編集部　紙プロ元気大学「がんばれクロニック」係まで。

（本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！　プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によっては無断でこっちに載ってしまいます。匿名希望の人はその旨明記のこと）

ひとりでも　(株)ダブルクロス・IT事業部改め 電気部のページ

電気ですか〜〜〜ッ!!

昨年2月から始動した"IT事業部"は現在「電気部」として活動中です。仕事は主に携帯サイト「紙プロHand」の更新、「紙のプロレスRADICAL」公式HP発表！ さらにその先の極秘プロジェクトにむけての活動を主にしていますが、編集部のお手伝いとして読者ページやその他のページの作成もしたりしています。そんな電気部に、今月は大型新人加入!! その新人とは……あれ? この人、新人?? まぁ、こんな感じで仕事してます。

2002年を持ちまして、"独り電気部"は消滅しました。つっても、唯一残った電気部のささきぃが、とうとうブッ倒れたとか、病気になったとか、クビになったとか、退職届を郵送して逃げ出したとかいうわけじゃぁありません。ついに!! 電気部に大型新人が加入し、電気部が"ふたり"になったわけです！

iモードの『紙プロHand』コラムではすでにお知らせしたのですが、今年から、元・本誌編集力士のスモーノブさんが、『紙プロ』へ復活、電気部に加入したのです!!

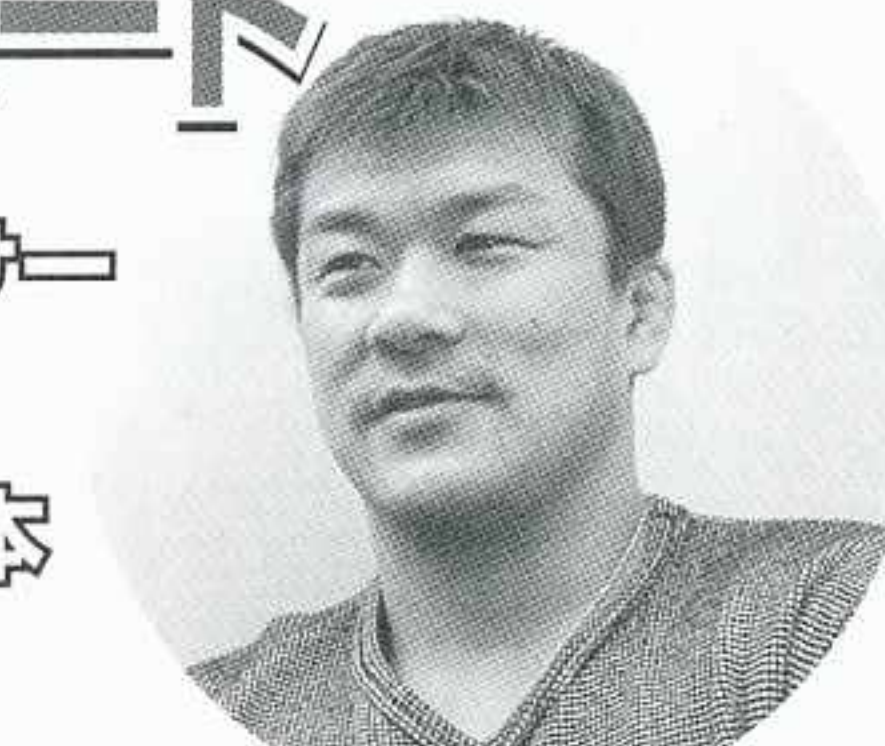
01年の4月、編集部を離脱、敏腕営業力士を経て、ふたたび『紙プロ』にカムバックしたスモーノブさんは古くからの『紙プロ』読者にはおなじみだと思いますが、最近の読者さんには本誌でWWEの記事とかよく書いてる人というとわかるでしょうか。力士が電気部に加入してくださいましたので、私は今後はりきって仕事をのんびりやっていく所存です。まぁ電気部と言っても、当面は雑誌の仕事も並行して行っていく予定です。すでに今月からかなり精力的に本誌のほうでも活動中。

「¥マネーの虎」でおなじみの、ソフト・オン・デマンド社長、高橋がなり社長（左）に、挨拶がわりに、なぜかカウンターパンチをおみまいするささきぃ（右。女）。がなり社長インタビューは次号掲載、乞うご期待!!

てなわけで、今、『紙プロHand』は、ささきぃ＆スモーノブ+編集部で絶賛更新中。auユーザーの皆さん、今はまだコラムその他が読めなくてゴメンなさい。正直、数ヶ月かかってしまうとは思っているんですけど、近いうちに、iモードと同じかそれ以上の内容にします（値段は上がります、多分）。私としては、今だけiモードに追いかけて来てくれてもいいんですけど、そうじゃなかったら待っていてください。ていうか、月200円、アタシに使うんじゃなかったら、どこに使うって言うのよ。　（ささきぃ）

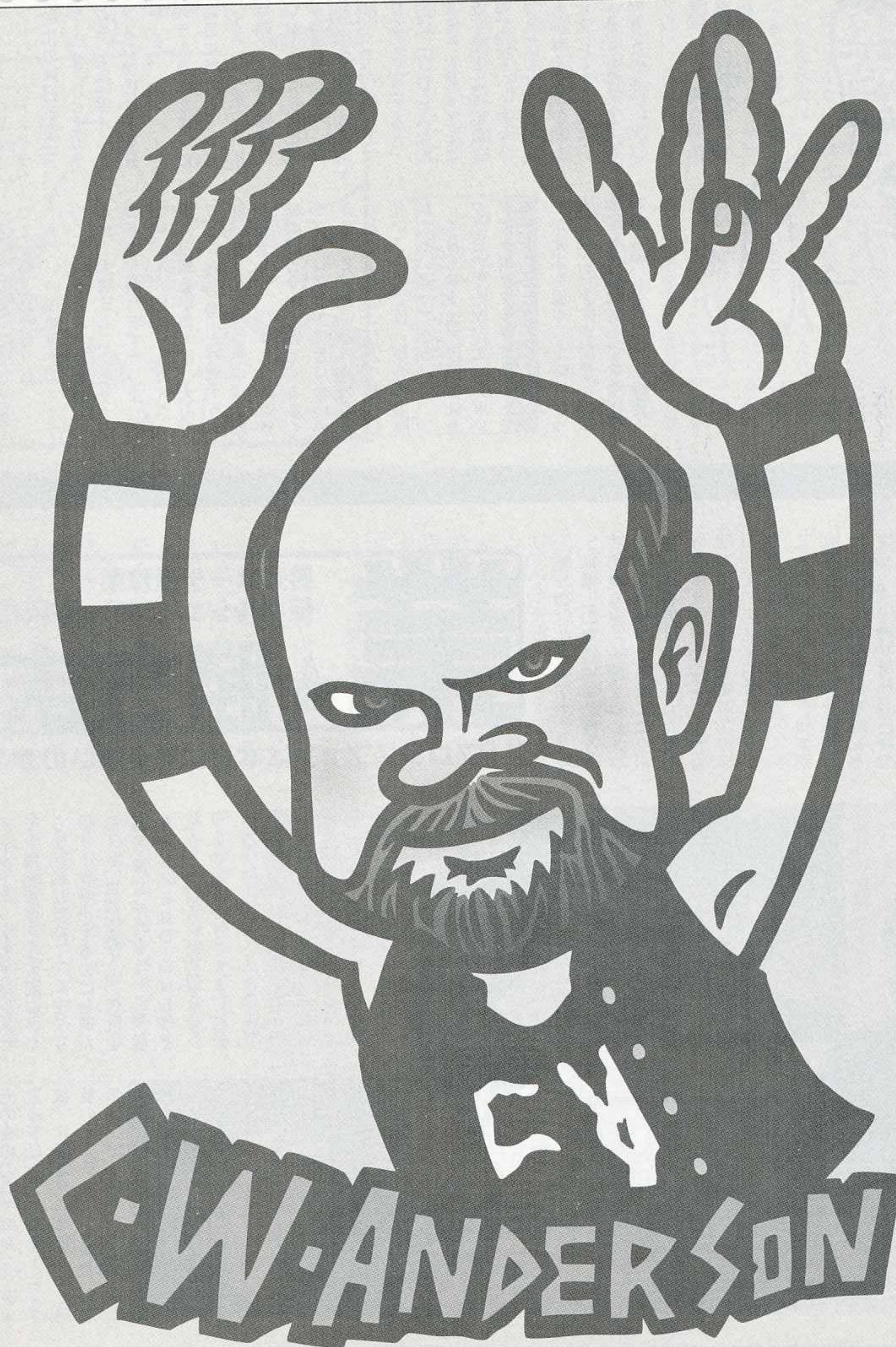
元・本誌編集力士
スモーノブ

新しめの読者のみなさん、この人が、10年経ってもこの写真を使われそうなスモーノブさんです。これからは電気部でヴァーッとクァーッと暴れ回ってくれることを期待するでごわす。それじゃ健介か。どすこ〜い。

『紙プロ』電気部へ電撃復活!!

渋い！ 上手い！ 光ってる！ CW級のコラムを味わいなさい！

BEST OF THE スパコラム™

C.W.ANDERSON

イラスト/中川画伯

怪ドラマ「深川通り魔殺人事件」を振り返る
「青いオトコ汁」（アートン刊）発売中

花くまゆうさく

リングの汁 RADICAL

去年の修斗NK大会、（ヨアキム・）ハンセンうまいなあ〜。バスケスよりこっちのがショータイムじゃないのかと思いつつ、三島が負けてドしょんぼりして家路につい た。でも五味は、高田和道戦で開花した凶気性がこの日完全に突き抜けて魅力的になってましたね。それにしてもあの日のシャオリン強かったなあ、あらためてあんなに強くてうまいのかと痛感。去年はレオジーニョ兄弟やシャオリンなど、バリバリのトップ柔術家が日本に来て芸術的ムーブを試合で魅せていたのを、『PRIDE』だけ見て柔術を見切ったように語ってるプロレス重視の人達は知らねんだろうなあ〜もったいない。知りたくもないのかな？

シャオリンと言えばここ一年で、アンドレ・ペデネイラスの関根勤化の進行が凄い。きっとそのうち「いいとも」で関根さんがペデネイラスの物まねする日も近いでしょう。

プロレスラーみんな負けたから、大晦日に気持よくさせてくれたイノキ・ボンバイエ。高山や藤田に悪い感情はなにもないけど（1・4の藤田発言はがっかりだが）、『週プロ』佐藤編集長や『ゴング』の吉川って人が『生ゴン』で総合を語るの見てると、条件反射的に「プロレスなんて負けちまえ」と思ってしまう。どうせ、たとえ50回負けても1回勝てばすべてチャラにしちゃうんでしょ、あの人達は。ミルコはもう対プロレスラー打止めにしちゃえばいいのにな（永田がやられるのはもう一回見たいが）。プロレスには充分何度もチャンス与えたんだからもういいでしょ。このままミルコに負けた十字架を永遠に背負ってたほうが、プロレスは負の色気も っていいと思うけどね。

もういい加減、イズマイウのことはやめようと思っていたが、大晦日出てきちゃったので少し触れますか。まじめな話、イズに、せんだイズム以外で感心するのは、大山戦でも今回の滑川戦もそうだが、ちゃんとしっかりパスしちゃうとこでしょう。藤田や松井などVTに出てくる多くのプロレスラーに足りないのがここではないか。パスするのとできない（しようともしない？）のでは、試合の展開がえらい違ってくる。

TBS地上波では試合はカットされてたが、エンディングで一瞬どアップに映ったのは、さすがイズマイウ。サップが猪木を肩車した時はぴったし横に付き、新聞などの写真で好位置に写っている。前へ前への、せんだイズム爆発！

郷野のマイクに拍手を

男道コーチ屋稼業・
掟ポルシェ（ロマンポルシェ。）の

業☆勝ちます

『プロレスファンは本当にモテないのか？』の巻

『紙プロ』先月号でのミスター高橋との対談中の大槻ケンヂの発言が、一部プロレスファンをマジギレさせ（ユタ州をド田舎呼ばわりされた時のケント・デリカットみたいなエンタメ感覚ゼロのリアクションで）とんでもなくバッシングされたようである。

『久しぶりにこの間、後楽園にZERO-ONEを観に行ったら、その会場に立ちこめてる〝モテないオーラ〟がなんか気持ち悪くて吐きそうになっちゃって、メイン見ないで帰って来ちゃったんですけどね（笑）』『プロレタリアのルサンチマンみたいな、「お前らまだそういうことやってんのか？」みたいな気持ち悪い感じがしちゃって。「これじゃあプロレスはモテねぇよなぁ」って思いましたね』などの文面が誌面に載った途端、インターネットのプロレスサイト掲示板がどこも面白いぐらい過敏に反応！「モテないオーラが出てるのはお前だろ！」「近親憎悪！」「仮性包茎で悪かったな！」「失敬な！ ZERO-ONEはともかくNOAHの会場はオシャレな人ばかりですよ。Gジャン上下にDJ HONDAのキャップとか。タバコはもちろんメンソールです」など、プロレタリアのルサンチマンそのもののムキになった書き込みがビッシリ。モーニング娘。に新垣がコネ加入した時並のヒステリックさで、年末のクソ忙しい時期にかくもくだらないことでサーバーに負荷をかけまくったのだった。

常日頃から細心の注意を払って見ないようにし続けてき

強そ〜な道場やぶりがライガーさんとやらせろってきてます！
なにっ
やっぱり2年まってもらいますか？
ウルセー！お前がやれっ
ニカニカ
格闘技あがりの新人

試合後の会見でも、いつものイズマイウ節（グレイシーネタ）を炸裂させてたようですね。

ボブ・サップが次の『PRIDE』出場するときは、vsヒヨードル戦をお願いしたい。サップがグランドで殴られ血ダルマなんてありえそうではないか。中西は、そんなにサップとやりたいんなら次は『PRIDE』でやってほしいよ。

新日1・4ドームのテレビ特番、北尾のデビュー戦での振舞いが最高。当時見た時より何倍も面白い。早すぎたひとり『W-1』か。そう思うと、いまの中西の振舞い（足ダ〜ンダ〜ンてやつ）も10年後に見れば面白く見れるのかな？ 更に考えると、いまのつまんないと決めつけて見てる新日も10年寝かせれば面白く見れるのかも？ いまはつまんなかったりむかついても、客観性もって見れる10年後なら、すべて許せて見れるのではないか？ ということで、いまのワールドプロレスリングを20年前ぐらいのからスタートして放送しなおせば永遠に毎週面白く見れてしまうのではないのかな。んなことないか。

そんなどうでもいいこと考え『生ゴン』見てたら、マッハ『DEEP』出場でvs上山戦のニュースをやってるではないか。かなりリスクあるけど、こうしてたくさん試合して、底なしの強さを感じさせていた頃（アレックス・クック戦ごろ）のオーラを取り戻してほしいであります。

はなくま・ゆうさく
森下社長のことはただただビックリ。
ご冥福をお祈りします。

た己の恥部（プロレスファン＝モテない）を、同じ「こちら側」の仲間だと思っていた大槻ケンヂにまさかのDDSをされたことで2重3重に発狂の原因を作り出してしまったといえよう。『ヤングジャンプ』の創刊当時に連載されていた「トイレット博士」の後日談マンガ『一丁目のスナミちゃん』で、中学生になっても相変わらずチンポ丸出しでモテないぶり絶好調の一郎太や三日月が、いつの間にか背丈もスラリと伸び、革ジャンなんか着てナオン引き連れモテモテになっていたチン坊の姿を見て嫉妬に狂ったことがあったが、今回の一件もそれと似たようなもので、同じチンポ丸出しメイトだと思っていたチン坊に久々に会ったら「うわ〜、おまえら21世紀にもなって未だに『マタンキ！』とかいってんの？」とか本気でイヤな顔をされてしまったようなものなのだろう。確かに気の毒な話ではある。

ただ、やはり問題なのは「"モテないオーラ"って、俺のことかよ！」と思ったプロレスファン人口があまりに多かったということではないか？ プロレスファンは、実際そんなにモテないのか？

今はどうだか知らないが一昔前の『週プロ』などの文通欄は「バイクとメタルと長州力が三度のメシより大好きな俺と一緒にプロレス観戦してくれる友達募集。もちろん女性限定で」とかいったような、プロレスファンがモテないことを短い文面の中でパーフェクトに表してしまっている情念お便りでゴッタ返していたものだが、10年前も今もまったく変わらないのは、己のモテない趣味を全面肯定してくれた上で乳まで吸わせてくれるやさしい彼女がポッチ〜イ！ という譲歩ポイント無さ過ぎの欲望ムキ出しボーイズがプロレス会場やネット上に群を成しているということだ。

それに加えて問題なのは、コミケ会場などの閉鎖空間が閉鎖的なりに100万人単位の人口を抱えるマンモス産業に成長するに連れ、共通の趣味を持ったアニヲタ同士のカップルがバカスカ出来上がって毎日オマ●コ三昧であるのに対し、プロレスファンは人口も目に見えて激減しており、少ない中でもしなにかの間違いで小綺麗なルックスの女性が新規プロレスファンとして参入してきたとしても、それは選手に食われてしまったりするため、趣味とセックスが圧倒的に合致を見ることがないということである。共通の趣味がプロレスであるならば共通の知識を持ったものよりプロレスラー本人とデキてしまったほうが良いに決まっている。

「あなたも長州が好きなの？ 私もよ！ 私達気が合うわね！ 結婚しましょう！」

なんていう狂ったオンナが万が一魅力的なルックスだったとしよう。彼女の中での優先順位は当然長州>貴殿であるため、長州の次に貴殿が好きという事態や、貴殿の誕生日よりもサイパンに日焼けしに行く長州を追っかけることを優先することや、貴殿にも維新ヘアスタイルを強要するなどといった各種『長州っぽいの好き』要求に耐えられるものだろうか？ かといって「長州さんとなら3Pしてもいい！」と決意するのもおかしな話なのであり、プロレスファンを自らの最大のアイデンティティーとしながらモテるのは、かつての杉作J太郎先生の『紙プロ』連載コラムが『プロレスを観て女にモテろ！』という逆説的な表現のタイトルだったことからもわかるように、土台無理な話なのである。というか、未だかつてプロレスファンであることがモテる要因に直結した時代など無かったのだからして、そんなわかりきったことはほっといてあげましょうよ、大槻さん。

おさて・ぽるしぇ
ロマンポルシェ。
ライブ予定は、
1月31日静岡SUNASH
／TEL.054-288-0880
2月28日新宿ロフト
／TEL.03-5272-0382
剛竜馬ひったくりで逮捕！
世知辛いっすねぇ……財布
ショアッ！

ザ・検証

1・19『W-1』東京ドームの裏で、ひっそり開催されたナポレオンS.ジニアスのナポレオン興行。本人自ら「黙殺報道されないプロレス」と言うだけあってマスコミはサムライTVと『紙プロ』だけ。昼の部の観客は新日本所属全選手よりも少なくて見やすさ満点！　ドームに負けじと、こっちでも（ジプシー・）ジョーさん大活躍！

今月の検証　船木のタイツにはなぜ日の丸があるのか？

by せき詩郎

かつて『維震コラ』なるものを募集した際、一枚のコラージュが私の元に届いた。それは船木のタイツの日の丸部分が維震軍の旗になっているという、単純かつ秀逸な作品であった（もし作成した方がこれを読んでいたらメール等で連絡ください）。

その作品のことを紅白歌合戦の天童よしみのバックダンサーを見ているとき、なぜか突然思い出し、「なぜ船木のタイツには日の丸がついているのか？」と考えてみた。きっとそれなりの意味なり理由なりがあるんだと思うのだが、船木周辺をまったく追ってこなかった私は何も知らない。船木についてはまったくの無知なのだ。

そこで今回私はそれを検証のテーマとして選ぶことにした。というか、正月ボケのリハビリを兼ねて色々画像を作ってみたのでそれを載せてみた。なぜ日の丸なのか、みなさんも一緒に考えてもらいたい。理由を知っている人がいれば私に教えてほしい。その頃までには私も正月ボケから抜け出し、文章の書き方を思い出しているに違いない！

▼▼▼青森
りんごと海をイメージした故郷青森のマーク入り。

▼▼▼ジャンプ
パンクラスの三本柱は努力、友情、勝利。

▼▼▼犬
かつて犬軍団が着ていたTシャツのロゴ入り。

▼▼▼非常口
パンクラス道場での避難訓練用タイツ。

▼▼▼ATARI
個人的には大好きなATARIのロゴ入り。

▼▼▼スクールウォーズ
イソップデザインのロゴマーク入りタイツ。

▼▼▼洗濯
手洗いが推奨されているタイツ。

▼▼▼エコマーク
環境保全に役立つと認定されたタイツ。

▼▼▼葵紋
開始早々印籠を出す水戸黄門（秒殺）。

▼▼▼白木屋
お馴染み白木屋の会長が船木のタイツに！

▼▼▼みつを
相田みつをのサイン入り！

▼▼▼検証結果

日の丸じゃないとなんか変だから。

今月の検証 by 椎名基樹

アントン・パフォーマンス in 新宿

師走。和尚も走るというこの季節。文字通り、我が人生の師が東京の街を走り回った。わたしはどんな苦しい場面に直面しても、「えいくそ、やるだけやってやれ」という開き直りができるのは、自慢ではないが、わたしの精神力のたくましさだと思っている。

そんな逆ギレともとれる、トラブルをトラブルで解決するような言葉に何度助けられただろう。

そう2002年12月29日、我らがアントンが『猪木祭り』のPRのため、東京中を車で走り回ったのだ。

前日、同じく『猪木祭り』のPRテレビ番組を見ていると、「明日新宿に猪木が出没します」と言う。しかし、時間・場所は告知しなかった。それを見て少し行ってみたい気になった。普段は「1、2、3、ダァー!」もできない、シャイな俺である（井上編集長が最初の『猪木祭り』で、ダァーをしたという記事を読んで反省。あと、猪木の引退興行の時、憧れのドラゴンスープレックスのテーマに乗ってのドラゴンコールをしなかったことも後悔）。しかし、そのテレビ番組の中で、アントンが「闘魂注入ビンタは飽きたので、100人の美女とチューしたい」などと言い、地方でキャンペーン中に、実際「チューしてください」と言った女子に、それだけで孕みそうなネットリ具合でチューするのを見て、猪木の闘魂が暴走気味なのを感じたので、取材がてら見てみたい気になったのである。

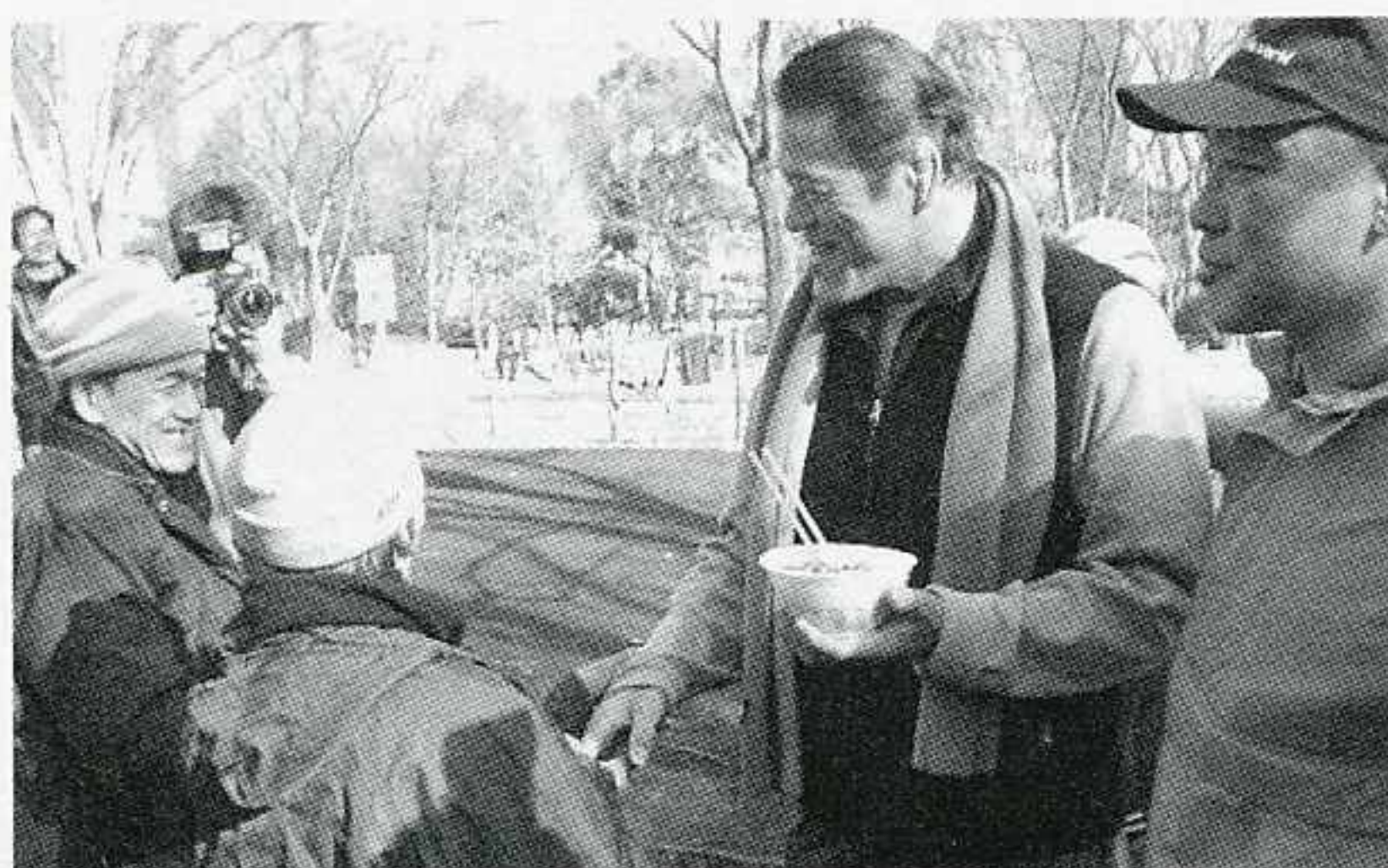
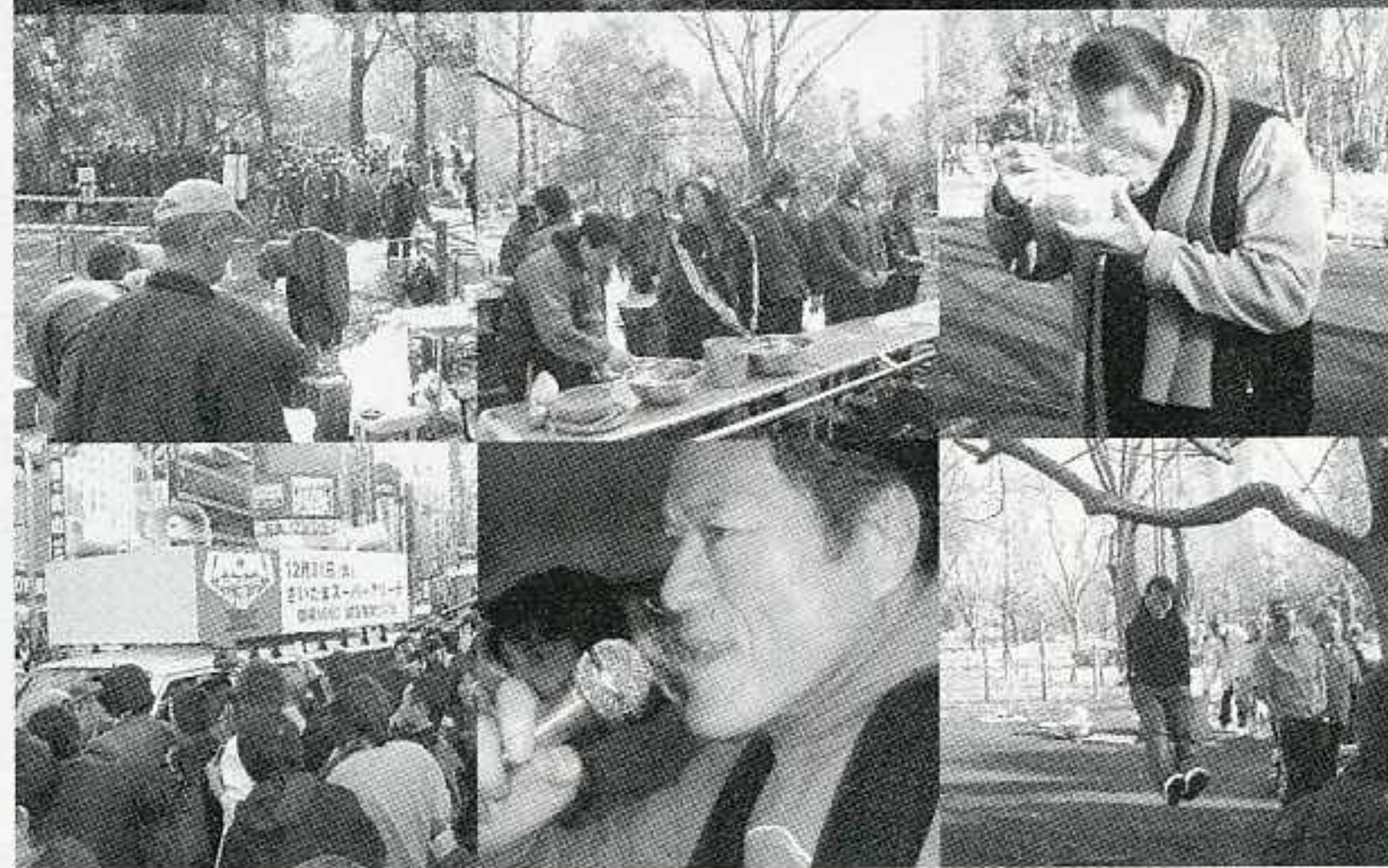
そして、29日当日。軽い気持ちでチョロ氏に、アントンの出没しそうな場所と時間を電話で聞いてみると、「アントンがコンドームに1万円札をはさんでバラ撒くらしい」というではないか！ 何とハレンチな！ 瞬間俺の脳裏には、昔アントンがリーグ戦で優勝し、その優勝賞金を鷲掴みにしてバラ撒き、その金を決勝の対戦相手だったジャク・ブリスコが、四つん這いになって拾うハレンチ映像が浮かぶ。「金撒くど！ 金撒くど！ 金撒くから、風流せい！」

何と傾いた男なのだ、我らがアントンは！ もしかしてこれって、法に触れるのではないか？ これは断然、見ておくべきだと俺は心に決めたのであった。

で、チョロ氏の言うことでは、「今アントンはヒルトンホテルで『猪木祭り』の記者会見を行っているから、そこから追いかければいい」と言うので、ヒルトンホテルに直行。そこのラウンジでアントンを出待ちすることにした。

しかし、そのラウンジで、予期せぬ事態が俺を襲う。ふっと見るとヒルトンのラウンジはギャルで溢れかえっている。何かと思えば「ケーキバイキング2500円」と書いてあるではないか！ そんなケーキばっかり食えるか！ と普段から思っていた俺である。しかし、色とりどりのケーキを見たら、どんどん食べてみたい気持ちが抑えられなくなっている自分に気付く。

まだ、ケーキバイキング未体験の読者に言っておきたい。ケーキだけでも結構食べれちゃうものよ。と、いうかあんなにおいしい物とは知らなかった。しかし、注意して欲しいのは、普通しょっぱい物を食うと甘い物が食いたくなるが、ケーキを主食とするとそれが逆になってしまう点だ。「しょっぱい物をデザートにちょっとだけ」というのは、なかなか難しいものである。

最後にお気に入りのパンナコッタをもう一口だけ取りに席を立った時、俺はふっと我に返りチョロ氏に電話すると「アントンは記者会見を途中で抜けてもういない」という。パンナコッタのついたフォークを口にくわえたまま、新宿東口に直行。するとそこは既にパニック状態。選挙カーからの演説さながら、「紅白はブっ潰すってことで」などと、アントンが車中でマイクに叫ぶと、若者がウォーとか言って拳を振り上げている。しかし、1万円入りのコンドームがバラ撒かれた様子はない。と、いうよりもそんなことしたら死者が出ただろう状態。SPっぽい届強な男たちが若者を、昭和新日の若手のように乱暴に制している。そして、アントンは「これからお台場にパフォーマンスに行ってまいります」などと言いながら、コンドームの変わりに「猪木ボンバイエ」のテーマを撒き散らして、新宿の街を去って行ったのであった。

1万円入りのコンドームを撒くシーンは見れなかったし、もとより数枚写真を撮ったものの、これでは記事にならないかな、無駄足だったなと思いつつ、さすがにお台場まで追いかける気力はなく、俺はトボトボと家に帰ったのであった。しかし、翌日の30日のお昼、まだベッドの中にいた俺のもとに、「いまアントンが新宿中央公園でホームレスの人たちに、ラーメンの炊き出しをしている」という怪情報が寄せられた。もう乗りかかった舟と、俺はダッシュで公園に向かったのであった。

すると、公園はすごい熱気と湯気！ ホームレスの方たちが黒山の人だかりとなって列をなしているではないか！ そして、その先にはラーメンをカップに盛りつけるアントンが！ 年も押し詰まった日に、なんというシュールな光景！ アントンは数杯ラーメンを配ると、配膳係をグッドリッジにバトンタッチ。2メートル近い剛力な黒人が、半分くらいしか身長がないように見える人たちにラーメンを配るのも、またシュール。しかし、この人もこの次の日にK-1ルールでベルナルドと闘っちゃうのだから、筋金入りの、迷わず行けよ、行けばわかるさの人である。

新宿副都心の真下、実に不思議な空間であったワケだが、ここで何より驚いたのは、アントンのその人気ぶり。普段は他人を寄せ付けないバイブレーションを出しているホームレスの人たちが、子供のように目を輝かせてアントンに声を掛けたり、記念撮影をねだったり。それにアントンは快くアントンスマイルで応えていく。前の日のテレビで「猪木さん、総理大臣になってください」と言われ「私は世界の総理大臣になりたい。ンムフフッ」などと応えていたアントンであるが、大衆の人気という点では多分日本で一番なのではと実感させられた。何より身長は半分であるが、選挙権は全員一人分持っているのだ。歴史に残る革命家とはこういう人だったのかも知れないとすら感じたのであった。

そうして、アントンはまた選挙カーに乗り込み、ボンバイエに乗せ「紅白をブっ潰します！」と、とにかくスピーチしながら去って行ったのであった。俺はといえば、金をバラ撒く姿見たさに、情報を聞きつけ渋谷に先回りして待ったのであるが、待てど暮らせどアントンは現れず。慌てて家を出たので、靴下も履いてなく、足が異様なほど蒸れて痒く、すごい臭いになってきたので、仕様がなくまたトボトボと家に帰った。

俺の2002年はそんなふうに暮れて行ったのであった。

PART 2

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである―――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座

梶原一騎17回忌パーティーで、元『格通』の安西記者と談笑。いきなり「コレクションって、どうやって保管してるの？　ボク、この前『ファイト』を親に捨てられちゃってさあ……」だの「『格通』を辞めて暇ができたから、毎週土日は『まんだらけ』に行ってるんだよねえ」だのと、和製ジョシュ・バーネットぶりを発揮していた安西記者にも原稿を褒められた（単に、同じ匂いを嗅ぎ取っただけとの噂もあり）、毎度お馴染みの書評コーナー。〈e-mail:go@kamipro.com〉

『マッチメイカー』（ミスター高橋／ゼニスプランニング／1400円）

帯には**「衝撃の問題作第2弾」**とあるが、違う意味で衝撃的すぎだしレベル的にも問題がありすぎるしで、いつものようにわざわざ読み込んで抜き書き書評をする気が失せる一冊。

なぜなら**「前著では書き切れなかったプロレスの裏側の部分をもう少し踏み込んで書いてみた」**と派手にブチ上げておいて、肝心の中身は突っ込まれそうな要素をあらかじめ排除した、前に読んだのかどうかもわからないレベルの些末なエピソード集なんだから、もはやお話にもならないのであった。

結局、『流血の魔術、最強の演技すべてのプロレスはショーである』（講談社）の続編ではなく、出来の悪いセルフカバーのような二番煎じ本に過ぎないので、前著がどれだけ面白く、なおかつよく編集されていたのかを読めば嫌というほど痛感できるはず。

そもそも、前回の本で何が面白かったかと言えば「日本のプロレスはWWEを目指せ」といった暴露を正当化するための建前部分ではなく、アントニオ猪木のダークサイドや、警備会社設立の件で新日本と揉めたこと。そしてもちろん、藤波がどれだけ弱くてコンニャクなのかについてしつこいぐらい繰り返していた部分に尽きるだろう。

本来、格闘技的には新弟子より弱くてもプロレスは抜群に巧い藤波こそミスター高橋理論では正しいはずなのに、藤波の誉め方にはまったくといっていいほどリアリティがなく、逆に長州や坂口、ルスカ、藤原、荒川といった真の実力者への過剰な愛ばかり伝わってきたのがボクなんかのツボに入った。

そんな本音をゴッソリ削除しておきながら**（「藤波のプロレスラーとしての本当の実力をファンに見抜かれてしまった」**と、弱さについては軽く言及している程度）、**「どうか、私の本を読んで、もっとプロレスを好きになって欲しい。どこかカッコ悪い部分も書いたがそれもプロレスの魅力のひとつである」**と言われたところで、到底プロレスを好きになんかなれるわけもないのである。残念。

『ここが変だよミスター高橋』（ターザン山本／新紀元社／1300円）

ターザン山本によるミスター高橋攻略本の第2弾は、『マッチメイカー』への批判すべてが知らず知らずのうちに自分の首を絞めていく結果になるという、まさにパラドックスな一冊。

プロローグの時点で**「これは手抜きも手抜き、大手抜きだよ」「これは批評に値しないよ」**という結論は出ているはずなのに、わざわざ反論だけで単行本を一冊作った時点であまりにも無理がありすぎたのだろう、きっと。

「『マッチメイカー』を読むと、非常に言葉の間違いや誤認が多い。チェックしていないということは、まだ自分の中にあるいままで彼が育ってきたプロレス界のホコリとか染みとかアザが残ってるから、誤字をおこしちゃうんですよ」

「誤字があるということは、カミングアウトして、シフトチェンジしてないからですよ。まだまだ俺は昔マッチメイカーだったという、そういう居直りというか奢りがあるんですよ」

こういうまったく意味の通らないターザン発言をツッコミもないまま掲載し、そのくせ「『**さそり固め**』→『**サソリ固め**』」、「『**フリッツ・フオン・エリック**』→『**フリッツ・フォン・エリック**』」、「『**アブドラ・ザ・ブッチャー**』→『**アブドーラ・ザ・ブッチャー**』」（今度は「ザ」が抜けてるよ！）と、非常にどうでもいい部分までいちいち『マッチメイカー』を校正していく。このミスター高橋ばりに適当な仕事っぷりは一体何なのだろうか？　あえてターザン的な解釈をするなら、やっぱり元『週刊プロレス』編集長などの奢りがあるということなのか？

「プロレスファンはすべて、『マッチメイカー』を読んで、一行ずつ全部ダメ出ししなきゃダメだよぉぉぉ」とターザンはそう叫ぶが、むしろボクはターザンの本にこそダメ出ししたくなった次第なのである。

「本を出そうとするんだったら、時代の最先端のものをキャッチして、新しく生まれてきているものをしっかり見据えてさあ、それを論じてやらないと時代から遅れちゃうよ」

これは、つまり『マッチメイカー』が時代の最先端だったということなのか、それともターザンも時代から遅れているということなのかボクにも答え

マッチメイカー
プロレスはエンターテイメントだから面白い
ミスター高橋 著

ミスター高橋がまた書いた!!
プロレス界を揺るがした
大ベストセラーの続編完成
衝撃の問題作第2弾!!
ゼニスプラニング

はわからないが、『マッチメイカー』同様にこの本から編集的センスがほとんど感じられないことだけは事実だろう。

「**新聞というのは手段であるわけですよ。宣伝媒体でしかない。そこに深い意味はないんですよ。チェックするだけでいいんですよ。俺だったら5秒ですよ。見出しを見た時に『あぁ、なるほど』って、それだけで済む話ですよ**」

この手のターザンらしい隙だらけな発言部分だけでも、同じ語尾が連発されるとリズムが悪くて読みにくくなるのに直さない編集の怠慢やチェック不足が露呈していると逆に読者から突っ込まれてもしょうがないはず。

ミスター高橋本収録の「他団体のリングに上がってジャブ（負け役）を演じるということは、すなわち魂を売ることだ」という新日とUインターの対抗戦をモデルにした小説部分の記述に対しても、「**俺からするとジャブすることは全然魂を売ってはいませんよ。ジャブしなかったらプロレスにならないんだから**」と、まずはターザンがプロレスがショーであることをあっさり肯定。さすがはターザン！

そこで、聞き手が「**高田選手も10・9で武藤選手に屈辱的な負け方をしましたけども、彼は今年、同じく東京ドームで華々しく引退しているわけじゃないですか**」という意味不明なフォローを入れるのも、どうかと思うのだ。あのとき団体のために高田が魂を売ったことと、田村潔司戦で華々しく引退したことには何の関係もないって！

さらには「**もう救えないよ、この人。自意識がエゴイストですよ！**」というストレートなミスター高橋批判も、「エゴイストのお前が言うな！」と読者が突っ込むこと確実なのであった。

ここが変だよ ミスター高橋！

ターザン山本

Mr.高橋に告ぐ

お前こそカミングアウトしろ！

byターザン山本

こんな調子の批判というか無理の感じる言い掛かりをさんざん繰り返した挙げ句、最後にターザンは「**高橋さんの手による第二弾は、かなりテンションが落ちた本になっている。たぶんこの本を読んだ人は拍子抜けしたと思う。もうちょっとなんとかならなかったのか？**」「**正直に言うと高橋さんには、もっとましなものを作ってもらいたかった。こんなボロが多い本は、ケンカのしがいがないというものだ**」と馬鹿正直に本音を暴露。

要は、ターザンがテンションが上がらないまま無理矢理ケンカを仕掛けてとりあえず本を作ったらしいことが、ここで明らかになるのであった。つくづく商売人だよなあ……。

「**こんな形で今、小競り合いをしている場合ではないのだ。もっと他にやることがあると思いませんか？ あるでしょう？ それに気付くべきですよ**」

自分から小競り合いを仕掛けておきながら、この言い草！ なんだよ、それ！

しかも、最後はこう言いだすのである。

「**じっくり考えているヒマはない。一気に攻略本を作る。突貫工事でいいのだ**」

そう。これはターザン日記によると「わずか11日で作った本」。そんな自分を棚に上げて他人のズサンな本作りだけは批判するターザン、恐るべし！

「**要するに本はいかに作るかがすべてである。高橋さんの場合は誰と手を組むべきかである、優秀な編集のプロを見つけること、これをすすめる**」

ここまで言うんだったら、この本にはよっぽど優秀な編集のプロでも付いていたのだろうか？ またもやターザン日記から引用してみよう。

「この本の編集責任者である弟子の歌枕（力）が今回、原稿起こしを一揆塾の塾生に3、4人にふって仕事を手伝ってもらった。このやり方をとらないと本が12月24日発売に間に合わない。私が校正した直しの打ち込みも塾生たちが徹夜でやってくれた。よってミスター高橋の攻略本は歌枕をトップにした一揆塾制作という形になった」

……って、おい！ 自分こそプロじゃない編集者をトップに据えた上に、アマチュア軍団を使って本を作ってるんじゃん！ 隙だらけすぎんだよ！

思えば前回のミスター高橋攻略本『プロレスファンよ感情武装せよ！』のときも、ボクとターザンとの対談のまとめがイマイチだったので大幅に原稿を直したら新紀元社側の編集者の手違いで直す前の原稿が本になったことを思うと（イベントでのみ、直しが入ったバージョンを配布。欲しい人がまだいるようなら、次号の読プレにでも出します）、編集者云々を批判し始めたらどんどん自分の首を絞めていくはずなのであった。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第19回

俺だけを見ていればいいんだ。

I ♥ INOKI

今月イチバンおもしろかった作品とその作者

静岡県磐田郡　**目ガ覚メタロウ**

★目ガ覚メタロウさん、採用オメデトーッ!!　御希望の「星野総裁」Tシャツ(M)、お楽しみに!!　上のイラストは蝶野選手&イズマイウ選手です。一応、念の為。
★Q.「ほんとにジョーク」の最低限のルールみたいなのはありますか、長すぎる文はのらないとか、下ネタはNGとか、もしできたらでいいのでおしえて下さい。純粋に。(広島県 大西聡太さん)
A.面白ければ何でも良いのです。純粋に。公平をきす為に、最近は編集部の皆さんが選んで下さっているのです。だから詳しいことは正直、解らねぇんです。ちゃんと答えられなくて正直、スマン。
★抽選で5名様に「中川雅博手づくりステッカー」を、採用された方にはTシャツをプレゼント!!

➡前号のTシャツ ボブ・サップ

BEAST

応募方法
プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ(S･M･L･XL)をハガキに書いて下さい。〈例〉佐々木義人のL

『東スポ』プロレス大賞と同じく
『紙プロ』MVPも
ボブ・サップ

カミーップロォ!!

「桜庭MVP問題」から2年——。
初の外国人選手の選出で、開かれつつある『東スポプロレス大賞』であるが
髙田延彦の名を刻まぬ
02年など絶ッ対に認めん!!

読者と識者が本音で選ぶ

『紙のプロレス』大賞2002

KAMI-PRO AWARD 2002

『紙のプロレス』大賞とは、業界のしがらみや政治力を一切排除して、
純粋なる読者からの投票で決定するたいそうな賞です!
応募総数1459通から、2002年のMVP・ベストバウト、
そしてワーストレスラー&ワーストバウトも決定しちゃいますよ!
シムフフフフ!

TAKADADOJO PROFESSIONAL WRESTLING

格闘技系以外でホーガンvsロック

感動の髙田vs田村がブッチギリの1位!!

02.11.23／『PRIDE.23』／東京ドーム

高田、失神!!
打ち抜いたのは田村……

ダントツで1位に選ばれたこの一戦。記憶、歴史、時間軸、因縁――数々のファクターを超え、「髙田引退試合」として、この一戦がバーリ・トゥード・ルールで行われたのはまさに奇跡だった。「田村潔司! おまえ、よくここに上がってきたな。よく嫌な役割を引き受けたよ。田村潔司! おまえ男だ!」という清々しい髙田のマイクを始めとして、これからも繰り返し人々に見られるであろうこの試合。「やっぱりベストバウトの中のベストバウトだな」（髙田調）

BEST BOUT
髙田延彦 vs 田村潔司

488 POINT

『紙プロ』大賞02
BEST BOUT 部門

格闘技ベストバウトが豊作だった2002年。ランキングも9試合が格闘技系の試合が占拠した。唯一、ノミネートしたのがホーガンvsロック。どうなる「純プロ」!?

■2002「東スポ」プロレス大賞【ベストバウト】
永田裕志vs高山善廣
（5・2／新日本プロレス／東京ドーム）

02.08.28／『Dynemite!』／国立競技場

人間の可能性をなめるな!!
ノゲイラ、野獣を仕留める!!

ノゲイラの「世界最強」異存なし!! そう印象づけたサップ戦は、『LEGEND』に出場したノゲイラへの制裁マッチと言われた曰く付きの一戦。サップの規格外のパワーに寝ても立っても苦しんだノゲイラだが、スタミナを切らしたサップを追い込み見事な一本で勝利!! その瞬間、国立競技場に地鳴りのような歓声が響き、9万人がスタンディングオベーションで死闘を繰り広げた両雄を讃えた! 凄い! 強い! 面白い! バード（井上用語VT）史上頂点に君臨する試合だ!

2nd PRIZE

215 POINT

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ vsボブ・サップ

感動の高田vs田村がブッチギリの1位!

格闘技系以外ではロックvsホーガンのみがランクイン……。

4th PRIZE 高山善廣vsドン・フライ

155 POINT

02.06.23／『PRIDE.21』／さいたまスーパーアリーナ

お前も入るか?『PRIDE』男塾!!

今年の高山の快進撃はこの一戦から始まった! 本来コールマンvsフライの一戦が予定されていたが、コールマンの負傷欠場により、1週間前に急遽高山がエントリー。膠着試合が続いて大会のテンションが高まらないまま迎えたメインイベントで、壮絶なシバキ合いを展開! シウバもアングリ! 会場大爆発! キッチリ興行を締めたのだ。フライはケンシャム戦に続く激闘で『PRIDE』男塾塾長に就任!

3rd PRIZE ボブ・サップvsアーネスト・ホースト

201 POINT

02.12.07／『K-1』／東京ドーム

サップ、K-1を破壊!!

K-1の象徴ホーストと、K-1ド素人サップの2度に渡る激闘はK-1の歴史を塗り替える、とてつもないインパクトもたらした! スリータイムチャンプのホーストのテクニックが、サップの大振りパンチの軍門に下る! 「まさに大きいことは良いことだ」を地で行くサップに、K-1の恐さを教える奴はいるのか? 教えてサダハルンバ!

6th PRIZE 田村潔司vsヴァンダレイ・シウバ

02.02.24
『PRIDE.19』
さいたまスーパーアリーナ

78 POINT

田村、『PRIDE』初登場!

『PRIDE』初参戦となる田村が、いきなりシウバのミドル級王座に挑戦するという、まさにドリームステージなマッチメイクは、決定した途端に物議を呼びまくった。田村は残念ながら敗れたが、この後ボブ・サップ戦、高田引退試合と、昨年の『PRIDE』の裏キーマン的な活躍を見せた

5th PRIZE ミルコ・クロコップvsヴァンダレイ・シウバ

02.04.28
『PRIDE.20』
横浜アリーナ

87 POINT

ミルコ、シウバをクリア!

特別ルールの3分5Rとはいえドローに持ち込み、必殺左ハイでシウバをグラつかせるなど、ミルコの潜在能力が高さが光った闘い。リスキーな場に出てきてたミルコもミルコだが、送りだした石井館長の英断も素晴らしい。館長は見事、博打に勝ったのだ

8th PRIZE 須藤元気vs小比類巻貴之

02.02.11／K-1 J-MAX／代々木第二競技場

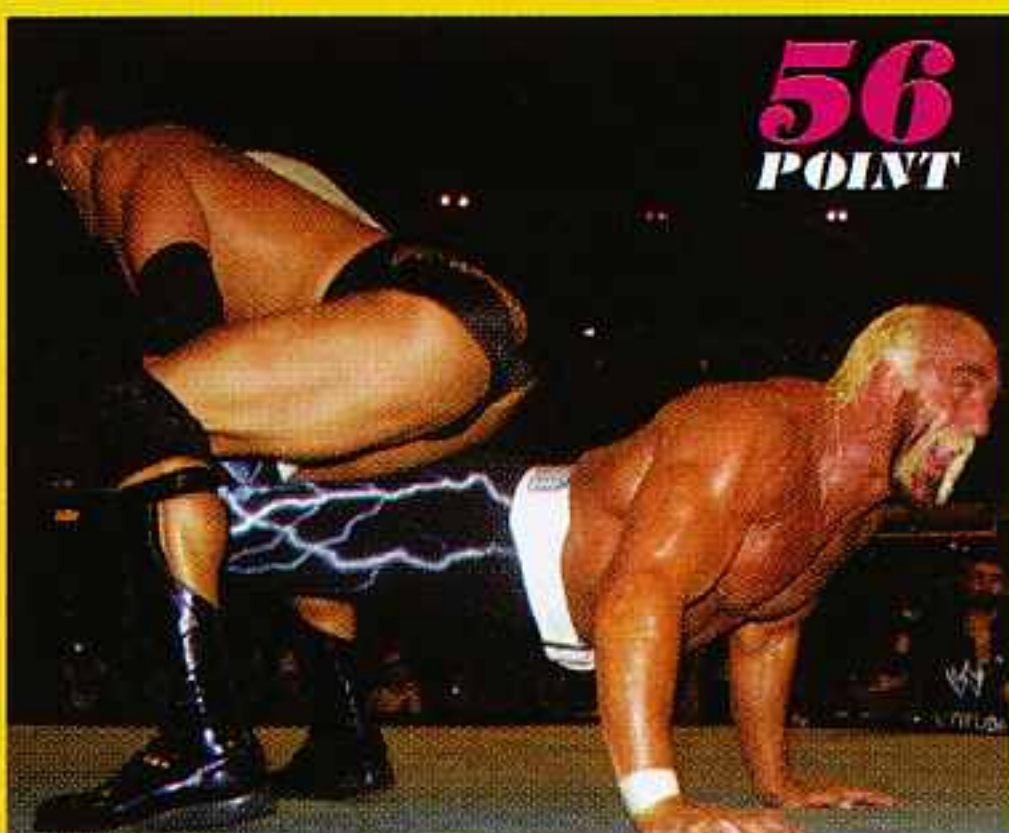
45 POINT

爆発のK-1中量級!

昨年は魔沙斗、小比類巻らK-1ミドル級戦士が華を咲かせたが、須藤元気もトリッキーな動きと持ち前のプロ根性でK-1ミドル級をにぎわせた。圧倒的不利とされた小比類巻戦では、バックブローで2度もダウンを奪うなど、敗れるも強い印象した。強さと魅せる力を合わせ持つ、貴重な人材である。

7th PRIZE ザ・ロックvsハルク・ホーガン

02.03.17／レッスルマニア／カナダ・トロント　スカイドーム

56 POINT

ホーガン復活!!

WWF新旧スーパースター対決は、天文学的収益を誇る地球規模的イベント・レッスルマニアで行われた。ヒールのはずホーガンだが、その悲哀溢れる姿にいつのまにか大歓声が浴びせられ、逆にロックがブーイングを浴びる展開に。ロックが勝利したが、ホーガンのオーラがロックを上回った一戦だった

WORST BOUT

ある意味、インパクト大だったってことですよ! ワーストバウトです!

1. 小川直也vsマット・ガファリ（8・8『LEGEND』）
2. 菊田早苗vsアレクサンダー大塚（4・28『PRIDE.20』）
3. 蝶野正洋vs三沢光晴（5・2新日本プロレス）
4. 小川直也vs佐々木健介（1・4新日本プロレス）
5. 吉田秀彦vs佐竹雅昭（12・31『猪木祭り』）

10th PRIZE 和田良覚vsアステカ

02.03.30
『DEEP』
愛知県体育館

42 POINT

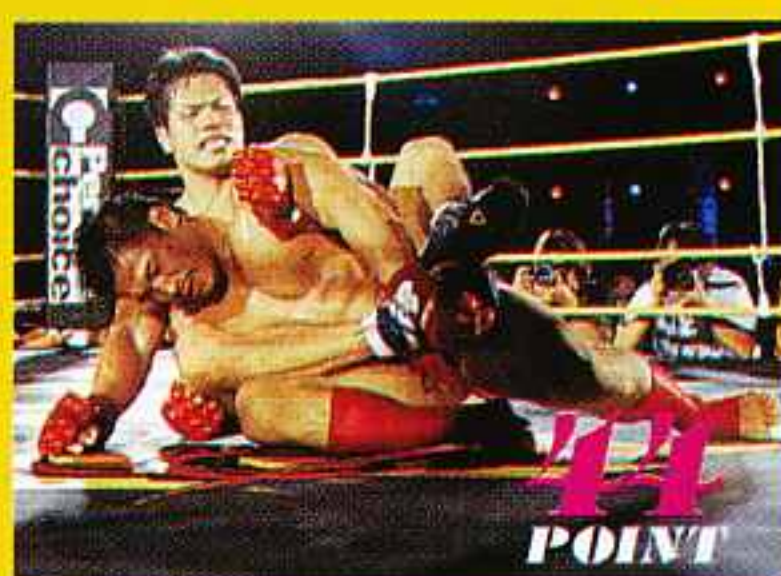
君は和田最強伝説を見たか?

世界に轟くインチキレフェリーといえば島田裕二だが、世界に轟く最強レフェリーの和田さんがホンバン撮影に挑んだ。もとい、試合に挑んだ。この日一番と言っていい歓声を浴びたのも凄かったが、この一戦がベストテン入りしたのも凄い

9th PRIZE 田村潔司vs美濃輪育久

02.09.07
『DEEP』
有明コロシアム

44 POINT

赤いパンツの頑固者対決!

ん～、ディープッ!! この一戦の後の閉会式では「UWFメインテーマ」が流れ、U系ファンに歓喜の涙を流させたこの一戦。まさに“プロレスをベースにしたバーリ・トゥード”の真骨頂的展開は、純バーリ・トゥードにはない数々の名場面を紡ぎだした。ん～、ディープッ!!

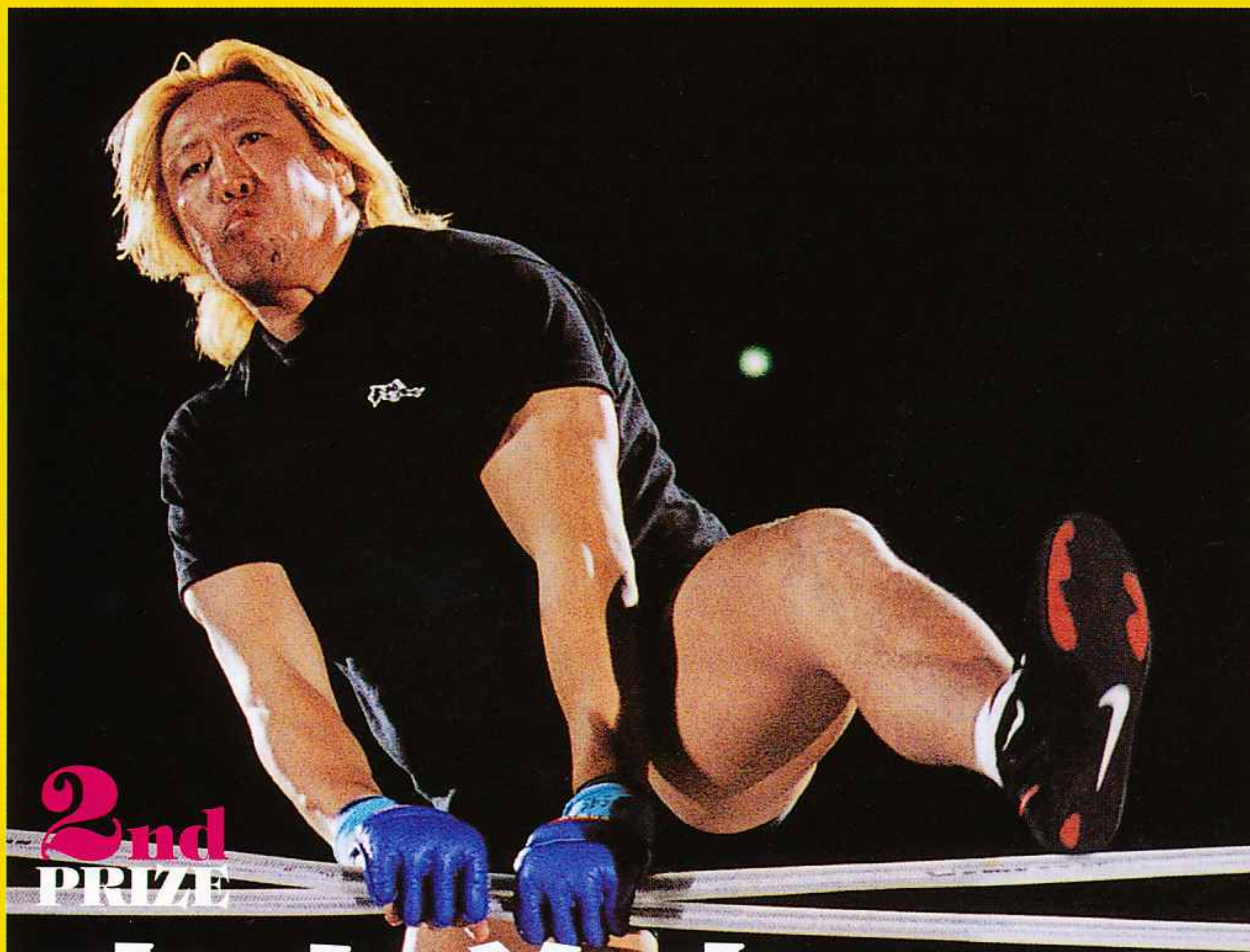
大晦日決戦を制したサップが『紙プロ』も制圧!!

御大! 川村社長&星野総裁が堂々の選出!

『紙プロ』大賞02 BEST WRESTLER 部門

昨年に引き続き、「東スポ」プロレス大賞と同じ結果になったMVP。ただし、ウチには川村社長や星野総裁がいますからね!（なぜか偉そうに）。

■2002「東スポ」プロレス大賞【MVP】
ボブ・サップ

MVP ボブ・サップ

284 POINT

神様、仏様、サップ様!! 今年もぶっちぎりで独走か!?

とにかく「ボブ・サップ!」とか騒いでいれば、どうにかなった感があった2002年下半期マット界。デビュー半年で冠番組を持つまでに昇り詰めたビーストの視聴率男ぶりや、観客動員力は凄まじいの一言! もちろんリング上での実力も、プロレス、K-1、『PRIDE』、ファンタジーファイト、そして人形劇と、様々なジャンルでの大活躍! MVP獲得は当然だ!! 今年のマット界、サップの実力&人気を越えるファイターは現われるのか!?

2nd PRIZE 高山善廣

245 POINT

全身プロレスラー、サップにあと一歩及ばず!!

『猪木祭り』でのリアルMVP決定戦ではサップに敗れたが、身体を張った恐いもの知らずぶりに票が殺到した高山。そもそも今年高山が出場したフライ&サップとのバード（井上用語でVT）は、両試合共急遽出場なのだから恐るべしはその強心臓! 「プロレスラーはどうあるべきなのか?」という姿勢を見事に体現する、全身プロレスラー振りは今年も大いに期待できる!!

仰天!! 川村社長&星野総裁が堂々の選出!!

大晦日決戦を制したサップが『純プロ』も制圧!

4th PRIZE 田村潔司

167 POINT

運命の一戦を終えた頑固者はどこへ……

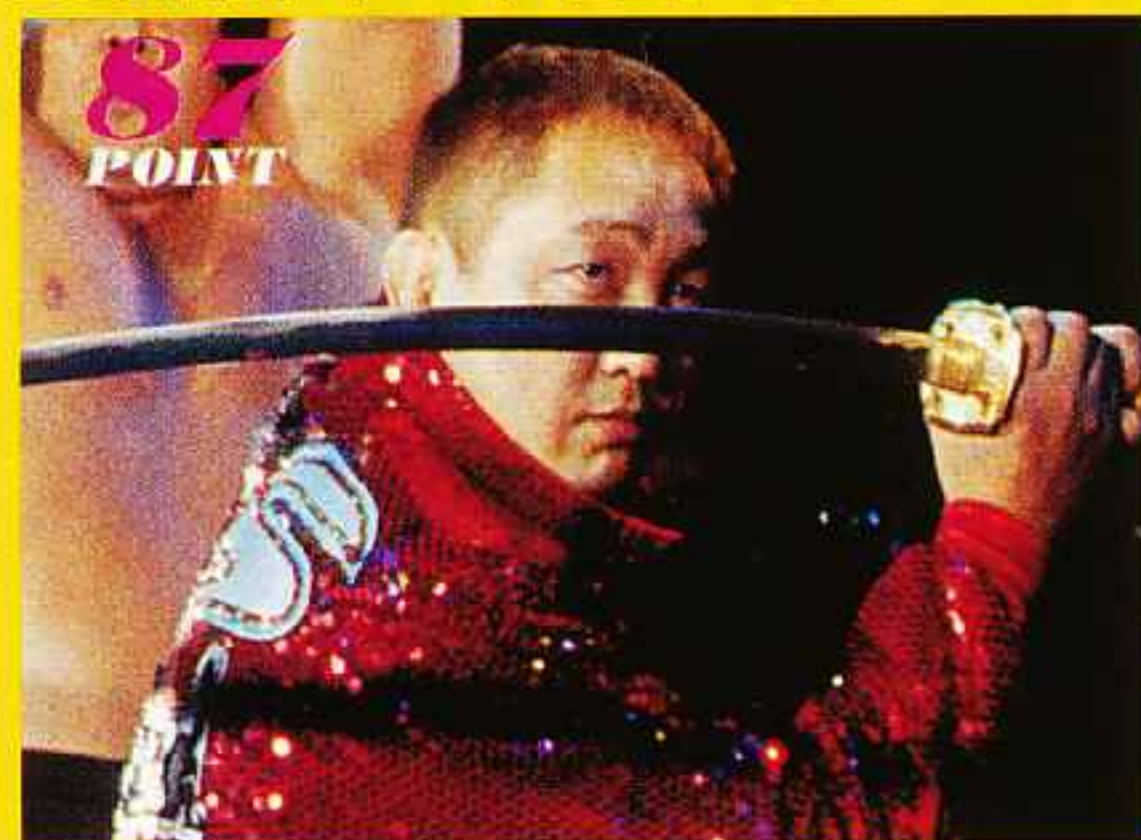
今年の田村さんは本当によく働きました! 一番のインパクトは『紙プロ』大賞 ベストバウトに輝いた髙田戦ですが、その運命の一戦以外にも、緊張感溢れる闘いとなったシウバ戦、倍の体重のハンディを背負い臨んだサップ戦、大物日本人対決となった美濃輪戦。そしてU-STYLEの発進と、年間を通して活躍しました。あとは『紙プロ』田村Tシャツを着て試合に臨めば、完璧だと思いますよ。

3rd PRIZE 髙田延彦

213 POINT

ありがとう髙田　さようなら髙田

「お前が男だよ、髙田さん!!」。誰もがそう叫ばずにはいられなかった壮絶なる引退試合! そして、「感動を、もう一丁ッ!」と誰もが叫ばずにいられないが、嗚呼、もう髙田総裁の試合は見られない! 今年は一試合しか消化してないが、髙田総裁が歩んだきた道程を考えれば、1年の枠で収めるのも失礼な話かもしれない。本当にお疲れさまでした! こんな偉大なプロレスラーをもう一丁ッ、いでよマット界!

6th PRIZE 大谷晋二郎

87 POINT

熱い男が殊勲のランクイン

ZERO-ONE、そして「純プロ」のリングを熱く燃やしに燃やした大谷が殊勲のランクイン! 「本当か? 本当なのか!?」などと騒がずとも、大谷の団体の垣根を越えた「純プロ」方面の活躍には異論を挟む余地はない。プロレスのうまさを評価する向きもあるが、大谷の行動力が大いに光った1年である。

5th PRIZE アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

145 POINT

誰もが認める「世界最強」の男!!

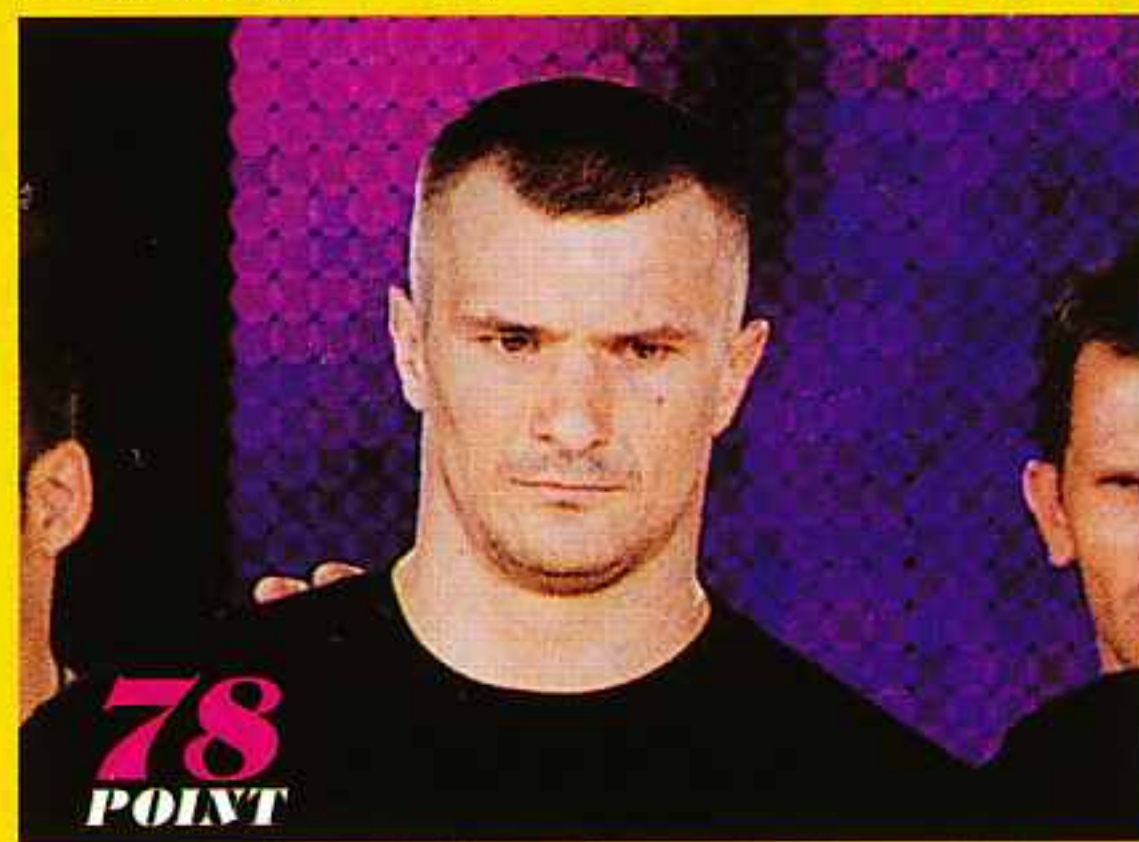
一癖も二癖もあるファイターをことごとく撃破! いつ何時、誰の挑戦でも受けたノゲイラはMVPに届かずとも、誰もが「世界最強」と認める実力をまざまざと見せつけた! 特に真夏の格闘技戦争と呼ばれた8月の『LEG-END』、『Dynamite!』での闘いは、両大会でMVPに輝く伝説の連戦となった。

8th PRIZE 星野勘太郎

62 POINT

新日本から唯一ベストテン入り!

「なめんなよ『紙プロ』!」とばかりに、メジャー団体・新日本所属選手が意地のベストテン入り! 平成の海賊亡霊こと「魔界倶楽部」を操り、下半期の新日本をビッシビシと支えた星野総裁だ!『猪木祭り』でも安田に檄を飛ばすなど、相変わらず究貫小僧な星野総裁には今年もビッシビシやっちゃってくれることを期待します!

7th PRIZE ミルコ・クロコップ

78 POINT

進化するプロレスラー・ハンター

戦前予想では不利と目されたシウバ戦をドローで終え、国立競技場では桜庭を破壊し、大晦日には藤田に何もさせずに返り討ち! K-1ファイターの領域を飛び越えて、一流のトータルファイターとして完成しつつあるミルコ。ギャラの吹っかけ方も一流になったらしく、本当に手強い存在! 次に挑むのは誰だ!?

WORST WRESTLER

イヤよイヤよも好きなうち! そんなフォローを入れつつワーストレスラーです!!

1	佐々木健介	541P
2	さたやん	125P
3	小川直也	98P
4	長州力	96P
5	小原道由	89P

10th PRIZE 川村龍夫

49 POINT

今年もガチンコでやりたいと思います

「全てガチンコ」「小川には絶対やらせます」など数えきれないほど名言を連発し、スキャンダラスな展開となった8・8『LEGEND』の実質的な主人公の川村社長。各団体のトップが全員川村社長だったら夢が拡がるのになぁ。『LEGEND.2』開催、楽しみに待ってます!

9th PRIZE 小川直也

51 POINT

ZERO-ONE戦士オガワ

ZERO-ONE巡業での地方活性化、プレデターとの金網マッチ、「政治力には負けない」発言、レッスルマニア観戦から帰国後の成田で、子供のようにホーガンポーズを連発するなど、いろいろあった小川でしたが、すべてガファリに消されました!

紙のプロレス大賞2002

今年で4回目の開催を迎えた『紙プロ』大賞ーッ!! ここでは『紙プロ』関係者と格闘技&プロレス好きの著名人のアンケートを、ヴァーッ!と、クァーッ!と、マグマにように放出してます!!（健介成田会見調）。(50音順)

アンケート項目

①MVP	➡最も活躍したと思う選手
②ベストバウト	➡最も印象に残った試合
③ベスト興行	➡最も素晴らしかった大会
④ボクのわたしのMVP	➡個人的に賞をあげたい選手とその賞名

©中川画伯

ライター
阿部タケシ

1月に発売された2冊のWWE関連本に参加。WWEDVDHPで連載中。3月にはレッスルマニア19行ってきます。自腹で。tatabe@yahoo.co.jp

①ZERO—ONE外人勢全員
②坂田亘&横井宏考vs佐藤耕平&崔リョウジ（5・23ZERO—ONE後楽園ホール）
③WWEサバイバーシリーズ・エリミネーションチェンバーマッチ（11・17WWE）
④それはちょっと違うで賞➡5・2新日本東京ドームで外国人MVPを受賞したスコット・ノートン

【総括】2002年、なんだかんだ言って強烈な印象とか試合後に満足したのはZERO—ONEだったなぁ。スパーンとのNWA戦から自分的にはたまらないテイストになって、さらに小笠原先生の出場、坂田や横井、インディーの優秀な選手が大挙参戦し、それに質のよい外国人がワンサカ来日したし心地よいプロレスの情景を作ってくれたし。外国人といえば5・2東京ドームでスコットノートンが外国人MVPを受賞?ホーガンは?ハンセンは?ダイナマイトキッドは?アリは?シンは?ブッチャーは?バックランドは?アンドレは?ビガロは?ベイダーは?まぁいいや。2003年もZERO—ONEがばく進しそうですね、ホント。成敗!

活字プロレス創始者
井上義啓

『週刊ファイト』編集長を長きに渡り務め、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルを開拓。その影響を受けた人間は計り知れない。

①ボブ・サップ
②ボブ・サップvsアーネスト・ホースト（12・7K—1東京ドーム）
③8・28『Dynamite!』
④実力NO.1はこの男で賞➡ミルコ・クロコップ

【総括】バーリ・トゥードに対してエンタメプロレスが精一杯の抵抗を示した年。昨年の苦悩が今年のプロレス界に生かされると見る。しかし石井和義、森下直人のお2人がギラリと光った年として永久に記憶に留まる。プロレス界に新旧交代がなかったのが、プロレス界の沈滞気味だったとの印象を強いものにした。逆にボブ・サップ、ミルコ・クロコップ、レイ・セフォーなどの台頭で爆発力を発揮したバーリ・トゥーダーが新星・吉田秀彦を得て不動の位置を確立しているる。ヒクソン・グレイシーの登場がなかったのもグレイシー一族衰退を強く印象づけた。

エロサムライ
大坪ケムタ

本業はAVライター。『紙プロ』ではインタビューとか担当。『ホワイトクリーム』（ワイレア出版）とかでもレスラーインタビューとかボチボチやってます。ソッチはエロまっしぐらですが。

①ボブ・サップ
②ドン・フライvs高山善廣（6・23『PRIDE.21』）
③K—1～WORLD MAX 日本代表決定トーナメント～（2・11代々木第2体育館）
④敢闘賞➡永田裕志

【総括】ぶっちゃけ最近プロレスインポ気味なんすよね……でも実際熱のある所と無い所がキッパリ分かれた一年ってぇ印象。一昨年に比べてパッタリ見なくなった団体も多いしな……。プロレス素人たち相手にメイン試合を組み立てなきゃならない永田はサラリーマンの鑑!　ストレスで倒れないで欲しいです。

本誌『業☆勝ちます!』絶賛連載中
掟ポルシェ

ロマンポルシェ。（アツアツおでんを全身に浴びて派手なりアクションを取ったりするのが本業バンド）のボーイッシュ担当。

①ドン・フライ
②ドン・フライvs高山善廣（6・23『PRIDE.21』）
③メロン記念日ファースト・コンサート『これが記念日!』（12・9赤坂ブリッツ）
④スクーターどころか免許も持ってないので、俺だったら確実に死んでたで賞➡棚橋弘至

【総括】ドン・フライとメロン記念日のことしか頭になかった昨年。今年はもういっそのことドン・フライがメロン記念日に加入してくれないかなぁと思う。そしたらいっぺんに応援できるので楽だ。ドンと高山のセオリー度外視のドツキ合いには試合中ずっと涙が止まらなかった。ドンがメロン記念日に加入したら、やはりリーダーの座をかけて斉藤瞳とバシバシのシバキ合いをして欲しい。実力差があるのは否めないが、出来れば斉藤に勝って欲しい。『PRIDE』のリングでメロン記念日にドン・フライ（男塾塾長）が歌う『This is 運命』を、誰もが観たがっているんじゃないかなぁ。感動させてよ!

ゼロ族デザイナー
笠井修

外人好きの自分としてはヒジョーに気になる『W—1』破壊王がやってたらなぁ、ってボンヤリ考え中の30歳。

①破壊王（社長業）
④MBP（もっともビックリプレイヤー）➡ロウ・キー
新人賞➡ケビン・ランデルマン　小笠原和彦
今年MVP予定➡横井宏考

【総括】旗揚げ当時のZERO—ONEとは全く違う団体に一気に大変身!（たぶん不本意）。空手からサモアまで、小川からドン荒川まで。幅が広いんだか狭いんだか判らない、ZERO—ONEワールドを作った、楽しそうな破壊王に万歳!　社長としてMVP!　今年は横井大ブレイク希望!　机で頭割られて大流血、んで『PRIDE』で軽く勝ってくる。総合からZERO—ONEを何の気負いもなく渡り歩く横井に、明るい未来しかみえません。

『DEEP』嘆きの仕掛人
佐伯繁

今年は110キロから90キロまで落します。とにかくがんばります。正月は付き合いで食べなきゃいけないので、正月が終わってからがんばります（『DEEP』HP佐伯日記より）

①ボブ・サップ
②高田延彦vs田村潔司（11・24『PRIDE.23』東京ドーム）
③『DEEP』すべての大会
④お疲れさまでしたで賞➡高田延彦

【総括】う～～～～～～～ん、難しいなぁ。本当は全部、ウチに上がった選手にあげたいんですけどね!　まぁ、『DEEP』は毎回面白かったと思いますよ。常に何かしら起きてましたし。次の大会も凄いですよぉ～～!　おかげさまで一般発売する前に、VIPと一番安い席は売り切れですからね!　これ書いといてくださいよ。もう完売間近だって。ウチも夏までなんとか生き残れたら、年末に仕掛けますんで期待してください。（談）

伝説の雀鬼
桜井章一

昭和30年代後半、無法地帯であった新宿の雀荘で頭角を現し、裏の世界では知る人ぞ知る打ち手として、圧倒的な強さで20年間無敗に勝ち続けた。勝負中に額の血管が浮き出て鬼の形相になることから、「雀鬼」と呼ばれた。ヒクソンとはマブダチ。

①ボブ・サップ
②ボブ・サップvsアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ（8・28『Dynamite!』国立競技場）
③『PRIDE』シリーズ
④雀鬼賞➡ミルコ・クロコップ

【総括】①一番強いのはノゲイラなんだろうけど、活躍という点から考えるとMVPはサップだな。サップはどのステージでも合わせられるし、スイッチの切り替えができる。見極める目を持ってるよな。ただ、このまま技術を習得して進化したり、勝つことに慣れてくると潰れてしまう気がするね。③『PRIDE』には華やかな花だけではなく、ノゲイラやシウバのように本当に強いしっかりとした葉を咲かせ続けてほしいね。俺は花より、葉の方に価値観を感じるから。『PRIDE』には今後もそれを期待したい。④ミルコは立ち振る舞いが違うね。相手と面が合うとスッと間合いをかわす。藤田と向かい合った瞬間、勝負あったと思ったよ。達人の領域だな。（談）

月曜・水曜、生ゴンキャスター
笹田道子

現在、サムライTV『生でゴンゴン』月曜・水曜に出演中です！

①高山善廣
②武藤vs川田（全日本2・24日本武道館）
③5・2新日本東京ドーム
④熱風賞➡大谷晋二郎

【総括】2002年プロレス界は度々地震に襲われた。選手の退団や引退、怪我による長期欠場など、今まで築きあげられてきたプロレス界に地割れが起こり、その度にファンも動揺してしまっただろう。また、新団体の旗揚げやサップ旋風、『W─1』といった新しい試みなど、新たなプロレスの世界を築きあげようとする強力なパワーに対しても、期待感が高まる中、一瞬、全く今までと違う世界になってしまうのではないかという不安にもかられた。しかしそんな瞬間に頭に浮かぶのは武藤選手の社長就任パーティーでの川田選手のコメント「どんどん新しいものを取り入れてもらいたい。その中で変わらない自分でいたい。昔からのものが残ればファンも残ってくれる」。このコメントのおかげで、プロレス界に地震がおこっても、地表に今までに見ない新たな物が建ってもベースの部分は守られていくことがわかり、全てが前向きな気持ちにとれた。

©中川画伯

TATSUO KAWAMURA U.F.O.

本誌『ザ・検証』絶賛連載中
椎名基樹

34歳、ライター。今年はVTじゃない総合勢の巻き返しにも期待します。ヤノタク＆今成のタッグなど大いなる可能性を感じました。

①アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
②アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsボブ・サップ（8・28『Dynamite!』国立競技場）
③9・7『DEEP』有明コロシアム
④椎名基樹賞➡上山龍紀

【総括】UFCが登場して10年弱、グラップラー刃牙じゃないけど「最強の男が見てみたい」そんな夢に今までで一番近づいたのがノゲイラじゃないか。夢まであと2勝、ヒョードロフとシウバだと俺は思う。ノゲイラvsサップは文句ないだろう。次はグラウンドでの蹴り有りでみたい。過酷だけど最重量級で体重うんぬん言うのは変でしょう。それ入れれば3勝か。上山選手が『DEEP』で見せた一連の闘いはある意味、真の俺のベストバウト。小さい会場でちゃんと見れた、日本人の闘いだから。「上山、強くなったなあ…」そういうと長南選手に「最初から強かったですよ」って怒鳴られそうだけど、いつもそう唸って見てました。あとは、小ノゲイラ、五味。ニュートンvsペレ等、思えば去年は豊作だったなあ。

SMACK GIRL実行委員会代表
篠泰樹

波乱万丈な人生をおくる今年35歳の独身男性。いくつかのプロレス団体を経て現在は女子総合格闘技興行スマックガールの代表。他にも出版社やゲームメーカーで仕事をこなして来た過去を持ち、最近もIT関連の事業をバシバシこなしつつ、エンタテインメント系のプロデューサーとしても走り回る。ここまで来たら最後まで突っ走るつもり。最後に勝てばいいのだと思い込む。行けばわかるさ、ありがとう！

①ザ・ロック（映画出演含めて）
②ハルク・ホーガンvsザ・ロック（3・17レッスルマニア）
③WWE　サマースラム
最優秀スマックガール賞➡辻結花
スマックガール敢闘賞➡金子真理
スマックガールベストマッチ➡しなしさとこ×渡邊久江

【総括】日本プロレス界は新たなる方向性を打ち出さない限り再生構築は完全に厳しい状況になったといえるでしょう。故に個人的には評価対象外です。そんなわけでWWEは相変わらず素晴らしい団体です。ビバ・WWE！　日本に視点を戻すと、ある意味、K─1、『PRIDE』が新時代のプロレスとして活躍した年でした。『W─1』の登場もしかり、苦しみの中から新しいプロレスが生まれようとしている空気は感じます。プロレスの方向性は無限の可能性を秘めているっつーコトで、2003年は私も原点回帰してプロレス興行も手がけようかと考える今日この頃です。最後に、手前味噌ですがスマックガールについて。何だかんだいってイイ感じで興行を開催し続けることができました。これも皆さんのおかげです。応援してくださった皆さん、本当にありがとうございました。まだまだ小さな興行ですが、今年は大物食いするつもりで突っ走るので注目して下さい。今までにない格闘技イベントを生み出したいと企んでます。今後とも何卒宜しく御願い致します。

世界が恐れるカリスマレフェリー
島田裕二

BCGは今年も爆進します。松本人志の肉体改造で有名な足立トレーナーと組んで女性専用痩身コースも出来ます。格闘界のみならずフィトネス界にも殴りこむぞ。詳しくはwww.bcgizm.comで！　さらに本格的にレフェリー養成もするぞ。なりたいやつは奴俺様には連絡して来い！　また、夢のWWE進出も諦めてませんよ。フナキを頼ってこっそり渡米するかも？　まあ去年以上にBCGと島田裕二は活躍すること間違いないね。最後に、お世話になった森下社長が死去された事この場をかりて心からご冥福をお祈りいたします。

①ボブ・サップ＆高山善廣
②ドン・フライvs高山善廣（6・23『PRIDE．21』）アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsボブ・サップ（8・28『Dynamite!』国立競技場）
③ベスト興行　当然、『Dynamaite!』
④さしでがましいですが男で賞➡高田延彦＆田村潔司
塾長賞➡ドン・フライ
猪木ボンバイエ皆勤賞➡ザ・グレート・サスケ

【総括】去年はホントにいろんな夢のカードが見れてファンは得したね。『Dynamaite!』や猪木ボンバイエみたいなボーナストラック興行も有ったし、でも極めつけはふたりのガイジンでしょう。ボブ・サップとドン・フライだね。本当にこの二人がいなければ格闘技界は駄目になってたね。特にドンには男の凄みを見せられたよ。そしてボブはすっかり地上波でも有名人になったしキャラクターもいいけど、実は負けず嫌いの闘志がいいね。誰もが負けると思ったときに発揮する火事場のバカ力！　見ているものを引き付ける魅力がそこにはあるよ。でもその二人に負けてないのが高山！　日本人で唯一その存在感を見せ付けたね。メジャー感もあるし、今年も大活躍間違い無し。残念なのは高田さんの引退！　本当にお疲れさんでした。高田さんがいなければ今の格闘技はこんなに盛り上がってないでしょう。その踏み出す勇気は見るものに感動を与えました。できれば『もう一丁』お願いしたものです。今年活躍する選手予想は、ミルコ、スミヤバザル（朝青龍の兄）ムルアカに違いない！　誰かこの3人に噛み付け、そしてその美味を食らえ！

元祖・アメリカ通信員
ジミー鈴木

アメリカ、メキシコ、ヨーロッパ、そして日本と世界を股にかけて飛び回るプロレス／マスコミきっての国際派記者。

①日本＝武藤敬司　米国＝トリプルH
②日本＝永田裕志×高山善廣（『東スポ』プロレス大賞と同じ）　米国＝サマースラムのトリプルHvsS・マイケルズ
③日本＝該当なし　米国＝レッスルマニア
④殊勲賞➡日本＝小川良成　米国＝ブロック・レスナー
敢闘賞➡日本＝西村修　米国＝ロブ・ヴァン・ダム
技能賞➡日本＝蝶野正洋　米国＝カート・アングル
最優秀タッグ賞➡日本＝大谷晋二郎＆田中将斗　米国＝ブッカーT＆ゴールダスト
特別賞➡ザ・ロック（ムービースターになり大活躍）
最優秀プロモーター賞➡橋本真也

浅草キッド
水道橋博士

紙プロの記事で抜群だったのは、ジョシュ・バーネットのUWFインター論掲載だった。新日本と年契した、プロレスおたく、ジョシュの連載をぜひにでもお願いしたい。

①前田日明
②猪木vs新日本レスラー（2・1新日本・北海道立総合センター）
③8・28『Dynamite!』（東京・国立競技場）
④人間発電賞➡アントニオ猪木

【総括】①2002年は表はボブ・サップ、裏・棚橋で、決まり！　なのだが、あえて記憶の片隅に、忘れがちではあるが、政界から消えた、鈴木宗男のように、RINGS解散でマットシーンから消えた前田日明を。サップに唯一土をつけた、RINGSブラジルのノゲイラが、その強さで輝くたびに、そして、2003年は、RINGSロシアのヒョードルが、日本人ではRINGS高円寺の横井宏考が、ブレークするだろうが、その時こそ、我々は、アキラ兄さんを思い出すべきだ。そして紙プロに前田日明を！！！と声を大にリクエストしたい。②実況、フジテレビ長坂までが、涙で声を詰まらせた、高田延彦vs田村潔司、なのだろうが、あえて、2・1札幌・猪木vs新日本レスラー。史上初、新日本のリングでの公開経営戦略会議事件のやりとりが、レベル高かった。しかも、この日の発言「明るい未来が見えません」などは、なにかと後世に語り継がれるだろう。今の新日本を救うのは、この名言、迷言連発のリング上会議しかない。定期的開催希望!!　③素直に8・28、国立競技場、『Dynamite!』。夜空から舞い降りる、地上に降りた最後のアゴ・ルモア大王・猪木様、9万人の大観衆を神の視点で見下ろす。♪夏の星座にぶらさがって、上から花火を見下ろして…。俺の頭には、aikoのメロディーが流れ、感傷的になっていると、リングで「元気ですかーーッ！」のお題目を済ませた猪木様が、リングサイドの俺たちを見つけ、目が合った、その瞬間、猪木様から、不意に闘魂ビンタを張られた。地上3千メートルから降下した、その興奮、高ぶりか、完全に芯を喰らった一撃に、一瞬、失神した。最高のシャクティーパット。そして、この時以来、俺は、再び猪木以外のことが、目に入らなくなった。④忘れがちだが、2002年、3月12日、猪木ナチュラルパワー4は、世紀の発明記者会見は凄かった！　燃料なしで3～5年動き続ける誘電発電装置「イノキ・ナチュラルパワー・4」！1・2・3ダァーを飛び越えていきなり4号機からスタート！　これさえあれば、鈴木宗男の「国後島のディーゼル発電所」、「ケニアのソンドゥ・ミリウダムの水力発電所」など必要ない！と思いきや、ところが肝心要のお披露目記者会見で動かない。しかもネジが一つ外れたとか。思わず、誰もが猪木様の頭のネジが外れているのかと思った。この大本番で大しくじり。どうってことねぇですよで笑って済ます。これぞ、猪木イズムの真骨頂。しかし、これが。2003年に本当に完成すれば、北朝鮮、いや、全世界のエネルギー問題も解決！だ～！　そして、猪木将軍様の世界統一IWGP構想が実現するのだ。

本誌『ザ・検証』絶賛連載中
せきしろ

①斉藤彰俊
②越中詩郎＆後藤達俊×蝶野正洋＆天山広吉
③維震軍対狼軍団のカードが唐突に組まれたやつ
④個人的なMVP➡小原道由

【総括】去年ベルトを獲ったのは斉藤彰俊選手だけ！　「だけ！」って言っても本当はいろんな選手がいろんなベルトを獲っているんだと思うのだが、応援している選手の中でベルトを獲ったのは彰俊選手しかいない。あとこの前の記者会見（大谷選手とかとやりあったやつ）でもかっこよかったのでMVP。また、結果や内容はどうであれ、元維震関係選手で目立った活躍をしたのは小原選手しかいない！　頑張れ小原！　そういうわけで今年のマット界を予言してみよう。どれか当たるはず！

●越中がまたしても……!?
●高田が大方の予想を裏切り……!?
●知らない間に健介が……!?
●何が気に食わなかったのかわからないが、とにかくミルコが……!?
●間違った日本語を覚えたドン・フライが公共の場で……!?
●天国のアンドレが神様に向かって……!?

紙プロひとり病気部
武田いづみ

どうやらやっぱり病気部。クラブの音楽を「ズンドコ」という擬音でしか表現できない22歳。ホームページ制作中&制作滞り中。

【総括】今年の年明けはクラブにいました。目の前の若者の狂乱っぷりと、お洒落スポットにいる気負いで、カウントダウンの前後30分しかテンション持たず。後から「ここはAVの会社が経営してるんですよ」と聞き、急に親近感を覚えました。敵を知れば、百戦危うからず。このアンケートは毎年迷うんですが、今年は迷うことすらありませんでした。だって試合観てないからね。こんなあたしが答えるのも申し訳ねぇってんで、今年は回答を控えさせて頂きます。すいません。2003年は、「毎週、プロレス週刊誌を買う」が目標です。ウワサでは、私のJ—PHONEの携帯でも「紙プロHand」が見られるようになるのも近いというし…。クラブの一件といい、情報の大切さをかみしめる初春。

狂えるシュート活字王
タダシ☆タナカ

高田馬場在住の元祖シュート活字王。もしくは歌うシュート活字王。昨年、田中正志より改名。

①堀口元気
②高田延彦vs田村潔司
③2・11K—1ミドル級日本代表トーナメント
④プロレスの神様賞⬇高山善廣も凄いがZERO—ONEという新団体を成立させた大谷晋二郎。高橋本が大ヒットした事実。WWE横浜アリーナの成功興味沸きません賞⬇佐々木健介。長州新団体『WJ』「ノアだけはガチ」など。

【総評】①闘龍門革命こそがマット界の主役、有明コロシアムも満員だった!②お前ら男だ!③も大活躍。魔裟斗という新しいスターが公約通り優勝したことでも印象深い。中西百恵が赤いベルトを巻くのは遅すぎ。暗い女子プロレス界の元凶のひとつ、ロッシー小川は逝ってよし。尾崎魔弓&KAORUなど仕事人を揃えるGAEAだけが生き残っているが、カルロス天野と輝優優の加入は勝ち組の増強だった。GAORAで次回放送を必ず期待させた海援隊Dojoは立派。新人賞のミラコレ以下、T2Pの大会も素晴らしかった。地道に支持基盤を増やしているパンクラスは今年化けるかも。郷野聡寛だけにしゃべらせるな! 個性豊かな外人選手を使いこなしたZERO—ONEは特別賞。タブーを破って女子プロをリングに上げた点のみ新日本プロレスを評価。『Dynamite!』で頂点を究めた格闘技ブーム、石井館長お疲れ様でした。

元イナズマ★K
土屋恵介

音楽ライター、プロレス&格闘技探究家。2002年の個人的ベスト取材は、猪木、矢追純一、ブラフマンのイタリアライヴ同行、ライジング・サン・レポートなどなど。あと藤本美貴ちゃんに梅ぼし持ってもらってのポラ撮影、さらには"ウメだーいすき!"のコメントが誌面に載せられたことカシラ。今年はイベントももうちょっと増やそうかと思ってます。でもってイナズマ★Kは、2002年で封印! 土屋恵介で頑張りまーす。

①ロウ・キー
②松永光弘vs金村キンタロー(3・21レインボー・プロ)
③9・16ZERO—ONE ディファ有明(ロウ・キー×スパンキー、橋本&小笠原×大谷&田中の時の)。8・28『Dynamite!』
④ギ能賞⬇レオジーニョ(レオナルド・ヴィエイラ) 勤労賞⬇金村キンタロー

【総括】今年後半、まさしく彗星のごとく現れたロウ・キーは、飛んで良し、組んで良しのパーフェクトな男。まだいたぞ!って感じに外人選手の奥の深さをまざまざと見せつけられました。で、松永vs金村のW★ING封印マッチは、レッスルマニアから帰ってきて翌日だったけど見といて良かったケジメの一戦。ディファの2階から飛んだ松永、それを受けた金村。"W★INGはバルコニーダイヴで始まって、バルコニーダイヴで終わったんだよ!"2人の心意気に涙! そしZERO—ONEは、ロウ・キーvsスパンキー、て金村vs横井、橋本&小笠原vs大谷&田中と、地味ながら好カード目白押し。2日後、福島まで見に行っちゃったくらいだったので。あとは『Dynamite!』。ノゲイラvsボブ・サップは素敵すぎた。個人的MVPは、日本で初のプロ柔術大会GI-UMで、素敵すぎるテクニック(&胴着)を披露したレオジーニョ。あとはやっぱり金村。どこに出ても自分の色を出して、しかも良い試合にしちゃうホント良い選手。その裏にちょっと哀しさが見えるのがまたいいっす。あとは、いろんなものを羅列です。ロックvsホーガン、ブロック・レスナー、レイ・ミステリオ、ドン・フライvs高山、そして高田vs田村!

ネット説教家
長尾メモ8

2002年の格闘技系ネットは、メモ8を中心に回ったと言っても過言ではない。真の批評、真のジャーナリズムは、商業主義とは無縁のネットにしか、既に存在し得ないということを、メモ8が自らの筆力で証明したとも言える。こちとら金貰って原稿書くほど貧乏しちゃいねえんだ。なんてこと書いてるから益々叩かれるんだよな。しくしくしく。総合の未来以上にメモ8の未来が暗い。http://homepage1.nifty.com/memo8/

①佐藤ルミナ
②漆谷康宏vs阿部マサトシ
③12・14修斗ベイNKホール
④どっちが太っているで賞⬇久保さんと佐伯さん

【総括】自分が見ている総合系に限定。『LEGEND』や『Dynamite!』という興行の大型イベント化が進み、格闘技界の中味のないバブルは、年末の石井館長の在宅起訴、年明けの森下社長の自殺で完全に弾けた。誰も食えてない状況だけが、相変らず続いているのだ。総合の未来は益々暗い。そして、気付かされたのは、誰にでも上から与えられる娯楽ではなく、面白いものは自分の感性と足で探せという当たり前の事実。とにかく自分にとって面白かったもの、そういう観点から、ベストは選んだ。佐藤ルミナは陰りどころか、はっきり弱さが見えた今こそ面白い。漆谷vs阿部弟の知る者しか理解出来ない同門対決の緊張感。世界最高峰の技術戦が続出するまで成熟した修斗NKの閑散とした客席。個人賞は、この2人の働きに今年も期待するという意味を込めて。修斗における理想と現実の極端な乖離こそが、総合の現在であり、この修斗と、個人賞の2人とのせめぎ合いこそが、今年の最大の見所になる。

本誌『ほんとにジョーク』連載中
中川雅博

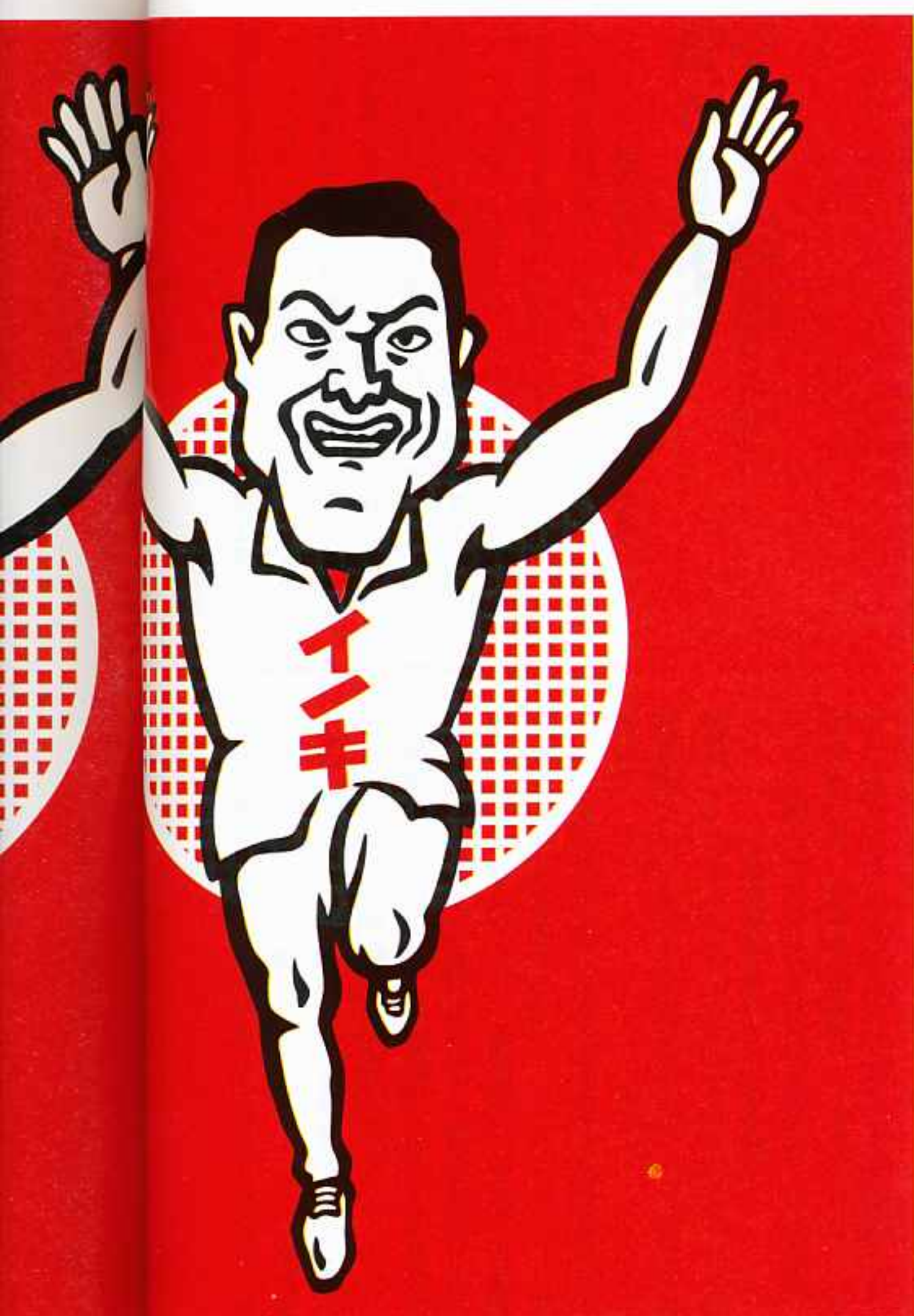
77年埼玉県生まれ。AB型、天秤座。フリーのイラストレーター、穀つぶし。良い絵をたくさん描きたいので仕事ください。仕事がなくて年中ヒーヒー言っています。仕事がしたいよう。何でも描くよう。誰か助けてよう。

①ボブ・サップ
②吉住"SARA"絹代×しなしさとこ(8・4スマックガール・ディファ有明)
③2・15RINGS横浜文化体育館
④ファンタジー・ファイト賞⬇ロウ・キー

【総括】プロレスはZERO—ONE、格闘技はスマックガールがスゴク面白かったです。まだ見たことがない方は是非、生で観戦して欲しいです。ワクワクするよ。①ノー問題。強いし面白いしステキ(ハートマーク入る)②今までに見たことのない、目まぐるしい展開で本当に素晴らしかったです。観戦後一カ月位、幸せな気分でした。是非再戦を!③大好きな第一次RINGSのラスト興行。周りに空席があってさみしかったです。終電に間に合わなくて池尻のお友達に泊めてもらいました。すごく寒くてさみしい夜でした。、まるで格闘ゲームのキャラクターのようなロウ・キー。『ドラゴンボール』の登場人物が実際にいたら、こんな感じなのかなぁとウキウキさせてくれます

本誌『リングの汁』絶賛連載中
花くまゆうさく

最近出た本は『青いオトコの汁』(アートン刊)

①アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ&ミルコ・クロコップ
②アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラvsボブ・サップ ハイアン・グレイシーvs大山峻護 ボブ・サップvsK—1人形
③プロ柔術G—1(5月2日)
④気になっちゃうで賞⬇イズマイウ

【総括】いろいろあって忘れちがちだが、大山戦でのハイアンは、えれぇカッコよかった。あと関係ないが、「真剣10代しゃべり場」に出た時の千原Jrすごかったね。

ひりきな奥さん
真下純子

紙プロと同い年(91年生)の娘が今春中学生に。最近猪木のダーを島木譲二のパチパチパンチと同じ目で見ていることに気付いてちょっぴり寂しいガチガチの専業主婦。

①大谷晋二郎
②小川直也vsマット・ガファリ(8・8『LEGEND』東京ドーム)
③なし
④ベストドレッサー賞⬇星野勘太郎 池上遼一作画風でステキで賞⬇小笠原和彦選手の息子さん

【総括】あるものをあるがまま受け入れた結果、プロレス乾燥肌に磨きが掛かった2002年でした。そんな中で大谷晋二郎選手を正視するのはある種の快感がありました。今年も変わらず頑張って下さい。小川-ガファリは訳あって病院のベッドで朦朧としながら見ました。病院のベッドというものはけったいな夢を見せるのだなあと思っていたらあの試合は夢ではなく現実であったということをあとで知り、爆笑のち愕然。個人的に印象深い試合です。2003年、プロレス界潤い成分早期開発を待ち望む乾いたわたくしなのでした。

「一揆塾」塾長
ターザン山本

2003年、マット界は、大激動の年になるだろう。だが、先のことを考えてもまったく無駄だ。気長に「なるように

TRINITY

SAPP

©中川画伯

イノキ

なるさ！」と思っていたらまず間違いない。そんなことよりも重要なことは、プライベートだ。きわめて個人的な話だが私は今「愛する人のために生きたい」という強い妄想にとらわれている。あくまで妄想である。そして今年あたり小説が書けそうな気がしている。多くの人の私に対する期待にこたえるためにも、私はそれをしなければならない。そういう意味では今年は私にとって勝負の年でもある。

①石井和義
②アントニオ猪木vs長州力
③サムライTV「月曜生ゴン」
④美しき師弟愛賞➡佐々木健介

【総括】2002年MVPは断然、石井館長ですよ。あの『Dynamite!』でエリオ・グレイシーさんを表彰する時、その役をボクにふってくれて、国立競技場のリングに上がることができた。館長をMVPにしなかったら、それこそボクに罰（ばち）が当たりますよ。ありがとう、館長。あの日の感動は一生忘れません。ベストマッチは猪木vs長州ですよ。長州さんが新日本プロレスを辞めると言った時、猪木さんのことをボロクソに批判。人間的に失格だというような言い方をした。だが、その後も世間における猪木人気は上がる一方。びくともしなかった。結果は猪木さんの圧勝。あれは面白かった。だが、長州さんもまだ負けたわけではないのだ。ベスト興行はスカパーのサムライTVがやっている「月生ゴン」。これは私事で恐縮だが、私と浅草キッドがやっているプロレスバラエティ番組。毎週、月曜日午後9時からの90分間、プロレスについて好き勝手なことを言いまくりファンに大好評だった。最後に佐々木健介に「師弟愛賞」をあげなければならない。今時、お世話になったために運命を共にするなんて、現代では美しい奇跡的な話しではないか？　健介は偉いよ。

©中川画伯

編集部

本誌鬼畜編集長 山口日昇

最近、某レスラーに〝失踪する魂〟（not疾走）というキャッチフレーズを付けられた。今年は『紙プロ』を「目ン玉の飛び出るような雑誌にする」と意味不明に吠えまくる39歳。

①橋本真也と愉快な仲間たち
②高田延彦vs田村潔司（11・24『PRIDE．23』）
　ボブ・サップvsアーネスト・ホースト（10・5『K－1・GP開幕戦』）
③5～9月の、ZERO－ONE地方大会
　『Dynamite!』（8・28国立競技場）
④父ちゃん、なんだか涙が出てくるわ賞➡田村潔司
　最優秀ピースサイン賞➡マット・ガファリ

【総括】これまでの枠や既成概念から一歩も二歩も踏み出したビッグイベントである『Dynamaite!』は巨大な遠心力と凄まじい熱を生んだが、『猪木祭り』のときには、その熱が一段階下がった感じがしたのが気になる。『Dynamaite!』、『猪木祭り』、『PRIDE』、K－1を見たり考えたりしていても、最後はなぜか破壊王の顔が浮かんでくる。そんな1年だった。リングの上の裸電球ひとつだけという、懐事情を逆手に取った原始的な演出で〝一見さん〟を熱狂させたZERO－ONEの空間に生まれた熱は素晴らしかった。昨年を振り返ると、メジャーとマイナー、遠心力と求心力、大と小、欲望と無欲、スキャンダルと試合内容、興行と芸術性。やっぱりマット界は反対方向にある両輪が共存しながら、あるいは反発し合いながら転がらないとダメなんだと痛感する。

本誌・進行 松澤チョロ

今年の正月、実家に5年ぶりに帰り同窓会へ出席したところ、飲まされまくり見事に潰され、おまけに携帯を紛失。メモリーが全部吹っ飛んでしまったので、ボクの番号を知っている方、お電話ください！

①辻結花、ロウ・キー
②しなしさとこvs渡邊久江（12・29スマックガールTFMホール）
　橋本真也vs金村キンタロー（12・29ZERO－ONE後楽園ホール）
③ZERO－ONE　ゼロチュー祭り（8・31後楽園ホール）
　スマックガール（12・29TFMホール）
④腹賞（ハラショー？）➡マット・ガファリ
　ショア賞➡剛竜馬
　今年はやるしかないで賞➡小路晃

【総括】①見る度に進化し続ける、この2人がMVP。②誰とやっても破壊王スタイルを崩さない橋本が机で脳天をブチ抜かれたり、有刺鉄線バットでグリグリされながらも最後はブチギレモードで金村を粉砕。その後の冬木との絡みも抜群でした。日本マット界で冬木と絡んであそこまで面白く見せてくれるのは破壊王だけ！　その数時間前に行われたスマック・ライト級決勝戦はハイレベルかつ、わかりやすい寝技vs打撃戦。やっぱ女のバード（井上用語）は面白い！　③中川画伯じゃないけど、プロレスはZERO－ONE、格闘技はスマックガール。2002年もそんな年でした。④弱火3連発。ガファリは見てるとホント幸せな気持ちになります。ガファァ。時事ネタとして書いてみたものの剛竜馬は2002年は活躍してませんでしたね。今年は裸一貫（ビデオじゃなくて）、頑張ってもらいたいなと。小路には去年も同じ賞をあげたのですが、あまり目立たなかったので、もう一丁！　年賀状にも「今年はぜったい僕の年にします。やります」と汚い字で書いていたので、その言葉を信じてみよう、そうしよう！

本誌・鬼軍曹 堀江ガンツ

一昨年はメキシコ、アブダビと、会社の金で海外出張に成功したが、昨年は不発。今年はリングスロシアの巨大スポーツ施設探訪と、アブダビブラジル予選の取材で世界に飛び立ちます。

①アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
②ミラノコレクションATvsドン・フジイ（6・6T2P後楽園ホール）
　ジェラルド・ゴルドーvsスティーブ・コリノ（5・3ゼロワン愛媛）
　菊池毅vs星川尚浩（1・6ゼロワン後楽園ホール）
③3・30DEEP愛知県体育館

【総括】①あえて選ばない人が多いと思うが、エンセンに始まり、菊田、サップ、シュルト、ヘンダーソンというとんでもないメンツにすべて一本（KO）勝ちし、試合もすべて面白いのだから、ここは素直にノゲイラを選ぶべき。この最強王者と〝我らが〟ヒョードルの史上最強の一戦が見られたら、もう21世紀は終わってもいい（早すぎ）。②いずれもコテコテの純プロレスながら、緊張感、殺気、興奮度がバード（VT）並で、しかもエンターテインメント性も抜群という、これからのプロレスにもっとも必要と思われる要素にあふれていたから。③もう「ビバ、メヒコ！」この一言。佐伯さん、ソラールもう一回呼んでください！

本誌・雀士 ジャン斉藤

プロフィールもろくに書く時間もない、〆切りにタップ寸前の27歳。

①田村潔司
②エメリヤーエンコ・ヒョードルvsヒース・ヒーリング（11・24『PRIDE．23』東京ドーム）
③アントン成田会見
④ガチンコ賞➡川村龍夫UFO社長

【総括】①よく、このリングに上がってきたな！と思わせる試合が続いたから。②隠し撮りされた虐待ビデオを見るような衝撃を受けた！　ヒョードルはサップも壊しそうですね。③一昨年ほどの暴走はなかったが、それでも刺激的このうえなく、『紙プロ』ですら掲載不可能な発言が炸裂するアントン会見は、やっぱり最高。ベストは動かなかった「電気」会見。④バード（井上用語）をゴールデンタイム、しかも生中継で放映に至らせた手腕を評価。近代スポーツ史上に残る開催宣言「全てガチンコでいきたい」もすばらしい！

本誌・女 ささきぃ

昨年2月入社の紙プロ電気部員&読者ページ担当。携帯サイト『紙プロHand』iモード加入による、〆切続きの仕事スケジュールから過食&爆眠で現実逃避する27歳。

今年こそダイエットします。ヴァーッ。

①桜庭和志
②大谷晋二郎&田中将斗vs金村キンタロー&黒田哲広（6・29札幌テイセンホール）
③8・27『Dynamite!』国立競技場
④これからもZERO－ONEをよろしくお願いしますで賞➡トム・ハワード&ロウ・キー

【総括】MVPは、世間、風評、立場、その他すべてと対決するしんどいリングに戻ってきてくれた桜庭選手に。ベスト興行は、リズム、余興（アントン）、試合展開、夏の夜空の高さ、大勢の観客、そしてアン・ハッピーエンド、奇跡のようなあの大会に。ベスト試合は札幌で行われたこの一戦。息をつくヒマもない、素晴らしすぎた試合でした。個人賞はそのまんま、ガファリの面倒を見てくれたハワード先生と、天才ロウ・キーがこれからもZERO－ONEにいてくれますように。

©中川画伯

本誌・力士 スモーノブ

『紙プロ』を辞めて1年8ヵ月、なんの因果か電気部に戻って参りました。ビッシビシ情報を配信する携帯サイト『紙プロHand』をどうかよろしく！　貴乃花関、おつかれさまでごわす。

①ボブ・サップ
②ザ・ロックvsハルク・ホーガン（3・17カナダ・スカイドーム）
③3・1WWE横浜アリーナ
④日本マット界はまずはこれをパクりま賞➡『WWE DIVA UNDRESSED』（DVD）
　ホントに熱いで賞➡炎武連夢

【総括】MVPは文句なし！　ノブ・サップに改名しようかと思いました。ベストバウトは会場で見たかった……。もはや昨年は何があったのか思い出せないくらい1月は話題がテンコ盛りですが、いろんな会見に取材に行って思うのは健介という人間が正直、キュート！ってこととWJ福田社長がマグマのように熱い男だということ。余裕で炎武連夢に入れる！

“ハン最強の弟子”PRIDEデビュー戦でまさかのKO負け！ されどこの男を見限るのはまだ早い！

「ハン、コピィロフらがリングスで築いた素晴らしい歴史をボクやヒョードルが受け継がねばならないと思う」

聞き手／堀江ガンツ
撮影／乾晋也
designed by hisa (Two Three)

KV

――昨日は残念な結果になってしまいましたが、一夜明けてアリスター・オーフレイム戦の感想はいかがでしょうか？

アターエフ　とても残念だよ。あまり言い訳はしたくないけど、こんな結果になってしまったのは、やはり今回の対戦に対して準備期間があまりに短く、準備不足だったことが原因だと思う。まぁ、自分が望んで『PRIDE』に参戦したわけだから、誰のせいでもないけれど、試合の5日前に対戦相手変更を知らされたり、悪い条件が重なりすぎたんだ。

――今回はアターエフ選手が参戦を立候補した形だったんですか？

アターエフ　そうだね。今回の『PRIDE』というのは、僕たちのチームの一員であるエメリヤーエンコ・ヒョードルが、ノゲイラと対戦するはずだったんだけど、彼がコマンド・サンボの大会で怪我をしてしまったために、ロシアのチームの誰かがヒョードルの代打で出なくてはいけないという状況になったんだ。それで大会の15日前にパコージンさんから「やってみないか」という話をもらったんで、もちろんその話を断る理由もないし、自分自身「やってみたい」という気持ちで参戦を決めたんだ。

――でも、よく15日前のオファーで受けましたね？

アターエフ　15日前といっても普段から常に練習は欠かしてないからね。アマチュアの大会に出るなら何も問題ないけれど、やっぱり『PRIDE』のようなプロの試合で、しかも実力者を相手にする場合は、15日は少なすぎたね。しかも試合の5日前になって相手がアリスターに変わったと聞かされて、準備的にも変えなければならないし、精神的にも気持ちを切り替えなくてはならなくなった。しかもアリスターに関する情報もまったくない状態だったんで、さすがに無理があったね。

――実際にアリスターと闘ってみた感想はいかがでしたか？

アターエフ　非常に強い選手だったよ。立ち技、寝技ともに優れたバランスのいい選手で、スタミナもある。だから、僕は別に今回の結果をすべて準備不足のひとことで片づける気はないんだ。みなさんが昨日の試合を見ていただいてもわかったように、1Rは自分なりに試合をコントロールできたと思うし、何回かいい打撃がみせることができたから、決して悪い試合をしたつもりもないしね。ただ、1R後半から2R始めの方は、グラウンドでの闘いを強いられたので、なるべく無駄な力を使わないよう

ロシアの殺戮狼

ヴォルク・アターエフ

アターエフ『PRIDE』デビュー戦でまさかのKO負け！　リングスが産み落とした最後の怪物として、
あのヒョードルと並び称される“ヴォルク・ハン最強の弟子”アターエフであるが、
なれない『PRIDE』ルールに大苦戦し、悪夢のKO負けをくらってしまった。しかし、この男の実力は
まだまだこんなものではないはず！　試合翌日、アターエフとRTTパコージン代表を直撃した。

VOL ATAE

RUSSIAN
TOP
TEAM

にして、スタミナを温存して、3Rに打撃で勝負をかけるつもりだったんだ。しかし、残念ながら、彼のヒザ蹴りがミゾオチに入ってしまい息ができなくなってしてしまった。それ以外のダメージはほとんどなかったんだけど、KOされたのは事実だから仕方がないね。今日のところは彼に拍手を送って、また練習して出直すよ。

——潔いですねぇ。

パコージン　今回のアターエフ参戦について、ちょっとマネージャーの立場から補足させていただきたい。みなさんご存じのとおり、アターエフは散打の世界王者として、普段は散打の練習に最も力を注いでいる選手で、プロの競技としては『K—1』参戦を第一目標にしており、グラウンドの練習時間というのは十分に取れてはいなかった。だから彼のグラウンド技術がまだまだ足りないことは我々もよくわかっていたけれども、一方で勝負はやってみなければわからない、アターエフならなんとかしてしまうのではないか、という期待もあったので出場を承諾したんだ。だから私は今回の結果がすべてではないと思っているし、次回はしっかりと準備をさせて、彼の本当の実力を日本のファンのみなさんにお見せしようと思っている。

——パコージンさんから見て、昨日のアターエフvsアリスターという試合はいかがでしたか？

パコージン　非常に才能がある若い選手同士のレベルの高い試合だったと思うよ。ただ、我々が少々アリスターの実力を甘く見ていたことが悔いが残るね。

しゃべり出したら止まらないＲＴＴパコージン代表。アターエフは途中ですっかり飽きてる。

——アリスターを見くびってましたか。

パコージン　もちろんアリスターに関しては、リングス・オランダの選手だったこともあり、彼に関する情報がまったくないというわけではなかったのだが、彼が最後にリングスに参戦してから2年間という時間が経っていて、その2年の間に彼が大きく成長したことが誤算だった。我々にとってアリスターのイメージは2年前の彼でしかなかったわけだからね。

——やはりアリスターの成長には驚きましたか。

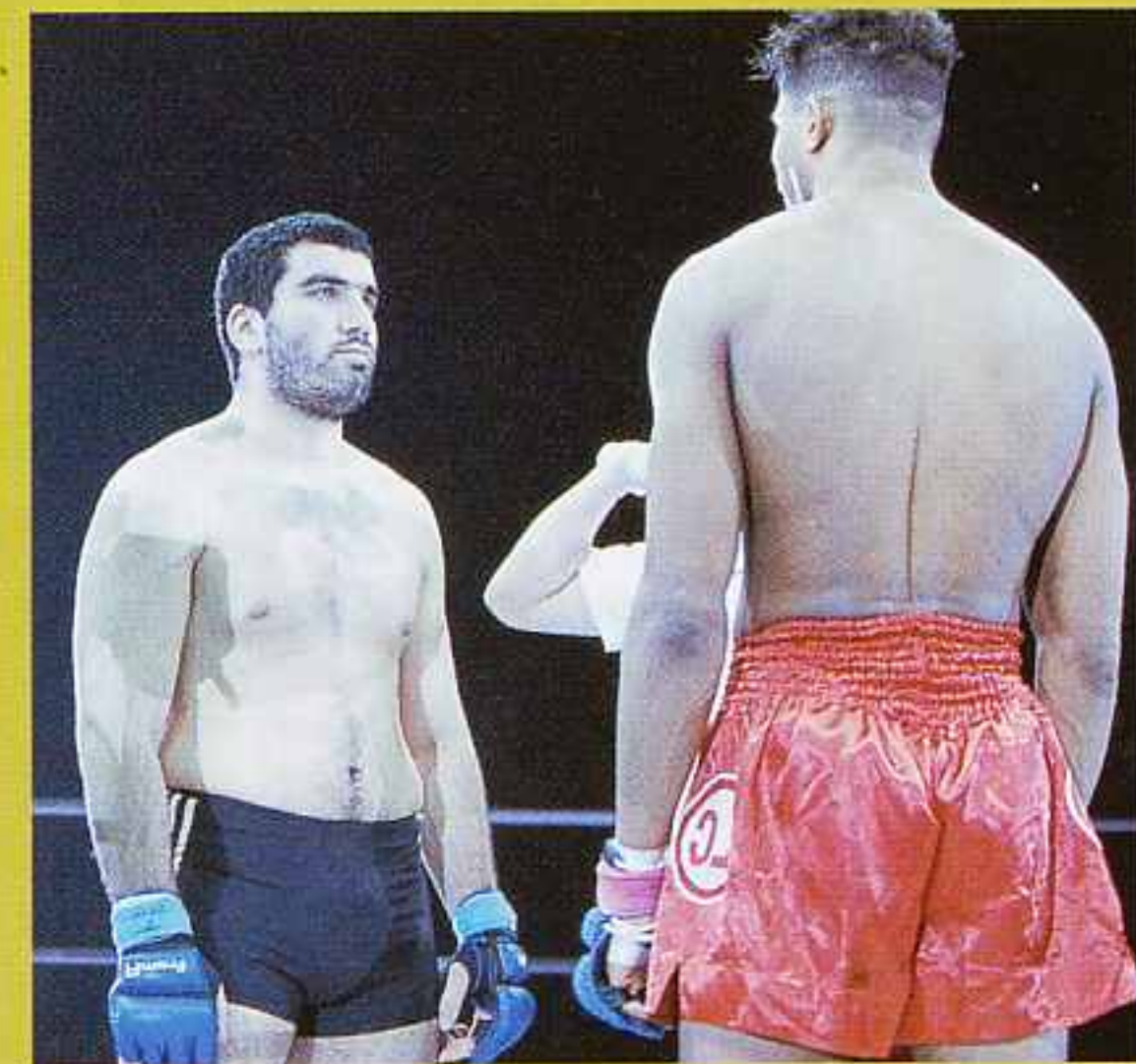
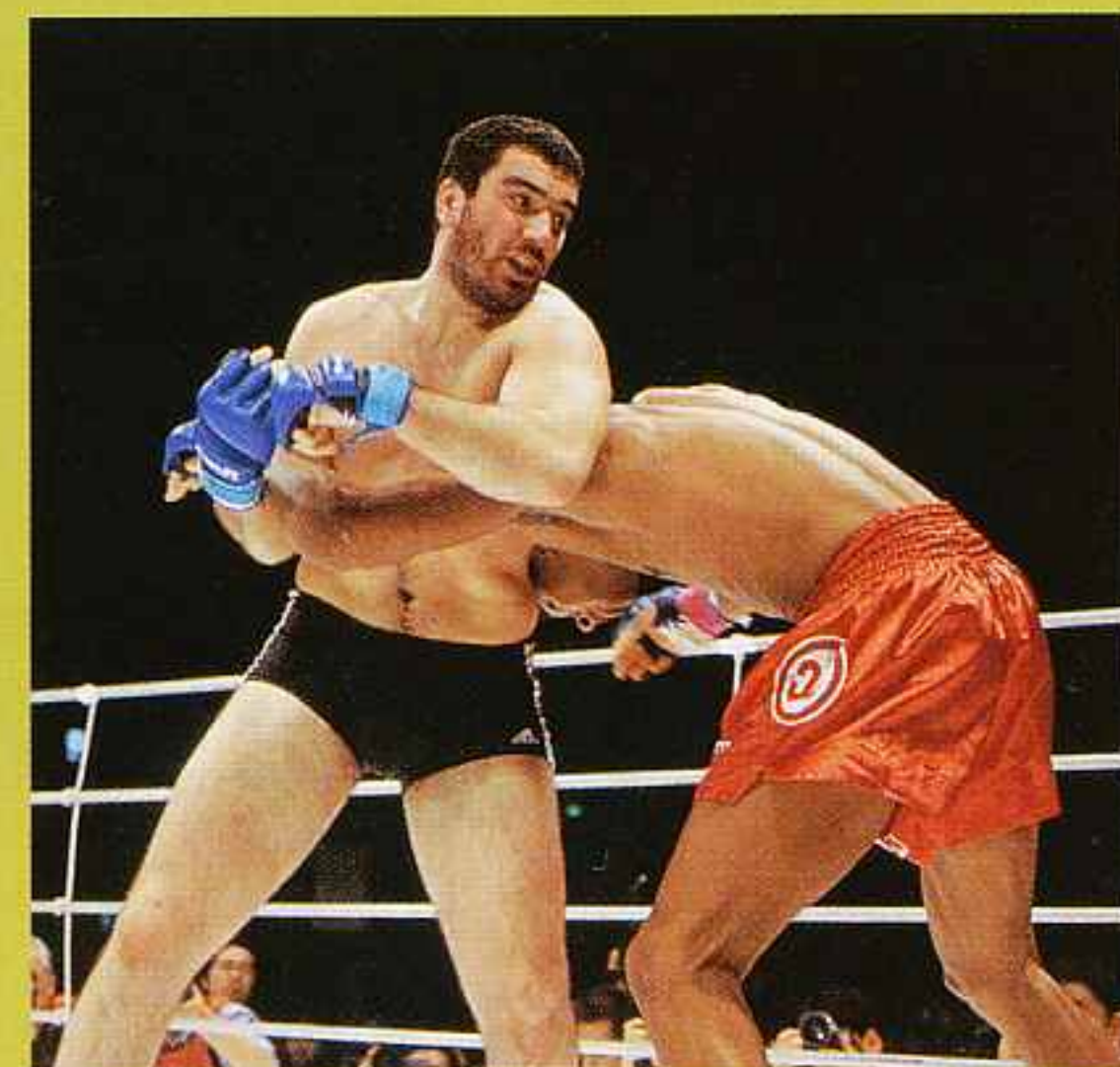
パコージン　正直言って、あそこまで成長しているとは思わなかったよ。だから今回、ノゲイラからアリスターに対戦相手が変わったという知らせが入ったとき、我々もノゲイラからアリスターということで、やはり気持ちの上で少しリラックスしてしまった部分があると思う。というのも、『PRIDE．22』に参戦したラバザノフ・アフメッドが、以前エカテリンブルグの大会でアリスターに勝っているし、コーチキン・ユーリーもリングスKOKトーナメントで彼を破っているんだ。

アリスターにはコーチキンとラバザノフが勝っているので少し見くびっていた

——ああ、確かにそうでしたね。

パコージン　だから、どこかで「アターエフが負けるはずがない」という気持ちがあり、ノゲイラ戦でなくなったこともあって、気を緩めてしまったところがあるんだろう。そういった意味で、今回の敗因は、我々がアリスターの実力を事前に評価できなかったことと、やはり何度も言うようだが、短い準備期間があげられると思う。

——今回は、ヒョードル選手欠場による突然のオファーだったわけですけど、グラウンドの練習が不十分なアターエフ選手の出場を回避し、代わりに例えば寝技の強いイリューヒン・ミーシャあたりを出すことは考えなかったんですか？

パコージン　確かにミーシャはグラウンドのテクニックも持っているし、今回のヒョードルに代わる選手として、私の頭の中にあることはあったよ。しかし、残念ながら、ミーシャもちょうどヒザの皿を悪くしていたこともあって、そんな状態でノゲイラと関節技の勝負で闘わせることは危ないということで今回は見合わせたんだ。それからミーシャ以外にも若い選手を育てており、彼らももちろん『PRIDE』出場の希望を持っているが、まだまだノゲイラの相手として推薦できるレベルではない。そういった諸々の事情が絡んでのアターエフ出場だったんだ。

02・12・23「PRIDE．24」福岡
アリスター・オーフレイム
（2R4分59秒　KO）
ヴォルク・アターエフ

かつてリングス・ロシアとリングス・オランダのホープだった二人が、『PRIDE』のリングで激突！　アターエフは非常に落ち着いて見える。

ここまで凡戦続きだった『PRIDE・24』だが、二人の猛スピードの立ち技攻防で館内は一気にヒートアップ！　アターエフは１Ｒには投げも見せた。

アターエフのバックスピンキックが炸裂！　アリスターが間一髪ガードしたものの、身体ごと吹っ飛ばす破壊力だ。

VOLK ATAEV

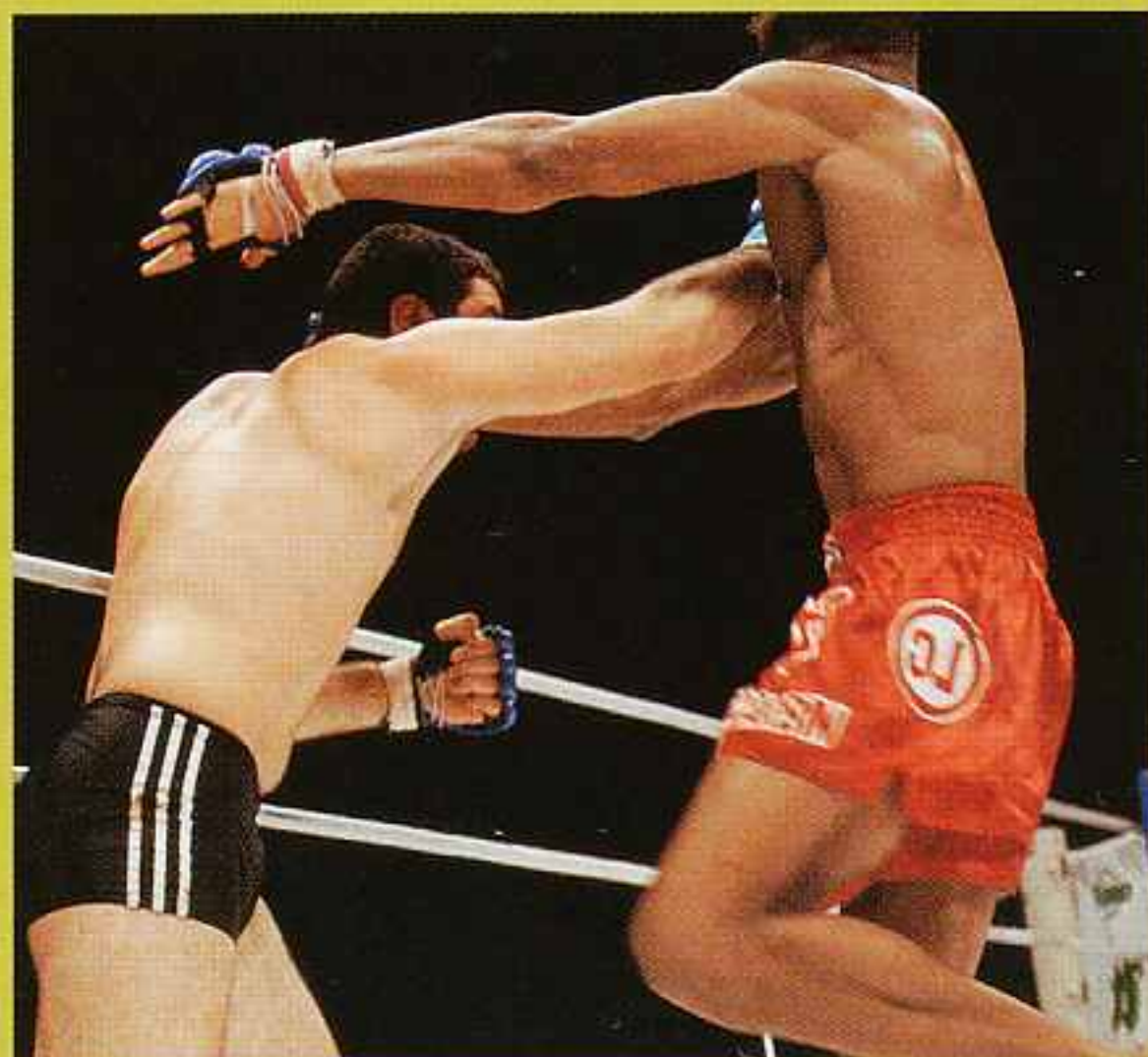
――今回のアターエフ選手に限らず、ラバザノフ選手やコーチキン選手など、ロシアの選手が『ＰＲＩＤＥ』で負ける場合は、グラウンドで下になった状態から抜け出せずに負けてしまうパターンが多いですけど、そういったことを踏まえて現在練習内容を見直したりはしているんですか？

パコージン　いまあなたが言ったように、ロシアの選手がグラウンドで下になった状態から返せないことが敗因とは一概には言えないと思う。なぜなら、まずコピィロフを例に挙げてみれば、彼がノゲイラと同様もしくはそれ以上のグラウンド技術をもっていることはみなさんご存じでしょう。また、リングスでのハンとノゲイラの試合を覚えている方も多いと思う。ハンはまったく健康状態がよくない状態でノゲイラ闘い、引き分けという結果で試合を終えたが、もしあのときハンが健康状態がよく、年齢ももっと若ければ、必ずノゲイラに勝っていただろう。ですから、一概にロシアの選手がグラウンドで返す技がないために負けているとは言えないんじゃないかと思う。もちろん私自身、ノゲイラという選手を高く評価しているし、この何年かで彼は不動の地位を保っているし、どんどん技術を上げていると思う。ただ、我々も手をこまねいているわけではないということは言っておきたいね。

――ただ、コピィロフ、ハンといった選手の実力はわかりますけど、それに続く『ＰＲＩＤＥ』に対応できる選手がヒョードルだけという現実がありますよね？

パコージン　それは少し難しい話になるんだが、ハン、コピィロフ、ズーエフを始めとして、10～15名ほどの良い選手がリングス時代に育っていたと思うが、彼らは「ソ連」という特異な状況の中で、育った人間

トレードマークのハンマーを手に勝利をアピールするアリスター。いまやＭＭＡ欧州ナンバー１の座も目前か。

今大会ナンバー１の打撃戦を制したのはなんとアリスターの方。ヒザ蹴りがミゾオチにグサリとささり、アターエフはそのままエプロンに転落。KO負けとなった。

２Ｒ終盤、再びスタンドの攻防となり、両者ＫＯ狙いの激しい打ち合いに。破壊力でアターエフ、躍動感でアリスターか。

１Ｒ後半から２Ｒは、ゴールデングローリーで寝技のスキルの飛躍的にアップさせたアリスターの独壇場。アターエフは何もできず。

なんだ。それは外国に行くにも難しい時代で、やはりそういう価値観の違いや、ソ連という国の中で自分を出していくというのは、まったく今とは違う状況だということを理解していただきたい。そして今はまったく違う世代が育っていて、外国に行くのも簡単だし、そういった大会に参加するのもラクになっているので、もっともっと今までのソ連時代の考え方から、新しい時代の考え方に変えていかなければいけないと私は思っている。そしてその新しい道をいま模索中なんだよ。やはり以前、ソ連時代というのは、どの分野でも、例えば宇宙開発においても、スポーツにおいても、バレエという芸術においてもロシアといえば、優れた国という印象があったと思うが、やはりソ連が崩壊したあとは残念ながら下降しているんだ。どんな状況でも成長する時期があれば、落ちていく時期もある。今、ロシアはそんな小さな下降の時期にあると思う。しかし。それを覆せるように、これから時間をかけて頑張っていきたいと我々は思っているんだよ。

――う～ん、なるほど……話が少し大きくなりすぎたので、ちょっと話題を変えます（笑）。アターエフ選手自身としては、自分の一番の課題はなんだと思いますか？

アターエフ　やはりボクが思うのは、師匠ハンやコピィロフが築き上げたリングスの素晴らしい歴史がありますよね？　その素晴らしい10年の歴史のあとに、ヒョードルも含めて僕らはまだロシアの選手として輝かしい実績を残していないと思うんだ。やはり、僕たちはハン、コピィロフらに代わる人材にならないといけないと思うし、新しい、強いロシアのチームを作っていかなければならないと思う。そして個人的にはアマチュア部門では、散打でオリンピック参戦。プロの世界ではK―1、『PRIDE』で結果を残すために頑張っていきたいね

VOLK ATAEV

1979年12月3日、ロシア・タゲスタン出身。8歳からボクシング、12歳からロシア国立格闘技学校で散打を学ぶ。散打世界王者となった後、「ヴォルク・ハン格闘術」に入門。E・ヒョードルと並ぶＲＴＴのエース候補。182cm、96kg。

オリンピック出場とK-1、『PRIDE』での勝利が今の目標です

――K―1についてですが、昨年10月大会にアターエフが参戦するという噂が一部で流れたんですけど、そういった話は実際にあったんですか？

パコージン　確かにそういう話はもらったよ。しかし、それはあくまでも、可能性があるかどうかという話がなされただけで、正式なオファーではなかった。それにアターエフはいま散打の大会が非常に忙しいんだ。やはり彼の一番の目標はオリンピックで金メダルを取るということなので、あくまでK―1に関しては、「やってみたいという気持ちをもった選手がこちらにいます」という話をK―1サイドさせてもらったことがあるという段階だね。

――では、いまは散打で次のオリンピック出場が第一、続いてK―1出場。それから『PRIDE』という順番なわけですね。ちなみにオリンピックを目指しているという散打では、具体的にどのような結果を残しているんですか？

アターエフ　散打の選手権については、全ダギスタン選手権、全ロシア選手権、そして世界カップ、それから一番最近では、ポルトガルで行われたヨーロッパ選手権でチャンピオンになっているよ。

――そんなに優勝してるんですか！　その合間に総合格闘技もやっているんですか？

アターエフ　そうだね。散打大会の合間に2002年はプロの総合格闘技も10試合行ったよ。これはリトアニア、エカテリンブルグ、ロシアなどで行われた試合で、これらは全部勝っている。

――散打の片手間に全勝ですか！

アターエフ　だからアリスター戦が散打も含めて今年（2002年）に入って初めての負けになるね。ただ、ボク自身、今回の負けを本当の意味での負けだとは思っていないんだ。『PRIDE』は本当にレベルの高い舞台だと思うし、そういう舞台で試合内容も悪くはなかったし、スタミナも十分まだ残っていた。そういった意味で自分にとって今回の負けは次につながる負けだと思うんで、完璧な負けだとは考えてないね。

――では、最後にちょっとパコージンさんに聞きたいんですけど、ロシアの大会は開く予定はないですか？

パコージン　いや、2003年は必ず大会を開くつもりでいるよ。いまエカテリンブルグでズーエフが格闘技の殿堂を作っているところで、それに対していま大きな資質が出ているので、その施設が出来上がったから、9月にでも開こうと思っているよ。

――それから、ヴォルク・ハン選手の来日が途絶えていますが、セコンドとしても来日する予定はありませんか？

パコージン　もちろん可能性はあるし、彼自身「日本に来たい」という気持ちは強く持っているが、彼は現在、ビジネスが大変忙しいので、それが片づいたらすぐにでも来るんじゃないか？

――それは楽しみですね。では、2003年もロシアン・トップチームの活躍を期待してます！

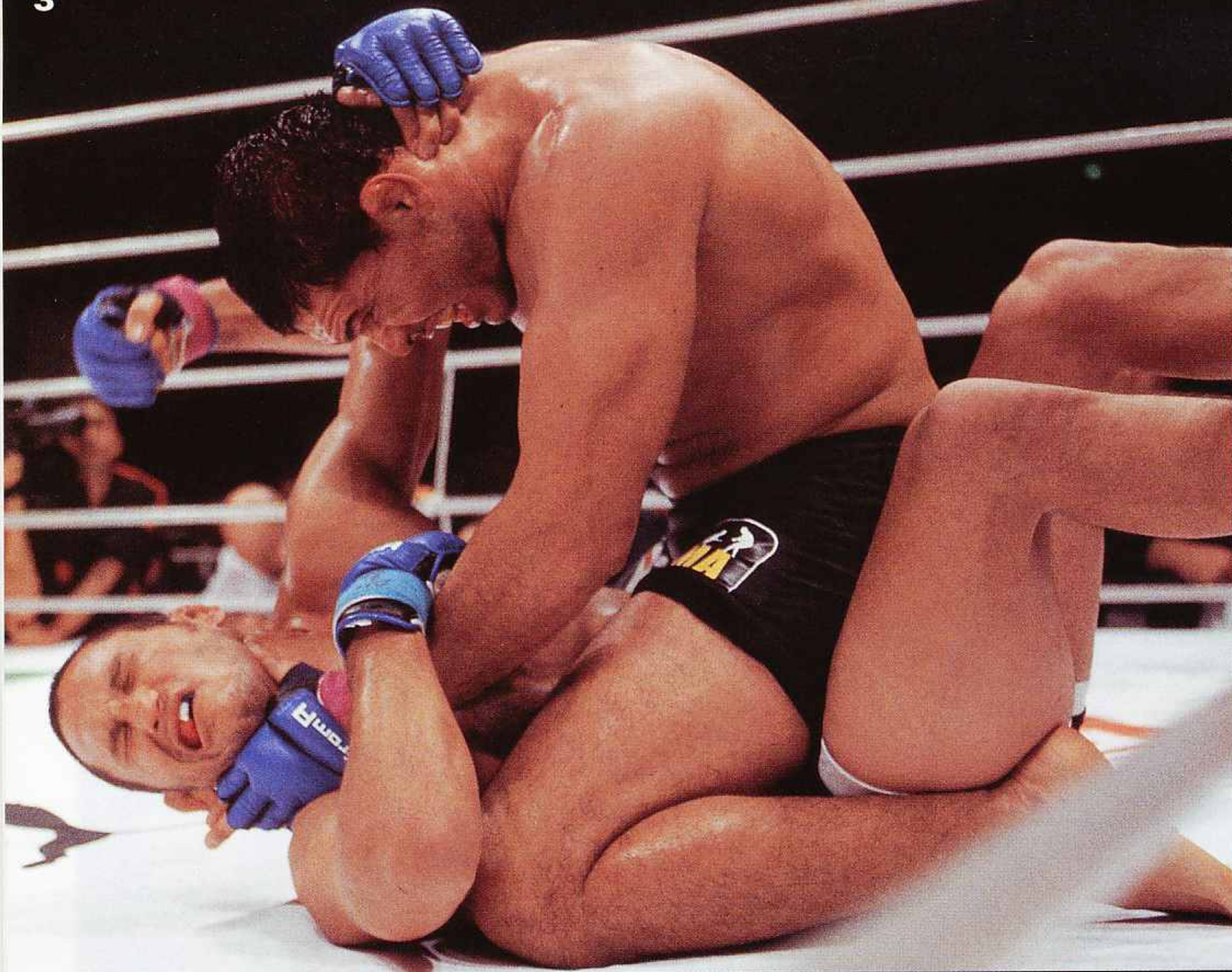
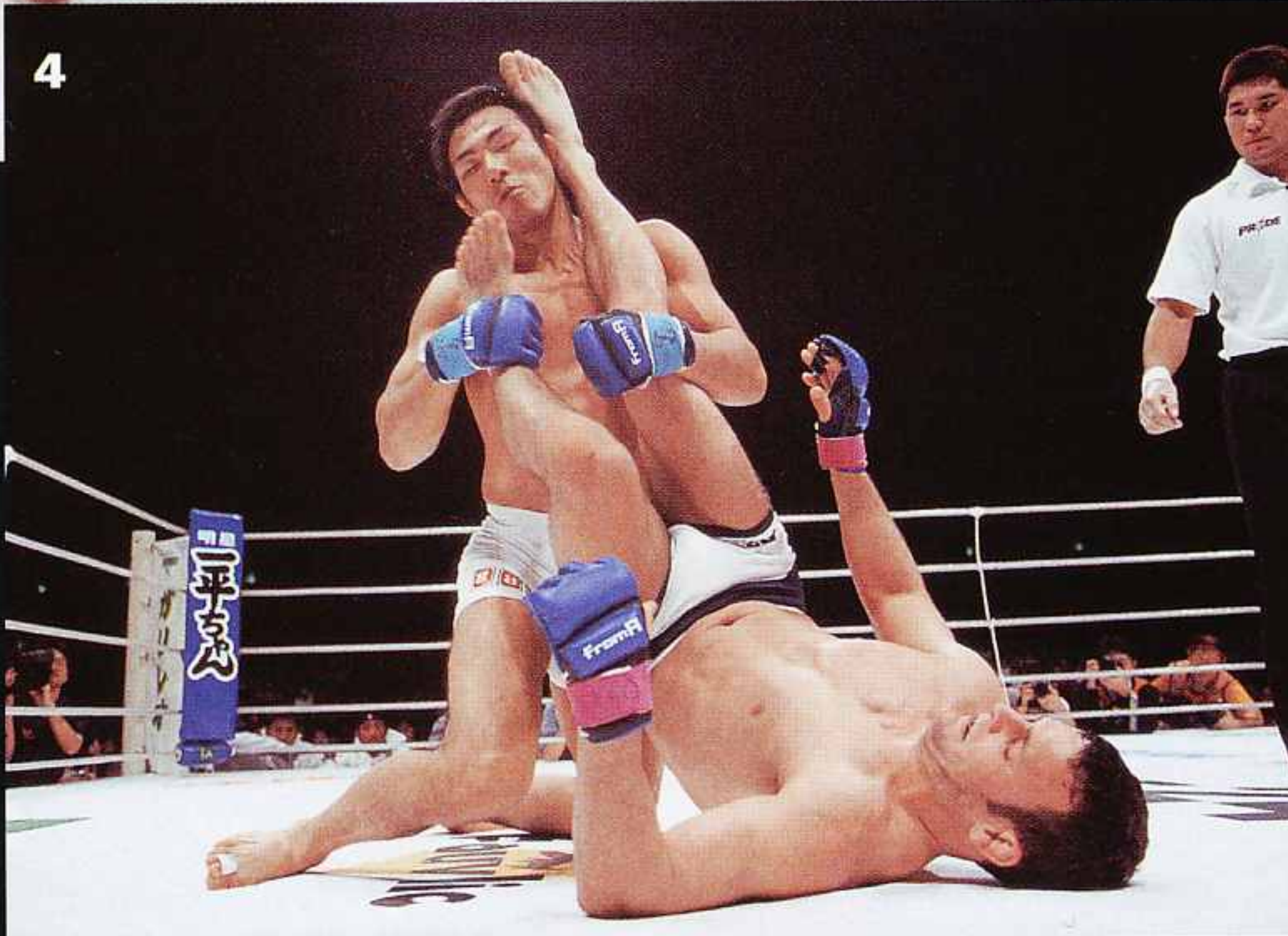
【02年12月24日／都内某ホテルにて収録】

2003.12.23 PRIDE.24 DIGEST

3

1

2

①ランデルマンとニンジャ、試合は地味だけどベラボーに強い者同士の一戦は、スタミナには定評があるニンジャの体力をランデルマンの異常な身体能力が上回り、大流血に追い込んでのＴＫＯ勝ち。このランデルマンの強さ、シウバをも倒しかねない！②まければ『THEBEST』降格……とは謳われていないが、ファンはそれぐらい厳しい目で見ていたアレクとヤマノリの崖っぷち対決。しかし、両者共の自分の立場を理解していないらしく、もっさりもっさりした凡戦に。最後も客にまったく伝わらないアクシデントで終了。③ノゲイラがかつて日本で唯一負けた相手、ヘンダーソンとの決着戦。試合は体調が悪いながら一本を狙うノゲイラとそれをダンが凌ぎまくる好勝負に。低調だった大会を最後でなんとか締めた。

4

④グラバカの副賞格・佐々木有生がホドリゴ・グレイシー相手に『PRIDE』デビュー。ガードポジションの攻防が大半を占めたこの一戦は、ホドリゴが僅差の判定勝ち。⑤『ＬＥＧＥＮＤ』では、マティシェンコの守りの堅さに敗れたノゲイラ弟が、守備力が異常に高いメッツアーと対戦。『ＬＥＧＥＮＤ』の反省を踏まえたか、元キックボクサーに打撃で挑み見事判定勝ちを奪取。⑥パンクラスマットで謙吾を秒殺した怪物が『PRIDE』初登場。力任せのＶ１アームロックでオーフレイムに完勝。⑦高田道場vsＵ－ＦＩＬＥとして一部で注目された松井vs大久保ちゃんは、大久保が打撃で攻め込む場面を見せるも僅差の判定勝ち。

6

5

7

3・4『DEEP』超衝撃マッチメイク!!

前号本誌の「マット界サバイバル討論」では
『DEEP』の先行きに表情を曇らせ
一攫千金「宝クジ」に命運を託し
オーダーしたツナサンドに想いを寄せるなど
深刻な苦悩&能天気な食欲で
読者の顔をひきつらせた佐伯代表ですが
やっぱりやるときはやるぜ！
鼻息荒く放つ切り札は

修斗の至宝

桜井"マッハ"速人だ!!

構成／ジャン斎藤

超満員必至!! 後楽園ホールをブチ壊す
「日本ミドル級NO.1決定戦」（佐伯代表）

「"マッハ選手有利"の予想を裏切りたい」

「昔の自分を取り戻すステップにする」

『DEEP』ミドル級王者
上山龍紀
(U-FILE CAMP.com)

VS

元・修斗ミドル級王者
桜井"マッハ"速人
(修斗MACH道場)

「もう手は打ってあります。宝くじを買いました!!」。

前号の本誌で行われた「マット界サバイバル討論」では、マスリング時代到来のマット界の現状に表情を曇らせるも、解決策としてはまったくもって非建設な冒頭の言葉を吐いた佐伯『DEEP』代表。

そこまで切羽詰まってるのか、それとも単に脳天気なだけなのかは不明だが（たぶん両方）、討論中には「サンドウィッチ来ねぇなあ・・サンドウィッチ来ねぇなあ」と呟き続け、K－1、『PRIDE』に続く第3の格闘技団体として『DEEP』に期待を寄せる読者を唖然とさせたのは記憶に新しい。

しかし、佐伯代表はやってくれた!

ある意味「明るい未来が見えない」絶望感が支配した「サバイバル討論」の直後だっただけに、「エ!? マッハ純二の間違いでしょ?」と耳を疑ってしまうビックニュース!

あの桜井"マッハ"速人を引っ張りあげるという、難易度の高い作業を鼻息荒く実現させたのだ!

桜井"マッハ"速人といえば、佐藤ルミナと並んで修斗を象徴する選手である。マッハは昨年、UFCでマット・ヒューズに惨敗を喫し、12月には無名のガイジンに敗れるなど以前の輝きを失って久しいが、バーリ・トゥード黎明期においての活躍は、修斗を良く知らない本誌読者の脳裏にも刻まれているのではないだろうか? 最近はまったく修斗をリポートしておらず、読めば読むほど修斗偏差値が低くなる本誌だけに、名前すら頭にない読者もいるかもしれないが、とにかく佐伯さんは凄い選手を呼んだんです!

しかも、マッハにぶつける相手は、マッハを敗ってもなんらおかしくない実力者・上山龍紀。上山が保持しており、今後から防衛戦が行われる『DEEP』ミドル級のベルトはかけられないが、佐伯代表が「日本ミドル級NO.1決定戦」と呼ぶに相応しい緊張感溢れるマッチメイク。とても前号で「『DEEP』の方向性を考える前に、まず生きていくことを考えないと」と口にしながら、ピラフを目一杯頬張っていた人とは思えない鋭い手腕振り!

全力投球を予告している他カードについても、再び『DEEP』参戦する三島ド☆根性ノ助の相手に、ヤノタクを敗ったこともあるファビオ・メロ（ブラジリアン・トップチーム）が選出。滑川、伊藤らも出場予定と、リングスファンの配慮も欠かさないラインナップとなっているが、プロレスファンが仰天するスペシャル・プロジェクトも発進予定と佐伯社長は独白!

常にハード&ユーモラスの両輪を回し続ける『DEEP』の姿勢は、今回初進出となる聖地・後楽園ホールでも変わらない。チケットは残りわずかだ!

全対戦カードは2・3に発表!!

3・4『DEEP』

【対戦決定カード】
77kg以下契約 5分3R
（ノンタイトル戦）

上山龍紀
(U-FILE CAMP.com)
vs
桜井"マッハ"速人
(修斗MACH道場)

三島ド☆根性ノ助
(総合格闘技道場コブラ会)
vs
ファビオ・メロ
(ブラジリアン・トップチーム)

【日時】3月4日（火）
OPEN／17：30 START／18：30
（フューチャーファイト18：00開始）
【会場】後楽園ホール
【チケット】~~VIP席￥20,000~~／
RS席 ￥12,000／A席￥10,000／
~~B席￥7,000~~／~~C席￥5,000~~
※当日券は全席種500円増し。VIP席&B席&C席は完売

【お問い合わせ】
DEEP事務局 052-339-0303

目指せ！ チャパリータＡＳＡＲＩ！
修斗ランカーが長年の願望を告白!!
「ルチャドールと飛んだり跳ねたりした～い」

こんにちわプロレス

3・4『DEEP』参戦！ 総合格闘技も続行ーッ！

三島☆ド根性ノ助

聞き手／チョロ 構成／ジャン 撮影／丸山剛史

三島☆ド根性ノ助

【みしま・どこんじょうのすけ】本名：三島睦智（みしま・よしとみ）。170センチ、77キロ。大阪に「総合格闘技道場コブラ会」を構える兵庫県尼崎市出身の30歳。佐藤ルミナ、宇野薫を輩出した修斗ウエルター級のランカー（現在2位）で、一昨年8月に五味隆典とのチャンピオンシップがマッチメイクされるも、負傷のため直前でキャンセル。昨年12月、再び好機を得るが、五味の強打の前に無念の敗戦となった。昨年の話題でいえば、同門の選手の負傷欠場の代打として、修斗ランカーながらアマ枠であるパンクラスゲートに本名で出場。リスキー＆男気溢れる行為が、結果的に修斗vsパンクラス問題に火を付けてしまったが、そんなのどうってことねぇですよ！　今後の予定は3・4『DEEP』に参戦が決定！

12・11五味隆典戦

──『紙プロ』では修斗は、ほとんど扱ってないんで、まだ三島さんのことを知らない読者のために、まずは簡単な自己紹介からお願いします！

三島　（改まって）えっと、はじめまして！　こないだの修斗ウェルター級タイトルマッチ（12・11五味隆典戦）で、しょっぱい試合して負けてしまいました三島☆ド根性ノ助です（苦笑）。

──アハハハ！　また自虐的な（笑）。

三島　一応ね（笑）。で、大阪の「総合格闘技道場コブラ会」ってところで代表をやってます。プロレス雑誌、しかも『紙プロ』に出れて光栄です！

──あ、ありがとうございます！（笑）。ちなみに、三島さんは『紙プロ』には、どんなイメージがあったんですか？

三島　いや、ちょっと前に編集部に遊びに行かせてもらったじゃないですか？　そん時に吉田豪さんからマット界のホモ話とかレズ話をいろいろ聞かせてもらって勉強になったんで、いつかは『紙プロ』に出たいなって思ってて（笑）。……ホモじゃないですけど。

──アハハハ！　吉田さんはそういう話が大好きですからね（笑）。それで、先ほど言ってましたけど、昨年末の五味戦は、しょぼい試合だったと？

三島　ホンマ恥ずかしい限りですよ。

──でも試合後は「終わってホッとした」って言ってましたよね？

三島　あれは、一度流れたタイトルマッチができたってことは満足したんで……まあ内容はともかく（苦笑）。

──一部では、宇野選手じゃないですけど、三島さんもベルトを獲ったら修斗を辞めちゃうんじゃないかって、もっぱらの噂だったんですけど。

三島　いや、そんなことない……っていうか、そんなこと絶対できない！

──は!?　絶対できないというと？

三島　いやいや、もしベルト獲ったら修斗だけでやってくつもりだったんですけど、ああいう結果になってしまったんで。これからは自由に自分の好きなことをしていこうかなと。

──そうなんですか……って、しらじらしく聞いてしまいましたけど、コブラ会のホームページの掲示板に自分で理由を書いてたじゃないですか（笑）。（※ちなみにアドレスはこちら↓
http://www.jttk.zaq.ne.jp/cobrakai/）

三島　あぁ、そんなとこまで見てるんですか（苦笑）。

──見てしまいました（笑）。試合前から、イマイチやる気がないって情報が耳に入ってきてたんですけど、あの長文を読んで大体謎が解けましたよ。

三島　かなりグダグダ書いちゃいましたね（苦笑）。

──国家斉唱の時に涙ぐんでたのも、そういった苦悩からだったんですか？

三島　やっぱり（五味との）試合が流れて1年半、待ち望んでくれてた人も多かったのに試合直前にカゼ引いちゃって、万全の体調でない自分が悔しくて……そういうのって、みんな知らないわけじゃないですか？　それで申し訳ないなって……まあ他にもいろいろとあるんですけど（苦笑）。

──試合前から、あまりモチベーションが上がらなかったんですね？

三島　そうですね。でも試合の5日ぐらい前から「やっぱりやるからには勝たなアカン！」って思いだして。ほんならカゼ引いちゃって「まあいっか」って凹みモードで当日を迎えてしまって（苦笑）。いろんなこと考えるとドローがベストかなって。まあ負けることもないだろうみたいな感じで（笑）。

──ただ、試合後の『格通』での五味さんのインタビューを読むと、三島さんが前日の計量に遅れてきたことで怒りに火が付いて、すっかりケンカモードだったみたいですね（笑）。

三島　自分もそれ読んでビックリしましたよ（笑）。計量に遅れたのは東京のことあんまり知らないんで2回も電車を乗り間違えたからでね。

──そうだったんですか（笑）。

三島　山手線乗ったら間違えて渋谷まで出てもうて、次に水道橋に止まるヤツ乗ろうと思ったら今度は急行に乗ってしまって……。普通に乗ってたら間に合ってたんですけど（苦笑）。

──そんなこんなありながらも結果的には負けてしまったわけですよね。いま現在は、五味さんにリベンジしたいって気持ちはあるんですか？

三島　やらしてくれるんやったらすぐにでもやりたいですよ。修斗のリングに限らず。ただ、修斗でだったら暫く自分には回ってこないだろうし。早くて2年はかかるって言われてるんで。

──そんなに順番待ちしなきゃいけないんですか（笑）。

三島　そうなると、もう自分も歳も歳やからね（苦笑）。五味戦に関しては「五味五味！」ボクが外で名前売って「五味五味！」言うて、周りがやらざるをえない状況を作っていこうと。負けたからじゃなくて、相手に自分の力があんなもんやと思われてるのが凄く悔しいんで。

——五味さんは「もう日本人に相手はいない。これからは外人とやりたい」みたいなことを言ってましたからね。

三島　そういうの聞いてカチンと来たんで（笑）。いままでは五味選手には全く興味がなくて修斗のチャンピオンだけを目指してきたんだけど、考えが変わって、いまは修斗のベルトはどうでもよくて、とにかく五味選手をいてこましたるっていうのが今後の最大の目標ですね。

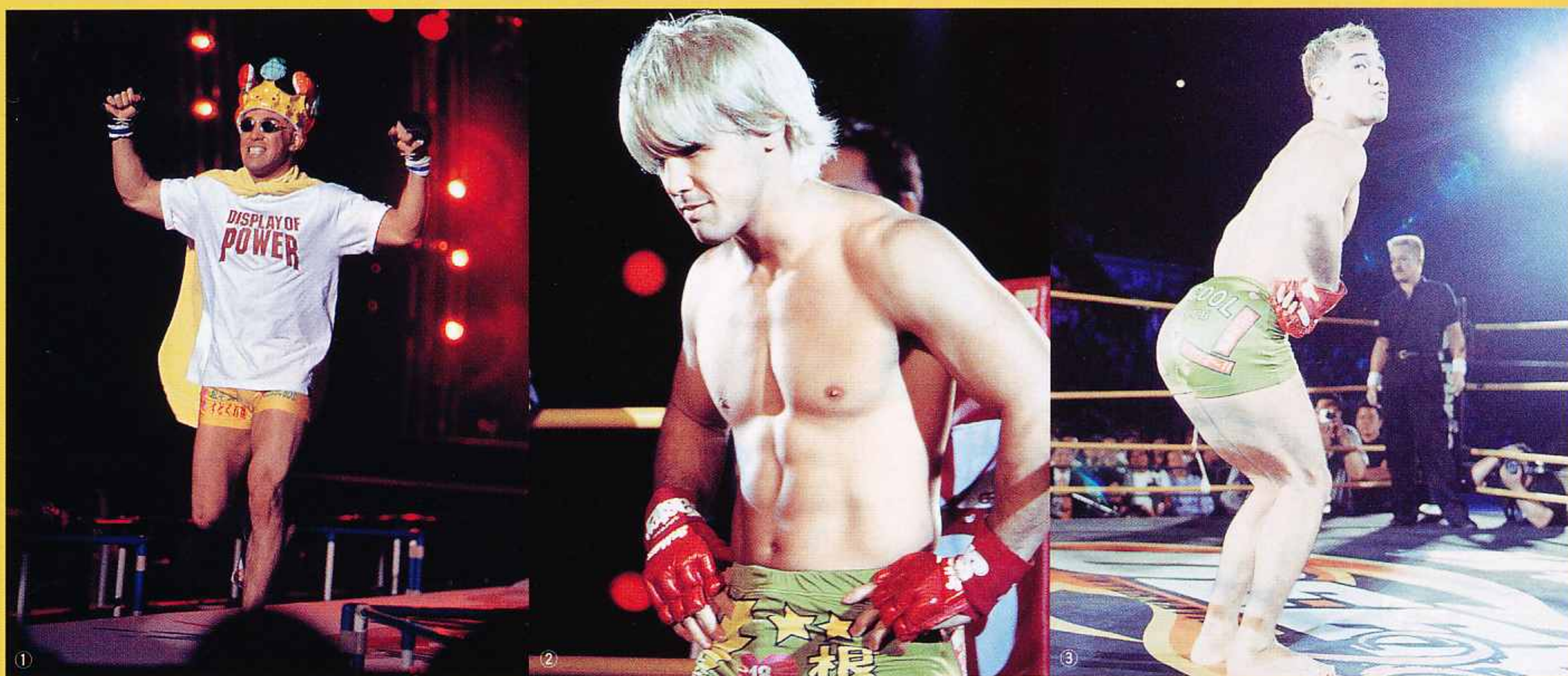
——選手個人ではなく、修斗という場には未練はないんですか？

三島　修斗のベルトが巻けたらベルトの価値を高めていきたいって気持ちもあったんですけど、修斗で自分が期待されてた義務みたいなことは今回で果たしたんじゃないかなって思うんで。自分の中でケジメはついてますね。声を掛けてもらえれば考えますけど。

——いまの修斗は、三島さん自身も絡んだパンクラスとの問題や、修斗の象徴でもあるマッハ選手なんかが『DEEP』に出ることにしても、修斗自体が、かなり揺れてる印象が強いんですけど、三島さん的にはどう思います？

三島　修斗は団体じゃなくて競技なんでね。別に（選手が）縛られることはないと思うんですよ、普通に考えれば。

——マッハ選手は、ちょっと前の『格通』のインタビューで「修斗に対して不満はないけど不安はある」とか「やりたい相手が他にいて、お金が稼げるならどんどん出ていけばいい」って言ってましたけど、三島さんも同じような感じですか？

三島　自分もそう思いますね。昔は修斗が一番質が高いというのが自分の中であって「金が稼げんでも、その中でトップに立てればええわ」みたいなのがあったんですよね。でも、ぶっちゃけ、やっぱプロとして最後は金っちゅうかね（笑）。

①昨年の修斗12・14五味戦での入場シーン②昨年の9・7『DEEP』伊藤崇文戦では、バラを口にくわえて金髪のカツラを被って入場！　たまにはハズす仕掛けもあるが、独特のパフォーマンスは三島のカラーとして定着している。③伊藤を秒殺後、三島のテーマ曲『福岡市ゴジラ』が流れる中、カメラマンにお尻を突き出す三島。ちなみに同じリング上では、伊藤が嗚咽を挙げながら暴れているという、凄まじいリング風景であった。

——最後は金！（笑）。いまはコブラ会の代表としてプロ格闘家として生活してるわけですから、お金にも拘るのもおかしくないと思いますけどね。

三島　ですよね。歳も30なんで、あと何年できるかわからないし、身体の動くうちに稼ぐときは稼がんと（笑）。

——修斗では闘えない選手と闘いたいって気持ちもあるんじゃないですか？

三島　あぁ、そういう楽しみもありますね。

——例えば『DEEP』だったらルチャの選手とか、修斗では有りえない相手と闘ってみたいって気持ちはあるんですか？

三島　むしろ、是非ともやりたいです！（笑）。ルチャは小学校からの憧れやったし、飛んだり跳ねたりしたいっていうのがボクの本音なんでね。

——やっぱり（笑）。飛んだり跳ねたりっていえば昔の修斗本の選手名鑑で、理想とする選手としてチャパリータASARIの名前を挙げてたこともありましたけど（笑）。

三島　あ、書きました書きました！　要は彼女みたいに客を沸かせられる選手になりたくて書いたんですよ。

——ちなみに三島さんはプロレスはいつぐらいから見てたんですか？

三島　最近はあまり見てないけど、初代タイガーマスクの頃から見始めて、猪木vsホーガンとか藤波vs長州とか、あのぐらいの時期からですね。

——三島さんの格闘技経験は柔道からということですけど、いずれはプロレスラーになろうと思ってたとか？

三島　夢でしたけど叶わないと思ってたんで、そんな想いはハナっからなかったです。格闘技は『柔道部物語』ってマンガを読んで急に柔道がやりたくなって町道場に通って。でも大学では文化系の柔道部しかなかったんで（笑）、そこで「リングスごっこ」ばっかやってましたね。

——リングスごっこですか（笑）。

三島　リングス甲子園言うてね（笑）。そこでリングスルールをアマチュアプロレスみたいな感覚でやってました。空手部のヤツと異種格闘技戦やったり。そういえば、前に修斗の選手名鑑の格闘技歴に「リングスごっこ」って書いたら問題になりましたね（苦笑）。

——修斗的には書いて欲しくなかったんでしょうね（笑）。その頃は、まだ修斗には興味はなかったんですか？

三島　全然なかったですねぇ。その頃の修斗って八角形のリングだったんですけど「これはホンマやない。チャンピオンなんてオレでも勝てるんちゃうか」って本気で思ってたんで（笑）。

——「リングスごっこ」をやってるだけなのに自信満々だったと？（笑）。

三島　その頃は敵がいなくて天狗になってましたからね（笑）。

——そんなリングス好きだった三島さんが修斗に興味を持つようになったきっかけっていうのは何なんですか？

三島　自己流でやってたんですけど負けなくなってきて自信がついてきたんですよ。それで『格通』とかに載ってるお友達募集……いわゆる格闘技サークルですね（笑）。

——そこに連絡してみたんですね。

三島　大阪でやってるとこに応募したんですよ。そしたら、そこにプロレスラーとかK—1のスパーリングパートナーとか務めてる人とかおってね。ほんで、その人たちとやっても全然負けなくて「やっぱりオレって強いんかな？」ってさらに思いこんじゃったんですよ（笑）。

——ますます天狗になっていったと（笑）。ちなみに、そのプロレスラーっ

三島☆ド根性ノ助

て誰なんですか？

三島　レッド・スレイヤー・ガイっていうんですけど知ってます？（笑）。

――もちろん知ってますよ（笑）。

三島　剛竜馬さんの所で"剛軍団第3の男"と言われてた人なんですけどね（笑）。あの人に簡単に勝ってしまったことが、いろんな大会にチャレンジしていくきっかけになりましたね。

――そんなきっかけがあったんですか（笑）。

三島　そんで、あの人とアマチュア大会に出たりしてるうちに修斗を知って本格的にやるようになったんですよ。

――そういったプロレス経験者から話を聞いたりして、プロレスに対して裏切られたとかっていう感情は持たなかったんですか？　修斗系の選手には、そういう人って割と多いんですけど。

三島　そういうのは全然なかったですよ。あの人は、そういうのもあってプロレスを辞めたみたいですけど（笑）。

――あ、そうだったんですか（笑）。

三島　自分はチャンスがあればプロレスもやりたいと思ってるんですけど。

――そうなんですか。今度、田村さんが新団体を旗揚げしますけど、三島さん的にはUスタイルの試合も興味があるんじゃないですか？

三島　あれは面白そうですね。正直、メチャクチャ魅力的ですよ。

――三島さんにとって、Uスタイルっていうのは、どう認識してるんですか？

三島　う～ん……ストイックに勝負だけを追い求めるんじゃなくて、客の目を意識した「何でもあり」みたいで、魅せる総合みたいな感じですかね。

――U―STYLEの旗揚げ戦に出る村浜さんなんかは「当時のUWFを、いまの総合格闘技に目が慣れてるファンの前でやっても受け入れられないと思う」ってことを言ってたんですけど。

三島　ボクもそう思います。あの頃より進化したUWFにしないとお客さんに受けないかもしれないですね。

――もし三島さんが出るとなったら、進化したUスタイルを披露する自信はあるんですか？

三島　はい。あります！（キッパリ）。やっぱり自分の格闘技の入口っていうか、きっかけはUWFやリングスごっこだったんでね（笑）。魅せる試合をする自信はありますよ。

――そこまで自信があるなら是非実現して欲しいですね。純粋なプロレスルールの試合も興味はあるんですか？

三島　そうですね。目指せ、チャパリータASARIですから（笑）。

――飛んだり跳ねたりもしたいと（笑）。修斗経験者で言うと、宇野さんなんかも、全日本や、この間の『W―1』でプロレスもやってますからね。

三島　どうやったんですか？

――全日本での試合は、かなり良かったんですけど、『W―1』は、ちょっと空回りしちゃいましたね。試合後にルチャの選手にダンスを強制されて恥ずかしそうに踊ってましたけど（笑）。

三島　ああ～、そうですか。でも弾けてますね。なんか楽しそうやな（笑）。

――三島さんはキャラから言っても、純プロレスでも結構イケルんじゃないかなって思うんですけどね。

三島　やりたいですけど、そういうプロレスをやるんならロープワークとかもキッチリ練習しないといかんし、そんな簡単なものじゃないですからね。

――それなりの準備期間が欲しいと？

三島　もちろん！　ただプロレスの世界では新人ですからね。お客さんに金を払って見てもらうからには満足して帰ってもらえるぐらい出来るようになってから出ます。……でも、どっかでやらしてもらえないかなぁ～。

――すぐには無理とは言いながらも、ぶっちゃけ、そういう話があったら出てみたいんですね？

三島　いまは自由の身なんで（笑）。そういう意味では、いろいろと夢だけは一杯広がってるんやけどなぁ。

――修斗に出ながらプロレスをやるのは、まず無理な話ですからね（笑）。

三島　無理ですねぇ（笑）。でもプロレスやるにしても宇野選手の二番煎じと思われるのは嫌ですけどね（苦笑）。

――それはあるでしょうね（笑）。プロレスルールで誰か闘ってみたい相手はいるんですか？

三島　う～ん、誰やろ？　昔は何人かおったんですけどね。ここ最近は女子プロしか見ないんでわかんないなぁ。

――女子プロでもいいんじゃないですか？　宇野さんも、まだ女子プロとは闘ってないですし（笑）。

三島　でも、神取忍や堀田祐美子とかには「これは勝てへんやろなぁ」って昔は思ってたんですけど、知り合いから話を聞いたら、どうもボクの方が強いらしいですよ（笑）。

――そりゃそうですよ（笑）。

三島　でも、アジャ・コングなんていまでも勝てそうな気がしないんで1回試してみたいですね、ホンマ（笑）。

――アジャvsド根性ノ助！　それは見たいですね（笑）。

三島　あとは、やっぱり田村（潔司）さんと闘いたいですね。やるんだったら、あえてUスタイルで。いい試合する自信もあるし。

――それは実現も不可能じゃないと思うんで期待してます！　最後に今年の抱負を聞かせてください。

三島　いままでは修斗のベルトだけを目指してきて……結局ベルトは取られへんかったけど、チャンピオンになったと同じくらいの幸せを味わえるくらいに外で弾けたいです！　周りにもチャンピオンになったらここまで出来へんかったのにって思わせるくらいに。

――とりあえず次の試合は3月の『DEEP』になるんですよね。

三島　いまはそれしか決まってないんで、そこでいい試合して、その後は話があればプロレスもやってみたいんで、どなたか、お願いします！（笑）。

――総合はもちろんですけど、今年は三島さんのチャパリータASARIばりのスカイツイスタープレスが見れることを期待してます！（笑）。

三島　頑張って練習しときます（笑）。

【03年1月8日／東京・原宿の『あかりcafe』にて収録】

取材協力：TRESOR原宿直営店

総合格闘技道場コブラ会
【TEL】06-6466-6999　【住所】大阪市福島区吉野4丁目26-8　【OPEN】全曜日　17:00～22:00
【料金】●一般　10000（月会費）　10000（入会金）　●学生　8000（月会費）　10000（入会金）
●中学生　6000（月会費）　5000（入会金）　●女性　6000（月会費）　5000（入会金）
●2 DAYS　8000（月会費）　10000（入会金）

本誌選定
2002年
女子格闘家
MVP

辻結花

聞き手／松澤チョロ　撮影／丸山剛史
designed by Tani-Yan（Two Three）

YUKA★TSUJI

「今年のテーマは爆発 リング上でもリング外でもイッちゃいます!! 闘いたい相手？ ボブ・サップ」

ズバリ言って、昨年の女子総合格闘技界は辻結花を中心にまわったと言っても過言ではない。なにしろ、その戦績が凄い！

2002年の辻ちゃんは、なんと引き分けなしの7戦7勝！連勝街道まっしぐらで、一躍、女子総合のトップへと躍り出た。

一昨年の暮れ、当時、女子総合の完全無欠のエースの星野育蒔と対戦した辻ちゃんは、総合の世界では全くの無名ながらも星野相手に一本勝ちで勝利するという衝撃のデビューを飾った。それ以来、一度も負けることなく連勝記録は8となっている。

そんなこんなで、辻ちゃんの2002年、最後を締め括る12・29スマックガール・ミドル級トーナメント決勝戦。

3ヶ月に渡るトーナメントを確実に勝ち抜き、決勝戦へとコマを進めた辻ちゃんは禅道会の金子真理を破り、女子総合のトップ選手として一年を終えた。

2003年、辻ちゃんは何をしようとしているのか？ トーナメント優勝の余韻が残るなか、師走の遊園地で話を聞いた。

——まずは、スマックガール・ミドル級トーナメント優勝、おめでとうございます！

辻 （元気よく）ありがとうございますッ！来年も頑張ります!!

——いや、発売は1月になるんで今年ということで、お願いします！

辻 そうなんや（笑）。も〜う、今年年はイッちゃいます!!

——今年はイッちゃいますか？（笑）。

辻 はい！

——去年の辻ちゃんは連戦連勝で、文句なしで女子格闘家MVPですよ！

辻 ありがとうございます。それもこれも『紙プロ』のおかげで（微笑）。

——いえいえ、そんなことないですよ。

辻 いや、でもホント『紙プロ』に出させてもらってからですよ。テレビや雑誌とか声掛けてもらったのは。

——まあボブ・サップは別格として、女子格闘家では辻ちゃんがテレビや雑誌に一番取り上げられたんじゃないですか？

辻 一番かどうかはわからんけど、いろんなとこから声掛けてもらって自分でもビックリしましたねぇ（しみじみと）。それも『紙プロ』のおかげってことで（笑）。……でも最近『紙プロ』は出してもらえないからなぁ。

——すんません！ でも、初めて会った時に比べると、だいぶしゃべりもいけるようになりましたね（笑）。

辻 （誇らしげに）でしょ？ これもね、『紙プロ』のおかげです（微笑）。

——もういいです！（笑）。

辻 2003年は『紙プロ』で桑田（佳祐）さんと対談させてもらえるよう頑張ります！

プロデビュー以来、8戦全勝！

辻ちゃんの2002年（プラス、デビュー戦）

12・29 SMACK GIRL

金子真理を破りミドル級トーナメント制覇！

▼2001年（※デビュー戦）

12月26日『AX』六本木CCCホール
●辻結花（3R 3分17秒 腕ひしぎ逆十字固め）星野育蒔×

▼2002年

3月2日『SMACK GIRL』ディファ有明
●辻結花（1R 0分00秒 TKO ※タオル投入）篠原光×

4月7日『SMACK GIRL』ディファ有明
●辻結花(1R 3分42秒 チョークスリーパー) 岡裕美×

5月4日『AX』後楽園ホール
●辻結花（判定2-1）ジェット・イズミ×

9月1日『SMACK GIRL』ディファ有明
●辻結花（1R 1分12秒 腕ひしぎ逆十字固め）
角田紀子×

10月6日『SMACK GIRL』ディファ有明
ミドル級トーナメント1回戦
●辻結花（1R 2分1秒 腕ひしぎ逆十字固め）高橋エリ×

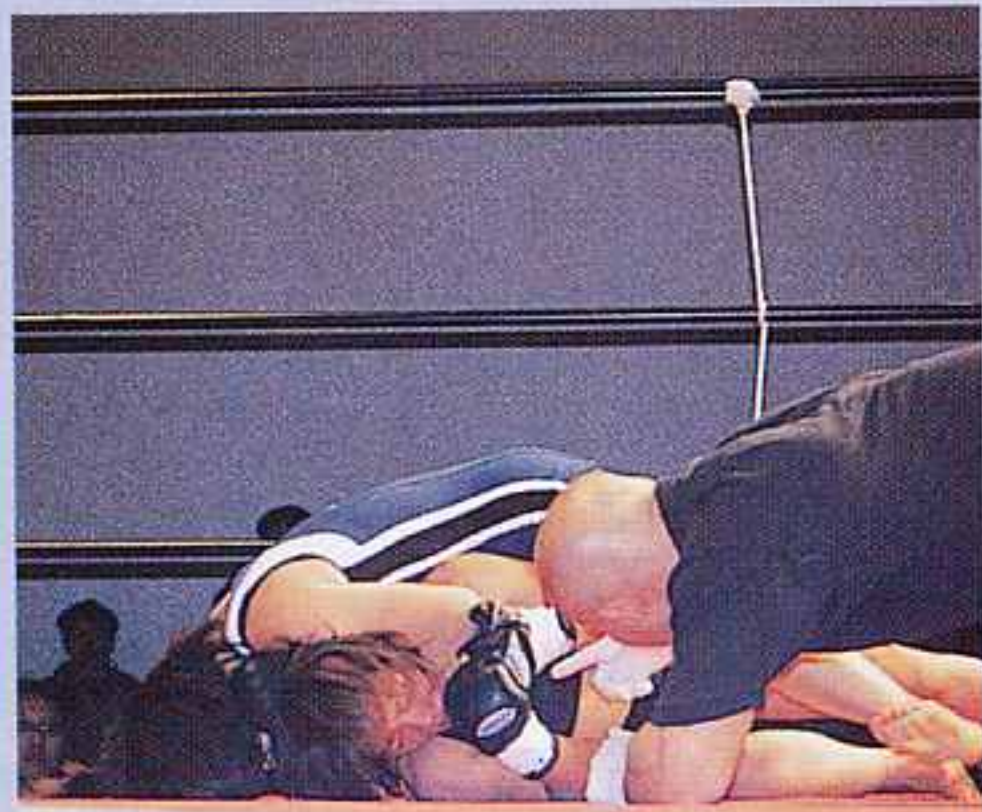
11月9日『SMACK GIRL』ディファ有明
ミドル級トーナメント準決勝
●辻結花(1R4分13秒 腕ひしぎ逆十字固め) 杉本由美子×

12月29日『SMACK GIRL』ディファ有明
ミドル級トーナメント決勝戦
●辻結花（判定3-0）金子真理×

……って、無理ですかね？
――桑田さんは、ちょっと厳しいかもしれないですね（苦笑）。他に誰かいませんか？　出来れば格闘家とかで。
辻　う～ん、格闘家だったら桜庭選手とかボブ・サップとかがいいなぁ。
――ちゃんと話せるんですか？（笑）。
辻　失礼な（笑）。ちゃんと話しますよ！　あ、でもボブ・サップとは対談よりスパーリングとか、闘ってみたいかな。
――サップvs辻ちゃん！（笑）。もちろん、やるからには勝算があるわけですよね？
辻　ハッハッハッハッ。でも、タックルが通用するか、スパーリングでもいいから一回やってみたい。ちょっとだけ、いけそうな気もするんやけど（笑）。
――いけそうですか（笑）。まあサップは、かなり忙しい人ですけど、なんとか来年中には実現させましょう！
辻　よろしくお願いします！
――それで、2002年は結局、何勝何敗でしたっけ？
辻　2002年じゃないんやけど、年末の星野戦（2001年12月26日）も入れると8戦全勝です！（ニッコリ）。
――対戦相手はともかく、総合の世界で約一年間で8試合も闘って、しかも無敗っていうのは凄いですよね。
辻　でしょ？（微笑）。……あ、でも、しなし（さとこ）さんも無敗ですよ。
――あ、そうか。でも、しなしさんは引き分けもあるし、やっぱり凄いです！
辻　よくやりましたねぇ（しみじみと）。
――なんか、人ごとみたいですね（笑）。あらためて去年を振り返ってみると、辻ちゃんにとって2002年っていうのはどんな年でした？
辻　なんか、出来すぎの年で……これからが怖いです（微笑）。
――正直、ここまでやれるとは自分でも思ってみなかった？
辻　ホントそうですね。こんなはずじゃなかったです（微笑）。
――とか言いながら「私だったらこれぐらいやれて当然！」って思ってたんじゃないですか？（笑）。
辻　う～ん、どうやろ？　それも半分ぐらいかな。半分思うけど半分思わない。
――では、現在と一年前の辻ちゃんでは何が一番変わりましたか？
辻　え～、なんやろ？　やっぱり、試合の調整の仕方ですかね。さすがに一年間で8試合もやってると、調整とか、だいぶ楽になってきたんで（笑）。最初の頃は私も『闘愚羅』のみんなも全然わかってなかったから、星野戦の時なんかは、その日に来て試合やって、そのまま大阪まで夜行バスで帰ったんですよ（苦笑）。
――それはハードですね（笑）。
辻　もう一大行事でしたから。（得意げに）でもいまは結構慣れたもんでね。東京駅で降りたら、こっちに行ったらいいとか全部わかるようになったし。
――ホント、わかってます？（笑）。
辻　（ムキになって）わかってますよ！
――でも『闘愚羅』の関係者はホテルまで10分ぐらいの距離を2時間も迷ってたみたいじゃないですか（笑）。
辻　そうみたいですね（苦笑）。でも私は大丈夫ですよ。東京駅に着いたら大丸のトイレに行くっていうのは、もう決まってるし（笑）。もう迷わず行けますもん！
――そこまで決まってますか（笑）。でも実際、約一年間で8試合っていうのは正直キツかったんじゃないですか？
辻　あぁ、いま考えると、やっぱり多かったと思います。それに9月から続けて4試合は結構キツかったですねぇ。
――でもその結果、スマックのミドル級トップにたどり着いたわけですからね。一日経ってみてどうですか？
辻　いまでもメチャメチャ嬉しいです。
――試合後のリング上でも、ずっと嬉し泣きし

前回のスマックでのカシン風・辻マスクに続き、今回はドスJr.風・辻マスクで入場した辻ちゃん。オーバーマスクにも戦闘用マスクにも、しっかり「辻」と縫い込まれているのがポイントだ。

GRAMD FINAL～ ミドル＆ライト級決勝戦レビュー ▶▶▶▶

一本勝ちは出来なかったが、終始リードしていた辻ちゃんが大差で判定勝利。「年末の忙しい中、応援ありがとうございました！」。ミドル級王者、ここに誕生ーッ！

2R序盤、辻ちゃん得意のスーパー・ロータックルがサク裂！　グラウンドでは辻ちゃん圧倒、スリーパーが、ほぼ極まりかけたものの金子は意地でタップせず、30秒ルールでスタンドに戻される

序盤から猛スピードで動き回る両者。スタンドの打ち合いでは金子が食い下がるが、辻ちゃんが持ち技の多彩さを見せ、フロントネックロック、払い腰、右フックをビッシビシ決めて金子を追い込んでいく

ドス・カラスJr.風・辻マスクを被って登場の辻ちゃん。オーバーマスク＆戦闘用マスクを脱ぐと、いつもよりさらにキリリとした怖い顔。優勝への意気込みが強く感じられる

YUKA★TSUJI

ちょっとだけ、サップにタックルいけそうな気もするんやけど（笑）

てましたからね。

辻　も〜う、いまでも同じぐらい嬉しい！　まだ余韻がずっと続いてますね。

——２００２年の目標は見事達成したわけですけど、２００３年は何か新たな目標というか抱負はあるんですか？

辻　どうですかねぇ？　やっぱり、ボブ・サップ！（笑）。ダメかなぁ？

——まあ、それでもいいんですけど（笑）。

辻　２００３年は……爆発する！

——ば、爆発しますか（笑）。イッちゃったり爆発したりと今年は大変ですね。

辻　ハッハッハッハッ。

——爆発って言ってもいろいろあるでしょうけど、リング上ではもちろん……。

辻　（さえぎって）リング外でも爆発しちゃおうかなと（笑）。

——アハハハ！　２００２年とは、また違った辻ちゃんを見せてくれると？

辻　ちょっと壊してみようかなと（笑）。

——今日の撮影でも、まだ頼んでもいないのにマスク被ったまま一般客と一緒に列に並んでみたり、すでに、ちょっと壊れ気味かなって感じたんですけど（笑）。

辻　ハッハッハッ。ヤバイですよねぇ。でも私は遊園地でマスク被って乗り物に乗れるようになったんだなって、ちょっと嬉しかったんですけど（笑）。

——なんでだよ！（笑）。それがいいことなのか悪いことなのかはわかんないですけど、実際、そういうことは面白がってやれる方なんですか？

辻　あ〜、結構好きかも（笑）。

——「キャ〜キャ〜」言われたい自分もどこかにいたんでしょうね。

辻　いままで気づかなかったけど、隠れキャラであったかもしれない（笑）。

——サップのように世間の人にも知られるようになって、辻結花個人だけじゃなく女子格闘技というジャンルを広めていきたいっていう願望はないんですか？

辻　う〜ん、それはどうやろ？

——以前も言ってましたけど、やっぱり自分にしか興味がないと？（笑）。

辻　いやいやいや（苦笑）。でも、そろそろ貢献していこうかなと。

——それは何に対してですか？

辻　やっぱり女子総合に対して。私が出ることによって女子総合を知ってもらえれば選手も増えると思うし、選手を取りまく環境も良くなるかなって思って。そういう意味で今年年はちょっと頑張ろうかなと。

——ほぉ〜。ちょっと前までは、そういう意識はありませんでしたよね？（笑）。

辻　全然なかった！（キッパリ）。もう自分さえ良ければばって感じで（笑）。

——ですよね（笑）。自分の試合しか興味ないし、雑誌とかでも自分が出てるところしか見なかったってことで。

辻　（恥ずかしそうに）はい（笑）。

——でも最近は自分のこと以外もかなり詳しくなったみたいですね。

辻　（誇らしげに）ええ。いまは、かなり知ってますよ！

——ノゲイラ兄弟の見分け方もわかるようになったということですけど（笑）。

辻　（またまた得意げに）あの人たちは双子で、兄弟の見分け方は背中見たらわかるんですよ。

——ノゲイラ兄弟の背中にどんな秘密が隠されてるんですか？

辻　お兄さんの方は、ちっちゃい頃に交通事故に遭いまして、背中がちょっとへこんでるんです。……（不安そうに）あってますよね？

——正解です（笑）。あとはどういう選手を覚えました？

辻　（すかさず）ボブ・サップ！

——だから、ボブ・サップは、その辺のガキでも知ってますよ！（笑）。

辻　そうなんですけど、私はホンマにボブ・サップが好きなんですよ。

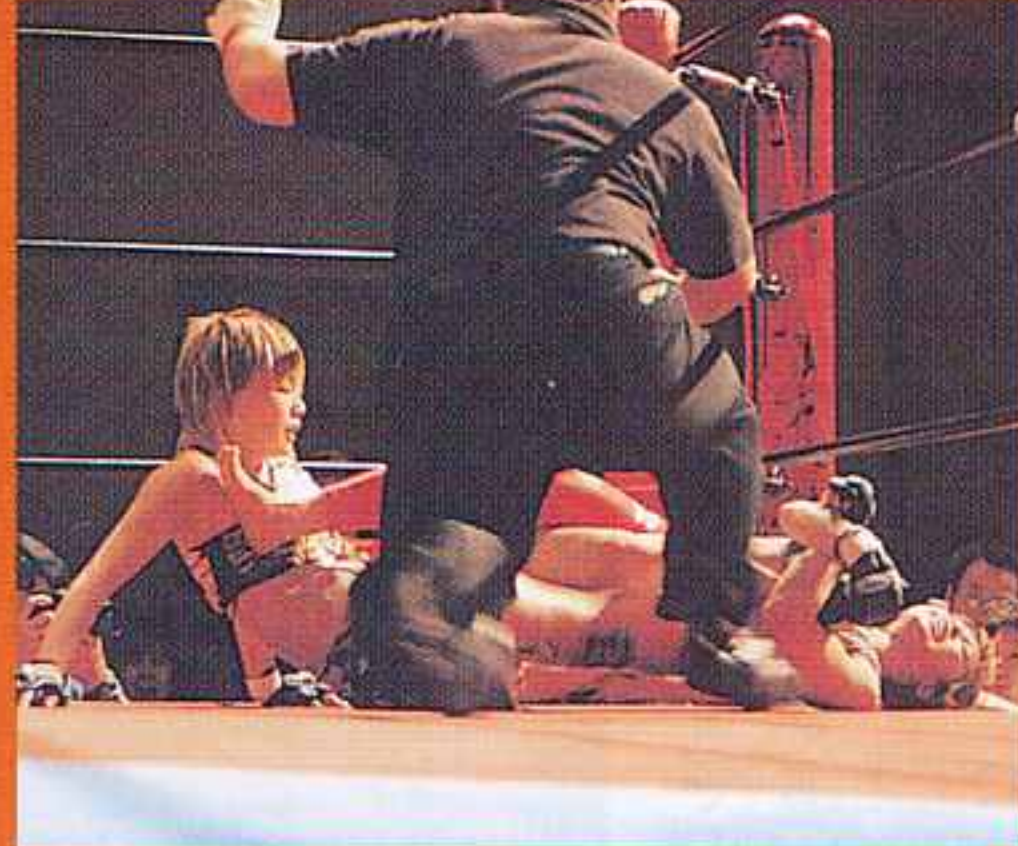
——それはファイターとして好きなんですか？　それとも人間として？

辻　もう全部！　この間、K—1のアーネスト・ホーストとやった時にボディー打たれてダウンしたじゃないですか？　絶対これは起きあ

◀◀◀◀ 2002・12・29 スマックガール ～JAPAN 2002

おまけ

ジョシュ・バーネットが２度目のスマック観戦！　ナナチャンチンが格闘家でもあるジョシュの彼女との対戦を直談判！　即座にOKを出したジョシュ。対戦はいつだ？

仲間が作ってくれたというダンボール製チャンピオンベルトを手に、珍しくナマの感情を剥き出しにして喜ぶしなし。女子総合のベストバウト＆ライト級王者誕生の瞬間だ

打撃で攻め込まれるしなしだが払い腰で鮮やかにテイクダウン、グラウンドへ。（ジョシュ・バーネット、ここで見やすい席へ移動）日本でも有数のグラウンドテクニックで渡邊を巻き込み、最後はヒールホールド!!

オリジナルの「なべんなよ」コスチュームで登場の渡邊久江。互いに己の勝利を確信して疑わない２人の激突は、渡邊がハイキック＆ヒザとラッシュで、しなしさとこを追い込み、猪木ーアリ状態に

がれないと思ったのに起き上がって、そんで、そっから勝ったの見て、もう感動しちゃって。「うわぁ～、この人は凄い！」って思って。

―あれは凄い試合でしたからね。でも実際、サップの試合はプロレスや格闘技は興味ないっていう人でも気になるって言うし、辻ちゃんもそういう存在になれれば、女子総合も一気に注目を浴びますよ。

辻　そうですよね。

―それぐらいになれれば、桑田さんとの対談も出来ると思いますよ（笑）。

辻　フッフッフッフッ（笑）。

―ここ最近は女子総合も、ちょっと落ち着いちゃった部分があるんで、辻ちゃん共々爆発して欲しいとこですけどね。

辻　はい。期待に応えられるよう、ちょっと頑張ろうかなって思ってるんで。

―初めて『紙プロ』に出てもらった時は、昼は老人介護の仕事をやってて、マスコミなんかでも「昼は老人介護、夜はガチンコ格闘家」ってことで注目されてた部分もありましたよね。

辻　そうそうそう（笑）。

―でも、いまは老人介護の仕事は辞めて格闘技一本で生活してるんですよね。

辻　まあ、そうですね。いまは、これ（格闘技）しかなくなったんで、言い訳もできなくなったし。逆に自分を追い込んでやるしかないって感じで。

―練習漬けの毎日なんですね。

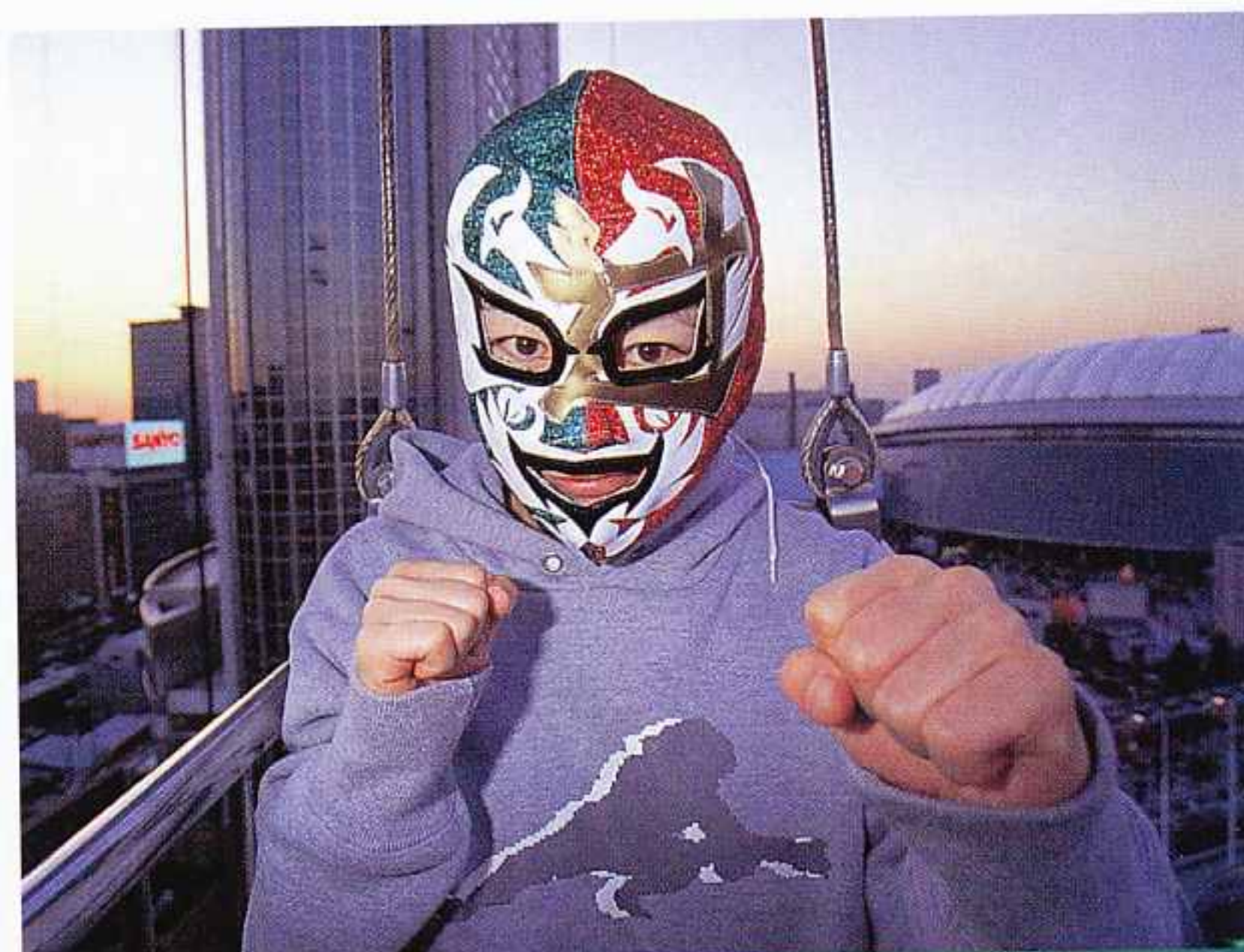
辻　まあ、ほどほどにやってますけど、もう歳なんで（苦笑）。

―いやいや、そんなことないですよ（笑）。いまは肩書き的にはプロ格闘家ってことでいいんですよね？

辻　（照れ臭そうに）え、ええ（苦笑）。

―何か仕事はしてないんですか。

辻　いまはしてないですけど……でも、やりますよ。やらないとダメです（苦笑）。

―さすがに現状の女子総合の世界では、ファイトマネーだけで生活していくっていうのは難しいでしょうからね。

辻　そうですね。でも今度やるとしたら前みたいに老人介護とか専門職じゃなくて、むしろ、格闘技をメインでやれるようなことを探してるんですけど。

―女子格闘家として名前を上げて、最終的にはファイトマネーで食えていければそれにこしたことはないですし、そういう業界になれば一番ベストですよね。

辻　そうなんですけど、でも私、もう若くないんで（笑）。

―さっきから「歳だ歳だ」って言ってますけど、まだまだ老け込むような年齢じゃないですよ（笑）。

辻　だから、繰り返さないでください！　そこは流してもらわんと（笑）。

―すいません（笑）。2003年の目標は具体的に何かありますか？

辻　大阪とハワイで試合をしたい！

今年は大阪とハワイで試合をしたい！呼んでくれれば、いい試合しますんで！（笑）

―大阪とハワイ⁉　大阪っていうのは、やっぱり地元で試合をしたいと？

辻　そうです。いつも東京ばっかりなんで、たまには地元でやりたいなと。

―何となく想像はつきますけど、ハワイでっていうのは？

辻　（小声で）旅行も兼ねて（笑）。

―あ、やっぱり（笑）。

辻　誰かハワイに連れてって！（笑）。

―知り合いのエンセンにでも頼んでみればいいじゃないですか（笑）。

辻　あ、そっか。美憂さんにお願いしてみよっかな（笑）。

―そうしてください（笑）。そういえば、辻さんは修斗のライセンスを持ってますよね。男子の総合の大会とかには興味はないですか？修斗に限らず。

辻　可能性があるんやったら是非出たいですね。呼んでくれれば、いい試合をしますんで！（笑）。

―『DEEP』だったら佐伯代表に頼めば組んでもらえると思うんですけどね。頼まれたら嫌と言えない人なんで（笑）。

辻　えっ、そうなんですか⁉　大阪でやるんだったら、是非お願いします！

―ちょうど『DEEP』では7月に大阪大会があるみたいですからね。

辻　（必要以上に驚いて）エェ～！　じゃあ、なおさらお願いします！（笑）。

―と言うことです、佐伯代表！（笑）。ということで、2003年も去年以上に頑張ってください！

辻　期待してください！　（小声で）ここだけの話、バク宙パスガードとか、試合で出してない技もいろいろあるんで。

―バク宙パスガードですか⁉

辻　そんな意味ないんやけど（笑）。

―そうですか（笑）。あ、あと入場の時の辻マスクも期待してますんで。

辻　うわっ、それはプレッシャーやな（苦笑）。でも来年は試合も、あと入場も魅せます！　そんでもって爆発します‼

―爆発ついでにサップ戦も実現すればいいですけどね（笑）。

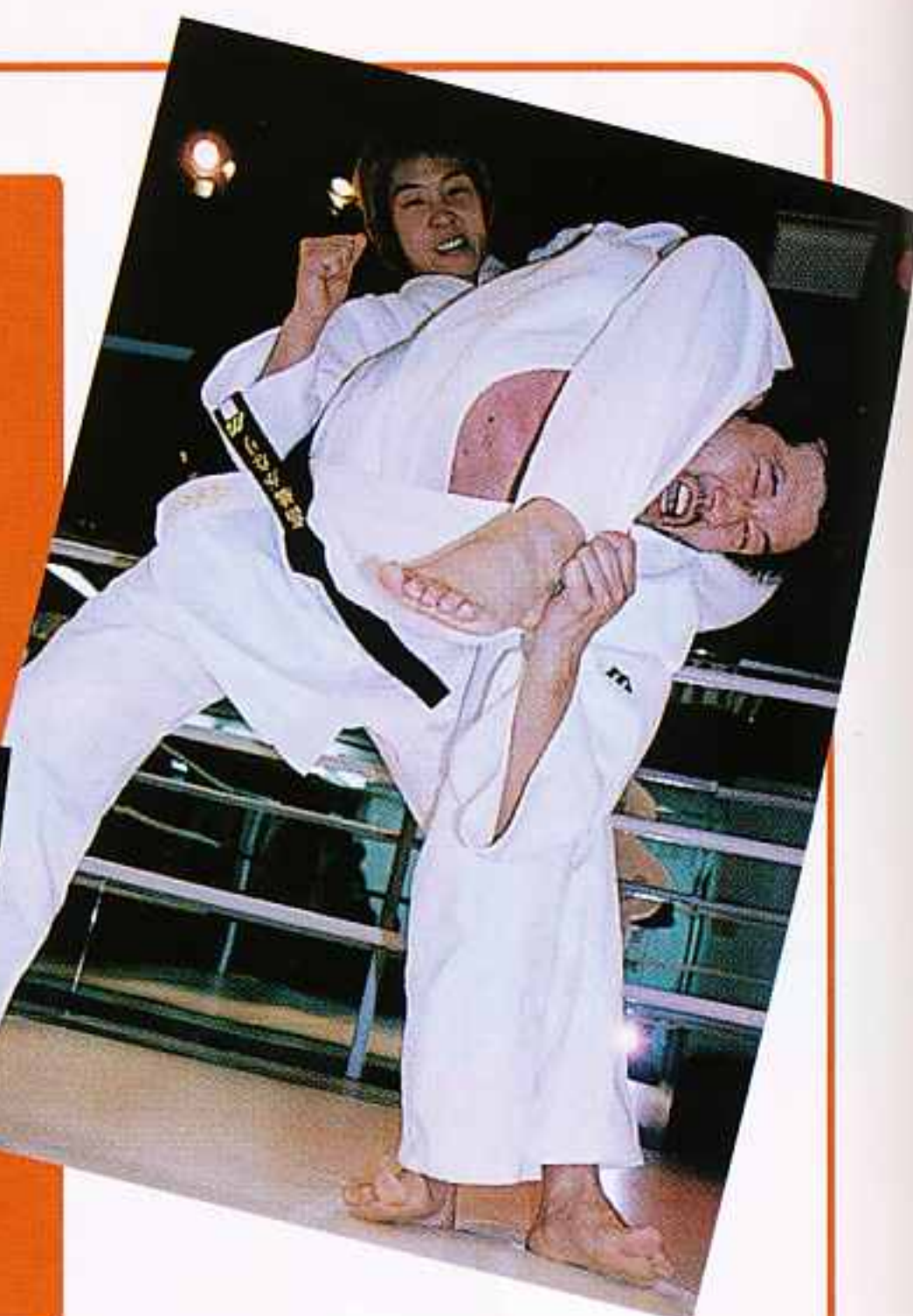
辻　ボブ・サップとも闘いたい！　あと……誰かハワイで試合を組んで！（笑）。

―どなたか、お願いします！（笑）。

【02年12月30日／都内某所にて収録】

★Profile★　"浪速のレスリング女王"本名＝辻結花（つじゆか）。156cm、54kg。1974年12月11日生まれのO型、大阪府枚方市出身。レスリングの実績＝スウェーデンカップ優勝、ポーランドオープン優勝、全日本選手権3位。得意技＝スーパー・ロータックル、腕ひしぎ逆十字固め、アキレス腱固め。2002年12月29日、スマックガール・ミドル級トーナメントを制し、見事王者に輝く。現在はボブ・サップ戦に向け猛特訓中（？）。

女子格闘技界に卍固め！

『￥マネーの虎』でお馴染みの高橋がなり率いるソフト・オン・デマンドがマット界に本格参入！

年商72億！

かねてから噂はあったが、アダルトビデオで有名なソフト・オン・デマンド（以下SOD）が遂に女子格闘技界に本格参入することが決定した！

これまで、など格闘技以外にも全女やZERO—ONEなどをスポンサードしていた、人気TV番組『￥マネーの虎』でもお馴染みの高橋がなり社長率いるSOD（年商72億！）が、この度、女性による女性のための格闘技ジム『SOD女子格闘技道場』を東京都豊島区要町（なんと駅から徒歩0分！）にオープン。

女性会員限定というこのジムは護身術・フィットネスからプロ格闘家を育成する本格的な格闘技まで幅広いコースが揃っており、がなり社長もゆくゆくは大会開催も視野に入れているとのことで「賞金総額5000万ぐらいのトーナメントをやりたいと思ってます。どうせなら自分も出てグンダレンコとか神取選手とガチンコで闘いたい！」との超ビッグプランを語った。

次号の『紙プロ』では、高橋がなり社長にロングインタビューを敢行！

女子格闘技界での野望、なぜ神取忍とガチンコで闘いたいのか？　松本人志に対戦表明!?　驚愕の破壊王主演映画決定!?　などなど、がなり説法がキミの脳天を直撃すること間違いなし！

果たして、巨額のビッグマネーを手にした、がなり社長は女子格闘技界に卍固めをかけられるのか？　それとも逆にかけられてしまうのか？

野郎も女の子もSODに注目です!!

これが『SOD女子格闘技道場』だ！

ジャガー横田、神取忍の2人が特別顧問のほか、直々に指導してくれるのは、日本初の女子総合格闘家・高橋洋子と、『Remix』で一躍スターとなった薮下めぐみ。2人は正式にSOD道場所属となった

広い綺麗なジム内には、リングもある！　総合、打撃に向けた練習・スパーリングはもちろん、ダイエットや運動不足解消ストレッチにも対応、キッズもOK！　がなり社長の立て看板と記念撮影も可能！

要町の駅を出るとすぐ目の前にあるビルの中にSOD道場はある。交通の便もバッチリで社会人も安心だ！

SOD女子格闘技道場

現在、3大オープン特典として

1. 2月末まで入会金無料キャンペーン
2. 体験入門コースの実施（1月末まで）
3. プロ格闘家によるエキシビジョン・マッチを定期的に開催。見学は無料！

★営業時間 AM10:00～PM10:00
★住所：東京都豊島区要町1-1-11 要町KTビル5F
（営団地下鉄有楽町線・要町駅下車、4番出口より徒歩0分）
★TEL 03-5917-0026

J ・福田社長風)、iモード参入!!

スHand』

会員数激増中!!

広告もろくにやってないのに

絶賛配信中!!

た!!』(破壊王風)

ト に料理して、あなたの携帯へ毎日お届け!!

実 させすぎました(誇張あり)。

"仰天ふろく"、待画、着メロも充実!!

君のケータイを好きなレスラーでカスタマイズ!!

『紙プロ』おすすめ団体
「ZERO-ONE」「闘龍門」「スマックガール」
スペシャルミニサイトあり!!

ヴォルグ・ハンのテーマ、ドラゴンのあの名曲……
その他、2月1日に着メロ追加予定ッ!!

iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技・大相撲 ▶ 紙プロHand

これで月300円は激安!!
(パケット代は自己責任で)

トップメニュー ▶ 遊ぶ・楽しむ or ezインターネット ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶ 紙プロHand

目ん玉の飛び出るような携帯サイト（WJ ・福

『紙のプロレ

「時は来

マット界のニュース・事件、そして特選コラムを『紙プロ』テイスト に

0 本日更新記事
1 メインニュース
2 試合結果速報
3 団体別トピックス
4 おすすめ団体ミニサイト
5 仰天ふろく
6 紙プロコラム
7 どすこい紙プロ部屋
8 試合スケジュール
9 あんたが便りコーナー
紙プロ最新号情報

そのスバラシイ中身を一部公開!! 月額300円なのに充実

毎日更新の「メインニュース」
こんな感じでお届けしてます

★ゴールドバーグ、水道橋駅から登場!!
『W-1』詳報5

★コールマン勝利!!
“超変態”に、破壊王苦悩!!
『W-1』詳報4

★ウルティモ感無量!!
馳15万票獲得!! 『W-1』詳報3

★噂が怖かった!!
1/17健介帰国会見パート1

★“明るい未来”はWJに!?
健想も新日本退団!!

★財布ショアッ!
プロレスバカ、ひったくりで逮捕!

★『PRIDE』、3/16後のスケジュールは白紙に

★新日本に激震再び!! 越中退団!!
成瀬は総合に照準!?

他では絶対読めないスペシャルコラム
ほんの一部だけ公開!!

★山口日昇の鬼畜日記（1/19up分）【不定期更新】

さて『W-1』といえば、ジョーに関する驚くべき噂がある。19日の昼間、破壊王戦を控えたジョーを、日本のマネジャーがホテルまで迎えに行った。ドアをノックしても返事がないので部屋に入ると、なんとジョーは、来日してからナンパした女の子とホンバン行為に励んでいる真っ最中だったという。そして、女の子の口を手で押さえ、ふとんから顔だけ出したジョーは、手のひらを開いて突き出し「あと5分だけ待ってくれ」とマネジャーに懇願したらしいのだ。ビバ、ジョー・サン!!

★吉田豪の「入院させてよ！」（1/19up分）【毎週木曜更新】

健介が明日帰国するらしいけど最近の背広レスラー（永島勝司）はいい仕掛けを繰り返してるね。昨日なんか『東スポ』で長州が「頭から天龍のことが離れない」って年内シングル70連戦をブチ上げてるんだよ! もう、どうやって興行に客を呼ぶかよりも、どうやって紙面に載るかしか考えてないでしょ。WJは試合よりも『東スポ』の中でこそ光るんだよ。だから業界のド真ん中は無理でも、俺のハートのド真ん中は順調に突き進んでるね。（談）

★初回ゲストは葛西純だ!!
リレーコラム『紙プロ』いいとも!【毎週金曜更新】

選手コラムも見逃せない!! レスラー間で繋がる“友達の輪!”

★金ちゃんの「人生、なんでそ〜なるの!?」【毎週土曜更新】

金原弘光が、あなたの携帯で毎週ボヤく！（？）

ez-web版も月額200円で絶賛営業中!! ▶▶▶▶▶▶▶

創刊6周年だってなぁ……。

ジョー・サンからのお祝いだよ!!

RADICAL PRESENTS

Fantasy

武藤敬司&船木誠勝サイン色紙
編集部が用意したペンが薄かったためにかすれているが、それはそれで幻想溢れるスペシャルサイン色紙に仕立て上がっているのは気のせいか? 気のせいですね

3名様

1・19『WRESTLE-1』パンフレット
ボックスにカードがたくさん詰まった特製大会パンフレット! ホーガンは不参戦となったが、パンフにはこれでもかとばかりにフィーチャーされていますよ。イチバーン!!

5名様

MINOLTA「DiMAGE Xi」

1名様

本誌チョロがなぜか2台のデジカメを手に入れたが、もちろん没収。もう1台は鬼畜編集長の手に渡りました 【チョロ泣く泣く提供】

NO FEAR

1名様

高山善功・巨大ソフビフィギュア
人間離れした巨体にビックハートを合わせ持つ高山に相応しい巨大フィギュアが堂々の登場! 魔除けにもどうぞ
【モグラハウス提供】【TEL】055-262-7799

Low Ki

ロウ・キーTシャツ(サイン入り)
ゼロ族イチオシのロウ・キーはTシャツも凄いんです! 『紙プロ』通販でも絶賛販売中!

2名様

Alistair Overeem

アリスター・オーフレイムステッカー
『PRIDE.24』でアターエフに勝利したアリスターからハンマーはゲットできなかったけども、ステッカーを頂きました 【アリスター・オーフレイム提供】

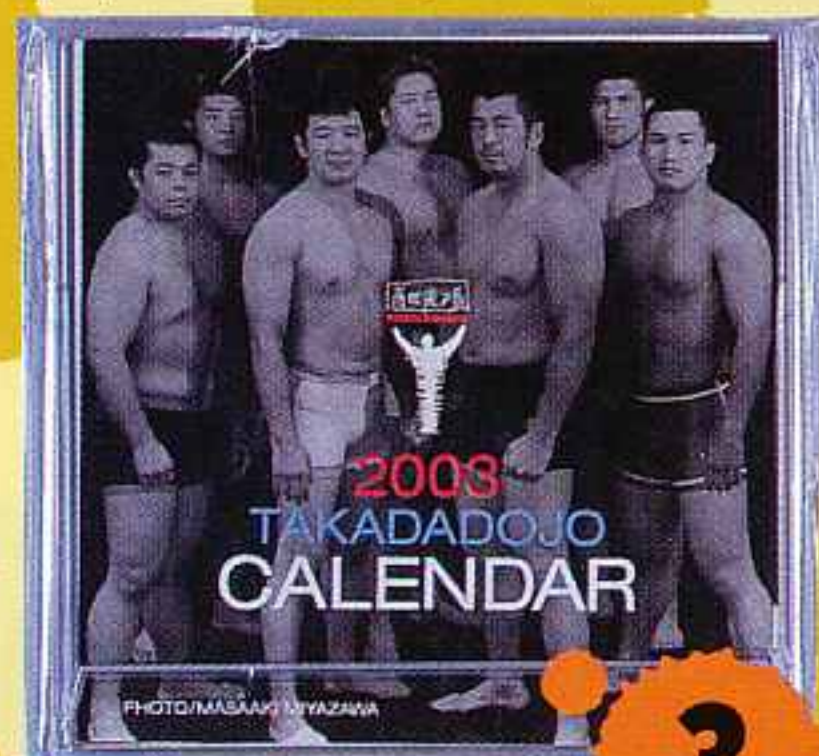
5名様

ALISTAIR
"DEMOLITIONMAN"
OVEREEM

TAKADA DOJO

【高田道場提供】【TEL】03-5749-5030
【URL】http://www.takada-dojo.com/top.html

2003 TAKADADOJO CALENDAR

3名様

2003高田道場カレンダー
高田総裁、桜庭ら高田道場勢が全員登場のカレンダー！ モノクロなので判断できないですが、たぶんヤマノリは金髪眉無しバージョンで登場してます

OROS

【OROS提供】【TEL】04-7131-9677
【URL】http://www.ki-jin.com 【E-mail】store@ki-jin.com

各2名様

TACOX REAL FIGHTING（¥4,000）

SHOOT TACOX（¥5,000）

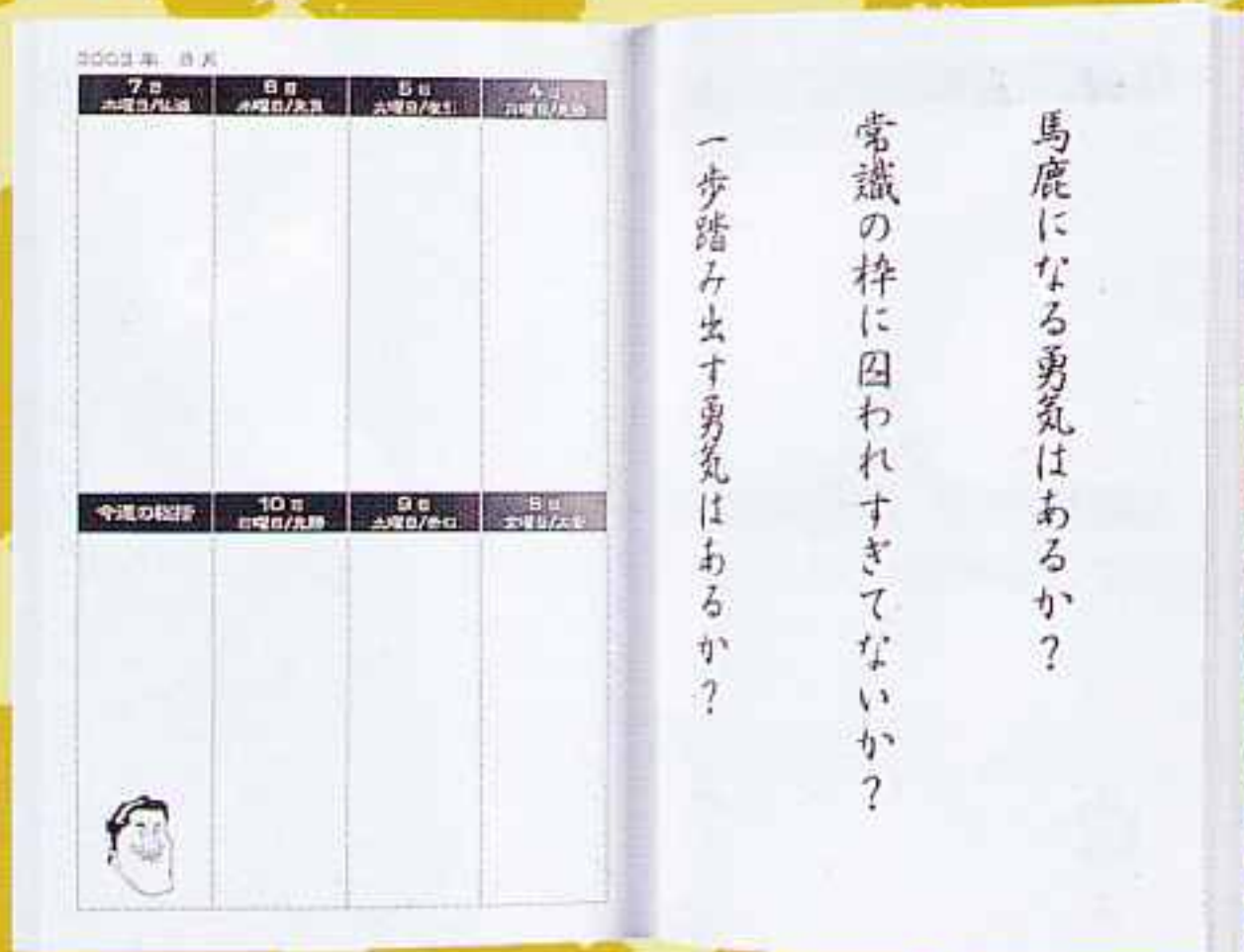
SHOOT 木口道場 五味隆典Tシャツ（¥4,000）

OROSから奇人・朝日昇がデザインを手掛けるTシャツが続々とリリース！ 修斗ファンは注目だ!!

ANTON

イノ記

馬鹿になる勇気はあるか？
常識の枠に囚われすぎてないか？
一歩踏み出す勇気はあるか？

2名様

イノ記
アントン総帥が『猪木祭り』の宣伝中にバラまいていた噂の日記がこれ！ 貴重な非売品グッズ！ 書きますかーッ!?

セットで1名様

闘魂タオル＆一番フリーフ
平和から発表された「アントニオ猪木という名のパチスロ機」のお披露目イベントにて配られたスペシャルグッズ！ 身にまとって打ちますかーッ!? 【平和提供】

セットで2名様

『猪木祭り』ステッカー＆アントン闘魂ドーム
同じく『猪木祭り』の宣伝中にバラまいたアントングッズ！ 今日はさっそく卍固めということで、ムフフフ！ やりますかーッ!?

BRUCE LEE

セットで5名様

ブルース・リーセット（ステッカー＆カード＆Tシャツ）
山田英司氏が今年の注目ファイターとして挙げたのは、なんとブルース・リー！ 絶賛理由は各自『SRS』を読むように【星川裕章提供】

DSE

セットで1名様

アントンTシャツ

BACK

花くまゆうさく『PRIDE』ウオッチ
DSE懇親会で配られたおみやげをそのまま読者に流します 【DSE提供】

応募要項

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事＆その理由
⑥つまらなかった記事＆その理由
⑦好きな選手＆嫌いな選手
⑧『W-1』をどう評価しますか？

【宛先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株)ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「たまには俺もエンターテイナー」係まで
※締切は2003年2月20日（木）当日消印有効

Big blue

【TEL】03-3435-2883
【URL】http://s-ovation.com/bigblue.html

みなさん、WWEはどうでしたか？ そうですか、楽しかったですか！ だったらグッズも買いましょうね

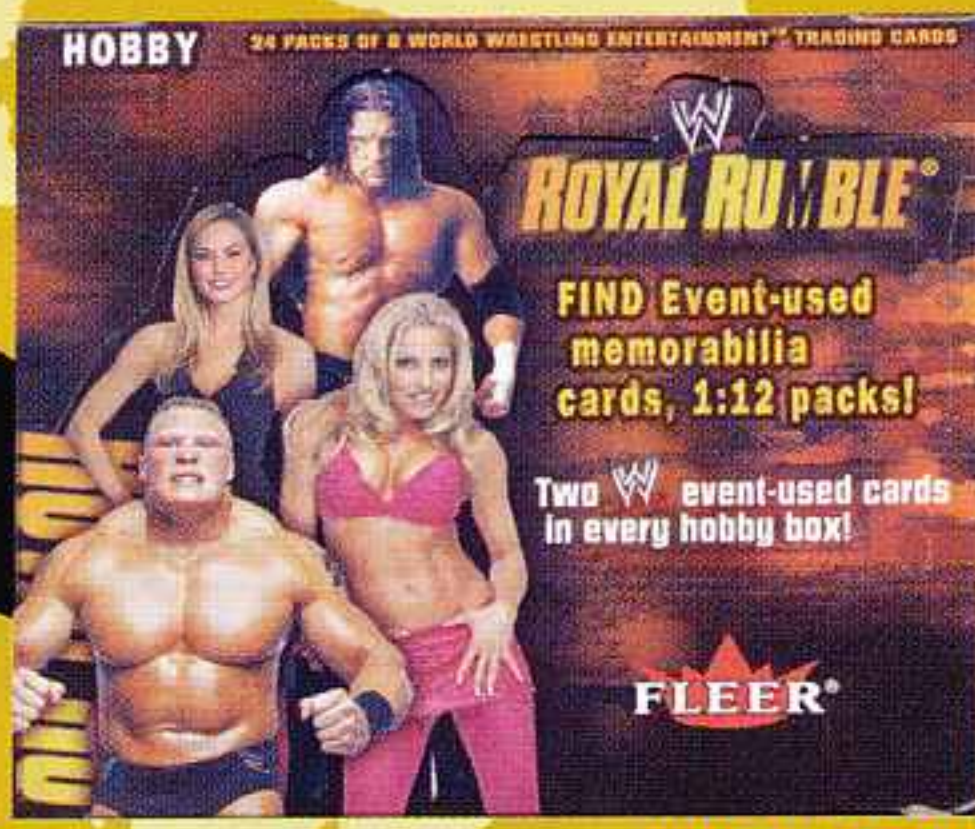
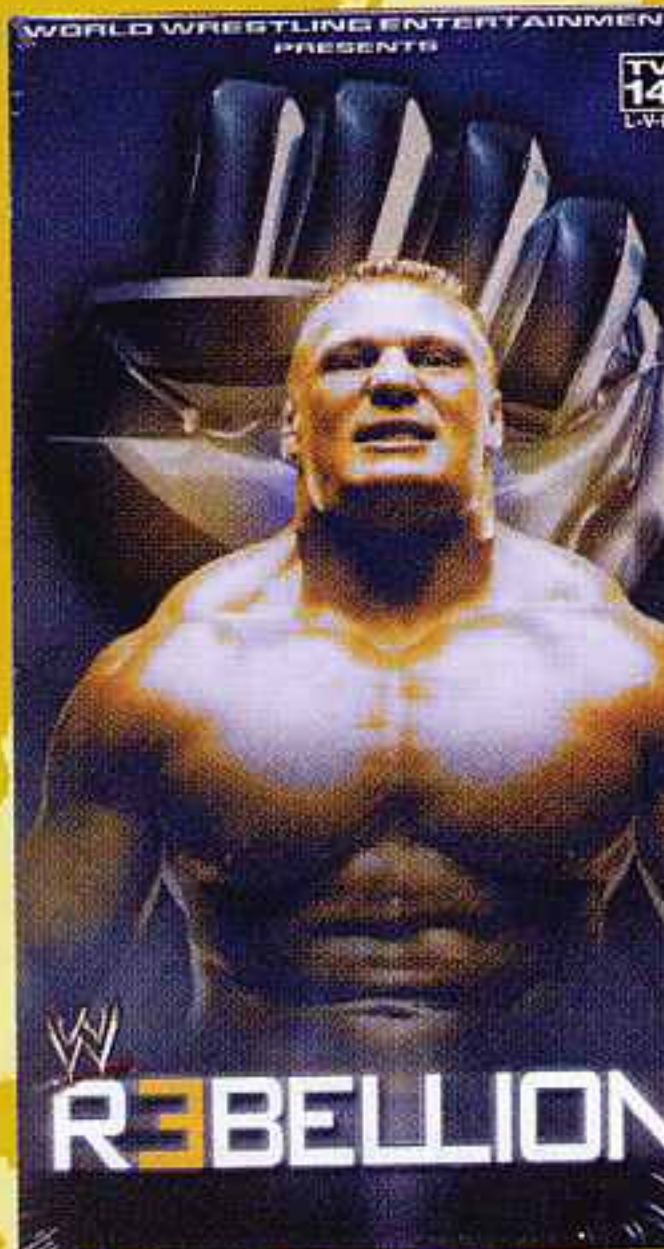
トリプルH Tシャツ

ババ・レイTシャツ

WWEトレカBOX

レスナー特集ビデオ

各1名様

RADICAL NEW WEAR

冷酷無比 ヒョードルが笑った!! Tシャツもできた!!

Emelianenko
Fedor
エメリヤーエンコ・ヒョードル

「代引き」を開始!! 『紙プロ』通販方法

★TPOにあわせて選べる通販方法　★消費税サービス
★全国どこでも送料一律500円（離島、山間部は除く）
★代引御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

代引き
郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com まで送り下さい。
申し込みメール確認後、佐川急便にて発送。代金引換でのお受け取りになります。
商品代金のほかに送料一律￥500（何枚でも可。離島、山間部は除く）代引手数料約￥315がかかります。（代引金額によって異なります）。）御支払は、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

現金書留
希望商品の代金＋送料一律￥500（何枚でも可・ネックピースだけなら￥300。離島、山間部は除く）を現金書留で
〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス
まで送り下さい。郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

郵便振替
希望商品の代金＋送料一律￥500（何枚でも可・ネックピースだけなら￥300。離島、山間部は除く）を郵便振替で送り下さい。
郵便振替の宛先は00130-3-769154（株）ダブルクロス
郵便番号、住所、氏名、電話番号（携帯）、商品名、サイズ、枚数、何故か年齢を必ず表記してください。

●問い合わせ　（株）ダブルクロス　03-3403-5188

エメリヤーエンコ・ヒョードルTシャツ〈ホワイト〉

￥3,800　S or M or L or XL

The lost emperor
E
Emelianenko Fedor
Back

エメリヤーエンコの“E”とヒョードルの“F”をあしらった、『紙プロ』Tシャツ最新作！　ロシア最強戦士であるヒョードル様のTシャツが堂々のリリースだ！　ヒーリングを機械的に撲殺し、ノゲイラとの頂上対決が期待されている皇帝閣下に、心を奪われたロシアン・マフィアならぬロシアン・マニアは必着であり、リングス者なら問答無用で購買の家宝モノ。お年玉をブチ込むには、もってこいのTシャツだ！

紙のプロレス RADICAL
No.58
2003年2月25日発行
No.59は2月下旬発売予定!
※多分にです。地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎（新宿駅警選のため非番）

スーパーバイザー
吉田豪
助っ人
片山ボン
ジャイ子
電気部
さささぃ
スモーノブ

アートディレクター
出田さん（TwoThree）
デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
タニやん（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上さおとめの事務所）
海老沢勇
古賀ゆきえ（以上Zero graphics）

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
菊池茂夫
福島勝儀
試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝
出前
出前持ち入江（TwoThree）
フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所
ゼロ・グラフィックス
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元　株式会社ワニマガジン社　〒160-8580　東京都新宿区内藤町一番地　TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元　株式会社ダブルクロス　〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　TEL.03-3403-5188（編集・制作）

『紙プロ』が送るスペシャル仰天グッズ

好評につき量産決定!!

Kapraギフトセット

Bセット
サービス価格
¥8,800 M or L

- Kapraパーカー[カーキー/前ジッパー・後イエロープリント・裏起毛]
- ニット帽[ブラック/ホワイト刺繍入り]
- トートバック[ブラック/ホワイトプリント]

Aセット
サービス価格
¥8,800 M or L

- Kapraパーカー[ネイビー/前ジッパー・後ホワイトプリント・裏起毛]
- ニット帽[ネイビー/ホワイト刺繍入り]
- トートバック[ネイビー/ホワイトプリント]

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L

田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,800 S or M or L or XL

ロシアン・トップチームTシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or SOLD OUT

ロシアン・トップチームTシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or L or SOLD OUT

リング・アフロラグラン半袖Tシャツ〈黒×グレー〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT

リング・アフロラグラン長袖Tシャツ〈グレー×黒〉
¥4,500 S or M or L

Kapra半袖Tシャツ〈デニム〉
¥3,500 S or SOLD OUT or SOLD OUT

残りわずか!

紙プロネックピース
¥~~1,200~~ → 大特価 ¥600

ヴォルク・ハンTシャツ
¥3,800 S or M or L

残りわずか!

『紙のプロレス』・紙Tシャツ〈ネイビー〉
¥3,000 S or M or L or XL

『紙のプロレス』・紙Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,000 S or M or L or XL

通販完売商品は直販店にある!?

【『紙プロ』ウェア常備ショップ】★チャンピオン(TEL.03-3221-6237) ★東京イサミ(TEL.03-3352-4083) ★岐阜・バンザイ商会(TEL.0584-75-4966) ★宮城・スクワット(TEL.022-264-8160) ★大阪・少年ジェッター(TEL.06-6541-3551) ★グレート・アントニオ(TEL.03-3219-9550) ★大阪・バディスラム(TEL.06-6645-1378) ★三恵格闘技SHOP長崎(TEL.095-824-8658) ★三恵格闘技SHOP諫早(TEL.0957-22-4646)

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK 220
2003 NO. 58
マット界にイリュージョンを!
明日また生きるぞ!!
平成15年2月25日発行　編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社　〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地　電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス　〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702　電話／03-3403-5188
ワニマガジン社　定価：本体838円＋税

9784898297001
ISBN4-89829-700-5
C9476 ¥838E
1929476008381
雑誌　69860—20
印刷：図書印刷株式会社

☎INDEX

＊50音及びアルファベット順

名称	電話	住所
アルシオン	➡03-5745-6101	〒141-0031 東京都品川区西五反田3-6-24 サンハイツ1004
大阪プロレス	➡06-6636-6672	〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
怪獣王国	➡03-5952-1177	〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F
キャプチャー	➡044-959-3333	〒215-0011 神奈川県川崎市麻生区百合ヶ丘2-2-1 横山ビルB1
キングダム・エルガイツ	➡0423-31-2797	〒206-0822東京都稲城市坂浜2305
栗栖ジム	➡06-6790-8896	〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7
喧嘩プロレス二瓶組	➡044-588-2438	〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2 二瓶ビル
国際プロレス	➡0467-86-0197	〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14
修斗コミッション	➡03-5824-1324	〒111-0032 東京都台東区浅草5-56-8 若山ビル201
新日本プロレス	➡03-5468-3111	〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11
掣圏道	➡042-544-6979	〒196-0013 東京都昭島市大神町1-2-22
全日本女子プロレス	➡03-3493-6541	〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17
全日本プロレス	➡03-3403-7344	〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12
大日本プロレス	➡045-937-0811	〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347
ダイプロデュース(大仁田興行)	➡03-5496-4900	〒141-0031 東京都品川区西五反田1-32-3 大北ビル3F
髙田道場	➡03-5749-5030	〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6 ワールドパレス武蔵小山1F-B1
高山堂	➡03-5464-2806	〒150-0011 東京都渋谷区東2-21-9-803ジェイパーク渋谷イーストスクエア
闘龍門JAPAN	➡078-333-9797	〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8 TOWA元町ビル901
トータルワークアウト	➡03-3280-5557	〒108-0073 東京都港区三田4-7-24 明るいビル
ドリームステージエンターテインメント	➡03-5775-5700	〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4 ルーメリ赤坂103
バトラーツ	➡0489-63-0005	〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43
パンクラス	➡03-5792-0815	〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
プロレスリング・ノア	➡03-3527-5311	〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
みちのくプロレス	➡019-626-1333	〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8
DDT	➡03-3868-9181	〒112-0002 東京都文京区小石川2-9-7 MORIMOTO FLATS 4F
DEEP事務局	➡052-339-0303	〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
GAEA JAPAN	➡03-5459-3101	〒150-0036 東京都渋谷区南平台6-7 MAISON南平台1F
GCM COMUNICATION	➡03-3538-5801	〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
IWAジャパン	➡03-3352-3366	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ401
Jd’	➡03-5561-0522	〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4 ランディック赤坂ビル4F
JWP	➡03-5849-2341	〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
K－1事務局	➡03-3796-2977	〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14
KAIENTAI DOJO	➡043-214-6960	〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
LLPW	➡03-3945-7926	〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4 ピクセル文京105
NEO	➡044-422-8344	〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
SMACK GIRL実行委員会	➡03-5545-4766	〒106-0041 東京都港区麻布台2-3-5 ノアビル12階
SPWF	➡0475-42-6687	〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮10073-2
U-FILE CAMP	➡044-932-0282	〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
UFO	➡03-5447-2121	〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5 OK白金台ビル7F
U.W.F.スネークピット・ジャパン	➡03-3337-1889	〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
WEW	➡03-5958-5651	〒176-0005 東京都豊島区南大塚3-34-4ニューヴァリー2F
WJプロレス	➡03-5458-5915	〒153-0042 東京都目黒区青葉台3-10-9 東信青葉台ビル4F
WMF	➡03-5362-7364	〒160-0004 東京都新宿区四谷4-26 テクノ四谷ビル2F
WWS	➡0495-24-6900	〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106
ZERO-ONE	➡03-5730-3401	〒105-0014 東京都港区芝2-30-11 寿ビル601
ZIPANG	➡03-3312-0328	〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-21 ハイネス梅里201
ZST	➡03-5321-9595	〒106-0023 東京都新宿区西新宿3-1-2 廣川ビル4F

春一番、
1・4東京ドームで
リングジャック！

買いますかーッ！

猪木になれば東京ドームのリングにも上がれる

アントン公認『春一番の炎のファイター』
~INOKI BOM-BA-YE Haruichiban-Remix~
『元気ですか体操』も入って絶賛発売中ダーッ!!

[お問い合わせ] 株式会社ウッドベル TEL.03-3405-1622

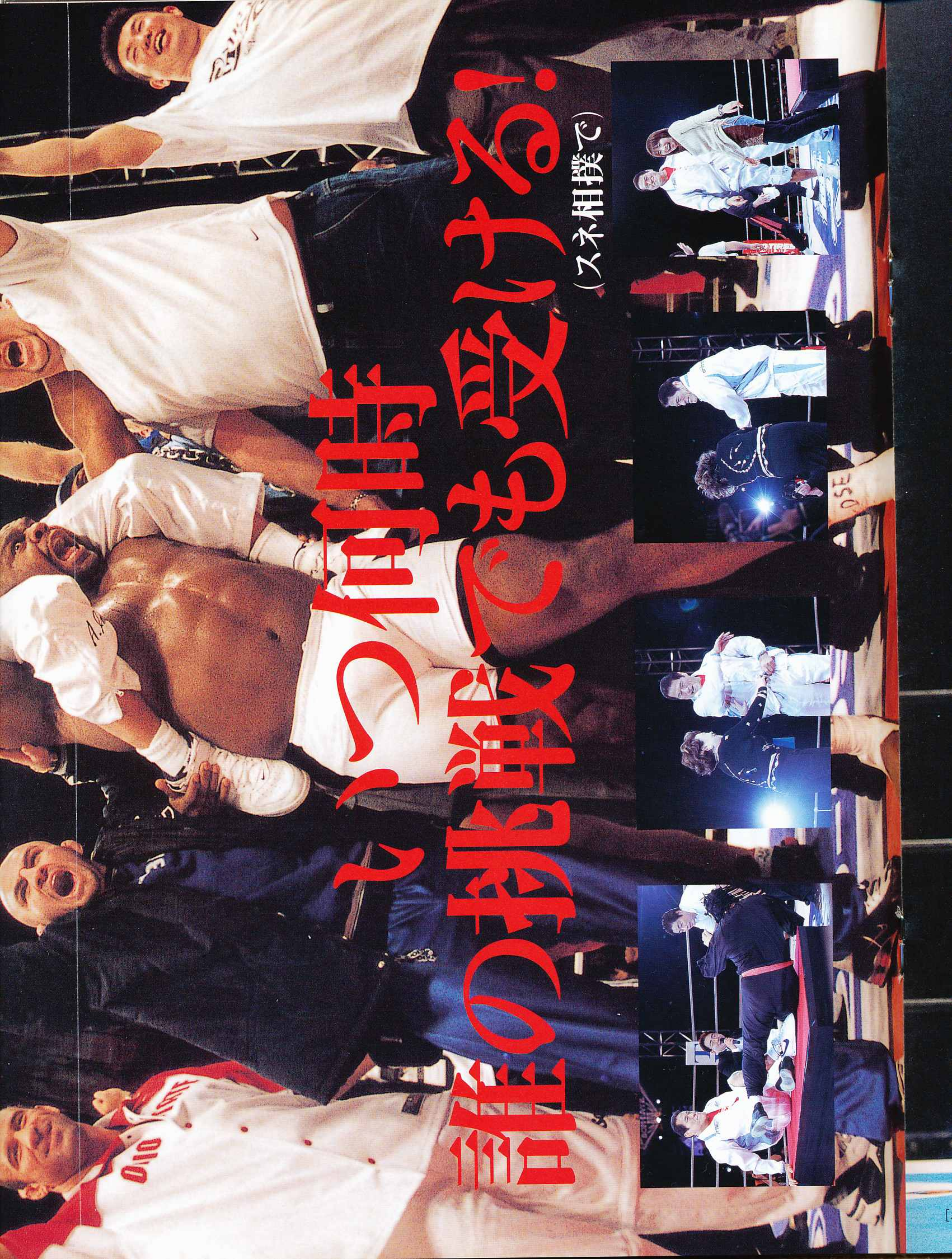
いつ何時
誰の挑戦でも受ける!

(スネ相撲で)

INOKI
BOM-BA-YE
2002
INOKI-GUN VS. K-1 VS. PRIDE
2002.12.31
SAITAMA SUPER ARENA

ブアリーナ(18:30)
:30)
マロニエホール (19:00)
未定)
(18:30)

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇　◎ ジャン斉藤
♠ 松澤チョロ　♥ ささきぃ
◆ 堀江ガンツ　● スモーノブ

Jd'■千葉・Jd'柏道場(18:00)

16 SUN.

新日本■東京・両国国技館(16:00)
全日本■福岡・博多スターレーン(16:00)
闘龍門■東京・後楽園ホール(18:30)♥
ノア■東京・後楽園ホール(12:30)
新宿■東京・歌舞伎町クラブハイツ(18:00)
DDT■大阪・デルフィンアリーナ(17:30)
GAEA■大阪ドーム・スカイホール(16:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
パンクラス■大阪・グランキューブ大阪(16:00)◎

17 MON.

全日本■鹿児島・鹿児島アリーナ(18:30)

18 TUE.

ノア■神奈川・横須賀市総合体育館(18:30)
全女■東京・後楽園ホール(18:30)

20 THU.

ZERO—ONE■神奈川・小田原市川東タウンセンター(18:30)
全日本■山口・海峡メッセ下関(18:30)
ノア■愛知・パークアリーナ小牧(18:30)
K—DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

21 FRI.

ZERO—ONE■東京・後楽園ホール(18:30)●
ノア■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:00)
NEO■東京・板橋区産文ホール(19:00)

22 SAT.

ノア■和歌山・和歌山県立体育館(18:00)
闘龍門■広島・尾道市公会堂(18:30)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
K—DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
『一撃』■東京・日本武道館(13:00)

23 SUN.

全日本■東京・日本武道館(16:00)◆
闘龍門■静岡・清水マリンビル(17:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
Jd'■東京・新宿歌舞伎町クラブハイツ(13:00)
修斗■東京・後楽園ホール(時間未定)

24 MON.

ノア■神奈川・相模原総合体育館(18:30)

26 WED.

ノア■茨城・水海道市民体育館(18:00)
全女■千葉・千葉運動体育館(18:30)

27 THU.

ZERO—ONE■静岡・浜松展示イベントホール(18:30)★
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(19:00)
ノア■静岡・焼津市民体育館(18:30)
K—DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

28 FRI.

ZERO—ONE■宮城・宮城スポーツセンター(18:30)★
DDT■東京・後楽園ゆうえんちジオポリス(19:00)

3 March

1 SAT.

ノア■東京・日本武道館(18:00)●
WJ■神奈川・横浜アリーナ(18:00)♠◆◎
みちのく■静岡・アクトシティ浜松展示イベントホール(18:30)
NEO■東京・板橋区立産文ホール(18:30)
K—DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

2 SUN.

ZERO—ONE■東京・両国技館(17:00)★♠♥
大日本■愛知・名古屋市体育館 (16:00)
みちのく■東京・後楽園ホール(18:30)

3 MON.

みちのく■愛知・名古屋市中区スポーツセンター(18:30)

4 TUE.

ZERO—ONE■秋田・大館市民体育館(18:30)★
『DEEP』■東京・後楽園ホール(18:00)◎♠
みちのく■大阪・大阪府立臨海スポーツセンター(18:30)

5 WED.

みちのく■長野・長野運動公園体育館(18:30)

6 THU.

ZERO—ONE■北海道。旭川大成市民センター体育館(18:30)★
新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
みちのく■滋賀・野洲町立総合体育館(18:30)
NEO■東京・北沢タウンホール(19:00)
K—DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

7 FRI.

新日本■新潟・新潟市体育館(18:30)
みちのく■広島・広島市佐伯区スポーツセンター(18:30)

8 SAT.

ZERO—ONE■北海道・札幌テイセンホール(18:30)★
新日本■神奈川・平塚総合体育館(18:30)
K—DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

RADICAL CALENDAR

1 January

29 WED.

ZERO−ONE■岡山・岡山県卸センター展示場オレンジホール(18:30)★

30 THU.

新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
ZERO−ONE■山口・徳山市総合スポーツセンター(18:30)★
闘龍門■兵庫・神戸チキンジョージ(19:00)
全女■千葉・船橋市運動公園体育館(18:30)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

31 FRI.

ZERO−ONE■広島・広島グリーンアリーナ小ホール(18:30)★
DDT■東京・後楽園ゆうえんち内ジオポリス (19:00)
WEW■東京・後楽園ホール(19:00)
全女■愛知・刈谷市産業復興センターあいおいホール(18:30)

2 February

1 SAT.

ZERO−ONE■大阪・大阪府立体育館第2競技場(18:00)★♠
新日本■北海道・札幌テイセンホール(18:00)
闘龍門■宮崎・延岡市民体育館(18:30)
大阪■大阪・大阪城ホール(15:00)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

2 SUN.

新日本■北海道・月寒グリーンドーム(16:00)
ZERO−ONE■東京・ディファ有明(16:00)★
闘龍門■長崎・佐世保市体育文化館(17:00)
U−FILE■東京・ゴールドジムサウス東京ANNEX (15:00)
SB■東京・後楽園ホール(18:00)
GAEA■神奈川・横浜アリーナ・センテニホール(16:00)
Jd'■東京・studio DREAM MAKER (13:00)
NEO■東京・北沢タウンホール(16:00)

3 MON.

闘龍門■大分・大分県立荷揚町体育館(18:30)

4 TUE.

新日本■岩手・岩手県営体育館(18:30)
闘龍門■長崎・長崎ncc&スタジオ(18:30)

5 WED.

闘龍門■佐賀・諸富町文化体育館(18:30)

6 THU.

新日本■宮城・夢メッセみやぎ(18:30)
修斗■東京・後楽園ホール(18:30)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

7 FRI.

新日本■山形・山形市総合スポーツセンター・サブアリーナ(18:30)
闘龍門■熊本・合志町総合センターヴィーブル(18:30)

8 SAT.

全日本■東京・後楽園ホール(18:30)
闘龍門■鹿児島・川内市総合体育館(18:30)
K−DOJO ■埼玉・本川越ペペホール(18:00)
Jd'■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)

9 SUN.

新日本■大阪・臨海スポーツセンター(16:00)
全日本■静岡・グランシップ大ホール・海(16:00)
闘龍門■福岡・博多スターレーン(16:00)
K−DOJO ■神奈川・小田原川東タウンセンターマロニエホール (19:00)
全女■埼玉・ペペホールアトラス(16:00)
Jd'■福岡・飯塚オートレース場特設リング(時間未定)
JWP■東京・JWP道場(14:00)

10 MON.

全日本■愛知・名古屋国際展示場イベントホール(18:30)

11 TUE.

新日本■岐阜・岐阜産業会館(16:00)
全日本■京都・KBSホール(16:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
GAEA■東京・後楽園ホール(18:30)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(17:00)
アルシオン■東京・後楽園ホール(12:00)

12 WED.

新日本■岡山・岡山県体育館(16:30)
NEO■東京・板橋区産文ホール(19:00)

13 THU.

K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)

14 FRI.

全日本■長崎・佐世保市体育文化館(18:30)
大日本■東京・後楽園ホール(19:00)

15 SAT.

U−STYLE■東京・ディファ有明(18:00)★
新日本■新潟・三条市厚生福祉会館(17:00)
全日本■佐賀・諸富町文化体育館 (18:00)
闘龍門■岐阜・岐阜商工会議所(18:30)
K−DOJO ■千葉・Bule Field (19:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
WMF■大阪・大阪ドーム・スカイホール(18:00)

Jd'■千葉・

16 SUN

新日本■東京
全日本■福岡
闘龍門■東京
ノア■東京・後
新宿■東京・
DDT■大阪・
GAEA■大阪
大阪■大阪・
パンクラス■

17 MON

全日本■鹿児

18 TUE.

ノア■神奈川・
全女■東京・後

20 THU.

ZERO−ONE
全日本■山口・
ノア■愛知・
K−DOJO ■

21 FRI.

ZERO−ONE
ノア■大阪・大
NEO■東京・板

22 SAT.

ノア■和歌山・
闘龍門■広島・
大阪■大阪・デ
K−DOJO ■千
『一撃』■東京・

23 SUN.

全日本■東京・
闘龍門■静岡・
大阪■大阪・デ
Jd'■東京・新
修斗■東京・後

24 MON.

ノア■神奈川・

26 WED.

ノア■茨城・水
全女■千葉・千

27 THU.

ZERO−ONE